336
336-511
1200501392762

8G-71 336-5/4

執筆者

法學士 中川健藏君
法學士 宮內國太郎君
法學士 阿部壽準君
法學士 立花俊吉君

改正市制町村制釋義

東京 帝國地方行政學會

45. 3. 19

第三版ノ發行ニ付テ

今茲ニ第三版ヲ上梓スルニ當リ、印刷ノ誤謬ヲ訂正シ、初版發行後斯法ノ實施ニ伴ヒ自治行政ノ運用上新ニ生シタル諸疑義諸問題ニ付テ更ニ研究ヲ重ヌ其ノ改訂ヲ要スト認メタルモノハ之ニ基キテ本論ヲ正シ、其ノ然ラサルモノハ意見ヲ付シ之ヲ施行勅令以下諸種ノ附屬法令ト共ニ卷尾ニ附シ以テ讀者研鑽ノ資料タラシメムコトヲ期セリ。

明治四十五年三月

執筆者識

序

年來ノ懸案タリシ市制町村制ノ改正ハ本期議會ノ協賛ヲ經遂ニ事實ニ顯ハレ、近ク其ノ實施ヲ見ルニ至ラムトス。新法ハ時代ノ要求ニ應シテ立案セラレタルモノ、舊法ノ不備闕漏ヲ補足シテ殆ムト遺憾ナキカ如シ。然トモ成條僅ニ百八十餘市町村自治行政ノ大綱ヲ掲ケテ枝葉ニ及ハス。其ノ事務ニ與ル者立案ノ趣旨法規ノ意義ヲ知悉スルニ非サレハ、能ク所期ノ效果ヲ收ムルコト難カルヘシ。

帝國地方行政學會ハ夙ニ地方自治行政ノ發展ニ力ヲ注ク者。今本法ノ改正アルニ迨ヒ、其ノ精神ヲ闡明シ

自治行政ノ局ニ當ル者ノ參考ニ資スルヲ以テ自己ノ責務ナリト爲シ、余輩本法改正ノ由來ニ就キ多少關知スル所アルノ故ヲ以テ、來リテ之カ註解ヲ囑ス。余輩亦常ニ自治行政ノ善美ヲ以テ國家隆興ノ基ト爲シ、其ノ制度ノ或ハ謬リ解セラレ適用當ヲ失セサラムコトヲ念トシ息マサル者、則チ自ラ揣ラス之ヲ歡諾ス。筆ヲ執ルニ當リテハ實際ノ事例ニ鑑ミ論理ノ統一ヲ保持スルニ於テ互ニ相飭メ相努メタリト雖、敢テ過誤ナシト謂フヘカラス。幸ニ讀者ノ叱正ニ依リ、他日更梓ノ時ヲ以テ之ヲ補正セムト欲ス。

執筆ニ當リ内務書記官中川望君。同地方局員五十嵐鑛三郎君、近藤行太郎君ヨリ有益ナル資料ヲ供セラレ又懇切ノ助言ヲ寄セラレタリ。本書ニシテ一片世ニ裨益スル所アリトセハ、偏ニ三君ノ賜ニ外ナラス。記シテ特ニ感謝ノ意ヲ表ス。

明治四十四年七月

執筆者識

一、本書ハ地方行政ノ實務ニ當ル者ノ爲ニ法條ノ精神ヲ闡明シ其ノ適用ノ一端ヲ示シ聊カ事務執掌ノ資料タラシメムトスルニ在リ、註解ニ於テ逐條ノ主義ヲ採用シタルハ最モ善ク此ノ目的ニ合致スヘキコトヲ信シタルニ依ルナリ。

二、判例ハ法意ノ一端ヲ窺知スルニ足ルモノニ限リ選擇シテ參考ノ爲各條ノ末尾ニ添付セリ、從ッテ總テヲ盡ササルハ勿論一一之ヲ批判スルノ餘裕ナキヲ以テ不適當ト認ムルモノハ可成之ヲ掲ケサルコトト爲セリ。

仍簡明ヲ期スルカ爲判決ハ其ノ要旨ヲ掲記スルニ止ム。判例中括弧内ノ數字ハ其ノ判決アリタル年月日ヲ示ス、而シテ其ノ「行判」トアルハ行政裁判ノ判決。「民判」トアルハ民事裁判ノ判決。「刑判」トアルハ刑事裁判ノ判決。「裁決」トアルハ訴願裁決ノ略ナリ。

三、條文ヲ併記シタルハ書冊ノ尨大トナルヲ防キタルニ外ナラス。文字ヲ併記シタル個所ノ右側ハ市制ニシテ左側ハ町村制ナリ。

四、用字例ハ主トシテ市制町村制ノ例ニ依リシト雖倉卒ノ際必スシモ一律ナルコト能ハス、行文ノ體裁亦執筆者一人ニ止マラサルヲ以テ軌一ナラサルモノナキニ非ラス、是等ハ他日機ヲ得テ相當訂正セムコトヲ期ス。

五、各本條ノ上見出シトシテ(增)ノ字ヲ付セルハ卷尾增補ノ參照ニ便ナラシメムカ爲ナリ。

六、本書末尾ニ附セル新舊兩法條文ノ對照ハ以テ溫知ノ資タラシメムコトヲ期スルニ在リ。

執筆者識

市制町村制釋義

目次

第一編　緒論……一

第一章　國家作用中ニ於ケル自治行政作用ノ地位……一

第二章　自治ノ觀念……五

第三章　自治團體ノ本質……九

第四章　自治團體承認ノ前提及其ノ必要……一八

第五章　市制町村制改正要領……二二

第二編　本論……四〇

市制町村制　**第一章**　總則……四〇

市制町村制第一款 市町村及其ノ區域……四一
市制町村第二款 市町村住民及其ノ權利義務……七七
市制町村第三款 市町村條例及市町村規則……一〇一
市制町村第二章 市町村會……一一六
市制町村制第一款 組織及選舉……一一八
市制町村制第二款 職務權限……二五九
市制第三章 市參事會……三二三
市制第一款 組織及選舉……三二四
市制第二款 職務權限……三三二
市制町村制第四章 市町村吏員……三三九
市制町村制第一款 組織選舉及任免……三四一
市制町村制第二款 職務權限……三八〇
市制町村制第五章 給料及給與……四三五
市制町村制第六章 市町村ノ財務……四四二
市制町村制第一款 財產營造物及市町村稅……四四六
市制町村制第二款 歲入出豫算及決算……五三六
市制第七章 市町村ノ一部ノ事務……五六九
市制第八章 市町村組合……五八六
市制第九章 市町村ノ監督……六一二
町村制第十章 雜則……六五七
附則……六六四
增補……
目次

附錄

其ノ一　新舊兩法條文對照
其ノ二　附屬法規

改正

市制町村制釋義

第一編　緒論

第一章　國家作用中ニ於ケル自治行政作用ノ地位

市制百八十一條町村制百六十一條其ノ規定甚タ多カラス。此ノ多カラサルノ規定ヲ以テ市町村ノ成立ヨリ其ノ消滅ニ至ル迄ノ活動ノ全部ヲ律シ盡サント欲スル組織大業ヲ掲クルニ止メスンハ能クスヘカラサルナリ。是ヲ以テ事ニ其ノ局ニ當ル者之ヲ百般ノ自治活動ニ適用シテ、法規ノ活用苟モ其ノ眞諦ヲ謬ルコトナカラント欲セハ、宜シク據メ市町村ノ本質如何ヲ了得シ、以テ實際問題ニ應用スルノ基礎ヲ確立センコトヲ要ス。故ニ本編ニ於テ之ニ關スル概念ヲ形造ルニ必要ナリト認ムル事項ノ大體ヲ說明ス。

國家ハ無形ノ人格者ナリ。國家ノ意思活動ハ必スヤ常ニ自然人ノ意思活動ニ俟タサルヘカラス。自然人ノ意思活動ニシテ國家ノ意思活動ト看做サルヘキトキハ其ノ自然人ハ即チ國家ノ機關ナリ。自然人カ國家ノ機關トシテ發表スル意思活動ハ即チ總テ之ヲ國家作用ト謂フ。

國家作用ハ之ヲ通常作用ト非常作用トニ分ツ。通常作用トハ國家ノ權力カ確實ニ保障セラレ其ノ法

規的秩序ヲ維持セラレタル範圍内ニ於テ行ハルル國家作用ヲ謂ヒ、非常作用トハ事國家ノ存亡如何ニ關シ全然法規的秩序ノ外ニ於テ行ハルル國家作用ヲ謂フ。一國家カ他國家ト戰爭スルハ國家作用ニ外ナラスト雖、其ノ目的トスル所直接ニ國家其レ自身ノ生命ニ關ハルヲ以テ事柄ノ性質上普通ノ法規的秩序ノ範圍内ニ於テ行ハルヘカラス。其ノ他國際間ニ於ケル實力ノ彈制手段タル平時ノ封鎖又ハ國内ニ於テ戰爭ノ形ヲ以テ行ハルル内亂ノ鎭定ノ如キ亦此ノ部類ニ屬ス。總テ此等ノ國家作用ハ國法ニ基カサルモノナルヲ以テ國法學研究ノ範圍ノ外ニ在リ。國法學上學者ノ國家作用ト稱スルハ畢竟通常作用ヲ指セルニ外ナラサルナリ。

通常作用ハ之ヲ立法作用、司法作用及行政作用ニ分ツヲ例トス。此等作用ノ分類ハ實質上ノ意義ヨリスルト形式上ノ意義ヨリスルトニ依リテ其ノ範圍ヲ同フセス。實質上ノ意義ヨリスルトキハ立法作用トハ法規ヲ制定スル作用、司法作用トハ民事及刑事ノ事件ニ付法ノ適用ヲ確定スル作用ニシテ行政作用トハ司法ニ屬スルモノヲ除キ法規ノ下ニ於テスル國家ノ活動ノ總テヲ稱ス。故ニ此ノ意義ヨリスルトキハ法律ハ勿論勅令省令府縣令等ノ命令ヲ制定スル作用モ亦立法作用タリ。司法作用ヲ民事及刑事ノ事件ノ裁判ニ關スル作用ニ限局スルハ專ラ羅馬法ニ基ク沿革上ノ理由ニ出ツ、從テ行政官廳ノ違法處分ヲ救濟スル爲ニ存スル行政裁判ハ實質上ノ意義ニ於テモ亦司法作用ニ非スシテ行政作用ニ屬ス。形式上ノ意義ヨリスル分類ハ三權分立論ノ勃興ト共ニ各作用ヲ各相獨立セル機關ヲシテ行使セシムル思想及事實ニ基キ機關ヲ基礎トシテ生シタルモノナリ。即チ立法機關ニ依リ行ハルル作用ハ之ヲ形式上ノ立法ト謂ヒ、司法機關ニ依リ行ハルル作用ハ之ヲ形式上ノ司法ト謂ヒ、行政機關ニ依リ行ハルル作用ハ之ヲ形式上ノ行政ト謂フナリ。從ツテ極端ニ之ヲ論スルトキハ議會ニ於テ豫算ヲ議定スルモ立法作用タルヘク、裁判所ニ於テ判事カ部内整理ノ責ニ任スルモ司法作用タルヘキナリ。然トモ形式ニ依ル分類ノ要求スル所モ亦、爾カク破壞的ナルニハアラサルナリ。機關ヲ以テ區別ノ標準トスト雖畢竟主タル標準ト爲スニ止マリ唯一ノ標準ト爲スニハ非ラサルナリ。其ノ附隨ノ條件ト爲ス所ハ人ニ依リ同シカラスト雖之ヲ要スルニ法律ヲ制定スル手續方法ニ依リ行ハルル作用ハ性質上法規ヲ定ムルモノタルト否トヲ問ハス立法タリ。法規ノ秩序維持ヲ目的トシテ裁判所ニ依リ行ハルル作用ハ其ノ實質ニ於テ民事及刑事ニ關スルト否トヲ問ハス司法タリト謂フコトニ依リ調和セラル。

行政作用ハ之ヲ大權作用ト狹義ノ行政作用トニ分ツ。兩者ノ區別ハ其ノ作用ヲ行使スル機關ノ相違ニ基キテ爲スヲ正當トスヘシ。即チ大權作用トハ憲法上天皇ノ親裁シ給フヲ得ヘシトスル規定ニ基ク政務ノ範圍ニ付天皇親ラ之ヲ行使セラルルモノヲ云ヒ、狹義ノ行政作用トハ天皇ニ隷屬セル行政官廳又ハ議會裁判所カ行フ行政作用ヲ謂フ。故ニ委任ニ基キ行政官廳カ大權事項ヲ行使シ又ハ憲法第九條ニ基キ執行命令獨立命令ヲ發スルモ亦狹義ノ行政作用タルヲ失ハス。

狹義ノ行政作用ハ更ニ之ヲ官治行政作用ト自治行政作用トニ分ツ。官治行政作用トハ國家自ラ行フ

行政作用ニシテ自治行政作用トハ國家カ其ノ内部ニ存スル團體ノ團體自身ノ爲ニスル活動カ偶國家自身ノ利益ト合致スルモノタルコトヲ認メ之ニ國法上ノ效力ヲ附與シテ行ハシムル行政作用ヲ謂フ。蓋官治ト自治トハ獨リ行政作用ニ於テノミナラス廣ク立法及司法ニ通シテ之ヲ設クルコトヲ得ヘシ。然トモ現今我國ニ於テハ獨リ之ヲ行政作用ニ於テ認ムルノミ。官治行政ト自治行政トハ國家カ行政ヲ爲スノ直接ナルト間接ナルトノ點ニ於テ區別ヲ存ス。國家ヨリ見レハ官治行政ハ直接ナリ、自治行政ハ直接ニハ之ヲ行フ團體自體ノ行政ニシテ國家ヨリ見レハ國家ニ必要ナル行政ニシテ間接ナリ。官治行政ヲノミ認メテ自治行政ヲ認メサル國家アルモ自治行政ヲノミ認メテ官治行政ヲ存セシメサル國家ナシ。前者ハ國民ノ智識道德ノ程度未タ發達セサル國家ニ於テ見ルヲ得ヘク、後者ニ屬スル國家ナキハ爲メニ國家ノ統一的人格ヲ破壞スルノ虞アルニ因ル。近世立憲國家ニ於テハ概ネ此ノ兩適ノ行政ノ併存ヲ認ム。我國亦此ノ例ニ洩レス。

自治行政作用ハ更ニ又之ヲ行使スル團體カ地域ヲ必要ナル要素トナスモノト然ラサルモノトニ依リ區別スルコトヲ得ヘシ。前者ハ即チ地方團體ノ自治行政ニシテ後者ハ即チ公共組合ノ自治行政ナリ。兩者ノ自治行政ハ其ノ性質ニ於テ差異アルニ非ス。唯之ヲ行フ團體ノ相違ニノミ基ク區別ナリ。然トモ地方團體ノ行フ自治行政ノ範圍ハ常ニ廣汎ニシテ其ノ團體ハ多クハ自主權ヲ有ス。地方團體ヲシテ自治行政ヲ爲サシムルコトハ實ニ國家ヲ發達セシムルニ於テ重大ナル關係ヲ有ス。此ノ種ノ團體ノ自治行政ハ

アル觀念トシテハ所謂自治ハ自治行政ナリ。從ツテ自治モ亦行政作用ノ一ナラサル可カラス。此ノ意義ニ於ケル自治ハ之ヲ二樣ニ解スルコトヲ得ヘシ。其ノ一ハ公民自治ニシテ其ノ二ハ團體自治ナリ。

公民自治トハ公民ヲシテ其ノ本務ノ傍ラ行政ニ參與セシムルヲ謂フ。蓋國家行政ニハ必スヤ專任之ニ當ルヘキ服務義務ヲ有スル個人ヲ必要トスト雖モ、此ノ以外ニ於テ本務ヲ有スル公民ヲシテ傍ラ行政ニ參與セシムルコトハ法理上不穩當ナラサルノミナラス、公民ノ一般的思想ヲ國家行政ニ加味スル點ニ於テ政治上最モ重要ナリ。本務ノ傍ラ行政ニ參與スル公民ヲ稱シテ名譽職員ト謂フ。名譽職員ヲシテ行政ニ參與セシムルハ其ノ國家自體ノモノタルト國家內ノ團體ノモノタルトヲ問ハサルナリ。公民自治ノ觀念ハ其ノ起源ヲ英國ニ發ス。英國ニ於テ所謂自治トハ總テノ國家作用ニ名譽職員ヲ參與セシムルヲ謂フ。故ニ公民カ議會ニ參與スルモ、陪審判事カ裁判ニ參與スルモ、將又知事及治安判事カ行政ニ參與スルモ皆自治ナリ。此ノ思想ニ基キ所謂自治即チ自治行政ノ觀念ヲ確定セントスル者ニハ例ヘハ、グナイストノ如キアリ。彼ハ自治ヲ以テ國法ニ遵ヒ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨シ個人的名譽職ニ依リテ行フ地方行政ナリト爲セリ。此ノ觀念ニ依ルトキハ自治行政ト官治行政トハ行政其ノ者ノ所屬ノ別ニ非スシテ之ヲ執行スルモノカ名譽職ナルヤ否ヤニ存スト爲スモノナリ。

團體自治トハ國家ノ下ニ在ル團體ノ行フ行政ヲ謂フ。國家ノ下ニ在ル團體ヲシテ行政ヲ行ハシムルコトハ更ニ詳論スルカ如ク國家ヲシテ圓滿ナル發達ヲ遂ケシメントスル企圖ニ出ツ。此ノ種ノ自治ニ二種アリ。一ハ團體カ自ラ行政ノ主體トシテ行フモノニシテ他ハ國家機關トシテ行フモノナリ。前者ヲ主働的團體自治ト謂ヒ、後者ヲ受働的團體自治ト謂フ。

團體自治ノ觀念ハ歐洲大陸殊ニ獨乙佛蘭西ニ於テ發達セルモノナリ。第十九世紀ニ於ケル專制政治ニ對スル自由思想ハ單ニ個人ノ自由ノ保障ヲ得ルヲ以テ滿足セス、先ニ述ヘタル英國ニ於テ發達セル公民自治ノ思想ノ影響ノ下ニ當該國家ノ特種ナル歷史及發達セル團體的思想ニ支配セラレ多大ノ變形ヲ以テ團體ノ利害ニ關係シ苟モ其ノ力ヲ以テ堪ヘ得ヘキモノハ總テ之ヲ團體自體ノ事務ノ範圍ニ歸屬セシムルニ至レリ。即チ主働的團體自治ノ觀念ノ發達之レナリ。此ノ觀念ハ更ニ從來發達セル公民自治ノ觀念ト合シテ英國ニ於テハ千八百三十二年ノ行政改革法ノ發布以來國家ノ下ニ特種ノ目的（例ヘハ救貧、衞生、學校等）ノ爲メニスル團體ヲ認メ以テ國家自體ノ行政ヲ行ハシムルニ至レリ。此ノ種ノ團體ノ行フ所ハ團體自體ノ行政ニ非スシテ國家ノ行政作用ナリ。團體ノ存スル所以ハ團體自己ノ爲ニ非スシテ寧ロ國家ノ機關タルニ存スルナリ。即チ受働的團體自治之レナリ。受働的團體自治ヲ說述スルニ止メントスルハ吾人必要ノ範圍ノ外ニ出ツ。從ツテ吾人ハ主働的團體自治ヲ說述スルニ止メント欲ス。

自治トハ國家內ノ團體カ國家ノ監督ノ下ニ於テ自己ノ意思ヲ以テスル行政ヲ謂フ。

一、自治ハ國家內ノ團體カ自己ノ意思ヲ以テスル行政ナリ。

國家ハ其ノ内部ニ團體ノ存在ヲ認メ之ニ統治權ヲ付與ス。付與セラレタル團體ハ其ノ權利ノ範圍内ニ於テ自ラ行政ヲ行フ。此ノ行政ハ團體自體ノ行政ニシテ國家ノ行政ニ非ス。行政ノ主體ハ團體ニシテ自己ノ名ニ於テ行政ヲ行フ。從ツテ認メラレタル範圍内ニ於テ行フ行政ノ事務ハ團體ノ事務ニシテ國家ノ事務ニ非ス。換言スレハ其ノ事務ヲ行フハ國家ノ機關トシテニハ非ス。此ノ種ノ團體ハ之ヲ自治團體又ハ公共團體ト云フ。自治團體ノ行フ行政中殊ニ地方團體ノ行フ行政ハ國法學中最モ重要ナル價値ヲ有ス。之レイエリネックカ自治ヲ定義シテ團體目的ノ遂行ノ爲メニ法律ニ遵ヒ國家ノ監督ヲ受ケテ國家的命令權ヲ團體ニ爲スル權利トシテ行使スル團體殊ニ地方團體ノ行政ナリト謂ヒシ所以ナリ。

二、自治ハ國家内ノ團體カ國家ノ監督ノ下ニ於テスル行政ナリ。

自治ハ國家内ノ團體カ自己ノ意思ヲ以テスル行政ナリト雖、其ノ範圍ハ或ハ法律或ハ命令ニ依リ確定セラルルト同時ニ常ニ國家ノ監督ノ下ニ於テ爲サレサル可ラス。國家内ノ團體ハ本來國家ヨリ行政セラルヘキ地位ニ在リ。行政セラルヘキ地位ニ在ル團體カ自ラ行政ヲ行フニ當ツテモ亦當ニ國家ノ監督ノ下ニ於テ爲サルヘキモノナルコト勿論ナリ。國家ノ監督ハ自治ニ伴フ必然ノ要素ニシテ實ニ國家ノ統一性ヲ保持スル所以タリ。

第三章　自治團體ノ本質

自治團體トハ國家ノ監督ノ下ニ自己ノ意思ヲ以テ公ノ行政ヲ行フヲ目的トスル團體ナリ。此ノ種ノ團體ハ國家ノ認ムル範圍ニ於テ自ラ行政ヲ行フ。國家ノ認ムル所ニ依リ始メテ法律上ノ人格者即權利能力ノ主體タルコトハ毫モ自然人ト異ナル所ナシ。然リト雖此ノ種ノ人格者ハ始メヨリ自然人ノ如ク自然ノ統一的組織ヲ有スルモノナリヤ否ヤニ就テハ議論アリ。自然人ニ非ス・シテ權利主體タルモノヲ法人ト云フ。法人ノ本體ノ存在ヲ否認シ法律上ノ假設ナリトスルモノハ、所謂法人擬制說ナリ。此ノ說ハ今日ニ於テモ尚數多ノ學者ニ依リテ唱道セラルル所ニシテ、我カ民法等ニ於ケル法人ノ規定モ亦此ノ種ノ說ニ基キテ立法セラレタルカ如シ。法人擬制說ハ凡ソ權利ハ意思ノ力ナリ、故ニ意思ナキ者ハ權利ノ主體タル能ハス、而シテ意思ノ作用ハ唯人類ノミ之ヲ有ス、從ツテ權利ノ主體タリ得ヘキモノハ自然人以外ニ存スルコトナシト謂フヲ以テ立論ノ基礎ト爲シ、權利主體タリ得ル者ハ斯ノ如ク單ニ人類ノミナリト雖、法ノ萬能力ハ意思アル者ヲ權利主體タラシメサルヲ得ルカ如ク、ヨク意思ナキモノヲモ意思アリト爲シ、之ヲ權利主體タラシムルヲ妨ケス、此ノ如クニシテ法ニ依リ始メテ作ラレタル權利主體ハ即チ法人ナリト說ク。然トモ若シ此ノ說ノ如ク權利主體タルカ爲メニハ意思アルコトヲ要シ、然カモ意思作用ハ自然人以外ニ之ヲ有スルモノナシトセハ、人類以外ノ者ハ何等ノ方法ヲ以

テスルモ遂ニ權利ノ主體タル能ハサルニ歸着スヘシ。何トナレハ如何ニ法律ハ萬能ナリト雖意思ナキモノヲ意思アリト爲シ、之ヲ權利主體トスル能ハサルコト尙男子ヲシテ女子タラシム能ハサルニ均シケレハナリ。此ノ矛盾ヲ避クル爲メ或者ハ法人ノ存在ヲ全然否認シ、法ニ於テ法人ヲ以テ權利主體ナルカ如ク看做スハ實ハ所謂法人ノ事務ヲ取扱フ者、又ハ之ニ依リテ利益ヲ享受スル者ヲ以テ、眞ノ權利主體ト爲スナリト爲ス者アリ、法人否認說之レナリ。然トモ此ノ如ク論スルトキハ現今文明各國ニ於テ所謂法人カ人類ナル權利主體ヨリ離レテ別個ノ人格者トシテ權利ヲ行使シ、義務ヲ負擔スルノ實際ヲ說明シ能ハサルニ終ルヘシ。

法人ハ法ノ擬制ニ依ルニ非ス、人類ト同シク意思能力ヲ有シ、人類ト離レテ別箇ノ生存目的ヲ有スル團體ノ存在スル事實ヲ認メ、法カ之ヲ權利ノ主體ト爲シタルモノ即チ法人ナリトスル思想ハ、現今多クノ學者ノ贊同スル所ナリ、名ツケテ法人實在說ト云フ。蓋法人ノ觀念ヲ說明スルニ於テ唯一ノ正當ナルモノトナササルヘカラス。此ノ說ハ擬制說カ羅馬法ノ思想ニ發セルニ對シ、獨乙固有法ノ思想ニ基キテ發達シ、近代ニ於テハ有名ナル獨乙法學者ギールケニ依リテ愈其ノ觀念ノ明瞭ニ說述セラレタルヲ見ル。

法人ハ法ニ依リテ創造セラレタルモノニ非ス、法ハ唯既存ノ團體ヲ承認シ其ノ意思能力ヲ以テ法律上ノ意思能力ト爲スノミ。其ノ關係ハ法カ自然ノ人類カ意思ヲ有スル單一體タルコトヲ承認シテ、之ヲ權利主體トスルト相同シ。然リト雖自然ノ人類以外ニ於テ自然ノ人類ノ集合ヨリ成ル統一的團體即チ集合的單一體ノ實在スルコトハ、吾人人類ノ智識ニ依リテ直接ニ說明スルコト難ク、唯間接ニ其ノ活動等ニ依リテ之ヲ知覺シ得ルノミニシテ、吾人ノ外部及內部ノ經驗ニ依リテ一ノ觀念ヲ組成シ得ルニ過キス。自然ノ人類カ一個ノ單一體ナルコトモ亦之レト同シク吾人ノ經驗ニ基クノミ。唯吾人ノ經驗カ余リニ常時ニシテ將又之ヲ思考スル者カ人類自體タルノ故ヲ以テ人類ノ單一體ナル事ヲ自明ノ理ナルカ如ク感得スルノ差アルノミ。蓋人類カ其ノ生存ノ目的ヲ達シ、其ノ需要ヲ滿足セシメンニハ、必ス其ノ必要ニ應シテ種々ノ共同的生活ヲ營マサル可ラス。或ハ商工業ノ爲メ、或ハ農業ノ爲メ、或ハ社會改良ノ爲メニ團結ス。此等ノ團結ハ單純ナル自然人ノ集合ニ非ス。團結セル人類ハ相倚リテ必ス共同ノ目的ヲ以テ之レカ爲メニ活動ス。共同ノ目的ヲ遂行センカ爲メニ人類ハ各自己ノ意思ヲ發表シ意見ヲ陳述シ、茲ニ共同目的ノ爲メニ集合セル人類各個ノ意思以外ニ別ニ一箇ノ意思ヲ生ス。或ハ團結セル人類意思ノ多數決ニ依ルコトアルヘク、全員一致ノ意思ニ依ルコトアルヘシ。其ノ何レノ場合タルヲ問ハス成立セル意思ハ團結セル各人類ノ意思ノ集合ニ非スシテ、全然獨立ノ存在ヲ有ス。吾人ハ之ヲ政黨ノ綱領發表ニ於テ見ルヘク、商業ノ爲メニスル團結等ノ利益計算ノ發表等ニ於テ見ルコトヲ得ヘシ。カクテ發表セラレタル意思ハ政黨ノ意思ナリ、商業團結ノ意思ナリ、人類各個ノ意思ノ集合ニ非ス。共同目的ノ遂行ノ爲集合セル人類ノ多數決又ハ一致ニ依ル意思カ何故ニ團結自體ノ意思ナリヤ

ハ論理ノ決定シ得ル問題ニ非ス。多數人類ノ集合カ戰爭ノ目的ノ爲メニ他ノ多數人類ノ集合ト相闘爭スルハ、何故ニ國家ト國家トノ戰爭ナルヤカ、單ニ經驗ニ基キ感得シ得ラルルト相同シ。人類ノ結合ニ基キ人類以外ニ獨立ノ團結ヲ生シ意思ヲ生シ、意思ニ基ク活動ノ存シ得ヘキコトハ、專ラ左ノ諸點ニ關スル吾人ノ經驗ニ基ク。

一、共同ノ目的ノ爲メニ集合セル人類ノ中或ハ死亡シ或ハ脫退シ又ハ新ニ集合ニ加入スル人アルモ爲ニ結合自體ハ依然變更ヲ受ケサルモノトシテ感得セラルルコト。例ヘハ大學ニ於テ學生カ卒業及入學ニ依リテ交代シ、聯隊ニ於テ兵士カ除隊及入營ニ依リテ交代スルモ、大學又ハ聯隊ハ何等ノ變更ヲ受クルコトナク、單一體トシテ觀念セラルルカ如シ。

二、結合セル人類ノ變更ニ拘ハラス、共同ノ目的カ終始一貫シ其ノ活動カ永續スルニ依リ其ノ目的ノ上ヨリ結合カ單一體ナリト感得シ得ラルルコト。例ヘハ確定セル綱領ヲ有スル政黨ノ黨員ノ交迭如何ニ拘ハラス同一綱領ノ下ニ依然同一政黨ノ存在カ觀念セラルルカ如シ。

三、結合セル人類ノ共同目的ノ爲メニスル活動カ、其ノ多數決又ハ一致ニ依リテ決定セル決議乃至意見ト常ニ因果ノ關係ヲ有スルコトニ依リテ結合カ單一體ナリト感得シ得ラルルコト。例ヘハ市町村會ノ決議ニ基キ住民カ各納稅義務ヲ負擔スルカ如シ。

四、一定ノ場所ヲ限リ時ニ於テ繼續シ、共同目的ノ爲メニ結合セル人類カ全體ノ決議乃至意見ニ服從シ從屬關係ノ社會ヲ構成シ、以テ團結ノ利益幸福ヲ企圖セルニ依リ結合カ單一體ナリト感得シ得ラルルコト。例ヘハ市町村住民カ決議ニ基ク各種ノ義務ニ服從シ、地域ヲ限リテ永續的ニ服從關係ニ在ルカ如シ。

以上ノ諸點ニ關スル幾多ノ經驗ニ依リ、吾人ハ共同目的ノ爲メニスル人類ノ集合カ單純ナル集合ニ非スシテ玆ニ一箇ノ集合的單一體、即チ團體ヲ組成シ、團體自身ノ意思活動カ人類自體ノ意思活動ト離レテ存在スルモノタルコトヲ觀念シ得ルニ至ル。

以上述ヘタルカ如ク吾人ノ經驗ニ依リ、知覺スルコトヲ得ヘキ實在セル團體ハ、人類カ法ノ承認ニ依リテ人格者タルト同シク、又法ノ承認ニ依リテ人格者ト爲リ權利主體ト爲ル。然トモ近世文明各國ニ於テハ、自然人ハ其ノ出生ト同時ニ必ス人格者トシテ承認セラルルニ反シ、團體ニ關シテハ法ハ其ノ團體ノ團結力鞏固ニシテ之ヲ人格者トシテ承認スルコトカ、直接間接ニ國家ノ利益ヲ增進スト認ムル程度ニ於テノミ團結ノ人格ヲ承認ス。從ツテ自然人ニシテ人格者タラサルモノハアラサレトモ、團體ニハ人格者タルモノ、即法人ハ之ヲ公法人及私法人ニ區別ス。此ノ區別ハ單純ナル學理ノ要求ニ止マラスシテ實際ノ必要存ス。何トナレハ現行ノ法令ニ於テ「公法人」又ハ之ト同一意義ヲ有スルモノトシテ「公共團體」ナル文字ヲ用ヒ、之レニ關シテ特殊ノ規定ヲ存スル場合少カラス。從ツテ之

カ觀念ノ相違ハ直チニ法規ノ適用又ハ不適用ヲ生スヘケレハナリ。

何ヲ以テ公法人トシ將又私法人トスルカハ法規ノ之ヲ決セルモノナク一ニ學理ノ研究ニ委ス。多數ノ學者ハ專ラ其ノ目的ヲ以テ兩者ノ區別ノ標準ト爲サント欲ス。曰ク公法人トハ公ノ事務ヲ以テ其ノ生存目的トスル法人ニシテ、私法人トハ私ノ事務ヲ以テ其ノ生存目的トスル法人ナリト。蓋法人ノ目的ハ法人ノ個性ノ依テ分ルル本源ナルヲ以テ、之ニ依リ其ノ種類ヲ區別セントスルハ將ニ起ルヘキノ觀念ナリ。然トモ之ニ依ル區別ハ更ニ何カ公ノ事務ニシテ、何カ私ノ事務ナルカノ第二ノ困難ナル問題ヲ殘スヲ以テ、一見容易ナルカ如クニシテ實ハ區別ノ標準タリ得ヘカラサルナリ。公ノ事務トハ國家的ノ事務ト私ノ事務トハ其ノ現實ニ國家ニ依リ行ハルルト否トニ依リ區別スルコトヲ得ス。何トナレハ國家モ亦其ノ必要ニ應シ私人ト同一ノ事務ヲ爲ス場合甚タ多ケレハナリ。又事務ノ性質ニ依リ區別スルコトヲ得ス、何トナレハ國家ハ其ノ權力ヲ以テ如何ナル性質ノ事務ト雖之ヲ國家的ノ事務ト爲シ得ヘケレハナリ。是ヲ以テ他ノ學者ハ法人ノ區別ヲ其ノ團體事務ノ處理ノ方法カ權力作用ニ依ルヤ否ヤニ求メンコトヲ欲ス。然トモ廣ク權力作用ト謂フトキハ一方ノ意思カ他方ノ意思ニ對シ優越ノ地位ニ立ツコトヲ意味ス。此ノ意味ニ於テハ凡ソ團體ハ公私ヲ別タス總テ權力作用ニ依リ其ノ事務ヲ處理ス。團體ノ意思ハ常ニ其ノ團體員ノ意思ニ對シ優越ノ地位ヲ有ス。從ツテ亦公法人私法人ノ區別ノ標準タリ得ヘカラサルナリ。

公法人ト私法人ノ區別ハ法人ノ享有スル權力ノ種類如何ニ依リ之ヲ決定スルヲ以テ唯一ノ正當ナル見解トス。凡ソ人類カ一定ノ目的ヲ以テ團體ヲ組織スルトキハ、其ノ公私强弱ヲ問ハス、人格ノ有無ヲ別タス、必ス其ノ目的ヲ遂行スルニ必要ナル權力即命令權ナカルヘカラス、之ヲ團體權ト稱ス。然トモ此ノ如キ團體權ハ決シテ絕對的ナルモノニ非ラス、命令スルコトヲ得レトモ自己固有ノ手段ヲ以テ其ノ服從ヲ强制スルコト能ハス、服從スルト否トハ結局團體員ノ自由意思ニ存ス。團體員ハ何時ニテモ其ノ團體ヨリ離脫シテ其ノ權力ノ支配ヲ免カルルコトヲ得ヘシ。之レ團體ノ普通狀體ナリ。然ルニ團體中或ル者ハ此ノ團體權以外ニ更ニ優越ナル權力ヲ有シ。其ノ團體員ニ對シテ絕對ニ命令シ自己固有ノ手段ヲ以テ其ノ服從ヲ强制シ、自己ノ意思ニ依ルノ外團體員ノ自由意思ヲ以テ團體ヲ離脫セシムルコトナク、無條件ニ其ノ意思ヲ遂行スルモノアリ。此ノ如キ權力ハ團體權ヨリ區別シテ之ヲ統治權ト云フ。市町村カ其ノ地域內ノ住民ヲ絕對的ニ其ノ團體員トシ、無條件ニ其ノ命令ニ服從セシムルカ如キ即チ之ナリ。團體中統治權ヲ有スルモノト其ノ之ヲ有セサルモノトハ其ノ團體意思ヲ遂行スル手段方法ニ於テ差異アルヘキハ當然ナリト雖、從ツテ法人ノ種別自カラ生ス。其ノ統治權ヲ有スルモノハ公法人タリ、之ヲ有セサルモノハ私法人タルナリ。

公法人ハ更ニ之ヲ國家及自治團體ニ區別ス。其ノ標準如何ニ關シテハ學者又各見解ヲ異ニス。

國家ト自治團體トハロージンノ說ノ如ク國民的利益ヲ企圖スルヲ目的トスルモノト、地方的需要ヲ

滿足セシムルヲ目的トスルモノトニ依リテ區別スルヲ得ス。需要又ハ利益カ地方的ナルヤ國民的ナルヤノ標準ハ、如何ナル點ニ之ヲ求ムヘキヤ不明ナルヘク、單ニ其ノ地域ノ狹小ナルヲ以テ地方的ナリトセンニハ、吾人ノ普通思想ニ於テ國家ナリトスル瑞西ノ各州ノ如キハ自治團體タルニ至ルヘク、到底適切ナル區別ノ標準ナリト云フヲ得ス。

一國家ト自治團體トハステーヘルノ說ノ如ク國際法上人格ヲ認メラレタルト否トニ依リ決定スルヲ得ス。何トナレハ國家ナルカ故ニ國際團體ノ一員タリ得ルモノニシテ、國際團體ノ一員タルコトハ國家タル性質ヲ決定スル理由ニ非サレハナリ。

國家ハ自己ノ統治權ヲ有スルモ、自治團體ノ行フ權力ハ自己ノ權力ニ非スシテ國家ノ權力ナリトシ、兩者ノ區別一見明瞭ナルカ如ク說明スル者アレトモ誤レリ。蓋自治團體ト雖一定ノ範圍ノ權力ヲ國家ヨリ付與セラレタル以上、其ハ既ニ自治團體自體ノ權力ニシテ、自治團體ハ其ノ權力行使ノ關係ニ於テ人格者ニシテ國家ノ機關ナラサレハナリ。

國家ト自治團體トヲ區別スル標準ハ、其ノ有スル統治權カ原始的ナルヤ、將又傳來的ナルヤノ點ニ求ムルノ外ナシ。苟モ團體ニシテ原始的意力ヲ有シ、命令シ之ヲ強制シ得ル力カ何等他ヨリ讓受ケタルモノニ非サルトキハ、其ハ國家ニシテ自治團體ニ非ス。團體ニシテ其ノ命令シ之ヲ強制シ得ル力カ、他ヨリ付與セラレタルモノナルトキハ其ハ自治團體ナリ。略言スレハ原始的統治權ヲ有スルモノハ國家ニシテ、傳來的統治權ヲ有スルモノハ自治團體ナリ。然トモ實際ノ場合ニ於テ或ル共同體ノ有スル(イ)一定ノ政務ノ範圍ニ於テハ他ノ監督ヲ受ケサルヤ否ヤ(ロ)自己ノ法律ニ依テ自己ノ組織ヲ確定シ得ルヤノ點ヲ以テスルヲ穩當ナリト信ス。

自治團體ハ更ニ之ヲ地方團體及公共組合ニ區別ス。此ノ區別ハ土地カ團體ノ成立要素ヲ爲スト否トニ依リテ行ハル。即チ地方團體ハ領土團體ニシテ、公共組合ハ領土ナキ團體ナリ。地方團體カ領土團體ナリト謂フモノハ、團體ノ成立カ單ニ一定ノ地域ヲ要件トシテ行ハルト云フ意義ニハアラス。一定ノ地域ヲ成立ノ要件トスルモノハ單ニ地方團體ニ限ラス、水利組合、商業會議所ノ如ク公共組合ニ屬スヘキモノニ於テモ之レアリ。地方團體ノ土地ヲ要素トスル團體ナリト云フハ、一定ノ地域ヲ以テ其ノ領土トシ、其ノ地域內ニ在ル人類ハ、單ニ其ノ存在ノ事實ニ依リテ當然其ノ團體ノ一員トシテ團體ノ權力ニ服從スヘク、國家ノ其ノ領土ニ對スル關係ト等シク積極的ニハ其ノ地域內ニ於テハ何人ニ對シテモ統治權ヲ行ヒ得ルコトヲ意味シ消極的ニハ其ノ地域內ニ於テ自己以外ノ者ノ統治權ノ作用ヲ排斥シ得ルコトヲ意味ス。自治團體中此ノ如キ意義ニ於テ一定ノ地域ヲ其ノ成立要素ト爲スモノヲ特ニ地

方團體ト稱スルナリ。而シテ市町村ハ此ノ地方團體ニ屬ス。

第四章　自治團體承認ノ前提及其ノ必要

現今文明各國ニ於テハ成文若クハ不文ノ憲法ヲ以テ國家ノ活動ニ必要ナル根本的組織及作用ノ大原則ヲ確定スルト、同時ニ、他方ニ於テハ國家內ノ團體ノ存在ヲ認メ之ニ人格ヲ付與シ自ラ行政ヲ爲サシムルヲ常トス。國家カ自己ノ行政以外ニ於テ更ニ此ノ種ノ自治行政ヲ認ムルコトハ、果シテ如何ナル必要ニ基クモノナリヤ。吾人ハ先ツ國家カ此ノ種ノ團體ニ人格ヲ付與スルニ必要ナル前提ヲ研究セントト欲ス。

抑民族カ國家ヲ建設スルニ當テハ或ハ無人ノ地ニ渡リテ之ヲ爲スコトアリト雖モ、多クハ他ノ民族ト力ヲ爭フニ依ツテ之ヲ征服スルコトニ基クヲ常トス。此ノ如クニシテ建設セラレタル國家ハ、當初其ノ權力未タ強固ナラス、征服セラレタル民族ノ時トシテハ反抗ノ旗ヲ翻スノ虞ナシトセス、茲ヲ以テ當時ニ在ツテハ國家ハ從來被征服民族ノ享有セシ租稅徵收權ノ如キ、兵馬ノ權ノ如キ出來得ヘキ丈之ヲ國家ニ收用シ以テ自己權力ノ鞏固ヲ企圖ス。政治學者カ國家ノ原始的目的トシテ力ノ組織及運用ヲ揭クル所以ノモノ實ニ茲ニ存ス。要スルニ此ノ時代ニ於テハ官治行政ノミヲ存セシムルコト最モ適應シタル政策ナリ。中央ノ權力未タ鞏固ナラサルニ內部ノ團體ニ人格ヲ認メ、之ニ一定ノ權力ヲ行使

セシムルハ國家內ニ數多ノ小國家ヲ生シ、率キテ國家ノ分裂ヲ惹起スルニ至ルヘシ。「倚ラシムヘシ、知ラシム可カラス」ノ格言ハ將ニ當時ニ於ケル國家政策ノ信條ナリ。此ノ時代ニ於テ自治行政ハ存シ得ヘカラサルナリ。故ニ國家カ自治團體ヲ承認スルニ必要ナル前提ノ一トシテ、國家權力ノ鞏固ナルコトヲ擧ケント欲ス。

團體自治ハ主トシテ團體ヲ構成セル分子ニ依ル行政ナリ。其ノ機關トシテ活動スル者ハ傍ラ本務ヲ有スル利害關係人タルヲ常トス。故ニ若シ團體ヲ構成セル利害關係人ノ智識幼稚ニシテ同時ニ自己ノ責任ヲ知覺スルノ念慮ニ乏シキトキハ、假令國家ニ於テ團體ノ人格ヲ承認スト雖モ其ハ却テ國家ノ發達ヲ阻害スルニ止マルヘシ。蓋團體ヲシテ自ラ行政ヲ爲スコトヲ認ムルハ、被治者タル人民ヲシテ自治者ノ地位ニ立タシメ以テ國家ノ發達ニ資セントスルノ企圖ニ出ツ。換言スレハ團體ヲ構成セル人類ハ團體ノ人格ノ承認セラルルト同時ニ、其ノ身分ニ於テ著シキ擴張自由ヲ得タルモノナリ。惟フニ自由ト責任トハ相表裏スル觀念ナリ。自由ニ思考シ自由ニ裁量スルノ餘地ナケレハ責任ヲ負フコトナク、復負フ能ハサルモノナリ。約言スレハ自由ナケレハ責任ナシ。然トモ自由ノ範圍ヲ認メラレタルニ拘ハラス、個人ニ於テ思考ノ智識ナク、裁量ヲ爲スニ於テ責任ヲ知覺スルコトナケレハ、自由ノ範圍ノ承認ハ却ツテ團體ノ發達ヲ阻害シ國家ヲ害フニ終ルヘシ。此ノ理由ニ基キ吾人ハ自治團體ヲ承認スルニ必要ナル前提ノ二トシテ個人ノ智識ノ充實及責任心ノ存在ヲ擧ケント欲ス。

以上ハ自治團體ヲ承認スルニ必要ナル二前提ナリ。然トモ當該國家及國家ノ人民カ果シテ適應セル狀態ニ在ルヤ否ヤハ一ニ國家自體ノ認定ニ繫ル。故ニ國家ノ認定ニシテ謬レルトキハ團體自治ノ承認ハ結果ニ於テ良好ナラサルコト勿論ナリ。現時我カ自治行政ニ對シ兎角ノ非難存スル所以ノモノハ、前提タル第二要件ノ發達未タ充分ナラサルモノアルニ依ルモノナルヘシ。

抑官治行政ハ畫一的行政ナリ。國家ノ各地方ニ於ケル特種ノ人情習慣乃至風俗ヨリ歸納セル一般的普遍的行政ナリ。故ニ此ノ行政ノミヲ以テハ各地方ニ於ケル需要ニ適合密着セル行政ヲ爲ス能ハスシテ、隔靴搔痒ノ感アルヲ常トス。團體自治ハ實ニ此ノ缺點ヲ補充セントスルノ目的ニ出ツ。蓋一地方ニ於ケル風俗、習慣、人情、乃至需要ニ最モ精通セル者ハ之ヲ當該地方ノ住民以外ニ求ムルコト甚タ難シ。從ツテ之ニ適應セル施設ヲ爲シ行政ヲ行フコトモ亦外來人ニ期待スルコト難ク、唯當該地方ノ利害關係人ニ俟ツアルノミ。利害關係人ノ參與ヲ以テ團體自治ヲ行ハシムル所以實ニ茲ニ存ス。碩學グナイストハ英國ノ自治制度ハ國家ト社會トノ中間組織トシテ兩者ノ調和連絡ヲ保持ス、之ヲ政治上ヨリ觀レハ權力ノ平等ニシテ法律上ヨリ見レハ法治國ナリ」ト爲シ、總テノ社會的階級ニ在ル者ヲシテ其ノ能力ニ適應シテ國家ノ事務ニ當ラシムルハ、國家カ社會ノ利益ヲ侵害シ、其ノ自由ヲ制限スルカ如キ場合ニ於テヨク之ヲ抑制スルニ多大ノ效果アルヘク、人類立憲的生活ニ必要ナル基礎ナリト說ケリ。其ノ所論英國ノ公民自治ノ觀察ニ基キシモノナリト雖、亦以テ團體自治カ何故ニ國家ニ必要ナルカヲ窺フノ資トナスヘキナリ。

官治行政ハ一般的需要ノ爲メニスル一般行政ナリ。自治行政ハ特種的需要ノ爲メニスル特種行政ナリ。特種行政ノ發達ハ各地方ニ於ケル需要ヲ滿足セシメ、以テ當該團體ノ圓滿ナル發達ヲ遂ケシム。然トモ特種行政ノ發達カ何故ニ同時ニ單一體タル國家ノ發達ニ稗益スルヤ、或ハ一般行政ト調和宜シキヲ得スシテ不秩序ナル社會的發達ヲ爲スニ止マルナキヤハ更ニ講究スルノ價値アリ。蓋特種行政タル自治行政カ一般行政タル官治行政ト矛盾スルコトナキヲ得ルハ、一ハ前者ニ對スル國家ノ監督ニ基キ、他ハ團體ヲ構成セル人類ニ基ク。自治行政ニ對スル國家ノ監督ハ官治行政ト相調和連絡ヲ保持スルニ於テ缺ク可ラサルコト說クヲ要セスト雖、團體ヲ構成セル人類ノ智識乃至責任心ノ厚薄如何ハ更ニ重要ナル關係ヲ有ス。團體ヲ構成セル利害關係人ノ團體ノ爲メニスル活動ハ常ニ自己ノ爲メニスル活動ニ非スシテ、自己以外ノ者ノ爲メニスル意思ヲ以テ爲サレサル可ラス。換言スレハ其ノ活動ハ常ニ自我ヲ離レテ爲サレサル可ラス。自我ヲ離レテ爲サルル活動ニ基ク特種行政ハ茲ニ於テカ國家總體ノ活動、一般行政ト相調和ヲ保持スルヲ得ルニ至ルヘキナリ。

要スルニ自治行政ハ各地方ノ特種ノ需要ヲ滿足セシメ之ヲ國家ノ一般的需要ト調和シテ以テ國家ノ發達ヲ企圖スルニ於テ甚タ必要ナリ。然トモ其ノ基礎トスル所ハ一般國民ノ智識及責任心ノ厚薄如何ニ繫ル。吾人ハ此ノ點ニ於テモ更ニ國民敎育ノ充實ヲ切望シテ止マス。

第五章　市制町村制改正要領

舊市制及町村制ハ明治二十一年ノ制定ニ係リ、其創施以來二十有餘年ノ實驗ハ種々ノ點ニ於テ不備缺漏ノ尠カラサルヲ感セシムルニ至レリ。即チ或ハ其ノ規定精密ナラス若ハ文義明晰ヲ缺クカ爲ニ執行機關ト議事機關トノ間若ハ私人ト官廳トノ間ニ解釋ヲ異ニシ、隨テ訴願訴訟ヲ釀生シ、或ハ其ノ規定實際ニ適セサルカ爲メニ專ラ法文ニ依ラムト欲スレハ往往政務ノ實行ヲ害シ、務メテ實際ノ利便ニ從ハムト欲スレハ却テ法文ニ背戻スルカ如キ形迹ヲ顯ハシ、或ハ規定ノ闕如セルカ爲メニ實際ニ必要ナル政務モ之ヲ施行スルコト能ハサルノ憾アルノミナラス、加フルニ上級地方制度トノ間規定ノ一貫セサルモノ、若ハ聯絡ヲ缺クモノアリテ法ノ運用上障碍ヲ見ルコト又稀ナルニ非サリシヲ以テ、事實ノ要求ハ夙ニ之レカ改正ヲ必要ナラシメ、政府ハ明治三十九年及同四十年ニ於テ再度其ノ全部ノ改正案ヲ帝國議會ニ提出セシモ、其ノ立案ニ於テ郡制ノ廢止ヲ標榜トシタルヲ以テ、常ニ貴族院ノ反對ニ依リ撤回ノ止ムナキニ了レリ。然ルニ明治四十四年政府ハ郡制ノ問題ト關連ナク三度ヒ改正案ヲ帝國議會ニ提出シ遂ニ其ノ通過ヲ見ルニ至レリ。今新舊兩法ヲ比較シテ改正若ハ追加カ如何ニ行ハレタルカヲ瞥見スルノ便ニ資センカ爲主トシテ內務省地方局ニ於ケル調査ノ一節ヲ借リ其ノ主要ナリト認ムヘキモノヲ左ニ揭ク。就中市町村會議員ヲ全數改選トシテ其ノ任期ヲ四年ニ短縮シ、市參事會ノ性質ヲ改メテ一種ノ議事機關ト爲シ、市參與ノ制ヲ設ケタルカ如キハ特ニ其ノ重要ナルモノト爲スヘシ。

一、舊法ニ於テハ市町村ノ法人タルコトヲ認メ、又官ノ監督ノ下ニ自ラ其ノ公共事務ヲ處理スヘキコトヲ規定スト雖、其ノ負擔ニ屬スル事務ノ範圍ニ付テハ法律ノ規定頗ル周密ヲ缺クモノアリ、是ヲ以テ改正法ニ於テハ市町村ニ屬スル事務ハ、從來法令ノ規定ニ依ルノミナラス慣例ニ依ルモノアルコトヲ規定シ、又將來市町村ニ對シ新ニ事務ノ負擔ヲ命スルニ當リテハ、必ス法律又ハ勅令ニ依ルヘキコトヲ明示シ、以テ其ノ事務負擔ノ範圍ヲ明確ナラシメタリ。

（舊法市制町村制第二條　改正法市制町村制第二條）

二、舊法ニ於テハ町村ノ廢置分合ヲ爲ス場合ニハ府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要シ、又市町村ノ境界ヲ變更スルハ郡參事會又ハ府縣參事會ノ議決ヲ以テスルコトヲ得セシメタリ。然トモ境界變更ノ事タル區域ノ狹小ナル場合ハ格別若其ノ廣大ナルモノニ至テハ、其ノ關係スル所敢テ廢置分合ノ場合ト擇フ所ナシ。又舊法ニハ市ノ廢置分合ニ關シ規定ヲ缺クヲ以テ、例ヘハ二町村以上ノ區域ヲ一市ト爲サムトスル場合ノ如キハ、一旦町村ノ併合ヲ行ヒ、而シテ後ニ市制ヲ施行スル等煩雜迂遠ナル手續ヲ經サルヘカラス。是ヲ以テ改正法ニ於テハ市ノ廢置分合ノ場合ト等シク府縣參事會ノ議決ヲ經テ內務大臣ノ許可ヲ要スルコトヲ規定シ、又市町村ノ境界變更ニ付テハ町村ノ廢置併セテ規定セリ。

（舊法市制町村制第四條　改正法市制第三條及第四條）

三、舊法ニ於テハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲ス場合ニ於テ、財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會ノ議決ニ依テ之ヲ定ムルニ過キサルモ、此ノ場合ニ於テ財產處分ハ實ニ國體ノ基礎ニモ影響ヲ及ホスヘキ重要事項ニ屬スルヲ以テ、改正法ニ於テハ府縣參事會ニ於テ議決スルノ外仍內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルノ規定ヲ設ケタリ。

（舊法同前　改正法同前）

四、舊法ニ於テハ住居ヲ以テ市町村住民ノ要件ト爲セルモ、住居ハ固ヨリ生活ノ本據ヲ云フニアラサルヲ以テ、一人ニシテ二箇以上ノ住居ヲ有スル場合ナキニアラス、然トモ住民タルモノハ實ニ國體存立ノ要素ニシテ其ノ市町村ニ對シ財產及營造物ヲ共用スル權

利ヲ有シ、且負擔ヲ分任スルノ義務ヲ負フ等其ノ關係最重大ナルヲ以テ、之カ要件トシテ其ノ市町村ニ生活ノ本據ヲ有スルヲ以テ適當ト爲スノミナラス、府縣制カ其ノ住民權利義務ノ基礎トシテ住所主義ニ據ルモノトノ間、上下一貫セサル憾モアリ是ヲ以テ改正法ニ於テハ民法ノ所謂住所ヲ以テ其ノ要件ト爲セリ。

（舊法市制町村制第六條　改正法市制町村制第八條）

五、舊法ニ於テハ公民權ノ一要件トシテ一戸ヲ構フル者タルヲ要スルカ故ニ、其ノ一戸ヲ構フルヤ否ヤ事實ノ認定困難ニ陷リ解釋區區ニ岐レ、延テ訴願訴訟ノ因ヲ爲セルノ例尠シトセス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ獨立ノ生計ヲ營ム者タルヲ要スルコトニ改メタリ。

（舊法市制町村制第七條　改正法市制町村制第九條）

六、舊法ニ於テハ公民權ノ得喪ニ關シ往往規定ノ不備タルヲ免レサルモノアリ、是ヲ以テ改正法ニ於テハ實際ノ適否ヲ考察シ併セテ府縣制ノ規定ヲ參酌シ

（一）家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ納稅年限ニ關シ被相續人ノ分ト通算スル規定

（二）市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アルモ公民ノ要件中年限ニ關スルモノハ中斷セラレサル規定

（三）市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ在テハ公民ノ要件中市町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セサル規定

（四）埋立地ニ設ケタル新村其ノ他僻村ニ於テ直接國稅ヲ納ムル者少ク隣テ町村公民ノ過少ナル場合ニハ町村公民ノ要件ニ關シ町村條例ヲ以テ特例ヲ設ケ得ル規定

ヲ設ケタリ。

（舊法同前改正法同前）

七、舊法ニ於テハ名譽職ヲ擔任セサル公民ニ對スル制裁ヲ三年以上六年以下ハ、公民權停止及同年期間市町村稅ノ八分ノ一乃至四分ノ一ノ增課ト爲セルモ、其ノ程度適切ナラサルモノアリ。是ヲ以テ改正法ニ於テハ期間ヲ輕減シテ一年以上四年以下トシ、增課額ヲ變更シテ十分ノ一以上十四分ノ一以下ト爲セリ。

（舊法市制町村制第八條　改正法市制町村制第十條）

八、舊法ニ於テハ公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ、直ニ公民權ヲ停止スルノ規定アリ、然トモ公判ニ付セラレタルノ一事ヲ以テ直ニ公民權ヲ停止スルハ少シク酷ニ失スルノ感ナキニアラス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ起算シ、且刑ノ執行猶豫ノ規定ヲ參酌シテ其ノ執行ヲ終リ、又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ外公民權ヲ停止セサルコトト爲セリ。

（舊法市制町村制第九條　改正法市制町村制第十一條）

九、舊法ニ於テハ市町村會議員ノ定數ハ人口ヲ標準トシテ之ヲ定メ、市ニ在テハ六十人、町村ニ在テハ三十人ヲ以テ定限ト爲シ、市町村ノ人口如何ニ懸多ナルモ此ノ定限ヲ超ユルコトヲ許サルカ故ニ、大ナル市町村ニ於テハ其ノ議員ノ定數人口ニ比例シテ權衡ヲ失スルノ感ナキニアラス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ此ノ定限ヲ撤廢シ、仍大市ニ對シテハ更ニ一定ノ增加率ヲ設ケ、即チ人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增加スルノ法ニ依リ、以テ實際ノ狀況ニ應セシメンコトヲ期セリ。

（舊法市制町村制第十一條　改正法市制町村制第十三條）

十、舊法ニ於テハ公民ニ非サル多額納稅者ノ選擧權ニ關シ、市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於ケル場合ノ規定ヲ缺キ、制度カ特ニ多額納稅者ニ選擧權ヲ與フルノ趣旨ヲ貫徹スルコト能ハス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ新ル場合ニ在テハ其ノ市町村內ニ於テ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ニモ亦選擧權ヲ與フルノ規定ヲ新設セリ。

（舊法市制町村制第十二條　改正法市制町村制第十四條）

十一、舊法ニ於テハ市町村會議員一級選擧人ノ數一人若ハ二人ニ過キサル場合ト雖、其ノ儘之ヲシテ多數ノ議員ヲ選擧セシムルモノナルヲ以テ其ノ一級選擧人ニ對シ過大ノ權利ヲ與フルノ感アルノミナラス、多少ノ弊害アルヲ免レス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ議員ノ定數ヲ標準トシ、其ノ選擧人ノ數、市ニ在テハ議員定數ノ三分ノ一、町村ニ在テハ其ノ二分ノ一ヨリ少ナキトキハ納額最多キ者、市ニ在テハ議員定數ノ三分ノ一、町村ニ在テハ其ノ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級選擧人ト爲スノ規定ヲ設クタリ。

（舊法市制町村制第十三條　改正法市制町村制第十五條）

十二、舊法ニ於テハ市會議員選擧人ノ等級ヲ分ツニ如何ナル場合ト雖、直接市稅ノ納額ヲ三分シテ之ヲ各級ノ標準ト爲スヘキ規定ナ

ルヲ以テ、其ノ一級選擧人ノ納ムル直接市稅額選擧人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ二ヲ超ユル場合ハ爾餘二級選擧人タルヘキモノヲ存スルノミニシテ、終ニ三級選擧人ヲ見ルノ餘地ナキ結果ヲ生シ、又假令之ニ類スル場合ニ於テ二級選擧人ノ外三級選擧人ヲ存スルトスルモ、其ノ甚シキニ至テハ僅僅一二人ヲ存スルノミニシテ而モ之ヲシテ一級二級ノ選擧人ト對立シテ倘議員三分ノ一ノ選擧ヲ行ハシムルノ奇觀ヲ呈スルナキヲ保セス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ選擧人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額中一級選擧人ノ納ムル額ヲ除キ、其ノ殘額ヲ二分シテ二級三級ト爲シ、倘此ノ場合ニ二級選擧人少數ナルトキハ前揭ノ一級選擧人ニ關スル場合ト同一ノ方法ニ依ルヘキ規定ヲ設ケ以テ制度ノ完備ヲ期セリ。

（舊法市制第十三條　改正法市制第十五條）

十三、舊法ニ於テハ市町村會議員選擧等級分別ノ標準トスヘキ直接市町村稅ノ納額ノ所屬年度並其ノ納額トハ、賦課額ナリヤ將タ收納額ナリヤ明瞭ナラサルヲ以テ、其ノ解釋區區ニ渉リ或ハ主務省ト行政裁判所トノ間ニ意見ヲ異ニスルモノアリ、是ヲ以テ改正法ニ於テハ選擧人名簿調製ノ期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘキコトヲ明規シ以テ疑義ヲ容ルノ餘地ナカラシム。

（舊法市制第十三條　改正法市制第十五條）

十四、舊法ニ於テハ町村會議員ノ選擧ニ關シテハ、選擧分會ヲ設クルコトヲ得ルノ規定アルモ、市會議員ノ選擧ニ關シテハ斯ノ如キ規定ナキカ故ニ、如何ナル多數ノ選擧人アル市ト雖總テ一投票所ニ於テ之カ投票ヲ爲サシメサルヘカラス、是レ頗ル實際ノ便宜ト相容レサル所ナリ。是ヲ以テ改正法ニ於テハ市ニ於テモ亦選擧分會ヲ設クルコトヲ得セシメ、選擧區ニ關スル規定ト相俟テ選擧ノ圓滿ニ行ハレンコトヲ期ス。

（舊法町村制第二十五條　改正法市制第十七條　町村制第十四條）

十五、舊法ニ於テハ被選擧權ニ對スル缺格ノ種類ハ一一之ヲ列記セリ、然トモ此ノ列記以外ニ於テ倘議員タルノ地位ヲ利用シテ私曲ヲ圖ルノ弊ニ陷リ易キ業務ニ從事スル者ノ如キ亦之ヲ缺格者ト爲スノ必要アリ。是ヲ以テ改正法ニ於テハ府縣制ノ規定ヲ參酌シテ市町村ニ對シ請負業務ニ從事スル者ノ缺格ヲ規定セリ。

（舊法市制第十五條　町村制第十八條）

十六、舊法ニ於テハ市町村會議員ノ任期ヲ六年トシ、毎三年其ノ半數ヲ改選スル所以ノモノハ、要スルニ事務ニ熟練セル議員ノ一半ヲ存續セシメムトスルノ主旨ニ出テタリト雖、市町村ノ如キハ區域廣濶ナラス隨テ議員ニ選擧セラルル所ノモノ概ネ重任相及ホシ殆ト半數改選ノ制度ニ依ルヘキノ必要ヲ認メス、殊ニ選擧ヲ屢スルノ勞費ヲ要スルヲ免レス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ全數改選ノ制ヲ採リ且其ノ任期ヲ四年ニ改メタリ。

（舊法市制第十六條　町村制第十九條　町村制第十六條）

十七、舊法ニ於テハ市町村會議員ノ選擧人名簿ハ所謂永續名簿ノ法ニ依ラス、定期改選タルト補缺選擧タルトヲ問ハス、總テ議員ノ選擧ヲ行フ毎ニ之ヲ新ニスルノ法ヲ採レルヲ以テ、其ノ勞費ヲ要シ實際上ノ不便鮮少ナリトセス。是ヲ以テ改正法ニ於テハ一旦調製シタル名簿ハ原則トシテ其ノ確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ用ウルノ制ニ改メ、又舊法ニ依レハ選擧人名簿ノ外、選擧原簿ヲ調製セサルヘカラスト雖、改正法ニ於テハ原簿ヲ廢止シ共ニ煩勞ヲ輕減センコトヲ期セリ。

（舊法市制町村制第十八條　改正法市制町村制第二十一條）

十八、舊法ニ於テハ確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ絕對ニ選擧ヲ行ハシメサルカ如キハ規定ノ不備タルヲ免レス、是ヲ以テ改正法ハ判決書ヲ所持シ、選擧ノ當日選擧會場ニ到リタル者ニモ選擧ヲ行ハシメサルカ如キハ規定ノ不備タルヲ免レス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ此ノ如キ者ヲシテ選擧ニ參與スルコトヲ得セシメ、且其ノ屬スヘキ等級ハ其ノ者ノ納稅額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ、仍市ニ在リテハ二級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ選擧ヲ行ハシムル等ノ規定ヲ設ケ以テ制度ノ完備ヲ期セリ。

（舊法同前　改正法同前）

十九、舊法ニ於テハ市町村會議員ノ選擧ニ於ケル投票ハ一切連名ノ法ヲ用ヰ、且其ノ投票ハ必シモ自書スルコトヲ要セス、又必シモ選擧會場ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要セサルカ故ニ、之カ爲ニ黨同伐異ノ弊害ヲ助長シ奸詐ノ其ノ間ニ入ルコトヲ得セシメ、大ニ選擧

ノ公正ヲ求ム。

市制町村制修正案　　**立法ノ目的**

即チ空選ノ場合ニ於テ自ラ投票ヲ為スコトヲ得ザル選挙人ノ数ノ三倍ヲ超エザル範囲ニ於テ選挙人ノ投票ヲ為スコトヲ得ル制ヲ設ケ自ラ投票ヲ為スコトヲ得ザル選挙人ノ投票ヲ為スコトヲ得ル制ヲ設ケ自ラ投票ヲ為スコトヲ得

參事會市會ニ代リ、町村ニ在テハ郡參事會町村會ニ代テ議決スルノ定ナリ。然トモ斯ル代決ノ方法ニ依ラス假令出席議員ハ定數ヲ缺クモ、仍市町村會ヲ開カシムルハ直接市町村ノ意思ヲ表示スヘキ機關トシテ寧ロ適當ナルヘシ、是ヲ以テ改正法ニ於テハ此ノ場合ニ於テモ仍市町村會ヲシテ定數ニ滿タサル儘會議ヲ開クコトヲ得ルモノト爲セリ。

（舊法市制第三十八條及第四十三條　町村制第四十條及第四十五條　改正法市制第五十二條　町村制第四十八條）

二十八、舊法ニ於テハ市町村會招集ニ應シタル後出席議員定數ヲ缺キ會議ヲ開クコト能ハサルトキ、即チ所謂流會ト爲リタルトキハ規定上之ニ處スルノ途明瞭ナラス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ此ノ場合ニ議長ヨリ一應出席ヲ催告シ、仍出席議員定數ニ滿タサルトキハ定數ニ滿タサル儘會議ヲ開クコトヲ得ルモノト爲セリ。

（改正法市制第五十二條　町村制第四十八條）

二十九、舊法ニ於テハ町村ノ執行機關ハ獨任制ヲ採リ、市ノ執行機關ハ合議制ニ依レリト雖、從來ノ實驗ニ徴スルニ市ノ事務ハ複雜多端ニシテ且往往輕易ノ事項ナルニ拘ラス、一一合議體ノ議決ニ依テ施行スルカ如キハ處理迂遠ニシテ事務ヲ凝滯シ、或ハ機宜ヲ失シ團體ノ不利不便少カラサルモノアリ。是ヲ以テ改正法ニ於テハ市ノ執行機關モ亦町村ノ執行機關ト等シク獨任制ヲ採ルコトト爲セリ。然トモ市ノ事務ヲ擧ケテ獨任制ノ市長ノミニ委任スルハ亦事務ノ圓滑ナル進行ヲ期スル所以ニ非サルヲ以テ、府縣ノ例ニ倣ヒ市參事會ヲ以テ一種ノ議事機關トシテ之ヲ存シ特ニ市ノ事務ニ參與セシム。

又舊法ニ於テハ市會ハ其ノ權限ニ屬スル事件ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得ルノ規定ナキヲ以テ、輕微ノ事件ヲ一一市會ノ招集ヲ要シ爲ニ實際上ノ不利不便ヲ感シタルコト少カラス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ委任ニ關スル規定ヲ設ケタリ。

（舊法市制第四十九條及第六十四條　乃至第六十九條　改正法市制第四十三條及第六十四條　乃至第七十一條）

三十、舊法ニ於テハ市ノ名譽職參事會員ヲシテ事務ノ一部ヲ分掌セシムルノ途アルモ、市參事會ノ性質ヲ改メテ一種ノ議事機關ト爲ストキハ此ノ途ヲ失フヘキハ言ヲ俟タス。然ルニ今ヤ時勢ノ進運ニ伴ヒ市ニ於テ經營スヘキ事業ハ益多端ニシテ、例ヘハ水道瓦斯電燈及電車ノ如キ殊ニ其ノ規模ノ大管理ノ煩ナルモノニ至テハ之カ經營上獨特ノ技能手腕トニ待タサルヘカラサルヲ以テ、是等ハ一般ノ事務ト分離シテ專ラ其ノ衝ニ當ルヘキ特別ノ機關ヲ設クルノ必要アルヲ認ム。加之助役ハ常ニ市長ノ事務ヲ補助シ、或ハ其ノ代理者トシテ一般事務ヲ管掌セサルヘカス。又書記其ノ他ノ附屬員ノ地位ヲ以テシテハ、之カ適任者ヲ招致スルコト能ハサルヤ亦論ナシ。是ヲ以テ改正法ニ於テハ舊法ノ下ニ執行機關タル市參事會ヲ組織セル名譽職市參事會員ヲシテ事務ノ一部ヲ分掌セシメタルノ例ニ倣ヒ市參與ナル特別ノ吏員ヲ置キ市條例ノ規定ニ依リ市會ニ於テ之ヲ選擧シ、內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ、原則トシテ名譽職ト爲シ例外トシテ有給吏員タラシメ重要ナル地位ヲ與ヘ以テ此ノ任ヲ荷ハシム。

（改正法　市制第六十四條第七十二條第七十四條及第九十五條等）

三十一、舊法ニ於テハ市長及市ノ助役收入役ノ任期ハ市會議員ノ任期ト同シク六年ナルモ、改正法ニ於テハ市會議員ノ任期ヲ短縮シタルヲ以テ之ニ伴ヒ其ノ任期ヲ四年ニ短縮セリ。

（舊法市制第五十條第五十二條及第五十八條　改正法市制第七十三條第七十五條及第七十九條）

三十二、舊法ニ於テハ市長有給町村長及有給助役ニ對シテ他ノ職務ヲ兼任シ、又ハ或業務ニ從事スルコトヲ得サラシムルノ規定アリト雖、市町村ニ直接關係ヲ有スル業務ニシテ、而モ市町村長助役ニ在テハ自ラ其ノ地位ヲ利用シテ私曲ヲ圖ルノ弊ニ陷リ易キモノニ對シ、何等制限ヲ置カサルヲ以テ、改正法ハ市町村會議員ニ對シ規定セルト同一趣旨ヲ以テ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ。

（舊法市制第五十六條　町村制第五十八條　改正法市制第七十七條及第七十八條　町村制第六十五條及第六十六條）

三十三、舊法ニ於テハ收支ノ命令者ト現出納者トヲ區別センカ爲特ニ收入役ヲ置キタルモ、收入役代理ノ方法ニ關スル規定ナキヲ以テ、收入役故障アル場合ニ於テ財務ノ整理上支障鮮シトセス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ市町村條例ヲ以テ副收入役ヲ置クヿトセリ。

（舊法市制第五十八條　町村制第六十二條　改正法市制第七十九條　町村制第六十七條）

三十四、舊法ニ於テハ書記、其ノ他ノ有給吏員ハ市ニ在テハ市參事會之ヲ任用スルニ拘ラス、町村ニ在テハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任スルノ規定ナリト雖、等シク吏員ノ任用ニ對シ、一ハ執行機關ノ權限ニ屬シ、他ハ議事機關ノ權限ニ屬セシムルカ如キハ何等理由ナク、此ノ如キハ總テ吏員ノ指揮監督者タル執行機關ノ權限ニ屬セシムルヲ適當トス。是ヲ以テ改正法ニ於テハ必要ノ

（改正市制町村制第四十五條及第七十六條）

三十八、裁決ニ於テハ市町村長ハ、國及府縣ノ事務ニ於テハ市町村ノ規定ヲ、市町村ノ他ノ公共團體ノ事務ニ於テハ常ニ參與スルノ必要アルモノト認ムルトキハ、其ノ常參ヲ特ニ市町村長ニ限レルカ如キ、其ノ常參ヲ實際ニ適切ナラス、且府縣制ノ規定ニモ違反セサル限リ、其ノ常參ヲ拒ムコトヲ得ス。

常參ヲ必要トスルモノヲ、是ナ以テ、改正法ニ於テハ、其ノ常參ヲ拒ムコトヲ得ルノ規定ヲ設ケタルモノナリ。

テ改正法ニテハ特ニ市町村會議員名譽職參事會員等ヲ明記シ、以テ疑義ヲ容ルルノ餘地ナカラシメタリ。

（舊法市制町村制第七十五條　改正法市制第百四條町村制第八十四條）

四十二、舊法ニ於テハ市長ノ給料額ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケ、市助役及市收入役ノ給料額ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ、有給町村長有給助役及町村收入役ノ給料額ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルノ規定ナルモ、改正法ニ於テハ總テ之ヲ市町村會ノ議決ニ一任セリ。

（舊法市制第五十八條及第七十六條町村制第六十二條及第七十六條　改正法市制第百五條町村制第八十五條）

四十三、舊法ニ於テハ市町村ノ有スル不動產及積立金穀等ハ、必ス之ヲ基本財產ト爲スヘキノ規定ナルヲ以テ、役所役場學校及病院等ノ敷地及建物ノ如キ收益ノ目的ニ非サルモノト雖、之ヲ基本財產ト爲シ之カ爲メ財產收益ノ狀況輙シ之ヲ知ルヘカラサルニ至レリ。此ノ如キハ財務ノ監督上不便敢テ尠シトセス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ收益ノ爲ニスル市町村ノ財產ハ基本財產トシテ之ヲ維持スヘキノ制ニ改メ、又舊法ニ於テハ市町村ニ於テ特別ノ基本財產若ハ基本財產ニ非サル金穀等ヲ積立ツルコトヲ得ルノ明文ナシ。然トモ市町村ノ狀況ニ依リテハ或ル事業例ヘハ水道ノ布設、道路ノ修築、公園ノ維持等ニ關シ特別ノ基本財產ヲ蓄積シ、又或ハ救荒豫備等ノ爲メニ一定ノ期間特別ノ積立金ヲ設クルノ必要ヲ見ルコトアルヘシ。是ヲ以テ改正法ニ於テハ市町村ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ、特定ノ目的ノ爲ニ特別ノ基本財產若ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得ルノ規定ヲ追加シ、以テ市町村事業ノ發達ヲ便ニセリ。

（舊法市制第八十一條町村制　改正法市制第百九條及第百六十七條町村制第八十九條及第百四十七條）

四十四、舊法ニ於テハ市町村カ寄附又ハ補助ヲ爲スヲ得ルノ權能ヲ認メタルノ規定明瞭ナラサルカ爲メ主務省ト行政裁判所ト解釋ヲ異ニシ疑義ヲ生シタルコトアリシト雖、元來市町村ハ其ノ團體ノ公益ヲ增進スルコトヲ目的トシテ存在スルモノナレハ、其ノ目的ヲ達スルニハ或ハ他ノ事業ヲ補助シテ其ノ結果自己ノ公益ヲ企圖スルノ方法ニ依ルモ敢テ不可ナリトセス。是ヲ以テ改正法ニ於テハ市町村ハ他ノ團體ノ事業タルト將タ一私人ノ事業タルトヲ問ハス、直接其ノ市町村ノ公益ニ關係アルニ於テハ之ニ對シ監督官廳ノ許可ヲ受ケ、寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得ルノ規定ヲ設ケ、以テ團體ノ公益ヲ圖リ住民ノ福利ヲ增進スルコトヲ得セシム。

（改正法市制第百十五條及第百六十七條町村制第九十五條及第百四十七條）

四十五、舊法ニ於テハ市町村內ニ住居ヲ構ヘス、又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖、市町村內ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ土地ヲ使用シ又ハ店舖ヲ定メテ營業ヲ爲ストキハ之ヲ以テ納稅義務者ト爲スノ規定アルモ、市町村內ニ於テ土地ヲ占有シ、又ハ家屋ヲ使用シ若ハ占有シ、又ハ土地家屋以外ノ物件ヲ所有シ使用シ、若ハ占有シ、又ハ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテ市町村稅ヲ賦課シ得ルノ明文ナシ。然トモ舊來ノ慣行上是等ノ物件又ハ行爲ニ對シ、課稅スルハ市町村ニ於テ重要ノ財源ナリト認メラルル場合ナキニアラサルノミナラス、輓近市町村ノ費用漸次增加シ、之カ財源ヲ擴張スルノ必要アルヲ以テ、改正法ニ於テハ右等ノ物件又ハ行爲ニ對シ新ニ課稅スルコトヲ得セシムルノ途ヲ開ケリ。

（舊法市制町村制第九十三條及第百三條　改正法市制第百十九條町村制第九十九條）

四十六、舊法ニ於テハ市町村ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ、且其ノ營業若ハ其ノ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ、附加稅ヲ賦課モントスル場合ニ關シ、其ノ本稅分別ノ方法ニ付何等ノ規定ナキヲ以テ市町村ノ課稅上障碍鮮シトセス、又住居滯在市町村ノ內外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件、又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ、市町村稅ヲ賦課スル場合ニハ現行法ニ於テハ其ノ收入ヲ平分シテ一部ニノミ賦課スヘキノ規定アルモ、時トシテ課稅ノ過重ヲ來スノ虞ナキ能ハス、是ヲ以テ改正案ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ相當ノ規定ヲ設ケ是等支障ナカラシメムコトヲ期ス。

（舊法市制町村制第九十五條　改正法市制第百二十條町村制第百條）

四十七、舊法ニ於テハ市町村ニ於テハ現品ヲ賦課セムトスルニ當リ、急迫ノ場合ニハ直接市町村稅ヲ準率ト爲スヲ要セサルヲ以テ、勢ヒ賦課ノ公平ヲ失シ且弊害ノ之ニ伴フノ虞ナキコト能ハス是ヲ以テ改正法ニ於テハ急迫ノ場合ニ賦課スル現品ニ付テモ總テ直接市町村稅ヲ準率ト爲スヲ要スルコトト爲シ、仍非常災害ニ關シテハ水利組合法第五十條ノ規定ヲ參酌シ、以テ非常災害ノ爲必要アルトキ土地ノ使用其他現品ノ使用又ハ收用ヲ便ナラシムル等ノ途ヲ開ケリ。

（舊法市制町村制第百一條　改正法市制第百二十五條及第百二十六條町村制第百五條及第百六條）

四十八、舊法ニ於テハ市町村稅ノ賦課ニ關シ訴願訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモ、使用料手數料加入金ノ徵收及夫役現品ノ賦課ニ關シ

テハ其ノ規定ナク、又市町村ノ收入ニ對スル滯納處分ニ付テハ是亦訴願訴訟ヲ提起シ得ルノ明文ナシ、是ヲ以テ改正法ニ於テハ是等ノ事件ニ付訴願訴訟ヲ爲シ得ヘキノ規定ヲ設ケ、又舊法ニ於テハ其ノ訴願訴訟ヲ許セル事件ニ付モ概シテ被處分者ニ對シテ之ヲ許スノ外市町村長ヨリ訴願スルコトヲ許サス、隨テ市參事會又ハ町村會ノ決定ニシテ法律ニ違ヒ公益ヲ害スト認メタル場合ト雖、進テ之カ救濟ヲ求ムルニ由ナシ。是ヲ以テ改正法ニ於テハ府縣制ノ規定ヲ參酌シ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付テハ特ニ市町村長ヨリモ亦訴願スルコトヲ得セシメ以テ制度ノ完備ヲ期セリ。

（改正法市制第百三十條町村制第百十條等）

四十九、舊法ニ於テハ急迫ノ場合ニ際シ賦課シタル夫役ニ付、定期內ニ之カ履行ヲ爲ササル者アルトキ之ニ處スルノ規定ナシ。蓋シ此ノ場合ニ於ケル夫役ハ夫レ自身ニ於テ必要アルモノニシテ、既ニ期限經過後ニ至テハ又之ヲ川カルニ所ナカルヘシ。然トモ等シク賦課ヲ受ケタル者ニシテ或ハ履行シ或ハ履行セサルモ、之ヲ不問ニ付スルハ不公平タルヲ免レサルナリ。之ヲ以テ改正法ニ於テハ其ノ急迫ノ場合ニ賦課シタルモノニシテ履行ヲ爲ササルトキハ、更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スルノ規定ヲ設ケ、以テ彼是ノ權衡ヲ得セシム。

（舊法市町村制第百一條　改正法市町村制百三十一條）

五十、舊法ニ於テハ市町村ノ繼續費ヲ設ケ得ルノ規定ナシ。然トモ市町村ニ於テ例ヘハ道路ノ修築校舍ノ新築等ノ如キ、數年ヲ期シテ施行スヘキ事業又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出シ、之カ收支計算ハ一般會計ヨリ特立スルヲ要スルモノ歟シトセス。是ヲ以テ改正法ニ於テハ是等ノ必要ニ應スル爲市町村ヲシテ繼續費ヲ設クルコトヲ得セシメタリ。

（改正法市町村制百三十五條）

五十一、舊法ニ於テハ市町村ハ特別會計ヲ設ケ得ルノ規定ナシ。然トモ市町村ニ於テハ例ヘハ水道病院ニ關スル財務ノ如キ、一般會計ヲ離レ獨立經營ノ必要アルモノ歟シトセス、是ヲ以テ改正法ニ於テハ是等ノ必要ニ應スル爲市町村ヲシテ、特別會計ヲ設クルコトヲ得セシメタリ。

（改正法市町村制百三十五條）

五十二、舊法中市町村ノ一部ノ事務ニ關スル規定ハ頗ル簡單ニ失スルカ爲、疑義百出シ區會議員ハ市町村ノ名譽職ナルヤ否ヤ其ノ明文ナキヲ以テ、之ヲ拒辭シタル者アル場合ニ於テ制裁ヲ加ヘ得ヘキヤ否明瞭ナラス、又區會議員ノ選舉效力ニ關シ訴願訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルヤ否ヤ、是亦規定明瞭ナラサルカ故ニ其ノ解釋區區ニ渉ルノ嫌アリ。其ノ他區會ノ設ケアラサル場合ニ於テ一部一區ノ所有財產ニ關スル民事ノ訴訟ニ付テハ、市參事會町村長共當事者ト爲リ、之ニ關スル市町村會ノ議決ヲ執行スルコトヲ得サルモノノ如リ誤解セラレタル實例尠カラス。之ヲ要スルニ本規定ニ關シテハ主務省ノ解釋ト行政司法兩裁判所判決ノ旨趣ト互ニ相矛盾シ職ニ其ノ衝ニ當ルモノヲシテ殆ント適歸スル處ヲ知ラサラシムルノ憾アリタリ是ヲ以テ改正法ニ於テハ市町村ノ一部ノ事務ニ關スル規定ノ全部ヲ改正シ以テ正確ナル軌轍ニ依ルコトヲ得セシメタリ。

（舊法市制第百十三條及第百十四條町村制第百十四條及第百十五條　改正法市制第百四十條乃至第百四十八條町村制第百二十四條乃至第百二十八條）

五十三、舊法ニ於テハ市組合又ハ市ト町村トノ組合ヲ設ケ得ヘキ規定ナキヲ以テ、水道道路學校衛生等ノ事件ニ關シ往往不便ニ感スル場合ナキニアラス。

又舊法ニ依レハ町村組合ノ設置ニ付テハ監督官廳ノ許可ヲ要スルモ、組合成立ノ基礎トモ謂フヘキ組合規約ニ付テハ、許可ヲ要スルノ明文ナキヲ以テ、組合限リノ之ヲ設定變更スルコトヲ得ルモノノ如ク解釋セラレ、町村組合ニ關シ監督ノ實ヲ擧ケ其ノ效果ヲ奏スルコト能ハサルモノアリ。加之組合規約ノ不完全ナルカ爲紛爭ヲ惹起シタルコト從來其ノ例ニ乏シカラサルナリ。

又舊法ニ依レハ町村組合ハ、其ノ組合町村ノ協議ニ依ルニアラサレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス。是レ尋常ノ場合ニ於テハ最適當ナル手續ナルヘキモ、從來ノ經歷ニ徵スルニ或ハ黨派上ノ關係ヨリ、或ハ自他町村利害ノ抵觸ヨリ往往紛擾ヲ釀シ、公益上解除ノ必要アルニ拘ラス之ヲ解除スル能ハサルモノアリ。斯ノ如キ場合ニ於テハ法律中之ニ處スルノ規定ナカルヘカラス。其ノ他舊法ニ依レハ地方實際ノ狀況ニ於テ、勸業土木衛生其ノ他必要ナル公共事業ニシテ數町村共同シテ經營スルヲ要スヘキ場合

（改正市制第百七十二條及第百七十三條）

第五章　市制町村制要領

市制町村制綱要

アリ、議會、區町村ニ於テハ、組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更スルニハ、關係アル各市町村ノ議會ノ議決ヲ經ルヲ要ス。

一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更スルニハ、關係アル各市町村ノ議會ノ議決ヲ經ルヲ要ス。

二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更スルニハ、府縣參事會ノ許可ヲ受クルヲ要ス。

三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更スルニハ、關係アル各市町村ノ市制又ハ町村制ニ依ル選擧ヲ行ヒ、且其ノ選擧ニ關スル訴訟ノ裁判確定シタル後ニアラサレハ、其ノ效力ヲ生セス。

四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更スルニハ、豫メ關係アル各市町村會ノ意見ヲ聽クヘシ。

五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、府縣參事會ニ報告スヘシ。

六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、府縣參事會ニ於テ之ヲ告示スヘシ。

七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、府縣參事會ニ於テ之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ。

八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ告示スヘシ。

九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

三十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

四十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

五十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

六十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

七十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

八十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

九十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百二十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百三十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百四十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百五十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百六十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百七十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百八十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

百九十九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百七　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百八　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百九　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十一　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十二　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十三　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十四　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十五　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十六　組合ヲ設ケ又ハ組合ニ關スル規約ヲ變更シタルトキハ、內務大臣ニ於テ之ヲ內閣ニ報告スヘシ。

二百十

第二編　本論

成法ヲ註解シテ規定ノ意義ヲ闡明スルノ方法ハ種々アリト雖、大別シテ事項別主義即チ規定ノ内容ヲ事項ニ依リ類別シ、正條ノ順序ニ拘ラス關係アル規定ノ主旨ヲ其ノ下ニ集メテ論述スルモノト、逐條主義即チ條文ノ順序ヲ逐ヒ各條毎ニ其ノ規定ノ目的及實際ノ適用ヲ說明スルモノトノ二ト爲スコトヲ得ヘシ。事項別主義ハ事件ノ性質ヲ理論的ニ攻究スル點ニ於テ優リ逐條主義ハ規定ノ實際的活用ヲ主トスル點ニ於テ優ル。故ニ前者ハ學理ヲ主トスル研究ニ於テ採用セラレ、後者ハ應用ヲ旨トスル研究ニ於テ用ヒラルヽヲ常トス。本書其ノ目的トスル處事ニ市町村行政ノ衝ニ當ル者ニ對シ規定解釋ノ資ヲ供シ自治行政運用ノ便ヲ圖ルニ存スルヲ以テ、特ニ逐條主義ヲ採用スルコトトハ爲セルナリ。

市制町村制第一章　總則

第一款　市町村及其ノ區域

市町村ハ地方團體ナリ。土地及人民ヲ以テ其ノ成立要素ト爲ス所謂領土團體ノ一ニ屬ス。而シテ團體ハ猶自然人カ何等目的ナクシテ生存スルモノニ非サルト均シク、其ノ目的トスル事項ナクシテ成立シ得ヘカラス。目的ナケレハ即チ團體ナシ。是ヲ以テ土地、人民及目的ノ三者ハ實ニ市町村ノ依テ生マルル根原タリ。其ノ一ヲ缺クモ市町村ノ成立シ能ハサルト共ニ此ノ三者タニ備ハランカ、一ノ活動主體タル市町村ノ資格ハ玆ニ完備ス。之レ本章ニ於テ總則トシテ市町村ノ領土、住民及其ノ目的タル事項ニ關シ基本規定ヲ揭ケタル所以ナリ。

市ト謂ヒ、町村ト謂フ、有形ノ土地ヲ指スニ在ラス、人民ヲ指スニ在ラス、一定ノ區域ヲ基礎トシテ行ハルル人類集團ノ活動ニ依リ、其ノ存在ヲ唯吾人ノ智能ニ於テ了解シ得ル一ノ能力主體ノ謂ナリ。斯ノ如キ能力主體カ、其ノ意思其ノ行爲ヲ實際ニ表示シ得ヘキ程度ハ、其ノ存在ヲ必要トスルニ至リタル理由ニ依リ、自然ノ限界ヲ有スヘキモノタリ。法律ハ何ヲ以テ市町村存在ノ理由ト看做シ、何ヲ以テ其ノ意思其ノ行爲ノ限界ト看做スヘキカ、之レ實ニ市町村ニ關スル諸般規定ノ依テ岐ルル基點タリ。而シテ市町村ノ區域ハ其ノ統治權ノ絕對ニ行使セラルル地理的範圍トシテ、市町村ナル能力主體ノ存在ヲ現實ニ了得セシムル强キ材料タリ。是ヲ以テ本款ニ於テ先ツ市町村ノ性質ヲ明ニシ、其ノ行爲能力ノ範圍ヲ示スト共ニ、市町村ノ區域及其ノ增減ニ關スル規定ヲ揭ク。

市制町村制第一條　市町村ハ從來ノ區域ニ依ル

本條ハ市町村ノ成立要素ノ一タル領土ノ地域如何ヲ確定スルノ規定タリ。市町村ハ地方團體トシテ一定ノ廣袤アル土地ヲ其ノ領土ト爲スコトヲ必要トス。領土ノ性質如何ハ緒論ニ於テ其ノ大體ヲ述ヘタルカ如ク、市町村カ其ノ統治權ヲ絕對的ニ行使シ得ヘキ地理的範圍ニシテ、國家若ハ府縣郡等ノ如

市町村ハ從來ノ區域ニ依ル

行政區劃ニ過キサルモ適用ス

ク市町村ノ領土ヲ同時ニ其ノ領土ト爲ス團體ノ權力ヲ除クノ外、其ノ區域内ニ於テ、自己ノ同意ニ基ツカサル他ノ權力ノ存在スルコトヲ許ササルト共ニ、其ノ區域内ニ在住スル者ニ對シテハ、住民タルト然ラサルト、將又帝國人タルト外國人タルトヲ區別スルコトナク、絶對ニ其ノ權力ニ服從セシメ得ヘキノ場所タリ。之即チ市町村ノ區域ナリ。此ノ如キ區域ハ市町村ノ自然ノ發達上、沿革的ニ定マレルモノニシテ、後ヨリ法規ヲ以テ案リニ之カ改廢ヲ企ツヘキニ在ラス。是ヲ以テ明治二十一年始メテ市制町村制ヲ制定シ、全國ノ都會地及町村ニ自治制ヲ施キ從來單純ナル行政區劃ニ過キサリシ區町村ヲ變シテ、地方團體ト爲スニ當リテモ其ノ團體ノ領土ハ從來ノ行政區劃タリシ地域ニ依リ、變更ヲ加ヘサルコトト爲セリ、舊法第三條ニ於テ「凡市町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス」ト規定シタルモノ是ナリ。改正法亦此ノ主義ニ則リ「市町村ハ從來ノ區域ニ依ル」トハ、市町村ノ從來有シタル領土ハ、本法施行ノ爲、別ニ變更ヲ受クルコトナシト云フノ意義ヲ明ニスルト共ニ、行政區劃カ其ノ儘自治區劃ニ變更セラレタル立法上ノ沿革ヲ示スモノタルニ外ナラサルナリ。故ニ茲ニ所謂從來ノ區域カ、本法施行前既ニ自治團體タル市町村（合併又ハ分離ニ依リテ成立シタル市町村ナルト否トヲ問ハス）卽チ舊市制町村制ノ下ニ活動シタル市町村ノ區域ニ適用アルハ勿論ナリト雖、之ト同時ニ、未タ自治團體タラサル都會若ハ部落ニ、本法ヲ適用シテ自治團體ヲ設ケ、臺灣、樺太等ニ本法ヲ施行スルカ如キ場合ニ於テハ單純ナル

市町村ノ區域ハ他方ニ於テハ行政區劃ナリ

海面ハ市町村ノ區域ヲ爲スヤ

行政區劃ニ過キサル是等都會又ハ部落ノ從來ノ區域ニ對シテモ其ノ適用ヲ見ルヘキモノタルコト立法ノ沿革ニ照シ明ナリトス。蓋行政區劃ヲ、其ノ儘自治區劃ト爲スト云フノ、沿革上ノ意義ヲ外ニシテハ、本條ノ規定ハ遂ニ無意義ニ終ルヘシ。何トナレハ、自治團體トシテ既存ノ區域ナランニハ、特ニ變更ノ積極的規定ナキ限リ、從前ノモノヲ存續スルハ當然ノ事理ニシテ、規定ヲ要スヘキノ事項ニアラサルヲ以テナリ。

市町村ノ區域ハ、市町村ノ自治權カ絶對ニ行使セラルル土地ノ範圍タルト同時ニ、又他方ニ於テハ國家及他ノ地方團體ノ行政ノ爲ニ、其ノ最下級ノ行政區劃ヲ爲スモノタリ。故ニ市町村ハ自治行政ノ主體トシテ、其ノ區域内ニ存在スル總テノ人ニ對シ又ハ其ノ區域内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ占有シ使用シ若ハ一定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シ舉ケテ自己ノ命令ニ服從セシムルト共ニ、一面國家又ハ他ノ地方團體卽府縣郡ノ機關トシテ、國家行政又ハ府縣郡ノ自治行政ノ其ノ區域内ニ關スルモノヲ行使ス。

市町村ノ他域カ海面ト連接スル場合ニ於テ、其ノ海面ノ一部ハ、市町村ノ區域ヲ爲スヘキモノナリヤ否ヤハ、研究ヲ要スル問題ナリ。若シ海面ニシテ、市町村ノ區域タルニ於テハ、自治權ノ絶對ニ行ハルル當然ノ結果トシテ、其ノ海面ノミニ於テ行ハルル行爲、例ヘハ他町村ノ海岸ヨリ出船シテ來漁スル漁業行爲ニ對シテモ、仍課稅スルヲ得ヘシト雖、反之市町村ノ區域ヲ爲ササルニ於テハ、何等自治權ヲ行フヘキ根據ナキニ歸著ス。或者ハ、陸地ヲ距ル三海里ノ海面ハ、領海トシテ國法上帝國領土

ノ一部タリ。而シテ明治十一年太政官布告第十七號郡區町村編制法第一條ハ、地方ヲ劃シテ府縣ノ下郡區町村ト爲ス旨ヲ規定ス。由是觀之、市町村ハ帝國領土ヲ地方的ニ區劃シタルモノナリ。而シテ領海ハ帝國領土ノ一部ナレハ、當然亦市町村領土ノ一部タラサルヘカラサルコトヲ主張ス。然トモ、始メテ市制町村制ヲ施行シタル當時ニ於テ、市町村ノ區域トシテ規定ノ要望シタル所ハ、從來諸般ノ取扱ニ於テ區町村ノ區域ナリト認メラレタルモノヲ、其ノ儘自治體ノ領土ト爲スニ存シタルナリ。而シテ之ヲ當時ノ實際ニ徵スルニ、區町村ノ地域圖ヲ始メ各般ノ文書ニ於テ、區町村ノ區域ハ總テ陸地ニ限ラレタリ。又領海カ帝國領土ノ一部分タルハ、元ヨリ論ナキ所ナレトモ、郡區町村編制法ニ於テ所謂「地方ヲ劃シ」ト云フモノカ、領海ヲ包含シタル意義ニアラサルコトハ、之カ爲ニ、新ニ領海三海里ニ渉リテ、區町村ノ區域ヲ劃シタル事實ナク、從來ノ陸地的區劃ヲ其ノ儘襲蹈シタルニ徵シ明ナリトス。故ニ本條ニ所謂從來ノ區域トハ、其ノ範圍カ陸地ニ限ラレタルモノナリト云フヘキナリ。從ツテ地先海面ニハ市町村ノ自治權及フコトナク。其ノ埋立ハ區域内ノ水面ヲ陸地ニ變シタルモノニアラサルヲ以テ、埋立地ハ當然ニ市町村ノ區域ニ混入スルコトナク、獨立シテ存在ス。之ヲ以テ地先市町村ノ區域ニ編入ノ手續ヲ爲スト、將又獨立ノ市町村ヲ設置スルトハ、其事柄ニ關シ權限ヲ有スル者、即チ内務大臣又ハ府縣知事ノ自由ニ存ス。今日實際ノ取扱モ亦此ノ主義ニ則ル。嘗テ熊本縣八代郡ノ海面埋立地ヲ以テ新ニ一村ヲ設置シ、郡築村ト爲シタルカ如キハ其ノ例ナリ。

（增）

市町村ノ人格

團體ノ目的ハ團體ノ性質ヲ定ムル標準ナリ

市制町村制第二條　市町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

本條ハ市町村カ地方團體トシテ、法律上人格ヲ認メラレタルコトヲ明ニスルト共ニ、地方團體ノ成立要素ノ一タル、目的事項ノ範圍ヲ限定スルノ規定タリ。蓋市町村ノ地方團體タルコトハ全然法律上ノ觀念タリ。一定ノ人類カ一定ノ地域ニ於テ、團體的活動ヲ爲スノ事實存スト雖、國法カ之ヲ認メテ以テ法律上ノ人格者ト爲ササル限リハ、地方團體ト云フカ如キ、權利義務ノ主體タリ得ヘキ法律關係ハ生セサルナリ。茲ニ市町村ハ法人トスト云フモノハ、此ノ關係ヲ明ニシ、法律上一個人ト均シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔スヘキ單一體タルコトヲ宣言シタルナリ。而シテ團體ノ目的ハ團體成立ノ根原ナルヲ以テ、目的ノ範圍如何ハ依テ以テ團體ノ性質ヲ區別スルノ標準タルヘク、團體ハ其ノ目的ノ範圍内ニ於テノミ、活動ノ自由ヲ有スルモノナリ。否夫レ以外ニ活動スヘキ原動力ヲ有セサルモノタルナリ。斯ノ如ク本條ノ規定ハ、市町村トハ何ヲ稱スルヤノ根本義ニ關スルヲ以テ、規定ノ順序ハ將サニ第一條ニ存スヘク、地域又ハ住民ニ關スル規定ハ、斯ノ如キ性質ヲ有スル市町村カ、如何ニ組織セラルルヤノ第二段ノ問題ニ屬スルヲ以テ、後ニ規定セラルルヲ以テ相當トス。然ルニ特ニ地域ニ關スル規定ヲ進メテ第一條ト爲シタルモノハ、市町村カ單純ナル行政區劃ニ過キサリシ時代ニ於テハ、地域即チ市町村ナリシヲ以テ、地方團體タル時代ニ至リテモ、地域ノ觀念甚タ强ク、之ヲ以テ市町村ニ關

スル規定ノ冒頭ト爲スコト、實際ニ適合ストセラレタルニ外ナラサルヘシ。

市町村ハ法人タリ。法人ハ之ヲ公法人ト私法人トニ分チ、公法人ハ之ヲ國家及自治團體ニ分チ、自治團體ハ更ニ地方團體及公共組合ニ分レ、市町村ハ地方團體ニ屬スヘキ法人タルコトハ緒論ニ於テ述ヘタルカ如シ。本條ハ單ニ法人トスル旨ヲ規定スルニ止マリ、法人中何レノ種類ニ屬スヘキ法人格ナリヤヲ定メスト雖、所謂地方團體ニ屬スヘキモノタルコトハ、團體ノ組織事務ノ範圍、其ノ事務處理ノ方法等ニ依リ明白ナリトス。

市町村ハ、其ノ區域内ニ絕對ニ行使セラルヘキ統治權ノ主體トシテ、獨立ノ意思ニ依リ其ノ自治行政ヲ行フ。然トモ其ノ統治權ヲ有シ、自治行政ヲ行フ所以ノモノハ、既ニ述ヘタルカ如ク、法律上ノ觀念ニ於テハ、市町村カ當然ニ有スヘキノ作用ニアラスシテ、國家カ認メテ以テ、國家ノ發達ヲ期スル上ニ於テ、便益アリト爲シタルカ爲ニ、特ニ之ヲ許與シタルニ外ナラサルナリ。從ツテ市町村ノ活動カ國家ノ目的ト背反シ得ヘカラサルハ當然ノ理ナリ。之レ本條ニ於テ、市町村ノ事務ヲ處理スルニ當リテハ、官ノ監督ヲ受ケ且法令ノ範圍内ニ於テスヘキコトヲ定メタル所以ナリ。監督ハ訓令等ノ形ニ於テ市町村ノ全般ニ對シテ爲サルルコトアリ。特殊ノ市町村ニ限リテ爲ササルコトアリ、事前ニ爲サルルコトアリ、事後ニ爲サルルコトアリ。廣クシテ及ハサルナシ。而シテ其ノ監督ノ局ニ當ルヘキ官廳如何ハ第八章ノ規定スル所タリ。「法令ノ範圍内ニ於テ」ト云フハ、仍法律及命令ニ違背スルヲ得

市町村ハ地方團體ナリ

市町村ノ活動ノ監督ノ下ニ於テス

市町村ノ活動ハ法令ノ範圍内ニ於テス

公共事務

純然タル自治行政ノ範圍

スト云フカ如シ。故ニ法律命令ハ他ノ一般ノ權利主體ト共ニ、市町村ヲ特定ノ制限ニ服從セシメ得ルハ勿論、特ニ市町村ヲシテ特別ノ制限ニ服セシムルコトモ亦爲シ得ヘキ所タリ。而シテ其ノ命令タルヤ勅令ハ勿論、省令府縣令等モ亦之ヲ包含ス。或ハ市町村カ自治權ヲ有スル團體タルノ故ヲ以テ、茲ニ「法令ノ範圍内」ト云フモノハ、概括的ニ總テノ權利主體ヲ拘束セントスル一般的法令ノ制限ハ、市町村モ亦其ノ適用ヲ免カルル能ハスト云フニ過キス。勅令以下ノ命令ヲ以テ、特ニ市町村ノ自治行政ノ自由ヲ制限スヘキ規定ヲ爲ス能ハスト云フ者アレトモ、其ノ當ヲ得タルモノニアラサルコトハ、字句ノ論ハ暫ク之ヲ措クモ、前述セル自治行政ノ國家行政ニ對スル關係、幷ニ（市制第百六十一條 町村制第百四十一條）第二項ノ規定ニ照シ明ナル所ナリトス。

市町村ハ其ノ公共事務ヲ處理ス。之レ市町村カ其ノ主タル目的トスル事項ニシテ、其ノ地方團體タル所以ノモノ實ニ之アルカ爲ナリ。公共事務ト云フハ仍公益事務ト云フカ如シ。住民個々ノ利益ヲ目的トセス、全體ヨリ觀察シテ必要ナリトセラルル如キ事務ノ義タリ。純理ニ於テ市町村ノ自治行政ト稱スヘキモノハ、此ノ公共事務ニ關スル行政ヲ以テ盡ク。然トモ、市町村ハ他方ニ於テ、更ニ國家及他ノ地方團體ノ行政區劃タルヲ以テ、其ノ委任ニ依リ、其ノ行政ヲ區域内ニ於テ行使ス、是レ本條ニ於テ、「竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス」ト云フ所以ナリ。市町村ニ依リ行ハルル行政ヲ廣ク自治行政ト稱スル觀念ニ於テハ、此ノ如キ場合モ亦之ヲ自治行政ト稱

セサルニアラサレトモ、決シテ固有ノ意義ニ於ケル自治行政ニ非サルコト注意ヲ要ス。固有ノ自治行政ニ非サル結果ハ、其ノ事務ニ關シ、自主權ノ作用タル市町村條例ヲ制定スル能ハサルコトニ歸着ス。蓋此ノ關係ニ於テハ、市町村ニ獨立ノ人格ナク、唯國家又ハ他ノ地方團體ノ機關トシテ、其ノ行政ヲ一定ノ地域ニ行使スト云フニ過キサルノミ。是ヲ以テ學者市町村ノ行使スル行政事務ノ中ニ就キ、固有事務ト委任事務トヲ區別ス。固有事務トハ之ヲ行使スルコトカ、直接市町村ノ自治行政タルヘキモノニシテ、市町村成立ノ要素タル目的ヲ組織スヘキ事項タリ。其ノ主要ナルモノヲ土木、衞生、及勸業等ニ關スル事務トス、本條ニ公共事務ト稱スルモノ之レナリ。委任事務トハ之ヲ行使スルコトカ市町村本來ノ目的ニ在ラス、偶他ノ團體ノ便宜ノ爲メニ、代ツテ處理スル事務ノ義タリ。國稅及府縣稅ノ徵收事務ヲ、市町村ニ於テ取扱フノ類ニシテ本條ニ於テ「市町村ニ屬スル事務」ト稱スルモノ之ナリ。

委任事務ハ本法施行ノ前後ニ依リ、其ノ市町村ニ屬セシムル方法ニ於テ差別アリ、即チ本法施行以後ニ於テハ、法律勅令ニ依ルノ外、他ノ方法ヲ以テ歸屬セシムルコト能ハスト雖、從來ノモノニ關シテハ、法律勅令ハ勿論、其ノ他ノ命令又ハ慣習ニ依リ歸屬スル事務ト雖、市町村ハ仍引續キ之ヲ處理スルノ義務アルモノト爲シタリ。之レ畢竟市町村ハ其ノ負擔ニ於テ、部內ノ自治行政ヲ行フカ爲ニ生シタル團體ナレハ、之レニ對シ更ニ一般行政ノ負擔ヲ命シ、經費ヲ增加セシムルカ如キハ勉メテ避クルコトヲ要ス。故ニ將來ハ法律勅令ニ依ルノ外、新ニ事務ノ負擔ヲ命スルコト能ハスト雖モ、從

自治行政ト條令ノ關係

固有事務

委任事務

市町村カ委任事務ヲ擔任スル形式

來既ニ存スルモノノ中ニハ、徵發令ノ如ク太政官布告ニ依ルモノアリ。又印鑑簿調製ノ如ク、全ク慣例ニ基ツクモノアリ。其ノ他類似ノ事務ニシテ既ニ市町村ノ義務ニ屬スルモノハ、今後ト雖均シク之ヲ行ハシムルノ必要アルヲ以テ、從來ノモノニ關シテハ、特ニ區別シテ規定シタルナリ。

市町村ノ事務ハ更ニ必要事務ト隨意事務トニ區別スルコトアリ。必要事務ハ其ノ事務ヲ處理スヘキコトカ、法規上必須ノ事柄ニ屬シ、市町村ニ於テ之カ必要ノ有無ヲ判斷シ、緩急宜シキニ從ツテ處辨スヘキ自由ヲ有セサルモノノ義ナリ。小學校令ノ規定ニ從ヒ尋常小學校ヲ設置スヘキ事務ノ如キハ之ニ屬ス。隨意事務トハ之ヲ實際ニ行使スルノ必要アリヤ否ヤノ判斷係ツテ市町村ノ自由裁量ニ存スルモノヲ云フ。前ノ例ニ倣フテ之ヲ云ヘハ、小學校令ニ依ル高等小學校ノ設置事務ノ如キ之ナリ。而シテ必要事務及隨意事務ノ區別ハ、必スシモ固有事務及委任事務ノ區別ト一致スルモノニ非スト雖、委任事務ハ法規ノ特別委任ニ依ルヲ以テ必要事務タル場合多ク、固有事務ハ概括的ニ公共ノ利益ノ爲ニスル事務ト云ヒ、別ニ積極的制限ナキヲ以テ隨意事務タル場合多シトス、勿論市町村ノ自治團體タル爲必要缺クヘカサル公共事務ノ必要事務タルヘキハ言ヲ須ヒサルナリ。

舊法ニ於テハ、市町村ノ事務ヲ處理スヘキコトヲ規定スト雖、委任事務ニ關シテハ何等定ムル所ナシ。之レ委任事務ハ、市町村カ國家內ノ團體タルノ故ヲ以テ、當然之ヲ負擔セシムルコトヲ得ヘシトスルノ主旨ナルヘシト雖、市町村ノ費用負擔ニ關スル規定等ト對照シ、

必要事務ト隨意事務

固有事務及委任事務ト必要事務及隨意事務トノ關係

舊法ニ於ケル委任事務

改正法ノ委任事務

法律ヲ以テスルハ格別、勅令以下ノ命令ヲ以テ委任事務ノ負擔ヲ命スルハ、妥當ヲ缺クノ嫌アルヲ免カレス。是ヲ以テ改正法ニ於テハ、特ニ之ニ關スル規定ヲ揭クルト共ニ、勅令以外ノ命令ヲ以テシテハ、其ノ負擔ヲ命スル能ハサルコトニ制限シタルナリ。故ニ此ノ委任事務ニ關スル規定ハ、自己以外ノ團體ノ事務ヲ市町村ニ委任スル場合ニ限局シテ適用スルコト必要ナリ。之ヲ字句ノ解釋トシテハ公共事務ニ非サル普通營利ノ事業ヲ、市町村ノ利益ノ爲メニ行ハシムルカ如キモ、此ノ規定ノ適用ニ依リ、勅令以上ヲ以テスルトキハ支障ナキカ如シト雖、此ノ如キハ市町村本來ノ目的以外ニ脫逸シ、當然ニハ行爲能力ヲ有スヘキ事柄ニ非サルヲ以テ、本條カ概括的ニ之ニ關スル除外規定ヲ設クヘシトハ、想像シ得ヘカラサル事ニ屬シ、不當ノ見解ナリト云ハサルヘカラス。從ツテ舊法ノ下ニ於テ、市町村ハ營利ヲ主タル目的トシテ事業ヲ經營スル能ハストスルノ解釋ニ依リ、電車ノ如キ、屠畜場ノ如キ家畜市場ノ如キ總テ之ヲ營造物トナシ、植林等ハ住民ニ模範ヲ示スノ公共事業トシテニ非サレハ、市町村ニ於テ經營シ得ヘカラスト爲スノ實際上ノ取扱ハ、本法ノ下ニ於テモ亦等シク採用セラルヘキノ見解タラスンハアラサルナリ。然トモ以上ハ第二條成文ノ解釋ニ過キサルニ依リ、若シ別ニ法律ヲ以テ、市町村ノ性質如何ニ關セス、之ニ直接營利ヲ目的トスル事業ヲ經營セシメントスルハ、立法論トシテハ、決シテ不能ノ事柄ニアラス、唯此ノ如キハ、法律ヲ以テシテ始メテ之ヲ能クスヘク、勅令以下ノ命令ヲ以テシテハ決シテ爲シ能ハサル所ナリ。

市町村ハ營利事業ヲ爲ス能ハス

特別ノ法律ニ依リ營利事業ヲ爲サシムルヲ妨ケス

公共事務ノ經營ハ其區域内ニ限ルルモノニ在ラス

市町村ノ權力ノ絕對ニ行使セラルルハ、其ノ區域内ニ限ラルルヲ以テ、其ノ公共事務ノ行ハルルモ亦主トシテ其ノ區域内ニ於テセラルルモノナレトモ、之レ決シテ公共事務當然ノ性質ニ非ラス。故ニ若シ其ノ同意ヲ得ルニ於テハ、市町村ハ他市町村ノ區域内ニ於テ、自己ノ公共事務ヲ經營スルコトヲ妨ケス。市町村カ他市町村ノ區域内ニ於テ公園、墓地、火葬場、病院等ノ營造物ヲ經營シ得ルハ之カ爲ナリ。此ノ理ヲ推セハ、市町村カ他市町村ノ區域内ニ、自己ノ道路ヲ開鑿維持スルカ如キモ、行政上ノ利不利ハ別問題トシテ其ノ經營ヲ爲シ得サルニハアラサルナリ。又市町村カ營利事業ヲ營ムコトヲ得スト云フハ、之レヲ主タル目的トシテ經營スル能ハスト云フニ過キサルヲ以テ、公共ノ利益ヲ圖ルト共ニ、營利ノ實ヲ擧クルコトハ決シテ妨ケサルナリ。否或場合ニ於テハ、營利ヲ併セ圖ルニ非サレハ、公共ノ目的モ亦之レヲ達スル能ハサルコト少シト爲サス。何トナレハ、公共事業モ收支甚タシク償ハサルニ於テハ、之ヲ營ムヘキ餘力アルヘカラサルヲ以テナリ。之レ市町村カ其ノ營造物タル水道又ハ電燈業ヲ營ムニ當リ、他市町村ノ區域ニ渉リ、其ノ給水給燈ヲ爲スヲ妨ケサル所以ナリ。

事業ノ普通狀態カ營利ニ屬スルモノト雖、市町村ノ之ヲ經營スル目的ニシテ、直接收益ニ存セス、他ノ公共ノ必要ニ基ツクニ於テハ又敢テ妨ケス、前述セル電車電燈ノ如キモ其ノ一例ナレトモ、此ノ他市町村ニ依リ時々行ハルル土木ノ請負ノ如キ之ナリ。若シ其ノ請負ノ目的ニシテ直接市町村ノ收益ヲ增スニ存セハ不當タルコト論ヲ須ヒス。然トモ市町村住民ニ其ノ職業ヲ得セシムルコトカ目的

營利事業ヲ併セ營ムハ妨ナシ

購買事業ヲ爲ス場合

市町村ハ漁業権ノ主體タルヲ得ス

ナルニ於テハ何等故障アルヲ見サルナリ。唯之レト似テ非ナルモノハ、法規カ一定ノ事項ヲ絶對ノ營利事業トシ營利ノ目的ヲ以テスルニアラサレハ漁業法ノ規定ニ依リ、營利ノ目的ヲ以テ業ト爲スモノニ限ラレタリ。故ニ營利事業ヲ目的トスル能ハサル市町村ハ、漁業法ニ所謂漁業權ヲ取得シ、漁業ヲ經營スルコトハ爲シ能ハサルナリ。現在ノ取扱ニ於テ舊來ノ慣行アルモノニ限リ、特ニ之ヲ認ムルカ如キハ止ムヲ得サル例外ニ屬ス。然トモ之ト同時ニ、漁業法ノ支配ノ外ニ於テ、所謂漁業ニ非サル漁獲行爲ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ自カラ別問題ニ屬シ、市町村ノ性質ト、法規カ他ノ條項ニ違反セサルヤ否ヤニ依リ決定セラルヘキ事項タルナリ。

（判　例）

一、漁業ハ公共事業タル性質ヲ有スルモノニ非ラス（二八、五、二九行列）

二、市町村ハ商行爲ヲ爲スコトヲ得（三二、九、二七民列）

三、請負工事ハ通常營利的事業ナレトモ亦公共事業トシテ經營セラルルヲ妨ケス（二八、三、一八刑列）

四、町村カ交通ノ設備トシテ渡船事業ヲ爲スハ營利事業ニ在ラス（三四、一二、二六行列）

市制第三條　市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣之ヲ定ム

內務大臣之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

市制第四條　市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

町村制第三條　町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ場合ニ於テ市ノ廢置分合ヲ伴フトキハ市制第三條ノ規定ニ依ル

市町村ノ廢置分合ノ所以

本條ハ市町村ノ新設、廢止、分割、併合及其ノ境界ノ變更ニ關スル手續、並之レニ關聯シテ生スヘキ、市町村有財產ノ處分方法ヲ定ムル規定タリ。蓋市町村ハ各其ノ成立及發達ニ關シ歷史的沿革ヲ有スルヲ以テ、素リニ之レヲ存廢離合スヘカラサルコト勿論ナレトモ、從來自然ノ發生ニ成リタルモノハ地域ノ大小甚タ懸隔シ、大ナルモノハ其ノ統一行政ニ不便ヲ感シ、小ナルモノハ年年擴大セラルル地方行政ノ負擔ニ堪ヘサル憾アリ、或ハ又交通組織ノ變遷ニ依リ、感情ノ離合ニ依リ、其ノ他各種ノ事情ノ下ニ、同一團體トシテ其ノ發達ヲ圖ルノ便否、昔日ト今日ト甚タシク趣ヲ異ニスルニ至ルモノ少シトセサス、然ルニ仍其ノ歷史ヲ重ムシ之レカ廢置分合ヲ不能ナラシムルハ、市制町村制ノ主旨タル統一的地方行政ヲシテ完全ニ行ハレシメ、市町村ヲシテ充分ノ發達ヲ期セシムル所以ニ在ラス。而シテ斯ノ

如キハ必スシモ舊來ノ市町村ニ限ルニ在ラス、一旦廢置分合ノ行ハレタルモノニ付テモ亦生シ得ヘキノミナラス、時ニ或ハ海面埋立等ノ結果トシテ、從來全ク市町村タリシ事實ナキ新地域ノ發生ニ依リ、新ニ市町村ヲ設置スヘキ場合モナキニ在ラス。之レ市町村自體ノ廢置分合ニ關スル規定ヲ必要トスル所以タリ。境界ニ關シテハ、市町村ノ存在ヲ現實ニ表示スヘキ區域ノ限界トシテ、其ノ變更ハ直接ニ住民ノ範圍ヲ變更シ、自治權ノ及フヘキ區域ヲ增減スヘキヲ以テ、其ノ容易ニスヘカラサルコト亦言ヲ須ヒサレトモ、甲乙互ニ犬牙錯綜スル爲、行政上其ノ變更ヲ必要トスルコトアリ、特ニ近年交通組織ノ變遷ハ、益之レカ必要ヲ感セシムル場合少シト爲サス、故ニ亦愼重ナル手續ノ下ニ之レヲ行ハシム。

市町村ノ境界變更アル所以

廢置分合ト境界變更ノ法規上ノ關係

府縣制及郡制トノ關係

市町村ノ廢置分合トハ、既存ノモノヲ消滅セシメ、若ハ之レヲ新設シ又ハ分割シ併合スル等市町村ノ區域ニ關シ、團體ノ存廢ニ影響スル處分ヲ云ヒ、境界變更トハ、市町村ノ存廢ニ何等關係スルコトナクシテ、唯其ノ相互ノ間ニ區域ノ變更ヲ爲スコトヲ云フ。廢置分合ト境界變更トハ、其ノ手續ニ於テ異ナル所ナシト雖、市ニ關シテハ、輕重ノ別アリ。又府縣制及郡制ノ關係ニ於テ之レヲ見ルトキハ、府縣郡ノ境界變更ハ、原則トシテ法律ニ依ルヘキモノトシ、其ノ例外ヲ規定スルニ當リ、府縣郡ノ境界ニ渉リ市町村ノ境界變更アリタルトキハ、府縣郡ノ境界モ自カラ變更スト爲スニ拘ラス、市町村ノ廢置分合ニ關シテハ、町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ町村ト爲ス場合ノ外之レヲ認メサルニ依リ、府縣郡ノ境界ニ渉リテ爲サルル市町村ノ境界變更ハ行政處分ヲ以テ隨意ニ之レヲ爲シ得ルニ反シ、其ノ廢置分合ハ主トシテ法律ニ依ラサルヘカラサルノ差異ヲ生ス（府縣制郡制第三條參照）故ニ兩者ノ區別ハ、實際上必要ノ問題トシテ之レヲ明ニスルコトヲ要ス。單ニ事實上ノ言葉トシテ論議スルトキハ、境界變更ト廢置分合トハ同一事實ニ付、觀察ノ方面ヲ異ニシタルニ過キサル場合多シ。例ヘハ甲村ノ一部ヲ割キテ別ニ乙村ヲ新設シタリトセンカ、甲ヨリ云ヘハ甲村ノ一部ヲ割キテ乙村ヲ新設タルヘシ。又甲村ヲ廢シテ乙村ニ併合シタリトセンカ、甲ヨリ云ヘハ村ノ廢止タルヘク、乙ヨリ云ヘハ地域ノ分割ニシテ境界ノ變更タルヘシ。然レトモ之レト同時ニ境界ノ變更ニシテ團體ノ存廢ニ關セサルモノ、例ヘハ甲村ノ一部ヲ割テ乙村ニ合ハスルカ如ク、甲乙何レヨリ見ルモ單ニ地域ノ增減ニ過キサルモノモ亦之レアリ。而シテ法ハ、市町村ノ地域ニ關スル變動ヲ、廢置分合ト境界變更ノ二者ニ劃然區別シ、各別個ノ規定ニ從ハシメ、特ニ廢置分合ニ關スル手續ヲ重カラシメムト欲ス。爲ニ事實ノ觀察ニ於テ、廢置分合ニシテ境界變更ヲ兼ネタリト思ハルルモノハ、法ノ希望ニ依リ、境界變更ノ範圍ヲ脫シテ、廢置分合ノ範圍ニ專屬シ、團體ノ存廢ニ何等影響ヲ有セサルモノニ限リ、所謂境界變更トシテ殘存スルニ至ルナリ。故ニ廢置分合ハ常ニ市町村存廢ノ事實ヲ伴ヒ、境界變更ハ全ク之レト相關聯スルコトナシ。之レ本條ニ所謂廢置分合ト境界變更ノ區別ノ標準ナリ。從ツテ單ニ分合ト稱セラルル場合ト雖、必ス一面ニ廢置ノ事實ヲ伴フ、其ノ之レ

廢置分合ト境界變更ノ區別ノ標準

ナキモノハ、分合ニ在ラスシテ境界變更タルナリ。甲村ノ分割ハ、自己ノ一部ヲ割テ新ニ乙市町村ヲ設クルカ、又ハ自己ヲ廢シテ數市町村ニ分屬セシムルカ、若ハ他ノ分割セラレタル市町村ノ部分ト相合シテ、新ニ乙市町村ヲ設クル場合ノ外之レヲ想像シ得ヘカラス。若シ其ノ割カレタル一部カ、獨立シテ別個ノ市町村ヲ爲スコトナク、其ノ殘サレタル部分カ、甲トシテノ存在ヲ失フコトモナシトセハ之レ單ニ甲ト他市町村トノ間ニ境界變更アリタルニ過キサルナリ。合併モ亦然リ、甲乙二村ノ合併ハ、其ノ一存シテ他亡フルカ、若ハ二者共ニ亡ヒテ、新ニ丙市町村ヲ設クルカ、又ハ甲乙互ニ其ノ一部ヲ割テ、丙市町村ヲ合成スル場合ノ外、之レヲ想像シ得ヘカラス。甲乙何レモ廢滅スルコトナク、且丙市町村ノ新設セラルルコトモナシトセハ、之レ單ニ甲乙ノ間ニ境界變更アリタルニ過キサルナリ。

境界變更ハ廢置分合ト共存スルコト能ハス

廢置ト分合トハ區別ノ必要ナシ

廢置ト分合トモ亦相交錯シテ生スル場合多シ。例ヘハ甲市ヲ二分シテ、一ヲ乙村ニ合ハセ、他ヲ以テ丙町ヲ新設シタリトセンカ、甲ヨリスレハ市ノ分割ニシテ同時ニ廢止タリ、乙ヨリスレハ併合タリ、丙ヨリスレハ町ノ新設ナリ、然レトモ法ハ此ノ事實ヲ强ヒテ何レカノ一方ニ專屬セシムルコトヲ必要ナリトセス、兩者ニ通シテ手續ヲ一ニシ何レノ事實モ之レヲ法律上同一價値ノ事實タラシム、故ニ廢置ト分合トハ法律上之レヲ區別スル必要ヲ認メサルナリ。之レ境界變更ノ場合ト甚タシク異ナル點タリ。境界變更ハ、廢置分合ニ伴フ場合ニ於テハ、法律觀念上廢置分合ニ吸收セラレテ其ノ存在ヲ失フヲ主義トス。然トモ町村ニ關シテハ廢置分合境界變更共ニ市ノ境界變更ト同一規定ニ從ハシムルヲ以テ、市ニ關シ單ニ境界變更ノ事實アルニ止マル場合ハ、町立ノ廢置分合ト併立スルヲ妨ケサル結果ヲ生ス。例ヘハ町村ノ全部ヲ市ニ編入シ又ハ市ノ一部ヲ割テ町村ノ一部ト合セ新町村ヲ設置スルカ如キ市ニ於テハ境界變更タリ町村ニ於テハ廢置分合タリ、互ニ併立シ共ニ輕易ノ手續ニ依リ處理セラル。

境界變更ト從來ノ事實トノ關係

廢置分合ト從來ノ事實トノ關係

境界變更ハ、團體ノ存在ニ影響ヲ及ホスコトナク、變更後ノ市町村ハ、變更前ノ市町村ト同一體タリ。從ッテ從來ノ團體機關、團體法規、團體行爲ハ之レカ爲ニ何等變更ヲ受クルコトナシ。然トモ廢置分合ノ場合ハ之レト異ナリ、之レカ爲ニ廢止セラルル團體アリ、新ニ設置セラルル團體アリ又團體其ノ者ノ存在ニ影響ナク單ニ其ノ區域ヲ變更セラルルニ止マル團體アリテ其ノ間區別ヲ要ス。區域變更ニ止マル團體ノ、從來ノ團體機關等ニ對スル關係ハ、境界變更ノ場合ト異ナルコトナキコト勿論ナレトモ、廢止セラレタル團體ノ從來ノ關係ハ、團體ノ廢止ト共ニ消滅スヘク、又新設セラレタル團體ハ、從來ノ市町村ト別個ノ團體タルヲ以テ、團體機關ヲ始メ一モ舊市町村ノ關係ヲ繼承スルコトナシ。唯廢置分合及境界變更ノ總テニ通シテ、財產上ノ權利義務及住民資格ノ要件ニ關シ、相互ノ聯絡ヲ認ムル主義ハ之レカ爲ニ何等變更ヲ受クルコトナシ。

（市制第三條第二項第四條第二項町村制第三條第二項市制第九條第四項町村制第七條第四項參照）之レ法ノ規定ニ依ル例外タルナリ。

府縣制郡制ニ關スル反對論

府縣制又ハ郡制第三條ノ規定ト、市制町村制本條ノ規定トノ關係ニ付、郡制等ニ所謂市町村境界ノ變更ハ、本條ニ所謂境界變更ト同一意義ニ在ラス、郡等ノ境界ニ涉リテ市町村ノ廢置分合アリタル場

所屬未定地ノ編入ハ境界變更ニ在ラス

合モ之レヲ包含ス。畢竟郡制第三條第一項ニ於テ、郡ノ境界變更ハ法律ヲ要スト爲シタルモノハ、郡其ノ者ノ必要ヨリ出テ郡ノ境界ヲ變更スル場合ニ法律ヲ要スト云ノニ過キス、從ツテ其ノ第二項ハ、郡界ノ變更カ郡自身ノ必要ニ基カス、市町村ノ必要ヨリ出ツル境土ノ變更カ自然的結果ヲ郡ニ及ホスヘキ場合ノ規定タラサルヘカラサルヲ以テ、同法ニ所謂市町村境界ノ變更トハ、市制町村制ニ所謂境界變更ニ止マラス、郡界ニ渉リテ行ハルル市町村ノ廢置分合モ之レヲ包含スト、主張スル者ナキニ在ラス。之レ立法論トシテハ或ハ一顧ノ價値ナキニ非サルヘシト雖、成文ノ解釋トシテハ主肯スヘキ所ニ非サルナリ。何トナレハ廢置分合ト境界變更トヲ全ク別種ノモノトシテ、處置スル市制町村制ノ存スル時ニ當リ立法セラレタル郡制等カ、其ノ一ヲ掲ケテ兩者ヲ包含セシムト云フ。既ニ不當タルノミナラス、若シ論者ノ主旨ノ如クナランニハ、單ニ『郡ノ境界ニ渉リテ市町村ノ廢置分合若ハ境界變更アリタルトキハ』ト規定セハ以テ足ルヘク、町村ヲ變シテ市ト爲シ、若ハ市ヲ變シテ町村ト爲スト云フカ如キ、迂曲ノ規定ヲ必要トセサルニ見ルモ明ナリトス。

所屬未定地ノ生スル場合

所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入スルコトハ、之レヲ事實ノ觀察トシテハ境界變更ノ一場合ニ過キサルナリ。然トモ已ニ述ヘタル如ク、市制町村制ノ用語トシテ、境界變更ハ事實的境界變更ノ一切ノ場合ヲ包含セス、二以上ノ市町村間ニ於テ區域ノ變改ヲ爲ス場合ニ限ラレタルヲ以テ、一方ニ其ノ區域ヲ增加スル市町村アルモ、他方ニ爲ニ減少ヲ受クル市町村ナキ場合ヲ包容スルコト能ハス。之レ特

寄州ハ所屬未定地ニ在ラス

ニ所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入スルニ關シ、境界變更ノ例ニ依ルヘキ旨ノ規定ヲ必要トセル所以ナリ。所屬未定地ノ生シ得ヘキ場合ハ、陸地ニ附着シテ生スルニ非ラスシテ、地先海面ニ寄洲的ニ若ハ噴出的ニ、陸地ノ生スル場合、海面埋立ノ場合又ハ山間未測ノ地ニ於テ、甲乙何レノ町村ニモ屬セサル地域ヲ發見スル場合等ノ如シ。陸地ニ連續シテ生スル所謂寄洲ハ所屬未定地ニ非ラス、編入ノ手續ヲ待タスシテ當然其ノ地先市町村ノ區域ノ一部ヲ構成ス。之レ畢竟市町村ノ從來ノ區域ト稱スルモノハ、人爲若ハ天然ノ特殊ノ作用ニ依ラスシテ自然的ニ增減スルモノハ、當然之レヲ認容スルモノト解スヘキコト、猶普通一日本人ト稱セラルルモノカ、自然的生死ノ增減ヲ認容スルト同一理ナレハナリ。

廢置分合ノ手續

市ノ廢置分合ハ、關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ行ヒ、町村ノ廢置分合ハ、關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之レヲ行フ。關係アル市町村會トハ、其ノ廢置分合ニ依リ影響ヲ受クヘキ市町村ノ市會及町村會ヲ云フ。意見ヲ徵スト云フハ、處分ヲ爲スノ參考ニ供スル爲、團體ノ意見ノ存スル所ヲ知ルニ過キサルヲ以テ、其ノ意見ヲ採用スルト否トハ處分ヲ爲ス者ノ自由タリ、何等拘束セラルル所ナシ。唯然レトモ之レヲ徵スルノ手續ハ法律上ノ要件ナルヲ以テ省略シ能ハサル

意見ヲ徵スルト議決ヲ經ルトノ差異

ナリ。故ニ市ノ廢置分合ハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見タニ徵スルニ於テハ其ノ意見ノ贊否如何ニ關セス、內務大臣ニ於テ之ヲ專決シ得ヘシ、町村ノ廢置分合ニ對スル府縣知事ノ立場ハ少シク之レト異ナレリ、府縣知事ノ町村ヲ廢置分合セシムトスルヤ、市町村會ノ意見ハ之ヲ徵スルニ止マルヲ以テ之レニ左右セラレサルコト、猶內務大臣ノ市ニ於ケル場合ト異ナルコトナシ。然レトモ府縣參事會ニ付テハ其ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス、議決ヲ經ルトハ府縣參事會ニ於テ可決セラルルコトヲ要スルノ義ナリ。故ニ府知縣事ハ參事會ノ同意ヲ得サル限リ、內務大臣ノ許可ヲ申請スルコト能ハス。從フテ町村廢合ノ意思ヲ貫徹シ得ヘカラサルナリ。唯此ノ場合ニ處スル方法トシテハ、府縣制第八十二條第三項ノ規定ヲ引用シ、府縣參事會ノ議決公益ニ害アリトシテ、內務大臣ノ指揮ヲ請ヒ、原案執行ノ途アルノミトス、之レ意見ヲ徵スルモノト議決ヲ經ルモノトノ區別ノ存スル所タリ

境界變更及所屬未定地編入ノ手續

市町村ノ境界變更ハ、關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之レヲ行フ。所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ。市ト町村トノ間ニ於テ手續ニ相違ナシ。市町村ノ廢置分合ハ、府縣制郡制ノ關係上、町村ヲ變シテ市ト爲シ又ハ市ヲ變シテ町村ト爲ス場合ノ外、行政處分ヲ以テシテハ、二府縣又ハ二郡ニ跨カリテ爲スコト能ハス。而シテ其ノ爲シ得ル場合ハ、市ノ廢置分合トシテ常ニ內務大臣ノ權限ニ屬スルヲ以テ、問題ナケレトモ、市町村ノ境界變更ハ、府縣郡ノ境界ニ涉リ、常ニ行政處分ヲ以テ爲シ得ヘキニ依リ、其ノ處分ニ關係

二府縣以上ニ涉ル境界變更

スヘキ府縣知事及府縣參事會カ二以上タルコト存シ得ヘシ。此ノ場合ニ、其ノ事件ヲ議決スヘキ府縣參事會又ハ處理スヘキ府縣知事カ各一個タラスムハ、事件ノ進行ヲ害スルニ至ルヘシ、從ツテ市制第百七十二條町村第百五十三條ノ規定ニ依リ內務大臣之レヲ指定スヘキモノトス。地先海面ニ生シタル島地ヲ、市町村ニ編入スル場合ニ付テモ亦同シ。編入セムトスル市町村會ハ勿論、編入セラレサル市町村ト雖、其ノ地先ニ當ルモノハ亦關係アル市町村會トシテ、其ノ意見ヲ徵セラレサルヘカラス、從ツテ二府縣以上ニ涉ル事件トシテ、內務大臣ニ於テ、專屬ノ府縣知事府縣參事會ヲ指定スル必要アル場合多シトス。又境界變更ハ、苟クモ二以上ノ市町村間ニ區域ヲ變更スルモノニシテ、團體ノ存廢ニ關係セサルモノハ、總テ之ヲ包含スルヲ以テ、耕地整理等ノ如ク、法規ニ基ツキ行フ地形變更ト雖、其ノ市町村境界ヲ變更スヘキ場合ニ於テハ、常ニ本條ノ規定ニ依ラサルヘカラサルコト勿論トス。

耕地整理ニ依ル境界變更モ本條ニ屬ス

市町村ノ廢置分合ハ、村ヲ變シテ町ト爲スカ如ク、單ニ名稱ノ變更ニ止マルモノヲ含マサルコトハ勿論ナレトモ、其ノ他苟モ存廢ニ關スルモノハ總テ之ヲ包含ス。故ニ一町村ヲ變シテ市ト爲スハ勿論、二以上ノ町村ヲ併合シテ一市ヲ新設スルカ如キモ亦爲シ得ヘキ所ナリ。舊市制ニ於テハ市ノ廢置ニ關スル規定ナク、唯其ノ第百二十六條ニ於テ『此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス』ト規定セラレタルヲ以テ、其ノ當否ハ之レヲ別トシ、二町村以上ニ市制ヲ施行セムトスルトキハ、先ツ之レヲ合併シテ一個ノ町村ト爲シ、其ノ

二以上ノ町村ヲ以テ一市ト爲ス場合

後ニ於テ更ニ市制ヲ施行スヘキモノナリト解セラレタリ。然トモ改正法ニ於テハ、市制ノ施行ニ非スシテ、市其ノ者ノ存廢ヲ直接ニ規定シタルヲ以テ、斯ノ如キ迂曲ノ處置ハ其ノ必要ナキニ至レルナリ。而シテ町村ヲ廢シ若ハ分割合併シテ市ヲ置キ、又ハ市ヲ廢シ若ハ分割シテ町村ト爲ス場合ハ、之レヲ町村ヨリ見ルトキハ町村ノ廢置分合ニ過キサレトモ、一面市ノ廢置分合ヲ伴フヲ以テ、其ノ關係上市ノ廢置分合ニ關スル規定ニ依リ處理セラレサルヘカラス、之レ町村制第三條第三項ノ規定アル所以ナリ。

知事ハ必ス財産處分ヲ爲スコトヲ要ス

財產ノ意義

市町村ハ、人格者トシテ財產權ノ主體タリ。特ニ其本財產造成ノ方法ニ依リ、市町村ノ經費ハ財產ヨリ生スル收入ヲ以テ先ツ之レニ充テシム（市制第百十六條第二項參照、町村制第九十六條第二項參照）故ニ市町村アレハ、必ス其ノ所有財產アルコトヲ普通トス。而シテ市町村ノ廢置分合境界變更ハ、其ノ財產ニ關シ、共同ノ利害關係ヲ有スル住民ノ所屬變更ナルヲ以テ、勢財產ニ關スル問題ヲ生セサル能ハス。之レ本條ニ財產處分ニ關スル規定アル所以ナリ。之レヲ以テ苟モ財產ニシテ存スルトキハ、府縣知事ハ必ス之レカ處分ヲ爲ササルヘカラス。府縣參事會ハ亦必ス之レニ關スル議決ヲ爲ササルヘカラス、若シ議決セサルカ又ハ議決スルモ當ヲ得タルモノニアラサルトキハ、府縣制第八十五條又ハ第八十二條ノ適用ヲ見ルニ至ルナリ、市町村會ノ意見提出ニ關スル關係亦同シ。

財產ハ、收益ヲ目的トスルモノト、公用又ハ公共ノ利益ニ供スルヲ目的トスルモノトヲ、區別スルコトナキハ勿論、負債モ亦之レヲ包含ス、所謂權利義務一切ノ義タリ。而シテ其ノ處分トハ、甲乙ノ間ニ如何ニ分配スヘキカヲ定ムルハ勿論何等變更ヲ加ヘスシテ、其ノ儘從來ノ町村ニ存置スヘキモノトヲ定ムルモ亦處分タリ。故ニ此ノ場合ニ於テモ、府縣知事ハ其ノ從來ノ儘ニ存置セラルヘキ旨ノ處分ヲ爲ササルヘカラス、又町村ノ全部ヲ擧ケテ他ノ市町村ニ合併シ、其ノ所有ノ財產ハ町村ト共ニ、全部合併市町村ニ移リ行ク場合ニ於テモ、府縣知事ハ仍成規ノ手續ニ依リ、關係市町村會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經テ、其ノ移轉スヘキ旨ノ處分ヲ爲スニ非サレハ法律上有效タル能ハサルナリ。之レヲ從來ノ實例ニ徵スルトキハ、財產ノ處分トハ、財產直接ノ所屬ヲ定ムルノ行爲ニ之レヲ限局シ、不可分的ノ財產ニ關シ、其ノ全部ヲ甲ニ歸屬セシメ、其ノ代償トシテ甲ヨリ乙ニ反對給付ヲ爲サシムルカ如キハ、之レヲ含マサルモノト解セラル。畢竟團體ノ意思ニ拘ラス、府縣知事ニ於テ強制處分スルノ規定ナル以テ、處分ノ結果新ナル義務負擔ヲ命スルカ如キハ爲シ得ヘカラスト云フニ存スルモノナルヘシト雖、爲ニ事實ノ問題トシテ、甲乙間ニ反對給付ノ合意成立シ、且ツ之レヲ實行セシムルコト甚タ利益アル場合ト雖、之レニ基ツキ處分スルコト能ハス、却ツテ實際ニ伴ハサル寄附其ノ他ノ名義ヲ借ルノ已ムナキニ至ラシムルカ如キハ、亦本條ノ精神ニ非サルナリ、此ノ如キ場合ノ存スルカ故ニ所謂關係市町村會ノ意見ヲ徵スルノ制度モ存スルナリ、故ニ關係市町村會ニ於テ合意成立シ、府縣參事會之レヲ可決シ、府縣知事之ヲ相當ト認メ而テ內務大臣ニ於テ敢テ故障アリトセラレサル限リ、反對給付ノ處分ヲ爲スモ決シテ本條規定ノ範圍外ニ逸出シタルモノトナスヘカラサルナリ。

財產處分ハ反對給付ヲ含マサルカ

處分ノ主體

市ノ廢置分合ヲ爲ス者ハ內務大臣ニシテ町村ノ境界變更、所屬未定地編入及財產處分ヲ爲ス者ハ府縣知事タリ。此ノ以外ニ何人モ法律上有效ニ之レカ發意ヲ爲スコト能ハス。事實ノ問題トシテハ、市町村會又ハ府縣參事會ヨリ其ノ希望ヲ請願シ、若ハ建議スルコトモアルヘク、又市ノ廢置分合ハ、主トシテ府縣知事ノ上申ニ基ツクヘシト雖此等ハ皆本條ニ所謂爲サムトスルモノニ非サルナリ。從ツテ關係市町村會又ハ府縣參事會カ、其ノ廢置分合、境界變更又ハ財產處分ニ付協議濟又ハ同意ノ書類ヲ添付シテ、請願又ハ建議シ、內務大臣又ハ府縣知事ニ於テ、之レヲ相當ナリト認ムル場合ニ於テモ、其ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ、更メテ市町村會府縣參事會ノ意見ヲ徵シ又ハ其議決ヲ經ルコトヲ要スルナリ。

市町村ノ名稱變更ニ付テハ市制第七條町村制第五條ニ其ノ規定アレトモ新ニ設置セラルヘキ市町村ノ名稱ニ關シテハ別ニ規定ナシ之レ市町村ノ設置其ノ事カ當然ニ其ノ名稱ヲ定ムル事ヲ包含スルヲ以テ設置ノ權限アルモノニ於テ名稱ノ決定ヲ爲スヘシトノ主旨ニ外ナラサルナリ。

市制第五條　町村制第四條　市町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市町村ノ境界爭論ハ市制ニ依ラシム

裁定ハ府縣參事會ノ權限ナリ

市町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ハ市町村ノ境界ニ付、判明ヲ缺クモノアル場合ニ關スル處理ノ規定タリ。市ト町村トニ依リ手續ニ差別ナシ。而シテ町村制ニ於テハ、單ニ町村ニ關スル規定ニ止マルニ拘ラス、市制ニ於テハ、市ト町村トニ涉リテ規定シタル所以ノモノハ、境界ノ爭論カ市ト町村トノ間ニ生シタル場合ハ、之ヲ市ノ境界爭論トシテ市制ヲ適用スヘキヤ、町村ノ境界爭論トシテ町村制ヲ適用スヘキヤ、其ノ適從スル所ニ苦シマスンハアラス、故ニ法ハ此ノ如キ場合ハ市ノ境界爭論ト看做シ、町村ヲ市ニ附隨セシメ處理スヘキモノト爲シタル結果ニ外ナラサルナリ。

市町村ノ境界ハ團體自治權ノ行ハルヘキ地域ノ限界ナリ其ノ伸縮ハ直ニ自治權ノ廣狹ニ影響ス。最ヲ以テ團體相互ニ其ノ區域ヲ尊重スルノ結果、時ニ其ノ境界ニ關スル爭論アルコトヲ免カレス。而シテ市町村ノ其ノ區域ニ對スル關係ハ吾人カ其ノ所有地ニ對スル如ク財產ト云フ觀念ニ於テ之ヲ有スルモノニアラス、其ノ權力ヲ絕對ニ行使シ、行政ノ實ヲ擧ケント欲スル、所謂公法的ノ意義ニ於テ有スルモノタリ、從テ其ノ境界ニ關スル爭ハ、司法裁判所ニ依リ裁判セシムヘキ性質ノモノニ在ラス、行政上ノ解決ニ依リ處理セラルヘキモノタリ。而シテ其ノ實質カ行政便宜ノ裁量ヲ爲スヘキモノニ在ラ

ス、既存ノ事實ノ確認ニ屬ス、之レ等シク市町村ノ區域ニ關スト雖、前條ノ廢置分合、境界變更ト大ニ其ノ性質ヲ異ニスル所タリ、從ツテ之カ確認ノ事ニ當ルヘキモノハ、單獨制ノ府縣知事ヨリモ、合議制ノ府縣參事會ヲ以テ適任ナリト爲ササルヘカラス。之レ境界ニ關スル爭論ハ、府縣參事會ニ於テ之ヲ裁定スヘキモノト爲シタル所以ナリ。而シテ元、既定單實ノ確認ニ關スル事柄ナルヲ以テ、府縣參事會ノ裁定ニ對シ不服アル場合ニ於テハ、更ニ裁判的形式ニ於テ、行政上ノ救濟ヲ求メ得セシムルコト妥當ナリトス。之レ不服アル市町村ヲシテ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシメタル所以ナリ。

行政裁判所ヘ出訴セシム

境界不明ノ場合ハ知事ニ發案ノ義務アリ

市町村ノ境界ニ關シ爭論アル場合ハ、事實境界カ不明ノモノタルト、明亮疑慮ノ餘地ナキモノトヲ問ハス、府縣參事會ハ之レカ裁定ヲ爲ササルヘカラス、關係市町村ハ恬トシテ之ヲ顧ミサル場合ナキニ在ラス、斯クノ如キハ行政上實際ノ不便ヲ感スルコト少カラス、是ヲ以テ此等ノ場合ニ於テハ、府縣知事ハ自カラ進ムテ之ヲ府縣參事會ノ議ニ付シ、決定處分ヲ爲サシムヘキモノト爲セリ、例ヘハ地先寄洲ノ甲乙何レノ町村ニ屬スヘキモノカ、又ハ如何ニ分屬シタルモノト看做スヘキモノカノ如キハ、多ク本項ノ適用ヲ受クヘキモノトス、其ノ決定ニ不服アル市町村ヲシテ、行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシメタル理由ニ至リテハ前項ト異ナル所ナシ。

前條ト異ナリ、本條ニ於テハ市町村カ意思發動ノ主體タリ、市町村ノ申請ヲ待ツテ始メテ府縣參事會ハ之レヲ裁定シ、其ノ出訴ヲ待ツテ、行政裁判所ハ始メテ之ヲ審理裁判スルナリ。茲ニ市町村ト云フモノハ、市町村會ノ議決ヲ經テ市町村長カ之ヲ執行スルノ義ナリ。蓋シ市町村ノ活動ハ市町村會ヲ以テ意思機關トシ、市町村長ヲ以テ執行機關トシテ行ハル、故ニ市町村カ事ニ當ルヘキモノタルトキハ、常ニ市町村會ノ議決アルヲ必要トスルナリ。又均シク府縣參事會ノ爲ス處分ニシテ、第一項ニ於テハ之ヲ裁定ト云ヒ、第二項ニ於テハ之ヲ決定ト稱ス、別ニ異ナリタル意義アルニ在ラス、從ツテ其效力ニ關シテ差別アルコトナシ、唯第一項ノ場合ハ爭論アルモノニシテ、甲乙反對ノ主張ニ對シ、裁斷スルモノナルヲ以テ、裁定ト云フヲ適當ナリトシ、第二項ノ場合ハ單獨ナル知事ノ意見ニ付キ、當否ヲ決定スルモノナルヲ以テ、決定ト云フヲ適當ナリト爲シタルニ過キサルナリ。

市町村會ノ議決アルヲ要ス

裁定ト決定ノ區別

裁定及決定ハ口頭ニ依ラス文書ヲ用キテ之レヲ爲スヘシ、之レ行政處分ノ通則ナリ、事ノ間違ナキヲ期スルハ勿論、更ニ行政訴訟ヲ提起スル場合ニ於テ、期間ノ起算點ヲ明ナラシムル便アルカ爲ナリ。其理由ヲ附スヘキモノト爲シタルハ、事件カ事實ノ有無ノ爭ニ係ルヲ以テ、其ノ認定ノ基ツク所ヲ明ニシ、關係者ヲシテ理否ノ判斷ヲ爲スノ便アラシムルモノタリ、裁判的行政處分ニ於テハ、正ニ存スヘキノ通則ナリ。裁決及決定ハ、關係市町村ニ裁決書又ハ決定書ヲ交付スルコトニ依リ完成ス、之レ亦行政處分ノ通則タリ、從テ其ノ確定期間ハ交付ノ時ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス。

裁決及決定ハ文書ノ交付ニ依リ完成ス

裁定及決定ハ、其ノ行ハレタルトキヨリ三十日以內ニ、行政訴訟ノ提起ナキトキハ、確定不動ノモノタルニ至ルヘシ（市制第百六十條第二項參照）。然レトモ府縣參事會ノ裁定又ハ決定スル所、常ニ必スシ

府縣知事ノ出訴權ハ一人ニ制限セラルルコトナシ

モ適當ノモノナリト云フヘカラス、而シテ仍市町村ニ於テ其ノ不當ノ儘ニ於テ確定ス、斯ノ如キハ行政ノ便益上忍フヘキ事柄ニ非サルナリ、是ヲ以テ裁定及決定ニ對シテハ、府縣知事ヨリモ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノト爲シ以テ匡正ノ途ヲ得セシメタルナリ。

本條ノ事件ニシテ、二府縣以上ニ渉ルトキハ、其ノ第一項第二項ニ所謂府縣參事會又ハ府縣知事ニ關シ、市制第百七十二條町村制第百五十三條ノ規定ノ適用アルヘキハ勿論ナリト雖、本條末項ニ所謂府縣知事ノ行政裁判所ニ出訴シ得ルノ權限ハ、爲ニ一府縣知事ニ制限セラルヘキモノニアラサルナリ

（判　例）

一　町村制第五條（舊法）中町村ノ境界ニ關スル爭論トハ町村互ニ境界ヲ爭フノ場合ヲ規定シタルモノニシテ監督官廳カ命シタル境界變更ノ處分ニ不服アルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニ在ラス（二七、一〇、一、行判）×（三三、六、四、行判）

二　一村ノ境界ト既ニ合併シテ一村トナリタル大字間ノ境界トハ自治體ノ區域ニ關スルト否ラサルトニ於テハ同視スヘカラサルモ大字ノ境界ノ如キハ等シク私權上爭訟ノ目的タラサルヲ以テ單ニ其ノ大字境界確定ヲ目的トスル爭訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス（二五、六、一七、民判）

市制第六條　勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

制限的地方團體ヲ認ムルノ必要

本條ハ特殊ノ事情ノ下ニ在ル市ニ關シ、特例ヲ設クルノ必要ヨリ勅令ヲ以テ之ヲ指定シ、其ノ中ニ更ニ下級ノ團體ヲ認メ、之レニ一定ノ自治行政ヲ行ハシムルト共ニ、國及他ノ自治團體ノ行政ヲ委任シテ行ハシメムトスル爲ノ規定タリ。蓋市町村ハ地方團體ノ單位ニシテ自治行政ノ基礎タリ、故ニ其ノ下ニ更ニ同種ノ地方團體ヲ設クルカ如キハ、市町村ノ彙固ナル發達ヲ期スル所以ニ非サルヲ以テ、爲スヘカラサルコトタル勿論ナリ。然レトモ、廣ク一般的ノ自治權ヲ認ムルニ在ラスシテ、特殊ノ事項ヲ處理セシムルカ爲ニ、制限的ノ自治權ヲ有スル團體ノ存在ヲ認ムルハ、規模廣大ナル都市ニ於テハ頗ル便宜ニシテ、却テ自治行政ノ發達ヲ助成スル所以タルコト、仍小町村間ニ在リテ、特殊ノ事件ヲ處理スルカ爲ニ町村組合ヲ設クルノ、其ノ團體行政發達ノ方法タルト相等シキモノアルノミナラス。之ヲ國家及他ノ地方團體ノ行政ノ便宜ヨリスルモ、大都市ニ關シテハ市ヲシテ直接其ノ委任事務ノ衝ニ當ラシムルヨリモ、地域ニ於テ狹小ナル區ヲシテ之レニ任セシムルコト、便宜ナル場合少シトセサルカ爲サス、之レ特ニ本條ノ規定ノ存スル所以ナリ。

本條ハ舊市制第三條第二項ニ相當スル規定タリ、舊法ニ於テハ、特ニ東京市、京都市、大阪市ノ三ヲ列記シ、此ノ三市ノ區ニ限リ、財産及營造物ニ關スル自治權ヲ行ハシメ、兼ネテ國及他ノ地方團體ノ委任事務ヲ處理スルモノト爲セリ。然レトモ、都市發達ノ狀況ハ、斯ノ如キ下級團體ノ認容ヲ、永ク三市ニ限局スルコト能ハサラシムルヲ以テ、改正法ニ於テハ、實際ノ必要ニ應シ、勅令ヲ以テ指定

舊市制ノ主義ヲ改ム

スヘキコトニ改メタルナリ。勿論斯ノ如キ特例ハ容易ニ之レヲ設クヘキニ非サルヲ以テ、明治四十四年勅令第二百三十九號ハ從來ノ如ク東京京都及大阪ノ三市ヲ指定セリト雖、主義ニ於テ一大變更アリタルコトハ特ニ注意ヲ要ス。

區ハ公法人ナリ

勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トスト云フモノハ、猶ホ市町村等ト均シク公法人トシテ地方團體タラシムルノ義ナリ、區カ公法人ナリヤ否ヤニ關シテハ、疑義ヲ挿ムモノナキニ非サレトモ、法人ノ成立スル目的カ、財産及營造物ニ關スル事務ヲ處理スルト共ニ、區トシテ委任事務ヲ處理スルニ存スル以上其ノ公法人タルコトハ疑ヲ容ルルノ餘地ヲ存セサルナリ。何トナレハ營造物ノ經營ハ公共團體タルノ要素ヲ爲ス領土ノ事ニ關シ、規定ヲ存スルニ拘ラス、區ニ關シ其ノ規定ヲ缺クモノハ、之レカ爲ニ地方團體ニアラスト爲スニアラス、元來區ニ關スル規定ハ、特ニ之ヲ簡略ニスルヲ旨トシタルヲ以テ、區ト云フコト其レ自身カ、地域ヲ要素トスルコトヲ示スヲ以テ、自明ノ事ニ屬スルモノトシテ特ニ揭ケサリシニ過キサルナリ。

公法人タル理由

區ハ其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス。財産及營造物ハ區ニ屬スルモノナルヲ以テ、之レニ關スル事務ハ區本來ノ事務タリ。即所謂區ノ固有事務タリ、而シテ同時ニ其ノ固有事務ノ全部タリ。之レ區カ均シク地方團體ト云フモ市町村ト甚シク趣ヲ異ニスルノ點タリ。市町村ハ廣ク治事務ナリ。之レ區カ均シク地方團體トシテ成立スルヲ必要ナリトセラレタル唯一ノ自其ノ公共事務ヲ處理スルヲ以テ目的トス。苟クモ其ノ公共事務タル以上其ノ權限ニ屬セサルモノナシ。區ハ之レニ反シ、其ノ團體ノ公共ノ利益トナルヘキ事務ハ、何タルヲ別タス爲シ得ルト云フニアラス、單ニ其ノ公共事務中、財産及營造物ニ關スルモノニ限リ之ヲ處理スルコトヲ得。列記的ナリ、制限的ナリ、從ツテ甚タ狹キ自治權ヲ有スル地方團體タルナリ。然レトモ其ノ財産及營造物ニ關スルモノナルトキハ、其ノ管理維持ハ勿論新ニ財産ヲ取得シ。若ハ基本財産ヲ造成シ又ハ營造物ヲ特ニ設クル等、一切ノ事ヲ爲シ得ヘシ。之レ等シク財産及營造物ノ爲ニ存スル公法人ニシテ、爾カモ市制第百四十四條町村制第百二十四條ニ依リ認メラルル、市町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノニ付、區トシテ之ニ法人格ヲ認ムルモノト同シカラサル點ナリ。此ノ場合ニ於ケル區カ公法人ナリヤ否ヤモ亦更ニ論議セラルル所タリ。特ニ此ノ區ニ關シテハ其ノ法人タルコトノ明示ノ規定モ

區ノ固有事務

市町村ト趣ヲ異ニス

市町村ノ一部カ法人タル場合ト異ナル

ナキヲ以テ、或ハ單ニ事務ノ一部ノ分割ニ過キスト爲ス者ナキニアラサルモ、市町村ノ一部カ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設クルト云フヲ以テ、一部カ法律上意思ノ主體タリ從ツテ其ノ法人タルコトハ疑フヘキニアラス。法ハ唯市町村ノ一部カ法人トシテ獨立スルコトヲ可成少カラシメムト欲スルカ故ニ特ニ法人ト明示セス、規定ノ實質ニ於テ之ヲ認ムルニ止メタルナリ。已ニ法人タリ、而シテ區ト云フ一定ノ地域ヲ基礎トスル法人ナリ。從ツテ其ノ地域ニ來ルモノハ、其ノ團體員ニ加入スルコトヲ强制セラレ、其ノ他財産及營造物ノ使用維持ニ付、本條ノ區ト同一ノ作用ヲ爲シ得ヘキヲ以テ、其ノ公法人ニシテ地方團體タルコト論ナキナリ。然レトモ、法律ニ依リ其ノ成立ヲ認容セラレタル理由ハ、從來已ニ一部落トシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルカ爲ニ、今俄カニ其ノ沿革ヲ破壞スルハ却テ市町村ノ圓滿ナル發達ヲ期スル所以ニ在ラストスルニ存スルヲ以テ、其ノ固有事務タル財産及營造物ニ關スル能力範圍モ、本條ノ區ニ比シ更ニ制限的ナリ、即從來ノ財産及營造物ヲ維持管理スルノ行爲ハ之ヲ爲シ得レトモ、更ニ別種ノ財産ヲ取得シ若ハ基本財産ヲ造成シ、營造物ヲ新設スルカ如キコトハ爲シ得ヘカラサルナリ。

市制町村制ニ於テ區トシテ規定セラレタルモノハ、前二者ノ外、別ニ市制第八十二條、町村制第六十八條ノ規定ニ基ツキ、市町村ノ處務便宜ノ爲ニ區ヲ劃スル場合之レナリ。此ノ場合ニ於ケル區ハ、全ク一ノ行政區劃ニ過キス。人格ヲ有セス、從ツテ自己固有ノ事務ナルモノヲ有スルコトモアリ得ヘカラサルナリ。然トモ此ノ行政區劃タル區ハ、偶〻財産營造物ヲ有スルカ爲メニ認メラレタル區ト、其ノ區域ヲ一ニスル場合多キヲ以テ、行政區カ財産營造物ヲ有シ得ルカ如ク誤解セラルルコトナキヲ保セス、注意シテ區別スルコトヲ要ス。明治三十三年勅令第九十八號人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル制ハ、此ノ行政區ニ關スル規定ナリ。然トモ其ノ區域カ同時ニ財産營造物ノ主體タル區ト合一スル場合多キヲ以テ自治區タル區ニ關スル事項モ、亦併セ規定セラレタルナリ。

區ハ其ノ財産及營造物ニ關スル事務ヲ處理スルコト本條ノ規定ナレトモ、如何ナル方法ニ依リ處理スヘキヤ、一モ規定スル所ナシ。第百四十四條ノ區ニ關シテハ市ノ財産又ハ營造物ノ管理ニ關スル規定ニ依リ、其ノ財産營造物ヲ管理スヘキコトヲ定ムレトモ、此ノ規定ハ之ヲ本條ノ區ニ適用シ得ヘカラサルヲ以テ、其ノ管理方法等ハ一ニ第百七十三條ノ規定ニ依リ、勅令ノ規定ニ俟タサルヘカラサルモノトス。明治四十四年勅令第二百四十四號第十三條ハ區カ其ノ財産及營造物ニ關シ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フコトヲ明ニシ、其ノ支出ハ區ノ財産ヨリ生スル收入營造物ノ使用料其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキハ市カ其ノ區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツヘキモノト爲セリ。此ノ勅令ハ區ヲ以テ前提ト爲シ立法シタルモノナルヘシト雖、此ノ如キハ區本來ノ性質ヨリ當然生スヘキ結論ニ非サルコト注意ヲ要ス。

區ハ法令ニ依リ區ニ屬セシメラレタル國及他ノ地方團體ノ事務ヲ處理ス、之レ亦本條ノ區カ第百四

市町村一部ノ法人ハ更ニ制限的ナリ

行政區

事務處理ノ方法如何

區稅及營造物使用料

十四條ノ區ト異ナル點ノ一タリ、區ニ屬スル事務トハ區カ責任主體タル事務ノ義ニシテ區長ニ委任セラレタル事務ト同シカラス。從テ前者ノ事務ノ費用ハ市制第九十八條第四項ニ依リ法令ニ別段ノ規定アルモノノ外ハ市ノ負擔トシ其ノ支辨ハ區ノ收入及市ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス。（明治四十四年勅令第二百四十四號第十三條）

區ニ屬スル事務ト區長ニ屬スル事務トノ別

區ノ廢置分合等

區ハ其ノ固有事務トシテ、財產及營造物ニ關スル事務ヲ有スルニ止マルト雖、本條ノ規定ニ依リ指定セラルル如キ市ハ、其ノ規模廣大ナルモノニ屬スルヲ以テ、區モ亦從ツテ重要ノ地位ヲ有スルハ勿論、一面委任事務ヲ行使セシムルモノニ付、區ノ廢置分合境界變更等ハ重大事タラスンハアラス。是ヲ以テ本條第二項ニ於テ、前二條ノ規定ヲ準用シタルナリ。準用トハ前二條ニ於テ、市又ハ市町村トアルハ之ヲ區、市町村會トアルハ區會ト看做シ、規定ヲ相當ニ適用スルノ義タリ。故ニ廢置分合ト境界變更ニ關スル事項ハ第四條ニ依リ、境界ニ關シ爭論アル場合及判明セサルモノアル場合ニ第五條ニ依ルヘキモノニシテ、其ノ第四條準用ノ場合ニ於テ、關係アル市會ノ意見ヲ徵スルニ拘ラス、第五條準用ノ場合ニ之レナキ所以ハ、前者ハ行政上ノ便宜ノ處分ヲ爲スヘキ場合ナルヲ以テ、利害關係ヲ有スル市會ノ意見ヲ聞クヲ相當トスルモ、後者ハ既定ノ事實ノ確認ニ過キサルヲ以テ、其ノ要ナシトシタルニ過キサルナリ。

市町村ノ廢置分合境界變更ハ、府縣郡ノ境界ニ涉リ若ハ二府縣郡以上ニ跨ルコトアリト雖、區ノ廢置分合境界變更ハ、一市内ニ限ラレタル事項ナルヲ以テ、所謂專ラ事件ヲ管理スヘキ府縣知事參事會等指定ノコトハ起リ得ヘカラサルナリ。

市制　第七條　市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條ノ市カ其ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ前項ノ例ニ依ル

町村制　第五條　町村ノ名稱ヲ變更シ又ハ村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲サムトスルトキハ町村ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

町村役場ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

本條ハ市町村ノ名稱變更及其ノ事務所ノ位置ノ設定變更ノ手續ニ關スル規定タリ。蓋シ市町村ノ名稱ハ各其ノ歷史的沿革ヲ有スルヲ以テ、容易ニ之ヲ變改スヘキニ非サレトモ、他ノ市町村ヲ併合シタル結果等ニ依リ、時ニ之ヲ變改スルヲ相當トスル場合ナキニ在ラス、故ニ絕對ニ之ヲ否認スヘキニ非サレトモ、頗フル重要ノ事項ニ屬スルヲ以テ、内務大臣ノ許可ヲ得テ始メテ爲シ得ルコトトナセルナリ。

町ト村トハ名稱ノ別ナリ

町ト村トハ法律上何等其ノ取扱ヲ異ニスル所ナク、單ナル稱呼ノ相違ニ過キス、故ニ町ヲ村ト爲シ、

村ヲ町ト爲スモ、畢竟町村名ノ變更ニ外ナラサルナリ。唯從來ノ慣行ニ於テ、町ト云ヒ村ト云フハ單ナル名稱ノ差ニ止ラサル如ク觀念セラルルヲ以テ、特ニ之ヲ名稱ノ變更ト併記シタルニ過キサルナリ。

名稱ノ變更

名稱ノ變更トハ、其ノ稱呼ノ變更ト共ニ之レカ表示ノ手段タル文字ヲ改ムル場合ハ勿論、同一文字ヲ以テ其ノ稱呼ヲ異ニスルカ如キ場合、若ハ稱呼ヲ同一ニシテ文字ヲ異ニスヘキ場合等總テ之ヲ包含ス。

名稱ノ變更ト市町村ノ合併トハ自カラ異ナルヲ以テ、甲村カ乙村ヲ併合スルト共ニ、從來ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ、其ノ名稱變更ニ付テハ、別ニ本條ノ手續ヲ爲スヲ要スルモノトス。

役所役場ノ位置

市役所及町村役場ノ位置ハ、其ノ住民ノ便否ト直接利害ノ關係ヲ有スルコト多キヲ以テ、之ヲ市町村ノ自由意思ニ一任スルトキハ、各部互ニ爭奪ヲ圖リ、延テ市町村自治ノ上ニ影響ヲ及ホスコト少カラス、之レ特ニ其ノ位置ノ設定及變更ニ付、府縣知事ノ許可ヲ受ケシムルコトト爲セル所以ナリ。

位置ト地番ハ別個ノ觀念タリ

位置ハ地番ヲ以テ表示セラルルニ付、苟モ地番ヲ變更スルトキハ、此等ノ市内ノ區ハ恰カモ郡内ノ町村ト同一ノ地位ニ立ツヲ以テナリ。而シテ此ノ場合ニ注意スヘキハ、變更ヲ爲スノ主體ハ區ニ非スシテ市タルコト之レナリ、區ハ唯市ノ爲ス所ニ從フヘキモノトス。

區ノ名稱變更等

勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ノ名稱ノ變更、又ハ其ノ區役所ノ位置ノ設定及變更ニ付、市役所ノ場合ニ準シ、府縣知事ノ許可ヲ受ケシメタルモノハ、此等ノ市内ノ區ハ恰カモ郡内ノ町村ト同一ノ地位ニ立ツヲ以テナリ。而シテ此ノ場合ニ注意スヘキハ、變更ヲ爲スノ主體ハ區ニ非スシテ市タルコト之レナリ、區ハ唯市ノ爲ス所ニ從フヘキモノトス。

第二款　市町村住民及其ノ權利義務

住民及其ノ權利義務

住民

住民ハ土地ト相對シテ市町村ヲ構成スル他ノ重要ナル要素タリ。土地ハ市町村カ其ノ權力ヲ絶對ニ行使シ得ヘキ舞臺トシテ、缺クヘカラサル構成分子ヲ爲スカ如ク、住民ハ市町村カ團體的活動ヲ爲スノ基本要素トシテ、缺クヘカラサル構成分子タリ。住民ナケレハ即市町村ナシ。市町村ノ意思活動ト云フモ畢竟住民ノ意思活動ノ結晶ニ外ナラサルナリ。其ノ綜合ニ非サルコト勿論ナレトモ、之レヲ離レテ成立シ得ヘカラサルコト、氷ノ水ニ於ケルカ如シ。從ツテ住民カ其ノ市町村維持ノ費用ノ負擔者タリ、其ノ施設利用ノ權利者タルハ當然ノ事理トス。本款ハ此ノ市町村住民ノ資質及其ノ權利義務ニ關スル大綱ヲ規定ス。

市制第八條　市町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市町村住民トス
市制第六條　市町村住民ハ本法ニ從ヒ市町村ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市町村ノ負擔ヲ分任スル
郡二編　第一章　第二款　市制　第八條　町村制　第六條

義務ヲ負フ

本條ハ市町村ノ構成要素ノ一タル住民ノ範圍及其ノ權利義務ニ關スル規定タリ。

市町村内ニ住所ヲ有スル者ハ市町村住民タリ。本人ノ意思如何ニ拘ラス、其ノ住所ヲ有スルノ事實ニ依リ、當然ニ其ノ市町村住民トシテ、法カ住民ノ任務ト定メタルモノヲ負擔スルノ義務ヲ負フ。之レ市町村ノ公法人タル特質ヲ發揮シタルモノニシテ、所謂強制加入ノ規定タリ。住所トハ民法ニ所謂

住所

各人ノ生活ノ本據ノ義タリ。即吾人カ社會ノ一員トシテ活動スルニ當リ、其ノ活動ノ中心點タルヘキ場所ノ謂ナリ。而シテ人ノ活動ノ中心點ハ一時ニ一個所以上存シ得ヘカラサルヲ以テ、住所ハ一アリテ二ナシ。從ツテ特定人ノ住所ハ、全國市町村中唯一市町村ニ存シテ二以上ノ市町村ニ併存スルコトナク、吾人ハ全國市町村中ノ唯一市町村ノ住民タルヲ得ヘシト雖トモ、同時ニ二市町村以上ノ住民タルコト能ハサルナリ。然ラハ二市町村ノ境界ニ亘リテ住所ヲ有スルモノハ、何レノ市町村住民タルヘキカ、此ノ問題ヲ解決スルカ爲ニハ、先ツ住所ト住宅トヲ區別スルコトヲ要ス。住所トハ生活ノ本據タル地點ノ意義ニシテ、廣サヲ有スル觀念ニ在ラス、是ヲ以テ住宅ハ二市町村ニ跨ルコトアルヘシト雖、住所ハ二市町村ニ跨ルコトアリ得ヘカラサルナリ。住所ノ外形的表示物體タル住宅カ、二市町村ニ跨ル場合ニ於テ、其ノ住所タル地點カ、甲乙何レノ町村ニ屬スヘキヤハ、全ク其ノ個人ノ意思如何ニ依ツテ決ス。若シ甲ヲ以テ其ノ住所地ト爲スノ意思ヲ以テ活動セハ甲ノ住民タリ、乙ニ屬スル意思

住所ハ地點ナリ

關係ニ於ケル住所

本籍主義

居住主義

ヲ以テ活動セハ乙ノ住民タリ、全ク實際ノ事實ニ依ル。而シテ實際ノ事實ハ同時ニ二以上アリ得ヘカラス、從テ住所カ二市町村以上ニ存スルコトハ之レナカルヘキナリ。

住民ノ範圍ヲ定ムルニ、住所ニ依ルコトハ、必スシモ之レニ依ラスンハ市町村ノ組成分子タル團體員成立シ得ヘカラサル根本的理論ノ存スルカ爲ニハアラサルナリ。唯改正法ノ主義トシテ之レヲ採用シタリト云フニ過キサルナリ。之レヲ沿革上ノ事實トシテハ、昔日戸長制度ノ時代ニ於テハ、町村住民ハ、多ク本籍主義ニ依リ又舊法時代ニ於テハ、居住主義ニ依リタリ。改正法ハ此等ノ主義ヲ採用セサリシノミ。蓋シ本籍主義ハ古代町村カ未タ自治團體ヲ爲サス、隣保相輔ノ制ヲ行フ時代ニ於テハ、町村住民ヲ定ムル適當ノ標準ナリシナルヘシト雖、一旦自治制ヲ布キ、市町村ノ活動カ、一ニ其ノ住民ニ依リ行ハレ、其ノ維持ノ負擔モ亦住民主トシテ之レニ任スル時ニ當リ若シ本籍主義ニ依ルトセンカ人民移動ノ盛ナル今日ニ於テハ市町村ノ住民ノ多クハ、其ノ市町村ニ居住セス、之レト直接利害ヲ有スルコトナキ者ヲ以テ組織セラルルニ至ルヘク、市町村自治ノ精神ト背反スルコト勿論ナリ。又居住主義ニ依ルトキハ、生活ノ本據ト爲スノ事實アルコトヲ要セス。單ニ居住ノ場所ト爲スヤ否ヤニ依リ定マルヲ以テ、一人ニシテ數個ノ居住地ヲ有スルコトヲ得ルト共ニ、數市町村ノ住民タルコトヲ得ヘシ。斯ノ如キハ絕對ニ之レヲ不可ナリト云フニ非サレトモ、吾人カ市町村住民トシテ、其ノ市町村發達ノ責ニ任スヘキコト、猶ホ一家一族ノ繁榮ヲ期スルト同一精神ニ於テスルコトヲ要スル自治行政ノ主旨

住所主義

ニ照シ、嫌焉タル所ナクンハアラス。是ヲ以テ改正法ハ、舊法ノ主義ヲ改メ、唯一無二ノ住所主義ヲ採用シ、兼テ府縣制等上級地方團體ノ制度トノ間ニ統一ヲ得セシメタルナリ。

市町村内ニ住所ヲ有スル者トハ、自然人ハ勿論、法人モ之ヲ包含ス。又日本人ニ限ラス外國人モ之ヲ包含ス。苟モ人格者ニシテ、其ノ住所ヲ市町村内ニ有スル事實アルモノハ總テ其ノ市町村住民タルナリ。舊法ニ於テハ市町村制各其ノ第九十三條ニ於テ、租稅負擔ノ事ヲ規定スルニ當リ、法人ヲ區別シテ規定シタル結果ハ市町村住民中ニ法人ヲ含マサルモノト解セラレタリ。然トモ斯ノ如キハ全ク無意義ノコトタルヲ以テ改正法ニ於テハ住民中ニ當然法人ヲ含ムヘキモノトシ、舊法第九十三條ニ相當スル市制第百十九條町村制第九十九條ニ於テ法人ニ關スル規定ヲ省略シタリ。

財產營造物ノ共同權及收分擔ノ義務

市町村住民ハ、其ノ住民タル資格ニ於テ、當然其ノ市町村ニ屬スル財產及營造物ヲ共同使用スルノ權利ヲ有シ、又其ノ出費ヲ分擔スヘキモノタリ。之レ殆ント言ヲ須ヒサルコトニ屬ス。本條第二項ハ此ノ當然ノ事柄ニ法律ノ效果ヲ附與シ、何人モ財產及營造物ノ共用ヲ法律上認メラレタル權利トシテ主張シ、又市町村ノ負擔分任ヲ法律上ノ義務トシテ強制サレ得セシムルカ爲ニ設ケラレタルナリ。

茲ニ本法ニ從ヒト云フハ、財產及營造物ヲ共用スル權利ノ分量、使用ノ方法又ハ市ノ負擔分任ノ程度及方法等カ、本法ノ規定ニ依ルヘキノ義タリ。而シテ本法ト云フモノハ勿論本法ノ規定ニ從ヒ發セラルル勅令以下ノ命令及市町村條例規則ヲ含ムモノト解セサルヘカラス、何トナレハ本法ニ從ヒ發セラルル此等ノ法規ハ、住民ノ之ヲ遵奉スヘキコト、本法ノ豫期スル所ナルヲ以テ、之ニ從ハサレハ即本法ニ從ハサルコトニ歸著スヘキヲ以テナリ。共用ストセサル範圍ニ於テ、使用スヘキモノタルコトヲ明ニシタルナリ。又市町村ノ負擔ト云フハ、市町村稅ハ勿論、夫役現品ノ賦課モ亦之ヲ包含ス、畢竟住民ハ市町村ニ對スル總括的權利義務者ノ地位ニ立ツモノタルコトヲ規定スルカ本項ノ主旨タルナリ。

共用ハ公法上ノ權利

財產ヲ共用スルノ權利ハ、公法上ノ權利ナルヲ以テ、其ノ使用ハ公法上ノ使用ヲ意味シ、普通ノ契約關係ニ於テ、民法上ノ權利トシテ使用スルカ如キハ、本法ノ關係スル所ニ在ラス。從ツテ廣ク財產ト云フト雖モ、市町村カ單ニ收益ヲ目的トシテ所有スル財產ハ、本項ノ規定ノ目的トスル所ニ在ラス、公共ノ使用ヲ許シタル財產ニ限リ其適用ヲ見ルナリ。已ニ公共ノ用ニ供セラレタル財產ナルニ於テハ營造物ト區別ナキヲ以テ、特ニ財產ヲ揭ケテ規定スル要ナキカ如シト雖モ、此ノ點ハ、後ニ財務ノ章ニ於テ之ヲ說明スルカ如ク、現今市町村ノ所有スル財產中ニハ、公共ノ用ニ供シ、偏カモ營造物トシテ取扱ハレサルモノ多ク存スルト、又今後基本財產造成ノ結果或ハ住民間ニ公法上ノ權利トシテ、收益分配ノ如キコトモ生セストモ限ラサルカ故ニ外ナラサルナリ。又住民ニ使用ノ權利アリト云フモ、必スシモ住民ニ非サレハ之ヲ使用シ能ハストニハアラス、權利トシテ其ノ使用ヲ主張シ得ル者ハ住民ニ限ラルルノ義ナリ。故ニ市町村ノ許可ニ依リ、住民以外ノ者ヲシテ使用セシムルハ決シテ妨ケサル

公共財產ニ限リ適用アリ

共用ハ公法上ノ權利ナリ

ナリ。負擔分任ノ義務ニ付テモ亦同シ、團體員タル當然ノ結果トシテ義務アルモノハ住民ニ限ルト雖、法令ノ規定ニ依リ住民以外ノ者ヲシテ負擔セシムルハ、各其ノ法令ノ結果ニシテ、敢テ不能ノ事ニハアラサルナリ。

（判　例）

一　住民ナルモノハ事實居住ノ有無ニ依リ定マルモノニシテ本籍若クハ寄留届ヲ以テ其ノ實格ヲ取得スル必要條件トスルモノニアラス（二九、五、一九、行判）

二　住民ナルモノハ事實上住居ノ有無ニ依リ定マルモノニシテ一人一個ニ限ルノ規定ナキヲ以テ實際一人ニシテ數箇ノ住居ヲ有スル場合ヲ生スルハ勿論トス（二九、五、一九、行判）

三　住民トハ其ノ町村ニ本籍ヲ存スルト否トニ拘ラス現ニ居住スル者ヲ云フ（三三、三、一二、行判）

以上ハ舊法時代ノ判例ニシテ改正法ハ主義ヲ變更シタルコトニ注意スヘシ

市制第九條　帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齢二十五年以上ノ男子二年以來市ノ住民トシテ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ且其ノ市内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

町村制第七條　帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齢二十五年以上ノ男子二年以來町村ノ住民トシテ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ且其ノ町村内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ町村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

町村ニ於テハ町村公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ町村公民ノ要件中町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

町村公民ノ數町村會議員定數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ町村公民ノ要件ニ關シ町村條例ニ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

本條ハ市町村住民中、特ニ其ノ一部ヲ限リ、市町村ノ公務ニ參與セシムルカ爲、之ニ必要ナル資格要件ヲ定ムルノ規定タリ。蓋市町村ハ人格者トシテ獨立ノ意思主體ナリト雖、自然的意思ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ、其ノ意思ノ作成ハ、之ヲ自然意思ノ主體タル自然人ニ待タサルヘカラス。其ノ意思

市町村ノ機關

ノ實行ニ付テモ亦同シ。此ノ如キ地位ニ置カレタル自然人ハ、之ヲ市町村ノ機關ト云フ。而シテ自然人カ市町村ノ機關タル地位ヲ占ムルハ、自己ノ意思ニ依ルニ在ラス、必ス一定ノ手續ノ下ニ、他人ニ依ツテ置カルルモノタリ。今市町村ハ住民ノ團體ナルヲ以テ、此ノ手續ハ住民ノ全體ニ依リ行ハルルコト最モ其ノ主旨ニ合スルモノナルヘシト雖モ、斯ノ如キハ、老若男女貧富賢愚雜然トシテ混立スル住民ニ付、實際ニ於テ不能タルノミナラス、其ノ結果モ決シテ適當ナルモノニ非サルヲ以テ、法ハ特ニ一定ノ條件ノ下ニ、住民中ニ就キ選擇ヲ行ヒ、此等ノ者ヲシテ、市町村機關ノ選任及機關其ノ者ノ組織ノ事ニ當ラシム。此等ノ住民ヲ特ニ稱シテ公民ト云フ、畢竟市町村ノ公務ヲ執行スル住民ト云フノ義ニ外ナラサルナリ。公民タルノ要件ハ分チテ之ヲ說明スルコト便宜ナリト認ムルヲ以テ左ニ列記ス

公民ノ意義

帝國臣民

一　帝國臣民タルコト。帝國臣民ハ外國人ニ對スル語タリ、外國人ハ譬ヒ住民タリト雖公民タルコトヲ得ヘカラサルナリ。帝國臣民ト外國人ノ區別ハ一ニ國籍法ノ規定ニ從フヘキナリ、帝國憲法第十八條ハ日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル旨ヲ規定ス。如何ナル者カ日本臣民タルヘキカ、其ノ資格要件ハ法律ヲ以テ定ムヘシトノ義タリ而シテ自然人ニシテ帝國臣民タルヘキモノノ資格要件ハ國籍法ニ於テ之ヲ定メラレタリ、憲法ノ本條ニ所謂帝國臣民カ法人ヲ含ムヤ否ヤハ別トシテ茲ニ所謂帝國臣民中ニ法人ヲ含マサルコトハ、他ノ要件トシテ男子タルコトヲ要スルニ依リ明ナリ。

法人ヲ含マス

獨立ノ生計

二　獨立ノ生計ヲ營ムコト。獨立ノ生計ヲ營ムトハ自己ノ經濟ニ於テ其生計ヲ維持スルノ義ナリ。自己ノ經濟トハ其ノ收支計算ノ利害ノ歸着點カ自己ニ存スル財產上ノ狀態ヲ意味ス。故ニ斯ノ如キ經濟關係ニ於テ其ノ生計ヲ營ムモノハ、其ノ他人ノ家ニ同居同炊スルト、將其ノ收入ノ一部若ハ全部カ他人ノ給付ニ基ツクトヲ問ハス、獨立ノ生計ヲ營ム者タルヲ失ハサルナリ。故ニ他人ノ家ニ同居シ子女ノ送金ニ生活スル者、又ハ商店ノ通番頭ノ如キ皆獨立ノ生計者タリ。之ニ反シ、其ノ生計ノ場所カ戶主ト異ナルト雖、其ノ利害關係カ直接戶主ニ歸屬スル者ハ勿論、譬ヒ自己ノ勤勞ニ依リ生活シ、戶主ト何等關係ナキ者ト雖、其ノ生計ニ關スル收支ノ利害カ、直接自己ニ影響セサルモノハ、獨立ノ生計ヲ營ムモノニ非サルナリ。故ニ學生ノ多數、兵卒、僕婢等ハ獨立ノ生活者タラサルナリ。然レトモ之ヲ事實ノ問題トシテ、個個ノ場合ニ、某カ獨立ノ生計者ナリヤ否ヤヲ決定スルハ、頗フル困難ノ事タラスンハアラス、例ヘハ學資ヲ父兄ニ仰ク學生ノ相集マリテ自炊スル者ノ如キ、食費ノ負擔ニ於テ他人ノ家ニ書生トシテ寄寓スル者ノ如キ、其ノ他疑義タルヘキモノ決シテ少シトセス。唯併シ改正法ハ舊法ト異ナリ、住民ノ資格ヲ定ムルニ當リ、住所主義ヲ採用シタルヲ以テ、此等ノ者ノ多數ハ住民タルコトナキ結果、自然獨立生計ノ有無ニ論及スル必要ナキニ終ルヘキハ、實際上大ニ便宜ヲ得タリト爲スヘキナリ。

獨立ノ生計

本法ノ獨立ノ生計ニ相當スヘキ事項ハ舊法ニ於テハ『一戶ヲ構フ』ト云フ語ヲ以テ規定セラレタ

リ、其ノ意義ニ於テ異ナルヘキニ非サルナリ。一戸ヲ構フトハ必スシモ一家屋ヲ構ヘ住スルト云フカ如キ、形式ノ意義ニアラサルコトハ、我市町村制ノ母法タル普國市町村制ノ公民ニ關スル規定ニ徴スルモ、疑ナキ所ナレトモ、從來實際ノ取扱ニ於テ、內務當局者ト、行政裁判所ノ間、意見ノ一致セサルモノアリ、不便ヲ感スルコト少カラサリシヲ以テ、改正法ニ於テハ、特ニ獨立ノ生計ト稱シ、實質的資格ニ依ルヘキモノタルコトヲ明ニシタルナリ

二十五歳以上ノ男子

三　年齡二十五年以上ノ男子タルコト。女子ハ公民タルコト能ハサルナリ年齡ニ於テ二十五年ト制限シタルモノハ、市町村ノ公務ニ當ラシムルハ、成年ニ達シタル後更ニ一定ノ期間、社會ノ實情ニ經驗スルニ非サレハ、適當ノ判斷ヲ爲スニ適セサルモノトシ、衆議院議員選擧法等ト、其ノ軌ヲ一ナラシメタルナリ。而シテ其ノ年齡ノ計算ハ、明治三十五年法律第五十號ニ依リ、出生ノ日ヨリ起算シ、曆ニ從フヘキモノトス。

納稅二年ノ制限

四　二年以來市町村ノ住民ト爲リ其ノ市町村ノ負擔ヲ分任シ且其市町村內ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルコト。二年ノ制限ハ本項全部ニ關スル制限ナリ。即二年以來住民タリ、二年以來負擔ヲ分任シ、且二年以來地租ヲ納メ、若ハ二年以來直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルコトヲ要スルナリ。而シテ二年ハ曆ニ從ヒ計算セラレタル滿二年ノ義ナリ。

住民

(イ)住民。市町村住民トシテ繼續的ニ二年ヲ經過シ、現ニ住民タルモノニシテ始メテ其ノ市町村公民タルコトヲ得ルナリ。官吏ノ如ク其ノ職務ニ依リ、諸所ニ轉轉スル者ハ、其ノ轉任ト共ニ常ニ住所ヲ轉スヘキモノナリヤ或ハ一定ノ市町村ニ住所ヲ繼續シ得ヘキヤハ疑問ナリ。官吏ハ其ノ任務ヲ帶ヒタル地ニ居住スヘキ者ナルヲ以テ、多數ノ場合ニ於テ、其ノ任地ハ同時ニ其ノ生活ノ本據タルニ在リ、住所ヲ定メサルヘカラサルトナルヘシト雖、其職務ノ爲ニ必要トスル所ハ、任地ニ居住スルニ於テ妨ケサルヘシ

住所ハ任地ト異ニスルコトヲ得

(ロ)負擔ノ分任。二年以上現ニ市町村ノ負擔ヲ分任シタルコトヲ要ス現ニ分任ストハ現實ニ納付シタルヲ云フニ在ラス、現ニ負擔スヘキ資格條件ヲ具ヘ、其ノ納期ニ於テ納入スルノ義タリ、故ニ其ノ二年ノ起算點ハ現ニ納付シタル日ヨリスヘキモノトス、然トモ其ノ資格ハ現實ニ履踐セラルヘキ實質ヲ有スルモノニアラサレハ、分任シタリト云フ能ハサルヲ以テ、徵收ノ時ニ於テ其ノ資力ナキモノトシテ、市町村カ其ノ徵收權ヲ拋棄シタル者ノ如キハ之ヲ包含セス。唯併シ現實ニ分任スレハ、其ノ分任スルニ至リタル手續ノ如何ハ問ノ所ニ在ラサルヲ以テ、負擔スヘキ資格ヲ有スルモノカ、事實ノ相違ニ依リ、納付スルコトナクシテ二年ヲ經過シタル

負擔ノ分任

資格ノ起算點

地租及直接國稅ニ付テモ同一ナリ

後ニ於テ、其ノ納付スヘキ事實分明シ、一時ニ納付シタルトキハ勿論、滯納處分ニ依リ、強制納付セシメラレタルトキト雖、之ヲ以テ分任シタルモノナリト云フヲ妨ケサルナリ。此ノ關係ハ地租及直接國稅ノ納付ニ關シテモ亦同一ナリ。市町村ノ負擔ハ仍市町村ノ公課ト云フ如シ、勿論使用料ノ如キ對價ノ性質ヲ有スルモノハ之レヲ含マサレトモ、市町村ノ費用ニ充ツル爲、住民タル資格ニ於テ賦課セラルルモノハ總テ之ヲ包含ス、一部負擔トシテ賦課セラルル市町村稅、又ハ地方學事通則及小學校令ノ規定ニ依リ、學區ヲシテ負擔セシムル市町村稅ノ如キハ勿論、夫役現品ノ負擔モ亦之ヲ包含ス。或ハ本條第五項ニ於テ市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於テハ、負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セストアルヨリ推シ、茲ニ市町村ノ負擔ト云フハ、前條ト其ノ意義ヲ異ニシ、市町村稅ニ限ルト爲ス者ナキニ非サレトモ誤ナリ。若シ然リトセハ、市町村稅ノ納付ニ於テ缺ク所ナキ者ハ、夫役現品ノ賦課ヲ受ケタルトキ、之ヲ納付セサル事實アルモ、公民タル資格ヲ失フコトナシト云フニ歸着スヘシ。均シク市町村ノ公課ニ關シ、此ノ如キ區別アル理アランヤ。第五項ハ單ニ租稅ヲ賦課セサル如キ市町村ニ於テハ、公課ニ關スル規定ハ之ヲ適用セスト云フ、特殊町村ニ關スル例外規定ナリ。之ヲ以テ本則ヲ動カスヘキニ非サルナリ。仍分任ニ付注意スヘキハ自己ノ負擔スヘキモノト定マリタルモノハ、常ニ之ヲ分任シテ、其ノ義務ヲ缺キタルコトナキヲ要スルヲ以テ、若シ一度之ヲ缺クコトアランカ、從來負擔シタルコトノ效力ハ直ニ中斷セラルヘキコト之レナリ

負擔ノ範圍

夫役現品ヲ含マストスル說ノ誤

地租若ハ直接國稅

（ハ）地租若ハ直接國稅。市町村ノ負擔ヲ分任スルコトノ外更ニ二年以上其市町村内ニ於テ地租ヲ納ムルカ、若ハ其ノ他ノ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルコトヲ要ス。蓋シ市町村ノ負擔ヲ分任スルコトモ、公民タルノ一要件ナリト雖、市町村ノ負擔ヲ分任スルハ、苟クモ獨立ノ生計ヲ營ム市町村住民タル以上總テ其ノ義務アルモノナルニ依リ、未タ以テ住民中ヨリ、特ニ公民ヲ區別スルノ標準タリ得ヘカラサルナリ。是ヲ以テ更ニ此ノ條件ヲ附シ、一定ノ資產アリ、地位アルモノヲシテ、公務ニ當ラシムルナリ。地租ハ地租條例ニ依リ賦課セラルル國稅タルコト別ニ說明ヲ須ヒス、直接國稅ハ、國稅中ニ付、市制第百七十五條ニ依リ內務大臣ニ於テ直接國稅トシテ指定スルモノナリ、現ニ兩大臣ニ依リ指定セラレタル直接國稅ハ、地租、所得稅（所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得稅テ除ク）營業稅、鑛業稅、賣藥營業稅ノ五種トス。市町村內ニ於テ納ムルトハ、其ノ納稅ノ事實カ市町村內ニ於テ發生スルノ義タリ、地租ハ其ノ土地所在地市町村ニ於テ徵收スルモノナルヲ以テ地租ヲ納ムル資格ノ依テ生スル市町村ハ卽地租ヲ納ニ納稅地タルモノニ非サレトモ、其ノ公民資格ニ計算セラルヘキコトハ同一ナリトス。地租ハ苟モ之ヲ納ムルニ於テハ、其ノ新假ヒ一厘ナリトモ、資格ノ生スル市町村ハ、皆常ニアラス、納稅スヘキ資格カ市町村內ニ於テ發生スルノ義タルコトヲ要ス。蓋シ

納稅ハ資格ノ繼續ヲ必要トス

年限ハ交互ニ通算ス

納稅者カ主體ニシテ所有者ハ與カラス

之ヲ古來重農主義ノ餘勢ニ歸スル外別ニ意義ナシ。地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓ヲ納ムトハ其ノ資格ノ繼續ヲ意味スルヲ以テ、單ニ納期ニ於テ地租ヲ納メ若ハ國稅ヲ納メタルヲ以テ足レリト爲サス、地租ヲ納ムヘキ資格カ二年間繼續シ、若ハ直接國稅年額二圓ヲ納ムヘキ資格カ二年間何レノ時期ニ於テモ繼續シテ存スルコトヲ要ス。然トモ地租ト直接國稅トハ、何レカ其ノ一存スレハ足ルヲ以テ、二者ノ間ニ交互年限ノ通算ヲ爲スハ敢テ妨ケサルナリ。例ヘハ初ノ一年間ハ地租ニ於テ資格ヲ有シ、後ノ一年間ハ其ノ他ノ直接國稅ニ於テ資格ヲ有スルトキハ、通シテ二年ノ條件ヲ滿シ得ヘキナリ。又地租ハ其ノ地租ヲ納ムル資格カ要件ニシテ、土地ヲ有スルト否トハ條件ニ非サルヲ以テ、地租條例第十三條ニ依ルトキハ、質權ノ目的タル土地ノ地租ハ質權者ヨリ徵收シ、百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ノ地租ハ地上權者ヨリ徵收スルヲ以テ、此ノ場合ニ於ケル公民資格ノ所有者ハ、質權者又ハ地上權者ニシテ、土地ノ所有者ニハ非サルナリ。納稅ハ苟モ自己カ主體タル事實アル以上、他人ト共同シテ之ニ當ルト否トヲ區別スヘキニ非サルヲ以テ、共有地ニ付數人共同シテ地租ヲ分擔スルモ、本條ニ所謂地租ヲ納ムル者タルヲ妨ケサレトモ、之レト同時ニ譬ヒ其ノ負擔ノ歸着スル所ハ自己ニ存スト雖モ、之ヲ納付スル主體カ他ノ人格者ナルトキハ以テ其ノ納稅ト爲スヘカラス例ヘハ町村又ハ區ノ所有地ニ對スル地租ハ、結局其ノ住民ノ負擔ニ歸スヘシト雖、之ヲ以テ住民ノ納稅ト云ヒ得ヘカラサルナリ。

公費ノ救助

公共團體ノ費用ノ義ナリ

以上ハ市町村公民タルニ要スル資格ノ通則ナリ故ニ苟モ此等　資格ヲ具備スルニ於テハ、何人ヲ問ハス其ノ市町村公民タリ得ヘキモノナリト雖、仍甚タシキ特殊ノ事情ノ下ニ在ル者ニ對シテハ、此等ノ資格ヲ具備スルニ拘ラス、之レヲシテ其ノ市町村ノ公務ニ參與セシムルコトヲ不適當ナリトシ、排除セサルヲ得サル場合存ス、之レ本條第一項但書ノ存スル所以ナリ即次ノ如シ。

一　貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者。市町村ノ公務ニ參與スルハ畢竟市町村ノ統治行政ニ參與シ、住民ニ對シ治者ノ權ヲ行フ者タリ。從ツテ住民中優等ノ地位ヲ占ムル者タルコトヲ精神トス。貧困ノ故ヲ以テ公費ノ救助ヲ受クル如キ者ノ、之レヨリ除斥セラルルハ當然ナリ。是ヲ以テ一旦貧困ノ故ヲ以テ公費ノ救助ヲ受ケタルトキハ、爾後二年ヲ經過セサル限リ、公民タル能ハサルモノト爲シタルナリ。救助ハ公費ノ救助タルコトヲ要ス、公費トハ公共ノ費用ト云フカ如シ、統治團體ノ費用ヲ以テ救助セラレタル義タリ。國、府縣其他一切ノ公共團體ノ費用ヲ意味ス、故ニ明治六年太政官布告第七十九號三子出產ノ貧困者ヘ養育料給與ニ關スル制、明治七年太政官達第百六十二號恤救規則及明治三十七年勅令第九十四號下士兵卒家族救助令ニ依リ救助ヲ受ケタル者ハ勿論、國又ハ府縣其他ノ公共團體ニ於テ設立スル救貧院、養育院又ハ施療病院等ニ於テ救療ヲ受ケタル者ハ、凡テ之ヲ包含ス。然トモ公費ヲ以テ救助セラルルコトヲ要スルヲ以テ、譬ヒ公共ノ福利ヲ目的トスル施設ト雖、其ノ之ヲ經營スル團體ニシテ私法人タリ、公共團體ニ屬セサルトキハ、其ノ施

貧困ノ爲タルコトヲ要ス

設ノ救助ヲ受クルト雖、決シテ公民ノ資格ニ影響スヘキニ非ラサルナリ。又救助ハ貧困ノ爲ニ受クルモノタルコトヲ要ス、故ニ天災事變ニ際シ、罹災民カ罹災救助基金ノ支出ニ依リ救助ヲ受ケ、若ハ市町村カ此ノ如キ場合ニ支出スル公費ニ依リ救助ヲ受クルコトアルモ、其ノ公民資格ニ影響スルコトナキナリ。又救助ハ積極的ニ公費ノ支出アルヲ要スルヲ以テ、貧困ノ故ヲ以テ市町村費ノ負擔ヲ特免セラルルカ如キハ、市町村ノ負擔ヲ分任セサル者ト云フヲ得ヘシト雖、公費ノ救助ヲ受ケタル者ニハ非サルナリ。

禁治産者及準禁治産者

二　禁治産者及準禁治産者。民法ノ規定ニ依リ禁治産者又ハ準禁治産者ノ宣告ヲ受ケタルモノハ自己一身ニ關スル行爲タニ有效若ハ完全ニ處理シ能ハサル者ナリ、況ムヤ公共ノ政務ニ參與シ得ヘカラサルハ當然ノ事理トス。舊法ニ於テハ單ニ禁治産者ニ限リ公民權ナキモノト爲シタレトモ、均シク民事行爲ニ付無能力者タル準禁治産者カ、公務ニ參與スル權能ヲ有スヘシトハ、解スヘカラサル所ナルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ改メタルナリ。

刑罰

公權剝奪者

三　六年ノ徵役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレメルル者。之レ舊法ニ於テ公權剝奪者トシテ公民權ヲ有スル能ハサルモノト爲シタル者ニ相當スルナリ。六年ノ徵役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト雖、改正刑法施行法第三十三條ニ所謂死刑、無期又ハ六年以上ノ徵役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ、舊刑法ニ所謂重罪ノ刑ニ處セラレタル者トシテ宣告ヲ用キスシテ、當然公權ヲ剝奪セラルヘキモノニ該當スルナリ。蓋シ此ノ如キ重刑ニ處セラレタル住民ハ、以テ市町村公務ニ參與セシムヘカラサルコト說明ヲ須キサル所ナリ。處セラレタル者ト云フトキハ、刑ノ宣告確定シタル者ノ義ニシテ、其ノ確定ニ至ル迄ノ間、即刑事ノ被告人タル間ハ、市制第十一條第二項ノ規定ニ依リ、公民權ヲ停止セラレタルモノトナルナリ。舊刑法ニ於テハ、重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ當然公權ヲ剝奪セラルルモノトスルト同時ニ、他方ニ於テ復權ニ關スル規定ヲ設ケ、一定ノ條件ノ下ニ、再ヒ公權ヲ恢復シ得ヘキ途ヲ啓ケリ、然ルニ改正刑法ニ於テハ、剝奪公權ニ關スル規定ヲ削除スルト同時ニ、復權ニ關スル規定モ亦刑法ニ存スヘキ性質ノモノニ非スト云フノ理由ヲ以テ省カレタリ。而シテ其ノ施行法第三十四條ニ於テ、他ノ法律ノ適用ニ付剝奪公權ヲ認メタル結果ハ改正刑法ノ下ニ於テハ、舊刑法時代ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者、及改正刑法時代ニ於テ、六年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレクルモノハ永久公權復活ノ途ナク、又本法ノ如ク改正刑法以後ノ立法ニ係リ公權ノ文字ヲ用フル能ハサルヨリ、特ニ刑名ヲ揭ケテ從來ノ剝奪公權ト同一ナル效果ヲ生セシムルモノニ付テモ、均シク復權ノ方法ヲ缺クヲ以テ、斯ノ如キハ這種受刑者ヲシテ、悔悟遷善セシムル所以ニ非サルヘシ、故ニ此等ノ點ニ付テハ他日一般ニ相當ノ規定ヲ設ケラルルモノタルコトヲ信スルナリ

新刑法ニ復權ノ規定ナシ

年限ノ特免

市町村公民タルカ爲ニ必要ナル居住納稅等ハ皆二年間繼續シタルコトヲ要スト雖モ、特ニ町村ニ功

勞アル人ヲ優遇スル爲、若ハ有爲ノ人ヲシテ急速市町村ノ公務ニ當ラシムル必要アル等ノ爲ニ、此ノ二年ノ制限ハ、時ニ之ヲ排除スル必要ナキニ在ラス、又公費ノ救助ヲ受ケタル者ニ付テモ、子弟出征ノ結果、氣ノ毒ナル事情ノ下ニ、一時已ムヲ得ス、公費ノ救助ヲ受ケタルカ如キ者ニシテ、二年ノ制限ニ服セシムルコトノ酷ニ失スル場合ナキニ在ラス。故ニ第二項ノ規定ニ依リ、特別ノ必要アル場合ニ限リ、市町村ハ此ノ二年ノ制限ヲ免除スルコトヲ得セシメタルナリ。免除ト云フヲ以テ、二年ノ制限ヲ全部撤廢スヘキコトヲ意味シ、一年ニ短縮スルカ如キハ其ノ權能ニ屬セサルナリ、又其ノ字句ニ於テ特免ト云フカ如ク、特別ノ詮議トシテ免除スルモノナルヲ以テ、決シテ素リニスヘキニ非サルナリ。而シテ其ノ如何ナル場合ニ特別ノ事情アリトスヘキカハ、勿論市町村會ノ自由ノ認定ニ屬スト雖、例ヘハ市町村立慈惠病院ニ於テ、貧困ノ故ヲ以テ施療ヲ受クル者ニ對シ、一般的ニ之ヲ免除スルカ如キハ元ヨリ法ノ精神ニ非サルナリ。

埋立地ニ於テ市町村ノ始メテ設置セラレタルカ如キ場合ニ於テハ、元ヨリ二年以來ノ住民等アリ得ヘカラサルナリ。斯ノ如キ場合ニ於テ本項ニ依リ、年限ノ制限ヲ特免シ得ヘキヤト云フニ、本項ハ市町村會成立以後ニ非サレハ適用シ得ヘカラサルノ規定タリ。何トナレハ市町村會カ特免ノ主體ナレハナリ、故ニ此ノ如キハ本項ノ範圍外ニシテ、市制第百七十六條町村制第百五十六條ニ依リ、勅令ヲ以テ必要ノ規定ヲ設クヘキモノタルヘシト雖今尚其ノ規定ヲ欠クヲ遺憾トス。

短縮ハ不能ナリ

新開町村ハ本項ノ範圍外ナリ

納稅權ノ相續

家督相續權ニ權利義務ヲ承認スルハ不當ニ在ラス

戸別割等モ含ム

營業權モ含ム

市町村公民タルノ資格要件ハ、公法的權利取得ノ條件ナリ。各個人ニ專屬的性質ヲ有シ、相續讓渡シ得ヘキモノニ在ラス、人ヲ異ニスル毎ニ其ノ進行ヲ新ニセサルヘカラス。然レトモ家督相續ハ、所謂身分相續ナルヲ以テ、特ニ人格ヲ要件トナシタルニ非スシテ財產ヲ標準トシタル財相續人ノ資格ハ、相續人ヲシテ之ヲ繼承セシムルコト決シテ失當ニ非サルノミナラス、實際ノ必要ニ適合スルモノタラスンハアラサルナリ。之レ本條第三項ノ規定アル所以ナリ。家督相續ニ限ルコトハ特ニ注意ヲ要ス、遺產相續ニ依ルモノハ、其ノ性質ニ於テ賣買讓與ト擇ム所ナク、特ニ其ノ繼承ヲ認ムル理由存セサルナリ。又財產ニ關スル納稅ニ限ルヲ以テ、戸別割等ノ如ク、單ニ住民タルノ故ヲ以テ負擔スルモノハ之レヲ含マサルモノトスルコト、理論ニ於テ正當ナルカ如シ。然レトモ斯ノ如キハ立法論トシテ解スヘカラス、身分相續タルノ故ヲ以テ、被相續人ノ資格ヲ繼承セシムル以上、等シク人格ヲ目的トシタルニ非サル、一切ノ負擔ニ基ツク資格ハ、之ヲ繼承セシメサルヘカラス、若シ然ラサルニ於テハ、戸別割等ニ於テ年限ヲ欠缺スル結果、假ヒ財產ニ關スル權利ヲ繼承スト雖モ、多數ノ場合ニ於テ其ノ效ナキニ終ルヘシ故ニ此處ニ所謂財產ヲ相續スト云フヲ如シ、故ニ土地有價證券等ハ勿論營業ノ權利モ之ヲ包含ス。或ハ免許營業ハ、免許ニ依リ權利發生スルモノニシテ、相續シ得ヘキモノニ非スト云フノ理由ヲ以テ、茲ニ所謂財產中ニハ營業特ニ免

許營業ヲ含マスト主張スル者ナキニ非サルモ、膠柱ノ論ニシテ順ルニ足ラサルナリ

公民タルノ資格要件ハ、現ニ其ノ住民タル市町村ト町村トノ關係ニ於テノ問題ナルヲ以テ之レヲ以テ他市町村ニ對抗シ得ヘカラサルハ論ヲ須ヒサルナリ。然レトモ此ノ純理ヲ以テ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ヲ律センカ、理ニ趨ツテ實ヲ捨ツルノ憾ナクンハアラス。此ノ場合ニ於ケル市町村住民ノ新市町村住民ニ轉スルハ、自己ノ意思ニ出ツルニ非スシテ、公共ノ必要ニ基ツクモノタリ、轉ト雖別ニ場所ヲ變更スルニ在ラス、土地ト共ニ新市町村ニ編入セラルルニ過キス、其ノ個人的關係ニ於テハ、全ク從來ト異ナル所ナシ、是ヲ以テ居住納稅等公民ノ要件ニシテ、年限ノ制限アルモノハ、彼是相通算シ、廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシトシタルナリ。然ラハ本條第二項ノ規定ニ依リ、年限ノ制限ヲ特免セラレタル效力カ、新市町村ニ於テ仍有效ニ認メラルヘキモノナリヤ否ヤ、之レ第四項ノ直接ニ規定スル所ニ非サレトモ、第四項ノ存スル所以カ從來ノ市町村ニ於テ有シタル身分ハ新市町村ニ於テ其ノ儘之ヲ認容スルノ主旨ニ存スルヨリ推シテ、特免ノ效力モ亦新市町村ニ於テ認ムヘキモノナリト結論スルヲ相當ナリト信ス。

市町村ノ經費ハ、市制第百十六條ニ於テ規定スルカ如ク、財產其ノ他ノ特別收入ヲ以テ先ツ之ヲ支辨スヘク、租稅ヲ賦課スルハ其ノ以後ノ事ニ屬ス、故ニ租稅ノ賦課ハ可成其ノ少カランコトヲ欲ス。而シテ近時市町村基本財產ノ造成ハ漸次租稅ノ賦課ヲ必要トセサル市町村ヲ生スルニ至レリ、其ノ結果ハ公民ノ一要件タル市町村ニ於テハ、公民ノ要件中ヨリ負擔ニ關スルモノヲ除カサルヘカラス、之レ第五項ノ存スル所以ナリ。市町村稅ヲ賦課セサル市町村ト云フヲ以テ、租稅ニ非サル夫役現品ハ之ヲ賦課スルコトアルモ仍本條ノ適用アルヘク、從ツテ斯ノ如キ市町村ニ於ケル夫役現品ニ關シテハ、其ノ義務ヲ履行セサルモ、爲ニ公民權ニ影響スルコトナキナリ。

以上ノ外町村ニ關シテハ尙一ノ例外アリ。蓋町村會議員ノ定數ハ最少限ニ於テ八人ナリ。然ルニ埋立地ニ新村ヲ置キタルカ如キ場合ニハ上記制限ノ下ニ於テ町村公民ヲ選擇スルトキハ時ニ其ノ數、町村會議員ノ定數ヲ超ユルコト、甚タ僅少ニ止マル場合ナキニ在ラス。斯ノ如キ場合ニ於ケル、甚タ少數ノ者ヲシテ、町村ノ公務ニ當ラシムルハ、自治行政ノ主旨ニ反スルモノト認ラルルヲ以テ、町村公民ノ數町村會議員定數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ、町村ハ町村條例ヲ以テ、町村公民ノ要件ニ關シ、別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得セシメタルナリ、蓋シ納稅資格ノ制限等ヲ緩和セントスルノ主旨ニ外ナラサルナリ。

終ニ、市町村公民ノ要件ニ對シ、除外例ヲ爲ス者ハ、市長、有給市參與、有給町村長、市助役、有給町村助役、及市町村收入役之レナリ。此等ノ者ハ其ノ在職間公民ノ要件ヲ具備スルト否トニ拘ラス、之ヲ其ノ市町村公民トス。畢竟市町村ノ重要機關ヲ組織スルモノナルヲ以テ特ニ之ヲ優遇セルナリ

負擔分任ノ要件ノ除カルル所以

特免ノ效力モ存續ス

度量分合等ニ依リ中斷セラレス

夫役現品ヲ含マス

町村公民ニ關スル特例

資格ヲ要件トセサル公民

（判例）

一　一戸ヲ構ヘトハ戸主ト非戸主トヲ問ハス一戸ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ云フ（二三、二、二一、行判）

二　戸主ト同居同炊スル者ハ別ニ一戸ヲ構フル者ト謂フヲ得ス（三四、二一、一三、行判）
之レ行政裁判所ハ一戸ヲ構フルトハ一家屋ヲ占有スル事實ヲ要スト解スル結果ナリ

三　理事者カ誤テ課稅セサリシ爲納稅セサリシ者ハ納稅者ニ在ラスト云フヲ得ス（二九、二、二七、行判）

四　地租納額ニ付何等制限ナキヲ以テ厘位ニ滿タサル地租ノ納稅者ト雖公民タルヲ妨クス（四〇、三、一三、行判）

五　亡父ノ所有財產ヲ相續シタル者カ所有名義ノ書換ヲ爲ササルモ實際租稅ヲ納付シ來リタル以上ハ納稅者タル資格ヲ有ス（三二、一二、二七、行判）

六　慣例ニ依リ區有田地ヨリ生スル米穀ヲ區內各戸ニ不平等ニ分配シタル場合ニ於テ增分配ヲ受クルモ之ヲ以テ救助ヲ受ケタル者ト云フヲ得ス（三〇、四、九、行判）

七　傳染病院ニ於ケル藥價食費ハ之ヲ償却セサルモ町村ノ負擔ヲ分任セサル者ト云フヲ得ス又之ヲ爲ニ町村ノ收入ニ缺損ヲ來シタリトスルモ公費ノ救助ヲ受ケタル者ト爲スヲ得ス（四二、二、六、行判）

八　夫役割ハ町村稅ナリ（三〇、一一、一九、行判）
舊法ノ下ニ於テハ或ハ一個ノ議論タルヲ失ハサルヘキモ改正法ニ於テハ問題ニ在ラス

市制第十條　町村制第八條　市町村公民ハ市町村ノ選擧ニ參與シ市町村ノ名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有シ市町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ
左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ

實際ニ執行セサルトキハ市町村ハ一年以上四年以下其ノ市町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以內其ノ者ノ負擔スヘキ市町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ增課スルコトヲ得

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
二　業務ノ爲常ニ市町村內ニ居ルコトヲ得サル者
三　年齡六十年以上ノ者
四　官公職ノ爲市町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
五　四年以上名譽職市町村吏員、名譽職參事會員、市町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ留後同一ノ期間ヲ經過セサル者
六　其ノ他市町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス
第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ハ市町村公民ノ權利義務ニ關スル規定タリ。蓋市町村公民ハ其ノ市町村住民タルコトニ於テ、當然其ノ市町村活動ノ責ニ任スヘキ地位ニ立ツモノナリ。而シテ法ハ其ノ住民中ニ付特ニ一定ノ資格ヲ具フル者ヲ選擇シテ、市町村公民ト爲シタルニ依リ公民ノ市町村公務ニ對シ、權利ヲ有シ、義務ヲ負フヘキコトモ、亦自然ノ結論ナリトス。本條ハ此ノ自然ノ權利義務ヲ、法律ノ力ニ依リ、完全ニ踐

行セシメントスルニ外ナラス。

選擧ノ參與

市町村ノ選擧ニ參與ストハ、市町村ノ議決及執行機關ヲ組織セシムルカ爲メニ行フ人選ニ關與スルノ義ナリ。其ノ關與スルノ方法ハ多ク投票ニ依ルト雖、指名選擧ヲ行フ如キモ亦選擧ニ參與スルニ外ナラサルナリ。名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有ストハ、若シ選擧セラルルニ於テハ、其ノ名譽職ニ當ルヘキ資格ヲ有スト云フ義ニシテ、選擧ヲ强制シ得ルノ權利アリト云フニハ非サルナリ。然ルニ一旦選擧セラレタルトキハ、必ス之ヲ擔任スヘキ義務アリ、自己ノ任意ニ之ヲ拒否シ得ヘキニ非ラス。之レ特ニ擔任スル義務ヲ負フト規定シタル所以ナリ。名譽職トハ一面ニ住民トシテ自己ノ生業ヲ營ム者カ、給料ヲ受クルコトナクシテ、團體ノ爲ニ其ノ事務ヲ擔任スヘキモノトセラレタル地位ヲ稱ス。本法ニ於テ市町村ノ名譽職トセラレタル地位ハ、市町村會議員及其ノ選擧立會人、名譽職參事會員、市參與、行政區ノ區長及其ノ代理者、委員、町村長、町村助役並區會議員之レナリ

被選權

擔任ハ義務ナリ

名譽職

公民ノ市町村公務ト密接ノ關係ヲ有スルコト前述ノ如クナルヲ以テ、之ニ對スル義務强制ノ方法ヲ設クルト共ニ、特殊ノ事情アル者ニ對シ、義務免除ノ除外例ヲ啓カサルヘカラス、之レ第二項ノ規定アル所以ナリ。名譽職ノ當選ヲ辭シト云フハ、公民ノ名譽職ニ就クハ選擧ノ結果當然ニ起ル事實ニ非スシテ、當選者ノ承諾ニ依リ始メテ其ノ効力ヲ生スヘキモノナルヲ以テ、被選者ハ若シ就職ヲ欲セサルトキハ、其ノ當選ヲ辭シ得ルニ付然カ云フナリ（市制第三十二條 町村制第二十九條參照）。其ノ職ヲ辭シト云フハ一旦就

當選辭退

職シタル後ニ於テ之ヲ辭スルノ義ナリ。即義務免除ニ關スル列記事項ニ該當スルコトナクシテ名譽職ノ當選ヲ辭シテ就職セス、又ハ就職後ニ於テ之ヲ辭シ、若ハ假令其ノ職ニ在リト雖實際ニ職務ヲ執行スルコトナキモノハ、公民ノ義務ニ違背スルモノナルヲ以テ、市町村ハ其ノ制裁トシテ、一年以上四年以下ノ範圍ニ於テ、其ノ者ノ公民權行使ヲ停止シ、時宜ニ依リテハ其ノ停止期間ヲ超エサル期間內、其ノ者ノ普通狀體ニ於テ負擔スヘキ市町村稅ノ十分一以上四分一以下ヲ增課スルコトヲ得ルナリ。公民權停止ハ義務違反事實アリタル際直ニ市町村會ノ議決ヲ以テ課スヘキコト普通ナルヘシト雖別ニ時期ノ制限ナキヲ以テ、數年ノ後ニ於テ之レヲ爲スモ、解釋トシテ違法ニ非ラス。唯行政上當不當ノ問題トシテ、上級官廳ノ監督ニ屬スヘキノミ。負擔ノ增課ハ公民權停止ノ期間內ニ於テ爲サルヘク、之レト獨立シテ爲シ得ヘカラサルハ言ヲ須ヒサルナリ。又公民權停止ハ、公民權ノ存スル者ニ付、始メテ之レヲ云ヒ得ヘキヲ以テ、其ノ停止中ニ於テ、公民タルノ資格ヲ缺キ、公民權消滅シタル場合ニ於テハ、停止ノ處分ハ其ノ間適用ヲ失ヒ、後日再ヒ公民ト爲リタル時ニ於テ、若シ期間ノ經過セサルモノアルニ於テハ、其ノ殘存期間適用ヲ見ルモノト云フヘシ。然トモ一旦增課スヘキモノト決シタル負擔ノ制裁ハ、公民權消滅ノ爲ニ中絕セラルルコトナシ。何トナレハ、公民權停止及增課ノ制裁ハ、公民權ニ對シテ課シタル制裁ニアラス、公民權ヲ有シテ爾カモ其ノ義務ヲ怠リシ住民ニ課シタルノ制裁ナリ。故ニ苟クモ住民トシテ存スル以上、其ノ處分ノ效力消滅スヘキ理由ナシ。唯公民權停止ハ、處分

停止處分ニ時期ノ制限ナシ

停止ノ中斷

負擔ノ制裁ハ中止セラレス

其ノ者ハ效力ヲ失ハサレトモ其ノ適用ヲ受クヘキ公民權自體カ滅失シタルヲ以テ、一時適用ヲ中止セラレタルノミ、中止ナルカ故ニ更ニ公民權取得ノ事實アレハ、其ノ效力ヲ生シテ之ヲ停止シ得ルナリ。然リ而シテ增課ニ付テハ、其ノ適用ヲ受クヘキ住民及負擔、一モ消滅スルコトナシ、豈獨リ增課ノミ其ノ作用ヲ中止センヤ。增課ノ制裁ハ又其ノ者ノ負擔スル市町村稅ノ全部ニ渉リテ之ヲ爲スヘク、一部ノ稅目ニ限リ爲スコトヲ得ス。各稅目ニ付十分ノ一以上四分ノ一以下タルコトヲ必要トス。

增課ノ範圍

公民權停止ノ他市町村ニ及ホス效果

公民權ノ停止ハ、其ノ市町村トノ關係ニ止マル、故ニ更ニ他市町村ニ轉住シテソノ市町村公民タルコトニ於テ、何等妨ケサルナリ、然トモ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ場合ニ關シテハ、公民ノ要件中年限ニ關スル特免ノ場合ト、同一理由ノ下ニ、新市町村ニ對シテモ、停止ノ效力ヲ有スルモノト解スルヲ以テ當ヲ得タリト信ス。

疾病

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサルヤ否ヤハ一ニ市町村會ノ認定如何ニ係ル、然トモ辭職者ハ自己ノ健康ニ推シ之ヲ主張スルモノナルニ付、市町村會カ之ヲ否認スルカ爲ニハ、之ヲ反證スヘキ材料ナキニ於テハ、不當ノ認定タルヲ免レサルモノトス。

常住

二　業務ノ爲常ニ市村村內ニ居ルコトヲ得サル者トハ、行商等業務ノ性質上、其ノ市町村ニ常住スル能ハサル者ヲ云フ。畢竟市町村ノ公務ハ、日々ニ存スルモノナルヲ以テ、常住ノ者ニ非サレハ、其ノ生業ヲ營ムト共ニ其ノ公務ヲ充シ得ヘカラサルヲ以テナリ。

年齡

三　年齡六十歲ハ個人ノ生計ニ於テモ、隱居ヲ許サルルノ時代タリ。然ルニ之ニ對シ、猶ホ公務ヲ强要スルハ、彼是權衡ヲ得タリト云フヘカラス、故ニ養老ノ地ヲ與フルナリ。

官公職

四　官公職ノ爲ト云フハ仍官衙又ハ公署ニ於テ職務ヲ奉スルカ爲ト云フカ如シ。畢竟市町村ノ公務ヲ充サシムルノ必要ト、官衙又ハ他ノ公署ノ公務ヲ充サシムルノ必要トハ、其ノ間優劣ヲ定メ得ヘカラス。既ニ然リトセハ、其ノ間ニ於テ本人ノ意思ノ自由ヲ認メ、官公職ヲ奉スルトキハ、市町村ノ公務ニ對スル義務ヲ免除スルヲ相當ナリトシタルナリ。故ニ苟クモ官公職ヲ奉スル以上、資格ノ如何ヲ別タス雇員以上總テ之ヲ包含スルモノト解スヘキナリ、其ノ官公職ヲ奉スルコトカ、名譽職就任以後ニ於テ生スルモ妨ケサルナリ。

名譽職

五　四年以上名譽職市町村吏員、其ノ他市町村ノ公職ヲ奉シタル者ハ所謂一期間其ノ公務ノ爲ニ盡シタル者タリ、公職ヲ奉スルハ、之レヲ個人的ニ觀察スレハ、重大ナル負擔タラスムハアラサルナリ。故ニ一期間ヲ滿了シタル者ハ、爾後同一期間內ニ限リ、强制セラルルコト無キモノト爲シタルナリ。四年ノ期間ハ繼續シテ名譽職ヲ奉シタルコトヲ必要トス、然レトモ茲ニ列記シタル各職ノ間ニ於テ、其ノ年限ヲ通算スルハ敢テ妨ケサルナリ

正當ノ理由

六　其ノ他市町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムルトハ、酌量スヘキ家事上ノ事由アル者、又ハ已ニ多數ノ公職ヲ帶フルニ拘ラス、更ニ又公職ノ負擔ヲ命セラレタル者等ニ對シ、便宜義務免除ノ

途ヲ啓ケルナリ。其ノ何ヲ以テ正當ノ理由アリト認ムルカハ、一ニ市町村會ノ認定ニ存スルナリ。

以上ノ條件ニ照シ、市町村會ハ某ノ名譽職ヲ辭シ、又ハ實際ニ職務ヲ執行セサルコトノ當否ヲ議シ之ニ制裁ヲ加フ、其ノ處分ヲ受ケタル者ニ於テ、不服アルトキハ、府縣參事會ニ訴願シ尚其ノ裁決ニ不服アルトキハ、行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、訴願ハ訴願法ノ規定ニ依リ爲スヘキヲ以テ處分ヲ爲シタル市町村ヲ經由シテ提起スヘク、市町村ハ之ニ辯明書及必要文書ヲ添付シテ府縣參事會ニ送付ス。

訴願又ハ訴訟ノ提起ハ、原則トシテ行政處分ノ執行ヲ停止スルモノニ非サルヲ以テ、市町村ニ於テ某ノ公民權ヲ停止シ、又ハ之レト共ニ負擔增課ノ處分ヲ爲シタルトキハ、直ニ之ヲ執行シテ、市町村會議員ニ付テハ、其ノ被選舉權ノ有無ニ關シ、之ヲ市町村會ノ決定ニ付シテ、其ノ失職ヲ確定シ、其ノ他ノモノニ付テハ、當然失職セシムルヲ妨ケスト雖、斯ノ如キハ後日訴願又ハ訴訟ノ結果ニ依リ、複雜ノ關係ヲ惹起スヘキヲ以テ、寧ロ處分ノ確定ヲ待テ執行セシムルコトヲ相當ナリトシ、本條第四項ノ規定ヲ存ス。蓋シ本條第二項ノ處分ハ、市制第百六十條町村制第百四十條ノ規定ニ依リ、處分アリタル日ヨリ二十一日以內ニ訴願ノ提起アリタルトキハ其ノ裁決アリタル日ヨリ三十日以內ニ行政訴訟ノ提起ナキトキ、又行政訴訟ノ提起アリタルトキハ其ノ判決アリタルトキ確定ス。

訴願ハ處分ヲ停止ス

行宜ノ爲ハ處分ヲ停止ス

市町村ニ訴ヒ權ナシ

府縣參事會ノ裁決ニ對シテハ、被處分者タル個人ニ對シテ、行政訴訟ノ提起權ヲ認ムレトモ、處分者タル市町村ニ對シテハ其ノ權限ヲ認ムルコトナシ。然レトモ府縣參事會ノ裁決時ニ其ノ當ヲ失シ、不當ニ市町村ノ處分ヲ變更スルコトナシト云フヘカラス。是ヲ以テ特ニ此ノ如キ場合ニ處スル爲市町村ノ代表者タル市町村長、及市町村ノ監督者タル府縣參事會ニ對シ、行政裁判所ニ出訴ノ權ヲ認メタリ。之レ本條第五項ノ規定ナリ。此場合ニ於ケル府縣知事又ハ、市町村長ハ自己單獨ニ其ノ權限ヲ有スルモノナルヲ以テ、訴訟ヲ提起スルカ爲ニ、特ニ府縣會又ハ市町村會ノ議決ヲ經ルコトヲ要セサルナリ。

（判例）

一 病ニ依リ其ノ職ヲ辭スル者ニ對シテハ其ノ職ニ堪フルモノナリト確認シ得ヘキ證據アルニ非サレハ辭職ノ理由ナキモノト議決シ制裁ヲ加フルヲ得ス（二四、一〇、一、行判）

二 町村事務ノ紊亂若ハ多數村民ノ猥藉等ノ事實ハ名譽職ヲ退クノ理由トナラス（三四、六、一、行判）

三 名譽職ニ在ル者カ辭職屆ヲ提出シタルトキハ其ノ提出ト同時ニ退職シタルモノトス（三三、二、九、行判）

四 名譽職ノ辭退ハ屆出ノミニテ效果ヲ生ス（三二、五、三一、民判）

五 村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職辭退ノ理由トナラス（三三、六、二九、行判）

六 家族中ニ疾病者ノ存在ハ名譽職辭退ノ理由トナラス（三三、六、二九、行判）

七 普通水利組合ノ夫役現品取扱人タルノ職ニ在リトノ故ヲ以テ區長代理タルコトヲ辭スルヲ得ス（三三、二、二三、行判）

八 法律上ノ見解ヲ異ニスルカ如キハ名譽職辭退ノ理由ト爲ラス(二五、三、二八、行判)

九 公務兼任ノ場合ニ於テ醫師ノ診斷書アルモ他ノ一方ノ公務ソミヲ辭スルヲ得ス(二七、三、二四、行判)

一〇 「都合ニ依リ」トハ名譽職ヲ辭スルノ理由ト爲ラス(三三、一一、五、行判)

一一 町村會ハ公民權停止及村費增課ノ解除特免ヲ議決スルノ權限ナシ(三二、六、三〇、行判)

一二 町村會ハ名譽職ニ在ル者ノ辭職ノ許否ヲ議スヘキモノニ非ス(三三、二、九、行判)

市制第十一條 町村制第九條 市町村公民第九條第七條第一項ニ揭ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

市町村公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ノ決定確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

本條ハ公民權ノ喪失及停止ニ關スル規定タリ。蓋市町村公民タル者カ其ノ公民タルニ必要ノ要件ヲ缺如スルニ至レハ、公民トシテ行動シ得ヘカラサルハ勿論、現ニ公民權ヲ有スル者ト雖、特殊ノ身分關係ニ立ツ場合ニ於テ之ヲ行使シ得サラシムルハ、公民權ノ神聖ヲ保持スル上ニ於テ必要ノ事タラスムハアラス、是レ本條ノ規定ノ存スル所以ナリ。

本條第一項ノ規定ハ當然ノ事柄ニ屬シ、別ニ明記スルコトナシト雖、解釋ノ此處ニ歸着スヘキハ言ヲ須ヒス。唯注意的ニ條文ヲ存シタルニ過キサルナリ。蓋シ市制第九條第一項本文又ハ町村制第七條第一項本文ニ該當スル者カ、市町村公民タリト云フモノハ、之ニ對シテ特ニ公民權付與ノ處分ヲ爲スト云フニ在ラス。其ノ條件ヲ具備スルニ於テハ當然ニ公民タリ。條件ノ具備スルコトカ公民タルノ要件タル以上、其ノ條件ニシテ缺クルコトアランカ、公民權ノ消滅ニ歸スルハ自然ノ結果トス。其ノ但書ニ該當スルニ至リタル場合モ亦同一ナリ。無能力者又ハ一定ノ受刑者タル者ハ、公民タル能ハサルコトハ法ノ規定ナルニ依リ、公民タル者カ後日之ニ該當スルニ至レハ、其ノ公民權消滅スルハ當然ニシテ言ヲ須ヒス、法ハ唯此ノ當然ノ事實ヲ明記シタルニ過キサルナリ。

第二項ハ公民權ヲ有スル者カ、其ノ公民タルコトニ於テ異ル所ナシト雖、其ノ公民トシテノ活動ヲ停止セラルルノ規定タリ。公民トシテ活動スル能ハサルヲ以テ、公民トシテノ權利ヲ行使スル能ハサルハ勿論、其ノ義務モ亦之レヲ負擔スヘカラサルナリ。租稅滯納處分中ト云フハ、處分ニ着手シタルトキヨリ、其ノ結了又ハ中止ニ至ル迄ノ期間ヲ云フ。財產ノ差押ニ始アリ、其ノ公賣代金ニ關スル處理完結ニ依リ結了ス。着手スト雖差押フヘキ財產ノ價格ニシテ、督促手數料、滯納處分費等ニ充テ、殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ處分ヲ中止ス。租稅ハ國稅、府縣稅、市町村稅ハ勿論水利組合費等一切ノ公共團體ノ租稅ヲ包含ス、然レトモ夫役現品ハ租稅ニ非サルヲ以テ、之ニ代フル金錢ニ對シ行フ滯納

注意規定ナリ

停止ハ權利義務共ニ停止ス

滯納處分中

租稅ノ範圍

處分ハ、其ノ關スル所ニ非サルナリ

家資分散ノ宣告ヲ受クルトハ、普通人カ債務履行ノ資力ナキ故ヲ以テ、家資分散法ニ依リ家資分散ノ宣告ヲ受ケ、若ハ商人カ支拂ヲ停止シタル故ヲ以テ、破產法ニ依リ破產ノ宣告ヲ受クルヲ云フ。家資分散者ハ家資分散法ノ規定ニ依リ、會社ノ重役清算人、商業會議所ノ會員等タル能ハサル如キ一定ノ身分上ノ制限ニ服ス。而シテ此等ノ制限ハ、各其ノ法規ニ規定セラルル復權ノ規定ニ依リ、裁判所ノ決定ヲ以テ解除セラル。茲ニ所謂復權ノ決定トハ之ヲ指シタルナリ、舊刑法ニ所謂復權ニハ非サルナリ。破產者ハ破產法ノ規定ニ依リ、其ノ宣告ヲ受ケタル日ヨリ、選擧權、被選擧權ヲ失ヒ、法ハ家資分散者及破產者ニ關シテハ、特ニ其ノ宣告ノ確定シタルトキヨリ、復權ノ決定確定スル迄ノ間、公民權ヲ停止シタルナリ、身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ民法施行法第三條ニ依リ、破產者ト看做サルルヲ以テ、亦本項ノ適用ヲ受クルモノトス。

禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ、其ノ執行ヲ終リ、若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄トハ、禁錮、徵役又ハ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニシテ、控訴ノ結果前判決ヲ取消サルルカ、又ハ其ノ判決確定シテ、刑ノ執行ヲ終ルカ、執行猶豫ノ期間ノ滿了若ハ時效ノ完成ニ依リテ、刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間ニ在ルノ義ナリ。從ツテ罰金科料ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ之ヲ含マス。又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ、其ノ刑ノ確定、不確定如何ニ拘ラス之ヲ包含スト雖、六年ノ徵役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ含マス

家資分散、破產

復權ノ意義

身代限

禁錮以上ノ刑

罰令科料ヲ含マス

徵役又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關シ、其ノ判決確定スルトキハ、市制第九條町村制第七條及本條第一項ノ規定ニ依リ、公民權ヲ喪失スヘキヲ以テ、亦之ヲ含マサルコトナルナリ。舊法ニ於テハ、公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲、公判ニ附セラレタルトキハ、公民權ヲ停止スヘキモノト爲シタレトモ、單ニ公判ニ附セラルルノミニシテ公民權ヲ停止スルハ、酷ニ失スルヲ以テ、改正法ハ有罪ノ宣告ヲ受ケ犯罪者タルコトノ一應ノ推定ヲ爲シ得ルニ至リ、始メテ之ヲ停止スヘキコトニ改メタルナリ。

第三項モ亦畢竟公民權停止ノ一場合ニ過キサルナリ。然レトモ前項ノ如ク不適當ナル所爲ノ結果ニ出ツルニ非スシテ、其ノ從事スル職務ノ關係上、之ヲ行使セシメサルモノナルヲ以テ、特ニ停止ト云ハスシテ、參與スルコトヲ得スト、作用ノ方面ヨリ規定シタルナリ。現役軍人ヲシテ政務ニ關係セシメサルハ、社會組織上一般ノ通則ニシテ市町村モ亦此ノ例ニ則レルナリ。現役ニ服スル者トハ、陸海軍ノ現役將校ハ勿論、現役ノ下士兵卒總テ之ヲ包含ス、歸休兵モ亦現役中ノ者タルナリ。現役以外ノ兵役即豫後備役又ハ國民兵役ニ在ル者ハ、戰時又ハ暴動鎭定等事變ニ際シ、召集セラレタル期間、市町村ノ公務ニ參與シ能ハサルモノトス。召集トハ嚴格ノ意義ニ解スルトキハ召集令狀ノ交付ヲ受ケタルトキヲ云フモノノ如シト雖モ、之ヲ召集ノ實際ニ徵スルニ、應召員召集部隊ニ到着シタルトキハ、身體檢查ヲ行ヒ、故障アル者ハ直ニ歸鄉ヲ命スルヲ以テ、此ノ如キ者モ猶召集セラレタル者トシテ、

中停ト不參與

召集

公民權ヲ停止シ延テ公職ヲ失フヘキモノト爲スノ必要アルヘカラサルヲ以テ、茲ニ召集ト云フハ、召集部隊ニ編入セラレタルトキハ、公民權ヲ停止セラルルノ義ト解スヘキモノトス。

（判例）

一　租稅滯納ノ處分ニ關シ公民權ノ停止ハ滯納者カ財産差押ノ處分ヲ受ケタルニ因テ始マル（二六、七、一〇、行判）

二　滯納處分不當ナリトスルモ其ノ取消サレサル以上ハ之ニ基ケル町會議員失職決定ハ違法ニ非ス（三五、五、三〇、行判）

第三款　市町村條例及市町村規則

條例及規則

市町村ハ、法令ニ從ヒ、自治行政ヲ行フ爲ニ存スル團體ナルヲ以テ、其ノ行爲能力ハ行政事務ニ限ラルルヲ原則トス、立法事務ノ如キハ含マサルナリ。然トモ自治行政ハ各地方ニ依リ各其ノ趣ヲ異ニスルヲ以テ、其ノ準據スヘキ法規モ地方ニ依リ異ナリハ市町村ノ其ノ住民ヲ拘束スヘキ程度、其ノ必要ニ應シ各別ナルコトハ、自治行政ヲ完全ニ行ハシムル上ニ於テ、便宜ナラスムハアラス。是ヲ以テ國家ハ一定ノ範圍ニ於テ、市町村ヲシテ立法ノ事ヲ行ハシメ、市町村ハ其ノ與ヘラレタル權能ニ依リ、自己ノ法規ヲ制定ス、市町村ノ此ノ立法權ヲ稱シテ自主權ト云ヒ、其ノ制定シタル法規ヲ自主法規ト云フ。故ニ自治權ト自主權トハ別個ノ觀念タリ、一ハ行政ノ權能ニシテ、他ハ立法ノ權能タリ。自主法規ハ自主權ニ依リテノミ制定シ得ヘキモノナルヲ以テ、其ノ內容ニ於テ、一般的拘束力ヲ有シ、公衆ノ權利義務ト接觸スルモノナラサルヘカラス。行政ノ當然ノ作用トシテ爲シ得ヘキ、市町村吏員處務規程ノ如キハ、自治權ノ作用ニ屬スヘキモノニシテ、自主法規ノ範圍ニ在ラサルナリ。自主法規ハ之ヲ條例及規則ニ分ツ、或ハ規則ハ行政內部ノ事項ニ止マリ、一般的命令ノ性質ヲ含マストノ理由ヲ以テ、自主法規ヲ條例ニ限ラントスル者ナキニ非サレトモ、營造物ニ關スル規則ハ、決シテ一般的命令ノ性質ヲ含マサルモノニ非ス。市町村住民ハ一般ニ營造物使用ノ權利ヲ有ス、然ルニ其ノ使用ニ關シ、種種制限ヲ附スルカ如キハ、住民ノ權利ト変渉ナクンハアラス。其ノ管理方法ノ使用者ニ對スル關係モ、亦市町村吏員ノ處務規程ト云フカ如キ、全ク行政組織內部ノ事務ノ便宜ノ爲ニ設ケラレ、一般住民ト交涉ナキモノニ比シ、異ナラスンハアラス。之レ本款ニ於テ市町村自主權ニ關シ規定スルニ當リ條例及規則ノ二者ヲ認メタル所以ナリ。

市制第十二條　市町村制第十條　市ハ市町村ノ事務ニ關シ市町村條例ヲ設クルコトヲ得

市町村ハ市町村ノ營造物ニ關シ市町村條例ヲ以テ規定スルモノノ外市町村規則ヲ設クルコトヲ得

市町村條例及市町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

本條ハ市町村ノ自主權ニ依リ制定セラルル市町村條例及規則ニ關スル規定ナリ。蓋市町村ハ自治行政事務ヲ處理スル爲ノ團體ナルヲ以テ、法令ノ範圍內ニ於テ、個個ノ事務ヲ處辨スルニ當リ、權力ヲ

行使スルコトヲ得レトモ、豫メ一定ノ法規ヲ作リ、住民ノ權利義務ヲ規定スルカ如キハ、爲シ得ヘキ所ニ在ラス、之ヲ爲シ得ルカ爲ニハ、更ニ國家ヨリ別段ノ權力即自主權ノ付與ヲ受ケサルヘカラス、之レ本條ノ規定アル所以ナリ。

自主權ノ付與

條例

條例ハ市町村住民ノ權利義務又ハ市町村ノ事務ニ關シ之ヲ設ク、使用料、手數料、特別稅等ニ關スル條例ハ前者ニ屬シ、基本財産造成、公債募集ニ關スル條例等ハ後者ニ屬ス。然レトモ住民ノ權利義務ト云ヒ、市町村ノ事務ト云フ、決シテ互ニ相關聯セス獨立對峙スル觀念ニ在ラス、條例カ住民ノ權利義務ニ關係スルコト多キカ、市町村ノ事務ニ關係スルコト多キカノ區別ニ過キサルナリ。蓋條例ハ自主法規ナリ、故ニ直接間接ニ住民ノ權利義務ニ關係スル所ナクンハ制定セラルヘキ理ナク、又條例ハ市町村、制定スル所ナルヲ以テ、市町村ノ事務ニ關係スル所ナクンハ、制定セラルヘキ理ナキナリ。例ヘハ市會議員ノ選舉區設定ノ條例ノ如シ、其ノ選舉區ヲ劃スル點ニ於テハ、市ノ事務ニ關スルコト多ク、選出議員數ヲ定ムル點ニ於テハ、住民ノ權利義務ニ關スルコト多シト爲スヘシ。使用料、手數料、特別稅ニ關スル條例又ハ基本財産造成、公債募集ニ關スル條例ト雖モ、畢竟此ノ兩關係中ノ一カ、特ニ重キ部分ヲ占ムルト云フニ外ナラサルナリ。

條例ハ市町村自主權ノ立法ナリ而シテ自主權ハ國家カ市町村ヲシテ、其ノ自治行政ヲ行ハシムル上ニ於テ、必要ナリトシテ認メタル權能ナレハ、其ノ作用ハ市町村ノ自治事務ニ付テノミ存ス、市町村カ國家及他ノ地方團體ノ委任ニ依リ行フ事務ニ付テハ、其ノ關係スル所ニ在ラス、故ニ條例モ亦市町村ノ固有事務ニ關シテノミ之ヲ設ケ得ヘク、委任事務ニ付規定スルコト能ハサルナリ。

條例ハ固有事務ニ關スルニ限ル

市町村ハ其ノ自治事務ニ付、豫メ住民ヲ一定ノ權利義務ノ關係ニ立タシメント欲セハ、條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ要スト雖、條例ナケレハ處分ヲ爲ス能ハス、又ハ命令行爲ヲ爲ス能ハサルニ在ラス、個々ノ事項ヲ處理シ、若ハ之ヲ爲スニ當リ、住民ニ命令強制スルハ、法令ノ規定ニ反セサル限リ、自治行政權ノ作用トシテ當然ニ爲シ得ルナリ。故ニ基本財産造成又ハ公債募集ノ如キ重要ナル事務ハ、豫メ條例ヲ以テ規定スルコト妨ナシト雖、市町村會議員選舉ノ取締ノ如キ、將又處務便宜ノ爲ニスル區ノ設置、區長並ニ其ノ代理者ノ任期ニ關スル事項ノ如キハ、條例ヲ以テ規定セサルヲ便宜トスヘシ。又本條ハ廣ク苟モ市町村事務ニ關スル限リ、條例ヲ設ケ得ルコトヲ認メタルヲ以テ、市制町村制ノ各條項ニ於テ、條例ニ關スル規定アルモノハ、決シテ之ヲ以テ條例ヲ設ケ得ヘキ場合ヲ限定シタルモノナリト解スヘカラサルヤ勿論ナリ。

罰則

規則ハ市町村ノ營造物及之ト同一視セラレタル財産（市制第百十一條町村制第九十一條）ニ關シ之ヲ設ク。法ハ營造物（之ト同視シタル財産ヲ含ム以下同シ）ニ關シテノミ規則ノ設定權能ヲ認メタルニ依リ、營造物ニ關セサル事項ニ付之ヲ設クルコトハ爲シ得ヘカラサルナリ。市町村規則ヲ以テ其ノ自主權ニ基ツク立法ニ非スシテ、自治行政權ノ作成物ニ過キス、從ツテ住民ノ權利義務ト交涉ヲ有スルモノニ非スト爲ス者ハ、市町村ノ行政內部

ノ關係ハ、總テ規則ヲ以テ規定シ得ヘキコトヲ主張ス。市町村吏員處務規則等其ノ例タリ。然レトモ若シ規則ニシテ自主權ニ基クモノニ非ストセハ、法律カ特ニ條例ト共ニ之レヲ規定スルノ理ナキノミナラス、且住民ノ權利義務ト沒交涉ナルヲ以テ、行政內部ノ關係ハ總テ之ヲ以テ規定シ得ヘシトセハ、何カ故ニ法律ハ特ニ營造物ニ關シ、之ヲ規定シタルヤ解スヘカラサルナリ。規定ナクシテ行ヒ得ルモノナリトセハ、本項ノ規定ハ管ニ無用タルノミナラス、他ノ當然爲シ得ルモノニ對スル障害タラスムハアラサルナリ。豈斯ノ如キ不當ノ立法ヲ爲サムヤ。規則モ亦自主法規ノ一ナリ。自主權ニ依ラサレハ制定スルヲ得ス。是ヲ以テ特ニ茲ニ規定セラレタルナリ。蓋シ營造物ノ其ノ使用者ニ對スル關係ハ、市町村ノ其ノ吏員ニ對スル關係ト同シカラス、直接間接住民ノ權利義務ト、關係スルコト少カラサルヲ以テ、特ニ之ヲ必要ト爲シタルナリ。

規則モ權利義務ト關係ス

規則モ亦條例ト等シク自主法規ナリトセハ、何カ故ニ特ニ二種ノ法規ヲ認ムル必要アリヤ、之レ他ナシ、其ノ制定ノ手續ニ於テ輕重ノ別アルヲ以テナリ。條例ハ其ノ制定ニ付內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルニ反シ、規則ニハ此ノ事ナシ、蓋營造物ノ管理ニ關シテハ、其ノ使用者ハ、任意ニ其ノ權利義務ノ制限ヲ受ケテ、之レト使用關係ニ立ツモノナルヲ以テ、其ノ規則ノ關係スル所ハ、一般住民ノ權利義務ニ存スト雖、其ノ立法手續ニ於テ、簡易ナルコトヲ妨ケスト爲シタルニ外ナラサルナリ

手續ノ別

營造物ノ管理モ亦市町村ノ事務ニ外ナラサルヲ以テ、之ニ關シ條例ヲ制定スルハ敢テ妨ケス、之レ市町村條例ヲ以テ規定スルモノノ外、市町村規則ヲ設クルコトヲ得ト云フ所以ナリ。然レトモ之ヲ解シテ、營造物ニ關スル事項カ、住民ノ權利義務ト關係スルトキハ、必ス條例ヲ以テ定メサルヘカラスト爲スハ誤ナリ。規則モ亦自主法規トシテ當然住民ノ權利義務ト相關係スルコトヲ得、唯營造物ノ使用料ニ關スルカ如ク、特ニ條例ヲ以テ規定シタル場合ニ於テハ、規則ハ之ニ反スルコト能ハサレトモ、其ノ他ニ於テハ、使用條例ト規則トハ共ニ住民ト直接ノ利害關係ヲ有ス、故ニ人民ヲシテ周知セシムルノ方法ナカルヘカラス、之レ法規當然ノ原則ナリ。是ヲ以テ本條第三項ハ一定ノ公告式ニ依リ、之ヲ告示スヘキコトヲ定メタリ。即チ此ノ告示アルニ依リ、始メテ住民ニ遵奉ノ義務生ス、告示ハ條例及規則ノ對抗要件ナリ、之レナキ間ハ住民ハ事實ニ於テ其ノ制定ヲ知ルモ、遵奉ノ義務ナク、又之アリタル以後ニ於テハ、事實ニ於テ其ノ制定ヲ知ラサルモ、強用ヲ免カルルコト能ハサルナリ。一定ノ公告式トハ、條例ヲ以テ制定セラルルト單ナル議決ニ止マルトヲ問ハス、豫シメ一定シタルモノタレハ足ルト雖、住民ノ權利義務ニ關係スル所大ナルヲ以テ條例トシ制定スルコト妥當ナリト云フヘシ、而シテ本項ハ廣ク市町村條例ト云ヒ、前二項ノモノニ限ラサルヲ以テ、市制第百四十五條町村制第百二十五條ニ依リ、府縣知事ヲ一郡長ニ於テ制定スル市町村條例、及市制第百十一條町村制第九十一條ニ依リ制定スル規則

告示

對抗要件

ニモ適用アルハ勿論ナリトス。

條例及規則ハ、市町村カ法令ノ範圍内ニ於テ、其ノ自治事務ヲ行フニ付、必要アル爲附與セラレタル自主權ノ作用ナルヲ以テ、其ノ規定カ法令ニ違反シ能ハサルハ自主法規當然ノ性質トス。又等シク法規ナルヲ以テ法規當然ノ性質トシテ目的ノ消滅ニ依リ消滅ス。即區ニ廢シタルトキハ區會條例消滅シ、部落有財産ヲ統一シ終リタルトキハ財産ノ爲ニ設ケタル區會條例消滅シ、營造物ヲ廢シタルトキハ其ノ規則消滅ス。廢止ニ付テモ一般法規ト同一ナリ、條例ハ條例ヲ以テ廢スヘク、規則ハ規則ヲ以テ廢止スヘキモノトス。

法令ニ違反スルヲ得ス

（判　例）

一　町村事務トハ町村ノ組織又ハ町村ト住民トノ關係ニ影響スヘキ事項ナリ會計規程ノ如キ純然タル行政上ノ手續ニ關スル事項ノ條例ヲ以テ規定スヘキ限ニ在ラス（二六、五、二七、行判）

二　有給吏員ノ旅費ノ支出ハ町村條例ヲ設クシテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス（三〇、四、八、行判）

市制町村制第二章　市會

前述ノ如ク市町村ハ公法人ナリ。法人ハ自然人ト異リ無形ノ人格者ナルカ故ニ其ノ行動ハ必スヤ自然人タル機關ニ依ラサルヘカラス。法人ノ存在カ常ニ機關ヲ必要トスル所以實ニ茲ニ在リ。市町村ノ機關ハ之ヲ意思決定ノ機關ト決定セラレタル意思ヲ實行スルノ機關トニ分ツコトヲ得。前者ハ之ヲ稱シテ決定機關ト謂ヒ、後者ハ之ヲ執行機關ト謂フ。決定機關ハ又單獨制ニ非スシテ合議體ナルカ故ニ此ノ方面ヨリ觀察シテ亦之ヲ議決機關トモ稱ス。市町村ノ決定機關即チ議決機關ハ市町村會及市參事會ニシテ、執行機關ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員ナリ。斯クノ如ク市町村ニ於テハ、議決機關ト執行機關トアリテ相對立シ、意思ノ決定及執行ヲ同一ノ機關ニ集注兼行セシムルコトナシ。然レトモ市町村會ハ議決機關ナリト謂フヲ以テ、直ニ市町村會ハ市町村ノ意思決定ノミヲ爲スヲ目的トスル機關ナリト速斷スルハ非ナルト同時ニ、市町村吏員モ亦執行機關ナリト謂フヲ以テ直ニ、市町村吏員ハ決定セラレタル意思ノ執行ノミヲ目的トスル機關ナリト速斷スルモ亦非ナリ。例ヘハ市會ニシテ、市制第二十一條第三項ノ、選擧人名簿ニ關スル異議ヲ決定スルカ如キハ、市町村ノ意思ヲ決定スル機關トシテノ行動ニ非ス（後段ニ詳說セリ）。又市町村長カ市町村會ヲ招集スルカ如キハ、自ラ市町村ノ意思ヲ決定スルモノニシテ、他ノ機關ニ依リ決定セラレタル意思ヲ、單ニ執行スルモノニ非サルカ如キ之ナリ。

決定機關及執行機關

本章ハ市町村ノ議決機關ノ一種タル市町村會ニ關スル規定ナリ。然レトモ本章ノ規定ハ、市町村會ノミナラス、町村制ニ於テハ、町村公民ノ總會ニ關スル規定ヲモ設ケタリ。町村會ハ町村公民ニ依リ選擧セラレタル議員ヲ以テ組織スル議決機關ナルニ反シ、町村公民ノ總會ハ、選擧權アル町村公民ヲ以テ直ニ總會ヲ組織スルモノナリ。

市制 町村制 第一款　組織及選舉

本款ハ市町村會ノ組織及選舉並町村公民ノ總會ニ關スル規定ナリ。市町村ノ議決機關タル市町村會ノ組織ハ、公共組合ノ議決機關ト異ル。公共組合ノ議決機關ハ、組合員全員ヲ以テ組織スル總會ヲ以テ通例トスルニ反シ、市町村ニ於テハ、市町村住民ノ總會ナルモノナシ、只特別ノ場合ニ於テ、小町村ニ限リ、選舉權アル公民ノ總會ヲ設クルコトヲ得ルノミ（町村制第三十八條）市町村會ハ市町村公民ノ擧ケタル議員ヲ以テ組織ス、市町村公民ノ議員ヲ擧クルヤ選舉ノ方法ニ依ル。

市制 **第十二條**　市會議員ハ其ノ被選舉權アルモノニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一	人口五萬未滿ノ市	三十人
二	人口五萬以上十五萬未滿ノ市	三十六人
三	人口十五萬以上二十萬未滿ノ市	三十九人
四	人口二十萬以上三十萬未滿ノ市	四十二人
五	人口三十萬以上ノ市	四十五人

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス但シ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

町村制 **第十一條**　町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一	人口千五百未滿ノ町村	八人
二	人口千五百以上五千未滿ノ町村	十二人
三	人口五千以上一萬未滿ノ町村	十八人
四	人口一萬以上二萬未滿ノ町村	二十四人
五	人口二萬以上ノ町村	三十人

議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス但シ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第一項ハ、市町村會ヲ組織スル議員ヲ擧クルノ方法ヲ規定シタルモノナリ。即チ其ノ方法ハ選舉ニ依ルモノトシ、被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ、選舉權ヲ有スル者之ヲ選舉ス。選舉トハ多數者カ認メテ、市町村自治行政ヲ議スルニ足ルヘキ適任者ヲ擧クルノ方法ナリ。市町村最高ノ意思決定機關ヲ組織スルノ方法トシテ選舉ノ制ヲ採リタルハ、最能ク自治ノ精神ニ適合セルモノト謂フヘシ。「其ノ被選舉權アル者」ニ付テハ、市制第十五條ニ之ヲ規定シ、「選舉人」ニ付テハ、市制第十八條町村制第十四條町村制第十二條ニ之ヲ規定セリ。市町村會議員ハ、其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉

シ、而シテ原則トシテ、市公民ハ總テ被選擧權ヲ有スルカ故ニ、所謂直接選擧ノ方法ニ依リ選出セラルルモノニシテ、間接選擧ニ依ルモノニ非ス。直接ト間接選擧

ヒ、間接選擧トハ、原選擧人カ先ッ議員ヲ選擧スヘキ少數ノ選擧人ヲ選擧シ、此ノ少數ノ選擧人カ議員ヲ選擧スルヲ謂フ。直接選擧カ間接選擧ニ比シテ勝レルコトハ選擧人ヲシテ、選擧ニ比較的熱心ナラシムルコト、政爭ニ基ク弊害ヲシテ、比較的少ナカラシムルコト等ニ依リ今日多數學者ノ唱導スル所ナリ。

法定ノ議員數

市制本條第二項第三項及町村制本條第二項ハ、法定ノ議員數ニ關スル規定ナリ。即チ議員ノ定數ニ關スル原則ヲ定メタルモノナリ。其ノ定數ハ次ノ如シ。即市制ニ於テハ、人口五萬未滿ノ市ハ三十人、人口五萬以上十五萬未滿ノ市ハ三十六人、人口十五萬以上二十萬未滿ノ市ハ三十九人、人口二十萬以上三十萬未滿ノ市ハ四十二人、人口三十萬以上四十萬未滿ノ市ハ四十五人、人口四十萬以上五十萬未滿ノ市ハ五十一人、人口五十萬以上七十萬未滿ノ市ハ五十四人ニシテ、其ノ以上ハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ三人ヲ增加スルモノトス。之ヲ舊法ニ比スルニ、舊法ニ於テハ、人口二十萬以上ノ市ニ於ケル增加率ハ、人口十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增加スルノ制度ナリシカ、改正法ハ、人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員二人ヲ增加スルモノトシ、且ッ舊法ニ於テハ議員數ニ定限ヲ定メ、六十人ヲ超ユルコトヲ得サルモノトシタルニ、改正新法ニ於テハ其ノ制限ヲ廢シ、一定ノ率ヲ以テ、議員定數ヲ增加シ得ヘキモノトシ、以テ議員ノ定數ハ、人口ニ適應スルモノナルコトノ原則ヲ徹底シ、各市ノ間彼此權衡ヲ失スルノ虞ナカラシメタリ。以上ノ說明ニ依リテ明ナルカ如ク、市ニ於テハ議員ノ定數ハ、必ス三ノ倍數ナリ。之レ則チ市制第十五條ニ規定セルカ如ク、選擧人ハ分チテ三級ト爲シ、每級各別ニ、議員定數ノ三分ノ一ヲ選擧スルカ故ニ、議員定數ハ必ス三ヲ以テ除シ得ヘキ數タルコトヲ要スル故ナリ。次ニ町村制ニ付テ見ルニ、法定ノ議員數ハ、改正法ハ毫モ舊法ト異ル所ナシ。町村制ニ於テハ、法定議員數ハ二ノ倍數ナリ、之レ町村制第十三條ニ於テ、町村ハ原則トシテ、二級選擧ノ制度ヲ採用セルヨリ來レル當然ノ結果ニシテ、前述市會議員ノ定數カ、三ノ倍數ナルト同一ノ理由ニ出ッ。議員定數ニ對シ、基準ヲ示スヘキ人口ハ、內務大臣ノ定ムル所ニ依ル（市制第四條町村制第百四十五條）現在ハ內閣統計局ニ於テ調査シ、官報ヲ以テ報告スル人口ニ依レリ。

法定議員數ノ增減

市制本條第四項町村制本條第三項ハ、前述ノ法定議員數ハ、特別ノ事由アルトキハ、市町村條例ヲ以テ之ヲ增減シ得ルコトヲ規定セリ。例ヘハ、各部落ノ關係ニ依リテ特殊ノ事由アル場合ノ如シ。其ノ增減ハ市ニ在リテハ必ス三ノ倍數、町村ニ在リテハ、必ス二ノ倍數ナラサルヘカラス。之レ卽チ前述セルカ如ク、等級選擧ノ結果ナリ。但シ町村制第十三條末項ノ規定ニ依レハ、特別ノ事情アル場合ニハ、町村ハ條例ヲ以テ、選擧人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得ルカ故ニ、此ノ場合ニ於テハ、條例ヲ以テ

法定議員數ノ增減ノ時期

法定議員數ト增員條例ニ定メタル議員數トノ一致ニ關シ

法定ノ議員數ヲ增減スルトキモ、二ノ倍數ヲ以テスヘキ必要ナシト信ス。

本條末項ハ、法定議員數ヲ增減シ得ル時期ニ付キテ規定セリ。抑モ法定ノ議員數ハ、原則トシテ之ニ依ルヘキモノニシテ、濫リニ之カ增減ヲ許スニ於テハ、由リテ生スヘキ弊害、將ニ底止スル所ヲ知ラサルニ至ラントス。是ニ於テカ改正法ニ於テハ、總選擧ヲ行フ場合ニ非ラサレハ之カ增減ヲ許ササルコトトセリ。然レトモ、市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ如キ、又ハ團體的移住等ノ爲メ、著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テハ、總選擧ノ時期ニ非スト雖モ、內務大臣ノ許可ヲ得テ、之ヲ增減スルコトヲ得ヘシ。

增員條例ヲ設定シタル後、人口增加シ、其ノ人口ニ對スル法定議員數ト一致シタルトキハ、條例ハ目的ノ消滅ニ依リ、消滅ニ歸スヘキモノナリヤ否ヤニ關シ、或者ハ人口ノ增加ハ、必スシモ確定ノモノニ在ラス、今日增加シタリト雖、明日又減少セサルニ在ラス、條例ハ斯ノ如キ、變動限リナキ事實ニ依リ影響セラルヘキモノニ在ラス。故ニ、一旦設定セラレタル增員條例ハ更ニ廢止條例ニ依リ、廢止セラレサル限リ、永久ニ存續スヘキモノナルコトヲ主張ス。此ノ議論ハ、其ノ前半ハ正鵠ナリ、然レトモ之ニ依リ歸着シタル結論ハ、誤謬タラスムハアラサルナリ。條例ハ不確定ノ事實ニ依リ消滅セサルハ、論者ノ言ノ如シ、故ニ今日一人ノ出生者アリ、爲ニ所要ノ人口ニ達シタレハトテ、明日一人ノ死者ヲ出タサハ、爲ニ必要ノ人口ヲ缺クノ狀態ニ在ルトキニ於テ、條例ノ消滅スヘカラサルハ勿論ナリ。何トナレハ、所要ノ人口ヲ有スルコトハ、未タ確定ノモノタラサレハナリ。然レトモ、物ニ一定ノ程度アリ、人口ノ增加ニシテ、必要人口ヲ超過スルコト頗フル多ク、普通ノ死亡率ヲ以テシテハ、其ノ以下ニ降下セサルコト、常識ニ於テ確認シ得ルニ至レハ最早確定ノ事實タルナリ。後日假令、必要人口以下ニ降ルコトアルモ、其ハ唯確定ノ事實カ、更ニ變更ヲ受ケタルモノトシテ、始ヨリ不定ノ狀態ニアルモノト、同一視スヘカラサルナリ。故ニ此ノ程度ニ至レハ、條例ハ目的ノ消滅ニ依リ、當然消滅スト云ハサルヘカラス、別ニ廢止ノ手續ヲ要セサルナリ。若シ然ラスト云ハハ、人口カ更ニ增加シテ、增員條例ニ定メタル議員數ヨリモ、尙多數ヲ定員トスル程度ニ達スルモ、條例ハ依然效力ヲ有シ、增員ノ目的ヲ以テ設定セラレタル條例ハ、却ツテ滅員ノ條例トシテ存續スト云ハサルヘカラス、冠履顚倒モ此ニ至ツテ極ハマル。斯ノ如クムハ、何レノ種類ノ條例ト雖モ、目的ノ消滅ノ爲ニ消滅スルモノハ、遂ニ之ナキニ歸着スヘシ。勿論、此ノ如キ事實ノ確定ハ、時ニ爭ヲ生スルノ基トナルコトナキヲ保セサルヲ以テ、行政ノ便宜ノ處置トシテ、一定ノ時期ニ於テ、未タ存續スルモノト看做シ、廢止ノ手續ヲ取ラシムルハ、吾人モ其ノ適當ノ處置タルヲ認メサルニ非サルモ、理論上、其ノ手續ナキ限リ、永久ニ存續スト云フハ、理論ヲ曲クルモノニシテ條例ノ性質ヲ誤解セシメ、今後本法中、處處ニ規定セラル條例ニ、關係スル所少カラサルヲ以テ、特ニ之ヲ宣明ス。

（附）

（判　例）

一　町村會議員ノ定員ヲ定ムル標準タル最終人口ハ內閣統計局ニ於テ調査シ官報ヲ以テ報告シタル最近ノ人口ニ依ルヘク失踪者アルモ右人口ヨリ控除スヘキモノニ非ス（三四、一二、一八、行判）

選擧權ヲ有スル者

市制第十四條　町村制第十二條　市町村公民ハ總テ選擧權ヲ有スル但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接市町村公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第九條第一項ノ要件ニ當ラスト雖選擧權ヲ有スル但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第十一條第二項及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於テハ其ノ市町村內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

前三項ノ直接市町村稅及直接國稅ノ納額ハ選擧人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

本條ハ選擧權ヲ有スル者及之ヲ有セサル者ニ付テ規定セリ。選擧權トハ、參政權ノ一種ニシテ選擧ヲ行フノ權利ナリ。

制限選擧ト普通選擧

本條第一項ハ、市町村公民ハ總テ選擧權ヲ有スルコトヲ規定セリ。市町村公民トハ、市制第九條町村制第七條ノ要件ヲ具備スル者竝市長、有給市參與、市助役、市收入役（市制第七十六條及第七十九條第二項）及有給町村長、有給町村助役、町村收入役（町村制第六十三條第四項及第六十七條第五項）ヲ謂フ。然レトモ、市町村公民ト雖選擧權ヲ有セシメサルヲ以テ、妥當ト認ムル場合、即本條但書ノ場合ニ於テハ、選擧權ヲ有セサルモノトス。市町村公民ニシテ選擧權ヲ有セサル者ハ、第一公民權停止中ノ者、(イ)租稅滯納處分中ノ者、(ロ)家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者、(ハ)禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者）並陸海軍ノ現役ニ服スル者、及其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ、召集セラレタル者ナリ。公民權停止中ノ者ノ中(イ)、(ロ)、ニ該當スル者ハ、財產ニ關スル社會上ノ信用ヲ失墜セル者ニシテ、市町村行政ノ適者ヲ選擧スル選擧權ノ如キハ、固ヨリ之ヲ與フヘキニ非ス、(ハ)ニ該當スル者ニ選擧權ヲ有セシメサルノ理ハ說明ヲ要セス、又前揭ノ軍人ニ選擧權ヲ與ヘサルハ、是等ノ軍人ヲシテ、全然政治ヨリ離レシムルヲ以テ可ナリト認メタルニ依ル。

市町村公民ハ、原則トシテ選擧權ヲ有スルコト前述ノ如シ。而シテ、市町村公民タルノ要件ノ一ハ納稅ナリ、從ツテ納稅ハ又選擧權ヲ有スルニ必要ナル資格ノ一ナリ。之レ即本法ニ於ケル、市町村會議員選擧ノ制ハ、之ヲ普通選擧ト制限選擧トニ別ツヲ得ヘ蓋選擧ノ制ハ、制限選擧タル所以ナリ。

市町村公民ニ非サル帝國臣民ニシテ

シ。普通選擧トハ、財産又ハ納稅額等ニ關係ナク、人民一般ニ選擧權ヲ與フルモノヲ謂フ、但シ如何ニ普通選擧ト雖、全然無制限ニ、各人ニ選擧權ヲ與フルモノニ非スシテ、或ハ年齡ニ依リ、或ハ男女ノ性ニ依リ、或ハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルト否トニ依リ、選擧權ヲ與フルト否トヲ決スルハ勿論ナリ。制限選擧トハ、財產又ハ納稅額等ヲ以テ、選擧權ノ要件ト爲スモノヲ謂フ。本法ニ於テ、制限選擧ノ制ヲ採レルハ、我國ノ現狀ハ、人民ノ智識及道德ノ程度ニ於テ、未タ一般ニ選擧權ヲ付與スルノ程度ニ達セス、從ツテ恒產アルモノハ、恒心アルノ理ニ基キ、原則トシテ、一定ノ納稅額ヲ標準トスルノ適當ナルヲ認メタルニ依ル。

市町村公民ハ、原則トシテ選擧權ヲ有スト雖、市町村公民ニ非サル者ハ、原則トシテ選擧權ヲ有セス。即市町村公民カ、市制第九條第一項町村制第七條第一項ニ揭ケタル要件ノ一ヲ闕キ、又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ、市町村公民權ヲ失ヒ、從ツテ選擧權ヲモ失フ。仍又初メヨリ市制第九條町村制第七條ノ要件ヲ具備セサル者ハ市町村公民ニ非ス、從ツテ選擧權ヲ有セサルコト勿論ナリ。然ルニ茲ニ例外トシテ市町村公民ニ非サル者ニシテ、選擧權ヲ有スル者アリ、左ニ述ヘントスルモノ即チ之ナリ。

本條第二項ハ、市町村公民ニ非サル帝國臣民ニシテ、選擧權ヲ有スル場合ヲ規定セリ。即チ帝國臣民ニシテ、直接市町村稅ヲ納ムル者、其ノ額、市町村公民ノ最多ク納稅スル者、三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ、市町村公民ニ非スト雖モ選擧權ヲ有ス。「直接市町村稅」ノ種類ハ、內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム（市制第百七十五條町村制第百五十五條）、現時ニ於テハ明治二十一年大藏省告示第九十五號ヲ以テ之ヲ定ム（直接國府縣稅附加稅段別割及各市町村每ニ內務大藏兩大臣ニ於テ直ニ稅ト指定シタル市町村特別稅）。「其ノ額市町村公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキ」トハ、例ヘハ市町村公民中、最多額ノ納稅者三人ヲ見ルニ、金二百圓ヲ第一トシ、順次百圓、五十圓ナルトキハ、五十圓五十錢ヲ納ムルトキノ如キ之ナリ。斯ル多額納稅者ハ、市町村公民タルコトヲ要セス。故ニ、獨立ノ生計ヲ營ムコトヲ要セス、年齡二十五年未滿ノ者ニテモ可ナリ、未成年者ト雖選擧權ヲ有ス、男子タルコトヲ要セス、又其ノ市町村內ニ住所ヲ有スルコトヲ要セス。貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者タルトヲ妨ケス。然レトモ、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ、市制第十一條第二項町村制第九條第二項ノ公民權停止ノ條作ニ當ルトキ、又ハ同條第三項ノ條件ニ當ルトキハ選擧權ヲ有セス。此ノ如ク市町村公民ニ非サル多額納稅ノ帝國臣民ニ、選擧權ヲ與フルノ理由奈何。蓋之レ市町村ニ對スル負擔ヲ爲ス者ハ、利害ノ關係ヲ有スル場合ヲ規定セリ。即チ直接市町村稅ヲ納ムル法人ニシテ、其ノ額町村公民ノ最多ク納稅スル者、三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ選擧權ヲ有ス。之レ亦市町

外國人ヲ含ムヤ

村公民ニ非スシテ、選舉權ヲ有スルモノナリ。「法人」ニハ、外國法人ヲ包含スルヤ否ヤ。之ヲ文字ヨリ見レハ、法人ニ關シテモ、亦前項ノ例ニ依ルトアリテ、明ニ外國法人ヲモ、含ムヘキモノト解スヘキカ如シ。或ハ外國法人ハ、我邦ニ於ケル公權ヲ有スルコト能ハサルヲ以テ、選舉權ヲ有セスト說ク者アレトモ、一般的ニ、斯ル規定ヲ爲シタルモノアルヲ見サルノミナラス、本條ニ於ケル法人ナル文字ノ中ニハ、文理上、外國法人ヲモ包含ストセハ、即此ノ規定ヲ以テ、外國法人ニ、選舉權ヲ與ヘタルモノナリト見サルヘカラス。然レトモ、之レ實ニ文字論ニシテ、法ノ精神ハ恐ラクハ外國法人ニハ、選舉權ヲ與ヘサルニ在ルヘシ。自然人タル外國人ニハ、選舉權ヲ與フルノ規定ナキヨリ見ルモ、獨リ外國法人ニノミ、選舉權ヲ與フルノ理由アルヲ發見スルコト能ハサルヲ以テナリ。尙本條ノ法人中ニハ、公私ノ法人ヲ包含スルハ勿論ナリ。府縣郡市町村モ、亦本條ノ要件ニ合致スルトキハ選舉權ヲ有スヘク、又私法人中ニハ民法、商法及特別法ノ規定ニ依ル法人ヲ包含シ其ノ營利ヲ目的トスルモノタルト否トヲ問ハサルナリ。清算中ノ法人ハ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テノミ法人タルヘキモノナレハ之ヲ適用スルモノトセリ。

公法人ヲ含ム

直接市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於ケル多額納稅者ノ決定

本條第四項ハ直接市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於テハ、第二項第三項ニ於ケル多額納稅者ノ規定（民法第七十三條商法第八十四條）選舉權ヲ有セス。

本條第五項ハ多額納稅ノ標準タル直接市町村稅及直接國稅ノ所屬年度ヲ明記シ、選舉人名簿調製ノ期日ハ明治四十四年七月一日トセハ、其ノ屬スル會計年度ハ明治四十四年度ナルヲ以テ、其ノ前年度即チ四十三年度ノ賦課額ニ依ルヘキモノトス。賦課額ニ依ルヘキモノナルヲ以テ其ノ實際ニ收納濟トナリタル額ハ之ヲ問ハス、賦課シタル額ニ依ルヘキモノトス。「會計年度」トハ市町村ノ會計年度ヲ謂フモノナリヤ、將又收納額ヲ謂フモノナリヤ。舊法ニ於テハ何等ノ規定ナカリシヲ以テ其ノ解釋區々ニ渉リ內務省ト行政裁判所トノ間ニ意見ヲ異ニシタリキ。故ニ改正法ニ於テハ特ニ之ヲ明記シ、選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘキモノトセリ。例ヘハ名簿調製ノ期日ハ明治四十四年七月一日トセハ、其ノ屬スル會計年度ハ明治四十四年度ナルヲ以テ、其ノ前年度即チ四十三年度ノ賦課額ニ依ルヘキモノトス。「會計年度」トハ市町村ノ會計年度ヲ謂ヒ、市町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ルモノトス（市制第百三十三條第二項町村制第百十三條第二項）

直接市町村稅及直接國稅ノ所屬年度

本條第五項ノ規定ニ依リ、多額納稅者ノ選舉資格ヲ定ムヘキ納稅ハ、選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘキモノトセラレタルヲ以テ、若シ名簿調製ノ年度ニ至リ、其ノ納額減少スルカ、若クハ之レト比較セラルヘキ市町村公民ノ納額增加シ、爲ニ事實多額納稅者タラサルニ至リタルトキハ、之ヲ以テ依然選舉權ヲ保有スル者ト爲スヘキヤ否ヤノ問題ヲ生ス。或者ハ一般選舉人カ名簿調製當時ニ於テ、有資格者トシテ登錄セラレタルニ拘ラス、選舉當日ニ於テ其ノ資格ヲ缺クトキハ、選舉ヲ爲ス能ハサルノ例ニ依リ、此ノ場合ニ於テモ亦選舉權ヲ有スヘキモノニ非サルコトヲ

帳簿調製ノ年度ニ於テ法定ノ要件ナキ者

主張ス。然トモ若シ斯ノ如クムハ、本條ニ於テ其ノ多額納税者タルヤ否ヤハ、一ニ前會計年度ノ賦課額ニ依リ定ムヘシト規定シタルハ、全ク無意義ナリトカ云ハサルヘカラス、否寧ロ矛盾ノ規定タルヲ免カレサルナリ。前年度ノ多額納税者ハ、之アルモ爲ニ選擧權ヲ有スルコトナク、又本年度ニ於テ多額納税者タル者ハ、此ノ規定アルカ爲メニ名簿ニ登錄セラレス、從ツテ選擧權ヲ行フ能ハス。若シ此規定ニシテ存セサランカ、前年度ノ多額納税者カ無權利者タルヘキナリ。然ルニ特ニ規定ヲ設ケテ、雙方共ニ選擧權ヲ行フ能ハサラシム、非理モ亦甚タシカラスヤ、其ノ見解ノ誤マレルコト論ヲ須ヒサルナリ。蓋本項ノ規定ノ存スル所以ノモノハ、多額納税者ハ一般ノ權利者ト異ナリ、其ノ賦課額ヲ比較決定スヘキモノナルヲ以テ、名簿調製當時ニ於テハ當該年度ノ賦課額ハ未タ決定ヲ見サルコト多ク、之ニ依リ權利ノ有無ヲ定メ難キヲ以テ、擧ケテ之レヲ前年度ノ賦課額ニ依ルヘキモノトシ、其ノ本年度ニ於テ選擧權ヲ行使シ得ヘキ者ナリヤ否ヤハ、一ニ本年度ニ於テモ依然直接市町村税ヲ納ムル者ナリヤ否ヤニ係ラシメタルナリ。此ノ關係ハ次條ニ於テ選擧人ノ等級ヲ分ツニ當リ、等シク前年度ノ賦課額ニ依リタルニ對比スルモ亦明ナリ。若シ前年度ノ賦課額カ本年度ノ納額ト異ナル場合ニ於テハ其ノ效力ナキモノナリトセハ、前年度ノ賦課額ニ依リ一級選擧人名簿ニ登錄セラレタル者カ、名簿調製ノ年度ニ於テ二級又ハ三級ノ納額ニ減シタルトキハ、選擧資格ナキモノト云ハサルヘカラス。然トモ此ノ場合ニ於テ、納税者カ一般選擧人タル資格ヲ失ハサル限リ、依然一級選擧人トシテ選擧シ得ヘキコトハ何人モ疑ハサル所ナリ。多額納税者ハ一級選擧人ト相似タリ、其ノ多額納税者トシテ選擧シ得ル資格ハ前年度ノ賦課額ノ多額ナリシコトニ存シ、其ノ選擧人タリ得ルコトハ直接市町村税ノ納付者タルニ存ス。故ニ本年度ニ於テ選擧權ヲ行ヒ得ル爲ニハ依然直接市町村税ノ納付者タレハ即足ルナリ。今本條第二項ト第五項ノ規定ヲ同時ニ規定シタリトセムカ次ノ如クナルヘシ。曰ク「帝國臣民ニシテ直接市町村税ヲ納ムル者選擧人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ニ於ケル其ノ納税賦課額同年度ニ於テ最モ多キ賦課額ヲ納税スル市町村公民三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ云云選擧權ヲ有ス」ト即チ直接市町村税ヲ納ムル者ト云フノ條件ハ、選擧當日ニ於ケル要件ナルト共ニ、之アルニ於テハ、現ニ多額納税者タルト否トヲ問ハス、選擧名簿ノ登錄ニ從ヒ多額納税者トシテ選擧ニ參與シ得ルコト、法文上一點ノ疑義存スルヲ見サルナリ。

（判　例）

一　所有權ヲ獲得シタル者ハ其ノ登記ヲ經サルモ選擧權ヲ有ス（二六、四、五行判）

二　學區教育費ノ納付ハ市會議員選擧ノ納税資格トナル（二六、六、二六、行判）

三　公民ニ非サル未成年者カ本條ニ依リ選擧權ヲ有スル場合ハ後見人其ノ選擧權ノ行使ヲ代表ス（三五、三、一〇、行判）

市制第十五條　選擧人ハ分チテ三級トス

選擧人中直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選擧人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ第二編　第二章　第一款　市制　第十五條　町村制　第十三條

キ者ヲ一級トス但シ一級選擧人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級選擧人ヲ除クノ外直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選擧人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額中一級選擧人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選擧人ヲ三級トス但シ二級選擧人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選擧人ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選擧人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選擧ス但シ雖キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選擧人ハ各級ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ第二項乃至第四項ノ納稅額ハ選擧人ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項乃至第四項及前項ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

町村制　第十三條　選擧人ハ分チテ二級トス

選擧人中直接町村稅ノ納額最多キ者合セテ選擧人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ其ノ他ノ選擧人ヲ二級トス但シ一級選擧人ノ數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ雖キトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選擧人ハ每級各別ニ議員定數ノ半數ヲ選擧ス

被選擧人ハ各級ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ第二項及第三項ノ納稅額ハ選擧人ノ町村内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項第三項及前項ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

特別ノ事情アリテ前七項ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

平等選擧ト等級選擧

本條ハ所謂等級選擧ニ關スル規定ナリ。蓋選擧ハ之ヲ普通選擧及制限選擧ニ區別スルノ外、更ニ他ノ方面ヨリ之ヲ平等選擧ト制限選擧トニ別ツ。平等選擧トハ選擧權アル者ヲシテ總テ平等ニ選擧權ヲ行ハシムルモノヲ謂ヒ、等級選擧トハ各人ノ選擧權ヲ均一ナラシメス、或ハ財產ニ依リ、或ハ身分ニ依リ、或ハ敎育等ニ依リテ等差ヲ設クルモノヲ謂フ。我カ市制町村制ニ於テハ納稅額ニ依リテ選擧人ニ等級ヲ設ケ、以テ納額多キ者ハ少キ者ニ比シ多クノ選擧權ヲ得セシメタリ。等級選擧ノ制ヲ設ケタル理由ハ、多數ノ細民カ少數ノ富豪ヲ壓センコトヲ防キ、負擔ノ輕重ニ依リ自治行政ニ對スル權利ノ大小ヲ比例セシメムトスルニ在リ。

市町村ノ等級分別

本條第一項ハ等級分別ニ關スル規定ナリ。即市ニ於テハ選擧人ヲ分チテ三級ト爲シ、町村ニ於テハ二級ト爲ス。市ニ於テ町村ニ於ケルヨリモ等級ヲ多クシタルハ、貧富ノ等差市ニ於テハ概シテ町村ニ於ケルヨリモ大ナルモノアリト認定シタルニ依ル。但シ町村ニ於テハ條例ヲ以テ特例ヲ開キ、或ハ三級ノ制ヲ採リ、或ハ全然等級ヲ設ケサルコトヲ得セシム（町村制本條末項）

等級分別ノ方法

市制本條第二項第三項町村制第二項第三項ハ、等級分別ノ方法ニ關スル規定ナリ。其ノ方法市ニ在リテハ選擧人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ、選擧人全員ノ納ムル總額三分ノ一ニ當ル者ヲ一級トシ、次ニ一級選擧人ヲ除キ直接市稅ノ納額最モ多キモノヲ合セテ選擧人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額中一級選擧人ノ納ムル額ヲ除キ、其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ、其ノ他ノ選擧人ヲ三級トス。納稅額ニ應シテ等級ヲ分別スルニ當リ、納稅額兩級ノ間ニ跨ル者ヲ生スルコトアルヘシ。此ノ場合ニ於テ、一人ニシテ兩級ニ屬シ、兩級ニ於テ各一箇ノ選擧權ヲ行使スルコトハ、等級分別ノ精神ニ違反スルモノナルカ故ニ本法ハ之ヲ採ラス、其ノ者ヲ以テ上級ニ入ルコトトセリ。又兩級ノ間ニ同額ノ納稅ヲ爲ス者二人以上アリテ、何レヲ上級ニ編入シ何レヲ下級ニ編入スヘキカニ付テ問題ヲ生スルコトアルヘシ。此ノ場合ニ於テハ其ノ市內ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ルヘキモノトス。住所ヲ有スル年數皆同シキトキハ年長者ヲ以テ上級者ト定ムヘク、年齡ニ依リ難キトキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム。例ヘハ市ニ於ケル選擧人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額一萬二千圓ナル場合ニ、

舊法ノ缺點

納額ノ最モ多キ者ヨリ漸次下リテ納額ヲ合算シ、總額ノ三分ノ一即チ四千圓迄ノ者ヲ以テ一級選擧人トシ、次ニ殘額八千圓ノ半ニ當ルヘキモノヲ以テ二級選擧人、更ニ其ノ殘額四千圓ニ當ルヘキ者ヲ以テ三級選擧人トス。斯クノ如ク過不及ナク稅額ヲ等分スルコトヲ得ヘキ場合ハ、何等問題ノ生スルコトナシト雖、事實ニ於テハ斯ル事例ハ寧ロ稀有ニ屬スヘシ。例ヘハ選擧人全員ノ納ムル直接市稅總額ハ、前例ト同シク一萬二千圓ナルモ、最多額ノ納稅者ハ三千九百九十九圓ヲ納メ、其ノ次ノ納稅者カ三千九百九十八圓ヲ納付スルカ如キコトアルヘシ。此ノ場合ニ於テハ、此ノ第二位ニ在ル納稅者ハ、一級二級ノ間ニ跨ル者ニシテ、上級ニ入ルヘキコト前述ノ如クナルヲ以テ、結局一級選擧人ト爲リ、從テ一級選擧人ノ納ムル總稅額ハ七千九百九十七圓ト爲ルヘシ。故ニ之ヲ一萬二千圓ヨリ控除シタル殘額四千三圓ヲ二分シ二千一圓五十錢ヲ以テ二級選擧人トシ、殘額二千一圓五十錢ヲ以テ三級選擧人ト爲ス。（而シテ此ノ二級ト三級トハ都合ヨク分別シ得タリトセハ問題ナキモ、若シ兩級ノ間ニ跨ル者ヲ生シタルトキ、又ハ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上ヲ生シタルトキハ、前述セル所ニ依リテ分別ヲ決定スヘシ）然ルニ舊法ニ於テハ規定ノ不備ナリシカ爲、甚シキ不條理ノ結果ヲ惹起シタリキ。即右ノ例ノ場合ニ於テ、一選級擧人ノ總稅額ハ七千九百九十七圓ナルトキ、二級選擧人ハ尙選擧人總員ノ納ムル總額一萬二千圓ノ三分ノ一、卽四千圓ヲ納ムル者ヲ以テ一圓ト爲スノ規定ナリシヲ以テ、三級選擧人ハ七千九百九十七圓ト四千圓トノ合計一萬一千九百九十七圓ヲ、總額一萬二千圓ヨリ控除シタル殘額、

一人ニシテ總稅額ノ三分ノ一以上ヲ納ムル場合

卽三圓ヲ納ムル者ヲ以テ組織スルコトト爲ル。而シテ此ノ三圓ヲ納付スル者一人ナルトキハ、三級選擧人ハ一人ニテ、議員定數ノ三分ノ一ヲ選擧スルコトト爲リ、等級選擧ヲ設ケタルノ精神ヲ沒却シ、最少ノ負擔ヲ爲ス者却テ最大ノ權利ヲ獲得スルノ不條理ニ陷ルヘク、若シ又一級選擧人ノ納稅額、選擧人全員ノ總稅額ノ三分ノ二以上ナルトキハ、遂ニ三級選擧人ナルモノ存在ノ餘地ナキニ至リ、二級選擧ヲ採用セサル可ラサルノ止ムナキニ至ル虞アリシナリ。此ノ如キハ舊市制第十三條ニ於テ、「一級選擧人ノ外直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選擧人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ、爾餘ノ選擧人ヲ三級トス」トアルヨリ來レル結果ナリ。改正法ニ於テハ總テ斯ル不條理ヲ除却セリ。

次ニ一般選擧人ヲ分別スルニ當リ、單ニ納稅負擔額ニノミ依ルトキハ、拔群ノ納稅者ハ一人ニシテ一級ヲ組織シ、其ノ結果一人ニシテ多數ノ議員ヲ選擧スルニ至ルヘシ。斯ノ如キモ亦甚不權衡ニ失スルノ嫌アルノミナラス、常ニ議員定數ヲ得ルカ爲、數回ノ補足選擧ヲ繰返ス結果ニ達スルヲ免レス。然ルニ舊法ニ於テハ之ニ對シ何等ノ規定ナカリシヲ以テ、如何トモスルコト能ハサリシカ、改正法ニ於テハ此ノ點ニ改正ヲ加ヘ、一級選擧人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ、納額最多キ者議員定數ト同數ヲ以テ一級ト爲セリ。二級選擧人ヲ分別スルニ當リテモ、亦之ト同樣ノ問題ヲ生スルカ故ニ同一ノ規定ヲ要スルハ勿論ナリ。市制本條第二項但書及第三項但書ノ規定之ナリ、以テ選擧繰返ノ煩ヲ緩和スルト共ニ分配ノ公平ヲ圖ル。

一部ニ賦課シタル費用

前述ノ直接市稅ニ關シ一言ヲ要スルハ一部ニ賦課シタル費用ナリトス。一部ニ賦課シタル費用ト雖市稅タルカ故ニ、其ノ稅ニシテ直接市稅ナルニ於テハ、又本條ノ納額中ニ算入スヘキモノトス。又夫役現品ハ租稅ニ非サルカ故ニ、直接市稅ヲ準率トシテ賦課シタルトキト雖、本條ニ所謂直接市稅ニ非サルヲ以テ、之ニ算入スヘキモノニ在ラス。

住所ヲ有スル年數

兩級ノ間同額ノ納稅者二人以上アルトキハ、其ノ市內ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ルト爲セリ。「住所ヲ有スル年數」トハ、繼續的ナルヲ必要トスルヤ、將又然ラサルモ可ナリヤハ、法文上之ヲ明記セス、故ニ之ヲ字義ヨリスルモ妨ケサルモノノ如シト雖、其ノ主旨ニ於テ繼續的ニ住所ヲ有スル者ニ限ルモノタルコトハ、市制第九條町制第七條「二年以來市（町村）ノ住民ト爲リ」ノ解釋ト相俟ツテ當然タルヘク、之ヲ事實ノ上ヨリスルモ、曾テ住所ヲ有シタル年數ヲモ通算スルカ如キハ、繼續シテ住所ヲ有スル者ヲ遇スル上ニ於テ、甚タ隱當ヲ缺クモノトシテ、排セサルヘカラサルナリ。又法人ノ住所ハ民法ニ於テハ主タル事務所ノ所在地（民法第五十條）商法ニ於テハ本店ノ所在地（商法第四十四條第二項）ナルカ故ニ法人ニ付キテハ引續キ其ノ市內ニ、主タル事務所又ハ本店ヲ有スル年數ノ多少ニ依リテ決セサルヘカラス。

法人ノ住所

住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ上級者トス。年齡ノ計算ハ明治三十五年法律第五十號ニ依

ルコト已ニ述ヘタルカ如シ。住所ヲ有スル年數同シク、且同年齡ナルトキ又ハ法人ニシテ年齡ニ依リ難キトキハ、市長抽籤シテ之ヲ定ム。然ルニ同額ノ納稅者二人以上、共ニ市內ニ住所ヲ有セサル場合ニ於テハ、如何ニスヘキカニ付テハ法ハ別ニ規定スル所ナシ。恐ラクハ先ツ年長者ヲ上級者トシ、年齡ニ依リ難キ場合ニハ、抽籤ニ依リテ之ヲ定ムルノ外ナカルヘシ。又住所ヲ有スル者ト、住所ヲ有セサル者トアルトキハ、何レヲ上級者ト爲スヘキヤ。共ニ住所ヲ有スル者ニ付キテハ、住所ヲ有スル年數ノ多少ニ依リテ決ス、況ムヤ住所ヲ有スル者ト、然ラサル者トニ付テハ、住所ヲ有スル者ヲ以テ上級ニ入ルヘキモノトスルハ勿論ナリ。

以上市ノ等級分別ニ付說明シタル所ハ、移シテ以テ町村制ニ於テハ、等級ハ之ヲ二級ニ分別スルヲ以テ原則トシタルニ止マルノミ。

市制本條第五項町村制本條第二項及第三項ヲ說明スルニ足ル。

市制本條第四項ハ、各級選擧人ノ選出スヘキ議員定數ヲ規定セリ。即選擧人ハ每級各別ニ市ニ於テハ議員定數ノ三分ノ一、町村ニ於テハ其ノ二分ノ一ヲ選擧スルモノトス。尙ホ市ニ於テハ、選擧區アル場合アルコト、市制第十六條ニ規定セルカ如シ。此ノ場合ニ於テハ、各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ、市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘク、若シ其ノ市條例ヲ以テ定メタル選擧區ノ議員數カ、三分シ難キモノナルトキハ、各選擧區ニ於テ、如何ニ議員數ヲ各等級ニ配當スヘキカハ、同シク市制第十六條ノ市條例中ニ、之カ規定ヲ爲スヘキモノトス。

各級選擧人ノ選擧スヘキ議員定數

市內ニ住所ナ有セサル同額ノ納稅者

被選擧人ト各級選擧人トノ關係

市制本條第六項町村制本條第五項ハ、被選擧人ト各級選擧人トノ關係ヲ規定セリ。蓋選擧ハ市町村行政ノ衝ニ當ルヘキ最適任者ヲ指定推擧スルニ在リ。等級選擧ノ制ヲ採ルモ、被選擧人ハ自己ノ屬スル等級內ニ於テ選擧セラルルヲ得ルノミナラス、各階級ヲ通シテ選擧セラルルコトヲ得ルト爲ス所以實ニ茲ニ在リ。

直接市町村稅ヲ賦課セサル等級分別ノ方法

市制本條第七項町村制本條第六項ハ、直接市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於ケル、等級分別ノ方法ヲ規定セリ。即此ノ場合ニ於テハ、等級分別ノ標準ハ、選擧人ノ市町村內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘキモノトス。

直接市町村稅及直接國稅ノ納額ニ付テハ、前條第五項ノ規定ヲ準用スルカ故ニ、名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ、前年度ノ納額ニ依リ、等級ヲ分別スヘク、從ツテ名簿調製期日ニ於ケル納額ニ變動アルモ、等級ニ關係ナキハ勿論、選擧期日ニ於テ變動アルモ、亦影響スルコトナシ。其ノ立法上ノ理由ニ至リテハ、前條ト異ナル所ナシ。

町村ニ於ケル特例

町村制本條第八項ニ於テハ、本條ノ規定ニ對スル例外ヲ開ケリ。即或町村ニ於テハ納稅額ノ等差著シカラサルカ爲、或ハ選擧人少數ナルカ爲、寧ロ等級ヲ設ケス平等選擧ニ依ルヲ適當スルモノアルヘク、又繁盛ナル町村ニ於テハ、市ト同シク三級制ニ依ルヲ以テ便トスルモノアルヘク、又容易ニ爲スヘカラサルコトナリト雖、直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テ、直接國稅額ニ依ラスシテ、直接府縣

稅額ニ依ルヲ相當トスルモノアルヘク、又直接町村稅若ハ直接國稅ノ納額ニ關シテ、前條第五項ノ規定ヲ適用セス、別ニ之ヲ定ムルノ要アルモノモアルヘシ。斯ノ如ク前七項ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許セリ。

市ニ於テハ町村制本條第八項ニ規定スルカ如キ例外的ノ規定ナキヲ以テ、斯ル特例ヲ設クルコトヲ得ス。之レ市ニ於テハ實際ノ狀況ニ鑑ミ其ノ必要ナキ爲ニ外ナラサルナリ。

《判　例》

一　夫役ヲ以テ徵收シタル換算金ハ直接町村稅ノ納額ニ算入セス（二九、四、四、行判）

二　區費ハ等級ヲ定ムル資格ニ算入ス（二九、五、二二、行判）

市制第十六條　市ハ市條例ヲ以テ選擧區ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選擧ノ爲ノミニ付キ又同シ

選擧區ノ數及其ノ區域並各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選擧區トス其ノ各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選擧人ハ住所ニ依リ所屬ノ選擧區ヲ定ム市內ニ住所ナキ者ハ直接市稅若ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ物件又ハ營業所ニシテ數選擧區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課稅ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ市長其ノ選擧區ヲ定ムヘシ

選擧區ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ選擧人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選擧人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員配當數ト同數ヲ以テ一級トス二級選擧人ニ付亦同シ

被選擧人ハ各選擧區ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

選擧區ノ意義

本條ハ選擧區ニ關スル規定ナリ。選擧區トハ選擧ニ關シ數箇ニ分劃シタル市ノ區域ニシテ、之ヨリ選出スヘキ議員數ヲ配屬セラレ、其ノ區域ニ屬スル選擧人ニ於テ之ヲ選擧スヘキモノトセラレタルモノヲ謂フ。即選擧區トハ選擧ニ關シテ一箇ノ單位ヲ爲スモノナリ。選擧區ヲ設クルハ區域廣濶又ハ人口稠密ナル一市ノ全域ニ亘リテ、選擧ノ結果ヲ求ムルコトナク、特ニ狹小ナル區域ヲ限リテ單位ト爲シ、以テ被選擧人ノ得票ノ範圍ヲ定ムルコト、却テ選擧ヲ複雜ナラシメスシテ、比較的選擧人ノ意思ニ副ヘル當選者ヲ求ムルヲ得ルカ故ナリ。選擧區ニ於テハ一箇ノ單位トシテ之ヨリ選出セラルヘキ議員數カ配當セラルルヲ以テ、獨立ニ投票ヲ爲シ開票ヲ爲シ、他ノ選擧區ニ關係ナク當選者ヲ決定ス。

選擧區ハ市ニノミ之ヲ設定スルコトヲ許ス

選擧區ノ設定ハ市條例ヲ要ス

選擧區ハ特ニ市ニノミ之ヲ設クルコトヲ許シ、町村ニハ設クルコトヲ許サス。蓋町村ノ區域及人口等ノ關係ハ市ニ於ケルト異リ、特ニ選擧區ヲ設クルノ必要ナシト認メタルニ依ル。

本條第一項ハ選擧區ヲ設クルハ市條例ヲ以テスヘキコトヲ規定ス。之レ選擧區ノ設定カ選擧人ノ權利義務ニ關スルコト多大ナルモノアルカ故ナリ。

選擧區ハ或ハ一級二級及三級選擧ノ爲ニ、或ハ二級及三級選擧ノ爲ノミニ、或ハ三級選擧ノ爲ノミニ之ヲ設クルコトヲ得ス。之レ一級選擧人ハ比較的少數ナルニ依リ、之ノ爲ノミニ選擧區ヲ設クル必要ハ、殆ント想像シ得ヘカラサルカ爲ナリ。

本條第二項ハ、選擧區ヲ設ケタル場合ニ於テ、市條例中ニ規定スヘキ必要事項ヲ揭ク。即チ選擧區ノ數及其ノ區域竝各選擧區ヨリ選出スヘキ議員數ハ、選擧區設定ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘキモノトス。

本條第三項ハ、市條例ヲ以テ設定スルヲ要セサル、法律上當然ノ選擧區ヲ規定セリ。即第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ當然ノ選擧區ト爲ス。而シテ其ノ各選擧區ヨリ選出スル議員數ニ付テハ、市條例ヲ以テ規定スヘキモノトセリ。

本條第四項ハ、選擧區ニ屬スル選擧人ヲ定ムルノ方法ヲ規定セリ。即チ選擧人ハ市内ニ於ケル住所ヲ以テ其ノ所屬ノ選擧區ヲ定ムルヲ原則トス。然レトモ市制第十四條第二項及第三項ニ規定スル者ノ如キハ、市内ニ住所ヲ有セスシテ仍選擧權ヲ有スル場合アリ。斯クノ如キ場合ニ於テハ、住所ヲ以テ所屬ノ選擧區ヲ定ムルコト能ハス。即此ノ場合ニ於テハ、直接市稅又ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ、若シ其ノ物件又ハ營業所カ數選擧區ニ在ル場合ハ、之ニ對スル課稅ノ最

第六條ノ市ノ選擧區

選擧區ニ屬スル選擧人ヲ定ムル方法

モ多キ所ニ依リ、又其ノ課稅モ同額ニシテ之ニモ依リ難キ場合ニ於テハ、本人ノ申出ナキトキハ市長ニ於テ、何レノ選擧區ニ屬スヘキカヲ定ムルモノトス。

本條第五項ハ、各選擧區カ等級分別ノ單位タルコトヲ規定セルモノナリ。即選擧區ニ於テハ、市制第十五條ノ規定ニ準シテ、他ノ選擧區ニ拘ラス、各自ラ其ノ選擧區内ノ選擧人ノ納額ニ依リ、一級二級及三級ノ選擧人ヲ分別スヘシ。故ニ同一ノ市ニ於テモ同額ノ納稅ヲ爲スニ拘ラス、甲選擧區ニ於テハ一級選擧人ト爲リ、乙選擧區ニ於テハ二級選擧人ト爲ルカ如キコトアルヲ免レス。但シ一級選擧人ノ數、其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ、納額最モ多キ者ヲ漸次下降計算シテ、其ノ議員配當數ト同數ニ至ル迄ヲ取リテ一級ト爲スモノトス。二級選擧人ニ付テモ亦同シ。此レ前條ニ於テ述ヘタル所ト同一ノ理由ニ依リ、一級若ハ二級選擧人ニ過大ノ權利ヲ與フル不公平ヲ避ケムトシタルモノナリ。茲ニ所謂議員配當數トハ、每級選擧ノ爲ニ設ケタル選擧區及市制第六條ノ市ノ區ニ於テ、本條第二項及第三項ニ依リ設定シタル、所謂各選擧區ヨリ選出スル議員數ヲ云フ。而シテ若シ此ノ場合ニ三分シ難キトキハ、市制第十五條第二項但書ノ規定ニ依リ、市條例ヲ以テ定メタル配當數ヲ謂フ。

本條末項ハ、被選擧人ト各選擧區トノ關係ヲ規定シタルモノナリ。選擧區ノ制ヲ採用スルモ、各選擧區ニ於テ選擧ヲ爲スハ、全市政ノ爲ニ最適任者ヲ選出スル所以ニシテ、自己ノ選擧區ニ屬スル公民

選擧區ニ於ケル等級分別

被選擧人ト選擧區トノ關係

ヲ、選擧區ノ代表トシテ選出スルモノニ非ス、之レ等級ニ付キテ前述セル所ト全ク相同シ。即本項ニ於テ、被選擧人ハ其ノ選擧區內ニ限ラス、各選擧區ニ通シテ、選擧セラルルコトヲ得ト規定シタル所以ナリ。

市制 第十七條
町村制 第十四條　特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選擧分會ヲ設クルコトヲ得　二級又ハ三級選擧ノ爲ノミニ付亦同シ

選擧分會ノ性質

本條ハ選擧分會ニ關スル規定ナリ。選擧分會トハ、選擧人カ單ニ投票ヲ行フカ爲ニ分劃セラレタル區域ヲ謂フ。單ニ投票ヲ行フカ爲ニ分劃セラレタル區域ナルカ故ニ全然選擧區ト異ル。選擧區ニ於テハ、各其ノ區ニ於テ行ヒタル投票ヲ開票シ、他ノ選擧區ニ關係ナク獨立シテ各別ニ投票ヲ計算シ、以テ當選者ヲ決定スルモノナルコト、前述ノ如クナルニ反シ、選擧分會ニ於テ行ヒタル投票ハ、各別ニ之ヲ開票計算シ、以テ當選者ヲ決定スルコトナク、總テ本會ノ分ト通算スルモノトス。市制第二十五條末項町村制第二十二條末項ニ於テ、選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長、少クトモ一人ノ選擧立會人ト共ニ、投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシトアルヨリ見ルモ、選擧分會ノ性質ヲ窺フニ足ル。選擧分會ヲ設クルノ理由ハ、唯投票ヲ行フノ便宜ニ出テタルノミ。多數ノ選擧人ヲ驅リテ、一投票所ニ集合投票セシムルハ、不便甚シキモノアルヲ以テナリ。舊法ニ於テハ、町村會議員ノ選擧ニ關シテ、選

選擧分會ノ理由

選擧分會ニ關シ舊法ト改正法トノ差異

選擧分會設置ノ要件

選擧分會ト等級

舉分會ヲ設クルノ規定アリシカ、市會議員ノ選舉ニ關シ、斯ル規定ヲ缺如シタル爲、實際上ノ不便ヲ釀成シタリ。故ニ改正法ニ於テハ之ヲ改メ、市ニ於テモ亦選舉分會ノ設置ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ、以テ實際ノ便宜ニ適應セシメムコトヲ計レリ。然レトモ、選舉分會ハ又猥リニ之ヲ設クルコトヲ許サハ、弊害ヲ生スルノ虞ナシト謂フヘカラス。是ニ於テカ法律ハ、特別ノ事情アルコトヲ前提トシ、市ニ於テハ府縣知事、町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノトセリ。茲ニ所謂「特別ノ事情」トハ、時間ト場所トノ關係上、一投票所ニ於テ投票スルヲ不便トスル事情ヲ謂フモノニシテ、事實上種々ノ場合ヲ生スヘシト雖、選舉人ノ數非常ニ多ク、一定ノ時間內ニ投票スルコト困難ナルカ如キ、或ハ市町村ノ區域廣大ニシテ其一部ヨリ投票所迄餘リニ遠隔セルカ如キ又ハ離島ノ如キ謂フ。選舉分會ハ各級ヲ通シテ之ヲ設クルヲ得ルコト勿論ナリ。然レトモ單ニ一級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルコトヲ許サス、蓋一級選舉人ハ、其ノ數概ネ少カルヘキヲ以テ、之カ爲ニノミ選舉分會ヲ設クルノ必要ナキヲ以テナリ。然ルニ二級選舉人又ハ三級選舉人ハ、多數ナルコト通例ナルヲ以テ之カ爲ニノミ選舉分會ヲ設クルノ必要アリ。之レ即チ本條末段ニ於テ、二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ設ケ得ルコト亦勿論ナリ。市ニ於テ二級及三級選舉ノ爲ノミニ設ケ得ルコト亦勿論

（增）

市制 第十八條　選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

第二編　第二章　第一款　市制　第十七條　第十八條　町村制　第十四條　第十五條　二編

左ニ揭ケタル者ハ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一　所屬府縣ノ官吏及有給吏員
二　其ノ市ノ有給吏員
三　檢事警察官吏及收稅官吏
四　神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
五　小學校教員

市ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人ハ其ノ市ニ於テ被選擧權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選擧セラルヽトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級若ハ選擧區ヲ異ニシテ選擧セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選擧セラレタル者議員タルコトヲ得ス

左ニ揭ケタル者ハ被選擧權ヲ有スル町村公民ニシテ、選擧權ヲ有スルモ市町村公民ニ非サル者（市制第十四條第二項第三項町村制第十二條第二項）及選擧權ヲ有スル市町村公民ニ非サル者（市制第十四條第二項第三項町村制第十二條第二項）ハ被選擧權ヲ有セス。

一　所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員
二　其ノ町村ノ有給吏員
三　檢事警察官吏及收稅官吏
四　神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
五　小學校教員

市町村ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人ハ其ノ町村ニ於テ被選擧權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選擧セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選擧セラレタル者議員タルコトヲ得ス

又ハ等級ヲ異ニシテ選擧セラレタルトキハ後ニ選擧セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

本條ハ市町村會議員ノ被選擧權ニ關スル規定ナリ。蓋被選擧權トハ被選擧資格ノ謂ナリ、法律上有效ニ當選者タルニ必要ナル資格ヲ謂フ。

選擧權ヲ有スル市町村公民ハ被選擧權ヲ有ス（市制第十四條第一項但書町村制第十二條第一項但書）故ニ市町村公民ナルモ選擧權ヲ有セサル者（市制第十四條第一項但書町村制第十二條第一項但書）及選擧權ヲ有スルモ市町村公民ニ非サル者（市制第十四條第二項第三項町村制第十二條第二項）ハ被選擧權ヲ有セス。

本條第二項及第三項ハ市町村公民ニシテ、選擧權ヲ有スルニ拘ハラス、其ノ身分上ノ關係ヨリ、被選擧權ヲ有スルコト能ハサル者ニ付規定ス。其ノ第二項ニ依リ被選擧權ヲ有セサル者左ノ如シ。

官吏ノ意義

官吏ノ種類

一、所屬府縣又ハ府縣郡ノ官吏及有給吏員。官吏トハ、國家ノ任命ニ依リテ、國家ノ職務ヲ擔任ヘキ服務義務ヲ有スル個人ヲ謂フ。從ツテ現ニ職務ヲ擔任スルコトヲ必要トセス、國家ノ命スル所ニ從ヒ何時ニテモ職務ヲ擔任スヘキ服務義務ヲ有スルヲ以テ足ル。故ニ休職待命停職又ハ非職ノ官吏モ亦官吏タルヲ妨ケス。然レトモ明治二十二年閣令第十八號ハ、茲ニ所謂官吏トハ、現實ニ職務ニ從事セサル官吏ヲ包含セサルコトヲ規定ス。之レ官吏ノ被選擧權ヲ制限スルハ、其ノ地位ヲ利用スルヲ防ク趣旨ナルヲ以テ、現ニ職務ヲ擔任セサル官吏ハ其ノ利用シ得ヘキ地位ナキヲ以テ、立法ノ精神之ニ及ハスト爲シタルナリ。待遇官吏モ亦茲ニ所謂官吏ナルモ、雇員ハ之ヲ含マス。蓋前者ハ其ノ地位ヲ濫用シ得ヘキ關係ニ存スルモ、後者ハ此ノ如キ地位ニ存セサレハナリ。所屬府縣又ハ府縣郡トハ、選擧ニ關係アル市町村ノ屬スル府縣又ハ府縣郡ノ意ナリ。其ノ官吏ノ種類ハ地方官官制及明治四十年勅令第九十九號之ヲ定ム。即チ府縣ニハ知事以下事務官、事務官補、技師、屬、視學、技手、通譯、警察醫（待遇官吏）（地方官官制）港務官、港務醫官、屬、港吏、港務醫官補、港務獸醫官補、港務調劑手及通譯（四十年勅令第九十九號）アリ。郡ニハ郡長、書記、視學及技手（地方官官制）アリ。

吏員トハ、自治團體ノ任命ニ依リ、其ノ事務ヲ擔任スヘキ服務義務ヲ有スル個人ヲ謂フ。專ラ其ノ職ニ任シ、吏員タルノ以外ニ於テ何等ノ職業ヲ有セス、之ニ對シ報酬ヲ受クルモノヲ有給吏員ト

謂フ。故ニ職業ヲ有シ傍ラ自治團體ノ事務ニ從事スル名譽職員ハ、有給吏員ニ在ラス。府縣又ハ郡ノ有給吏員ノ種類ハ、府縣制及郡制之ヲ定ム。其ノ被選擧權ヲ有スル能ハサラシメタルモ亦官吏ト同シク、其ノ地位ヲ濫用スヘキ危險アルニ依ル。名譽職吏員ニ付此ノ種ノ規定ナキハ、全然此等ノ弊害ナシト云フニ非サルモ、名譽職ニ在任スルハ市町村公民ノ義務ナルカ故ニ、專務吏員ト同一ニ律ス可ラサルノミナラス、被選擧權ヲ剝奪スルハ自治ノ精神ニ反スルヲ以テナリ。

二、其ノ市町村ノ有給吏員。市町村ノ有給吏員中ニハ、勅令ヲ以テ指定セラレタル市ノ區ト、然ラサル市ノ區（第八十二條）タルトヲ問ハス、其ノ區ニ屬スル有給吏員ヲ含ム。舊法ハ單ニ「有給ノ市町村吏員」ト記セシヲ以テ（舊法各第十五條第二項第二號）苟モ市町村ノ有給吏員タル以上ハ、何レノ市町村ニ於テモ被選擧權ヲ有セサルニ非サルヤノ疑ヲ生シタリ（三十五年七月二日行政裁判所判決ノ旨趣）改正法ハ「其ノ」ト明記シ誤解ヲ避ク。市町村組合又ハ町村組合ハ、組合ヲ組織セル市町村ト別個ノ人格者ナリ。從ツテ市町村組合ノ有給吏員ハ組合ヲ組織セル市町村ノ有給吏員ハ、市町村組合町村組合ノ議員タルヘキ資格ヲ有シ、之レト同時ニ組合ヲ組織セル市町村ノ議員タルヘキ資格ヲ有スルモノトス。若シ夫レ本號ヲ設ケタル理由ニ至ツテハ第一號ノ其レト同シク、茲ニ贅スルノ必要ナカルヘシ。

三、檢事警察官吏及收稅官吏。檢事トハ犯罪ヲ搜査シ、通常裁判所ニ對シテ公訴ヲ提起シ且之ヲ實

警察官

行スル官吏、警察官吏トハ專ラ警察事務ニ從事スル官吏ヲ謂フ。知事ハ所屬府縣ノ官吏トシテ被選擧權ナキモノトス。警察官吏ノ種類ハ警視總監、警視廳警視、同警部、警部補、東京府以外ノ府縣ノ警務長、警視、警部及警部補等ナリ。巡査ハ待遇官ナルモ（明治二十四年勅令第百七十號）警察官タルヲ失ハス。收

收稅官吏

稅官吏トハ直接ニ國稅徵收ノ事務ニ從事スル者ヲ謂フ。稅關長、同事務官、同監視官、同鑑定官、同事務官補、同監吏、同技手、稅務官、稅務屬及技手皆然リ。主稅局長及稅務監督官ハ之ヲ包含セス直接徵稅ニ從事セサルヲ以テナリ。以上ノ官吏ヲシテ被選擧權ヲ有セシメサルモ亦其ノ濫用シ得ルノ機會多キニ依ルナリ。

神官

神職

四、神官神職僧侶其ノ他諸宗教師。　神官トハ神宮司廳ノ職員即祭主、大宮司、小宮司、禰宜、權禰宜、宮掌ヲ謂ヒ、神職トハ官國幣社以下ノ神社ノ職員、即宮司、權宮司、禰宜、主典、宮掌、社司社掌及神部署ノ職員ヲ謂フ。僧侶トハ佛教ノ僧侶ヲ謂フ。其ノ範圍ハ宗制寺法ニ依リ斷スヘシ。尼僧ハ男子ニ非サルカ故ニ茲ニ規定ノ目的ニ在ラス。諸宗教師トハ宗教各派ニ於テ直接ニ教義傳道ヲ行フヘキ地位ニ在ル者ヲ謂フ。現ニ行フト否トヲ問ハス。明治三十二年內務省令第四十一號ニ依リ、宗教ノ宣布ノ屆出ヲ爲ササル可ラサルモノハ皆此ノ內ニ含マル。故ニ神道佛道タルト回々教耶蘇教タルトヲ問ハス。直接傳道ヲ行フヘキ地位ニ在ル者ナルカ故ニ、神道各派ノ教正、講義訓導又ハ大社教ノ試補等ハ之ヲ包含スト雖、大社教ノ參教、補教、督事、大講長、講長、副講長及講生等

諸宗教師

ハ事務所ノ事務ヲ處理シ、說教ヲ爲スモノニ非サルヲ以テ之ヲ包含セス。以上揭ケタル者ヲシテ被選擧權ヲ有セサラシメタルハ自己ノ職分ヲ忘却シ信教上ノ威力ヲ藉リテ、之ヲ政爭ニ用キサラシメンカ爲ナルコト言ヲ俟タサルヘシ。

小學校教員

五、小學校教員。　小學校教員トハ、尋常及高等小學校ノ正教員、準教員及代用教員ヲ謂フ、公立タルト私立タルトヲ問ハス、休職中ノモノハ之ヲ包含セス。小學校教員ヲシテ被選擧權ヲ有セシメサルハ、兒童ニ對スル關係ヲ以テ父兄ヲ誘惑スルノ危險ヲ避クルト同時ニ、兒童ノ薄弱ナル思想ヲシテ政爭ノ弊ニ感染セシメサラシメンコトスルノ趣旨ニ出ツ。

「之ヲ罷メタル」ノ意義

以上ノ各號ニ該當スル者ハ、其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過スルニ非サレハ、被選擧權ヲ有スル能ハス。蓋「之ヲ罷メタル」トハ、所屬府縣郡ノ官吏又ハ有給吏員ヨリ他府縣郡ノ官吏又ハ有給吏員トナリタル場合、辭職ノ場合等ヲ謂フ。辭職ノ場合ト雖、許可ニ依リテ效力ヲ發生ス。從ツテ「罷メタル」ハ許可ノ時トス。一月ノ計算ハ曆ニ依ル。故ニ他府縣郡ニ轉任シ依然前市町村ニ住所ヲ有シ一月ヲ經過シタル者ノ如キハ前市町村ニ於テ被選擧權アルモノトス。

請負ノ意義

六、市町村ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人。　市町村ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人ハ、其ノ市町村ニ於テ被選擧權ヲ有セス。公法ニ表ハレタル請負ノ意義ニ付キテハ議論アリ（衆議院議員選擧法第十三條第二項北海道會法第七條第四項府縣郡制第六條第九項）或ハ公法上請負ト稱スルハ民法第六百三十二條ニ所謂請負ト其ノ範圍ヲ同フセス、

寧ロヨリ廣汎ナル意義ヲ有シ、物品ノ供給契約モ亦請負ノ内ニ位ス、此ノ如ク解スルコトハ法カ利害關係者ヲシテ議事ニ與ラシメサラシメントスルノ精神ニ合致スト說ク者アリ。然レトモ公法ニ表ハレタル文字ト雖、其ノ表示スル事柄カ全然私法ノ規定ニ依リ支配セラルヘキモノニ屬シ、爾カモ私法ニ於テ其ノ觀念ノ一定セル文字ヲ用ヒタル場合ニ於テハ、特ニ私法ノ用例ト異ナリタル意義ヲ有スルコトヲ明記セサル限リ、依然私法上ノ觀念ヲ以テ解クヲ穩當トスヘク、特ニ請負ノミヲ私法上ノ觀念ニ非ストシ、同項ニ記載セル「支配人」「無限責任社員」等ノ文字ヲ、私法上ノ觀念ニテ解カムトスルハ甚シキ矛盾ナリト謂フヘシ。請負ヲ爲ス者ニ付特ニ規定ヲ設ケタルハ、之ニ被選擧權ヲ與フルコトカ、他ノ物品供給契約賣買契約ヲ爲セル者ニ比シテ、生スヘキ弊害更ニ大ナルモノアリト認メタルニ依ル。請負ハ依然民法第六百三十二條ノ意義ニ解スヘク、當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ、他ノ一方カ其ノ仕事ノ結果ニ對シ報酬ヲ與フルコトヲ約スルモノヲ指稱ス。故ニ新聞社カ令達ノ公布ヲ引受クルモ仕事ヲ完成スルノ約ニシテ、市町村カ之ニ報酬ヲ與フルヲ約スルトキハ又請負タルヲ失ハス。金庫ノ事務取扱ヲ引受クルモ之ニ依ル報酬ヲ約スルトキハ亦民法ニ所謂請負ノ一ニ位ス。電氣又ハ瓦斯ノ供給モ其ノ仕事ヲ完成スル方面ヨリ見ルトキハ又請負契約ナルカ故ニ、一般公衆ノ爲ニ請負ヲ爲シ偶同時ニ市町村ノ爲ニ請負ヲ爲ス者モ亦被選擧權ヲ有セサルモノトス。物品ノ賣買契約ハ請負ニ非ス。

選擧ノ當日現ニ請負者タルヲ要ス

主トシテ爲スモノタルヲ要ス

支配人

無限責任社員

重役

「請負ヲ爲ス」ハ選擧ノ當日現ニ請負者タルコトヲ謂フ可ラス。請負ハ又之ヲ業トスルヲ必要トセス、一回ノ請負ニテモ所謂請負タリ。又實際上損失アリタルト否トヲ問ハス、主トシテ其ノ市町村ニ對スル請負ヲ爲ス者ノミヲ含ミ請負者ノ請負者ヲ含マス。

支配人トハ法定ノ範圍内ノ代理權ヲ有シ、之ニ制限ヲ加フルモ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカラサル商業使用人ヲ謂フ。主人ニ代ハリ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上及裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナルヲ以テ（商法第三十條）之ニ被選擧權ヲ有スル能ハサラシメタル亦當然ナリ。

七、市町村ニ對シ主トシテ請負ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人。　市町村ニ對スル請負ヲ主トシテ爲スモノナルヲ要ス。故ニ市町村ニ對スル請負ヲ爲スト共ニ、市町村ノ請負ヲ爲スモノノ如キハ茲ニ所謂法人ニ含マレス。故ニ電氣瓦斯ノ請負ヲ爲ス法人ト雖、市町村ノ爲ニ仕事ヲ完成スルヲ主タル目的ト爲ササルトキハ本項ニ所謂主トシテ請負ヲ爲ス法人ニ非ス。無限責任社員ハ法人ノ債務ニ付、自己ノ全財產ヲ以テ之カ辨濟ノ責ニ任スル社員ナルカ故ニ會社ニ對シ利害關係殊ニ深シ。故ニ被選擧權ヲ有セシメス。合名、合資及株式合資會社ノ無限責任社員等ノ如シ。重役ハ之ヲ通俗ノ意義ニ解スヘク取締役監査役ヲ指稱ス。重役

特別法ニ依リ被選舉權ヲ有セサル者

父子兄弟

モ亦支配人ト共ニ會社ヲ代表スヘキ地位ノモノナルカ故ニ、相共ニ被選舉權ヲ有セシメサルハ、當選ニ依リテ得タル地位ヲ濫用スルノ危險ヲ避ケントスルナリ。

以上各項ニ述ヘタル者ノ外、特別法ニ依リ被選舉權ヲ有セサルモノアリ。例ヘハ判事、會計檢査官行政裁判所長官及同許定官（裁判所構成法、會計檢査院法及行政裁判法）皆裁判乃至檢査ノ公平ヲ支持セシムルノ目的ニ出ツ。

本條第四項乃至第六項ハ被選舉權ヲ有スルモ特別ノ事由ニ依リ市町村會議員タリ得サル場合ヲ規定ス。

一、父子兄弟タル緣故アル者ハ、同時ニ議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス。父子トハ嫡出タルト庶出タルト、繼父子ノ關係タルト、子カ他家ニ養子ニ入リタルト、養親養子ノ關係タルトヲ問ハス。（一家ノ養子カ更ニ他家ノ養子トナリタル場合ヲモ含ム）兄弟トハ嫡出子、庶子私生子ノ間タルト、養子ト實子ノ間タルト、兄弟家ヲ別ニシタルモノタルトヲ問ハス。總テ父子兄弟ハ自然乃至法定ノ血族關係ヲ有スルヲ必要トスルヲ以テ姻族ヲ包含セス。故ニ妻ノ父兄ハ夫ノ父兄ニ非ス。而シテ父子兄弟ノ關係ハ、自然ノ血族關係ニ在リテハ戸籍ノ如何ヲ問ハス事實ニ依リテ決スヘク、法定ノ血族關係ハ事實ノ如何ヲ問ハス戸籍吏ニ屆出ノ有無ニ依リテ決ス。蓋自然ノ血族關係ニ於テハ戸籍ハ公證力ヲ有スルニ止マリ、法定ノ血族關係ニ於テハ戸籍ハ設定的效力ヲ有スレハナリ。父子兄弟同時ニ議員タルヲ得ストハ、被選舉權ヲ有セストノ謂ニ非ス。單ニ議員トシテ就職スルヲ得サルニ止マル、從ツテ其ノ投票ハ有效ナリ。

緣故ヲ生シタル場合

父子兄弟ノ緣故アル者同時ニ選舉セラレシ、得票同シキトキハ年長者ヲ當選者トス。等級又ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選トス。其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ、後ニ選舉セラレタル者ハ其ノ長上者タルト否トヲ問ハス議員タルヲ得サラシメタルハ既ニ議員タル者ノ權利ヲ尊重セルニ依ル。

緣故アル者

二、議員ト爲リタル後父子兄弟ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ、年少者其ノ職ヲ失フモノトス。故ニ兩議員間養親子ノ關係生シタル場合、甲議員カ乙議員ノ親ノ養子トナリタル場合、甲議員カ乙議員ト家ヲ同シウスル其ノ母ノ入夫トナリタル場合等皆此ノ適用アリ。私生子認知ノ訴訟確定シタルトキハ、其ノ確定ノ時ヲ以テ緣故ヲ生シタルモノト看做スヘシ。

以上二號カ緣故者ヲ議員タラシメサルハ、同族相比周シテ市町村ノ利害ヲ無視スルノ危險ヲ避ケントスルナリ。

三、市町村長、市參與又ハ助役ト父子兄弟ノ緣故アル者ハ、市町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス。故

ニ當選ノ當時既ニ緣故アル場合タルト、在職中ニ緣故ヲ生シタルトヲ問ハス。緣故アル者カ新ニ市町村長等ニ就職シタル場合ニモ亦適用アルコト勿論ナリ。此ノ如キハ父子兄弟ノ間、一ハ議員タリ他ハ公務ノ執行ニ任シ、勢ノ赴ク所或ハ情實ニ流レ、自治ノ發達ヲ阻害スルノ虞ナカラシメンカ爲ナリ。

（判例）

一　新聞社カ一定ノ料金ヲ得テ日々發行ノ新聞紙ニ府縣令違ノ記載ヲ引受クルハ請負ナリ（三四、二、二二、行判）

二　縣ノ金庫事務取扱ヲ引受ケルハ請負ナリ（三六、五、二五、行判）

三　府縣ノ爲新築工事ヲ請負タルモノカ其ノ工事ヲ完成シテ引續ヲ爲シタル以上ハ請負關係ハ該工事ノ保證期限ノ滿了ヲ待タスシテ直チニ終了ス（三八、二、二〇、行判）

四　縣ノ爲工事ノ請負ヲ爲シタルモ選舉前ニ於テ其ノ工事全ク竣工シ既ニ檢查モ濟ミテ單ニ請負金ノ拂渡ヲ受クルノ關係ヲ有スルニ過キサル者ハ府縣制第六條第九項ニ該當セス（三三、六、六、行判）

五　請負ヲ以テ業ト爲ス者ト雖郡會議員當選ノ當時其ノ郡ノ爲ニ請負ヲ爲ス者ニ非サレハ其ノ當選ヲ無效トスルヲ得ス（三八、五、三、行判）

六　請負ノ爲損失ヲ蒙リタルカ如キ場合ト雖請負タルヲ妨ケス（三七、一一、四、行判）

七　父子兄弟ハ綱族ヲ包含セス（三五、一二、三、行判）

市制第十九條　市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ毎級各別ニ市長抽籤シテ之ヲ定ム選舉區アル場合ニ於テハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選舉區及等級ニ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選舉區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

町村制第十六條　町村會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ毎級各別ニ町村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ニ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

本條ハ市町村會議員ノ性質其ノ任期及議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル場合又ハ選舉區若ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於ケル議員ノ地位ニ付規定ス。

市町村會議員ハ名譽職トス。名譽職ノ何タルカハ之ヲ市制第十條町村制第八條ニ於テ說明セリ、茲ニ贅セス。

任期

市町村會議員ノ任期ハ四年トシ、總選擧ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス。故ニ選擧數日ニ亙ルコトアルモ其ノ初日ヨリ起算スヘシ。特ニ起算日ヲ指定スルヲ以テ普通ノ計算法ニ依ラサルナリ。初日ヨリ起算スル故ヲ以テ當選者ハ此ノ日ニ遡リテ議員タル資格ヲ有スト爲ス可ラス。唯其ノ任期ノ計算ヲ一ナラシメンカ爲起算點ヲ一定シタルニ過キス。四年ハ曆ヲ以テ計算ス、四年目ノ應當日ノ前日限リニテ其ノ資格ヲ失フ。舊法ハ其ノ任期ヲ六年トシ半數改選ノ制ヲ採レリト雖、徒ラニ勞費ヲ要スルニ過キス、之カ任期ヲ四年トシ全部改選ノ制ヲ採ルモ、現今ニ於テハ市町村ノ事務ニ通達セル議員ヲ得ルコト困難ナラサルヲ以テ改メタルナリ。六年ノ任期ヲ四年ト爲セシハ全部改選ト相關連ス。同一議員ヲシテ六年ノ長日月議事ニ與ラシメ、其ノ間議員ノ一部ノ改選ヲモ爲ササルトキハ、變化發達スル市町村ノ事情ニ適應スル施政ヲ爲スニ不便アルコトアルノミナラス、之ヲ議員タル者ノ方面ヨリスルモ、六年間名譽職ノ負擔ヲ命セラルルハ一身ノ利害上過重ノ負擔タラスムハアラス、其ノ四年ニ短縮セシコトハ寧ロ當然ナリ。

議員定數ノ增減

議員ノ定數ハ、總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ、之ヲ增減セサルヲ原則トス。故ニ普通ノ場合ニ於テハ、總選擧ヲ行フトキ迄ハ、議員ノ定數ニ異動ヲ生スルコトナク、從ツテ解任ヲ要スルコトナク、新ニ議員ヲ選擧スル必要モナシ。然レトモ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ、內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ例外トシテ定數ノ增減ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ、此ノ場合ニ於テハ總選擧以前ニ於テ議員ノ解任又ハ議員ノ選擧ノ問題ヲ生ス（市制第十三條第五項町村制第十一條第四項）

減員

人口著シク減少シ、議員ノ定數ヲ減少セサル可ラサル場合ニ於テハ、其ノ減少數ハ常ニ市ニ在ツテハ三又ハ三ノ倍數、町村ニ在ツテハ二又ハ二ノ倍數トス。從ツテ市ニ在ツテハ三級毎級一人、町村ニ在ツテハ二級毎級一人ノ解任ヲ爲スヘク、之カ爲ニハ每級各別ニ市町村長抽籤ヲ以テ退職者ヲ定ムヘキモノトス。若シ市ニ於テ選擧區アル場合ニ於テハ、何レノ選擧區ニ於ケル第何級ノ內ヨリ解任スヘキヤヲ確定スル必要アリ。故ニ此ノ場合ニ於テハ、豫メ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選擧區及等級ヲ規定シ、市長ハ其ノ選擧區其ノ等級ニ於テ抽籤ニテ退職者ヲ定ムルモノトス。議員ハ當籤シタルニ依リ當然議員タルノ資格ヲ失フモノトス。但シ解任ヲ要スル等級又ハ選擧區ノ等級ニ闕員アルトキハ、其ノ闕員ヲ以テ減員ニ充ツルモノトス。故ニ若シ或ル等級ニ於テ解任スヘキ者二名以上アリ、一名ノ闕員アリタルトキハ、先ツ此ノ闕員ヲ以テ減員ニ充テ、殘餘ノ減員數ニ付抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス。

增員

人口著シク增加シ議員ノ定數ヲ增加スヘキトキハ、其ノ增加數ハ市ニ在ツテハ三又ハ三ノ倍數、町村ニ在ツテハ二又ハ二ノ倍數トス。增加ノ爲ニスル選擧モ亦一般選擧ノ規定ニ從フヘク、選擧セラレタル議員ノ任期ハ、總選擧ニ依リ選擧セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄トス。蓋全部改選ノ趣旨ヲ貫徹セントスルナリ。

選舉區又ハ配當議員數ノ變更

市ノ選舉區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘキモノトス。選舉區ノ變更トハ既存ノ二選舉區ヲ合シテ一選舉區ト爲シ、一選舉區ヲ分チテ二選舉區ト爲スカ如シ。斯ノ如キ場合ニ於テハ、現在ノ議員ヲ如何ニ配屬セシムルヤハ、條例ヲ以テ規定スルヲ要スルナリ。選舉區ノ配當議員數ノ變更トハ增員選舉ニ伴ヒ配當議員定數ヲ變更スル場合及市ノ議員數ニハ變更ナク、單ニ選舉區ヨリ選出シ得ヘキ議員數ニ變更アル場合ヲ謂フ。此等ノ變更アリタルトキハ、何人ハ如何ナル選舉區ノ選出ナルヤ不明ニ屬スルヲ以テ其ノ退任等ノ場合ニ於テ之カ補闕選舉ヲ、何レノ區ニ於テ行フヘキヤ不明ナルニ依リ、此等ノ關係ヲ明ニスル爲、或ハ抽籤ヲ以テ其ノ所屬選舉區ヲ定ムルカ如キ、必要ナル事項ハ之ヲ前記市條例中ニ記載スルヲ要ス。然レトモ議員ハ選舉區ノ代表者ニ非サレハ、現任ノ議員ノ爲ニ選舉區カ必要ナルニ在ラス、後日ノ選舉ノ爲ニ必要アルニ過キサルヲ以テ、其ノ所屬指定ノ如キハ、次ニ來ルヘキ選舉ヲ行フ迄ニ之ヲ定ムルヲ以テ足ル。

（判例）

一　任期半數ハ曆年ニ依リ計算スヘキモノトス（二六・一二・七、行列）

市制第二十條　町村制第十七條　市町村會議員中闕員ヲ生シ其ノ闕員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事市長若ハ町村長ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

（甲）補闕選舉

補闕ノ二場合

本條ハ補闕選舉ニ關スル規定ナリ。蓋補闕選舉トハ議員ノ定數ニ闕員ヲ生シタル場合ニ於テ、其ノ闕員ヲ補充スルカ爲ニ行フ選舉ヲ謂フ。議員ノ定數ハ市制第十三條町村制第十一條之ヲ定ム。定數ニ對スル闕員ヲ補充スルハ、理論上市町村ノ意思ノ決定ヲ完全ナラシムルニ於テ必要ナルコト論ヲ俟タス。然レトモ其ノ定數ヲ闕ク毎ニ常ニ之カ補闕選舉ヲ行フコトハ、選舉ノ爲市町村ヲ忙殺スルト同時ニ、市町村公民ヲシテ負擔ト煩雜トノ爲ニ苦マシムル虞ナシトセス。即本條第一項ノ規定アル所以ナリ。

補闕選舉ヲ行フヘキ場合ハ分チテ二トス。一ハ闕員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキニシテ、二ハ市ニ在ツテハ府縣知事市長又ハ市會、町村ニ在ツテハ郡長町村長又ハ町村會ニ於テ必要ト認メタルトキトス。闕員ヲ生シタル理由ハ議員ノ死亡タルト辭職タルトヲ問ハス。補闕選舉ハ總選舉ニ對ス。故ニ議員ノ死亡又ハ辭職ニ依リ、四年ノ任期中ニ於テ一人ノ議員モナキニ至リタルトキハ、總選舉ヲ行フヘク其ハ補闕選舉ニ非ス。舊法ハ補闕選舉ト定期改選トニ分チタルヲ以テ、定期改選前議員全部ノ選舉ハ補闕選舉ナリヤ否ヤノ疑ヲ生シタレトモ、本法ニ於テハ疑問ノ餘地ナシ。

闕員議員定數三分ノ一以上トナシタルハ、其ノ以下ナル場合ニ於テハ、議事ヲ開クニ於テ大ナル支

任期

障ヲ見サルヘク、之ヲ補闕スルニ要スル勞費カ其ノ結果ヲ償フ能ハサル場合多シト認メタルニ依ル。

「三分ノ一以上」ハ勿論三分ノ一ヲ含ム。三分ノ一ヲ定ヲ許サス。然レトモ闕員三分一未滿ノ場合ト雖、或ハ議員ノ出席常ニ少ク、議員定數ノ半以上ノ出席ヲ得ルコト能ハサルカ如キ狀態ニ在ルトキニ於テハ、前記權限アル者ノ認定ニ依リ市町村長ハ必ス補闕選擧ヲ行ハサルヘカラス。認定ハ監督官廳タル府縣知事タルト、郡長タルト、市長町村長タルト、市會町村會タルトヲ問ハス、單獨ノ意思ヲ以テ爲スコトヲ得。

補闕ニ依リ議員トナリシ者ハ、其ノ前任者ノ殘任期間在任スルモノトス。殘任期間トハ、總選擧ノ第一日ヨリ起算シ四年ノ內前任者ノ在任期間、及其ノ期間ト後任者ノ議員トナリタル迄ノ期間ヲ控除シタル殘餘ノ期間ナリトス。

補闕議員ハ前任者ノ選擧セラレタル等級ニ於テ之ヲ選擧スヘク、且市ニ在リテハ仍前任者ノ選擧セラレタル選擧區ニ於テ之ヲ選擧スヘキモノトス。蓋等級及選擧區ヲ分チタル立法ノ主旨ニ合致セシムル爲ニ外ナラサルナリ。

市制第二十一條　市長ハ選擧期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人ノ資格ヲ記載セル選擧人名簿ヲ調製スヘシ但シ選擧區アルトキハ選擧區毎ニ名簿ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ名簿ヲ調製セシムヘシ

市長ハ選擧期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役所第六條ノ市ニ於テハ區役所又ハ告示シタル場所ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ市長第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縱覽期間滿了後三日以內ニ市會ノ決定ニ付スヘシ

タル日ヨリ七日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加ヘ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ修正セシムヘシ」

選擧人名簿ハ選擧期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除ク外其ノ確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ用ヰ一部ノ選擧區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以內ニ該選擧區ニ於テ各選擧區ニ渉リ同時ニ調製シタルモノハ確定後ニ於テ次ノ選擧期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

ヲ用ヰ一部ノ選擧區限リ調製シタルモノハ確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選擧期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ

シテ之ヲ告示セシムヘシ

選擧分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選擧人ハ等級ノ標準タル直接市稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ二級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ三級ニ於テ選擧ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第六項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無效トナリタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選擧人名簿ヲ調製後ニ於テ選擧期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用井縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選擧期日ニ依リ之ヲ算定ス

町村制　第十八條　町村長ハ選擧期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人ノ資格ヲ記載セル選擧人名簿ヲ調製スヘシ

町村長ハ選擧期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間每日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ告示シタル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縱覽期間滿了後三日以內ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選擧人名簿ハ選擧期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定ジタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選擧期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

選擧分會ヲ設クルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接町村稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ但シ直接町村稅又ハ直接國稅ヲ以テ等級ノ標準ト爲ササル町村ニ於テハ選舉長ノ定ムル所ニ依ル

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第二項乃至第五項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無效トナルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ郡長ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用井縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

選舉名簿

本條ハ選舉人名簿ニ關スル規定ナリ。選舉人名簿トハ、選舉人ノ氏名及資格ヲ登錄セル名簿ニシテ之ニ依リ何人カ選舉權ヲ有スルカヲ、形式的ニ文書ヲ以テ確定スルモノナリ。何人カ實質的ニ選舉權ヲ有スルカニ付テハ、既ニ市制第十四條町村制第十二條ニ規定スル所ニシテ、其ノ實質的ニ選舉權ヲ有スル者カ、更ニ形式的ニ選舉權ヲ有スルノ事實ヲ確定シ、公ニ文書ヲ以テ證明スルモノハ選舉人名簿ナリ。選舉人名簿調製ノ第一ノ目的ハ、此ノ形式的手段ニ依リ、公ノ監督ノ下ニ、選舉權ニ關スル實質的規定カ侵害セラルルヲ防クニ在リ。其ノ第二ノ目的ハ、選舉行爲ニ關シ、後ニ至リ非議スルコトアランモ計ルヘカラサルニ付、之ニ對シ正確ナリシトノ事實ヲ證明スル形式的基礎ヲ供スルニ在リ。選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ハ選舉權ヲ行フコトヲ得ルモ、然ラサル者ハ選舉權ヲ行フコトヲ得ス、選舉權ノ行否ニ關スル問題ナリ。故ニ被選舉權トハ何等ノ關係ヲ有スルコトナシ。例ヘハ住民ニシテ、選舉人名簿調製ノトキニ選舉權ヲ有セス、從テ選舉人名簿ニ登錄セラレサルトキハ、假令選舉ノ日ニ於テ選舉權ヲ有スルモ、選舉權ヲ行使スルコト能ハサルニ反シ、被選舉權者ハ、選舉ノ日ニ被選舉資格ヲ有スルヲ以テ足レリトス。斯ノ如ク選舉人名簿ハ、實質的ニ選舉權ヲ有スルコトヲ、形式的ニ證明スルノ手段ナリ。選舉權ヲ行使スルニハ、獨リ實質的ニ選舉權ノ要件ヲ具備スルコトヲ以テ足レリトセス、形式的ニ選舉人名簿ニ登錄セラルルヲ以テ必要トス。故ニ實際選舉權ノ規定ニ適合シテ之ヲ有スル者ト雖、選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ハ、選舉權ヲ行使スルコトヲ得ス。然レトモ之ト同時ニ選舉權ノ實質的要件ヲ具備セサル者ハ、假令形式的ニ選舉人名簿ニ登錄セラルルモ、之カ爲ニ選舉權ヲ行使シ得ルコトトハナラサルナリ。要スルニ選舉權行使ノ要件ハ、實質的ニ選舉權ヲ有スルコト及形式的ニ選舉人名簿ニ登錄セラルルコト之ナリ。

選舉權行使ノ要件

名簿ノ調製

本條市制町村制各第一項及本條市制第二項ハ、選舉人名簿調製ニ關スル規定ナリ。（樣式ハ附錄四十四年內務省訓令第十號參照）舊法ニ於テハ、選舉原簿ヲ調製シ各選舉人ノ資格ヲ記載セシメ之ニ依リ此ノ原簿ニ依リテ更ニ選舉人名簿ヲ調製セシムルノ制ナリシカ、徒ニ煩瑣ヲ加ヘ勞費ヲ要スルコト

調製期日ノ計算方

大ナルヲ以テ、改正法ニ於テハ之ヲ改メ選舉人名簿ノミヲ調製スルヲ以テ足レリトセリ。選舉人名簿ヲ調製スル者ハ市町村長タルヲ原則トス、但シ第六條ノ市ニ於テハ、市長ハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘキモノトス（市制本條第二項）。選舉人名簿調製ノ期日ハ、選舉期日前六十日ナリ。選舉期日前六十日トハ如何ナル計算法ニ依ルヘキヤ、選舉日ヲ算入スヘキヤ、又ハ選舉當日ヲ算入セスシテ、其ノ前日ヨリ計算スヘキモノナリヤト謂フニ、選舉當日ノ前日ヨリ遡リテ計算スヘキモノトス、故ニ例ヘハ七月一日ヲ以テ選舉期日トセハ、六月三十日ヨリ始メテ六十日ヲ計算シ、五月二日ヲ以テ選舉人名簿調製ノ期日ト爲ササルヘカラス。次ニ選舉人名簿調製ノ期日ハ、選舉期日前六十日ナルモ、其ノ記載スヘキ選舉人ハ、選舉人名簿調製期日ニ於テ、選舉權ヲ有スル者ニ限ルヤ　或ハ假令名簿調製期日ニハ年齡未タ二十五歳ニ達セサルモ、若シ選舉人ニシテ生存スレハ、選舉期日ニハ、二十五歳ト爲ル者アルトキハ、斯ル者ヲモ尙記載スヘキモノナリヤ。舊法ニ於テハ、疑ヲ生スルコトナキニ非サリシモ、新法ニ於テハ「其ノ日ノ現在ニ依リ」ト明定シ、以テ選舉人名簿調製期日ニ於テ選舉權ヲ有スル者ニ限リ、名簿ニ登錄スヘキコトヲ明ニセリ。故ニ名簿調製期日ニ選舉資格ノ要件ナキ者ハ、假令該期日後名簿確定前ニ於テ相續ヲ爲シ、以テ之カ要件ヲ具フルニ至ルモ、之ヲ名簿ニ加載スルコトヲ得ス。而シテ名簿ハ選舉區アルトキハ、選舉區毎ニ之ヲ調製スヘキモノトス。其ノ然ル所以ハ選舉區ノ性質ニ付、前述セル所ニ依リテ明ナリ。

縱覽及異議

本條市制第三項及町村制第二項ハ、選舉人名簿ノ縱覽及關係者ノ異議ニ關スル規定ナリ。選舉人名簿ハ、前述ノ如ク重大ナル效力ヲ有スヘキモノナルカ故ニ、適法ニ成立シタルモノナラサルヘカラサルハ勿論ナリ。市町村長又ハ第六條ノ市ノ區長ノ調査カ時ニ或ハ誤謬ナキヲ保セス。故ニ利害關係者ヲシテ之カ縱覽ノ機會ヲ得セシメ、若シ誤謬アラハ之カ訂正ノ道ヲ講スルヲ得セシメサルヘカラス、之レ即名簿縱覽ノ制アル所以ナリ。市町村長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ、其ノ日ヨリ七日間引續キ、毎日午前八時ヨリ午後四時迄、市ニ於テハ市役所（第六條ノ市ニ於テハ區役所）又ハ告示シタル場所、町村ニ於テハ町村役場又ハ告示シタル場所ニ於テ、名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ。「選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間」トハ、例ヘハ選舉期日ハ七月一日ナルトキハ、六月三十日ヨリ始メテ四十日ヲ計算シ、五月二十二日ヨリ五月二十八日迄トス。縱覽ノ期間ニハ大祭祝日日曜日アリト雖モ最終日ニ該當セサル限、固ヨリ之ヲ算入スヘク、其ノ時間ハ午前八時ヨリ午後四時ニ至ル迄ニシテ、大祭祝日ト雖之ヲ變更スルコトヲ得ス。又選舉名簿ノ調製ノ日ハ、前述ノ如ク選舉期日前六十日ニシテ、之カ縱覽ハ選舉期日前四十日ヲ以テ始メサルヘカラス、其ノ間二十日ヲ算ス。此ノ期間ハ如何ナル事由アルモ之ヲ伸張スルコトヲ許ササルカ故ニ、多數ノ選舉人ヲ有スル市町村ニ於テハ、豫メ期間ヲ愆ラサルコトニ注意セサルヘカラス。名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スル場所ハ、市ニ於テハ市役所（第六條ノ市ニ於テハ區役所）、町村ニ於テハ町村役場ト爲スヲ以テ通例トス、然レトモ亦別ニ市町村ノ都合ニ依

縱覽ニ供スル場所

リ、他ノ場所ニ於テ縱覽セシムルモ妨ケナシ、唯此ノ場合ニ於テハ、其ノ場所ハ特ニ之ヲ告示スルコトヲ要ス。若シ之ヲ告示セサルニ於テハ、其ノ縱覽提供ハ適法ノモノト云フヲ得ス。「關係者」ノ範圍ニ付テハ、別ニ明定シタルモノナシト雖、市町村公民、代人等ハ勿論、廣ク名簿ノ正否ニ付利害關係ヲ有スル者ヲ指稱スヘシ。本條ニハ選擧人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシトアリ。故ニ名簿ハ利害關係人甲ナル者ノ登錄ヲ爲シタル部分ニ限リ之カ縱覽ヲ許シ、其ノ他ノ部分ノ縱覽ヲ禁スルカ如キハ、固ヨリ不當ニシテ、甲ニ對シテモ名簿全部ヲ擧ケテ、其ノ閱覽ニ供セサルヘカラス。然トモ之カ爲、市町村長又ハ第六條ノ市ノ區長ハ、名簿ノ謄本ヲ作成ヲ許可スルノ義務ナク、又ハ名簿謄本ノ作成ヲ許可スルノ義務ヲ負フモノニ非ス、但シ市町村長又ハ第六條ノ市ノ區長ハ、關係者カ縱覽ノ際便宜寫シ取ルコトヲ許スコトヲ得ヘク、又之ヲ拒絶スルモ縱覽ノ適法ヲ害スルコトナシ。關係者カ名簿ニ對シ異議アルトキハ、縱覽期間內ニ、市ニ於テハ之ヲ市長（第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テ）ニ、町村ニ於テハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得。關係者ハ自己ノ選擧權ニ付テ異議アラハ之ヲ申立ツルコトヲ得ルノミナラス、他人ノ選擧權ニ付テモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘク、又異議ノ內容ハ或ハ名簿ニ記載セラレタルモノヲ削除スヘシト主張シ、或ハ反對ニ記載セラレサル者ヲ記載スヘシト主張シ、或ハ名簿記載ノ事實カ誤謬アリトシテ指摘スルニ在ルヘク、或ハ進ンテ一部又ハ全部ヲ無效ナリト主張スルニ在ルヘシ。又異議ノ申立ハ漠然タルコトヲ許サス、名簿ニ關シ一定ノ具體的缺點ヲ指摘スルヲ要スヘシ。異議ヲ申立

異議ノ申立

關係者

ツルノ期間ハ縱覽期間內ナリ。縱覽期間トハ七日間ニシテ、七日目ノ午後十二時迄ヲ謂フ。此ノ期間ヲ經過スルトキハ、縱令其ノ名簿ニ不正ノ事項登載セラレアルモ、關係者ハ最早異議ヲ申立ツルノ餘地ナシ。市町村長ハ異議ノ申立ヲ受ケタルトキハ、縱覽期間滿了ノ後即縱覽期間ノ終リノ日ノ翌日ヨリ三日以內ニ、之ヲ市町村會ノ決定ニ付スヘシ、此ノ場合ニ於ケル市町村會ハ、市町村ノ議決機關ニ非スシテ、一種ノ行政處分ヲ爲スノ機關ナリ。市町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ決定スルコトヲ要ス。

本條市制第四項第五項第六項及町村制第三項第四項第五項ハ、市町村會ノ決定ニ對スル訴願訴訟ニ關スル規定ナリ。關係者市町村會ノ決定ニ不服ナルトキハ、府縣參事會ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得ヘク、其ノ訴願ノ裁決ニ不服アルトキハ、行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘシ（市制第四項町村制第三項）。市町村長市町村會ノ決定ニ對シテ不服ナルトキハ、府縣參事會ニ訴願ヲ提起シ、其ノ裁決ニ不服ナルトキハ、行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得（市制第五項町村制第四項）。此ノ市町村長ノ求メタル府縣參事會ノ裁決ニ不服アル關係者ハ、行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（市制第五項町村制第四項）。關係者及市町村長ノ求メタル訴願ノ裁決ニ不服アル府縣知事ハ、行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得（市制第六項町村制第五項）。今之ヲ圖示スレハ左ノ如シ

市町村會ノ決定ニ對シ
- 關係者（訴願ヲ提起シ得）―（此ノ裁決ニ對シ）
- 市町村長（訴願ヲ提起シ得）―（此ノ裁決ニ對シ）
  - 關係者（訴訟ヲ提起シ得）
  - 市町村長（同）上
  - 府縣知事（同）上

茲ニ注意スヘキハ市制第五項及町村制第四項ニ規定シタル「前項ノ裁決」ノ意義之ナリ。所謂前項ノ裁決トハ、前項ノ規定ニ依リ行ハルル裁決ノ義ニ非ス、前項ノ規定中ニ揭ケラレタル裁決ノ義ナリ。而シテ前項ニ揭ケラレタル裁決中ニハ、市町村會ノ決定ニ不服アル者ヨリ府縣參事會ニ訴願シ之ニ對シテ爲サレタル裁決、及市町村長カ各本項ニ依リ爲シタル訴願ニ對スル裁決ヲ包含ス。故ニ市町村長ハ前項ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ爲シタル裁決ニ對シ、訴訟ヲ提起シ得ルハ勿論、本項ニ依リ自己ノ提起シタル訴願ニ付、府縣參事會ノ爲シタル裁決ニ對シテモ亦訴訟ヲ提起シ得ルモノタルコト之ナリ。又「決定ニ不服アル者」又ハ「裁決ニ不服アル者」トハ、單ニ決定ヲ受ケ其ノ決定ニ不服アル者、裁決ヲ受ケ其ノ裁決ニ不服アル者ノミナラス、一般ニ他ノ利害關係人ニシテ、不服アル者ヲモ包含セシムルノ法意ナリ。故ニ改正法ニ於テハ、若シ決定ヲ受ケタル者ニシテ不服アルトキニノミ訴願ヲ許シ、又ハ

- 關係者（訴訟ヲ提起シ得）
- 市町村長（同）上
- 府縣知事（同）上
- 關係者（同）上
- 市町村長（同）上
- 府縣知事（同）上

裁決ヲ受ケ不服アル者ニノミ訴訟ヲ許スノ趣旨ナルトキハ、之ヲ區別シテ「決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ……ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得」トノ書セリ（例ヘハ市制第三十八條第三項）、又訴願訴訟提起ノ期間ニ關シテハ、市制第百六十條町村制第百四十條ニ規定セリ。

名簿ノ修正

市制第七項町村制第六項ハ、名簿ノ修正ニ關スル規定ナリ。抑名簿ハ之ヲ縱覽ニ供シタル以上ハ、猥リニ之ヲ變更增減スルコトヲ許サス、其ノ變更增減ヲ許スハ、法ノ特ニ認メタル場合ニ限ル。故ニ例ヘハ市町村長カ、縱覽ニ供シタル後、自ラ其ノ脫漏錯誤ヲ發見スルモ、直ニ加筆修正スルヲ得サルナリ。即市町村會ノ決定若ハ府縣參事會ノ裁決確定シ、又ハ行政裁判所ノ判決アリタルニ依リ、名簿ノ修正ヲ要スルトキハ、市町村長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘク、第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ修正セシムヘシ。選舉名簿ノ確定期日ニ付テハ次項ニ規定セリ。

名簿ノ確定

市制第八項町村制第七項ハ、選舉人名簿ノ確定ニ付規定セリ。名簿確定ノ效力ハ確定シテヨリ後ハ選舉終了ニ至ル迄、何等ノ誤謬アルモ之ヲ修正變更スルコトヲ得サルノ點ニ存ス。故ニ若シ名簿確定前ニ決定若ハ裁決確定シ、又ハ判決アリタルニ依リ、名簿ノ修正ヲ要スル場合ニ於テハ、名簿確定期日前ニ之カ修正ヲ加フヘキコト前項ニ於テ述ヘタルカ如クニシテ、若シ一旦名簿確定シタルトキハ、之ニ修正ヲ加フルコトヲ得ス。而シテ名簿確定前、決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ爲ス

ヘキ名簿ノ修正ハ、選擧ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選擧期日前四日迄ニモ、之ヲ修正スルコト能ハサルヲ以テ（次項但書參照）、若シ名簿確定前ニ修正ヲ加ヘサレハ、終ニ修正ノ途ナキナリ。選擧人名簿ハ選擧期日前三日ヲ以テ確定ス、例ヘハ選擧期日カ七月一日ナルトキハ、六月二十九日即選擧期日ヨリ中二日ヲ隔テタル前日ヲ以テ確定ス。

永續名簿

市制第九項町村制第八項ハ、選擧人名簿永續ニ關スル規定ナリ。永續名簿ノ制トハ一旦調製シタル名簿ハ、一回ノ選擧ニ之ヲ用ウルノミナラス、一定ノ期間之ヲ据エ置キ、其ノ期間ニ行フ選擧ニ之ヲ使用スルヲ謂フ。永續名簿ニ對スルモノハ隨時名簿ナリ、隨時名簿ノ制トハ、選擧ヲ行フ毎ニ新ニ名簿ヲ調製スルヲ謂フ。舊法ニ於テハ隨時名簿ノ制ヲ用キ、永續名簿ノ制ヲ採ラサリキ。固ヨリ理論ヨリ之ヲ謂ハハ、選擧毎ニ新ニ名簿ヲ作成スルコト能ク理論ニ合セルモノニシテ、最モ公明精確ニ選擧權ヲ表示スルモノナリト雖、斯ノ如キハ、實際上ニ於ケル煩勞極メテ大ナルモノアルヲ如何セン。故ニ一旦名簿ノ作成アリタル以上ハ、其ノ效力ヲシテ一定ノ期間永續セシムルコト便宜トス、之レ即名簿永續ノ制ヲ採リタル所以ナリ。然ルニ衆議院議員選擧法又ハ府縣制ニ於テハ、毎年一定ノ時期ニ於テ、必ス名簿ヲ調製セシメ、而シテ其ノ成リタル上ハ、一年間据置クノ制度ヲ採用セリト雖、毎年調製ヲ爲スニハ、少カラス勞費ヲ要スルノミナラス、市町村會議員ニ付テハ、斯ル必要アルコト少シ。何トナレハ市町村會議員ノ補闕選擧ハ、其ノ闕員、議員定數ノ三分ノ一ニ到リタルトキ、又ハ府縣知事郡長市町村長若ハ市町村會ニ於テ、必要ト認ムルトキニ非サレハ之ヲ行ハサルカ故ナリ。即改正法ニ於テハ隨時ニ之ヲ調製セシムルノ主義ヲ採リタルモノニシテ、此ノ點ヨリスレハ隨時名簿ニ近シト云フヘシ。要スルニ改正法ニ於テハ隨時名簿ト永續名簿トノ制ヲ混淆折半シタルモノト云フヲ得ヘシ。即確定名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ用ウルモノトス。市ニ於テ選擧區アル場合ニ於テハ、各選擧區ニ渉リ同時ニ、調製シタルモノハ、確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ用ヒ。一部ノ選擧區限リ調製シタルモノハ、確定シタル日ヨリ一年以內ニ該選擧區ニ於テノミ行フ選擧ニ之ヲ用ウ。故ニ此ノ一年以內ニ於テ、新ニ選擧權ノ實質的要件ヲ具備スルニ至レル者アルモ、名簿ハ確定不動ノモノトナリタルヲ以テ、其ノ名簿ニ登載セラルルコトナク、從テ選擧權行使ノ形式的要件ヲ缺クコトトナルヲ以テ、遂ニ選擧ヲ爲スコトヲ得ス。然トモ茲ニ注意スヘキハ、確定名簿ノ永續ニ對スル例外ノ場合ナリ。即市ニ於テハ市制第三條ノ廢置分合、又ハ第四條ノ境界變更アリタルトキハ、著シク名簿ニ變更ヲ生スル場合アルヘシ、例ヘハ一市ノ半ヲ割キテ他ノ市ニ合シタルカ如キ場合ニ於テハ、從來ノ市ノ選擧人名簿ヲ以テシテハ、到底選擧ニ堪ヘサルカ故ニ、一年以內ニ於テ行フ選擧ト雖、府縣知事ハ別ニ指定シテ名簿ヲ調製セシムヘシ。若シ市ノ境界ヲ變更シタルモ、別ニ選擧人ニ何等ノ影響ナキカ如キ場合ニハ、從來ノ市ノ名簿ヲ以テ一年以內ノ永續的效力ヲ有セシムルモ差支ナシ、此ノ場合ニハ知事ハ指定シテ別ニ名簿調製ヲ命スルコトナシ。要スルニ第三條

隨時名簿

名簿永續ノ廢止

又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於テ、新ニ名簿ヲ調製スルト否トハ、知事ノ指定ニ基クモノナリ。町村制ニ於テモ亦之ト同シク、第三條ニ依リ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキハ、同シク知事ノ指定スルト否トニ依リ、名簿調製ト否トヲ決スヘキナリ。

確定名簿修正ノ場合

確定名簿ノ修正ヲ爲スヘキ唯一ノ場合アリ。名簿確定前ニ訴願訴訟ヲ提起シ、名簿決定後ニ至リ、裁決確定シ、又ハ判決アリタルニ依リ、名簿ノ修正ヲ要スルトキハ、選舉ヲ終リタル後ニ於テ、一年以內ニ於テ行ハルル次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ。即其ノ確定名簿ニ修正ヲ加フルハ、次ノ選舉ノ場合ニ於ケル修正ニシテ、最初ノ選舉ノ場合ニ非ス。又次ノ選舉期日前四日迄ニ修正スヘシトアルハ、最初ノ選舉ノ場合ニ、選舉期日前三日ヲ以テ之ヲ確定ストセルト同一ノ趣旨ニ出テタルモノナリ。

告示

市制第十項町村制第九項ハ、名簿ヲ修正シタル場合ニ於ケル告示ノ規定ナリ。即チ市制第七項第九項但書町村制第六項第八項但書ノ場合ニ、名簿ニ修正ヲ加ヘタルトキハ、市町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ、第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシム。

名簿ノ抄本

市制第十一項町村制第十項ハ、名簿ノ抄本ニ關スル規定ナリ。市ニ於テ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ、選舉區毎ニ名簿ヲ調製スルコト前述ノ如シト雖、選舉分會ハ、單ニ投票ノ便宜ノ爲ニ設ケタル區劃ナルコト前述ノ如クニシテ、特別ニ名簿ヲ調製スルコトナシ。而シテ名簿ハ選舉本會ニ在ルヲ以テ、選舉人ハ選舉分會ニ至ルモ對照ヲ爲スヘキ名簿ナキコトトナルヘシ。是ニ於テ名簿抄本調製ノ必要ヲ生シタルナリ。即チ選舉分會ヲ設クルトキハ、市町村長ハ確定名簿ニ依リ、分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘク、第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘキモノトス。抄本ニ付テハ修正等ノ手續ニ關スル規定ナシ。若シ正本ト異ナルトキハ何時ニテモ市町村長ニ於テ修正シ得ヘキモノナリ。

確定名簿ノ效力

市制第十二項町村制第十一項ハ、確定名簿ノ效力ニ關スル一部ノ規定ナリ。即チ確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ、原則トシテ選舉ニ參與スルコトヲ得ス。確定名簿ニ登錄セラレタル者ナルモ、形式的ノ要件タル名簿登錄ヲ缺如スルヲ以テ、選舉ニ參與スルコトヲ得ス。舉權ヲ有スル者ナルモ、形式的ノ要件タル名簿登錄ヲ缺如スルヲ以テ、選舉ニ參與スルコトヲ得ス。舊法ニ於テモ亦此ノ主義ヲ採用セリ。蓋シ名簿調製ノ期日ニ於テ選舉權ヲ有スルモ、名簿ニ登錄セラレサリシ場合ニ於テハ、縱覽期間內ニ異議ノ申立ヲ爲スヘク、自ラ異議申立ノ權利ヲ有シナカラ、之ヲ行使セスシテ其ノ儘失權スルニ至ルハ、自ラ棄ツルノ行爲ニシテ法律ハ斯ル者ヲモ保護スルノ要ナキヲ以テナリ。唯、然トモ確定名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ、選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ、自ラ選舉權ヲ棄ツル者ニ非サルノミナラス、寧ロ一般以上ニ之ヲ尊重スル者ナルヲ以テ、名簿ニ登錄ナキモ選舉權ヲ行ハシムルノミナラス、選舉立會人ト爲リ、又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ストノ意ナリ。

選舉ニ參與スルヲ得ス

市制第十三項町村制第十二項ハ、前項但書ノ選擧人即名簿ニ登錄ナクシテ選擧權ヲ行フ者ノ等級ニ關スル規定ナリ。斯ノ如キ選擧人ノ等級ハ、其ノ市町村ニ於テ等級ノ標準タル、直接市町村稅又ハ直接國稅ノ多少ニ依ルモノトス。即チ市ニ在リテハ其ノ者ノ納額ニシテ、名簿ニ登錄セラレタル一級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ、二級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ、其ノ他ハ三級ニ於テ選擧ヲ行ヒ、町村ニ在リテハ一級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ、其ノ他ハ二級ニ於テ選擧ヲ行フモノトス。但シ町村ニ於テ直接町村稅又ハ直接國稅ヲ以テ、等級ノ標準トナスヘキヤ否ハ、町村ニ於テ之ヲ定ムルモノトス。

名簿ハ選擧權ヲ證ス

市制第十四項町村制第十三項ハ、確定名簿ノ選擧權ヲ造成スルモノニ非サルコトヲ明ニスルノ規定ナリ。確定名簿ハ選擧權行使ノ形式上ノ要件ニ外ナラサルコトハ、屢々縷述セル所タリ。故ニ形式上一應選擧名簿ニ登錄セラレタル者ト雖、選擧ノ當日ニ實質上選擧權ヲ有セサル者カ、確定名簿ニ登錄セラルルハ、或ハ參與スルコトヲ得サルモノトセリ。實際上選擧權ヲ有セサル者カ、確定名簿ニ登錄セラルルアリ、或ハ名簿調製ノ當時ニ於テハ選擧權ヲ有スルモ、後ニ至リテ選擧權ヲ喪失スルコトアリ、此等ノ者ハ假令確定名簿ニ登錄アルモ選擧權アル者ヲ公ニ證明スルノ手段タルニ止リ、選擧權ナキ者カ之ニ登載セラルルモ、之カ爲ニ選擧權ヲ獲得セシムルモノニ非サレハナリ。又名簿調製ノ當時ニ於テハ、選擧權ヲ有セサル者カ、誤リテ名簿ニ登錄セラレタルニ、後ニ至リテ選擧權ヲ取得シ、選擧ノ當時引續キ之ヲ保有スルトキハ、選擧權ヲ行使スルコトヲ得ルヤト云フニ、此ノ場合ニ於テハ選擧名簿調製ノ當時、名簿ニ登載セラレタルハ誤リナルカ故ニ、形式的要件ハ誤謬ニ依リテ具備スルニ至リタルモノニシテ、假令後ニ至リテ選擧權ヲ收得スルモ、選擧權ヲ行使スルコトヲ得スト云ハサルヘカラス。而シテ確定名簿ニ登載セラレタル者、選擧權ヲ有セサル場合ニ於テモ、一旦確定シタル名簿ハ之ヲ不動ノモノタラシメ、決シテ之ニ修正ヲ加フルコトナカラシメタリ。

名簿再調製

市制第十五項町村制第十四項ハ、名簿再調製ニ關スル規定ナリ。名簿再調ノ場合ハ之ヲ分テ二トス、一ハ法律上ノ滅失即チ無效ノ場合ニシテ、二ハ事實上ノ滅失ナリ。即已ニ說明シタルカ如ク、異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ、選擧人名簿カ無效トナリタルトキハ、更ニ名簿ヲ調製スヘキモノトス。名簿ノ無效トハ如何ナル場合ヲ指スカ、例ヘハ名簿調製ノ權限ナキ者カ之ヲ作リタルカ如キ、或ハ名簿ヲ縱覽ニ供シタル後、決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ、其ノ結果トシテ名簿ヲ修正スル場合ヲ除キ、其ノ他ノ場合ニ之ヲ修正シタルカ如キ、或ハ法律ニ定メタル場所以外ニ於テ縱覽セシメタルカ如キ之ニ屬スヘシ。而シテ名簿無效トナリタルカ爲ニ再調ヲ爲ストキハ、法定期日ハ既ニ幾分經過シタル後ナルヲ以テ、通常ノ場合ニ於ケル名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ之ヲ守ルコトヲ得サルヤ勿論ナリ。故ニ此ノ場合

ニ於テハ、此等ニ關シ市ニ在リテハ府縣知事、町村ニ在リテハ郡長ニ於テ、適宜ニ之ヲ定ムルモノトセリ。名簿カ事實上滅失シタル場合ニ於テモ、亦名簿無效ノ場合ト異ラサル手續ニ依リテ、名簿ヲ再調ス。茲ニ期日トハ、名簿調製ニハ或ル期日ヲ定ムルヲ要スルカ如キ、期間トハ、名簿縱覽ニハ一定ノ期間ヲ要スル如キ、期限トハ、異議ノ申立ハ縱覽期間內ニ爲スヘキカ如キヲ指示スルモノナリ。

選舉期日變更トノ關係

本條末項ハ名簿調製後ニ於テ、選舉期日ヲ變更シタル場合ニ關スル規定ナリ。即選舉人名簿調製後ニ於テ、選舉期日ヲ變更スルコトアルモ、名簿ハ別ニ之ヲ改調スルコトナク、且其ノ縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ變更シタル選舉期日ニ依ラス、前ノ選舉期日ニ依リテ之ヲ算定スルモノトス。本項ニ於テハ廣ク選舉期日ヲ變更スルコトアルモノト規定シ、延長モ短縮モ意味スルカ如シト雖、立法ノ精神ハ選舉期日ノ延長ヲ意味シ、其ノ短縮ノ場合ヲ豫想シタルモノニアラス。事實ニ於テモ短縮ハ三日以上之ヲ爲スコト能ハサルコトト爲ルヲ以テ多クハ制限セラルヘシ。何トナレハ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ、名簿確定ノ期日ハ前選舉期日ヨリ起算スルヲ以テ例ヘハ七月一日ノ選舉期日ヲ四日繰リ上ケ、六月二十七日ト爲セリトセムカ。此ノ場合ニ於テモ名簿ハ前選舉期日前三日、即六月二十八日ニ至ラサレハ確定セス。而シテ確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコト能ハサルヲ以テ、六月二十七日ノ新期日ニ於テハ、何人モ選舉ヲ爲シ得サルコトニ歸着スヘケレハナリ

（判例）

一　選舉名簿ノ確定ハ資格享有ノ原因トナルモノニ非ス（二六、一、二一、行判）

二　名簿ハ選舉權ノ有無ヲ決定セス（二六、七、一〇、行判）

三　選舉名簿ノ正否ニ關シテハ關係者ニ於テ訴願ヲ爲スコトヲ得（二六、五、二五、行判）

四　理事者ノ過誤ニ依リ實際村費ヲ納メサルモ資格アル者ヲ登錄シタルハ違法ニアラス（二九、二、二八、行判）

五　市長カ訴願ナキ選舉人名簿ノ修正ヲ市會ニ請求シタルハ違法ナリ（三二、四、一二、行判）

六　選舉名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉權ヲ行使スルコトヲ得ス（三二、一〇、一六、行判）

七　理事者ノ過失ニ依リ選舉原簿調製期日ヲ遲延シタル場合ニ於テハ原狀回復ノ途ナク即チ不能ノモノナルヲ以テ順延セル選舉ヲ取消ス限リニアラス（三六、七、一〇、行判）

（增）

市制　第二十二條　市長ハ選舉期日前少クトモ七日間選舉會場、投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區アル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

町村制　第十九條　町村長ハ選舉期日前少クトモ七日間選舉會場、投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ

議員數ヲ告示スヘシ選擧分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級區劃ヲ告示スヘシ
選擧分會ノ選擧ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選擧ヲ行フコト能ハサルトキハ町村長ハ其ノ選擧ヲ終ラサル選擧會又ハ選擧分會ノミニ關シ更ニ選擧會場及投票ノ日時ヲ告示シ選擧ヲ行フヘシ
選擧ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ一級ノ選擧ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選擧ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ選擧ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選擧會場及投票ノ日時ヲ告示シ選擧ヲ行フヘシ

告示機關

告示ノ時期及其ノ期間

本條ハ選擧・告示、選擧ノ日時及等級選擧ノ順序ニ關スル規定ナリ。選擧ノ告示ヲ爲ス機關ハ市町村長ナリ、代ツテ其ノ職務ヲ行フ權限アル者ヲ含ムコト勿論ナリ。告示ハ選擧ノ期日前ニ於テ少クトモ七日間之ヲ爲スヘシ。七日ノ期間カ繼續的ノモノタルヲ要スルヤ否ヤニ付テハ、議論ナキニ在ラス。或ハ假令間斷アルモ、前後ヲ通シテ七日タレハ足ルト、主張スル者ナキニ非サルモ、若シ然ラムニハ、市町村長ハ、七日ノ告示ヲ七回ニ分チ爲スモ、亦有效ナリト云ハサルヘカラス。斯ノ如キハ全ク期間ノ觀念ニ反ス。故ニ期間ヲ示シタルモノハ、特ニ通算ノ規定ナキ限リ、連續シタルモノタルヲ要スルハ當然ナリ。七日間繼續シテ告示ノ存スルニ於テハ、普通其ノ生柄ヲ周知セシムルニ充分ナリト爲シタルナリ。然トモ茲ニ注意ヲ要スヘキハ本條規定ノ存スル所以カ、理事者ノ短期告示ヲ制限スルト共ニ、時時自然ノ剝離又ハ他人ノ破毀等ニ依リ、告示ノ直ニ存在セサルニ至リタル如キ場合ニ於テ、故障ナク選擧ノ執行セラルルコトヲ避クル爲ナルコト之レナリ。既ニ剝離又ハ破毀ヲ防クニ存スル以上、告示カ事實ニ於テ中斷セラルルコトアルモ法ノ觀念ニ於テ、中斷ト見ルヲ要セサルモノナルトキハ、之ヲ繼續セルモノト云ハサルヘカラス。故ニ告示カ破毀ノ日ニ於テ、直ニ從前ノ日付ヲ以テ再ヒ告示セラレ、又ハ破毀ノ翌日ニ於テ、之ト同一ノ處理ヲ爲シタルトキハ、繼續ノモノト爲スニ於テ妨ケナシ、然トモ日ヲ以テ計算スル期間ニ於テ、中間ニ一日以上ノ日子ヲ挾ムモノハ、法ノ觀念ニ於テモ亦中斷アリタリト云ハサルヘカラス、從テ告示ハ更ニ其ノ以後ノ日附ニ於テ新ニ爲サルヘキモノトス。

告示事項

選擧會場

告示ハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一　選擧會場　選擧會場トハ投票ヲ爲スヘキ一定ノ場所ヲ云フ。選擧會場ハ斯ノ如ク告示ニ依リテ定マリ、選擧人ハ又告示ニ依リテ其ノ場所ヲ知ルヘキモノナレハ、之カ變更ハ告示ノ變更ニ依リテスルノ外ナシ。一定ノ場所トハ、特定セル建造物又ハ其ノ一室一區劃ヲ謂フモノニ非ス、選擧人ヲシテ其ノ所在ヲ知ルヲ得セシメハ即チ可ナリ、從テ例ヘハ某家ノ甲室ヨリ乙室ニ變更スルカ如キハ會場ノ變更トナラス、會場入口ノ變更モ亦會場ノ變更ニ非ス、甲建物ヨリ之ト同一地内ニ在ル乙建物ニ變更スルモ亦會場ノ變更ト云フヘカラス。然トモ若シ其ノ建物ニシテ、特ニ會場トシテ告示セラレタルトキハ、其ノ變更ハ會場ノ變更タルハ言ヒ須ヒス

投票日時

二　投票ノ日時　投票ノ日時トハ投票ヲ爲スヘキ日、投票開始ノ時並投票函閉鎖ノ時ヲ云フ。其ノ目

的選擧人ヲシテ選擧權ヲ行フノ時期ヲ知ラシムルノ手續ニ依ルノ外ナシ。然レトモ投票日時ノ規定ノ趣旨ハ、其ノ指定ノ日時ニ於テ、理事者ハ選擧人カ投票ヲ行ヒ得ル狀態ニ置クノ義務ヲ負ヒ、又選擧人ハ其ノ日時以前ニ於テ、選擧權ヲ主張シ得サラシムルニ存スルヲ以テ、若シ選擧會場ニシテ指定ノ日時ニ開始セラレ、選擧人ニシテ其ノ指定ノ日時ニ選擧會場ニ到達スルニ於テハ、其ノ事實上ノ投票行爲カ、何時ニ始マリ何時ニ終リタルヤハ關係スル所ニ在ラス。故ニ例ヘハ所定ノ時間ニ於テ會場ニ入リタル者カ、多人數ノ爲投票ヲ爲サムトスルモ、理事者ニ於テ手廻リ兼ネシト云フノ理由ヲ以テ、時間變更ナリト云フ能ハス。又指定ノ時間内ニ會場ニ入リタル者ヲシテ、指定時間以後ニ渉リ投票ノ事實行爲ヲ爲サシメタリト云フ故ヲ以テ時間變更ナリト云フヘカラサルナリ

議員數

三　各級ヨリ選出スヘキ議員ノ數　即各級別ニ議員數ヲ告示スルヲ要スルナリ

分會

四　選擧分會ヲ設クル場合ニハ其ノ等級及區劃　即何レノ部分ヨリ何レノ部分ニ渉ルモノナルヤヲ告示スヘキナリ

選擧區

五　市ニ在リテハ選擧區ヲ設ケタルトキハ、各級ヨリ選擧スヘキ議員數ヲ、選擧區毎ニ分別シテ告示スルヲ要ス。此ノ點ニ關シテハ選擧區ニ關スル說明ヲ參照セラルヘシ

連名投票

連名投票ヲ用ウヘキ場合（市制第二十五條第五項但書町村制第二十二條第五項但書）ニハ之ヲ告示スルコト穩當ナルヘシ。然トモ其ノ要件ニハ在ラス、故ニ告示セサルモ無效ニハアラス。

以上告示事項ハ事實上及ヒ法律上可能ナルコトヲ要ス。例ヘハ投票ノ日ヲ四月三十一日ト爲スカ如キハ事實上不能ナルヘク、選擧區又ハ選擧分會ニ關スル告示カ、市制第十六條又ハ市制第十七條若クハ町村制第十四條ニ基ク、設定自體ト一致セサルカ如キ場合其ノ他市ニ在リテハ各選擧區ノ投票日時ヲ異ニシタル場合又ハ選擧本分會相互間ニ於テ、投票日時ヲ異ニシタル場合ノ如キハ法律上不能ナリ。斯ル場合ニ於テハ其ノ告示ハ無效ナリ。故ニ若シ之ヲ補正シタルトキハ之ヲ以テ新ナル告示ト看做シ。七日ノ期間ハ其ノ補正アリタル日ヨリ之ヲ計算セサルヘカラス。

告示ノ變更訂正

告示ヲ變更又ハ訂正スルトキハ如何ニスヘキヤ。告示ノ變更トハ告示ノ内容ニ變更ヲ及ホス場合ニシテ、前告示ヲ取消シ又ハ前告示ヲ補充シ若ハ前告示ヲ取消シ且前告示ヲ補充シ新ナル告示ヲ以テスルヲ要スルニ在リ。從テ告示ノ變更ハ論ナシ。告示ノ訂正トハ告示ノ内容ニ變更ヲ及ホサス、唯其ノ字句ノ誤記ヲ改ムルニ過キサルモノヲ云フ。訂正ハ告示其ノモノヲ變更スルニ非サルヲ以テ、告示期間ノ更新ヲ來スコトナクシテ、之ヲ爲シ得ト云ハサルヘカラス。告示ノ方法ニ付キテハ別段ノ定メナキモ市町村ノ定メタル一般ノ公告式ニ依リテ爲スヘキコト、市制第十二條町村制第十條ノ場合ト異ナルコトナシ。

告示方法

同時選擧

選擧區又ハ選擧本分會ニ於ケル選擧ハ同一日時ニ於テ爲スコトヲ要ス。即市ニ於ケル選擧區相互間

又ハ市町村選擧本分會相互間ニ於テハ、選擧ハ之ヲ同一日時ニ行フヘキモノトス、同一日時トハ選擧ノ全體ヲ一括シテ之ヲ云フニ非ス、各等級間ニ於テ之ヲ云フナリ。從テ市ノ選擧會ニ於テ投票時間ヲ午前八時ヨリ正午迄ト爲シ、二級議員ノミヲ選擧スヘキ選擧分會ニ於テハ、午前十時ヨリ同十一時迄ナリトスルモ、此ノ點ノミヲ以テハ、未タ選擧同時ノ原則ニ反スルモノナリト云フヲ得ス、選擧會ニ於ケル二級選擧ノ時間カ午前十時ニ始マラス、又ハ午前十一時ニ終ラサル場合ニ於テ始メテ違法タルヘキモノトス。然レトモ天災事變等ニ依リ選擧同時ノ原則ニ依ルコト能ハサルトキハ、市町村長ハ其ノ選擧ヲ終ラサル選擧會又ハ選擧分會ノミニ關シ、更ニ選擧會場及投票日時ヲ告示シ、選擧ヲ行フヘキモノトス。天災事變等トハ一切ノ不可抗力ヲ云フ。不可抗力ノ意義及範圍ハ通常ノ觀念ヲ以テ之ヲ定ムルノ外ナシ、必スシモ之ヲ風火水震害等ニ限ルヘカラス、又此等ノ事由ヲ以テ常ニ不可抗力ナリト速斷スヘカラス。要ハ今日ノ人智ニ基キ、豫メ之ヲ避クルノ途アリヤ否ヤニ依リ決スヘキモノトス。之カ途アリヤ否ヤハ客觀的外部ノ事實ニ依リテ定マリ、主觀的事情ニ依リテ影響アルモノニ非ス。茲ニ所謂選擧ヲ終ラサルトハ、投票ヲ終ラサルノ意即投票函閉鎖ノ時間以前ト云フノ意ナリト解スヘキナリ、是レ此ノ場合ニ於ケル告示事項ニ鑑ルトキハ甚タ明瞭ナリト謂フヘシ、勿論未タ選擧ヲ開始スルニ至ラサル場合ヲ含ムハ言ヲ須ヒサレトモ、投票函閉鎖後不可抗力ニ依リ、選擧事務ヲ行フ能ハサルニ至リタルトキハ、選擧會ハ他日單ニ開票査定スルノミニテ足リ。投票ヲ新ニスルヲ要セサレハナリ。

投票開始後不可抗力ニ依リテ、投票ヲ終ルコト能ハサリシ場合ニ於ケル選擧ハ、前ノ選擧ヲ繼續スルモノナリヤ否ヤ、選擧ハ嚴正ニ行ハルルコトヲ要スルヲ以テ、斯ノ如キ事變ニ依リ中止シタル投票ヲ繼續セシムルハ、時ニ不都合ヲ生スルコトアルヲ免カレス。故ニ法ハ天災事變カ事前ナル場合ト、既ニ着手シタル後ニ在ル場合トヲ區別スルコトナク、總テ新ニ投票ヲ行ハシムルコトトナセリ。然レトモ新ニ行フ選擧ハ、畢竟前ノ選擧又ハ其ノ繼續ニ外ナラサルヲ以テ性質上當然ノ結果トシテ、前選擧ノ告示ハ新選擧告示ノ一部タル效力ヲ有シ、新告示ニナキ事項ハ前告示ニ依ルヘキモノトス。選擧會場ノ如キモ、前告示ニ依ルヲ得サルニ非スト雖モ、不可抗力ニ依リ選擧ヲ終ルコトヲ得サル場合ハ、前ノ選擧會場ニ依リ難キヲ通常トスルヲ以テ、特ニ之ヲ告示セシムルモノナリト解セサルヲ得ス。此ノ場合ニ於ケル告示ノ期間ニ付テハ別ニ規定ナシト雖、其ノ新規事項タルノ點ヨリ七日間タルヘキハ當然ノ事理ナリトス。

等級選擧ヲ行フ順序ハ、市ニ在リテハ先ツ三級ノ選擧ヲ行ヒ、三級選擧ヲ終リタル後二級ノ選擧ヲ行ヒ、之ヲ終リタル後一級ノ選擧ヲ行フヘキモノトス。而シテ選擧ハ當選者ヲ定ムルニ外ナラサルニ由リ、未タ其ノ當選者ノ定マラサルトキハ、選擧ヲ終リタルモノナリト云フ能ハス。從テ例ヘハ二級選擧ノ投票ヲ了シ、其ノ當選ヲ査定セス、閉函ノ儘、一級選擧ノ投票ヲ始メ、之カ投票ヲ了シタル後、二級選擧ノ投票函ヲ開キテ其ノ當選者ヲ點檢シ、續

テ一級選舉ノ當選者ヲ點檢スルカ如キハ違法ナリ。又市町村長カ自己ノ意見ニ依リ此ノ順序ヲ變更スルカ如キハ絕對ニ之ヲ許ササルナリ。

等級選舉ニ順序ヲ附シ、同時ニ行ハサラシムルハ、選舉ノ整理上ノ便宜ヲ圖リ、比較的多數ノ選舉人ヲ有スル下級選舉人ヲシテ、先ツ投票ヲ行ハシムルヲ相當ト爲シタルニ在リ。又他方ニ於テハ、重複シテ同一人ヲ選舉スルノ不便ヲ避ケシメントスルニ外ナラサルナリ。

天災事變其他ノ不可抗力ニ依リ、選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ、市町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ、更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ　選舉ヲ行フヘキモノトス、此ノ場合ニ於ケル選舉ヲ終ラサルノ意義カ、投票ヲ終ラサルノ義タルコトハ既ニ述ヘタル所ト同シ

（判　例）

一　二級選舉ノ不法ヲ理由トシ其報酬ナキ一級選舉ニ及ホシ全部ノ選舉ヲ取消サントスル請求ハ當ヲ得ス（二四、二、三、行列）

二　二級選舉ノ當選者ヲ査定セス一級選舉ノ投票ヲ始メタルハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノトス（二六、二、二三、行列）

三　投票日時ノ告示ノ但書ニ時間ハ便宜變更スルコトアル旨ヲ豫告シタル　ノミナラス告示ノ同時ニ開始シ最行者アリタル爲不得止時間ヲ延長シタルカ如キハ本條ニ違背シタルモノニアラス（二六、四、一四、行列）

四　建物ノ入口等ヲ異ニスルモ等シク同一地内ニ於テスル以上ハ選舉會場ヲ移轉シタルモ不法ニ會場ヲ變更シタリト云フヲ得ス（二六、五、八、行列）

五　一家屋内ニ於テ一定ノ區域ヲ設ケ之ヲ以テ選舉會場ト爲シタル場合同區域外ニ在リシ者ヲシテ投票ヲ行ハシメサルモ違法ノ處分ニアラス（二六、六、一二、行列）

六　三級選舉ヲ結了セサルニ先ヲ二級一級ノ選舉ヲ行ヒタル證據アル場合ハ二級及一級ノ選舉ヲ取消シ三級選舉ハ之ヲ取消スヘキニアラス（二六、六、一二、行列）

七　最初開會時限ヲ告示シ更ニ開會時限ノ告知書ヲ發シタルトキハ後ノ告知書ハ前キノ告示ヲ補充シタルモノト認メサルヘカラス依テ告知ノ時限即チ閉會時限ヲ過キタル後ニ於テ爲シタル投票ハ有效ノモノト云フヘカラス（二七、四、一六、行列）

（此ノ判例ハ適當ナラスト認ム）

八　選舉告示ノ期間ハ選舉ノ當日ヲ算入スヘカラス（二九、七、九、行列）

九　選舉前二日ニ至リ豫テ公告シタル選舉ノ場所ヲ變更シテ執行シタル選舉ハ違法ナリ（三一、六、四、行列）

一〇　一旦告示シタル選舉期日ノ時間ニ誤記アルコトヲ發見シ翌日ニ至リ其訂正ヲ爲シタル場合ニ在リテ訂正ノ日ヨリ起算スルニ於テハ該告示ニヨリ行フタル選舉ハ適法ナリ（三二、五、二六、行列）

（此ノ判例ハ適當ナラスト認ム）

一一　選舉期日ニ至リ相當ノ理由アリテ豫定ノ時間ヲ繰下ケテ選舉ヲ開始シタルハ違法ニアラス（三二、六、三〇、行列）

一二　止ムヲ得サルノ事由存セサルニ一旦公告シタル選舉ノ期日ヲ變更シタルハ違法ナリ（三二、一二、八、行列）

一三　村長カ職務停止中爲シタル公告ニヨリテ執行シタル選舉ハ違法ナリ（三二、一二、一八、行列）

一四　法定ノ期間内ニ公告ヲ爲サスシテ執行シタル選舉ハ全部取消スヘキモノトス（三二、一二、一八、行列）

一五　選舉ノ日時ヲ定メテ公告後其開會時間ヲ增加スルモ選舉權行使ニ何等ノ障害ヲ及ホササレハ之ヲ違法トスルヲ得ス（三九、五、二五、行列）

一六　公告ノ方法ニ付何等規定ヲ設ケサレハ町村長カ或ル揭示場廢止ノ手續ヲ爲サスシテ選舉ノ公告ヲ揭ケサルモ他ノ揭示場ニ之ヲ揭ケタル以上ハ本條ニ違背セス（四〇、四、一七、行列）

市制町村制釋義

市制第二十三條 市長ハ選擧長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

各選擧區ノ選擧會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員第六條ノ市ニ於テハ區長選擧長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選擧分會ハ市長ノ指名シタル吏員選擧分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長第六條ノ市ニ於テハ區長ハ選擧人中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ但シ選擧區アルトキ又ハ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選擧立會人ヲ設クヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

町村制第二十條 町村長ハ選擧長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選擧分會ハ町村長ノ指名シタル吏員選擧分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

町村長ハ選擧人中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ但シ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選擧立會人ヲ設クヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

選擧長

本條ハ選擧長、選擧分會長及選擧立會人ニ關スル規定ナリ。各選擧會ニ選擧長ヲ置ク、選擧長ト爲ルヘキ者ハ原則トシテ市町村長トシ、市ノ選擧區ニ於テハ市制第六條ノ市ナル場合ニハ其ノ區長、其ノ他ノ市ナル場合ニハ市長又ハ市長ノ指名シタル吏員トス。

選擧長タルモノハ斯ノ如ク一ノ職務ニ當然隨伴スルモノト、指名ニ依ルモノトアリ。而シテ選擧長ニ故障アリテ、其ノ任ニ當ルコト能ハサルトキハ、職務ノ當然ノ結果トシテ選擧長タルニ至リタルモノハ、其ノ職務ヲ代理スル者ニ於テ選擧長ヲ代理スヘク、指名ニ依ルモノニ關シテハ新ニ他ノ者ヲ指名スヘキモノトス。

選擧長ノ權限

選擧長ハ選擧會ヲ開閉シ、其ノ取締ニ任ス。或ハ入場ノ許否ヲ決シ、或ハ會場ノ秩序ヲ紊スノ行爲アリト認ムル者ニ退出ヲ命シ、或ハ一旦退出ヲ命シタル者ヲシテ最後ニ入場スルコトヲ許ス等皆選擧長ノ爲スヘキ事項ナリ。抽籤ヲ以テ當選者ヲ定メ其ノ他選擧錄ヲ調製スルカ如キモ亦選擧長ノ爲スヘキ責務ナリ。

分會長

各選擧分會ニハ選擧分會長ヲ置ク。選擧分會長ト爲ルヘキ者ハ、市町村長ノ指名シタル吏員ナリ、選擧會長ハ選擧分會ヲ開閉シ、其ノ取締ニ任スルコト、選擧長ノ選擧會ニ於ケルト權限ヲ一ニス。然レトモ選擧分會長ハ當選者ヲ定ムルコト能ハス、選擧分會長ハ選擧分會ニ於ケル投票ヲ投票函ノ儘本會ニ送致スルヲ要ス。

立會人

選擧會及選擧分會ニ選擧立會人ヲ設ク。選擧立會人ハ市町村長（市制第六條ノ市ニ於テハ區長）選擧人中ヨリ之ヲ選任ス。茲ニ所謂選擧人トハ、確定選擧人名簿ニ登錄セラレ、選擧ノ當時選擧權ヲ有スル市町村公民ヲ指スモノナリ。蓋シ選擧立會人ハ名譽職ニシテ、名譽職タル權利ト義務トヲ有スル者ハ、市町村公民以外ニ之ヲ求ムヘキニ非サレハナリ。

選擧立會人ノ數ハ二人乃至四人トス。舊法ニ於テハ二人若ハ四人ト爲シタルヲ以テ、奇數ノ立會人

ヲ置クハ法意ニ反シ、奇數ノ立會人ヲ以テ事ヲ決スルハ違法ナリシト雖モ、改正法ニ於テハ、選擧立會人ノ最少限度ト、最大限度ヲ定メタルニ過キサルカ故ニ、三人ノ選擧立會人ヲ置クハ妨ナシ。

選擧立會人カ中途退任シタルカ爲ニ、其ノ法定數ヲ缺クニ至リタルトキハ、選任ニ依リテ直ニ之ヲ補充スルヲ要シ、直ニ補充ヲ爲シタルトキハ、始メヨリ法定數ヲ缺キタルコトナキモノナリト言ハサルヘカラス。法定數ヲ缺クニ至ラサル場合ハ、補充ノ要ナシ。

選擧立會人ハ名譽職トス。名譽職ノ意義如何ハ已ニ市制第十條町村制第八條ノ下ニ於テ之ヲ述ヘタルカ如シ。

選擧ハ以上ノ役員出席シテ爲スヲ要ス。而シテ其ノ出席ノ有無ハ事實出席ノ有無ニ依リテ決スヘク、選擧錄ニ署名アリヤ否ヤニ依リテノミ定ムヘキニ非サルナリ。

（判例）

一　係長タル村長缺席ノ間選擧場ノ內取締ノ爲ニ假リニ助役ニ其事務ヲ授ケシムルモ違法ニアラス（二六、三、一一、行判）

二　本條ハ選擧係ノ職務ノ補助ヲ爲サシムル者ノ設定ヲ禁スルモノニアラス（二六、一二、一六、行判）

三　無級各別ニ選擧係ヲ選任スヘキ規定ニアラス（二六、一二、一六、行判）

四　選擧錄ニ係長ノ署名ナキモ必スシモ其選擧ハ無效ニアラス（三〇、一、二七、行判）

五　選擧係長ハ選擧會場ノ取締上必要ト認ムルトキハ他級ノ選擧人ノ入場ヲ拒絕スルコトヲ得（三〇、四、一三、行判）

六　選擧係ハ選擧人タルノ外何等ノ制限ナクレハ被選擧人ノ氏名ヲ白書スルコトヲ得サルノ故ヲ以テ選擧係タル資格ナシト云フヲ得ス（四一、二一、一八、行判）

市制第二十四條
町村制第二十一條　選擧人ニ非サル者ハ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選擧會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ渉リ又ハ投票ニ關シ協議者ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選擧長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選擧會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

選擧會場ニ入リ得ル者

選擧人

本條ハ選擧會場取締ニ關スル規定ナリ。選擧會場ハ選擧ヲ行フ場所ナルヲ以テ、選擧ニ關係ナキ者ヲシテ入場セシムヘキモノニ非ス。是レ蓋シ選擧會場ノ混雜ヲ防止シ、合セテ選擧ノ公正ヲ確保スルヲ所以ナリ。而シテ選擧會場ニ入ルコトヲ得サル者ノ範圍ハ、選擧會場ニ入ルコトヲ得ル者ヲ說明スルニ依リテ自ラ明ナルコトヲ得ヘキヲ以テ以下此ノ點ヲ說明スヘシ。

一、選擧人　選擧人カ選擧會場ニ入ルヲ得ルハ言フ迄モナシ。本條ニ所謂選擧人ノ範圍ニ關シテハ、別ニ規定ナシト雖、選擧會ト選擧人ノ關係ナルヲ以テ、其ノ選擧會ニ直接ノ關係ニ立テル所謂所屬選擧人ニ限ルモノト解セサルヘカラス。從テ市ニ於テ選擧區アル場合ニ於テハ、甲區ノ選擧人ハ乙區ノ選擧人ニ非ス。選擧分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ、分會ノ選擧人ハ同時ニ本會ノ選擧人タ

事務員

リ、本會ノ選擧人ハ同時ニ分會ノ選擧人タリ。選擧人ハ又等級ニ因リテ之ヲ分別シテ云フモノニ非ス。一ノ級ノ選擧人ハ他ノ級ノ玆ニ所謂選擧人タルヲ妨ケス。

所謂選擧人ノ範圍ハ上述スル所ヲ以テ明ナルヘシ、而シテ此ノ選擧人ト雖、代人ヲ以テ投票スルコトヲ必要トスル者（市制第二十七條町村制第二十四條）ハ、代人ヲ以テ投票ヲ爲シ得ル者（同上）ト雖、一旦代人ヲ指定シタル以上ハ、自己ハ選擧人ト云フヲ得ス、代人ヲ以テ玆ニ所謂選擧人ナリト爲ササルヘカラス。

二、選擧會場ノ事務ニ從事スル者　此等ノ者カ選擧會場ニ入ルヲ得ルモ亦自明ノ理ナリ。選擧會場ノ事務トハ廣ク之ヲ解スルヲ當然トス、從テ會場ノ取締、選擧人名簿ノ照合、投票ノ整理其他選擧事務ニ關スル諸役務ヲ包含スト謂フヘシ。選擧長、（選擧分會ニ於テハ分會長）選擧立會人ハ勿論、選擧事務ニ關スル補助者及給仕等之ナリ。

三、選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者　即監督官廳（市ニ於テハ府縣知事及內務大臣、町村ニ於テハ郡長、府縣知事及內務大臣）及監督官廳ヨリ命ヲ受ケタル官吏ナリ。

四、警察官吏　警察官吏ノ意義範圍ニ付キテハ、市制第十八條町村制第十五條ニ關シテ述ヘタル所ノ如シ。舊法ニ於テハ現ニ會場ノ秩序ヲ妨害シ、選擧長ニ於テ制止スルヲ得サル場合ニ非サレハ、警察官吏ノ入場ヲ爲サシムルコト能ハサルヤ、或ハ又豫メ警察官吏ヲシテ入場セシムルコトヲ得ル

ヤハ、疑ナリシト雖、改正法ハ明文ヲ以テ、警察官吏ハ當然入場スルコトヲ得ルモノトシタルナリ。

以上述ヘタル以外ノ者カ、選擧會場ニ入リタルトキハ、選擧長（選擧分會ニ於テハ分會長）之ニ退出ヲ命スヘキナリ。若シ選擧長（選擧分會ニ於テハ分會長）直チニ退出ヲ命シタルトキハ、單ニ無權者ノ入場シタルノミヲ以テ、選擧ノ規定ニ違反シタルモノナリト云フヲ得サレトモ、爲ニ選擧人ニ非サル者ヲシテ、選擧ニ參與セシメタルニ於テハ、選擧ノ規定ニ違反シタルモノト謂フヘシ。然トモ之カ爲ニ選擧ヲ無效トスヘキヤ否ヤハ別個ノ問題ナリ（市制第三十五條町村制第三十二條參照）

選擧會場ニ於テハ演說討論ヲ爲シ、若ハ喧擾ニ渉ルコトヲ得ス。投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ、其他選擧會場ノ秩序ヲ紊ス行爲ヲ爲スコトヲ得ス。此等ノ行爲ヲ爲シタル者ニ對スル第一ノ處分ハ之ヲ制止スルニ在リ。制止ハ選擧長（選擧分會ニ於テハ分會長）之ヲ爲ス。而シテ其ノ制止ニ從ハサルトキハ、之ヲ場外ニ退出セシムヘキモノトス。故ニ選擧人ニ退出ヲ命スルニハ、第一ニ法ノ禁止シタル行爲ヲ爲シタルコトヲ要シ、第二ニ選擧長（選擧分會ニ於テハ分會長）ニ於テ之ヲ制止シタルコトヲ要シ、第三ニ選擧人ニ於テ其ノ制止ニ從ハサリシコトヲ要ス。選擧人ニ退出ヲ命シ得ヘキ場合ヲ斯ノ如ク限定セルハ、選擧權ヲ害スルコトナカラシメントスルニ在リ。

從テ選擧長（選擧分會ニ於テハ分會長）ハ、禁止行爲ニ該當スル行爲ヲ爲シタルニ非ル者ヲ、退出セ

最後ノ投票ハ權利ナリ

シムルコトヲ得サルヤ明ナリ。又禁止行爲ヲ爲スノ危險アリトシテ之ニ退場ヲ命シ、又ハ其ノ入場ヲ拒絶スルカ如キコトモ、爲シ得ヘカラサルナリ。

禁止行爲ヲ爲シタルカ爲ニ、會場ヨリ退出セシメラレタルモノハ、最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得。即成規ノ時間内ニ、會場ニ入リタル選擧人カ、全部投票ヲ終リタルトキハ、投票ヲ爲シ得ルナリ。最後ニ投票ヲ爲スト雖、權利ナルニ依リ、若シ投票カ時間内ニ終ラサリシ場合ニ於テハ、此等ノ者ハ時間内ニ選擧場ニ入リタルモノトシテ、時間後ニ渉リ事實ノ投票ヲ爲サシメサルヘカラス。然トモ若シ選擧長又ハ分會長ニ於テ、會場ノ秩序ヲ紊ス虞ナシト認定スルニ於テハ、最後迄待タシムルノ要ナキヲ以テ、但書ヲ以テ隨時投票スルコトヲ得セシメタルナリ。

（判例）

一　數葉ノ投票カ同一筆跡ニ成リタル事實ハ選擧人互ニ協議ヲ爲タリトノ證據トナラス（二九、六、九、行判）

二　選擧長ハ會場ノ取締上必要ト認ムルトキハ他級ノ選擧人ノ入場ヲ拒絶スルコトヲ得（三〇、四、一三、行判）

三　選擧無資格者カ選擧人ノ代理トシテ選擧權ヲ行使スルノ目的ヲ以テ選擧會場ニ入リタルハ本條ノ規定ニ違背スルモ爲ニ選擧全體ニ影響ニ及ホスヘキモノニアラス（三五、二、一九、行判）

四　選擧開會中無資格者ノ選擧會場ニ入ルハ無資格者自ラ本條ノ規定ヲ犯スモノニシテ他人ノ施行スル選擧ヲ妨ケテ之ヲ無效ト爲シ得ルモノニアラス（三六、六、一、行判）

五　無資格者カ入場セシモ直チニ退場セシトキハ其選擧ハ違法ニ非ス（二九、九、二一、行判）

六　會場取締投票整理等ノ爲メ雇人ヲ入場セシメタルハ違法ニ非ス（二六、四、一四、行判）（三二、一二、二七、行判）

（增）

七　選擧人以外ノ者入場シ恣ニ投票シタル選擧ト雖モ選擧ヲ全部無效トセス（三三、三、三〇、行判）（三三、六、一五、行判）

八　會場取締ノ爲役場吏員ヲ入場セシムルハ違法ニ非ス（二八、二、八、行判）

九　無資格者カ入場シ一選擧人ノ投票ヲ奪取シタル事實アルモ警察官ノ制止ニ依リ其ノ無資格者ヲ退出セシメタル後更ニ用紙ヲ交付シテ投票ヲ爲サシメタル事實明確ナルトキハ該選擧ハ無效ニアラス（三三、六、八、行判）

市制　第二十五條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間内ニ自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選擧人ノ數其ノ選擧スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選擧區アル場合ニ於テ選擧人名簿ノ調製後選擧人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選擧人ハ前所屬ノ選擧區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選擧立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

町村制　第二十二條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第二編　第二章　第一款　市制　第二十五條　町村制　第二十二條

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間内ニ自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選擧人ノ數其ノ選擧スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選擧立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

本條ハ選擧ノ方法ヲ規定シ、併セテ選擧分會ニ於ケル投票ヲ本會ニ送致スル方法ヲ規定ス。

選擧ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ。投票トハ選擧人カ自己ノ選擧スル被選擧人ヲ指定スル一方的要式行爲ナリ。選擧人投票ヲ爲スニハ、選擧ノ當日投票時間ニ、自ラ選擧會場ニ到リ、選擧人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘキモノナリ。投票ノ日時ハ市町村長之カ告示ヲ爲スヘキモノナルコト前ニ述ヘタル所ノ如シ。而シテ投票時間内ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ、假令投票時間經過後ト雖、投票ヲ爲スヲ妨ケス。

投票ニハ投票者ノ氏名、其ノ他投票者ヲ表示スルニ足ル文句ヲ記入スルコトヲ得ス。法文ニ所謂無記名投票即之ナリ。記名投票ト無記名投票トノ利害得失ハ、紛論擾議ヲ重ヌト雖、無記名投票ハ投票人ノ自由意思ヲ制限スルコト少キニ於テ利アリトス。之レ本條カ無記名式ヲ採用シタル所以ナリ。從テ投票者ノ氏名ヲ記入シ影寫シ其ノ他投票者ノ何人タリヤヲ示スノ記號文字ヲ記入スルヲ許サス。又投票ハ一人一票ニ限ル。而シテ僞名者カ先ニ投票ヲ爲シタル事實ハ、眞ノ選擧人ノ投票ヲ妨クルモノニ非サルナリ。

投票ハ被選擧人ノ氏名ヲ記入シテ爲スコトヲ要ス。氏名ヲ記ストハ本人ノ戸籍ニ記載セラレタル文字ヲ用ウルコト最モ正當ナリト雖、元被選人ヲ表示スルノ方法ナルヲ以テ、假令假名文字ヲ用ウルモ其ノ何人ヲ指示スルヤヲ知リ得ルモノナルニ於テハ、支障ナシト云ハサルヘカラス。又被選擧權ヲ有スル者ナルヲ以テ足リ、自己以外ノ者タルコトヲ要セス。自選投票モ無效ト云フヘカラサルナリ。

同一投票中ニ指定サルヘキ被選擧人ノ數ニ依リテ、投票ニ單記投票ト連名投票トハ一票ニ記入セラルヘキ被選擧人ノ數一人タルヲ要スルモノヲ云ヒ、連名投票トハ一票中ニ數名ノ被選擧人ヲ併記シ得ヘキモノト云フ。本法ニ於テハ原則トシテ單記投票ノ制ヲ採ル。然レトモ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選擧人ノ數、其ノ選擧スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ、連名投票ノ法ヲ用フヘキモノトス。所謂選擧人ハ名簿ノ人員ヲ云フモノニシテ、選擧權アリヤ否ヤハ之ヲ問

ハサルナリ。單記投票ニ於テハ、被選擧人二人以上ヲ指定スルカ如キ、連名投票ニ於テハ、其ノ選出スヘキ議員ノ數ヨリ多ク被選擧人ヲ指定スルカ如キハ、投票ヲ無效タラシムルモノナリ。

自書ヲ要ス

被選擧人ノ氏名ハ、投票者ニ於テ之ヲ自書スルコトヲ要ス。舊法ニ於テハ、特ニ自書ヲ要スルノ規定ナカリシ爲メ、選擧立會人ヲシテ代書セシメタルモノハ有效ナリヤ否ヤニ付爭アリタリト雖、改正法ニ於テハ、絕對ニ自書以外ノ投票ヲ認メス、從テ自書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得サルナリ。自カラ書スルトハ、自己ノ力ニ於テ之ヲ書スルノ義ナルヲ以テ、印刷影寫ヲ包含セサルハ勿論、透キ寫シノ如キモ亦之ヲ包含セス。然レトモ被選擧人ノ名刺ヲ所持シテ、記臆ヲ助クルカ如キハ差支ナシ。

投票用紙

投票ハ要式行爲タリ。投票ノ用紙ハ一定ノ式ヲ用ヰ市町村長之ヲ定ムヘキモノトス。而シテ投票ハ此ノ投票用紙ニ依ルニ非サレハ無效ナリ。舊法ニ於テハ、投票ハ之ヲ封緘スルヲ要シタルモ、改正法ニ於テ投票用紙ノ式トシテ市町村長ノ定ムル所ニ依ルヘキナリ。

投票ハ一方行爲ナリ

投票ハ一方行爲ナリ。舊法ニ於テハ、投票ハ選擧人自ラ之ヲ選擧長ニ差出シ、選擧長之ヲ投票函ニ投入スヘキモノトセルモ、改正法ニ於テハ、投票者自ラ之ヲ投入スルコトニ改メタリ。而シテ投票ハ此ノ投入ニ依リテ效力ヲ生シ、投票者之ヲ取消スコトヲ得ス。

選擧區ノ異動

市ニ於テ選擧區アル場合ニ於テ、其ノ區所屬ノ選擧人ヲ定ムル標準ハ、選擧人名簿調製期日ノ現在ニ依ルヘキモノナレハ、選擧人名簿ノ調製後、選擧人ハ、依然選擧人名簿ニ基キテ定メラレタル所屬ノ選擧區ニ於テ投票スヘキモノトス。所屬ニ異動ヲ生スル場合ハ（一）甲ノ選擧區ヨリ乙ノ選擧區ニ住所ヲ移轉シタルトキ又ハ（二）市内ニ住所ヲ有セサル選擧人ニ付キテハ、（イ）課稅物件ノ移轉若ハ（ロ）課稅營業所ノ移轉アリタルトキ等ニ生ス。此ノ如キ場合ニ於テモ常ニ名簿ノ有效期間ハ、原選擧區ニ於テ投票ヲ行フヘキナリ。市公民タル選擧人カ、市外ニ住所ヲ移轉シ、又ハ家屋物件等ニ依リ選擧權アル者カ、之ヲ市外ニ移シタル場合ニハ、選擧權ヲ失フモノナルヲ以テ、茲ニ包含セラレサルハ明ナリ。

投票函ノ送付

選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ、投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘキモノナリ。蓋シ選擧分會ハ、投票ヲ便宜ナラシムル爲ニ設クルニ過キス。當選者ヲ決定スルハ選擧會ニ於テスヘキモノナルヲ以テ、投票ノ査定ハ本會ニ於テスルヲ當然トスレハナリ。投票送致ノ任ニ當ル者ハ、選擧分會長ニシテ、且ツ少クトモ選擧立會人一人ト共ニ之ヲ爲スヲ要ス。之レ投票ノ嚴正ヲ保障センカ爲ナリ。從テ之ヲ運送ニ託シ郵送ニ附スルカ如キハ勿論不可ナリト雖、選擧分會長又ハ選擧立會人自ラ之ヲ携帶スルヲ要セス、自己監視ノ許ニ給仕又ハ小使等ヲシテ携帶隨伴セシムルハ、本項ノ精神ニ反スルモノニアラサルナリ。

（判　例）

一　選舉人名簿ニ爲シタル投票濟附點ノ數ト實際ノ投票トノ間ニ差アルモ其ノ不正ナ證明スルニ非サレハ投票ヲ無效トスルヲ得ス（二五、一二、一〇、行列）

二　投票函ニハ相當取締ヲ爲スヘキモノナレトモ儀倘ヲ用フヘキ法意ニ非サレハ紙ヲ以テ輯封スルモ妨ナシ（三二、六、二三、行列）

三　名簿確定後ニ於テ擅ニ加除修正セラレタル名簿ニ照ラシタル選舉人ナシテ投票セシメタル選舉ハ無效ナリ（二六、四、二九、行列）

四　他人ノ名義ヲ詐稱シテ爲シタル投票ハ無效ナリ（三五、四、一六、行列）

五　町會議員ノ選舉權ナキ者カ投票ヲ爲シタル場合ニ之ヲ投除スルモ次點者ナシテ其地位ヲ失ハシムルニ止マリ當選者ノ得票數ニ何等ノ影響ヲ及ホササルトキハ其選舉ハ取消スヘキモノニアラス（四〇、三、二八、行列）

六　選舉會ハ投票終了ノ場合ヲ除ク外定刻前ニ之ヲ閉鎖シ得ルモノニアラス（三二、一一、二、行列）

七　投票ハ投票函ニ投入スルコトヲ要ス（三一、五、一〇、行列）

八　投票函ハ投票ヲ納ル迄之ヲ開クヲ得ス（三一、五、一〇、行列）

九　甲者カ白ラ選舉會場ニ入リ乙者カ其投票ノ取次ヲ爲シタルモノハ事後ニ至リ投票者自ラ代人ヲ以テ投票シタリト云フモ其陳述ノミヲ以テ事實ナリト認ムルニ足ラス（二五、六、二三、行列）

市制町村制　第二十六條　第二十三條　增員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

本條ハ增員選舉ト補闕選舉トヲ合併シテ行フヘキ場合ニ關スル規定ナリ。增員選舉ハ市制第十三條第五項町村制第十七條第一項ニ依リ、議員ニ闕員ヲ生シタル場合ニ行フ選舉ナリ。補闕選舉ト增員選舉トヲ合併シテ行フニハ、二者同時ニ行ハルル場合ナラサルヘカラス。二者同時ニ行ハルル場合ハ　闕員ト增員ト共ニ生シタル場合ニシテ、此ノ如キトキハ理論トシテハ各別ニ選舉ヲ行フヘキモノナリト雖、事實ニ於テ兩者ノ間ニ任期ノ相違等アルニ非サルヲ以テ、之ヲ一ノ選舉ニ合併スルコト、爲シタルナリ。但シ市ニ於テ選舉區アル場合ニハ、區ヲ同シクスルニ非サレハ、合併スルコトヲ得サルハ勿論ナリ、二者其ノ等級ヲ異ニスルトキモ亦然リ。

合併シテ一ノ選舉ヲ以テ之ヲ行フト云フトキハ、選舉ノ日時及選舉會場ヲ一ニスルニ止ラス、選舉其ノモノヲ全然一トナスニアリ。從テ投票ハ一人一票ニ限リ、又單記ノ原則ニ依リ、例外ノ場合ニ非サレハ連記ヲ許サス。斯ノ如ク選舉ハ全然合一セラルルモノナルヲ以テ、補闕選舉タリ增員選舉タルト性質ハ混一シ、當選議員ハ何レヲ增員議員トスヘキヤ區別シ得ヘキニ在ラス。投票ニ補闕又ハ增員ノ議員トシテ投票スヘキ旨ヲ記入スルモ、記入ナキト同一視セサルヘカラス。而シテ此ノ選舉ニ依リテ當選シタル議員ノ任期ハ、直接ニ法ノ定ムル所ニ非スト雖、何レノ議員モ共ニ雙方ノ性質ヲ具備スルヲ以テ、其ノ任期ニ關シテハ、仍レノ規定ヲ適用スルモ妨ケス、而シテ事實ノ結果ハ同一タルナリ。

（省）

市制　第二十七條　第十四條　第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選擧權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選擧
町村制　第二十四條　第十二條　第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選擧權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選擧
ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治產者及準禁治產者ハ必ス代
人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル

第九條第七條第一項但書ニ當ル者、第十條第八條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第九條第二
項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシ
テ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選擧長又ハ分會長ニ示スヘシ

代人

本條ハ選擧人ノ代人ニ關スル規定ナリ。選擧權ハ選擧人自ラ之ヲ行フヲ本義トスレトモ、強テ此ノ主旨ヲ貫徹スルノ困難ナルモノアリ、又絕對ニ不能ナル場合アリ、之レ本條ニ於テ代人ノ制ヲ認メタル所以ナリ。代人ハ法ノ認メタル場合ノ外、之ヲ用ヰ得ヘカラサルコトハ特ニ注意スルヲ要ス、之レ公權ノ性質ニ伴フ當然ノ結果ナリ。

代人トハ選擧人ニ代リ本人ノ投票ヲ行フ者ヲ云フ。本人ニ代ルモノナルヲ以テ、代人ハ單ニ本人ノ指圖ニ從ヒ機械的ニ投票ヲ行フ者、即投票ノ運搬者又ハ取次ニ非ス。從テ代人ハ本人ノ事實上ノ意思ニ反シテ投票スルヲ妨ケス。代人ノ意思ハ法律上本人ノ意思タリ。代人ノ投票ハ又法律上本人ノ投票タルナリ。代人ハ此ノ如ク重要ナル地位ニ立ツモノナルヲ以テ、幾多ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス。

代人タルヲ得サル者

代人ハ第一ニ帝國臣民タルコトヲ要ス、外國人ヲシテ內政ニ關與セシムヘカラサレハナリ。代人ハ又二十五歲以上ノ男子タルコトヲ要ス、蓋選擧權ヲ行使スル者ハ、充分ナル能力ヲ有セサルヘカラストノ理由ヲ以テ直接ニ選擧權ヲ行フ能力ヲ二十五歲トシタル以上代人モ同一タルヲ要スヘキ理ナリト爲シタルナリ。帝國臣民ニシテ二十五歲以上ノ男子ナラハ、市町村公民タルト否ト、歸化人ナルト否トヲ問ハス、又二十五歲以上中ニハ二十五歲ノ者ヲ包含ス。然レトモ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者（特免ヲ受ケタル者ハ此限ニ在ラス）、禁治產者、準禁治產者、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、名譽職ヲ拋棄シタルニ依リ公民權ノ停止中ニ係ル者、租稅ノ滯納處分中ノ者、家資分產又ハ破產ノ確定宣告ヲ受ケ未タ復權ノ決定確定セサル者、禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ、若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者及陸海軍ノ現役ニ服スル者、若ハ現役以外ノ兵役ニ服スル者ニシテ戰時事變ニ際シ、召集中ノモノハ、代人タルコトヲ得ス。此等ハ何レモ特種ノ事由ニ依リ、選擧權ヲ行フ能ハサルカ、又ハ有セサルモノトセラレタルモノナルニ付、他人ノ爲選擧權ヲ行ハシムルハ不穩當ナルヲ以テナリ。

代人ハ又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス、蓋代人ハ本人ノ爲ニ投票ヲ行フモノナレハ、之ヲ誠實ニ行ハントセハ、多數ノ選擧人ヲ代理シ得ヘキニ非サルト一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得セシムルトキハ、選擧ニ付他人ヲ選擧會場ニ於テ勸誘スルト同一結果ヲ生スヘケレハナリ。然レト

モ甲選擧人カ乙選擧人ノ代人ト爲ルハ妨ケナシト云ハサルヘカラス。

代人ニ依リテ選擧權ノ行使ヲ爲シ得ル者ハ、公民ニ非サル選擧人ニ限ル。而シテ代人ニ依ルコトヲ必要トスル場合ハ權ヲ行使スル場合ニハ、必要的ノモノアリ又任意的ノモノアリ。代人ニ依ルコトヲ必要トスル場合ハ公民ニ非スシテ選擧權ヲ行ヒ得ル者カ、年齡二十五歳以上ノ男子ニ非サルトキ、即男子ニシテ年齡二十五歳未滿ナルトキ、女子ナルトキ、法人ナルトキ、又ハ禁治產者若ハ準禁治產者ナルトキトス。此等ノ者ハ代人ニ依ルニ非サレハ選擧權ヲ行フコトヲ得ス、法人ノ如キハ性質上代人ニ依ルヘキモノナリ、其他ニ關シテハ選擧人ノ要件ト其理同シ。代人ニ依ルト自ラ行フトヲ任意ニ撰擇シ得ル場合ハ、公民ニ非サル選擧人ニシテ前記ノ例ニ入ラサル者之ナリ。例ヘハ公民ニ非サル男子カ二十五歳以上ナルトキノ如シ。其ノ意市町村以外ニ住所ヲ有スル者ヲシテ、選擧權ヲ行フノ便宜ヲ得セシメントスルニ外ナラス。

代人ハ本人ヨリ交付セラレタル委任狀、又ハ其他代理權ヲ證スルニ足ル書面ヲ以テ、選擧長又ハ選擧分會長ニ對シ、其ノ代理權アルコトヲ證スルヲ要ス。茲ニ所謂代人ハ民法上ノ代人ニ非サルヲ以テ、其ノ代人ノ行爲カ民法ノ原則ニ依リ支配セラレサルハ勿論ナリト雖、本人ト代人トノ間ニ於テ、代理ヲ委任スル關係ハ、普通ノ合意約諾ナルカ故ニ、民法ノ原則ニ依リ支配セラレサルヘカラス。而シテ代理ヲ證スル書面ハ、單ニ示スノ提示スヘキ委任狀又ハ書面カ、民法上有效ノ形式ヲ具ヘサレハ、證明ノ用ヲ爲ササルコト勿論ナリ。故ニ禁治產者ノ代人タル委任狀カ後見人ニ依リテ作成セラレス、準禁治產者ノ委任狀ニ補佐人ノ同意ノ表示ナキモノノ如キハ、無效ナリト云ハサルヘカラス。而シテ代理ヲ證スル書面ハ、單ニ示スヲ要スルノミニシテ、提出ヲ要スルニ非サルヲ以テ、之ヲ交付スルノ要ナシト云フヘキナリ。

（判　例）

一　投票ノ取次ヲ爲シタル事ヲ以テ代人投票ヲ爲シタリト云フコトヲ得ス（三二、六、二三、行判）

二　委任狀ヲ保存セサルモ違法ニ非ス（二八、一一、二七、行判）

三　公民ニ非サル未丁年者カ選擧權ヲ有スル場合ニ於テハ其後見人カ選擧權ノ行使ヲモ當然代表ス（三五、三、一〇、行判）

市制　第二十八條
町村制　第二十五條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　現ニ市町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用ヰタル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ竝其ノ記載ノ人

代人ヲ必要トスル者

代人ニ依ルヲ得ル者

代理ノ證明

員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無效トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無效トス

無效投票

本條ハ無效投票ニ關スル規定ナリ。選舉人ニ依リ爲サレタル投票カ、左ノ場合ノ一ニ當ルトキハ無效トセラル。

一　成規ノ用紙ヲ用キサルトキ　投票用紙ハ市町村長ノ定ムル所ニ依リ、一定ノ式ヲ具備シタルモノヲ用ウヘキモノニシテ、其ノ定式ニ反スル投票用紙ヲ用キタル投票ハ無效ナリトス。之レ投票カ要式行爲タルニ照シテ明ナリ。

二　現ニ議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタトキ　斯ノ如キハ補闕選舉（市制第二十條町村制第十七條）竝選舉ト同時ニ行フ場合以外ノ增員選舉（市制第十三條末項但書町村制第十一條末項但書）、選舉ノ一部カ無效トナリタル場合ノ再選舉、又ハ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサリシカ爲、其ノ不足ノ員數ニ付更ニ行フ再選舉ノ場合ニ生ス。之ヲ無效トスルハ此ノ如キ投票ハ全然無用ナレハナリ。

連名投票ノ場合ニ於テ、連記サレタル被選舉人ノ氏名中、現ニ議員ノ職ニ在ル者アルトキハ、其ノ部分ノミヲ無效トシ、投票全部ヲ無效トスルコトナシ。

三　單記投票ノ場合ニ於テ二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シ、連名投票ノ場合ニ於テ投票ニ記載セル人員ノ數カ、選舉スヘキ議員定數ニ過キタルトキ　此點ハ舊法ヲ改メタルモノトス。法定數以上ノ氏名ヲ記シタルモノハ絕對ニ無效ナリ、舊法ノ如ク斟酌ノ餘地存セサルナリ。

四　被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キトキ

之ヲ確認シ難キヤ否ヤハ、單ニ投票ノ表面ニ於テノミナラス、各般ノ關係ヲ考察シテ之ヲ決セサルヘカラス。例ヘハ氏名ニ脫字、誤字アリ、又ハ單ニ姓若ハ名ノミヲ記載シ、其他被選舉人ノ異名雅號ヲ記載シ、或ハ商號ト名、屋號ト名、若ハ單ニ商號屋號ノミヲ記載シタル場合ト雖、苟モ之ニ依リテ選舉ニ關シ何人ヲ指定シタリヤヲ認識シ得ルモノナル以上ハ無效トスヘカラサルナリ。

連名投票ノ場合ニ於テ、連記サレタル被選舉人ノ氏名中不明ノモノアルトキハ、其ノ不明ナル部分ノミヲ無效トシ投票全部ヲ無效トセサルナリ。

五　被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルトキ　被選舉權ナキ者トハ市町村公民タラサル者、及市町村公民ナリト雖、市制第十四條町村制第十二條各第一項但書及市制第十八條町村制第十五條各第二項及第三項ニ該當スル者ヲ云フ。然トモ衆職ヲ禁セラレタル者（行政裁判法第四條第二號、會計檢査院法第八條末段、裁判所構成法第七十二條第二項、理事分限令第九條）又ハ同時在職ヲ禁セラレタル者（市制第十八條第四項乃至第六項、町村制第十五條第四項乃至第六項）ハ被選舉權ナキ者ニ非ス。

連名投票ノ場合ニ於テ、連記サレタル被選舉人ノ氏名中、被選舉權ナキ者アルトキハ、其ノ部分ノミヲ無效トシ、投票全部ヲ無效トセス。

六　被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルトキ　茲ニ所謂他事トハ濫ニ廣汎ナル解釋ヲ爲スヲ許サ

ス、他事ノ記入即投票ノ效力ヲ害スルモノナラサルヘカラス。投票ノ效力ヲ害スルモノハ一ハ無記名投票ノ制度ニ反スルニ在リ、他ハ投票ノ意思ナキコトヲ推測スルニ足ルニ在リ。投票ニ投票者ノ氏名ヲ記シ、又ハ假名文字若ハ數字等ヲ以テ、或符合ヲ記スルカ如キハ、假令其ノ記載カ投票ノ裏面ニ爲サレタル場合ト雖、該投票ハ無效ナリ、捺印アル投票又然リ。又例ヘハ「馬鹿三太郎」ト記スルカ如キハ、假令三太郎ト稱スル被選擧人アリタル場合ト雖、無效ナリト云ハサルヘカラス。他事記入ヲ禁止スル本義ハ斯ノ如キモノナルヲ以テ、被選擧人ノ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入スルカ如キハ、投票ノ效力ヲ害セサルナリ。何某氏ト記スルモ又所謂敬稱ト云フヲ得ヘク、其ノ他「被選擧人何某」ト記シ、又ハ「右選擧仕候」ト附記シ、或ハ甲ノ氏名ヲ記シタル後、之ヲ塗抹シテ乙ノ氏名ヲ記載セル投票、其ノ他被選擧人ノ商號屋號等ヲ附記シタル投票ハ、直ニ以テ他事ノ記入アルモノナリト爲スヘカラサルナリ。

（判例）

一　他事ノ記入トハ選擧ニ必要ナキ雜事ノ記入ヲ指スモノニシテ被選擧人ノ身分資格ヲ明確ニスルカ爲ノ記入ハ之ニ該當セス「被選擧人」ノ文字ヲ記入シタル投票ハ有效ナリ（二五、五、二六、行判）

二　被選擧人氏名ノ外ニ「選擧書、右幾名選擧仕候也、右之幾人選擧仕候」ノ文字并ニ年月日ヲ記載シタル投票ハ投票タル性質ヲ明確ナラシムル爲ノ記入ニ過キス選擧ニ必要ナキ雜事若ハ選擧ニ有害ナル記入ニ非サルヲ以テ他事ノ記入ニ非ス（二六、六、六、行判）

三　他事記入トハ選擧ニ有害ナル事項若ハ選擧ニ必要ナキ雜事ヲ記入シタルモノヲ云フ（三三、二、一四、行判）

四　被選擧人ノ番地ヲ記入シタルカ爲ニ投票ヲ無效トスヘキモノニ非ス（三九、六、一一、行判）

五　投票用紙ノ欄外ニ「カ」ノ字ヲ記載シタルハ他事記入ノモノナレハ無效ナリ（三九、九、二六、行判）

六　投票ノ裏面ニ符合ヲ記載シタルハ他事記入ノ投票ナリ（三四、五、二三、行判）

七　投票ノ裏面ニ選擧人氏名ノ頭字ヲ取リ一定ノ意味アル「スハ」「スト」等ノ文字ヲ附記シタルモノハ無效ノモノナリ（二七、六、六、行判）

八　「カロイ」等ノ文字ハ雜事ヲ記入シタルモノナンハ右投票ハ即チ他事ヲ記入スルモノニシテ本條ノ規定ニ違背ス、又記入ノ文字カ投票ノ表面ニ記載シアルト裏面ニ記載シアルトノ之ヲ問ハス（二六、五、八、行判）

九　選擧人ハ被選擧權ヲ有スル者ノ中ヨリ任意何人ヲモ選擧シ得ヘキモノナレハ競爭者ノ有無勢力ノ多少現ニ投票ヲ得タル者ノ姓名如何ノ如キハ被選擧人ノ何人ナルカヲ確認シ得ルモノナルヤ否ヲ決スル理由ト爲スニ足ラス（四一、二、一四、行判）

一〇　赤組夫午知、赤組父午和、赤組夫半知ト記シタル投票ハ赤組父午知ノ得票ト認ムルコトヲ得（三三、四、九、行判）

一一　投票ニ被選擧人ノ姓又ハ名ノ一方ノミ記載スルモ何人タルヲ確認シ得ルニ於テハ無效ニアラス（三二、四、七、行判）

一二　被選擧權ナキ人名ヲ記載セル投票ト雖被選擧權ヲ有スル者ノ中ニ就キ其投票ノ指名スル人タル者ヲ確認シ得ヘキトキハ直ニ町村制廿三條二項ノ三（舊法）ニヨリ無效ノ投票ナリトスルコトヲ得ス（二九、六、一一、行判）

一三　投票中被選人ノ氏名ニ誤字又ハ脫落アルモ被選人中尤モ善ク類似スル者ノ得票ト認定スルヲ至當トス（二五、四、二一、行判）

一四　選擧掛ニ於テ投票ヲ行フ爲一時自席ヲ離ルルモ之カ爲其資格ヲ失フモノニアラス故ニ離席シタルヲ以テ選擧ヲ違法ト爲スヲ得ス（四一、二二、一八、行判）

一五　過剩投票アル場合ニ於テ選擧掛カ認メ過剩投票ヲ取除キタル上當選者ヲ定メタルハ不當ナリ（三五、三、二四、行判）

一六　同一村内ニ同氏名ノ者二人アル場合ニ於テ村會議員補缺選擧ニ際シ投票ニ單ニ氏名ノミ記載スルモ其一人カ現ニ村會議員

在職中タル以上ハ該投票ハ他ノ一人ヲ指示シタルモノトス（三五、六、二、行判）

一七　被選擧人ノ氏名ハ被選擧人ノ用ウル文字ニ依リ氏名ヲ書スルモノニ限ラス假令假名文字ヲ以テ書スルモ被選擧人ノ何人タルヤヲ確認シ得ヘキモノハ有效トス（三二、一一、二、行判）

一八　投票ニ殿ノ字ヲ記載セシハ被選擧人ニ對スル敬稱トシテ有效ナリ（三三、二、一四、行判）

投票拒否

市制　第二十九條
町村制　第二十六條　投票ノ拒否及效力ハ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

選擧分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決定スヘシ

本條ハ投票ノ拒否及投票ノ效力ノ決定ニ關スル規定ナリ。投票ノ拒否ヲ決定スル任ニ當ル者ハ選擧立會人ニシテ、之カ決定ハ其ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スヘク、可否同數ナルトキハ、選擧長（選擧分會ニ於テハ分會長）之ヲ決定ス。投票ヲ拒否スヘキ場合ハ、例ヘハ選擧人カ選擧權ヲ有セサル者又ハ之ヲ失ヒタル者ト認メタルトキ、代人トシテ出頭シタル者カ、事實代人ニ非サルコトヲ認メタルトキ、其他選擧人カ名簿ト對照ヲ經スシテ、投票ヲ爲サントスルトキノ如キニ在リ。投票ノ拒否ハ立會人之ヲ決定スト云フハ、拒否スヘキモノナリヤ否ヤヲ決定スルノ義ニシテ、拒否ノ實行ヲ爲スノ義ニアラス。實行ノ任ニ當ル者ハ選擧長ナリ。故ニ又選擧長ハ、會場整理ノ爲退場ヲ命スル如キ場合ハ別トシテ、選擧ヲ行ハントスル者ニ、資格ナシト云フノ故ヲ以テ、投票ヲ拒マントスルトキハ、必ス先ツ立會人ノ決定ニ附セサルヘカラス。立會人ハ多數決ヲ以テ之ヲ決定スヘキモノナリト雖、可否同數ナルトキハ止ムヲ得サルニ依リ、選擧長之ヲ決定スルナリ。投票ノ效力ニ關シテモ亦之レト同シ選擧分會ニ於テハ單ニ投票ヲ受ケ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スルニ過キサルヲ以テ、投票ノ效力ニ關スル問題生セス、選擧分會長及選擧分會ノ立會人ハ、又其ノ受ケタル投票ノ效力ニ關シテ本會ニ於ケル決定ニ參加スルコトヲ得サルナリ。

投票ノ效力

（判　例）

一　委任狀ニ關スル疑義ハ直ニ以テ投票其物ニ關スル疑義ト云フヲ得サルモ投票ノ受理ニ關スル事項中ニ包含ス、故ニ委任狀ニ關スル疑義ヲ掛長カ專決シ選擧掛ニ議決セシメサルハ本條選擧ノ定規ニ違背シタルモノナリ（二六、一〇、九、行判）

二　投票ノ受理ニ關シ選擧掛ノ意見二說ニ分カレ共ニ同數ナル場合ニ於テ選擧會長カ兩說ヲ排斥シ別ニ一己ノ意見ヲ以テ投票ノ受理不受理ヲ決定シタルハ違法ナリ（三一、六、二三、行判）

（增）

市制　第三十條
町村制　第二十七條　市町村會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選擧スヘキ議員數ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

當選者ノ決定

本條ハ當選者ヲ決定スル標準ニ關スル規定ナリ。當選者ハ、選擧會ニ於テ、各級各別ニ之ヲ定ムヘ

キモノナリ。其ノ標準ハ得票ノ數ニ依リ、得票ノ數ニ依リ難キ場合ニハ、年齡ニ依リ、年齡ニ依リ難キ場合ニハ抽籤ニ依ルモノトス。得票ノ數ハ有效投票ノ數ヲ計算シテ之ヲ定ム。投票ノ效力及其ノ決定機關、決定手續ニ關シテハ前ニ之ヲ述ヘタリ。而シテ有效投票ノ最多數ヲ得タルモノカ當選者タルナリ。例ヘハ市ノ一級選擧ニ於テ五人ノ議員ヲ選擧スル場合アリトシ、甲乙ハ各十五票宛、丙丁ハ各十票宛、戊ハ五票、己庚辛ノ三人ハ各二票宛ノ投票ヲ得タリトセハ、甲乙ハ共ニ得票最モ多キモノナリト云フヘク、從テ當選者ナリ。而シテ議員ノ定數ハ五人ナルヲ以テ、尙ホ三人ヲ選出スルヲ要ス。今殘餘ノ丙以下ニ就テ見ルトキハ、丙丁ハ又得票最モ多キ者ナルヲ以テ共ニ當選者タリ、殘餘ノ一人ヲ選出スルニハ、戊及己庚辛中、得票最モ多キ戊ヲ以テ當選者トスヘキナリ、斯ノ如ク選出スヘキ議員ノ定數ニ滿ツル迄、順次ニ當選者ヲ定ムルヲ比較多數法ト云フ。

當選者ヲ定ムルニ絕對ニ比較多數ノ制ヲ貫クトキハ、場合ニ依リ得票極メテ少キニ拘ラス當選スルコトト爲リ、穩當ナラサルカ故ニ得票ハ一定數ニ達スルコトヲ要スルモノトシタリ。即各級ニ於テ選擧スヘキ議員數ヲ以テ、選擧人名簿ニ登錄サレタル、各級ノ人員數ヲ除シ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要スルモノトス、選擧人名簿ニ登錄セラレタル人員中ニハ、選擧ニ參與スル能ハサル者ヲ包含スルト否トヲ區別セス。從テ選擧權ナキニ拘ラス登錄セラレタル者、又ハ登錄後選擧權ヲ失ヒタル者モ、之ヲ控除シテ計算スル限ニ在ラサルナリ。

當選ハ得票ノ多少ニ依リ定ムト雖、得票相等シキ者ハ之ニ依リ決スル能ハス、故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ年齡ノ長幼ニ依リ年長者ヲ先キニス、所謂年長者ハ出生ノ年月日ニ依リ、同日ニ生レタルトキハ出生ノ時ニ依ル、出生ノ年月日時トハ戶籍ト實際ノ事實タル出生ノ年月日時ヲ指スモノナリト云ハサルヘカラス。年齡ニモ依リ難キ場合即年齡同シキトキ、又ハ年齡不明ニシテ年長者ヲ定メ難キ場合ニ於テハ、抽籤ニ依リテ當選者ヲ定ムルノ外ナシ、抽籤ハ選擧長之ヲ爲スヘキモノトセリ、被選擧人相互ニ直接抽籤スルヲ得サルナリ。

年長
抽籤

（判例）

一　無效投票ヲ次點者ニ加フルモ結果ニ異動ヲ生セサル以上ハ其ノ選擧ハ取消スヘキモノニ非ス（二六、七、一〇、行判）

市制　第三十一條　選擧長又ハ分會長ハ選擧錄ヲ調製シヤ選擧又ハ投票ノ顚末ヲ記載シ選擧又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選擧區ノ選擧長ハ選擧錄第六條ノ市ニ於テ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ」テハ其ノ謄本

選擧分會長ハ投票函ト同時ニ選擧錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選擧錄ハ投票、選擧人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

町村制　第二十八條　選擧長又ハ分會長ハ選擧錄ヲ調製シテ選擧又ハ投票ノ顚末ヲ記載シ選擧又ハ投

票チ終リタル後之チ朗讀シ選擧立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

選擧分會長ハ投票函ト同時ニ選擧錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選擧錄ハ投票選擧人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之チ保存スヘシ

選擧錄調製ノ目的

本條ハ選擧錄ノ調製、其ノ送致並ニ保存ニ關スル規定ナリ。

選擧ハ投票終リ當選人定リタル時終了ス。然トモ時ニ或ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ、異議ヲ主張スルモノナキニアラス（市制第三十六條、町村制第三十三條）。從ツテ選擧カ適法ニ行ハレタルヤ否ヤヲ證明シ、或ハ監督官廳ノ監督權行使ノ目的ニ備フルカ爲ニ、一定ノ文書ヲ作成スルハ、外部ニ對シテハ間接ニ選擧ノ神聖ヲ保持シ、內部ニ對シテハ選擧事務ノ正當ニ行ハレタルコトヲ證明スル所以タリ。選擧錄ハ實ニ此ノ目的ノ爲ニ調製セラルルモノナリ。故ニ選擧錄ニ記載スヘキ內容ニ至リテモ亦此ノ目的ニ添フヲ以テ足レリトスヘク、選擧會ニ在リテハ選擧ノ顚末、選擧分會ニ在テハ投票ノ顚末ヲ記載ス。其ノ如何ナル程度ニ於テ記スヘキカハ、要スルニ選擧錄調製ノ目的ニ適合セハ可ナルヘキモ、投票、開票及ヒ當選者ノ定マルニ至ルマテノ諸事項ノ大綱ハ少クトモ各々之ヲ記スルヲ要スト解セサルヘカラス。

選擧錄ノ形式

選擧錄ノ形式ニ付テハ、條文ハ選擧長又ハ分會長ハ、選擧立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシト規定セル以外ニ何等ノ條件ナキカ故ニ、形式ハ之レヲ以テ足レリトスヘシ。

選擧錄調製ノ手續

選擧錄調製ノ手續ハ、選擧長又ハ分會長自ラ選擧又ハ投票ノ顚末ヲ記載シ、選擧又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ、以テ立會人ト共ニ署名スヘキモノナリ。成文ハ他人ヲシテ選擧錄ノ調製ヲ補助セシムルコトヲ爲シ得ルヤ否ヤニ就キ之ヲ明言セスト雖、選擧長又ハ分會長カ、他人ヲシテ其ノ調製ヲ補助セシムルコトハ必スシモ違法ニアラス。若シ夫レ絕對ニ他人ヲシテ補助セシムルコトヲ得サルモノトセハ、之レ難キヲ人ニ强フルモノニ外ナラス。他人ヲシテ補助セシムト雖、固ヨリ選擧長又ハ分會長ノ責任ヲ以テ其ノ調製ヲ完了スルモノナルカ故ニ、其ノ作成セラレタル選擧錄ハ、選擧長又ハ分會長ノ調製シタリト云フ事ニ於テ支障ナキコト、恰モ各省大臣カ數多ノ補助機關ヲ以テ自己ノ意思ヲ決定スルモ、毫モ各省大臣ノ意思ノ決定タルヲ妨ケサルカ如シ。然トモ他人ヲシテトハ、必スシモ何人ニテモ可ナリト謂フニアラス。選擧執行ニ參與スル市町村ノ吏員其ノ他關係ノ公職員タルヲ要スヘキヤ又言ヲ俟タス。斯クノ如クシテ調製セラレタルモノハ選擧會ニ在リテハ選擧、選擧分會ニ在リテハ投票ヲ終リタル後、卽投票終了當選人定マリタルトキ又ハ選擧人ニシテ投票ヲナス者全ク無キニ至リシトキ、選擧長又ハ分會長ハ選擧錄ノ調製ノ公正ヲ期スルカ爲ニ、選擧人ノ面前ニ於テ之ヲ朗讀スルモノトス。之ニ依テ以テ選擧錄ノ記事ノ公正ヲ維持セントスルナリ。其ノ朗讀ヲナシタル後選擧立會人ノ署名ヲ求メ、茲ニ選擧錄調製ノ手續ヲ完了ス。選擧錄調製ノ手續ニ就キ尙ホ一言スヘキハ、選擧錄ハ各級每ニ調製セサル可ラサルコト卽チ之レナリ。（市制第二十二條第三項、町村制第十九條第三項參照）。蓋シ各級ノ選擧カ日ヲ異ニ

朗讀

選擧錄ハ各級每ニ調製ス

シテ行ハルル場合ニ於テハ選擧錄モ亦各別ニ調製スヘキハ一見明カナル所、又之ヲ法文ノ上ヨリ見ルモ、前各數箇條ノ規定ニ於テ、選擧人ヲ三級或ハ二級ニ分チ、市長又ハ町村長ハ選擧人中ヨリ選擧立會人ヲ選任スヘシトナシ、又本條ニ選擧又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ、選擧立會人ト共ニ署名スヘキ旨ヲ規定セルヲ以テ、各級毎ニ其ノ選擧錄ヲ調製スヘキモノナルコトハ言ヲ俟タサル所ナリ。然レトモ增員選擧ト補闕選擧トヲ合併シテ行フ場合ニ於テハ、之レ即チ一ノ選擧ナルヲ以テ選擧錄モ各別ニ調製スルモノニアラス。（附錄四十四年内務省訓令第十號樣式備考參照）

選擧錄ノ送致

選擧長又ハ分會長カ、或ハ選擧又ハ投票ヲ全ク終了セサル間ニ選擧錄ヲ朗讀シ、或ハ選擧立會人カ共ニ署名セサルカ如キ場合アリトセハ、其ノ選擧ニ及ホスヘキ効果果シテ如何。蓋シ選擧錄ノ性質ニ就テハ既ニ一言セルカ如ク、選擧又ハ投票ノ狀況ヲ他日ニ證スルニ過キス、之ヲ以テ選擧ノ効力ニ關スル一要件トナスモノニアラス、從ツテ假令其ノ選擧錄ハ違式或ハ不備ノモノナリト雖、以テ選擧ノ規定ニ違反シタリト云ヒ得ルニ止マリ、爲ニ選擧ノ効力ニ影響ヲ及スヘキモノニアラサルナリ。

選擧錄ノ違式又ハ不備ナル場合

選擧分會長ハ投票函ト同時ニ選擧錄ヲ本會ニ送致シ選擧長ヲシテ其ノ開票計算ニ當リ、如何ニ分會ノ投票カ行ハレタルカヲ知ラシムルヲ要ス。成文カ選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ、分會長少クトモ一人ノ選擧立會人ト共ニ、投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘキコトヲ規定シ、本條ニ重テ選擧錄ニ就テ規定シタル所以ノモノハ、本會ノ選擧長ヲシテ、適法ニ選擧カ執行セラレタルヤ否ヤヲ知悉セシムル

カ爲ニ外ナラス。蓋シ選擧分會ハ單ニ投票ノ便宜ノ爲ニ設ケタルモノニ外ナラスシテ、市ニ於ケル選擧區ノ如ク其レ自身ニ於テ選擧ヲ行フモノニ非ラス。分會カ投票ヲ受クルハ、本會ノ爲ニ外ナラサルヲ以テ、分會ニ於テハ其ノ投票終リタルトキハ、直ニ之ヲ本會ニ送致スルノ理由ハ頗ル明カナリ。

市ノ選擧區ニ至リテハ、選擧分會ノ如ク投票ノ便宜ノ爲ニ設ケラレタルモノニアラスシテ、選擧ニ關スル一單位ナリ。從ツテ各區ニ選擧長アリテ其ノ選擧ヲ執行ス。然トモ市全體ノ選擧ヲ監視シ、其ノ取締ニ任スル者ハ市ノ代表者タル市長ナルヲ以テ、各區ノ選擧長ハ等シク當選者ノ住所氏名ヲ報告スルト同時ニ選擧錄ヲ添付スルヲ要ス。而シテ市長カ選擧區ノ選擧長トナリタルトキハ、其ノ選擧長トシテノ資格ニ於テ亦市長ニ報告スヘキモノナリトス。但シ第六條ノ市ニ於テハ選擧錄ノ謄本ヲ添附シ報告スルヲ以テ足レリトス。之レ第六條ノ市ニ於テ選擧區タルヘキ區ハ一般ノ市ニ於ケルカ如キ選擧區ト異ナリ、獨立セル人格者トシテ諸般ノ事務ヲ執行スル者ニシテ選擧モ亦自己ノ事務トシテ執行スルモノナルカ故ニ、選擧錄モ亦其ノ原本ヲ保存スルノ要アルカ爲メナリ。

選擧錄ハ投票、選擧人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ、選擧及當選ノ效力確定スル迄之ヲ保存スヘキモノトス。選擧又ハ當選ノ効力ハ何時確定スヘキヤハ後ニ之ヲ說明スヘシ。選擧人名簿ハ該名簿確定シタル日ヨリ一年以内ニ行フ選擧ニ使用スヘキモノナルヲ以テ、少クモ一年ハ之ヲ保存ヲ要スルモノナレトモ　選擧錄ハ其ノ關係シタル選擧ノ確定スル迄保存スレハ足ルナリ。選擧錄ト共ニ保存スヘ

キ關係書類トハ、代理人ヲ以テスル選擧ニ於テ、選擧人ノ任意提出シタル委任狀其他代理ヲ證スル書面、得票計算書其ノ他直接ニ選擧ニ關シ作成シタル書類等ヲ指スモノナリ。

（判　例）

一　選擧掛ハ他人ヲシテ選擧錄ノ調製ヲ補助セシムルコトヲ得、（三二、一二、二七、行判）

二　選擧ハ投票終リ當選人定マリタル時終了ス、選擧錄ノ樣式ハ選擧ノ效力ニ影響セス（二七、一、三一、行判）

三　選擧錄調製ノ後村長一個人ノ作爲シタル辨明書ヲ以テ先キニ正當ノ手續ヲ以テ調製シタル選擧錄登載ノ事實ヲ確實ニシタリト云フヘカラス（二五、一二、一二、行判）

市制　第三十二條　當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級又ハ數選擧區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間內ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條第二項ニ揭ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

町村制　第二十九條　當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ兩級ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間內ニ之ヲ申立テサルトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム

第十五條第二項ニ揭ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ニ應スヘキ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

「當選者定マリタルトキ」ノ意義

本條ハ當選ノ告知及當選ノ確定ニ關スル規定ナリ。

當選者定マリタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ旨ヲ當選者ニ告知スルヲ要シ、第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ當選者ニ告知セシムルモノトス。「當選者定マリタルトキ」トハ如何ナル時ヲ指スカ、或ハ各級每ノ選擧終リ、市制第三十條町村制第二十七條ニ依リ、有效投票ノ最多數ヲ得タル者決定シタル都度カ、或ハ選擧全體ヲ終リシ、同シク最多數ノ得票者決定シタルトキカ。約言スレハ各級ノ選

歟終リタルトキナルカ、或ハ選擧全體カ終リタル後云々」トアルヲ以テ、選擧全體ヲ終リタルトキ、換言セハ一級二級ノ選擧ヲ異日ニ執行シタル場合ニ於テハ、總體ノ選擧ヲ終リタル後、一、二級當選者共一同ニ告知スヘキモノナリト云ヒ能ハサルニ非サリシト雖、新法ニ於テハ「當選者定マリタルトキ」ト規定シ、又ハ「最終ニ告知ヲ受ケタル日」ト規定シ、即時トハ何ソ

日ヲ異ニシテ告知セラルヘキコトヲ認メタルヲ以テ、各級毎ノ選擧結了シ、其ノ當選者定マリタル都度之ヲ告知スルヲ要スルモノナリト解セサルヲ得ス。何トナレハ同一人ニシテ各級ノ當選者タリ得ヘク、若シ同時ニ告知ヲ受クルモノトセハ、其ノ告知ハ最初ノ告知ニシテ亦最終ノ告知タレハ、敢テ條文ニ最終ニ當選ノ告知云々ノ規定ヲ要セサレハナリ。

當選ノ告知

當選者定マリタルトキハ、市町村長（市制第六條ノ區ニ於テハ市長ノ命ニ依リ區長ニ於テ）ハ即時ニ當選ノ旨ヲ當選者ニ告クルヲ要ス。蓋シ即時トハ有効投票ノ最多數ノ得票者ナルコトカ判明シタル後ノ意ニシテ、投票ノ終了又ハ選擧期日後直チニト云フ意ニアラス。假令選擧期日經過スルモ選擧事務ニシテ終了セス、當選者未タ決定セサル間ハ仍選擧ノ繼續中ニ屬ス、從テ當選ノ告知ヲ爲シ能ハサル場合存スルモ已ムヲ得サルナリ。

當選ノ告知ハ、其ノ當選者タルコトヲ當選人ニ知ラシムルニアリ。從ツテ其ノ告知ノ方法ハ口頭ヲ以テスルモ、文書ヲ以テスルモ妨ケスト雖、國家又ハ公共團體ノ行爲又ハ意思ノ決定ニシテ個人ニ知

了知主義カ受信主義カ

ラシムルコトヲ要スルモノハ、特ニ明文ナキ限リハ文書ヲ以テナスヲ普通トス、後日異議ノ申立等アリタルトキノ證憑ト爲スヘキヲ以テナリ。文書ノ送達ノ方法ハ或ハ使丁ヲ用キ、或ハ郵便ニ依リテナスモ相妨ケス、只當選者ニ其ノ旨ヲ傳達シ得レハ可ナリ。當選ノ告知ハ當選者ヲシテ了知セシムルヲ要スルカ、或ハ單ニ其ノ文書ヲ本人ニ交付スレハ可ナルカ、條文ニハ告知ヲ受ケル日トアルヨリ見レハ、受信主義ヲ採用シタルコト明カナリト謂フヘク、若シ了知主義ヲ採用シタルモノナリトセハ、本條ノ期間ハ遂ニ之ヲ計算スルニ由ナカルヘキナリ。故ニ當選ノ告知ハ其ノ告知ノ文書カ本人ニ交付セラレタルヲ以テ足リ、其ノ了知シタルコトヲ必要トセス（民法第九十七條參照）。而シテ本條ノ期間ノ計算ハ凡テ告知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ計算スヘキモノトス（民法第百四十條參照）。

當選辭退

當選者ハ當選ヲ辭スルコトヲ得。當選ヲ辭スル場合ニ其ノ相當ノ理由ナキトキハ制裁ヲ受クルヲ免ルル能ハス（市制第十條町村制第八條）蓋シ市町村公民カ其ノ市町村ノ名譽職ヲ擔任スルハ公民タルノ權利ニシテ又其ノ義務タレハナリ。當選者カ當選ヲ辭セムトスルトキハ、當選ノ告知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ、五日以内ニ其ノ旨ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ要ス。當選ノ告知ハ、前述ノ如ク受信主義ナルヲ以テ、本人ノ現實ニ之ヲ了知シタルヤ否ヤハ問フ所ニ非サレトモ、了知シ得ヘキ程度ニ置カサレハ未タ受信アリタリト云フヘカラス。故ニ例ヘハ當選者カ旅行不在等ノ場合ニ於テハ、本人ニ告知スルニ要シタル日時ハ、里程ノ遠近ニ從ヒ之ヲ控除シ、其ノ申立期間ヲ計算スヘク、之レカ控除ヲ要スル日

辭退ノ申立

數ハ、如何ニシテ之ヲ定ムヘキヤハ、法文ニ何等ノ明記ナキヲ以テ、實地ノ情狀ニ依リ適宜定ムルモノナリト解スルヲ正當トスヘシ、從來ノ行政實例モ亦之レニ依ルモノヽ如シ。若シ其ノ所在不明ニシテ、告知スヘキ途ナキトキハ、其ノ所在ノ判明スルヲ待チ告知シ、之レニ依リテ申立期間ヲ決定スルモノトス。而シテ辭退ノ申立ハ五日以內ニ市町村長ニ申立ツルコトヲ要スルカ故ニ、其ノ申立ハ同期間內ニ市町村長ニ到着スルコトヲ要スト解セサル可ラス。然トモ若シ旅行先ニ於テ告知ヲ受領シ、郵便又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ、尙且ツ五日以內ニ市町村長ノ手許ニ到着スヘカラサル所ニ於テ申立テタルトキハ、其ノ申立ト雖、當選人ノ意思ニ出ツル以上、其ノ意思ヲ無視シ期間內ニ到着セサリシ故ヲ以テ、其ノ當選者タルコトヲ確定スルハ之レ難キヲ人ニ強フルモノニ外ナラス。從ツテ此ノ如キ場合ニ就テハ、法文何等ノ規定ナキヲ以テ、各實際ノ場合ニ於テ之ヲ處辨スヘキモノナルヘシ。以上主トシテ當選者ノ側ヨリ辭退申立ノ期間ヲ論シタルモ、市町村長ハ如何ニシテ法定ノ期間內ニ辭選ノ申立テヲ爲シタルヤ否ヤヲ決スヘキカ、之ニ關スル規定ナキヲ以テ、市町村長トシテハ、之ヲ決セムカ爲ニ、自ラ何時告知ヲ爲シタルカヲ證ス可キ書面ヲ保存シ置クヘク、例ヘハ使丁ヲ以テスレハ之レヲシテ受領證ヲ徵セシムヘク、郵便ニ依ルトキハ配達證明郵便ヲ以テ發送スヘキナリ。

當選ノ告知

當選ノ告知カ文書ヲ以テ爲スヲ普通トスルカ如ク、辭選ノ申立テモ亦文書ヲ以テナスヲ普通トスヘシ、然トモ特別ノ明文ナキ以上ハ、口頭ヲ以テ爲スヲ許ササルモノナリト云フコト能ハス。唯後日爭議ノ證憑ト爲ルヘキヲ以テ文書ニ依ルヲ可トスルノミ。

辭選ノ效力發生時期

辭選ノ效力ハ當選者ノ申立ニ依リ直ニ發生シ、許可又ハ認可等ヲ要スルモノニ非ス。之レト同シク同期間內ニ辭選ノ申立テヲ爲ササルトキハ、承諾書又ハ受書等ノ提出ヲ要セスシテ、當然ニ市町村ノ議員タルヘキモノナリ。之レ府縣制又ハ郡制ニ於ケルモノト異ナリ、市町村ノ公民ハ其ノ名譽職ヲ擔任スヘキ不斷ノ義務ヲ負擔セルヲ以テ期間內ニ當選ヲ辭セサルトキハ議員ノ承諾ト看做サレタルナリ。

數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタル場合

一人ニシテ數級又ハ市ニ於ケル數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ、當選人ハ最終ニ受ケタル當選ノ告知ノ日、之ヲ例セハ、三級ニ就テハ四月十日、二級ニ就テハ四月十二日ニ、告知ヲ受ケタリトセハ、四月十二日ノ翌日ヨリ五日以內即チ四月十七日迄ニ、其ノ三級ニ於テ當選ニ應スヘキカ、二級ニ於テ當選ニ應スヘキカヲ、市町村長ニ申立ツルコトヲ要ス。其ノ申立ニシテ何レノ當選ニ應スヘキカノ意思判明セサルトキハ、法文ニ何等ノ規定ナシト雖、當選者ノ意思ヲ尊重シ、其ノ期間ニ餘裕アルトキハ、市町村長ハ再ヒ之ヲ催告スヘク、期間既ニ經過セルモ尙申立ナキトキハ、市町村長ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘキナリ。抽籤ノ結果ハ法文ニ何等明記ナシト雖、市町村長ハ之ヲ本人ニ通知スルヲ要スヘキヤ亦言ヲ俟タス。然トモ茲ニ疑問トスヘキハ、數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタル者、最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ、五日以內ニ辭選ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキヤ否ヤニ在リ。當選者ハ當選ノ告知

議員トナル時期

ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ、當選辭退ノ申立ヲ爲スヲ要スルヲ以テ、例ヘハ一級二級ノ兩級ニ於テ當選シタルトキハ、各其ノ兩級ニ於テ當選シタル告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ辭選ノ申立ヲ爲ササルトキハ第二項ノ規定ニ基キ、該級ノ議員タルノ地位確定スヘシ。從ツテ例セハ、二級ノ當選ニ就テハ最早ヤ辭選ノ申立ヲナス能ハサル時ニ於テ、一級ノ當選ニ就テハ尚五日ノ期間内ニ在ルコトアルヘシ。此ノ場合ニ於テ、二級ニ就テハ確定シ、一級ノ當選ニ就テハ未確定ナリ。本條第三項ニ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立ツヘシトアルハ、恰モ當選者ニ辭選ノ申立ヲナスヲ許ササルカ如ク認メラルルト雖、其ノ未確定ノ當選ニ就キハ、辭選ノ申立ヲ許ササルノ趣旨ナリト解スル能ハス。故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ、當選者ハ二級一級何レノ當選ニ應スヘキヤヲ選擇シ得ルハ勿論、一級ノ當選ヲ辭スヘキ旨ヲ申立ツルコトヲ妨ケサルナリ。然トモ二級ノ當選ハ已ニ確定シタルヲ以テ、選擇ニ依リ消滅セシムル外、之ヲ辭スルコトヲ得ス。若シ一級ノ當選ヲ辭スルトキハ、二級ノ議員タルコトハ、當然附隨ノ結果ニシテ、避クルコト能ハサルナリ。故ニ事實ノ問題トシテハ、苟モ兩級ノ當選ノ一方ニシテ確定シタルトキハ、未確定ノ當選ニ付テハ、之ヲ辭スルコトヲ得ト云フモ、單ニ選擇シ得ルニ止マルト云フモ、結果ニ於テハ異ナルコトナキナリ。

當選ト其ノ辭退トノ關係以上ノ如クナルヲ以テ、此ノ際選擧ニ當選シタル被選擧人ハ何時ニ於テ議員タルモノナルヤヲ論究スルコト、其ノ所ナルヘキヲ信ス。被選擧人ハ、當選ノ事實ニ依リ當然議員タルモノニ非ス。何トナレハ法ハ當選通知後五日以内ニ於ケル拒否ヲ以テ當選ノ辭退ト爲シ、議員ノ辭職ト爲サルヲ以テナリ。故ニ普通ノ場合ニ於テ、被選者ハ五日間ハ當選者ニシテ議員ニ非ラス、五日ノ滿了ニ依リ當然議員タリト云フヲ得ルナリ。然トモ之レ普通ノ場合ニシテ、當選者ノ意思表示如何ニ拘ラス　法ノ結果トシテ生スルモノニシテ、其ノ間ニ於ヲ當選者ノ意思發動ヲ許ササルモノニ非ラス。現ニ本條ニ於テモ兩級當選ノ場合ニハ五日以内ニ申立ツヘシト規定シ何時申立ツルモ妨ケサルモノナレハ、一歩ヲ進メ普通ノ場合ニ於テモ、承諾ノ申立ヲ爲シ、又ハ直接申立ヲ爲ササルモ、市町村長ニ對シ申立ヲ爲シタルト同一ト認メ得ヘキ所爲アリタルトキハ、例令五日ノ期間内ト雖、其ノ申立又ハ行爲アリタルトキニ於テ、議員ト爲リタリト爲スヲ妨ケサルヘシ。故ニ選擧期日後二日目ニ於テ、市町村會ノ召集ヲ爲シ、當選者之ニ應シテ集會シタルトキハ、未タ五日ノ期間内ト雖、其ノ召集ニ應シタルノ故ヲ以テ之ヲ議員タリト云フコトヲ得ヘシ。又普通ノ場合ニ於テハ、當選告知ヲ受ケタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ當然議員タリト雖、兩級ノ選擧ニ當選シ選擇權アル場合ニ於テハ、假令最初ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日ヲ經過スルモ、最後ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日間ハ尚當選ヲ辭シ得ルヲ以テ、特別ノ意思表示ナキ限リ、最初ノ當選ニ付テモ尚當選者ニシテ、議員ニ非ラスト爲ササルヘカラサルナリ。

官吏ノ當選

被選擧權ヲ有スル官吏ニシテ當選シタル者ハ、所屬長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ、當選ニ應ス

ルコトヲ得サルヲ以テ、其ノ當選ニ應セムトスルトキハ、所屬長官ノ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル足ル書面ヲ添ヘテ、市町村長ニ申立ツルコトヲ要ス。茲ニ官吏トハ官吏タル關係ヲ有スル者ヲ意味シ、其ノ現職者タルト休職者タルヲ問ハサルナリ。市制第十八條町村制第十五條ノ官吏ノ場合ニ在職者ニ限ルトスルニ拘ラス、此場合ニ於テ總テノ官吏ヲ含マシムル所以ノモノハ、單ニ身分上ノ監督行爲ニ止マルヲ以テ、在職者以外ノモノニモ適用アリトス爲スナリ。從ツテ此ノ監督上ノ處分ハ、前述ノ官吏ニ付テモ其ノ必要アルコト勿論ナルヲ以テ、前揭明治二十二年閣令第十八號ニ於テモ、許可ヲ受クルヲ要スルモノト爲シタルナリ。所屬長官トハ各省及其ノ所屬官廳ニ於テハ各省大臣ニシテ、特設官廳ニアリテハ各其ノ長官ヲ指稱ス。官吏ハ其ノ官吏タル身分ニ基キ特別ノ服從關係ニ立ツヲ以テ、濫リニ其ノ服從關係ニ反スル地位職業ヲ取得スルヲ許ササルナリ。是レ市町村會議員ニ就職スルニ依リテ、或ハ官吏トシテ職務ヲ懈リ、或ハ其ノ服從關係ニ影響ヲ及ホスコトナキヲ保セサルヲ以テ、所屬長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ストセル所以ナリ、官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ、其ノ受ケタル日ノ翌日ヨリ二十日以内ニ當選ニ應スヘク、又數級若ハ市ニ於ケル數選擧區ニ於テ當選シタルトキニ於テハ、何レノ當選ニ應スヘキカヲ二十日以内ニ、市町村長ニ對シ申立テサルトキハ、其ノ當選ヲ辭シ、或ハ總テノ當選ヲ辭シタルモノト看做サル、蓋シ官吏ハ官吏トシテ其ノ當選ニ應スルカ爲メ、所屬長官ノ許可ヲ必要トナシタル以上、一定ノ期間内ニ一定ノ申立ヲナササルトキハ、之ニ應スルノ意思ナク又ハ所屬長官ノ許可ヲ受クル能ハサルモノト看做ササル可ラサルヲ以テナリ。

休職者ヲ含ム

所屬長官

缺員補充

（判例）

一　當選者未決ノ間告知ヲ遲延スルモ違法ニ非ス（二五、一二、一〇、行判）

市制第三十三條　町村制第三十條　市町村會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ市町村長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第二十七條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ當選者ノ補充ニ關スル規定ナリ。

當選者其ノ當選ヲ辭シタルトキ更ニ選擧ヲ行フモノトスレハ、徒ラニ其ノ手數ヲ增加スルノミニシテ毫モ實益ナシ。舊法ニ於テハ當選ヲ辭シタル者アルトキハ、更ニ選擧ヲ行フコトトナリ居リシモ、改正法ニ於テハ曩ニ行ヒタル選擧ニ依リ、當選者ノ決定ニ關スル規定ニ從ヒ、市町村長ニ於テ直ニ當選者ヲ補充シ得ヘキモノト爲シタリ。市制第三十條町村制第二十七條ニ依レハ、有效投票ノ最多數ヲ得、其ノ得票ハ各級ニ於テ選擧スヘキ議員數ヲ以テ、選擧人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アル者ヲ以テ當選者トス。本條ニ依リ補充セラルヘキ者ノ決定ニ付テモ、亦此ノ規定ノ準用セラルヘキモノナルカ故ニ、前ニ當選者トナリタル者ノ次位ノ得票者ニシテ、且ツ其ノ得票數モ亦前記ノ制限ニ從ハサルヘカラサルモノトス。若シ此ノ得票ノ數、同一ナル者二人

以上アルトキハ、等シク第三十條第二十七條ノ規定ニ依リ年長者ヲ以テシ、若シ年齡相同シキトキハ、選擧長ニ於テ抽籤シテ之ヲ定ムヘキモノトス。之ニ依リテ補充スヘキ當選者決定シタルトキハ、其ノ當選ノ告知其ノ他ノ手續ハ、前條ノ規定ニ依リテ爲スヘキモノナルヤ亦言ヲ俟タス。若シ當選者ノ次ニ位スル最多數得票者ニシテ、其ノ得票數規定ノ最少限度ニ達シタルモノナシトセハ如何。此ノ場合ニ於テハ即チ本條ノ規定ニ依リ補充セラルヘキ當選者ナキ場合ニシテ、本條ヲ適用シ得ヘキ限リニアラス。本條ニ依リ補充セラレタル當選者カ、辭選ヲ申立テタルトキハ、更ニ次位ノ得票者ヲ以テ補充スルヲ得ルカ、固ヨリ補充セラレタル當選者ト雖、當選者タルニ相違ナキ以上ハ、其ノ當選ヲ辭シタルトキハ、本條ニ所謂議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキニシテ、市町村長ハ直ニ其ノ補充スヘキ當選者ヲ定メサル可ラス。從ツテ、補充セラレタル當選者カ辭選セルトキハ、再ヒ次位ノ得票者ヲ以テ補充シ得ヘク、苟モ最少限度ノ得票者カ數人アルトキハ、順次補充當選者トナリ得ヘキモノトス。

尙當選者カ市制第三十二條町村制第二十九條各第二項ノ期間ヲ經過セサル間、又ハ第三項若ハ第五項ノ申立期間内ニ死亡シ又ハ資格ヲ喪失シタルカ如キ場合ニ本條ヲ適用シ得ヘキヤ否ヤヲ論スルモノアルモ、本條ハ當選者カ當選ヲ辭シタル場合ノ規定ニシテ、死亡等ノ原因ニ依ル場合ヲ包含セサルニ依リ、右等ノ議論ヲナスノ餘地ナシト謂フヘシ。

市制第三十四條　町村制第三十一條　選擧ヲ終リタルトキハ市町村長ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告ス

（ヘシ）第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

監督官廳ニ對スル報告

本條ハ選擧ノ終了、當選者ノ告示及報告ニ關スル規定ナリ。

投票終了シ當選人定マリタルトキヲ以テ、選擧カ終了スヘキモノナルコトハ前ニ之ヲ述ヘタリ。市町村長ハ當選人決定シタルトキハ遲滯ナク選擧錄ノ謄本ヲ添附シ、其ノ監督官廳タル府縣知事又ハ郡長ニ報告スルモノトス。其ノ選擧錄ノ謄本ヲ添附スルハ、監督官廳ヲシテ選擧カ適法ニ執行セラレタルヤ否ヤヲ監視セシムルカ爲ニ外ナラス。然トモ選擧ノ終了ハ選擧ノ效力ヲ確定シタルモノニアラス、單ニ投票終リ何人カ當選者タリ得ヘキカヲ定メタルニ過キス、監督官廳ニ對シ一應此ノ事實ヲ報告スルナリ。

當選者ノ告示

選擧ノ終了ハ何人カ當選者タルカヲ決定シタルニ止マリ、未タ其ノ當選者カ確定シタルニアラス。之ヲ以テ市制第三十二條又ハ町村制第二十九條各第二項ノ期間ヲ經過シ、換言スレハ當選者中何人カ辭選スルカカ明瞭トナリ、當選人確定シタルトキハ、市町村長ハ直ニ之ヲ告示シ、併セテ其ノ監督官廳ニ報告ス。其ノ告示ノ方式ハ條文ニ何等規定ナシト雖、市條例又ハ町村條例ニ於テ規定アルモノハ、其

ノ方式ニ依リ、何等ノ定メナキ所ニ於テハ平常用ユル公告式ニ依ルヘキナリ。此ノ如キハ辭選期間經過シタルトキニ止ラス、又同條第三項ニ依リ一人ニシテ數級又ハ數選擧區ニ當選シタル者カ、一定ノ期間内ニ何レノ當選ニ應スヘキカノ申立テヲ爲シ、又ハ被選擧權アル官吏ニシテ、一定ノ期間内ニ當選ニ應スヘキ旨ヲ申立テ、及同條第三項ニ依リ市町村長カ抽籤ヲ以テ何レノ當選者タルヘキカヲ決定シタルトキハ、其ノ都度當選者ノ住所氏名ヲ告示シ、併テ監督官廳ニ報告スヘキモノナリトス。告示又ハ報告カ數回ニ分チテ爲サルヘキコトハ、即チ當選者カ同時ニ確定セラルヘキモノニアラサルト同時ニ、選擧ノ如キハ地方團體ノ根本組織ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ、一時モ早ク監督官廳ヲシテ了得セシメ置クヘキ必要アレハナリ。

補充議員ニ告示ヲ要ス

市町村長カ府縣知事郡長ニ報告スルニ當リテハ辭選者ヲモ併セテ報告スルヲ要ス。何トナレハ該報告書ニハ當然當選者ノ數ハ之ヲ明記スヘキモノナルカ故ニ、其ノ何人カ辭選シタルカハ必然之ヲ明記スルヲ要スヘシ。若シ然ラサレハ其ノ添附シタル選擧錄ノ謄本ハ遂ニ其ノ完全ナル用ヲ爲ササルヘキナリ。是ヲ以テ補充當選者ノ確定ニ就テモ亦之ヲ報告スルヲ要スルヤ言ヲ俟タサル所、況ムヤ告示ハ其ノ當選者ヲ一般住民ニ周知セシムル方法ナルヲ以テ、補充當選者ト雖苟モ市町村ノ議員トシテ其ノ名譽職ヲ擔任スヘキモノナル以上ハ、前者ニシテ周知セシメサル可ラサルハ必然ナリ。蓋シ補充議員ノ當選定マルコトモ、等シク市制第三十二條町村制第二十九條ノ所謂當選者定マリタルモノナルヲ以テ、市町村長ノ此等ノ行爲ヲ爲スヘキ義務モ亦當然本條ノ適用ヲ受ケテ生スルナリ。

無効トスヘキ場合

（判例）

一　選擧ハ當選人定マリタル時終了ス（二七、一、三一、行判）

市制第三十五條　町村制第三十二條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

本條ハ規定ノ違反ニ依リ選擧ヲ無效トスル規定ナリ。

舊法ノ規定ニ依レハ、選擧ノ規定ニ違背スルノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ人ノ當選ヲ取消シ、更ニ選擧ヲ行フヲ必要トシタルナリ（舊市町村第二十八條）。從ツテ選擧ノ規定ニ違背シタルトキハ選擧全部ヲ取消シ、改テ選擧ヲ行ハサルヘカラス、實際ノ取扱ハ必スシモ斯ノ如クナラサリシト雖　理論ニ於テハ正ニ然ルヘカリシナリ。然トモ新法ニ於テハ假令選擧カ違法ニ執行セラレタリトスルモ、選擧ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アル場合ニ於テノミ、選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トシ、必スシモ選擧ヲ改メテ爲スヲ要セサルモノトナセリ。惟フニ法規ノ命スル所ニ違背シテ行ハレタリトセハ、法ノ性質トシテ其ノ行ハレタル所ノモノハ之ヲ無效ト爲ササルヘカラス。然トモ自治團體ノ如キ、其ノ住民ノ相互ノ和衷協同ノ念ニ依リテ、其ノ發展ヲ

期スルコト最モ必要ナル團體ニ於テハ、假借スル所ナキ法規ノ執行ハ、或ル場合ニ於テハ、却テ無益ノ手數ト費用トヲ費スニ過キスシテ、寸毫ノ利益スル所ナキ場合多シ。本條カ法規ニ違反シテ行ハレタルニ拘ラス其ノ選擧ノ全部ヲ必スシモ無效トナササルノ理由ハ茲ニ存ス。而シテ本條ニ依リ選擧ヲ無效ト爲スカ爲ニハ、一、選擧ノ規定ニ違反シタルコト、二、之ニ依リテ全部又ハ一部選擧ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アルコトヲ要ス。

規定違反ノ場合

選擧ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アル場合

本法ハ單ニ選擧ノ規定ニ違反スルコトト、概括的ノ規定ヲナセルニ過キサルヲ以テ、今一々其ノ場合ヲ列示スルヲ得スト雖、確定セサル名簿ヲ以テ選擧ヲ行ヒタルトキ、適法ニ選擧ノ告示ヲ爲ササリシトキ、告示シタル場所以外ニ於テ選擧ヲ行ヒタルトキ、選擧立會人ノ立會ナカリシトキ、事故ナクシテ選擧分會ト本會トノ投票ノ時間ヲ異ニシタルトキ、代書投票ヲ爲シタルトキ、選擧權ナキ者カ入場シ投票ヲ爲シタルトキ、投票ノ閉鎖時間前ニ投票函ヲ閉鎖シタルトキ等ハ即チ選擧ノ規定ニ違反シタルトキナリ。

選擧ノ規定ニ違反シテ行ハレタルトキト雖、選擧ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アル場合ニアラサレハ、選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トナスヘキニアラス。選擧ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ場合トハ如何ナル場合ヲ謂フカ、事全ク事實問題ニ屬スト雖、例ヘハ選擧權ナキ者カ二名入場シ、投票セシ場合ニ於テ、當選者ノ得票數百票、其ノ次點者ノ得票カ九十票ナリシトキハ、其ノ選擧權ナキ者ノ投票ハ、之レヲ何レヨリ控除スルモ、當選者ト次點者トノ地位ニ、變動ヲ及ホササルカ故ニ、選擧ノ結果ニ異動ヲ生セサルモ、若シ當選者カ九十六票ニシテ、次點者カ九十五票ナリシトセハ、無效投票ノ二票カ、若シ當選者タリシ者ノ得票ナリトセハ、之ヲ控除スルトキハ其ノ得票ハ次點者ヨリモ少數ト爲ルヲ以テ、之レ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ場合ナリ。又其ノ他ノ例ヲ以テスルモ、例ヘハ告示シタル場所以外ニ於テ選擧ヲ行ヒ、又ハ投票閉鎖時間前ニ投票函ヲ閉鎖シタルカ爲、其ノ場所ヲ知ラス又ハ閉鎖ノ結果投票ヲ爲ス能ハサル者二人ナリトセハ、若シ其ノ當選者次點者ノ得票數カ前例ノ如シトセハ、又前例ノ如ク選擧ノ結果ニ異動ヲ生スル場合ト、然ラサル場合トヲ生スヘキナリ。此等ノ例ニ依リ其ノ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スヘキカ如キ場合ニハ、即選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效ト爲スノ限リニ在ラサルナリ。

全部又ハ一部ノ無效ヲ分ツ標準

選擧カ違法ニ行ハレタルカ爲、選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルトキハ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效ト爲ス。果シテ然ラハ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效ト爲スヘキ場合ハ何ニ依リテ分ルルカ。之レ前項ノ說明ト等シク事實ノ問題ニシテ選擧全體ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニハ全部無效トシ、其ノ影響カ選擧ノ一部ニ止マルトキハ其ノ選擧ノ一部ヲ無效トスヘキナリ。例ヘハ選擧期日前八十日ヲ期トシ、其ノ日ノ現在ニ依リ調製シタル選擧人名簿ヲ以テ、選擧ヲ行ヒタルカ如キ場合ニハ、其ノ影響ハ選擧全部ニ及ホスヘク、從テ全部ヲ無效ト爲スヘキナリ。何トナレハ選擧期日前六十日ヲ期トシ、其ノ日ノ

現在ニ依リ調製シタル人名簿ヲ以テ、選擧ヲ行フヘキモノナルカ故ニ、八十日ヲ期トシテ調製シタル名簿ニ依レハ、其ノ後ノ二十日間ニ於テ選擧人ノ級別ニ如何ナル變動ヲ爲シタルヤモ測ラレス、從テ斯ル場合ニ於テハ、選擧全部ヲ無效ト爲スヘキナリ。又選擧人名簿ノ級別ヲ誤リ、二級ノ選擧人ヲ一級ト爲シ、一級ノ選擧人ヲ三級ノ選擧人ト爲シタルカ如キ場合ニ於テ其ノ誤ヲ編入セラレタル選擧人ノ控除加入カ各級ニ渉リテ結果ニ異動ヲ生スヘキトキ亦同シ。又二級ノ選擧當日ニ於テ、無資格者カ入場シテ投票シ、前項說明ノ如キ場合ヲ生シタルトキハ、其ノ結果タルヤ單ニ選擧ノ一部タル二級ノ當選者ノミニ就テ、結果ニ異動ヲ生スヘキモノナルヲ以テ、二級選擧ノミヲ無效トナスヘキノミ。

以上述フル所ヲ要スルニ、假令選擧カ違法ニ行ハレタリトスルモ、其ノ結果カ選擧ニ異動ヲ來ササル場合ニ於テハ、果シテ其ノ事實カ選擧ノ結果ニ異動ヲ生セシメタルヤ否ヤハ、固ヨリ未必ニ屬スト雖、其ノ異動ヲ生スヘシト推定セラルル範圍ニ於テ、該選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效ト爲スヘキナリ。而シテ本條ニ所謂選擧ノ一部トハ、市ニ於ケル選擧區中ノ或者又ハ一級二級及三級ノ級別選擧ヲ指スモノニシテ、一級選擧ノ一部又ハ二級選擧等ノ一部ト謂フノ意ニハ非サルナリ。

選擧ノ一部ノ意義

（判例）

一　無効投票アルモ結果ニ異動ヲ生セサル選擧ハ取消スヘキニ非ス（二六、七、一〇、行判）

二　過剩投票ヲ當選者ノ得票ヨリ控除スルモ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ其ノ選擧ハ取消スヘキモノニ非ス（二六、六、六、行判）

三　無資格者ノ爲シタル投票アルモ選擧ノ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ其ノ選擧ハ無效ニ非ス（二三、六、二二、行判）

（追）

市制　第三十六條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ第三十四條第一項當選ニ關シテハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以內ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無效トス

第二項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

市會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

町村制　第三十三條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以內ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

都長ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣知事ノ指揮ヲ受ケ選擧ニ關シテハ第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無效トス

第三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第二項若ハ第六項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及第二項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二項第五項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル處分、決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

本條ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ對シ規定シタルモノニシテ、換言セハ違法ナル選擧又ハ當選ノ效力ニ關スル救濟方法ノ規定ナリ。

選擧會ニ於テハ選擧ヲ行ヒ當選者ヲ定ム。然トモ其ノ選擧及當選者ノ決定ハ必シモ確定ノモノニアラス。選擧ノ規定ニ違背シ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ場合ニ於テハ、旣ニ述ヘタルカ如ク其ノ全部又ハ一部ヲ無效トス。仍選擧ノ手續ハ適法ナルモ或ハ被選擧權ナキ者ヲ當選者トナシ、或ハ有效投票ノ最多數ノ得票者ナラサル者ヲ當選者トナシタルカ如キトキハ、其ノ當選ハ無效ナルカ故ニ、選擧人又ハ監督官廳ヲシテ、選擧又ハ當選ノ無效ヲ主張セシメ、以テ不法ニ行ハレタル選擧又ハ當選ヲ排除シ得ル手續ヲ定ムルコトノ必要ナルヤ亦言ヲ俟タス。

選擧無效ト當選無效

選擧ノ效力トハ選擧カ有效ナリヤ否ヤヲ謂フモノナリ。選擧ノ無效ナル場合ニ於テハ、當選效力有無ノ問題ハ發生スルコトナシ。選擧カ有效ニシテ當選ノ無效ナル場合アリヤ。本條ニ何等明文ナシト雖、之ヲ例示セハ無效投票ヲ有效トナシ、有效投票ヲ無效ト爲シ、之ニ依リテ投票ノ最多數ヲ得タル者ニ非ラサル者ヲ當選者トナシタルカ如キ、或ハ得票數相同シキトキ年長者ニアラサル者ヲ當選者ト爲シタル場合ノ如キ、或ハ各級ニ於テ選擧スヘキ議員數ヲ以テ、選擧人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票ヲ得タル者ニアラサル者ヲ當選者ト決定シタルトキノ如キ、選擧ノ日ニ被選擧權ヲ有セサリシ者カ當選シタルトキ、及其ノ他市制第十八條第四項町村制第十五條第四項ノ場合ニ於テ、有效投票ノ多數ヲ得サル者ヲ當選者ト爲シ、或ハ年長者ニ非サル者ヲ當選者トナシタルカ如キ場合ハ、其ノ當選ノ

ミヲ無效ト爲シ得ヘキ場合ニシテ、之レカ無效ヲ主張シ得ル者及其ノ手續方法ハ次ニ述フルカ如シ。

異議ノ申立者

選擧又ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ申立ハ選擧人カ爲ス所タリ。茲ニ選擧人トハ其ノ級ノ選擧ニ就キ現ニ投票ヲ爲シタル者ニ限ルノ意ニアラスシテ、選擧權ヲ有シ選擧ニ參與スルコトヲ得ル者ノ總テヲ指スモノナリ。而シテ異議ノ申立ハ、選擧ノ效力ニ關シテハ市町村長カ當選者ノ住所氏名ヲ告示シタル日ノ翌日ヨリ起算シ、七日以內ニ之ヲ市町村長ニ爲スヘキモノトス。而シテ選擧カ二日以上ニ亘リ、例ヘハ三級ハ四月一日二級ハ四月二日一級ハ四月三日ニ行ハレタリトセハ、選擧ノ日トハ其ノ各級毎ニ選擧ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ計算スヘキモノナリ。何トナレハ選擧ノ效力ハ其ノ一部ヲ無效トナシ得ヘク、又本條ニ於テ單ニ選擧ノ日ヨリト記シ、特ニ選擧全體ノ終了シタルコトヲ要スルモノト見ルヘキ根據ナケレハ、選擧ナル文字ハ各級毎ニ選擧ヲ終了セルコトヲ意味スルモノト解スヘキヲ以テナリ。尙其ノ期間ノ計算モ、本條ニ規定セルモノハ總テ之ヲ其ノ日ノ翌日ト解スヘキモノナルコト、市制第三十二條町村制第二十九條ニ於ケルモノト相同シ。而シテ異議ノ申立ハ七日以內ニ市町村長ニ之ヲ爲ス可シト規定セルニ依リ、七日以內ニ市町村長ノ許ニ其ノ申立カ到達スルヲ要スルモノト解スヘキナリ。當選者ノ辭選ニ依リ補充セラレタル當選者ニ就キ亦同シ。

「選擧ノ日ヨリ」ノ意義

異議ノ決定

市町村長カ前項ノ異議ノ申立ヲ受ケタルトキハ、其ノ受ケタル日ノ翌日ヨリ七日以內ニ、市町村會ノ決定ニ附シ、市町村會ハ其ノ送附ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ十四日以內ニ其ノ申立ノ當否決定スルコトヲ要ス。異議ノ決定ハ文書ヲ以テシ理由ヲ附シ申立人ニ交付スヘキコト市制第百六十條町村制第百四十條ノ規定ナリ。一定ノ期間ヲ經過シテ爲シタル異議ノ申立ハ、市制第百六十條第四項町村制第百四十條第四項ニ依リ、特ニ宥恕スヘキ事由アル場合ニ限リ仍之ヲ受理スルコトヲ得ルモノトス。

監督官廳ノ異議

府縣知事又ハ郡長ハ、市長又ハ町村長ヨリ、選擧ノ終了又ハ當選者ノ住所氏名ノ報告ヲ受クルニ依リ、或ハ選擧ニ派遣セシ官吏ノ復命ニ依リ、選擧又ハ當選者ノ決定カ適法ニ行ハレシヤ否ヲ知リ得ヘク。又ノ監督官廳トシテ這般ノ事實ヲ監視スルノ要アリ。從ツテ府縣知事又ハ郡長ニ於テ、選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルコトアルヘシ。此ノ場合ニ於テハ府縣知事又ハ郡長ハ、無效ノ選擧又ハ當選ノ廢棄ヲ計ルハ監督官廳トシテ將ニ爲スヘキ當然ノ職務トス、故ニ府縣知事ハ、選擧ニ關シテハ市制第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ二十日以內ニ、之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得ヘク。郡長ハ、府縣知事ノ指揮ヲ仰キ、選擧ニ關シテハ町村制第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ、當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ二十日以內ニ、自ラ其ノ當否ヲ判別シ無效ヲ定メ有效ヲ決シ得ヘキモノトス、蓋此ノ點ニ於テ市ト町村トノ間ニ差異アルハ、其ノ組織及監督官廳ノ階級ノ異ナルニ依リ生シ來ル結果ニ外ナラス

前項ノ如ク監督上ノ作用トシテ、府縣知事モ異議アルトキハ其ノ當否ヲ府縣參事會ノ決定ニ付シ、又郡長モ府縣知事ノ指揮ノ下ニ自ラ處分スルコトヲ得、然ルニ一方ニ於テハ選擧人ヨリ異議ノ申立ヲ爲シ、市町村會ニ於テ其ノ當否ノ決定ヲ爲シ得ヘキカ故ニ、同一事件ニ就キ、二個ノ救濟方法カ同時ニ行ハルルコトアリ得ヘシ、然トモ既ニ其ノ事件ニ關シ、監督官廳ノ處分アリタルトキハ、若シ其ノ處分ニシテ異議申立者ノ希望ト合致スルニ於テハ、異議申立者ハ其ノ希望ノ主張ヲ繼續スルノ必要ナク、又其ノ處分ニシテ自己ノ希望ニ副ハサルニ於テハ、更ニ其ノ處分ニ對シ不服ノ申立ヲ爲シ得ハ足ルヘク、何レニスルモ當初ノ異議申立ハ、繼續シテ存在セシムル必要ナキヲ以テ、前項ノ處分即監督官廳ノ處分アリタルトキハ、同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立ハ、無效トシテ消滅ニ歸セシメタルナリ、其ノ已ニ市町村會ノ決定アリタル場合ニ之ヲ無效トスルモ同一理由ナリ、若シ市町村會ノ決定ニシテ、監督官廳ノ處分ト同一ナル場合ニ於テハ、二重ニ存在セシムル必要ナク、又異ナル場合ニ於テハ、監督官廳ノ處分ニ讓ラシムル必要アリ、而シテ何レノ場合ニ於テモ、次項ノ規定ニ依リ不服アル者ニ訴願ノ提起ヲ許スヲ以テ、何人モ不利益ヲ蒙ムルコトナシ、故ニ之ヲ無效トセルナリ。

申立及決定ノ無效

不服者ノ範圍

市町村會ノ決定又ハ郡長ノ處分ニ不服アル者ハ、府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得、而シテ茲ニ不服アル者トハ、異議ノ申立ヲ爲シタル者ニ限ラス、汎ク一般選擧人ヲ包含スルハ勿論ナレトモ市町村自體ハ之レヲ包含スルコトナシ、本條ハ市町村會ノ決定又ハ郡長ノ處分ニ不服ナル者ニ訴願ヲ爲ノ權

確定前ノ議事參與權

アルコトヲ認メタルニ止ラス、市町村會ノ決定ニ對シテハ市町村長ヨリモ亦訴願ヲ爲スヲ得ヘキコトヲ定メタリ、訴願ヲ爲スノ期日及次項ニ說明スヘキ行政訴訟ヲ提起スル期間ニ付テハ市制第百六十條町村制第百四十條ノ一般期間ニ依ラシムルナリ。

府縣參事會カ訴願ニ付キ爲シタル裁決並ニ府縣知事カ府縣參事會ノ決定ニ付シタル事件ノ決定ニ對シ、不服アル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘク、市町村長、府縣知事ニ於テモ亦府縣參事會ノ裁決又ハ決定ニ對シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ。行政裁判所ハ第一審ニシテ又終審裁判ナルヲ以テ、行政裁判所ノ判決ニ對シテ更ラニ不服ヲ訴フル途ナシ。

市町村會議員ハ、選擧終リ其ノ當選ノ告知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ五日ヲ經過シタルトキト雖、選擧又ハ當選ニ關シ異議、訴願又ハ訴訟ノ提起セラレタルトキハ、其ノ決定若ハ裁決カ確定シ、又ハ行政裁判所ノ判決アリタル後ニ非サレハ、市町村會議員トシテノ地位ハ尙ホ未タ確定シタルモノニ非サレトモ、選擧既ニ終リ選擧會ニ於テ當選者ト決定セラレタル以上ハ、選擧ハ適法ニシテ當選者モ適法ニ當選シタルモノトシ、一應ハ看做サルルモノナルヲ以テ、異議又ハ訴願ノ決定又ハ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アル迄ハ、市町村會ニ列シ議事ニ參與シ、議員トシテ完全ニ其ノ職務ヲ盡シ得ルモノト爲セリ。

之ヲ理論ノ問題トシテハ當選無效ト確定シタルトキハ、其ノ者ノ參與シタル市町村會ノ議決ハ瑕疵ア

ルモノト爲ルヘキ筈ナレトモ、若シ此ノ理論ニ依ルトキハ、市町村ノ事務ハ紛爻ヲ免カレサルヲ以テ、特ニ有效ナル議員トシテ行動シ得ヘキモノト爲シタルナリ從ツテ其ノ決定、裁決又ハ判決ニ依リ當選ヲ無效ト確定スルモ、其ノ者ノ參與議決シタルモノカ無效トナルモノニ非ラス。

（判　例）

一　選擧人ニアラサル者ハ選擧效力ニ關シ訴願スルコトヲ得ス（三一、二、一五、行判）

二　選擧ノ日ヨリ七日以內トアルハ各級選擧ノ日ヲ異ニスル場合ニ於テハ其ノ各級ノ選擧ヲ行ヒタル日ヨリ各別ニ起算シテ七日以內ヲ指スモノナリ（四二、六、一七、行判）

三　選擧人名簿ニ登載ナキ者ハ訴權ヲ有セス（二六、二、二三、行判）

四　選擧ノ效力ニ關シ訴願ニ與ラサルモ他ノ訴願人ト共ニ起訴スルコトヲ得（三〇、五、二四、行判）

（增）

市制　第三十七條
町村制　第三十四條　當選無效ト確定シタルトキハ市町村長ハ直ニ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

選擧無效ト確定シタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第二十七條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

本條ハ當選者ノ補充及再選擧ニ關スル規定ナリ。

前條ノ規定ニ依リ當選無效ト爲リタル場合ニ於テハ、更ニ當選者ヲ補充スルコトヲ要ス、市町村長ハ前ニ行ヒタル選擧ニ依リ當選者ヲ定ムルコト、恰モ辭選者アリタル場合ニ當選者ヲ補充スルト同一ノ處理ヲ爲スヘキナリ。本條ニハ當選無效ト確定シタルトキト規定シ、更ニ其ノ時期ニ就テ定メタルモノナキヲ以テ、例ヘハ行政訴訟ニ依リ當選カ無效ト確定スルトキノ如キハ、其ノ無效ト確定スル迄ニ、幾多ノ日時ヲ要スヘク、從ツテ其ノ間ニ次點者タリシモノカ死亡シ、又ハ其ノ被選資格ヲ喪失シタルカ如キコトアリテ、更ニ當選者ヲ定メ得サルコトナキヲ保セス。從ツテ當選者補充ノ法則ニ依リテハ、當選者ヲ定メ得サル場合ヲ生スヘシ。斯ル場合ニ於テハ全ク本條ヲ適用シテ當選者ヲ定ムルコトヲ得ス。本條ニ當選無效ト確定シタルトキハト謂フハ、異議ノ申立ニ對スル決定、訴願ノ裁決アリタル場合ニ更ニ訴願ヲ爲サス、訴訟ヲ提起セスシテ決定ノ期間ヲ經過シ又ハ行政裁判所ノ判決アリタル場合ヲ指スモノナリ。本條ハ更ニ當選者ヲ定ムヘキ時期ニ關シテ明記ナキヲ以テ、總選擧ヲ行フノ時迄ハ、本條ノ規定ニ依リテ當選者ヲ定メ得ルモノト解釋セサルヘカラス、何トナレハ行政訴訟ノ如キハ或ハ一年二年ノ後ニシテ判決アル事アレハナリ。

選擧カ前條ノ規定ニ依リ、無效ト確定シタルトキハ、其ノ一部又ハ全部カ初メヨリ存在セサリシモノトナルニ依リ、其ノ部分ニ付更ニ選擧ヲ行ハサルヘカラス、之レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ。

選擧ノ結果カ議員ノ定數ヲ得ルコト能ハサルニ了リタルトキハ、其ノ不足ノ議員ヲ補充スルカ爲ニ、其ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行ハサルヘカラス。議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキトハ、

當選者補充

當選無效ノ確定

選擧無效ノ爲再選擧

定數不足ノ爲再選擧

再選擧

市制第三十條町村制第二十七條ニ依リ最少限度ノ得票ヲ得タル者議員ノ定數ニ充タサルトキ、又ハ得票者ノ全部カ選擧スヘキ議員數ニ足ラサルトキノ如キ之ナリ。或ハ議員タルヲ得サル者アルカ爲（市制第十八條第四項末段町村制第十五條第四項末段）議員定數ニ足ラサル場合ハ、均シク又本項ノ適用ヲ受クヘシ。何トナレハ此ノ場合ニ於テハ、其ノ者ハ始メヨリ議員トシテ當選者タル能ハサル場合ナレハナリ。當選者カ辭任シ得ヘキ期間内ニ死亡シ、又ハ權利ヲ喪失シタル場合モ、亦本項ノ適用ヲ受クヘキモノナリ。何トナレハ當選者ノ死亡ハ當選ノ無效ニアラス、又選擧ノ無效ニモアラス、而モ其ノ期間内ニ於テ或ハ辭選シタルヤ計ラレスト雖、亦其ノ當選ニ對シテ辭選ヲ申立テサリシヤモ測ラレス、從ツテ當選者ノ辭任セルモノナリト見ルヲ得ス、又一旦議員タル地位確定シタルモノニ非サルヲ以テ、議員タル者ニ闕員ヲ生シタルモノニモアラス、即法カ特ニ規定シタル以外ノ理由ニ於テ、當選者ニ不足ヲ生スル場合ナルヲ以テ、何等理由ノ限定ナキ本項缺員ノ中ニ入ルコト、當然ノ結果ナレハナリ、其ノ權利喪失ノ場合亦死亡ノ場合ニ同シ。

以上ノ場合ニ於テ行フ選擧ハ假リニ之ヲ再選擧ト稱ス、法律上ノ名義ニアラサルヲ以テ、定員不足ノ爲行フモノノ如キハ補充選擧又ハ補足選擧ト云フモ自由ナリ。法律上特殊ノ意義ヲ有スル補缺選擧又ハ增員選擧トハ異ル。再選擧ハ以上說明シタルカ如キ場合ニ於テ之ヲ行フモノニシテ、選擧無效ト確定スルトキトハ如何ナル時ヲ指スカハ、當選無效ノ確定ノ場合ト相同シ。再選擧ヲ行フノ時期ニ就テハ選擧無效ト確定シタルトキ又ハ議員定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサルトキ直ニ之ヲ行フモノトス。唯選擧無效ト確定セシメタルトキ行フ再選擧ニ就テハ、當選無效ノ確定ニ依リ當選者ヲ補充スル時ト同シク、其ノ確定時期カ其ノ選擧ヲ行ヒタル時ヨリモ、著シク日時ヲ經過スル場合ヲ生スヘシ、從ツテ選擧人名簿ヲ更メテ調製シタル後ニ於テ、行フヲ要スルコトアルヘシ。選擧人名簿ハ其ノ確定後一年内ニ於ニ行フ選擧ニノミ之ヲ用ヒ得ヘキモノナレハナリ。

得票制限ノ不適用

選擧無效ノ確定ニ依ル再選擧ハ、選擧ノ全部カ無效ナルトキハ其ノ全部、一部カ無效ナルトキハ其ノ一部ニ付キ之ヲ執行スヘク、該再選擧ニ依リ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサルトキハ、本條第三項ノ規定ニ依リ更ニ再選擧ヲ行フコトヲ得ヘシ。議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサル場合ニ於テ、其ノ不足ノ員數ニ付キ行フ再選擧ニハ、最少限度ノ得票ニ關スル制限規定ヲ適用セサルカ故ニ、單ニ多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選者ト爲ス、是レ斯クノ如クシテ再ヒ選擧ヲ行フノ煩ヲ避ケムトスルモノナリ。蓋シ議員定數ニ足ル當選者ヲ得サルコトハ種々ナル理由アルヘシト能、要スルニ得票ノ制限ニ原因スルコト多キヲ以テナリ。但シ此ノ制限規定ヲ適用セサル規定ハ、選擧無效ノ場合ニ行フ再選擧ニ適用スルモノニハ非サルナリ。

（增）

市制　第三十八條　市町村制　第三十五條　市町村會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外其ノ被選擧權ノ有無ハ市町村會之ヲ決定ス

市町村長ハ市町村會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市町村會ノ決定ニ付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

議員資格ノ性質

本條ハ議員ノ失職及之ニ對スル救濟手段ニ關スル規定ナリ。

市町村會議員ハ、其ノ住民ニ代リテ市町村行政ニ參與スル者ナルヲ以テ、之ニ相當スルノ資質ヲ備フルコトヲ要ス。故ニ其ノ被選資格ニ於テ、種種ノ制限アリ。即市町村公民タルヲ要シ、公民權停止中ノ者ニ非サルヲ要シ、市制第十一條町村制第九條各第三項ニ該當セサル者タルコトヲ要シ、又市制第十八條町村制第十五條各第二項第三項ニ該當セサル者タルコトヲ要ス。此等ハ單ニ選舉セラルルカ爲ニ必要ナリト云フニ非ラス、市町村會議員ト云フ地位カ之ヲ必要トスルナリ。從ツテ此等ノ資格ニ於テ缺クル所アル者カ、誤ツテ議員ニ選舉セラルルカ、又ハ其ノ議員ト爲リタル後ニ於テ、之ヲ缺クニ至リタルトキハ、理ニ於テ將ニ議員タラシムヘカラサルナリ、之レ本條カ此等ノ場合ニ關シ精細ナル規定ヲ設ケタル所以ナリ。

被選舉權欠缺ノ時期

被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フト云フモノハ、被選舉權ヲ有セサルノ事實カ、選舉當時ニ於テ存在スルト、議員ト爲リタル後ニ於テ生シタルトヲ別タス。又現ニ存在スルト、選舉當時ニ存在シタルトモ問ハサルナリ。現ニ被選舉權ヲ有セサル者カ其ノ職ヲ失フヘキコトハ、條文ノ普通ノ解釋ニ於テ何人モ異議アルヘカラサル所ナリト雖、選舉當時ニ於テハ被選舉權ヲ有セサリシニ拘ラス、現在ニ於テハ其ノ資格完全ナル者、例ヘハ選舉當時ハ二十五歳未滿ニシテ、現在ハ二十五歳以上タリ、選舉當時ニ於テハ禁治產者タラス、又選舉當時ニ於テハ所屬府縣官吏タリシ者カ、現在ハ他ニ轉任シタルカ如キ場合ニ於テ、猶本條ノ規定ニ該當スルヤ否ヤハ、一讀疑ヲ狹ムル者ナキニ非サルヘシ。然トモ本條ノ規定ハ、客觀的ニ事實ノ明瞭シタルトキニ於テ、失職スルト云フノ主旨ニ在ラスシテ、苟モ被選權ヲ有セサルノ事實主觀的ニ存在スルトキハ、其ノ者ノ議員タル資格ハ其ノ瞬時ニ於テ滅失スヘキノ精神タリ。唯主觀的事實ハ他ヨリ之ヲ現實ニスルノ方法ナキヲ以テ、便宜ノ方法トシテ、其ノ失職ノ事實ノ發現ヲ市町村ノ決定ニ依リテ確實ニシ、失職ノ事實的效果ヲ其ノ以後ニ於テ認ムルト云フニ過キサルナリ。故ニ選舉當時ニ於テ被選舉權ナキ者ハ、其ノ瞬時ニ於テ議員ノ職ヲ失ヒタルナリ、唯其ノ失職ノ效果ヲ市町村會ノ決定ニ依ラシムルト云フノミ、已ニ然ラハ市町村會カ選舉當時ニ發生シタル失職ノ事實ヲ認ムルニ於テ何ノ支障アルヘカラサルナリ。

市町村會ノ決定

斯ノ如ク失職ノ事實ハ、被選擧權ヲ有セサルノ事實ニ伴ヒ當然起ルヘキ效果ナリト雖、其ノ事實ノ有無ハ時ニ爭ヲ生セサルニ非ラス、又禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ノ如ク、顯フル判明ナルモノアリト雖、本人ニ於テ之ヲ否認スルニ於テハ結局爭アルヲ免カレサルニ依リ、特ニ被選擧權有無ノ爭フヘカラサル實在ヲ、市町村會ノ決定ニ係ラシメタルナリ。已ニ市町村會ノ決定ニ係ラシメタルヲ以テ、事實ニ於テ被選擧權ナキ者ト雖、其ノ無シト云フ決定ノ確定スル迄ハ、現在ノ議員タル地位トノ關係ニ於テハ、被選擧權アル者タルナリ。又事實ニ於テ被選擧權アル者ト雖、市町村會ニ於テ無シトノ決定ヲ生スヘキモノトス。之レ處刑ノ場合ハ特ニ顯著ナルノミナラス、其ノ情狀ニ於テモ最モ惡ムヘキモノタリ、處刑中ノ罪人カ市町村ノ公事ニ携ハルハ、一刻タリト雖欲セサル所ナルヲ以テ、決定ニ付シ異議ノ申立、訴願、訴訟等ヲ爲シ、其ノ間議員トシテノ職ニ在リ得ルコトヲ避ルカ爲ニ、刑ノ確定ト共ニ當然失職スルモノト爲シタルナリ。

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

失職ノ條件タルヘキ被選權ノ有無ハ、市町村會ノ決定ニ付スト雖、獨リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ、別ニ市町村會ノ決定ヲ須ツコトナク、其ノ處刑ノ事實ニ依リ當然失職ノ現實的效果ヲ生スヘキモノトス。之レ處刑ノ場合ハ特ニ顯著ナルノミナラス、其ノ情狀ニ於テモ最モ惡ムヘキモノタリ、處刑中ノ罪人カ市町村ノ公事ニ携ハルハ、一刻タリト雖欲セサル所ナルヲ以テ、決定ニ付シ異議ノ申立、訴願、訴訟等ヲ爲シ、其ノ間議員トシテノ職ニ在リ得ルコトヲ避ルカ爲ニ、刑ノ確定ト共ニ當然失職スルモノト爲シタルナリ。

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

犯罪人ニ對スル決定

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ當然失職スト雖、其ノ當然失職以前ニ於テモ、市町村會カ此者ニ對シ、決定ヲ爲ス得ヘキ場合ハ存スルナリ。何トナレハ、刑ニ處セラレタル者トハ、刑ノ確定シタル者ノ謂ナルヲ以テ、其ノ確定以前即禁錮以上ノ刑ノ宣告アリタル場合ニ於テハ、此ノ者ハ市制第十一條町村制第九條各第二項ニ依リ、公民權ヲ停止セラルルヲ以テ、當然被選擧權ヲ喪失ス、此ノ場合ニ於テ、市町村會ハ其ノ被選擧權ノ有無ヲ決定スヘキモノタルナリ。然トモ此ノ決定ニ對シテハ、他ノ普通ノ場合ト等シク、其ノ決定ヲ受ケタル者ニ於テ、異議ノ申立、訴願、訴訟ノ提起ヲ爲シ得ヘキヲ以テ、其ノ決定確定以前ニ於テ、刑ノ宣告確定スルトキハ、其ノ刑ニ處セラレタルノ故ヲ以テ、當然失職シ、異議申立、訴願、訴訟等ハ目的ノ滅失ニ依リ消滅スルナリ。

決定ノ發案權

市町村長ハ、市町村會議員中ニ被選擧權ヲ有セサル者アリト認メタルトキハ其ノ有無ヲ市町村會ノ決定ニ付セサルヘカラス、之ヲ付スルハ市町村長ノ義務ナリ。然トモ市町村會ハ、市町村長ノ發案ナケレハ、被選擧權有無ノ決定ヲ爲シ能ハサルニ在ラス、自己ノ權限トシテ、自カラ進ムテ決定ヲ爲スヲ妨ケサルナリ、之レ特ニ市町村長ノ發案スル場合ヲ、別項ニ分チ揭ケタル所以ナリ。

議員ノ異議訴願訴訟

被選擧權ナシトスル市町村會ノ決定ヲ受ケタル者、其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アルカ、又ハ次項ノ規定ニ依リ、市町村長ヨリ提起シタル訴願ニ對シ爲シタル府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ、行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシム、之レ其ノ權利ヲ尊重スル

ナリ。

市町村長ノ訴願訴訟

市町村會ノ爲シタル決定、及府縣參事會ノ爲シタル裁決ニ對シ不服アルトキハ、市町村長ヨリモ亦訴願訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシム、市町村ノ利益ノ爲抗爭ノ途ヲ開ケルナリ。本項ニ於テ「前項ノ裁決」ト云フモノハ、前項ニ揭ケタル裁決ノ義ニシテ、「其ノ裁決」及「第四項ノ裁決」ノ兩者ヲ包含ス、即議員ノ訴願ニ對スル裁決及自己ノ訴願ニ對スル裁決ノ何レニ關シテモ行政訴訟ヲ提起シ得ルナリ。

府縣知事ノ訴訟

前二項ノ裁決、即議員ノ訴願ニ對スル裁決、又ハ市町村長ヨリ提起シタル訴願ニ對スル裁決、何レニ關シテモ府縣知事ヨリ訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシム、公益保護、法規維持ノ目的ニ出スルナリ。

議事參與權

市制第三十六條町村制第三十三條各第八項ノ規定カ、本條第一項及前三項ノ場合ニ準用セラレタル所以ハ、失職ノ結果ヲ被選舉權有無ニ關スル、市町村會ノ決定ニ對シ異議申立、訴願、訴訟ノ途ヲ開ケル以上、其ノ確定スル迄、事件ノ當事者タル議員ヲシテ、會議ニ列席シ議事ニ參與スルコトヲ得セシムルハ、公平ノ處置タラスムハアラサルナリ。

決定ノ形式

決定ハ文書ヲ以テ爲シ、其ノ理由ヲ附スヘキモノナルコトハ、市制第百六十條町村制第百四十條ニ揭ケラレタル通則ナリ。然ルニ茲ニ再ヒ之ヲ繰リ返シタル所以ノモノハ、通則ノ規定ニ於テハ、決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシトアルモ、本條ノ場合ニ於テハ之ヲ申立人ニ交付スルニ非ラスシテ、決定ヲ受クル本人ニ交付スルコトヲ要スルト異議ニ對スル決定ニ非サルトノ爲ニ外ナラサルナリ。

告示スル所以

（判例）

一　村會議員村稅滯納處分ヲ受ケ公民權ヲ停止セラレタルモ未タ實格ニ付議決ヲ爲ササル前ニ於テハ村會ノ議事ニ參與スルコトヲ得（三八、一〇、三〇、行判）

市制　第三十九條　第二十一條及第三十六條
町村制　第三十六條　第十八條及第三十三條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、
、、、

之ヲ告示スヘキモノト爲シタルナリ（但シ町村會議員ノ選擧又ハ當選ノ效力ニ付テハ府縣參事會ノ決定スル場合ナシ、故ニ町村制本條ノ之ニ關スル規定ハ貯文トス）

訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル期間ハ、市制第百六十條町村制第百四十條ニ依レハ、決定、裁決又ハ處分アリタル日ノ翌日ヨリ、訴願ニ就テハ二十一日以內ニ、行政訴訟ニ就テハ三十日以內ニ提起スヘキモノトセリ、從ツテ本條ニ於ケル告示ハ、決定裁決又ハ處分アリタル日ヨリ二十一日以內、又ハ三十日以內ニ提起スヘシトアリ、告示ノ日ノ翌日ヨリト規定セラレス、告示ハ單ニ便宜周知ノ手段ヲ講スト云フニ止マリ、期間ノ進行ニ何等ノ關係ヲ有セサルヲ以テ、若シ告示ニシテ遲延シタルトキハ一般權利者ハ終ニ不服申立ノ機ヲ失スルニ至ルヘキヲ以テナリ

議員選擧ノ罰則

市制第四十條 町村制第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

前項ノ罰則中選擧人ニ關スル規定ハ第二十七條（第二十四條）ノ代人ニ之ヲ準用ス

本條ハ選擧ノ罰則ニ關スル規定ナリ。舊法ニ於テハ明治二十三年法律第三十九號市町村會議員選擧罰則アリ、以テ選擧ニ關スル犯罪ヲ處罰シタリト雖、改正法ニ在リテハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用シタリ、之レ選擧ナル行爲ニ關シテハ全ク衆議院議員選擧モ其公選ナル性質ニ於テ相同シク、彼此均衡ヲ保ツノ必要上茲ニ出テタルナリ。又舊法ニ於テハ單ニ市町村會議員ノ選擧ニ限リシト雖、改正法ニ於テハ、弘ク本法ニ根據ヲ置ク議會ノ議員選擧ニ適用スヘキモノト爲セリ、蓋シ其ノ性質ニ於テ皆相等シキモノナレハナリ、從テ市參事會、市町村組合會、町村組合會、區會、北海道沖繩縣ノ區町村會等ノ議員選擧ニ關シ、皆準用セラルルナリ。又選擧權ヲ代テ行使スル代人ハ、選擧人ト同一制裁ニ服セシムル必要アルヲ以テ之ニモ準用シタルナリ。

（參照）

衆議院議員選擧法

第十一章 罰則

第八十六條 詐僞ノ方法ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ第三十四條第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣言ヲ爲シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 選擧ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選擧ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選擧人又ハ選擧運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者又ハ供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二 選擧ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選擧會場、開票所若ハ投票所ニ往復スル爲鉄車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅寓若ハ休泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 選擧ニ關シ選擧人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關

係ヲ利用シ選擧人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費消シタルモノハ其ノ價ヲ追徵ス

第八十八條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一　選擧ニ關シ選擧人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

二　選擧人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選擧權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者

三　選擧ニ關シ選擧人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル川水、小作、債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選擧人ヲ威逼シタル者

第八十九條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人及監視者選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ表示シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ表示シタル事實虛僞ナルトキ亦同シ

第九十條　投票所又ハ開票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選擧人ノ投票ニ關渉シ又ハ被選擧人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九十一條　投票管理者、開票管理者、選擧長、立會人若ハ選擧監視者ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選擧會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

多衆ヲ嘯聚シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ輕禁獄ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ一月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十二條　選擧人、議員候補者若ハ選擧運動者ヲ脅迫シ又ハ選擧會場開票所投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者第九十三條ノ物件ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條　選擧人、議員候補者及選擧運動者ニシテ選擧ニ關シ銃砲、槍戟、刀劍、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ心要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第九十四條　前條記載ノ物件ヲ携帶シテ選擧會場、開票所若ハ投票所ニ入リタル者ハ前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ

第九十五條　選擧ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用ヰ若ハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條　第八十九條乃至第九十五條ノ所爲ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス人ヲ教唆シタル者ハ其ノ各條ニ依リ處斷ス但シ新聞紙、雜誌ニ在リテハ仍其ノ署名シタル編輯人ヲ處斷ス

第九十七條　當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第九十八條　選擧人タルコトヲ得サル者ニシテ投票ヲ爲シタル者及氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條　立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條　第九十二條第二項第九十三條及第九十四條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第百一條　當選人其ノ選擧ニ關シ選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第百二條　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選擧人及被選擧人タル

コトヲ禁ス

第百三條　本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時效ニ罹ル

町村制　**第三十八條**　特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ町村ヲシテ町村會ヲ設ケス選擧權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充テシムルコトヲ得

町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

町村總會

本條ハ町村會ニ代ルヘキ町村總會ニ關スル規定ナリ。

町村ノ意思機關ハ、其ノ町村ノ公民中ヨリ、一定ノ制限ノ下ニ選出セラレタル議員ヲ以テ組織スルヲ本義トス、之レ町村會ナリ。此ノ一定ノ制限ノ下ニ選出セラレタル者ヲ以テ組織スル所以ハ、固ヨリ多數ノ公民ヲシテ會議セシムルコトノ、事實上不能ナルニ依リ、其ノ代表者ヲ選ミ、議事ヲシテ爲シ易カラシムト云フコト、其ノ重大ナル理由タル論ナシ。然トモ又一面ニ於テハ、群衆ノ相集アリ、不健全ナル思想ノ暴議ニ依リ、町村ノ公益ヲ誤マルコトナカラムト欲シタルニ外ナラス。故ニ町村ノ意思機關トシテハ此ノ組織ヲ以テ最モ適當トスト雖町村ノ狀況ニ依リ、甚タシク公民ノ數寡少ナルカ爲等ノ事情ニ依リ、特ニ公民中ヨリ選出シタル者ヲ以テ議會ヲ組織セシムルハ、却テ其ノ煩勞ノ不利益アルニ止マル場合ナシトセス、是ヲ以テ此ノ如キ特別ノ事情アル町村ニ於テハ、郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ、別ニ町村會ヲ設ケス、町村公民ノ總會ヲ以テ、之ニ代用スルコトヲ得セシメタルナリ。

畢竟山間僻陬ノ寒村ニ於テ、其ノ必要ヲ見ルニ過キサルヲ以テ、市制ニハ此ノ如キ特例ヲ存セサルナリ。町村公民カ總テ會員ナルニ依リ、苟モ公民權アル以上ハ、所屬府縣郡ノ官吏有給吏員タルト、神官神職僧侶タルト、小學校教員タルトヲ問ハサルナリ。然トモ其ノ總會ノ權限會議ノ方法其ノ他ニ付テハ、一定ノ準則ナカルヘカラサルニ依リ、總テ町村會ニ關スル規定ヲ準用シタルナリ。

市制町村制第二款　職務權限

法人ハ多數ノ機關ニ依リ組織セラルルヲ以テ、各機關ノ權限ヲ明確ニ規定スルニ非サレハ、互ニ支吾杆格ヲ來シテ、其ノ意思ト行爲トノ統一ヲ期シ難シ。從テ機關ノ組織ト共ニ、其ノ機關カ如何ナル權限ヲ有スルカヲ定ムルノ必要アリ。又合議制ノ機關ハ、獨任制ノ機關ト異ナリ、其ノ意思ヲ決定スルノ方法ヲ規定スルニ非サレハ、多數ノ意思ヲ集メテ一ノ意思ト爲スニ由ナシ。故ニ本款ニ於テハ、市町村會ノ職務ノ範圍ト、其ノ議事ノ方法トヲ規定セリ。市町村會ノ職務ノ範圍ハ議決、決定、選擧及檢査ナリ。決定ニ付テハ本章中ニ之ヲ規定セス、各條項ニ於テ之ヲ規定セリ。議決中市町村會自ラ發案シ、且外部ト交渉シ得ルモノハ、意見書ノ提出、諮問ノ答申、特殊ノ場合ニ於ケル議決等、甚タ制限セラル。其ノ他ハ皆市町村長ノ執行ニ俟タサルヘカラス。議事ノ方法ニ付テハ、議長ノ選擧以下概ネ市町村會自身ヲシテ、其ノ內部ヲ處理セシムルノ方針ヲ取リ、仍會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケテ、本章ニ規定スル以外ノ事項ヲ定ムルコトヲ許セリ。

市制第四十一條　市町村制第三十九條　市町村會ハ市町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

市町村會ノ權限

本條ハ市町村會ノ議決スヘキ事件ノ範圍ヲ定メ、且其ノ議決機關タルコトヲ明ニセリ。**市町村會ハ市町村ニ關スル事件ト、法律勅令ニ依リ特ニ市町村會ノ權限ニ屬セシメタル事件トヲ議決スルノ職權ヲ有ス。**茲ニ市町村ニ關スル事件ト謂フハ、第二條ニ依リ市町村ニ屬スル事務ヲ指スモノニシテ、所謂固有事務ト委任事務トヲ包含ス。法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件トハ、特ニ市町村會ヲ指定シテ其ノ權限ニ屬セシメタル事件ヲ謂フ。法律ヲ以テ特ニ市町村會ニ權限ヲ與フルコトハ、固ヨリ竝文ヲ待タサル所ナルモ、茲ニハ法律勅令ト規定スルヲ以テ、勅令ヲ以テモ**市町村會ニ權限ヲ付與スルコトヲ得ル**ト同時ニ、勅令以下ノモノヲ以テハ之ヲ付與スルコトヲ許ササルノ趣旨ヲ明カニセリ。但シ法律勅令ノ委任ヲ以テスレハ、勅令以下ノ命令ヲ以テスルモ亦權限ヲ與フルコトヲ得ルハ勿論ナリ。

市町村會ハ原則トシテ市町村ノ意思ノ決定機關ナリ

市町村會ハ本條ノ規定ニ依リ、市町村ノ意思ヲ決定スルノ權限ヲ有ス。從テ總テ市町村ニ關スル事件ハ、其ノ固有事務タルト委任事務タルトニ論ナク、事ノ大小ヲ問ハス、悉ク之ヲ議決スルヲ原則トス。然トモ是レ原則ナリ。法カ特ニ規定スル場合ニ於テハ、市町村會以外ノモノモ亦、市町村ノ意思ヲ決定スルノ權限アリ。**市ニ於テハ市參事會カ市ノ意思ノ一部ヲ決定スルハ固ヨリ論ナク、市町村長**

ト雖、**市町村會議決ノ範圍內ニ於テ、細目ニ付テハ市町村ノ意思ヲ決定スルノ權限ヲ有スルノミナラス、**後ニ說明スル所ノ專決處分ノ權（市制第九十二條町村制第七十六條）ヲモ有ス。**唯原則トシテ意思決定ノ機關タルノ結果、市町村ノ意思ヲ決定スルニ當リ、果シテ一事件カ市町村會ノ議決ヲ經ヘキモノナルヤ否ヤニ付問題ヲ生スルトキハ、市町村會ハ之ニ付權限ヲ有スルモノナリトノ廣キ推定ヲ受クヘキナリ。而シテ實際ニ於テ如何ナル事件カ、市町村會ノ權限ニ屬スルカハ、委任事務ニ付テハ法律勅令ヲ解釋シテ之ヲ決定スヘク、固有事務ニ付テハ第二條ノ公共事務ノ何タルカ、換言スレハ市町村ノ生存發達ニ必要ナルヤ否ヤニ依リテ之ヲ決セサルヘカラス。故ニ其ノ範圍極メテ廣汎ニシテ、到底一定ノ標準ヲ定ムルコト難シ。法律勅令ニ依リ特ニ市町村會ニ屬セシメタル事件ハ本法中ニ規定スルモノ少カラス。其ノ他ノ法律ニ付テハ府縣制第百九條ニ依リ、府縣稅賦課ノ細目ヲ議決スルカ如キ其ノ一例ナリ。**

市町村會ハ議決ノ權限ヲ有スルモ、發案ノ權ヲ有セス。發案ノ權ハ法カ一般ニ之ヲ市町村長ニ付與ス。（市制第八十七條町村制第七十二條）故ニ假令市町村會ノ權限ニ屬スル事件ト雖、自ラ發案シテ議決スルハ其ノ權限ヲ超越スルモノナリ。但シ法規カ特ニ自ラ發案ヲ爲シ得ヘキコトヲ認メタルモノ、例ヘハ補闕選舉必要ノ認定、公益ニ關スル意見書ノ提出、會議規則及傍聽人取締規則ノ議決ノ如キハ、市町村會ニ於テモ例外トシテ發案權ヲ有スルモノトス。

發於權ヲ有セス

發案權ハ原則トシテ市町村會之ヲ有セスト雖、修正權ハ固ヨリ之ヲ有スルヲ以テ、市町村長ノ原案

修正權ヲ有ス

修正權ノ意義

ヲ修正スルコトハ其ノ權限ニ屬ス。但シ市町村長ノ發案權ヲ侵ササル範圍内ニ限ラルヘキハ勿論ナリ。然ラハ如何ナルモノヲ以テ發案權ヲ侵害スルノ修正ト見ルヘキカ。之レ各個ノ場合ニ定ムヘキ問題ナルモ、要スルニ全ク異ナリタル事項ヲ加フルモノヲ以テ發案權ノ侵害ト見ルヘキナリ。例ヘハ豫算ノ際或ル項目ノ金額ノ增減ヲ爲シ、又ハ之ヲ削除スルカ如キハ修正ノ範圍内ナリト雖、全ク新ナル款項目ヲ設クルカ如キハ發案權ノ侵害ナリ。又市町村長カ土木ニ關シ、常設ノ調査委員ヲ設クルノ條例案ヲ提出セルニ當リ、土木ノミナラス勸業ノ事項ヲモ調査スルノ必要アリトシ、條例ヲ修正シテ勸業ノ調査委員ヲモ加フルカ如キハ亦發案權ノ侵害ナリ。之ニ反シテ其ノ條例ニ修正ヲ加ヘテ完膚ナキニ至ラシムルモ土木調査委員ヲ設クルニ在レハ修正權ノ範圍ヲ脫セサルナリ。

越權ノ議決ト違法ノ議決

市町村會カ權限ヲ超越シ又ハ違法ノ議決ヲ爲シタルトキ、其ノ議決ノ效果如何。大凡機關ハ其ノ權限内ニ於テノミ有效ニ活動スルコトヲ得ヘシ。故ニ權限外ノ行動ハ始メヨリ成立セスシテ全ク無效ナリ。法ハ之ニ付テ特別ノ規定ヲ設ケ之ヲ取消スノ方法ヲ定ムト雖、（市制第九十條町村制第七十四條）畢竟此レ其ノ無效ナルコトヲ宣言スルノ手續ニ過キス。之ヲ以テ法カ取消ス迄有效ノモノナルコトヲ認メタルモノト謂フ能ハサルナリ。之ニ反シテ違法ノ議決ハ越權ノ議決ト同樣ノ手續ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得ト雖、苟クモ市町村會ノ權限内ノ事項ナル以上ハ、其ノ取消アル迄ハ有效ニ成立セル議決ナリ。

外部ニ對スル權限

市町村會ハ又内部ニ在リテ市町村ノ意思ヲ決定スト雖、之ヲ外部ニ發表スルノ權限ヲ有セス。市町村ヲ代表シテ外部ト交涉スルノ權ハ、一般ニ執行機關タル市町村長ニ屬シ、唯格段ナル場合、例ヘハ公益ニ關スル意見書ノ提出官廳ノ諮問ニ對スル答申又ハ各種ノ異議ノ決定ノ如キ場合ニ、市町村會自ラ其ノ名ヲ以テ外部ト交涉スルコト許スノミ。故ニ此等ノ場合ニ非スシテ、市町村會カ自ラ外部ト交涉スルハ全ク權限外ノ行爲タルナリ。舊法ニ於テハ市町村會ハ「其市町村ヲ代表シ云々」ト規定セルモ、固ヨリ市町村會カ外部ニ對シテ代表權ヲ有セルニ非スシテ、市町村ノ意思ヲ決定スルノ機關ナルコトヲ言明セムトセルニ過キサリシナリ。而モ其ノ文字ハ妥當ヲ缺クヲ以テ、改正法ニ於テハ之ヲ改メタリ新舊二法ノ間ニ於テ、何等性質上ノ差異アルニ非ス。

（判例）

一　町村ニ於テ他ノ公法人ノ工事ヲ請負フカ如キハ全然町村行政ノ範圍外ニ出ツル行爲ナルヲ以テ町村會カ之ヲ議決スルハ越權ナリ（四一、一一、九、行判）

二　町村會ノ議決ヲ執行スルニ就キ監督官廳ノ許可ヲ受クルト否トハ町村長ノ職務ニ屬スル故ニ町村會ニ於テ其許可ノ要否ヲ議決スルハ越權ナリトス（二七、一二、八、行判）

三　郡長ノ不信任ヲ議決スルハ越權ナリ（三一、一一、二八、行判）

四　町村會ハ人格ヲ有セス（三五、三、五、行判）

五　市制第三十條第三十一條（町村制ハ市會ノ議決權ヲ示スノミニシテ發案權ナキモ與ヘタリト解釋スヘキニ非ス（二八、五、一四、行判）

六　議會ハ適當ノ營業者ヨリ議題ノ提出アルニ當リ審議決定スルコトモ當然ノ義務ナルヲ以テ法律ノ明許ナキ場合ニ於テモ議決スヘキ事項ニ關係アルモノト雖市民ノ建議又ハ請願ヲ受理シ取捨スルヲ如キ行政ノ權利ヲ侵スモノト云ハサルヲ得ス（二七、五、

五、行列）

七　町村ニ於テ公債ヲ募集スルニハ歳計豫算ノ外特ニ起債ニ關スル決議ヲ要ス從テ町村會カ起債ニ付キ町村長ノ發案ニ依ラス豫算ニ於テ之ヲ議決シタル處分ハ發案權ヲ侵害シタルモノトス（三五、一一、一九、行判）

市制町村制　第四十二條　市町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　市町村條例及市町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二　市町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三　歳入出豫算ヲ定ムル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手數料、加入金、市町村稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六　不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七　基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九　財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十　市町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一　市町村ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

市町村會ノ議決權限ノ何タルカハ前條ニ於テ說述シタル所ニ盡ク。然モ其ノ範圍極メテ廣汎ナルヲ以テ、更ニ本條ニ於テ特ニ其ノ重要ナル事件ヲ例示シテ、之ヲ明瞭ナラシメムトセルナリ。固ヨリ概目ニ過キサルヲ以テ、茲ニ揭クル以外ノモノカ、果シテ市町村會ノ權限ニ屬スルヤ否ヤヲ定メムトセハ、先ツ其ノ市町村ノ事務ナルヤ否ヤ、法律勅令ノ特ニ其ノ權限ニ屬セシメタルモノナリヤ否ヤヲ考ヘ、次ニ其ノ事務カ市町村長又ハ市參事會ノ權限ニ屬セサルヤ否ヤヲ究ムルノ外ナキナリ。此ノ點ハ市町村會ノ府縣會又ハ郡會ト其ノ權限ヲ異ニスル重要ノ點ナリ。蓋府縣又ハ郡ニ於テハ、自治體ノ事務ハ原則トシテ之ヲ府縣知事又ハ郡長ニ委シ、之ヲシテ意思決定ニ付テモ廣キ權限ヲ有セシメ、主トシテ自治體ノ經濟ニ關スルモノヲノミ府縣會又ハ郡會ノ議決權限ト爲セリ。故ニ府縣又ハ郡ニ在リテハ團體ノ意思ノ決定ニ付、廣キ推定ヲ受クルモノハ、府縣會又ハ郡會ニ非スシテ、府縣知事又ハ郡長ナリ。從テ府縣會又ハ郡會ノ議決スヘキ事件トシテ揭クルモノハ其ノ權限ノ全部ナリ、市町村會ノ概目ニ過キサルモノト同シカラス。今左ニ本條各號ニ付キ說明スヘシ。

一、市町村條例及市町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

市町村條例及市町村規則ノ何タルカハ前ニ既ニ之ヲ述ヘタリ、故ニ再說セス（市制第十二條、町村制第十條）。其ノ新設改正及廢止ハ皆市町村會ノ議決ヲ經タル上、條例ニ付テハ內務大臣ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルナリ（市制第百六十五條、町村制第百四十五條）。

市町村費ノ事業

二、市制第九十三條及町村制第七十七條ノ事務及法律勅令ニ特ニ規定アルモノヲ除キ、市町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事

市町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ハ、總テ市町村會ノ議決ヲ要スルモノナリ。但シ法律勅令ニ特ニ規定アルモノハ勿論、市町村長其ノ他ノ市町村吏員カ、法令ノ定ムル所ニ依リ掌ル、國府縣其ノ他公共團體ノ事務（市制第九十三條町村制第七十七條）ニ付テハ、假令市町村カ費用ヲ支出スルモ、其ノ事務ハ市町村會ニ於テ之ヲ議決スルノ權限ナク、市町村長又ハ其ノ他ノ吏員ニ於テ專ラ之ヲ掌ルナリ。蓋此等ノ事務ハ市町村ノ事務ニ非サルヲ以テナリ。但シ其ノ費用ニ付テハ、豫算ノ際市町村會ニ於テ議決スルノ權限ヲ有スル勿論ナリトス。茲ニ事業ト謂フハ廣ク事務ヲモ包含スルモノト解セサルヘカラサルナリ、然ラサレハ但書ノ規定ハ意味ナキコトトナルヘシ。

歲入出豫算

三、歲入出豫算ヲ定ムル事

歲入出豫算ト稱スルハ、市制第百三十三條及町村制第百十三條ノ規定ニ依ルモノノミナラス、追加豫算、更正豫算（市制第百三十四條町村制第百十四條）、繼續費（市制第百三十五條町村制第百十五條）等ノ諸種ノ豫算ニ關スルモノヲモ、亦總テ包含ス。舊法ニ於テハ豫備費ヲ設ケサル場合ノ豫算外ノ支出、及豫算超過ノ支出ヲ認定スルノ權限ヲ規定セルモ、改正法ニ於テハ豫備費ハ必ス之ヲ設ケシムルコトト爲セルヲ以テ（市制第百三十六條町村制第百十六條）之ヲ削除セリ。

決算ノ認定

四、決算報告ヲ認定スル事

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ、收入役ヨリ之ヲ市町村長ニ提出シ、市町村長ハ審査ノ上意見ヲ付シ、次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ、之ヲ市町村會ノ認定ニ付スヘキナリ（市制第百四十二條町村制第百二十二條）。市町村會ハ其ノ報告ノ正否ヲ認定スル權限ヲ有ス。

賦課徵收

五、法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、加入金、市町村稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

使用料及加入金ハ財產又ハ營造物ノ使用ニ付、手數料ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付徵收スルコトヲ得ルモノナリ（市制第百十二條、第百十三條、第九十二條、第九十三條町村制第九十二條、第九十三條）。市稅及夫役現品ハ市町村ノ收入ノ爲ニ、市町村住民其ノ他ノ者ヨリ徵收ス（市制第百十六條町村制第九十六條）。此等ノ金額稅率及徵收ノ方法等ハ、法令ニ規定セル範圍內ニ於テ市町村ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得。而シテ此ノ場合ニハ皆市町村會ノ議決ヲ要スルナリ。但シ玆ニ規定スルモノハ、市町村ノモノニ關スルヲ以テ、國ニ屬スルモノハ此ノ規定中ニ包含セス。即戶籍法ノ規定ニ依リ徵收スル手數料（第十三條、第六十六條、第百十七條）ハ勿論、市町村會ニ於テ議決スル小學校ノ授業料ト雖、法ノ特別ノ授權ニ基クモノニシテ、之ニ包含セサルナリ（小學校令施行規則第百七十四條、第百七十五條）。本號ニハ「法令ニ定ムルモノヲ除クノ外」ト規定スルヲ以テ、勅令以下ノ命令ヲ以テモ之ヲ制限スルコトヲ得ルナリ。

不動産

六、不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

不動産トハ民法ニ定ムル所ノ不動産ニシテ、土地及其ノ定着物ヲ謂フ。茲ニ管理トハ處分ニ對スル語ニシテ、貸貸借、小作預ケ等ヲ爲シ又ハ登記ヲ爲スカ如キヲ謂フ。處分トハ例ヘハ賣却、贈與、交換、又ハ永小作權、地上權、質權、抵當權ノ設定ノ如キ之レナリ。取得ハ其ノ有償ナルト無償ナルトヲ問ハス、即チ買受贈與ノ受諾、交換ノ如キハ皆之ヲ包含ス。又管理ノ方法ヲ定ムルカ如キモ所謂管理ニ關スル事タルナリ。

基本財産

七、基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

基本財産及積立金穀等ノ何タルカハ、後ニ市制第百九條及町村制第八十九條ニ於テ之ヲ說明スヘキヲ以テ參照スヘシ。其ノ設置管理及處分自體幷其ノ方法ヲ定ムルコトヲ云フナリ。

義務ノ負擔權利ノ拋棄

八、歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外、新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

豫算ニ定ムルモノノ外ニ於テ、新ニ負擔スル義務ハ主トシテ金錢上ノ義務ヲ想像セルモノナルヘシト雖、必スシモ金錢以外ノ義務ヲ含マサルニハ非ス、權利ニ付テモ亦然リ。

財産及營造物

九、法律勅令ニ規定アルモノヲ除クノ外財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

茲ニ財産及營造物ト謂フハ、市町村ニ屬スルモノヲ意味ス。國ノ營造物ナル小學校、道路ノ如キニ付テハ、各其ノ關係ノ法規ニ依ルコト勿論ニシテ、茲ニハ之ヲ包含セス。市町村ニ屬スルモノト雖、特ニ法律又ハ勅令ヲ以テ市町村會以外ノ者ニ權限ヲ付與セルトキハ其ノ法規ニ從フヘキナリ。又其ノ定メタル管理方法ノ範圍内ニ於テ、之カ實際ノ管理ヲ爲スハ市町村長ノ權限ニ屬ス（市制第八十七條、町村制第七十二條）財産及營造物ノ意義ハ、後ニ財務ノ章ニ於テ說明スル所ヲ參照スヘシ。財産ト稱スルハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ意義ニシテ、收益財産ヲ含マス。此等ハ其ノ主要ナルモノハ、不動産又ハ基本財産トシテ、已ニ前ニ規定セラレタレハナリ。之ニ關スル管理方法ヲ定ムルハ市町村會ノ權限タルナリ。

吏員ノ身元保證

十、市町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

市町村吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認メタルトキハ市町村會ハ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ議決スヘキモノトス。（市制第百七十一條、町村制第百五十一條及附錄四十四年勅令第二百四十五號第六條參照）身元保證ハ現金有價證券又ハ土地ニ限ラス、保證人ヲ立テシムルコトニ定ムルモ亦可ナリ。

訴願訴訟及和解

十一、市町村ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

訴訟ハ行政訴訟ト民事訴訟トヲ包含ス。其ノ原告タルト被告タルトハ固ヨリ問フ所ニ非サルナリ。和解ハ裁判上ノモノト裁判外ノモノトヲ問ハス。訴願モ亦市町村ヨリ提出スルモノタルト、其ノ辯明書ノ提出タルトヲ問ハス。

（判例）

一 町村長ハ町村ノ事務ヲ處理シ財産ヲ管理スト雖モ其利益ヲ抛棄スルノ能力ナシ假令町村ノ債務ニ屬スル出訴期限經過ノ如キ時效ノ法理ニ由リ其義務ノ消滅スルヤ言ヲ俟タスシテ明カナリ然ルニ町村長ハ町村法人ノ代表者トシテ之レカ利益ヲ抛棄シ債務追認ノ能力有ルコトナシ即町村會ノ議決ヲ經ルニアラサル以上ハ越權ノ處置ニシテ法律上固ヨリ無效ナリ（二七、四、一二、行判）

二 町會ヲ町費及雜部金竝ニ國稅及縣稅ノ徵收金ヲ銀行ニ預托スルノ議決ヲ爲シタルハ違法ナリ（三二、一二、一八、行判）

三 豫算ヲ定ムルトハ豫算案ニ付豫算ヲ議定スルノ謂ニ過キス豫算案改造ノ請求ヲ包含セス（三三、七、一、行判）

四 村長カ村會ノ議決ヲ經スシテ學校基本財産ノ募集ヲ爲シタルハ違法ナリ（二八、五、一、民判）

五 法律上代理人カ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺ハ事後ニ之ヲ補正シ得ルモノトス故ニ町村ニ於テ訴訟ヲ提起スルニ方リ豫メ町村會ノ議決ヲ經サルモ後日其承認ヲ得タル以上ハ該訴訟行爲ヲ無效ナリト云フヲ得ス（三六、五、一三、行判）

六 市ノ豫算中歲入ノ部ニ地所使用料ノ增額ヲ表明シタル場合ニ於テ市會カ之ヲ可決シタルトキハ歲入豫算及使用料ノ增額ヲ共ニ議定セルモノナレハ市制三十一條（舊法）ニ背反スルモノニアラス而シテ其議決ノ效力特ニ一年ニ止マルコトヲ定メサル以上ハ翌年度ニ於テ該增額ヲ襲用スルコトヲ妨ケス（三七、三、七、行判）

七 區有財產ノ處分ト雖モ區會ノ設ナキ時ハ町村會ニ於テ之ヲ議決スルモノトス何トナレハ區有財產ノ處分ハ必スシモ區會若クハ區總會ノ開設ヲ待テ之ヲ爲スニアラスシテ町村會ニ於テ議決スルヲ通則トシ其區會又ハ區總會ヲ開設スル場合ハ却テ變例ニ屬スルノ法意ナレハナリ（二七、四、一二、行判）

八 町村會ハ本條ニ依リ町村稅附加稅ノ賦課ニ付キ隨意ニ其標準ヲ定メ得ルモノトス（三七、四、二七、行判）

九 村會カ區ノ共有原野ヲ分割シ之ヲ私人ニ讓與スルノ議決ヲ爲シタル場合ニモ議決ノ取消ヲ請求スル事件ニ付行政訴訟ヲ許シタルノ規定ナシ（三七、一二、二三、行判）

一〇 市ノ歲入不足ヲ豫見シ得ヘキ場合ニ於テハ年度經過前豫メ其額ヲ推算シ之ニ對スル收入豫算ヲ編製スヘキモノトス從テ市會ノ議決前其追加豫算ヲ議定スルハ不法ニアラス（四〇、一〇、二八、行判）

一一 町村會カ町村有不動產ヲ讓與スルコトヲ議決シタル場合ニ於テ該不動產ヲ讓受クル者ノ資格如何ハ議決ノ效果ニ關スルコトアルヘキモ之カ爲ニ其議決ヲ違法ナリト云フヲ得ス（四二、二、六、行判）

市參事會ニ對スル權限ノ一部委任

市制第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

市ニ屬スル事件ハ、市會ノ議決ニ依リテ市ノ意思ヲ決定スルヲ原則トスルモ、改正法ニ於テハ舊法ト異ナリ、府縣制及郡制ノ例ニ倣ヒ、市參事會ヲ以テ純然タル議決機關トシテ、市會ト共ニ、輕易ナル事項又ハ急ヲ要スル事項ニ付、市ノ意思ヲ決定スルコトヲ得シメ、些末ノコトニ付テ屢市會ヲ招集スルノ煩累ト、之カ爲ニ機宜ヲ失スルコトトヲ除カムトセリ。然ルニ法律ヲ以テアラユル輕易ノ事項ヲ列擧スルハ事不可能ナルノミナラス、徒ニ形式ニ流レテ實際ニ適セス。且各市ノ事情ハ自ラ特異ノモノアリテ一樣ナラス、甲ノ市ニ於テ重大ナル事件モ、乙ノ市ニ於テハ必スシモ重大ナラサルカ如キ事例ハ常ニ之ヲ見ル所ナリ。茲ニ於テカ本條ニ於テ、市會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルノ規定ヲ置キ、市會ニ代リ何ヲ市參事會ニ議決セシムヘキカハ、一切之ヲ市會自身ノ適當ト考フル所ニ委ネテ以テ實際ニ適應セシメムトセルナリ。

委任ノ效果

市會カ市參事會ニ其ノ權限ノ一部ヲ委任スルニ當リテハ、豫メ一定ノ事項ヲ委任スルト、臨時ニ各個ノ場合ニ付之ヲ委任スルトハ、固ヨリ問フ所ニ非ス。苟モ一旦之ヲ委任セル以上ハ、其ノ事項ニ關スル市會ノ權限ハ、移リテ市參事會ノ權限トナルヲ以テ、市會カ其ノ委任ヲ解カサル以上ハ、市會ト

雖、之ニ關スル議決ヲ爲ス能ハサルナリ。但シ市會開會中ハ市會之ヲ議決スヘキ條件ヲ附スルカ如キハ固ヨリ妨ナキナリ。

委任ノ範圍

市參事會ニ委任スルコトヲ得ル事項ノ範圍ニ付テハ二ノ制限アリ。一ハ市會ノ權限ノ全部ヲ擧ケテ、之ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得サルコト之レナリ。之レ法カ「權限ニ屬スル事項ノ一部」ト規定セルヲ以テナリ。二ハ法カ特ニ市會自ラ其ノ各場合ニ其ノ意思ヲ發表スルヲ必要ナリトシテ命セル事項ナリ。此ノ點ニ付テハ法ハ何等規定スルナキヲ以テ說ノ岐ルル所ナリト雖、此等ノ事項ヲ市會ニ命シタル法ノ精神ヲ解釋スルトキハ、斯ク解セサルヘカラサルモノナリト信ス。例ヘハ市制第三十六條、第三十八條、第四十六條、第四十七條及第四十八條ノ如キ即之レナリ。以上二ノ制限內ニ於テハ、假令必要ナクシテ如何ニ重大ナル事項ヲ市參事會ニ委任スルモ、法ノ明カニ禁スル所ニ非サルヲ以テ、之ヲ違法ナリトハ謂フ能ハサルナリ。然トモ其ノ法ノ精神ニ反スルヤ論ナシ。故ニ事項ノ如何ニ依リテハ、之ヲ公益ヲ害スルノ議決ナリトシテ、市町村長又ハ監督官廳カ相當ノ處置ヲ取ルハ妨ナキ所ナリ（市制第九十條）。

委任ニ關スル發案權

本條ノ議決ニ付發案權カ何處ニ屬スルヤハ必スシモ明瞭ナラス。然レトモ市會カ單ニ市ニ關スル一般ノ事件ヲ議決スルト異ナリ、市會自身ノ權限ヲ委任セムトスルモノナルヲ以テ、市會自身モ發案ノ權ヲ有スルコトハ之ヲ認メサルヘカラサルナリ。

市町村會ニ於テ法律勅令ニ依リ行フヘキ選擧

市町村會ノ議決ノ權限ハ前三條ニ於テ之ヲ規定スルモ、選擧ハ議決ト異ナルヲ以テ更ニ之ヲ明カニスルノ必要アリ。依テ本條ニ於テハ、市町村會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選擧ヲ行フヘキコトヲ規定セリ。舊法ニ於テハ、單ニ市町村吏員ノ選擧ヲ行フヘキ旨ヲ規定セルモ、狹キニ失シ實際ト合セサルヲ以テ、本改正法ニハ廣ク唯選擧ヲ行フヘキコトヲ命セリ。本條モ亦法律勅令ト規定スルヲ以テ、法律又ハ勅令ノ委任アル場合ヲ除クノ外ハ、勅令以下ノ命令ヲ以テハ市町村會ニ選擧ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサルナリ。

市制第四十四條　市町村制第四十一條

本條ニハ法律勅令ニ依リ「其ノ權限ニ屬スル」選擧ヲ行フヘキコトヲ規定スルノミナルヲ以テ、其ノ手續ハ市制第五十五條及町村制第五十一條ニ依ルヘキナリ。但シ法律ヲ以テスルトキハ、異ナリタル手續ヲ設ケ得ルハ勿論ナリトス。本法中市町村會ニ選擧ヲ命スルハ、市町村會ニ於ケル市町村事務ノ檢閱檢查ノ爲ニスル委員ノ選擧（市制第四十五條、町村制第四十二條）、名譽職參事會員ノ選擧（市制第六條）、市會議長及副議長ノ選擧（市制第四條、十八條）、市參與ノ選擧（市制第七十三條、町村制第七十三條）、市長候補者及町村長ノ選擧（市制第七十五條、町村制第六十三條）、市町村長職ニ在ラサル場合ノ市町村助役ノ選擧（市制第七十五條、町村制第六十三條）、市長職ニ在ラサル場合ノ市收入役及副收入役ノ選擧（市制第七條、十九條）、處務便宜ノ爲ニ劃シタル區ノ名譽職區長及名譽職區長代理者ノ選擧（市制第八十二條、町村制第六十八條）、臨時

又ハ常設委員ノ選舉（市制第八十三條町村制第六十九條）、及町村長ノ臨時出納檢查ニ立會フヘキ委員ノ選舉（町村制第百二十一條）ト爲ス。又勅令ヲ以テ命スルモノハ東京市區改正委員ノ選舉（東京市區改正委員會組織權限第二條）、臨時橫濱港設備委員ノ選舉（臨時神戶港設備委員會官制第二條第四號）及臨時神戶港設備委員ノ選舉（臨時神戶港設備委員會官制第二條第四號）ノ如キ之レナリ。

（增）

市制第四十五條　町村制第四十二條　市町村會ハ市町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ市町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

市町村會ノ事務檢查

市町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

檢查ノ方法

市町村會ハ國家ノ監督ニ屬スルヲ以テ、其ノ執行機關タルト、議決機關タルトニ論ナク、苟クモ違法不正ノ事アルトキハ、國家ハ之ヲ匡正スルノ手段ヲ有スト雖、尙議決機關ト執行機關トハ互ニ抑制シテ相戒メシメ、以テ非違ニ陷ラサラシメムコトヲ必要トス。故ニ市町村ヲ統轄スヘキ市町村長ニハ、市町村會ノ議決ヲ再議ニ附シ、其ノ選舉ニ付再選舉ヲ行ハシムルノ權限ヲ與ヘテ其ノ行動ヲ監視セシメ（市制第九十條町村制第七十四條）、市町村ノ意思ヲ決定スヘキ市町村會ニハ、本條ニ於テ執行事務ヲ檢查スルノ權限ヲ與ヘ、又市制第百四十二條及町村制第百二十二條ニ於テ、決算認定ノ權限ヲ與ヘテ果シテ決定シタル意思カ、正當ニ執行セラルルヤ否ヤヲ檢查セシムルノ方法アリ。一ハ議場內ニ於ケル文書及口頭ノ檢查ニシテ、

本條ニ規定スル市町村會ノ檢查ニハ二ノ方法アリ。一ハ議場內ニ於ケル文書及口頭ノ檢查ニシテ、

檢查ノ範圍

市町村會ハ市町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ、市町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得。コレ舊法ニ於テモ存スル方法ナルモ、書類ト口頭ニ依ルノ外精密ニ之ヲ檢查スルニ由ナク、又多數ヲ以テスルカ故ニ、時ニ或ハ形式ニ流レ或ハ隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス。故ニ改正法ニ於テハ、更ニ第二ノ方法ヲ設ケタリ。即チ議場外ニ於ケル實地ノ檢查ニシテ、市町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ、市町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立合ノ上、實地ニ就キ上述ノ檢查ヲ行フコトヲ得。既ニ實地ト謂フヲ以テ、必要ノ地ニ出張シテ檢查シ得ルハ勿論ナリ。此ノ方法ハ權限ニ廣狹ノ別アルモ府縣參事會ニ於ケル出納檢查ト略相同シ。

何レノ方法ニ依ルモ法ハ「市町村ノ事務ニ關シ」ト規定スルヲ以テ、假令市町村長又ハ市町村吏員カ擔任スル事務ト雖、國府縣其ノ他ノ團體ノモノナル以上ハ、市町村會ハ之カ檢查ヲ爲スコト能ハサルナリ。之レ市町村會ノ性質上ヨリ見テ當然ノコトナリト謂ハサルヘカラス。然レトモ苟クモ市町村ノ事務ナル以上ハ、必スシモ市町村會カ議決シタルモノナルヲ要セス、市町村長又ハ市參事會ノ權限ニ屬スルモノト雖、之ヲ檢查スルコトヲ得ルナリ。

本條ノ檢查ハ決算ノ認定ト異ナリ、何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得、又檢查スル事務ニ付テモ年度ノ制限ナキナリ。然ラハ市町村會カ既ニ認定シタル決算ヲモ更ニ之ヲ檢查スルコトヲ得ルカ。蓋一旦決算ヲ正當ナリトシテ、市町村會カ認定シタル以上ハ、其ノ認定カ有效ニ成立スル限リ、之ニ關スル市

町村會ノ意思ハ決定シタルモノナルカ故ニ、參考トシテ檢閱スルハ格別、之ヲ本條ノ檢查ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノナリ。從テ其ノ決算中不正ノモノヲ發見スト雖、之ヲ以テ其ノ決算ヲ不正ナリト謂フ能ハサルモノナリト信ス。

市町村長カ檢查チ拒ミタルトキノ處置

市町村會カ檢查ヲ爲サムトスルニ當リ、市町村長カ書類及計算書ヲモ提出セス、又報告ヲモ爲ササルトキ、又ハ自ラ立會ヲ爲サス若ハ立會フヘキ吏員ヲモ指名セサルトキハ如何。此ノ場合ニ於テハ市町村會ハ次條ノ規定ニ依リ、市町村ノ公益ニ關スルモノトシテ意見書ヲ監督官廳ニ提出スルノ外ナク、自ラ強テ檢查ヲ爲スノ權ナキモノト信ス。或ハ後ノ場合ニ於テハ、委員ハ立會者ナク單獨ニテ實地檢查ヲ行フコトヲ得。此ノ如ク解スルニ非サレハ、市町村長ハ徒ニ立會ヲ拒ミ、實地檢查ヲシテ不能ニ了ラシムルニ至リ、實地檢查ノ規定ハ毫モ其ノ活用ヲ爲ス能ハサルノ結果ヲ生スト謂フ者アレトモ、法ハ市町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上、實地ノ檢查ヲ爲シ得ルコトヲ規定スルノミナラス、市町村長カ立會ヲ拒ムハ或ハ其ノ義務ニ違反セルトキモアルヘク、或ハ市町村會ノ檢查委員カ國其ノ他公共團體ノ事務ニ向テ、不當ニ檢查ヲ執行セムトスルニ依ル場合モアルヘシ。然ルニ論者ノ言ノ如ク、市町村長カ立會ヲ拒ム場合ニ、委員ハ自己カ市ノ事務ナリト信スルモノノ檢查ヲ單獨ニ爲シ得ルトセハ、寧ロ其ノ弊害ニ堪ヘサルモノアラム。況ムヤ此ノ如キ場合ハ實際ニ於テハ、極メテ稀ニ生スヘキモノナルオヤ。余輩ハ強テ法文ヲ離レテ解釋スルノ必要ヲ見サルナリ。

委員ノ選擧

檢查ノ結果不正ノ事件ヲ發見シタルトキノ處置

市町村會カ議場內ニ於ケル檢查ヲ爲ス場合ニ於テ、委員ヲ選テ之ヲ檢查スルハ固ヨリ法ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ其ノ自由ナリ。然レトモ其ノ所謂委員會ハ、法律上委任ヲ受ケタルモノニ非サルヲ以テ、市町村長ニ於テ書類ノ提出等ヲ拒ムモ亦如何トモスル能ハス。之ニ反シテ實地檢查ノ場合ニ於テハ、法ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧スルコトヲ要求スルヲ以テ、固ヨリ議員全員ヲ以テ行フコト能ハサルノミナラス、議員全員ヲ委員トスルコトモ亦能ハサルナリ。此ノ如ク制限ヲ加ヘタルハ、此ノ種ノ事務ハ之ヲ多數ノ者ニ任スルトキハ形式ニ流ルルノ虞アリ、寧ロ之ヲ少數ノ適任者ニ一任スルノ勝レルモノアルニ依ルナリ。

檢查ノ結果事務ニ不當ノコトアリ、出納ニ不正ノコトアルコトヲ發見シタルトキハ、市町村會ハ如何ナル手段ヲ取ルコトヲ得ルカ。法ハ唯檢查スルノ權限ヲ與ヘタルニ過キサルヲ以テ、直接ニハ何等ノ手段ヲモ講スルコト能ハサルナリ。市町村長モ亦市町村會ニ對シテ何等責任ヲ負フモノニ非ス。市町村長ノ適不適能不能ハ監督官廳之ヲ監視ス。市町村會ハ之カ身上ニ付一ツモ權限ヲ有セサルナリ。從テ市町村會トシテハ市町村長又ハ監督官廳ニ對シ、次條ニ定ムル所ノ意見書ヲ提出シ、以テ其ノ反省ヲ促シ、又ハ監督權ノ行動ヲ求ムルノ外ナカルヘキナリ。茲ニ注意スヘキハ、市町村會ハ市町村長ノ身分ニ關シテハ容喙スルノ權限ヲ有セサルヲ以テ、市町村長ノ不信任ヲ唱ヘテ解職又ハ其ノ他ノ懲戒ヲ求ムルカ如キ意見書ハ之ヲ提出スルコトヲ得ス。唯廣ク其ノ事實ニ對シ、監督權ノ發動ヲ請ヒ

得ルニ過キサルコト之レナリ。

市制 第四十六條 市
町村制 第四十三條 町村會ハ市町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市町村長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

市町村ノ公益ニ關スル市町村會ノ意見書提出ノ權

市町村ノ公益ノ範圍

既述ノ如ク市町村會ハ、議決機關ニシテ、發案權ヲ有セサルヲ原則トスト雖、市町村會ヲシテ進ム
テ其ノ意思ヲ發表セシムルコトカ、市町村ノ進歩發達ノ上ニ於テ利益アル場合ナキニ非ス。故ニ本條
ニ於テハ、市町村會ニ意見書ヲ提出スルノ權限ヲ與ヘタリ。唯其ノ趣旨此ノ如クナルヲ以テ、其ノ事
件ノ範圍ハ之ヲ市町村ノ公益ニ關スル事件ニ限リ、且市町村長又ハ其ノ監督官廳ニノミ提出スルコト
ヲ得シメタリ。故ニ他ノ事件ニ付又ハ他ノ者ニ提出スル意見書ニ關スル議決ハ越權ニシテ無效ナリ。
然ラハ市町村ノ公益ニ關スル事件ノ範圍如何。廣ク之ヲ考フレハ一國外交ノ振否ト、軍備ノ充實ト
否ト、皆結局市町村ノ公益ニ關セサルナシ。然トモ斯ノ如キモノヲモ市町村ノ公益ニ關スルモノト解
スヘクムハ、特ニ事件ノ制限ヲ置クノ必要ナキナリ。從テ此ニ市町村ノ公益ニ關スト謂フハ、特ニ其
ノ市町村ノ公益ニ關スルモノト解セサルヘカラス。何カ特ニ其ノ市町村ノ公益ニ關スルカハ、實際ニ
當リテ之ヲ決スルコト必スシモ容易ナリトセス。蓋前ニ述ヘタル外交軍備ノ如キ、一國ノ政治ニ關ス
ルコトハ其ノ範圍ニ屬セサルノミナラス、國家一般ノ法令ノ改廢又ハ府縣郡ノ命令處分ト雖其ノ府縣

郡一般ニ關係スルモノノ如キハ之ヲ包含セサルナリ。故ニ例ヘハ地租ノ輕減ヲ求メ、縣內ノ鐵道敷設ヲ
第一期工事ニ編入セムコトヲ請フカ如キハ、特ニ其ノ市町村ノ公益ニ關スルモノト謂フコト能ハス。
之ニ反シ町村內ヲ通過スル、縣ノ事業タル架橋事件ノ如キハ、之ヲ特ニ市町村ノ公益ニ關スルモノト
謂フヲ得ヘキナリ。又假令法令ノ改廢ト雖、特ニ其ノ市町村ノ利益ニ直接ノ關係ヲ有スル事項ヲ主眼
トスルモノノ如キハ、之ヲ其ノ市町村ノ公益ニ關スルモノト謂フヘキナリ。

監督官廳ノ意義

茲ニ所謂監督官廳トハ本法ニ於テ監督ノ權限ヲ有スル官廳ノ謂ニシテ、市制第百五十七條及町村制
第百三十七條ニ所謂一般監督官廳（市ニ在リテハ府縣知事內務大臣、町村ニ在リテハ郡長、府縣知事
及內務大臣）及大藏大臣トス。敎育ニ關シテ地方學事通則第十二條ノ規定ニ依リ文部大臣カ監督權ヲ
有スルコト勿論ナルモ、敎育ニ關シ文部大臣ニ意見書ヲ提出スルヲ得ルヤ否ヤハ、通則ノ規定ニ依リ
決スヘキモノトス。其ノ監督ヲ受クル事項ノ範圍外ニ涉ルコトヲ得サルハ勿論ナリトス。

意見書提出ノ手續

市町村會ニ對シ本條カ與フル所ハ單ニ意見書ノ提出ノミ。故ニ陳情ノ爲ニ市町村會ノ議長又ハ議員
ヲ上京セシムルカ如キハ固ヨリ其ノ權限外ナリ。又意見書ヲ提出シ得ヘキモノハ、市町村會ニシテ各
個ノ市町村會議員ニ非サルヲ以テ、假令全議員ノ連署ヲ以テスルモ之ヲ提出スルノ權ナシ、必ス市町
村會ノ決議ニ依リ、市町村會ノ名ヲ以テセサルヘカラサルナリ。

意見書ノ效力

意見書ニ付テハ市町村會カ發案權ヲ有スル既述ノ如シ。而シテ意見書ノ內容タルヘキモノハ、或ハ

（增）

市町村長ニ對シ市町村會ノ議決權ニ屬スルモノノ發案ヲ要求スルコトアルヘク、或ハ其ノ權限外ノ事項ニ付希望ヲ述フルコトモアルヘシ。又監督官廳ニ對シテハ、或ハ市町村長ノ失政ニ付監督官廳ノ監督權ノ行使ヲ求ムルコトモアルヘク、或ハ將來ノ行政ニ付請願ヲ爲ス場合モアルヘシ。其ノ何レノモノタルヲ問ハス、單ニ意見タルニ過キサルヲ以テ、市町村長又ハ監督官廳カ之ヲ採用スルト否トハ全ク自由ニシテ、些シモ之カ爲ニ法律上ノ拘束ヲ受クルコトナキナリ。唯法ノ認メタル意見書ナルヲ以テ其ノ適法ナル以上ハ必ス之ヲ受理スヘク、決シテ返付却下ノ處分ヲ爲スコト能ハサルナリ。

（判例）

一　國又ハ縣ニ屬スル事業ニ關スルモノト雖其ノ町村ノ利害ニ關係アル事件ニ付テハ町村ヨリ意見書ヲ提出スルヲ得ルカ故ニ町村内ヲ通過スル縣ノ事業タル架橋事件ニ付町村會カ意見書提出ノ爲起草委員ヲ撰定セルカ如キハ其ノ權限ヲ越ヘタルモノニ在ラス（二八、六、八、行判）

二　府縣會カ府縣金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行ノ變更ヲ望ム旨ノ意見書ヲ議決シタルハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ係ルモノニシテ其ノ權限ヲ超ユルモノニ在ラス（三四、四、一五、行判）

三　豫算ノ形式ヲ論爭スルカ如キハ府縣ノ公益ニ關スルモノニ非ス（三五、五、七、行判）

市制町村制　第四十七條　第四十四條　市町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市町村會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市町村會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

行政廳ノ諮問ニ對スル市町村會ノ答申

市町村會カ答申ヲ爲サヽル場合

市町村ニ關係アル國又ハ公共團體ノ事務ニシテ、其ノ意見ヲ聞キテ然ル後之ヲ處分スルヲ以テ事情ニ適スト認ムル場合ニ於テハ、法令ニ於テ往々之カ意見ヲ聞クコトヲ要件トセルモノアリ、假令然ラサルモ行政廳ハ往々自ラ市町村會ノ意見ヲ聞クヲ以テ事情ニ適セリト思惟スルコトナキニ非ス。此等ノ場合ニ於テハ市町村會ヲシテ答申ノ義務ヲ負ハシムルノ必要アリ。之レ本條ニ於テ市町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ、意見ヲ答申スヘキ旨ヲ規定スル所以ナリ。即苟クモ行政廳タル以上ハ其ノ監督官廳タルト否トニ論ナク、又此等ノ行政廳カ特ニ法令ニ依リ其ノ權限ヲ有スルト否トニ關セス、總テ之ニ答申スルノ義務アリ。其ノ内容ノ如何ナルモノナルカハ之ヲ問フ所ニ非ス。苟クモ行政廳ノ權限内ノ事項ナリト認メタルトキハ、悉ク諮問ノ主旨ニ從テ自己ノ意見ヲ答申セサルヘカラス。

行政廳カ諮問ヲ爲スニ當リ、或ハ偶市町村會成立セス、或ハ成立スルモ其ノ議員招集ニ應セス、或ハ招集ニ應セルモ意見ヲ答申セス、或ハ市町村長カ之ヲ招集スル能ハサルカ如キコトナシト云フヘカラス。然ルトキハ行政廳カ自己ノ意思ニ依リテ諮問セル場合ハ、答申ノ有無ニ關セス其ノ事件ヲ處分スルコトヲ得ルモ、上級官廳ノ命令ニ依ル場合ハ訓令違反ノ責ヲ負ハサレハ、其ノ答申ナクシテ處分スルコトヲ得ス、又法令ノ要件タルモノニ至リテハ、絶對ニ之カ處分ヲ爲スコト能ハサルノ結果ヲ來スヘシ。故ニ第二項ニ於テ、上述ノ場合ニ於テハ意見ノ答申ヲ俟ツコトナクシテ其ノ事件ヲ處分シ得

ルコトヲ規定セリ。舊法ニハ此ノ點ニ關スル規定ナカリシ爲不便尠カラサリシヲ以テ、改正法ニハ府縣制郡制ト同シク此ノ條項ヲ加ヘタリ。茲ニ市町村會成立セストイフハ、全ク市町村會議員ヲ缺クカ又ハ缺員ノ爲會議ヲ開クコトヲ得ヘキ定足數ニ足ラサル場合ヲ謂ヒ、招集ニ應セストハ、市町村會ハ成立スルモ會議ヲ開クコトヲ得ヘキ定足數ノ議員カ應招セサル場合ヲ謂ヒ、意見ヲ提出セストハ、應招者ハ定足數ニ達セルモ意見答申ノ議決ヲ爲ササルヲ謂ヒ、招集ノ暇ナシトハ、事急須ニシテ市町村會ヲ招集シ其ノ意見ヲ聞キテ後處分スル能ハサル場合ヲ謂フ。成立セサル場合ハ多クハ解散後未タ選舉ヲ爲サルトキ、又ハ市町村會議員ノ多數カ辭シタルトキニ生スヘク、招集ニ應セサルハ或ハ市町村內ノ紛亂ニ因ルコトアルヘシ。意見ヲ提出セストハ意見ヲ提出スル能ハサリシ場合ヲ包含スルモノト謂フ能ハス。從テ此ノ場合ニ於テハ更ニ招集シテ會議ニ附スヘク、若シ其ノ場合ニ招集ノ暇ナキニ至ラハ始メテ本項ニ依ルヲ得ヘシ。招集ノ暇ナキヤ否ヤモ全ク各場合ニ決スヘキ問題ニシテ一定ノ標準ヲ擧クル能ハサルナリ。而シテ以上ノ場合ニ相當スルヤ否ヤハ、勿論諮問ヲ爲セル行政廳ノ認定スヘキ所タルナリ。

諮問トハ文字ノ如ク單ニ意見ヲ問フニ過キサルヲ以テ、之ニ對スル答申モ前條ノ意見書ト同シク、何等行政廳ノ處分ヲ左右スルノ力ナク、行政廳ハ唯之ヲ受理シテ參考ト爲スノ義務アルノミ。

行政廳ノ諮問ニシテ訓令ヲ以テ之ヲ命スルモノハ、軌道敷設ノ際ノ諮問（明治三十四年內務省訓令第十七號）、官ニ屬スル公有水面埋立出願アリタル際ノ諮問（明治二十三年內務省訓令第三十六號）、道路堤塘上ヘ軌道布設ノ際ノ諮問（明治三十年內務省訓令第百七十二號）、等ニシテ法令ニ依ルモノハ、本法ニ於テハ市町村ノ廢置分合境界變更及所屬未定地編入竝其ノ財產處分ニ付テノ諮問（市制第三條第四條第五條、町村制第三條第五條）、市町村ノ區會及町村ノ區總會ノ設置ノ際ノ諮問（市制第百四十五條町村制第百二十五條）、及公益上ノ必要ニ依ル市町村組合又ハ町村組合ノ設置變更解除等ノ際ノ諮問（市制第八章町村制第七章）アリ。府縣制及郡制ニ於テハ府縣郡ノ廢置分合又ハ境界變更及其ノ財產處分ニ付テノ諮問（府縣制第三條郡制第三條）アリ。小學校令ニハ市町村立尋常小學校ノ校數位置ノ指定（第九條）町村學校組合ノ設置解除（第十條）、兒童敎育事務ノ委託及其ノ廢止（第十一條）學區ノ設置廢止等（第十一條）ニ付テノ諮問アリ。消防組規則ニハ消防組ヲ數區ニ分ツ際（第五條）、消防組員ノ手當竝被服等ヲ定ムル際（第十二條）ノ諮問等アリ。

諮問

行政廳カ諮問ヲ要スル事項ノ實例

市制　第四十八條　市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選擧スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

市制　第四十九條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

町村制　第四十五條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前數條ニ於テハ專ラ市町村會ノ職務ノ範圍ヲ規定セリ。本條以下ニ於テハ如何ナル方法ニ依リテ市町村會ノ意思ヲ決定スヘキカノ手續ヲ定ム。即チ市町村會ノ內部ニ關スル規定ナリ。市町村會ハ合議制ノ機關ナルヲ以テ、先ツ其ノ議事ヲ整理スルノ人ヲ設ケサル可ラス。故ニ本條ニ於テハ議長ニ付テノ規定ヲ設ク。

市町村會ノ議長

市町村會ニ議長一人ヲ置ク。議長タル者ハ市ニ在リテハ市會其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉シ、町村會ニ在リテハ町村長ヲ以テ議長トス。市ト町村ト其ノ制度ヲ異ニスル理由ハ、町村ニ在リテハ町村長以外ニ事務ニ練熟セル者多カラサルニ依ル。舊法ニ於テハ市ハ合議制ノ執行機關ナルヲ以テ、市ハ獨任制ノ執行機關ヲ有セルヲ以テ、一人一個ノ責任ヲ以テ行政ノ全體ニ任スル場合ニ於テハ、成ルヘク議員ト密接ノ關係ヲ有セシムルヲ必要トストノ理由モ兩者ヲ區別スルノ因タリシモ、改正法ニ於テハ市町村共ニ獨任制ノ執行機關タルヲ以テ此ノ理由ハ當ラサルニ至レリ。然レトモ市長ヲシテ市參事會ノ議長タラシムルハ幾分カ其ノ趣旨ヲ加味セルモノト謂フヘキカ。

副議長及議長ノ代理者

議長ノ外市ニ在リテハ仍議員中ヨリ副議長一人ヲ選舉セシメ、議長故障アルトキ之ヲ代理セシム。副議長ハ平素ハ議員トシテ職務ヲ行フノ外、他ニ普通ノ議員ト區別スルノ職權ナシ。町村ニ在リテハ副議長ヲ置カス、議長故障アルトキハ直ニ町村長ノ代理者ヲシテ其ノ職務ヲ執ラシム。町村長ノ代理者ト謂フハ助役ノミナラス、町村制第百四十四條ニ依リ町村長又ハ助役ノ職務ヲ管掌スル官吏吏員ヲモ包含ス。此等ノ代理者カ議長ノ職務ヲ取ルハ町村長ノ代理トシテ議長ノ職務ヲ取ルモノニ非スシテ、自己ノ地位ニ依リ故障ノ間當然議長ノ地位ニ就クモノナルカ故ニ、自己ノ名ニ於テ事務ヲ處理スヘキナリ。市ニ於テ議長及副議長、町村ニ於テ町村長及町村長代理者共ニ故障アルトキハ、年長ノ議員當然其ノ職務ヲ代理ス。若シ同年齡ノ年長議員二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ何レカ議長ノ職務ヲ取ルヘキカヲ定ム。茲ニ年齡ト謂フハ單ニ年ヲ以テ數フルノミナラス其ノ生年月日ヲモ比較スヘキモノトス（明治三十五年法律第五十號）、抽籤ノ法ハ別ニ定ムル所ナキヲ以テ何レカ抽籤セシムルカニ付テハ疑アルモ、結局市町村會ニ於テ異議ナクンハ如何ナル方法ニ依リ抽籤セシムルモ可ナルモノト解スルノ外ナカルヘシ。但シ會議規則中ニ之ヲ關スル規定ヲ置クトキハ之ニ從フヘキハ勿論ナリトス。

故障ノ意義

故障トハ議長タル地位ヲ充スヘキ人ノ缺ケタルトキ、及議長タル人アルモ職務ヲ執行スルニ付故障アル場合ヲ謂フ。故ニ議長ノ缺員タル場合ノミナラス、議長カ病氣其ノ他ノ事項ニ依リテ職務ヲ執行スル能ハサルトキハ、副議長又ハ町村長代理者ハ議長ノ職務ヲ執ルナリ。議長カ其ノ職務ヲ執行スル能ハサルニ非スシテ職務ヲ執行セサルトキハ、之ヲ故障ト謂フヲ得ヘキカ。例ヘハ定刻ニ議長出席セサルカ如キ、又ハ休憩中議員ヨリ直ニ開會セムコトヲ議長ニ申出テタルニ議長之ニ應セサルカ如キ場合ニ、議長ニ故障アルモノトシテ、副議長又ハ町村長代理者ニ於テ議長ノ職務ヲ執ルコトヲ得ヘキカ。余輩ハ此ノ如キ場合ハ之ヲ故障ト謂フヘキモノニ非ス、議長カ職務ヲ取ラサル場合ニ之ヲ故障ト

議長ノ資格ト町村長ノ資格

爲ス爲ニハ、極メテ明瞭ニ到底職務ヲ執ラサルヘカラサルヲ信ス。

市會ニ於テ改選後初メテ招集セラレタルトキ、議長ノ選舉ヲ行フ迄ノ間ハ之ヲ故障ト謂フコトヲ得ヘキカ。蓋シ故障ト謂フハ議長ノ地位及議長タル人ノ故障ナリ。此ノ場合ニ於テハ市會ハ既ニ成立セルヲ以テ、議長ノ地位ハ當然之ニ伴ヒテ既ニ存在スルモノニシテ、唯未タ其ノ地位ヲ充ス人アラサルコト、恰モ缺員ノ場合ト同樣ノ關係ニ在リト謂フヲ得ヘク、從テ故障アルモノトシテ年長者ヲ以テ議長トシテ議長ノ選舉ヲ行フコトヲ得ヘキナリ。

議長故障アルトキ、又ハ其ノ職ヲ辭スルカ爲缺員ト爲ル場合ノ如キハ、議長ハ其ノ意思ヲ議長ノ代理者ニ對シテ發表スヘク、代理者ハ即其ノ職務ヲ執ルコトヲ得ヘシト雖、議長カ全ク意思ヲ發表スル能ハサル如キ故障、例ヘハ心神喪失ノ如キ故障ニ遭遇シタル場合ニ於テハ何人カ其ノ故障タルヤ否ヤヲ認定スヘキカ、畢竟客觀的ノ事實ニ依リテ決スルノ外ナカルヘシ。但シ市町村長又ハ監督官廳カ其ノ法ニ背反スルヲ認メタル場合ニ、市制第九十條又ハ町村制第七十四條ニ依ル手段ヲ取リ得ヘキハ勿論ナリ。

町村長ハ町村會ノ議長ト爲ルモ、執行機關タル町村長ト議決機關タル町村會ヲ主宰スル議長ノ資格トハ全然之ヲ分別セサルヘカラス。故ニ議長ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ議長ノ名ヲ以テスヘク、町村長ノ名ヲ以テスヘキニ非サルナリ。尤モ町村長ハ其ノ職務上ノ地位ニ依リ當然議長タルモノナルヲ以テ、單ニ町村長ノ名ヲ署シテ議長ノ職務ヲ行ヘルコトカ、直ニ議長トシテノ職務ノ效力ヲ無效タラシムト解スル能ハス。其ノ果シテ有效ナル意思ノ發表ナリヤ否ヤハ時ノ事情ニ依リテ之ヲ決スヘキナリ。町村會議員タル町村長及助役ハ假令議長トナルモ議員ノ職ヲモ併セ行ヒ得ヘキハ言ヲ俟タス。

市會ノ議長及副議長ハ前述ノ如ク市會ニ於テ之ヲ選舉スヘク、其ノ手續ハ市制第五十五條ニ依ルヘキナリ。又其ノ任期ハ議員ノ任期ト同シ、即市會ノ改選毎ニ改選セラルルコトトナルナリ。舊法ニ於テハ毎曆年ノ初メ一周年ヲ限リ議長及其ノ代理者一名ヲ互選スヘキ規定アリシモ、改正法ニ於テハ之ヲ改メ屢之ヲ選舉スルノ煩ヲ避ケタリ。

市會議長及副議長ノ任期

（判　例）

一　町村長ハ法律上其職務ニ於テ既ニ議長タル資格ヲ具有スルモノナレハ招集狀ニ村長ノ名義ヲ付シタル一事ヲ以テ其招集シタル村會ヲ違法ナリト云フヲ得ス（二七、一二、二二、行判）

二　村長ノ資格ヲ表示スル場合ト村會議長ノ資格ヲ表示シタル場合トハ彼此混同セサルヲ要スル而テ議長ノ資格ヲ表示スル場合ニ於テハ法律上村長ニ於テ議長ノ職ヲ行フモノナルヲ以テ村會議長村長某ト記名スルヲ當然トスルモ村長ノ資格ヲ表示スル場合ニ於テハ議長ノ文字ヲ冠セス單ニ村長某ト記載スルヲ相當トス（二九、五、一三、行判）

市制　第五十條　市町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

町村制　第四十六條　前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止

市町村長及其ノ任又ハ囑託ヲ受ケタル者ノ議事ニ參與スルノ權

セシムルコトヲ得ス

市町村會ハ市町村ノ意思ヲ決定スルノ機關ナルモ特殊ノ場合ノ外發案權ヲ有セス、發案權ヲ有スル者ハ原則トシテ市町村長ナルコトハ既ニ屢述シタル所ノ如シ。加之市長町村長ハ市町村ヲ統轄シ、市町村ヲ代表シテ議決セラレタル事務ヲ執行スルノ職責ヲ有スル者ナレハ、之ヲシテ十分議案ノ趣旨ヲ辨明セシメ、且議事ノ利害得失ニ付テ充分ノ論議ヲ盡サシムルハ極メテ必要ノコトニ屬ス。故ニ本條ニ於テハ市町村長及其ノ委任又ハ囑托ヲ受ケタル者ハ、會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得セシメタリ。然レトモ其ノ趣旨既ニ此ノ如クナルヲ以テ、公選ニ非サル者殊ニ吏員以外ノ者ヲシテ市町村長ノ隨意ニ議決ニ加ハラシメ多數ヲ制スルカ如キ、殆ト自治ノ精神ヲ沒却スルコトハ之ヲ避ケシメサルヘカラス。故ニ但書ヲ以テ此等ノ者ハ總テ議決ニ加ハルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ。尤モ市町村長又ハ其ノ代理者カ議長トシテ可否同數ナル場合ニ決定權ヲ行フコトアリ、又町村長及助役ハ議員トシテノ職務ヲ行フコトアルモ此レ皆本條ニ依リ參與スル結果ニ非サルハ論ナキナリ。

茲ニ市町村長ノ委任ヲ受ケタル者トハ、市町村吏員以外ノ者ニシテ市町村ニ對シ特別ノ服從義務ヲ負ハサル者ヲ謂フ。舊法ハ市ニ在リテハ市參事會員町村ニ在リテハ町村長及助役ノミニ參與ノ權ヲ與ヘシモ、議案ノ說明等ニ當リテハ下級吏員ヲ用フルヲ却テ便利トスル場合アリ、又事技術ニ亙ルモノノ如キハ假令吏員ニ非スト雖、實際ニ事ニ當リタル者ヲ使用セサレハ、充分ノ說明ヲ爲スコト能ハサル場合ナキニ非ス。故ニ改正法ニ於テハ其ノ範圍ヲ擴張セルナリ。然ラハ市町村長ハ如何ナル者ヲモ囑託シテ議事ニ參與セシムルコトヲ得ルカ。例ヘハ小學校ニ付テハ小學校教員、土木工事ニ付テハ請負者、農事ニ付テハ農夫ニモ囑託シテ議事ニ參與セシムルコトヲ得ルカ。法ハ囑託ノ範圍ニ付テ何等制限スル所ナキカ故ニ、實際ノ穩當不穩當ハ別問題トシテ法ニ違反スルモノト謂フ能ハサルナリ。又舊法ニ於テハ助役ハ當然議事ニ參與スルコトヲ得ルノ規定ナリシモ、改正法ニ於テ市町村長ノ代理タル場合ヲ除クノ外市町村長ノ委任アルニ非サレハ參與スルコト能ハサルニ至レリ。

市町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者カ參與スヘキ議事ハ廣ク何レノ議事ニモ及フヘク、市町村長ノ發案セルモノニ限ラサルハ勿論ナリ。蓋市町村長ノ職務上何レノ議事ニモ關與スルノ必要アリ、殊ニ市制第九十條又ハ町村制第七十四條ノ規定ニ依リ、再議ニ附スルノ必要アル場合ヲ生セサルヲ保シ難キヲ以テナリ。議事ニ參與スルニ當リテハ曾ニ說明ノミニ止マラス、場合ニ依リテハ辯難論爭スルモ亦固ヨリ其ノ權內ニ在リ。舊法ニ於テハ單ニ辯明ナル文字ヲ用キシモ仍同樣ノ解釋ヲ取レリ。改正法ニ於テハ此ノ點ニ付何等疑ヲ挾ムノ餘地ナシ。

次ニ市町村長其ノ他議事ニ參與スル者カ發言ヲ求ムル場合ニハ、法ハ直ニ之ヲ許スヘキコトヲ議長ニ命セリ。然レトモ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコト能ハサルナリ。蓋此等ノ參與者ヲシテ適

參與スヘキ議事

參與者ノ發言權

演說ノ中止

選擧ニ對スル參與權

（增）

當ノ時機ニ於テ辯明論議シ、議案ノ主旨ト利害トノ不明瞭ナルカ爲不利ノ議決ヲ爲スノ遺憾ナカラシメムトスルノ法意ナルヘシ。唯之カ爲ニ議員ノ演說ヲモ中止セシムルハ必要ノ度ヲ超越スルノミナラス、極メテ不穩當ノコトニ屬スルヲ以テ之ヲ禁止セルナリ。茲ニ演說トハ現ニ發言中ノモノト解スヘキカ、又ハ既ニ發言ノ許可ヲ得タル者ハ未タ發言セスト雖之ヲ演說ト解スヘキカ。之ヲ文字ノ上ヨリ見ルトキハ前者ノミノ如シト雖、既ニ許可ヲ得タル者ハ演說スヘキ狀態ニ在ル者ナルニ依リ、之ヲ顧ミスシテ參與員ニ發言ヲ許可スルハ又演說ノ中止ト見ルヲ至當トスヘク、議員ノ發言權ヲ侵ササラシメントスル趣旨ニモ忤フヘシ。

本條ハ之ヲ市町村會ニ於ケル選擧ニ適用シ得ヘキモノナルヤ否ヤハ稍疑ナキ能ハス。法ハ議事ト謂ヒ、議決ニ加ハルコトヲ得スト謂ヒ、演說ヲ中止セシムルコトヲ得スト謂ヒ、恰モ議決ノ場合ヲノミ想像セルカ如ク見ユルノミナラス、改正法ニ於テハ議決ト選擧トヲ明ニ區別セルヲ以テ、一見選擧ヲ含マサルカ如シト雖、市町村長ハ選擧ニ付テモ亦之ヲ監視シ、場合ニ依リテハ市制第九十條及町村制第七十四條ノ規定ニ依ル再議ニ附スルノ權ヲ行ハサルヘカラサルヲ以テ、選擧ノ場合ニモ此ノ參與ノ權ヲ行フコトヲ得ルモノト解スルヲ以テ正當ナリト信ス。

市制　第五十一條　市町村會ハ市町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市町村長ハ之ヲ招集スヘシ

市町村會ノ招集

市町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市町村會ヲ召集スルコトヲ得

召集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日間前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

三日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

市町村會ハ市町村長之ヲ開閉ス

本條ハ市町村會ノ召集、開會及閉會ニ付テ規定セリ。市町村會ノ權限ハ府縣會及郡會ト異ナリテ甚タ廣汎ナルヲ以テ一定ノ時期ニ於テ開會スルノミニテハ到底充分ニ其ノ職責ヲ完ウスルコト能ハス。故ニ市町村長ヲシテ隨時其ノ必要ニ應シテ之ヲ召集セシムルコトト爲セリ。舊法ニ於テハ議長ニ召集ノ權ヲ與ヘタルモ、改正法ニ於テハ主トシテ發案權ヲ有スル市町村長ニ之ヲ與ヘタリ。然レトモ市町村會モ亦自ラ發案權ヲ有スル事項アルコトハ既述ノ如シ。依テ議員定數ノ三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市長ハ必ス之ヲ召集セサルヘカラサルコトト爲セリ。

召集ハ各議員ニ集會ヲ命スル處分ニシテ市町村會ニ向テ之ヲ爲スニ非ス。故ニ議員中一人ニテモ召集ヲ受ケサル者アルトキハ、其ノ會議ニ於テ議決シタル事件ハ無效ナリ、又議員ハ自ラ集會スルノ權ナキヲ以テ召集ナキニ集合シテ議決スルモ固ヨリ市町村會ト見ルヘキモノニ非ス、其ノ初メヨリ何等

議員カ召集ヲ請求シ得ヘキ事件ノ範圍

ノ效力ナキハ言ヲ俟タサルナリ。選擧ヲ終ルモ當選ヲ辭シ得ルノ期間ハ未ヲ議員タラサルカ故ニ、當選者カ議員タルコトヲ承諾セサル限リ、之ヲ召集スルコトヲ得サルハ論ナキモ、一人ニシテ數級ノ選擧ニ當選シタル場合ニ於テ其ノ一方ニ應シタルカ爲、他方ニ更ニ當選者ヲ定メ、又ハ選擧ヲ要スルニ至リタルトキ、其ノ他ノ議員ニ於テ定數ノ過半數ニ達セル以上ハ之ヲ招集スルコトヲ得ルカ。蓋シ市町村長ハ成立セサルノ市町村會ヲ招集スルコトヲ得サルモ此ノ場合ニ於テハ總選擧ハ既ニ終了シ、一應ノ當選者確定シタルモノナルヲ以テ市町村會ハ既ニ成立シタルモノナリト云フヘク、全部ノ議員ノ定マルヲ俟タス之ヲ召集シ得ルハ缺員ノ場合ニ於テ補闕選擧未タ終ラサルモ其ノ他ノ議員ヲ召集シ得ルト同樣ニ解スヘキナリ。但シ開會中當選者確定スルトキハ直ニ之ヲ召集セサルヘカラス。召集ノ方法ハ別ニ規定スル所ナキヲ以テ議員各個ヲシテ之ヲ知ラシムレハ足ル。多クノ場合ニ於テハ議員ノ住所ニ之ヲ通知スヘキモ必スシモ然スルヲ要セス。議員ノ現在所ニ於テ之ヲ知ラシムルモ亦妨ナキナリ。又通常ハ文書ヲ以テスヘキモ口頭ヲ以テ通知スルコトモ亦違法ニ非サルナリ。

議員カ召集ヲ請求シ得ルハ市町村會ニ於テ發案權ヲ有スル事件ニ限ル。之レ發案權ナキ事件ニ付テハ假令召集スルモ市町村長カ發案セサル以上ハ議事ヲ開クニ由ナケレハナリ。尤モ廣ク市町村會ニモ發案權アリト主張スル論者ハ其ノ當然ノ結果トシテ市町村會ノ權限ニ屬スル事項ニ付テハ總テ召集ヲ請求スルノ權アリト爲セリ。三分ノ一以上ノ議員カ召集ヲ請求スルニ當リテハ同一事件ニ付之ヲ請求スルヲ要スルカ、又ハ各人各個ノ異ナリタル事件ニ付請求スルモ其ノ數定數ノ三分ノ一ニ達スレハ市町村長ハ之ヲ召集セサルヘカラサルカ。此ノ場合ニ於テハ議員ハ一體トシテ同一事件ニ付召集ヲ請求スルニ非サレハ其ノ效ナキモノト解セサルヘカラス。議員カ適法ニ召集ヲ請求シタルニ拘ラス、市町村長カ之ヲ召集セサルトキハ如何。此ノ場合ニ於テハ監督官廳カ之ヲ知悉シ代執行ヲ爲ス場合以外ニ於テハ議員ハ何等取ルヘキ手段ヲ有セサルナリ。但シ次ノ會議以後ニ於テ監督官廳ニ意見ヲ提出スルコトハ固ヨリ妨ケサルナリ。

市町村會ノ會期

市町村會ハ市町村長必要ニ應シ隨時ニ之ヲ召集スルモノナルヲ以テ、法ハ別ニ會期ヲ設ケス。然レトモ全然會期ヲ定ムルコト能ハサルトキハ、一定ノ期日マテニ議決ヲ要スル事件ノ如キハ往々ニシテ不便ヲ來スコトナキニ非ス。假令然ラサルモ選延議事ヲ遲滯セシムルノ弊害ナシト謂フヘカラス。故ニ市町村長ハ會期ヲ定メテ市町村會ヲ召集スルコトヲ得ルノ規定ヲ置ケリ。之レ舊法ニナクシテ改正法ニ於テ採用セル所ナリ。市町村會ハ此ノ期間ニ於テ附議セラレタル議案ヲ議了セサルヘカラス。若シ然ラサルトキハ市町村長ハ議決ヲ爲ササルモノトシテ、市制第九十一條及町村制第七十五條ノ手段ヲ取ルコトヲ得ルナリ。會期ノ指定セラレタル場合ニ於テハ、會期不繼續ノ原則ハ亦市町村會ニモ適用アルモノトス。從ツテ新ナル會期ニ於テハ議事ハ總テ更ニ第一讀會ヨリ爲ササル可ラス。

告知ノ期間

市町村會ノ議員ハ隨時ニ召集セラルルヲ以テ何時召集ヲ受クルヤモ計リ難シ。然ルニ議員ハ名譽職

ニシテ多クハ其ノ本業ヲ有スルニ依リ、一定ノ期日前ニ召集ノ日ヲ知ラシムルノ必要アリ。又會議ノ事件ニ付テモ豫メ考慮ノ餘地ヲ與フルニ非ヲレハ、徒ラニ會議ヲ長カラシムル虞アルノミナラス、不適當ノ議決ヲ爲スノ弊ヲ生スヘシ。故ニ召集及會議ノ事件ハ、少クトモ開會三日前ニ之ヲ告知スヘキ旨ヲ規定セリ。茲ニ三日前ト謂フハ召集ノ日ト告知ノ日トノ間ニ二日ノ期間ヲ置クヘキノ意ナリ。即チ八月四日ニ召集セムト欲スルトキハ、八月一日ニ之ヲ告知スルヲ要スルナリ。但シ事急施ヲ要スル場合ニ於テハ、強テ此ノ制限ヲ守ラシムルコト不可能ナルヲ以テ、例外ヲ設ケテ直ニ之ヲ召集スルヲ得シメタリ。而シテ急施ノ事件ハ開會ノ前後ヲ問ハス發生スヘキヲ慮リ、開會中ト雖同樣ニ直ニ之ヲ其ノ會議ニ附スルコトヲ得シメタリ。又假令急施ニ非サルモノト雖、豫メ告知シタル事件ノ外ハ全ク之ヲ會議ニ付スルヲ得ストスルトキハ、再ヒ召集ヲ爲スノ煩ヲ生スルコトアルヘキニ依リ其ノ事件ノ會議ニ附セラルル三日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件モ、亦同シキコトヲ規定セリ。事件ノ告知モ召集ノ告知ト同シク別ニ形式ナキヲ以テ本人ニ知ラシムルヲ以テ足レリトス。唯法カ告知ヲ要件トセルノ結果急施事件ノ場合ヲ除ク外ハ、假令缺席者ト雖告知ヲ爲ササル議員アリシニ拘ラス之ヲ會議ニ附セルトキハ其ノ議決ハ無效ナリ。市町村會ニ於テ之ヲ告知スルノ必要ナキハ事ノ性質上當然ナリ。茲ニ會議ノ事件ト謂フハ選擧ヲ包含スルモノト解セサルヘカラス。故ニ選擧ニ付テモ亦告知ヲ要スルモノナリ。

市町村會ハ市町村長之ヲ開閉ス。市町村會ハ開會ニ依リテ活動ス。開會ハ市町村會カ其ノ職權ヲ行使シ得ルノ始期、閉會ハ市町村會ノ活動ヲ終止セシムル時ニシテ、其ノ職權ヲ行使シ得ルノ終期ナリ。市町村會ハ唯開會ト閉會トノ間ニ於テノミ活動シ得ルノミ。故ニ開會前閉會以後ニハ、議員ノ集合セル意思ハ有リ得ルモ市町村會ノ議決ハ有リ得サルナリ。假令召集アリタル後ト雖、未タ開會ナキトキハ市町村會ノ議決ト謂フヲ得サルハ勿論ナリ。從テ若シ開會前閉會後ニ於テ、議員カ集合シテ意思ヲ發表スルコト有リトスルモ、市町村長ハ何等之ニ關知スヘキノ必要ナク、固ヨリ之ヲ再議ニ附スルノ必要タモナキナリ。開會閉會ハ議事ノ關閉ナリ、市町村會ニ向テ之ヲ宣言スルヲ要スルナリ。故ニ各議員ノ知ルト否トハ關スル所ニ非ヲルナリ。

市町村長ハ議員ヲ召集スルトキハ、必ス市町村會ヲ開會セサルヘカラス。召集ハ開會ヲ爲サムカ爲ナレハナリ。然レトモ開會ノ日ハ召集ノ日ト必スシモ同一ナルヲ要セス、其ノ間ニ期間ヲ存スルモ亦妨ケナキナリ。會期ノ定アル場合ニ會期ヲ過キテ閉會セサルトキ會期後ノ議決ノ效力如何。蓋市町村會ハ會期ノ終了ニ依リテ其ノ活動ヲ終ルニ非スシテ閉會ニ依リテ其ノ活動ヲ終ルナリ。故ニ閉會アルニ迄ハ其ノ議決ハ效力アルモノト謂フヘキナリ。此ノ場合ニ於テ會期ハ法ノ定メタルモノニ非スシテ市町村長ノ定メタルモノナルヲ以テ市町村長ハ又隨意ニ之ヲ延長シ得ヘク、從テ違法ノ責ヲモ生セサルモノト解スヘシ。議事終了スレハ會期中ト雖閉會スルコトヲ得ルハ論ナキモ、議事未タ終ラサルニ市

町村長カ閉會ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ疑ナキニ非スト雖、開會ハ議事ヲ爲サムカ爲ナルヲ以テ市町村長ハ議事ノ未タ終ラサルニ閉會ヲ爲シ得サルモノト解スヘキナリ。從テ其ノ閉會ハ無效ト謂フ能ハサルモ達法タルヲ免レス。然トモ會期ヲ定メタル召集ニ付テハ、其ノ會議終了シタルトキハ未タ議案ヲ議了セサルモ、市町村長ハ適法ニ之ヲ閉會スルコトヲ得ヘシ、之レ會期指定ノ效力ナリ。

（判　例）

一　町村制ニ町村會ヲ召集スルノ方法ヲ特定スルコトナシ（三一、四、七、行判）

二　召集狀ハ本人ニ受領セシムレハ足リ必スシモ之ヲ其ノ住所ニ送達スルヲ要セス（三六、三、一八、行判）

（增）

市制第五十二條　町村制第四十八條　市町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第五十四條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ市町村會ノ定足數ニ關スル規定ナリ。凡ソ會議體ハ多數ノ意思ヲ集メテ其ノ意思ヲ決定スルモノナルヲ以テ、全員ノ出席ヲ待テ始メテ會議ヲ開クコトヲ得トスルトキハ、實際ニ於テ到底其ノ運用ヲ期シ難シ。故ニ何レノ會議體ニ於テモ一定ノ數ヲ限リ、其ノ員數ニ達スレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ許スヲ常トス。此レ即チ定足數ナリ。市町村會ノ定足數ハ之ヲ定員ノ半數トス。假令定員ニ缺

市町村會ノ定足數

例外一

員アルモ其ノ半數ヲ必要トシ、現在員ノ半數ニ依ルコト能ハサルナリ。定足數ハ開會中存在スルコトヲ必要ナルヲ以テ、中途退席者ヲ生セシ爲半數ニ滿タサルニ至リタルトキハ、更ニ出席者ヲ得テ定足數ニ達スル迄ハ會議ヲ續行スルコトヲ得ス。定員トハ市制第十三條及町村制第十一條ノ規定ニ依リテ定マルモノニシテ、固ヨリ議員タラサル議長ハ之ヲ包含セサルナリ。然トモ之レ原則ニシテ、次ノ三ノ場合ニ於テハ、例外トシテ開會議決スルコトヲ得。

一、議事カ議員自身又ハ其ノ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル爲除斥セラレタル議員アリテ半數ノ出席者ヲ得サルトキ

市町村會議員ハ市制第五十四條及町村制第五十條ノ規定ニ依リ、自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得サルヲ以テ之ヲ出席數ニ加フルコト能ハス。從テ半數以上ノ議員カ除斥セラレタルトキハ上述ノ原則ニ依レハ絶對ニ會議ヲ開クコト能ハサルニ至ルヘシ。舊法ニ於テ此ノ場合ニハ、市會ニ在リテハ府縣參事會、町村會ニ在リテハ郡參事會カ之ヲ代決スルコトヲ定メタルモ、此ノ如キ變態ヲ認ムルヨリモ、寧ロ定足數ニ例外ヲ設クルニ如カサルヲ以テ、改正法ニ於テハ半數以下ト雖、會議ヲ開クコトヲ得ルコトト爲セリ。除斥ノ爲半數ニ滿タスト謂フハ、除斥セラレサル殘員カ全部出席スルモ尙半數ニ滿タサル場合ニンテ、除斥ノ數ト缺席者ノ數トヲ合シ其ノ殘員カ半數ニ滿タサルトキノ如キハ、次ノ例外ニ依ルニ至ルヘキコトアラム

モ、玆ニハ之ヲ包含セサルナリ。但シ除斥ノ數ト缺員ノ數トヲ合シ、其ノ殘員カ半數ニ滿タサルトキハ、之ヲ此ノ例外ノ場合ニ含ムモノト解スヘキナリ。出席停止又ハ退去ヲ命セラレタル者アルトキ、除斥者アリテ半數ニ達セサルトキモ亦同樣ニ解スヘキカ如シ。

例外二

二、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ

一ノ事件ヲ議スルカ爲議員ヲ召集セルモ、召集ニ應シテ出席セル議員半數ニ滿タサルトキハ、市町村長ハ更ニ召集ヲ爲スニ非サレハ會議ヲ開クコト能ハサルハ勿論ナリト雖、更ニ其ノ同一事件ニ付召集セルニ拘ラス、依然トシテ半數ニ滿タサルトキハ際限ナク之ヲ遷延スルコト能ハサルヲ以テ定足數ニ拘ラス、會議ヲ開クコトヲ得ルノ例外ヲ設ケタルナリ。此ノ場合ニ於テハ他ノ事件ヲ附加シテ議決スル能ハサルハ勿論ナリトス。

例外三

三、議員召集ニ應スルモ出席者定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍出席者半數ニ滿タサルトキ

議員召集ニ應セルモ出席者定足數ニ達セサル爲、又ハ第二日以後ニ至リテ缺席者ヲ生シタル爲、定足數ヲ缺クニ至リタルトキ、即所謂流會ノ場合ニ議長カ出席ヲ催告スルモ仍出席者半數ニ達セサルトキハ、會議ヲ開クコトヲ得ルナリ。舊法ニ於テハ此ノ場合ニ處スルノ規定ナカリシヲ以テ、改正法ニハ之ヲ設ケタリ。此ノ場合ノ催告ハ一旦出席シ中途退席シタル者ニ限ラス、全ク召集ニ應セサル者ニモ之ヲ爲ササルヘカラサルモノト解スヘキナリ。急施ヲ要セサル事件ニシテ此ノ例外ノ場合ニ於ケル會議ノ中途ニ於テ催告ト同時ニ告知シ三日ヲ經タルモノナルトキハ其ノ事件ヲ分別セスシテ直ニ其ノ會議ニ於テ引續キ之ヲ議決スルコトヲ得ヘク、其ノ告知セラレタル事件ニ付テハ更ニ出席ヲ催告スルヲ要セサルモノトス。蓋此ノ例外ノ場合ニ於テハ法ハ同一事件ナルコトヲ必要トセサルヲ以テナリ。

會議ニ出席ヲ要スル議員ノ最少限

以上三ノ例外ノ場合ニ於テハ法文上如何ニ少數ノ議員ト雖、議決ヲ爲スコトヲ得ルカ如キモ少クトモ議長及議員二人ノ出席ナクンハ會議ヲ開クコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス。何トナレハ市町村會ハ合議體ニシテ既ニ會議ヲ開クト云フ以上多數人ノ意思ヲ集ムルコトヲ必要トス。故ニ單ニ議員一人ノミナルトキハ之ヲ多數ト言フ能ハス、會議トシテ見ルコト能ハサレハナリ。議長モ亦議員タル場合ニ於テハ議長ノ外一人ノ議員アレハ會議ヲ開クコトヲ得ルモノト解スヘキニ似タリト雖、此ノ如キハ畢竟常ニ議長ノ裁決權ニ依リテ事ヲ決スルコトナリテ會議タルノ意味ヲ爲ササルカ故ニ、此ノ場合ニ於テモ等シク會議ヲ開クコト能ハサルモノト解スヘキナリ。

會議ノ意義

本條ニ於テ會議ト稱スルハ、市町村會カ議場ニ於テ職權ヲ行使スル一切ノ場合ヲ包含スルモノト解スヘキナリ。故ニ議決、選舉、決定、同意等總テ定足數ノ制限ヲ受クヘキモノニ非ルヲ以テ、此ノ制限ヲ受クヘキモノニ非ス。從テ市町村會ヲ開閉スルハ之ヲ會議ト稱スヘキモノニ非ルヲ以テ、市町村長カ假令現在定足數ノ出席者アリタルトキハ何時ニテモ之ヲ開

會シ得ヘキナリ。

（判　例）

一　町村會ノ組織カ適法ニ成立セサル以上ハ其會議ニ對シテ本條但書ヲ適用スルヲ得ス（三二、六、二六、行判）

市制　第五十三條　市
町村制　第四十九條　町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

（增）

市町村會ノ議決方法

議員タル議長ノ表決權

本條ニハ市町村會ノ議決方法ヲ規定ス。市町村會ノ議事ハ一說毎ニ可否ヲ比較シ出席議員中表決權アル者ノ過半數ヲ以テ決ス。此ノ規定ハ定足數以上ノ出席アリタル場合ト、定足數以下ノ出席者ヲ以テ議決スルコトヲ得ヘキ場合トヲ問ハス、之ヲ適用スヘキナリ。然レトモ可否ノ數ハ必スシモ常ニ一方カ少數ニシテ一方カ多數ナルヘキモノニ非ス、時ニ或ハ可否全然同數ナルコトナシトセス。故ニカカル場合ニハ議長カ裁決權ヲ行ヒ、可否ヲ決定スルヲ得ルコトトセリ。舊法ニ於テハ可否同數ナルトキハ再議ニ附シ尙同數ナルトキ始メテ議長ニ裁決權ヲ與ヘタルモ改正法ハ直ニ之ヲ裁決シ得ルコトト爲セリ。此ノ權利ハ議長カ議員タルト否トニ依リテ異ナル所ナシ。唯議長カ議員タル場合ニ於テ、裁決權ト表決權トヲ併セ有スルヤ否ヤハ說ノ分ルル所ナリ。然レトモ議員カ議長タル爲ニ其ノ最モ重スヘキ表決權ヲモ失フコトハ、法ニ特別ノ明文ナクシテ之ヲ推測スルコト能ハサルカ故ニ、此ノ如キ議長ハ兩者ヲ併有スルモノト解スルヲ至當トス。換言スレハ議員タル議長ハ此ノ場合ニ限リ一ノ議事ニ付二箇ノ權利ヲ有スルコトトナルナリ。

過半數

茲ニ過半數ト謂フハ議員定數ノ過半數ニ非サルハ、定足數ヲ定メタル前條ノ規定ト對比シテ言ヲ俟タサル所ナリ。又之ヲ出席者ノ過半數ト解スルコト能ハス。次條ノ規定ニ依リ除斥セラレタル者ノ如キハ、出席スルコトハアリ得ヘキモ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得サレハナリ。故ニ過半數トハ出席議員中表決權ヲ行使シ得ヘキ者ノ多數ト云フノ義ニ解スヘキナリ。蓋議員ハ採決ノ宣告前ニ於テ議場ヲ退キ議事ニ加ハラサルコトハ之ヲ爲シ得ヘキモ、一旦採決ノ宣告アリタル後ニ於テ議席ヲ去リ又ハ之ニ止マリテ爾カモ表決ノ數ニ加ハラサルハ法ノ許ササル所タルコト本條規定ノ場合ニ照シ明カナリトス。

本條ノ規定ニ依リ議決セル事件ハ、手續ノ欠缺其ノ他違法越權等ノ事アルニ非サレハ確定ノ效力ヲ動カサルルコトナシ。其ノ議決ノ際議員タルノ資格ナキ者アリタルカ爲定足數ニ達セル場合ニ於テモ其ノ市制第三十六條、第三十八條、及町村制第三十三條、第三十五條ノ規定ニ依リ表決權ヲ有スルヲ以テ議決ノ效力ニハ何等影響ヲ及ホササルナリ。

本條ノ規定ハ前條ト異ナリ之ヲ選擧ノ場合ニ適用スヘキモノニ非ス。選擧ニ關シテハ市制第五十五條及町村制第五十一條ニ詳細ナル規定ヲ設ケタルヲ以テナリ。

（判　例）

一　郡會議長ハ可否同數ナル場合ニ於テ採決權ヲ有スルニ止マリ議長席ヲ離レテ自己ノ意見ヲ吐露スルハ法律ノ禁止スル所ニア

ヲサレトモ其意見ヲ採テ直チニ之ヲ可否ノ數ニ加フルハ不當ナリ（三八、三、一、行列）

議長及議員ノ除斥

市制第五十四條 町村制第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

本條ハ議長及議員ノ除斥ニ關スル規定ナリ。議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ、其ノ議事ニ參與スルコトヲ得サルナリ。蓋自己ニ關シ痛切ナル利害關係ヲ有スルトキハ、何人ト雖公平ナル判斷ヲ誤ルハ誠ニ已ムヲ得サルノ弱點ナレハナリ。然レトモ場合ニ依リテハ其ノ議員ヲシテ辯明セシムルコトカ、却テ事情ヲ審ニシ不適當ノ議決ヲ爲スコトヲ防キ得ル場合ナキニ非ス。故ニ市町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シテ發言スルコトヲ得シメタリ。唯議決ノ數ニ加ハルコトハ本條除斥ノ主旨ヲ破壞スルモノナルヲ以テ全ク之ヲ禁止セリ。茲ニ揭クル親族ハ民法ノ規定ニ從テ之ヲ定ムヘキコト勿論ナルヲ以テ妻ノ父母又ハ妻ノ兄弟姉妹ノ一身上ニ關係スルモノノ如キハ之ヲ包含セサルナリ。

何カ一身上ノ關係ヲ有スルモノナルカハ、其ノ場合ノ問題ニシテ一定ノ標準ヲ以テ之ヲ律シ難キモ、公私ニ拘ラス直接ニ利害ノ關係ヲ有スルモノハ之ヲ一身上ノ關係アルモノト謂フヘキナリ。例ヘハ自己又ハ前揭ノ親族カ市町村ト賣買交換請負賃貸借等ノ契約ヲ締結セムトスルカ如キハ之ヲ一身上ノ關係ト謂フヲ得ヘキナリ。又本法ニ規定スル所ノ名譽職ヲ擔任セサル者ノ制裁（市制第十條 町村制第八條）選舉人名簿ニ關スル異議ノ決定（市制第二十一條 町村制第十八條）、當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定（市制第三十三條 町村制第三十六條）、議員ノ被選舉權ノ有無ノ決定（市制第三十八條 町村制第三十五條）、本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對スル制裁（市制第六十三條 町村制第五十九條）、名譽職參事會員選舉ノ際ニ於ケル投票ノ效力ニ關スル異議ノ決定（市制第六十九條、第七十條、第七十九條 町村制第七十三條、第六十七條）、給料及給與ニ關スル異議ノ決定（市制第百七條 町村制第八十七條）、市町村稅ノ減免（市制第百二十八條 町村制第百八條）等ノ議事ニシテ自己又ハ前揭ノ親族ヲ目的トスルモノノ如キ及之ニ關スル市會ヨリノ訴願訴訟ノ如キモ亦好適例ナリ。然レトモ選舉ノ效力ニ關スル異議ノ如キハ、結局議員ニ關係アルモノナリト雖直接ニ一身上ノ關係アルモノト謂フヲ得ス。故ニ或ル等級ノ選舉ニ付異議ノ申立アリタルトキト雖、其ノ等級ヨリ選出セラレタル議員ハ議事ニ參與スルコトヲ得ルナリ。又町村長助役ノ報酬又ハ給料額ヲ定ムルカ如キモ之ヲ議員タル町村長又ハ助役ノ一身上ニ關スルモノト謂フコトヲ得サルナリ。

（增）

市制第五十五條 町村制第五十一條 法律勅令ニ依リ市町村會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ、本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二

人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齢同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齢同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市町村會之ヲ決定ス

第一項ノ選擧ニ付テハ市町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ヰルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ヰル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

法律勅令ニ依リ市町村會ニ於テ選擧ヲ行フ場合ノ手續

法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選擧ヲ行フハ市町村會ノ義務ナルコトハ前ニ之ヲ述ヘタリ。本條ハ即其ノ方法ニ付テ規定ス。

市町村會ニ於テ選擧ヲ行フ場合ニハ町村長又ハ議長副議長ノ如ク一人ヲ選擧スル場合ト、市長候補者又ハ市町村委員ノ如ク數人ヲ選擧スル場合トアリ。其ノ一人ヲ選擧スル場合ニハ勿論、數人ヲ選擧スル場合ニ於テモ先ツ其ノ一人ノミニ付無記名投票ヲ爲シ、之ヲ開票シタル結果有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ當選者トシ、更ニ次ノ一人ヲ同方法ヲ以テ選擧ス。カクシテ一人宛順次ニ規定ノ員數ヲ選擧シ終ルヘク、後ニ說明スル場合ヲ除クノ外ハ同時ニ數人ヲ選擧スルヲ得サルナリ。無記名投票トハ舊法ニ所謂匿名投票ニシテ選擧者ノ姓名ヲ投票用紙ニ記入スヘカラサルモノヲ云フ。茲ニハ有效投票ノ過半數ト規定スルヲ以テ出席ノ議員數ニ關係ナク無效投票ヲ除キタル殘リノ有效投票ニ依ルヘキナリ。故ニ極端ノ場合ヲ想像スレハ有效投票僅ニ二票三票ニ過キサルトキハ二票三票ヲ以テモ當選スルノ場合ヲ生シ得ルコトナルナリ。有效投票ノ何タルカハ後ニ之ヲ說明スヘシ。

同點者二人以上アル場合

上述シタル場合ニ於テ過半數ニ達スルノ投票ヲ得タルモノナキトキハ、其ノ中最多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ二人ヲ取リ、更ニ此ノ二人ノ中ニテ當選者トスヘキカノ決選投票ヲ爲サシム。此ノ場合ニ於テハ前ノ如ク過半數ヲ必要トセス、比較多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス。例ヘハ出席議員三十人中有效投票二十八票アリタリトシ、十五票ヲ得タル者ナク其中一人ハ十三票一人ハ十二票ヲ其ノ他ハ以下ノ投票ヲ得タリトスレハ、其ノ二人ニ付決選投票ヲ爲サシメ、假令十四票以下ナリトモ二人ノ得票ヲ比較シテ何レカ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者ト爲スナリ。

二人ヲ取リテ決選投票ヲ爲サムトスルニ當リ恰モ同點者三人アリ、又ハ最多數者一人ト次ニ同數ヲ得タル者二人以上アル場合ノ如キ、又ハ決選投票ヲ爲シタルモ其ノ結果二人恰モ同點ヲ得タル場合ノ如キハ別ニ決選投票ヲ爲スヘキ者又ハ當選者トスヘキ者ヲ定メサルヘカラス。前例ヲ以テ謂ヘハ最初ノ投票ニ於テ九票ヲ得タル者三人ヲ生スルカ、又ハ一人ハ十票ニシテ次ノ二人ハ各九票ヲ得タルカ如キ場合、又決選投票ニ於テ二人共十四票ヲ得タルカ如キ場合ニ對スルノ方法ナカルヘカラサルナリ。故ニ此ノ二ノ場合ニ於テハ先ツ年長者ヲ當選者トスヘク、年齢モ亦恰モ相同シキ場合ニハ議長カ抽籤

シテ之ヲ定ムヘキ旨ヲ規定セリ。茲ニ年齢ト謂フハ議長ノ代理ニ關シテ述ヘタルト同シク日數ヲモ計算スルナリ。

準用ノ範圍

以上ハ選舉ニ關スル手續ノ大體ナリ。其ノ他ニ付テハ投票ノ效力ニ關スル異議ヲ市町村會ニ決定セシムルコトノ外法ハ市制第二十五條、第二十八條及町村制第二十二條、第二十五條ヲ準用スヘキコトヲ定ム。市制第二十五條及町村制第二十二條中第一項ハ無記名投票ノ規定ナルヲ以テ準用ノ必要ナク、第三項第四項第八項及市制ノ第九項カ準用ナキコトハ明白ナルヲ以テ結局第二項第五項第六項及第七項ヲ準用スルコトトナルナリ。即第二項ニ依リ投票ハ一人一票ニ限ルヘク、第五項ニ依リ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘク、第六項ニ依リ、自ラ被選人ノ氏名ヲ書スルコトノ能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得サルヘク、第七項ニ依リ投票用紙ハ市町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ユヘキナリ。第六項ヲ準用スルハ自ラ文字ヲ書スル能ハサル者ヲシテ重大ナル權利ヲ失ハシムルモノニシテ、議員ノ被選舉資格ニ文字ヲ書スル能ハサル者ヲ除外セサリシニ對シ、權衡ヲ失スルモノト謂ハサルヲ得ス。第七項ノ準用ニ付テハ議長ノ定ムル投票用紙ヲ用ユヘキモノナリト解スル者アリ。市町村會內部ノ事ハ市町村會ヲシテ自ラ當ラシムルノ方針ヨリ考フレハ、寧ロ適當ノ解釋ナルヘキモ一般ノ法律ニ於ケル所謂準用ト對比スルトキハ少シク異例ニ屬スルカ如シ。結局市町村長ノ定ムル投票用紙ニ依ルモノト解セサルヘカラサルモ、穩當ナル規定ト謂フ能ハサルニ似タリ。次ニ市制

第二十八條及町村制第二十五條中第二項ハ準用ナク、（連名投票ノ場合ニハ準用スヘキナリ後ニ說明スヘシ）第一項ヲ準用スルコトトナルヘキナリ。即チ無效投票タルヘキモノハ成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ、現ニ選舉セラルヘキ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ、被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ、一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ及高位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ除クノ外ノ被選舉人ノ氏名外ノ他事ヲ記入シタルモノナリ。故ニ前記決選投票ノ際ニ決選投票ノ資格アル者以外ノ氏名ヲ記シタル投票ハ被選權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノニシテ無效タルモ自己ヲ投票セルモノノ如キハ之ヲ無效トスルコトヲ得サルナリ。

以上ハ原則ナルモ單ニ此ノ方法ノミニ依ルトキハ、時ニ或ハ煩雜ニ失スルコトナキヲ保セス。故ニ市町村會ノ議決ヲ以テ二ノ例外方法ヲ採用シ得ルコトヲ認メタリ。即チ一ハ指名推選ノ方法ニシテ、一ハ連名投票ノ方法ナリ。指名推選ノ方法トハ議長又ハ議員ニ於テ被選舉人ヲ指名シ、之ヲ普通ノ議事方法ニ依リ會議ニ諮ヒ、過半數ヲ得タルトキ當選者ト爲スノ方法ヲ謂ヒ、連名投票トハ所要ノ員數ノ全部又ハ一部ノ氏名ヲ投票用紙ニ連記シテ選舉スル方法ヲ謂フ。何レノ場合ニ於テモ無記名投票ノ原則ハ之ヲ破ルコト能ハサルナリ。連名投票ノ場合ニ於テハ其ノ手續ハ總テ單記無記名ノ際ノ例ニ依ル。即同數者アルトキ決選投票ヲ行フ等皆同樣ナリ。但シ決選投票ニ於テモ連名投票ヲ用ウヘキハ勿論ナリ。又市制第二十五條第二十八條及町村制第二十二條第二十五條ヲ準用スルコトモ相同シ。唯

此ノ場合ニ於テハ市制第二十八條及町村制第二十五條ニ付第一項ヲ準用セスシテ第二項ノ準用ヲ見ルニ至ルナリ。即成規ノ用紙ヲ用ヰサル投票、選擧セラルヘキ職ニ現ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタル投票、爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ除クノ外、被選擧人ノ氏名外ノ他事ヲ記入シタル投票ハ無效トナルモ投票中ニ被選人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ及被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノアルトキハ其ノ部分ノミ無效タルナリ。指名推薦ノ方法ニ依ルトキハ投票ト同方法ニ從フ能ハサルハ言ヲ俟タサルカ故ニ、前二項ノ例ニ依ラサルナリ。故ニ會議ニ諮ヒテ過半數ノ贊成ヲ得サルトキハ更ニ指名推薦ヲ爲スヘキナリ。此ノ二ノ方法ハ何レノ方法ヲ採ルトスルモ市町村會ノ議決ヲ要スルハ前述ノ如クナルモ議決ノ代リニ豫メ會議規則中ニ之ヲ規定スルモ亦妨ケサルナリ。

以上說ク所ノ外市會ニ於ケル選擧ニ付テハ仍一ツノ例外アリ。即本法中別段ノ規定ヲ置キタル第六十五條ノ名譽職市參事會員ノ選擧ハ本條ニ依ラスシテ其ノ規定ニ依ルヘキコト之レナリ。第六十五條ノ選擧方法ニ付テハ其ノ條下ヲ參照スヘシ。

（判例）

一　本條指名推選ハ投票ニ代用スル一ノ方法ニ過キサレハ投票ト同シク選擧人自ラ之ヲ行フ可キモノニシテ他人ニ託スルヲ得サルモノトス（二八、一一、一、行判）

二　町村長委員等ノ選擧ニ付テハ町村制中訴願訴訟ヲ許シタルノ明文ナキモ其ノ起因ニシテ公民權ノ有無ニ關スルトキハ訴願訴訟ヲナスコトヲ得（二五、五、二六、行判）

三　村長ノ選擧ニ違法アリトシ其ノ取消ヲ求ムル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナシ（三四、一〇、二、行判）

四　村長選擧會ノ序ヲ以テ助役選擧ヲ執行シタルヲ違法ナリトシ訴訟ヲ提起スト謂フト雖法令中訴願訴訟ヲ許スノ規定ナシ（二九、三、一三、行判）

市町村會ノ公開

市制　第五十六條　市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ

町村制　第五十二條　町村會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁止シタルトキ

二　議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議員ノ發議ハ討論ヲ須ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ

市町村會ノ議事ハ之ヲ公開ス、蓋市町村會ノ議スル所ハ市町村ノ公益ニ關シ、住民ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ、廣ク其ノ經過ヲ知悉スルヲ得シメテ、住民ヲシテ自治ノ行政ニ冷淡ナラサラシメ、兼ネテ私曲ノ行ハレサルヘキヤノ疑惑ノ念ヲ生スルヲ防キ、安ンシテ自治ノ行政ニ信賴セシメムトスルノ趣旨ニ出ツ。然レトモ此ノ原則ヲ一貫セムトスルトキハ、却テ市町村ノ秩序ヲ保持シ、公益ヲ增進スル上ニ於テ不便ナル場合ヲ生スルナキヲ保セス。故ニ之ニ對シ二三ノ例外ヲ設ケタリ。

例外

市會ニ於テハ　(一)市長ノ要求アリタルトキハ之ヲ議場ニ諮フコトナク、當然議長ハ傍聽ヲ禁止スルノ義務アリ。(二)議長ノ發議、又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ、市町村會ニ於テ之ヲ可決シタルトキハ、傍聽ヲ禁止セサルヘカラス。議長ヲシテ單獨ニ發議スルヲ得シメタルハ、議場ノ内部ヲ整理スルノ職務ヲ有スレハナリ。町村會ニ於テハ、(一)議長ハ自己ノ意見ヲ以テ單獨ニ傍聽ヲ禁止スルコトヲ得。町村會ニ於テハ町村長カ當然議長タルヲ以テ特ニ町村長ヨリ要求スルノ必要ナキナリ。(二)議員二人以上ノ發議ニ依リ市町村會之ヲ可決シタルトキハ傍聽ヲ禁止ス。町村會議員ハ市會議員ニ比シ、員數少ナキヲ以テ發議者ヲ二人ト爲セルナリ。市會ト町村會トヲ問ハス、傍聽禁止ヲ議決スル場合ニ於テハ討論ヲ須キスシテ單ニ其ノ可否ヲ決セサルヘカラス。之レ辯論ヲ費ストキハ却テ秘密會議ト爲サムトスルノ趣旨ヲ沒却スルコトアルヘキト、事甚タ簡單ニシテ強テ討論スルノ必要ナキニ依ル。

傍聽禁止ノ範圍

傍聽ノ禁止ハ固ヨリ傍聽人ヲ退場セシメ、又ハ其ノ入場ヲ拒絶スルニ過キス。傍聽人以外ニ於テ職權ヲ以テ入場スル者ニ對シテハ、之ヲ適用スルコトヲ得サルナリ。故ニ市町村長其ノ他市町村ノ議事ニ參與スル者、監督官廳又ハ其ノ命ヲ受ケタル官吏ノ如キハ、依然議場ニ在ルコトヲ得ルナリ。

議事公開ノ原則ハ又絶對ニ何人ノ入場ヲモ拒ムコトヲ得ストイフニ非ス。後ニ述フル所ニ依リ傍聽人規則ヲ設ケテ（市制第六十三條町村制第五十九條）、一般ニ或ル種ノ人ノ入場ヲ拒絶スルカ如キハ固ヨリ適法ナル處置ナリ。又議場ノ秩序ヲ亂スカ如キ傍聽人ハ之ヲ退場セシムルコトヲモ得ルナリ（市制第六十條町村制第五十六條）。

（甲）

市制第五十七條　町村制第五十三條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會場ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持スス

議長ノ職權

議事ヲ整理スルノ權

本條ハ議長ノ職權ヲ規定セリ。本條ニ規定スル議長ノ職權ヲ分テ左ノ二、議事ヲ整理スルノ權

合議制ノ機關ハ多數ノ意思ヲ集メ其ノ意思ヲ決定スルヲ以テ、之ヲ決スルニ當リテハ何人カ其ノ整理ニ當ラサルヘカラス。故ニ法ハ議長ヲシテ會議ヲ總理セシメタリ。議長ハ會議ノ順序ヲ定ムルノ權アリ。如何ナル議案ヲ市町村會ニ附議スルカハ多クノ場合ニ於テ市町村長ノ職權ニ屬スルコトハ前既ニ之ヲ述ヘタル所ノ如キモ、附議セラレタル議案ヲ如何ナル順序ニ依リテ議決セシムルカハ、全ク議長ノ權内ニ屬ス。即チ議事日程ヲ定メ、又ハ之ヲ變更スルハ議長ノ權ナリ。次ニ其ノ日ノ會議ヲ開閉スルノ權モ亦、議長ニ屬ス。市町村會ヲ招集シ、開會閉會ヲ爲スノ權、即チ市町村會ノ活動ヲ開始セシメ又ハ終止セシムルノ權ハ市町村長ニ屬スト雖、一日ノ會議ヲ開キ又ハ閉ツルハ、全ク議長ノ權内ニ在リ。會議規則ニ時間ノ定アル場合ト雖、之カ爲ニ此ノ權ヲ左右スルコトヲ得ス。故ニ議長ハ其ノ定メタル時間ニ拘ラス開閉シ、又ハ全日ノ休會ヲ爲スコトヲモ得ルナリ。其ノ他發言ノ許否、討論ノ終結、採決、休憩ノ宣言等議事ノ整理ニ必要ナル處置ハ議長ハ職權トシテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ。尤モ何レノ場合ニ於テモ法律及會議規則ノ範圍ニ限局セラルヘキヲ以テ之ヲ超

越シテ其ノ職權ヲ行フ能ハサルハ勿論ナリト雖、其ノ以外ニ於テハ市町村會ノ議決ヲ以テスルモ其ノ職權ヲ侵スコトヲ得サルナリ。

議場ノ秩序ヲ保持スルノ權

二、議場ノ秩序ヲ保持スルノ權

市町村會ハ多數ノ議員ヲ以テ組織シ、又多數ノ傍聽人ヲ入場セシムルヲ以テ、之カ秩序ヲ保持セサルヘカラス。故ニ市制第五十九條第六十條及町村制第五十五條第五十六條ニ於テハ、議員及傍聽人ニ對シ退場ヲ命スルカ如キ權限ヲ與フ。即チ會議中ノ警察權ハ議長ノ掌理スル所ナリ。市町村長其ノ他ノ參與者モ議場ノ秩序ヲ保持スル議長ノ警察權ニハ服セサルヘカラス。然トモ監督官廳タル職權ヲ以テ議場內ニ在ル者ニ及ホスコトヲ得サルモノト解スヘシ。

市町村會ヲ代表スルノ權

三、市町村會ヲ代表スルノ權

市町村會ハ原則トシテハ、外部ニ向テ交涉スル權ナシト雖、例外トシテ或ル市町村長又ハ監督官廳ニ意見ヲ提出シ、或ハ行政廳ノ諮問ニ答申シ、或ハ異議ノ決定ヲ爲スカ如ク、自ラ外部ニ對スル場合ナキニ非ス。此ノ場合ニ於テハ議長ハ市町村會ヲ代表スルノ權ヲ有ス。議長カ會議ヲ總理スト謂フハ代表ノ權ヲ含ムヤ否ヤハ、必スシモ明瞭ナラサルモ、市町村會カ外部ニ對スルノ場合アル以上ハ、何人カカ之ヲ代表スルノ必要アリ。從テ議長ノ會議ヲ總理スルノ權ハ亦茲ニ及フモノト解スルノ外ナキナリ。

其ノ他ノ權利

以上掲クルモノノ外、議長ハ可否同數ナル場合ニ裁決ヲ爲スノ權（市制第五十三條、町村制第四十九條）、及書記ヲ任免スルノ權（市制第六十一條、町村制第五十七條）ヲ有シ、町村會ノ議長ハ仍傍聽禁止ノ權ヲモ有ス（町村制第五十二條）ルハ、各其ノ條下ニ述フルカ如シ。之ヲ要スルニ市町村會內部ニ關スルコトハ、市町村會自身ニ之ヲ處理スルノ主義ヲ取リ、議長ヲシテ之ヲ總理セシメタルナリ。然レトモ此ノ權利ハ本法ニ規定スル所ニ依ルヘキモノナルヲ以テ、帝國議會ニ於ケルカ如ク廣汎ナルモノニ非スシテ、議員ハ議場內ニ於テモ其ノ犯罪行爲ノ爲逮捕セラルルコトアルヘキハ勿論ナリトス。

市制第五十八條　町村制第五十四條　議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス
議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

議員ノ言動ニ對スル制限

議員ハ選舉人ニ依リテ選舉セラルルヲ以テ、通俗ニハ議員ヲ以テ選舉人即チ人民ノ代表者ノ如ク言說スト雖、選舉人ハ最モ市町村ノ行政ニ參與セシムルニ適當ナル者ヲ選フノ權能ヲ有スルニ過キスシテ、自己ノ利益ヲ代表セシメ得ルモノニ非ス。從ツテ議員ハ獨立ニ自己カ市町村ノ公益ヲ增進スルニ最善ナリト信スル所ニ向テ行動セサルヘカラス。兩者ノ間ニハ全ク代理代表ノ觀念ヲ入ルルノ餘地ナキナリ。之レ明白ナル法理ナリト雖、茲ニ誤解ヲ防カムカ爲ニ議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラサルコトヲ規定セルナリ。此ノ規定アルカ爲ニ選舉人以外ノ者ヨリ指示又ハ委囑ヲ受クルモ、法

ノ禁スル所ニ非スト解スヘカラサルハ勿論ナリ。

議員カ其ノ職務ヲ行フニ當リテハ、公明正大ニ其ノ所信ヲ披瀝スレハ足ル。無禮ノ語ヲ用ヰ、又ハ他人ノ身上ニ渉リテ所謂人身攻擊ヲ恣ニスルカ如キハ、其ノ職權ヲ行フ上ニ於テ必要ナキノミナラス、却テ議員ノ品位ヲ害シ議場ノ秩序ヲ紊シ、延イテ市町村會ヲ輕ンセシムルノ結果ヲ生スルヲ以テ之ヲ禁止セルナリ。無禮ノ語ノ何タルカハ常識ニ依リテ之ヲ判斷スルノ外ナシ。本項ニ違反スル者アル場合ニ於テハ議長ハ次條ノ規定ニ依リ、之ヲ處置スルコトヲ得ルモノトス。

議場ノ秩序ヲ保持スルニ付議長ノ議員ニ對シテ有スル權利

市制第五十九條
町村制第五十五條　會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

議場ノ秩序ヲ保持スルノ權ハ、市制第五十七條及町村制第五十三條ニ依リ議長ニ屬ス。本條ハ議長カ秩序ノ保持ニ付、執ルコトヲ得ヘキ手段ヲ規定セルモノニシテ、市制第五十七條及町村制第五十三條ト相待テ其ノ效果ヲ完ウスルモノナリ。議長ハ會議中ニ於テ本法又ハ會議規則ニ違反スルカ如キ議員アリ、又ハ暴行喧騷其ノ他如何ナル言動タルヲ問ハス、議場ノ秩序ヲ紊スカ如キ議員アルトキハ、之ヲ制止スルコトヲモ得ヘク、又ハ發言ヲ取消サシムルコトヲモ得ヘシ。而シテ此等ノ場合ニ於テ議長ノ命スル所ニ從ハサルトキハ、更ニ進ミテ其ノ日ノ會議ヲ終ル迄全ク其ノ議員ノ發言スルコトヲ禁スルコトヲ得ヘク、又ハ之ニ議場外ニ退去スルコトヲ命スルコトヲ得ヘク、仍到底口說ヲ以テ之ヲ抑制スルコト能ハサル場合ニハ、其ノ必要ニ應シテ警察官吏ノ處分ヲ要求シ、實力ヲ以テモ之ヲ抑制スルコトヲモ得ルナリ。議長カ以上ノ如キ手段ニ依リテ秩序ヲ保持セムトスルモ、多數ノ議員秩序ヲ紊ルノ行動ニ出テ、議場爲ニ騷擾ヲ極メ、到底制止ノ效ナク、之ヲ整理スルニ由ナキニ至リタルトキハ、一時其ノ日ノ會議ヲ中止シテ騷擾ノ止ムヲ待チテ新ニ會議ヲ開クコトヲモ得ヘク、又ハ全然當日ノ會議ハ之ヲ閉チテ之ヲ後日ニ讓ルコトヲモ得ヘキナリ。此ノ如ク議場ヲ整理シテ秩序ヲ保持スルノ權ハ、議長ニ專屬スルヲ以テ議員又ハ臨場ノ監督官吏ト雖、如何ナル場合ニモ自ラ他人ヲ抑止スルノ權ナキヤ勿論ナリ。

冗長ノ發言

會議規則ヲ以テ議長ニ冗長ノ發言ヲ制止スルノ權ヲ與ヘタル場合ニ議員議長ノ制止ニ從ハサルトキハ議長ハ本條ノ處置ヲ取ルヲ得ルカ。本條ニハ「本法又ハ會議規則ニ違ヒ、其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス云々」ト規定シ、會議規則ニ違反スルコトハ其ノ如何ナルモノタルヲ問ハス、直ニ之ヲ議場ノ秩序ヲ紊スモノトシテ看ルヲ以テ、勿論議長ハ本條ノ規定ニ依ルコトヲ得ルナリ。

最後ニ注意スヘキハ本條ノ規定ニ依リ會議中發言ヲ禁止セラレタル議員ハ唯發言ヲ禁止セラレタルニ過キサルヲ以テ、之ヲ出席數ニ算入スヘキハ勿論、議決ニ加ハリ又、投票ヲモ行フヲ得ルナリ。之

ニ反シ退場ヲ命セラレタル者ハ之ヲ出席ノ數ニ算入スルコト能ハサルハ言ヲ俟タス。

市制第六十條　町村制第五十六條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ渉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議長ノ傍聽人ニ對スル權

本條モ亦議場ノ秩序保持ニ關スル規定ナリ。議場ノ秩序ヲ紊スモノハ獨リ議員ノ言動ニ依リタル場合ノミニ非スシテ、傍聽人ノ言動ニ依ルコトアリ。傍聽人ニ公然可否ノ言辭ヲ發シ、又ハ喧騷ニ渉ル等會議ノ妨害ト爲ルヘキ行爲アリタルトキハ、議長ハ之ヲ制止スルコトヲ得ヘク、若シ其ノ制止ノ命令ニ從ハサルニ於テハ、之ニ退場ヲ命スルコトヲ得ルナリ。而シテ仍實力ヲ用フルノ必要アルトキハ、警察官吏ノ處分ヲモ要求スルコトヲ得。又單ニ一二ノ傍聽人ノミナラスシテ傍聽席一般ニ騷擾シテ議場ノ秩序ヲ紊ル場合ニハ議長ハ傍聽人ヲ悉ク退場セシムルコトヲ得ヘク、此ノ場合ニ於テモ亦必要ニ應シ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得ルナリ。

市制第六十一條　町村制第五十七條　市町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

市町村會ノ書記

市町村吏員ニ非ス

議長ハ會議ヲ總理スルヲ以テ、市町村會ノ内部ニ關スル事務ハ議長之ヲ處理セサルヘカラス。然モ之レ獨力ヲ以テ爲シ能ハサルハ言ヲ俟タサル所ナルヲ以テ、本條ニ於テハ市町村會ニ書記ヲ置キ、議長ニ屬シ其ノ指揮監督ヲ受ケテ庶務ヲ處理セシムルコトヲ規定セリ。而シテ市町村會内部ノ事務ハ議長ヲシテ之ヲ行ハシムルノ主義ヲ貫キ、其ノ任免ハ之ヲ議長ニ一任セリ。舊法ニ於テハ市會ノ書記ハ市會之ヲ選任シ、町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任セシモ、之ヲ區別スルノ必要ヲ見サルヲ以テ改正法ニ於テハ之ヲ一樣ニセリ

市町村會書記ニ關スル規定ハ極メテ簡單ニシテ諸種ノ點ニ於テ明瞭ヲ缺クモノアリ。蓋シ市町村會書記ノ執ル所ノ事務ハ、市町村ノ事務ニ外ナラサルヲ以テ、其ノ性質ハ之ヲ廣義ノ市町村吏員タルモノト解セサルヘカラス。然レトモ本法ニ於テ市町村吏員ト稱スルハ市制第四章及町村制第三章ニ規定スルモノノミヲ指稱シ、其ノ他ノ者ニ付テハ特ニ之ヲ明言セルヨリ見レハ（市制第百六十四條　町村制第百四十四條）國家カ法令中ノ官吏ナル文字ニ必スシモ觀念上國家ノ官吏タル者全部ヲ包含セシメサルト同シク、本法中ノ市町村吏員ニモ亦市町村會書記ノ如キハ之ヲ包含セシメサルモノト解セサル能ハス。從テ市制第八十九條及町村制第七十三條ノ規定ノ適用ヲモ受ケサルヘク、結局市町村會書記ノ懲戒ハ之カ任免權ヲ有スル議長ニ於テ事實上戒飭又ハ免職ヲ爲スノ外ナク法律ニ依ル譴責過怠金ノ如キハ之ヲ科スルコトヲ得サルナリ。又市制第百五條第百

六條及町村制第八十五條第八十六條ノ規定モ適用セラレサルヘク、給料額等ノ如キハ何人カ之ヲ定ムヘキカハ稍疑ナキニ非サルモ、別ニ規定ナキ限リハ豫算ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ヘク、若シ特ニ之ヲ定ムルトセハ市町村會ニ於テ之ヲ定ムルモノト解スヘキカ如シ。但シ其ノ議決又ハ豫算ノ範圍內ニ於テ現實ニ給與ノ額ヲ定ムルハ固ヨリ議長ノ職權ノ範圍內ニ在ルヘキナリ。退隱料遺族扶助料等ニ至リテモ必スシモ條例ヲ以テ規定スルノ要ナシ。市制第百七條及町村制第八十六條ノ規定ニ依ル給料其ノ他ノ異議ニ付テハ法ハ市制第五章及町村制第四章ニ掲クル者ニ關シテノミ規定セルカ如キモ唯關係者ナル文字ヲ用ウルニ過キサルヲ以テ市町村會書記モ亦之ヲ包含スルモノト解スル餘地アルカ如シ。市町村會書記ハ議長ノ任免スル所ナルモ、一旦任命セラレタル以上ハ其ノ議長ノ辭職ヲ以テ失職スルノ理由ナキハ勿論ナルモ、市町村會議員ノ任期滿了又ハ解散ノ場合ニ當然其ノ職ヲ失フモノナルヤ否ヤニ付テハ議論必シモ一致セス。或ハ市町村吏員ト異ナリ此ノ際當然失職スルモノト解スル者アルモ、余輩ハ特ニ期間ヲ定メテ任命セル場合ノ外ハ當然失職スルノ至當ナルヲ信ス。市町村會書記ハ之ヲ市制第八十五條及町村制第七十一條ノ市町村吏員ヲシテ兼ネシムルモ固ヨリ妨ナキナリ。

書記ハ吏員ヲシテ兼ネシムルヲ得

市制　第六十二條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

町村制　第五十八條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

市町村會ノ會議錄

會議錄調製ノ時期

署名議員

本條ハ市町村會ノ會議錄ニ關スル規定ナリ。市町村會ノ議決ハ市町村ニ於テ極メテ重要ナルヲ以テ、其ノ經過ヲ明白ニ記載シテ後日ノ證據ト爲スノ必要アリ。故ニ法ハ議長ヲシテ書記ヲ指揮シ會議錄ヲ調製シ、會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシム。且其ノ正確ヲ保タシムカ爲、議長ト市町村會ニ於テ定メタル議員二人以上カ之ニ署名スルコトヲ必要トセリ。會議錄ハ日々之ヲ調製セシムヘキモノナルヤ、又ハ數日若ハ一會期ノ末ニ一括シテ之ヲ調製スルモ可ナルヤハ、法ニ何等ノ規定ナキヲ以テ便宜ノ方法ニ依ルヲ得ルモノト解スヘシ。署名スヘキ議員ハ二人以上何人ニテモ之ヲ市町村會ニ於テ定メ得ヘク、其ノ署名モ二人以上ノ署名アルモ妨ケサル所ナルモ、苟クモ二人以上ノ署名アルトキハ足ルヲ以テ市町村會ニ於テ定メタル署名議員ノ全部カ之ニ署名スルノ要ナキナリ。署名議員ハ每日之ヲ定ムルト、一會議每ニ之ヲ定ムルト、又ハ議員ノ任期間之ヲ定ムルトハ問フ所ニ非ス。署名議

員中途退席シタルトキ更ニ之ヲ定ムルモ固ヨリ妨ケス。之ヲ定ムルノ方法モ法ハ選擧ヲ要件トセサルヲ以テ如何ナル方法ニ依ルモ可ナリ。指名ニ依ルト選擧ニ依ルトヲ妨ケス。其ノ之ヲ選擧スルニ當リテモ必スシモ市制第五十五條及町村制第五十一條ニ依ルノ必要ナキナリ。舊法ニ於テハ會議ノ末朗讀スルヲ要セシモ、改正法ハ之ヲ削除セルヲ以テ、出席ノ議員ニ之ヲ知ラシムルコトナクシテ、唯議長及署名議員ノ署名スルヲ以テ足レリトス。

會議錄ノ證據力

會議錄ハ議決ノ要件ニ非スシテ一ノ證據書類ニ過キサルヲ以テ、全ク會議錄ヲ調製セサルカ會議錄調製ニ付議長又ハ議員ノ署名ナカリシ等手續ノ欠缺アリテ正當ノ會議錄ト見ルヘカラサルコトアルカ、又ハ會議錄ノ記載スル所ニ錯誤脫漏アルモ議決ソレ自體ニ於テ欠缺ナキ以上ハ正當ナル議決トシテ成立スヘク、毫モ之カ爲ニ議決效力ニ影響ヲ與フルコトナキナリ。然レトモ既ニ證據書類タル以上ハ市町村會ノ議決ノ方法其ノ議事錄ニ徵シテ正當ナルトキハ、他ノ反證ナクシテ直ニ議決ノ違法ナルコトヲ主張シ能ハサルハ勿論ナリ。

會議ノ結果ノ報告

町村會ハ町村長又ハ其ノ代理者ヲ議長トスルニ依リ會議錄ノ報告ヲ要セサルモ、市會ニ於テハ議長ハ會議錄ヲ添ヘテ會議ノ結果ヲ市長ニ報告セサルヘカラサルナリ。舊法ニ於テハ謄本ヲ添附スルコトヲ許セルモ、改正法ニ於テハ必ス正本ヲ以テスヘキコトトナレリ。町村會ニ於テ町村長ニ報告ヲ爲ササルハ、平常ノ場合ニ於テハ支障ヲ見サルモ年長者カ議長タル場合ニ別ニ規定ヲ設ケサルハ立法ノ缺點ト謂フヘキナリ。

解散ノ場合ノ會議錄

市町村會ノ解散ノ場合ニ於テハ議長及議員皆在ラサルヲ以テ會議錄ヲ調製スル能ハサルハ蓋已ムヲ得サルナリ。

（判例）

一　訴願ノ裁決ニ係ル村會議事錄ニ調査委員ノ報告ヲ記セス又村會議決ノ景況ヲ記シタルモノナキモ該手續ノ如キハ法律上別段ノ規定ナキノミナラス選擧ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニアラス（二六、一二、一六行判）

二　村稅賦課ニ關スル村會議決ノ方式其ノ議事錄ニ徵シテ正當ナルトキハ之ヲ違法ト云フヲ得ス（三〇、三、一六行判）

三　町村會ノ議事錄ノ署名者ヨリ其署名取消ノ申出アリタルニ拘ラス町村長カ之ヲ取消サスシテ監督官廳ニ對シ提出シタルハ不當ノ處置ナリ（三一、一一、六行判）

會議規則及傍聽人取締規則

市制　第六十三條　市町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

町村制　第五十九條　市町村會ノ議決ニ依リ三日以內出席會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市町村會ノ議決ニ依リ三日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルニトヲ得

市町村會ノ內部ニ關スルコトハ自ラ之ヲ處理セシムルノ主義ニ基キ、本法ニ規定スル以外會議ニ必要ナル事項ハ市町村會ヲシテ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ之ヲ規定セシム。會議規則及傍聽人取締規則ハ市町村會必ス之ヲ設ケサルヘカラス。蓋法ニ規定スル所ノモノハ唯大綱ニ過キス、之ノミヲ以テ到底會議ヲ實際ニ進捗スルコト能ハサレハナリ。而シテ此等ノ規則ハ全ク市町村會ノ議決ニ一任

會議規則ノ制裁

スルモノニシテ、何等監督官廳ノ認可ヲ要セサルナリ。會議規則及傍聽人取締規則カ本法又ハ其ノ他ノ法律ニ違反スルノ規定ヲ設クル能ハサルハ明カナルモ、命令ヲ以テ會議規則及傍聽人取締規則ヲ制限スルコトヲ得ルカ。顧フニ本法カ會議ニ關スル事項ニ付特ニ市町村會ヲシテ此等ノ規則ヲ定メテ之ニ依ラシメタルハ其ノ趣旨他ノ命令ヲ以テ規定スルコトヲ許サス、全ク市町村會ニ一任セムトスルニ在ルモノニシテ命令ヲ以テ之ヲ左右スルコト能ハサルモノト解スヘシ。其ノ他會議規則ニハ會議ニ關セサル他ノ事項ヲ規定スル能ハサルハ勿論ニシテ、此ノ如キ事項ハ假令之ヲ規定スルモ全ク始メヨリ效力ナキナリ。

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ、市町村會ノ議決ニ依リ。三日以內出席ヲ停止シ、又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スルノ規定ヲ設クルコトヲ得。此等ノ制裁ハ議員タル者ニ科スルモノナルカ故ニ一旦議員ノ職ヲ退キタル者ニハ之ヲ科スルコトヲ得ス。退職屆ヲ提出シタル議員ニ付テモ亦然リ。蓋名譽職ハ辭意ヲ表ホスルニ依リ直ニ退職スルモノナレハナリ。而シテ制裁ヲ加フルヲ得ルハ本法又ハ會議規則ニ違反シタル者ニ限ルヲ以テ假令如何ニ懲戒ニ值スルノ行爲ト雖本法又ハ會議規則ニ違反セサル者ニ科スルノ規定ヲ設クルヲ得サルナリ。又會議規則ノ性質上會議以外ノ行動、例ヘハ會場外ニ於テ、議員ノ品位ヲ損スルノ行動アリタル者ニ此等ノ制裁ヲ科スルカ如キ規定ヲ設クルヲ能ハサルハ言ヲ俟タス。之ヲ科スルニ當リテハ必ス市町村會ノ議決ヲ經サルヘカラス。故ニ之ヲ議

傍聽人取締規則ト議事公開ノ原則

會議規則及傍聽人取締規則ノ發案權

長ニ一任スルカ如キ規定ヲ設クルヲ得ス。最後ニ注意スヘキハ此ノ議決ニ當リテハ其ノ制裁ヲ科セラルヘキ議員ハ市制第五十四條及町村制第五十條ニ依リ議事ニ參與スルヲ得サルコト之ナリ。

傍聽人取締規則ニハ固ヨリ何等ノ制裁ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得サルモ或ル種ノ人、例ヘハ精神病者、泥醉者、未成年者等ニ傍聽ヲ禁止スルノ規定ヲ設ケ、又ハ傍聽人カ入場スルニ當リテハ兇器ヲ持スル能ハサルカ如キ一定ノ制限ヲ守ルヘキコトヲ定ムルモ固ヨリ市町村會議事公開ノ性質ニ反セサルナリ。

會議規則及傍聽人取締規則共ニ其ノ性質上市町村會ニ於テモ之カ發案權ヲ有スルモノト解スヘキハ前ニ之ヲ述ヘタル所ノ如シ。

（判　例）

一　本條ノ如キ事項ニ付テハ市會モ亦發案權ヲ有ス（二八、九、一四行判）

市制第三章　市參事會

本章ハ市參事會ニ關スル規定ニシテ改正法中最モ重要ナル部分ナリ。舊法ニ於テハ町村ノ執行機關ハ町村長之ニ當リ獨任制ヲ採レルモ、市ニ於テハ市參事會ヲシテ之ニ當ラシメ合議制ヲ採レリ。之レ實ニ市ト町村トノ制度ノ主要ナル差異ナリシナリ。然ルニ改正法ニ於テハ市參事會ナル名稱ハ之ヲ存

スルモ、全ク其ノ性質ヲ變シテ純然タル議決機關タルコト仍府縣參事會ノ如クシ、執行機關ハ町村ト同シク市長ヲシテ之ニ當ラシムルコトト爲セリ。其ノ理由トスル所ハ從來ノ實驗ニ基キ、主トシテ事務ノ敏活ヲ期セムトスルニ在リ。抑市ノ執行機關トシテ合議制ヲ採ルヘキカ、又ハ獨任制ヲ採ルヘキカハ一概ニ之ヲ論斷スルコト能ハス。其ノ國民ノ氣風ト其ノ社會ノ實狀トニ照シテ之カ適否ヲ定ムルノ外ナシ。之ヲ外國ノ例ニ見ルモ獨逸ノ諸國ハ概シテ執行機關ヲ合議制トシ、佛國ニ於テハ獨任制ニ依ル。我邦ニ於テハ市參事會ヲ以テ執行機關タラシムルコトカ市政不振ノ一大原因タリトシテ論議セラレタル結果、此ノ改正ヲ見ルニ至レルナリ。其ノ果シテ所期ノ效果ヲ擧ケ得ルヤ否ヤハ之ヲ今後ノ實際ニ徵スヘキノミ。

市參事會ハ市會ト同シク議決ノ機關ナリ。然レトモ其ノ權限ハ市會ノ如ク廣汎ナルモノニ非スシテ、市會ノ補充機關タルノ用ヲ爲スモノナリ。特ニ之ヲ市ニ置クハ蓋市ノ事務ハ複雜ナルヲ以テ屢市會ヲ開クノ煩累ヲ避クルト、細目ノ議決ニ付テハ稍專問的ノ知識ヲ有スルモノヲシテ之ヲ議セシメムトスルニ在リ。

市制第一款　組織及選擧

本款ハ參事會ノ組織及其ノ選擧ニ付テ規定セリ。參事會ニハ其ノ職務ノ關係ニ依リ、當然參事會員タル者ト選擧ニ依リテ參事會員タルモノトアリ。故ニ其ノ選擧ニ付テ特ニ規定ヲ設ケタルナリ。

市制　第六十四條　市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　市長
二　助役
三　名譽職參事會員

前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス

本條ハ市參事會ノ組織ニ付テ規定セリ。市參事會員ハ左ノ者ヲ以テ之ヲ組織ス。

一、市長　市長ハ其ノ職務上當ニ當然參事會員トシテ議事ニ參與ス。舊法ニ於テハ市長ハ同シク參事會員タリシモ執行機關タル市參事會ノ一員トシテ之カ議長トナリ、市參事會ヲ代表シ、市政一切ノ事務ヲ指揮監督シタリ。改正法ニ於テハ市長ハ議決機關タル市參事會ノ一員トシテ之カ議長トナリ、市參事會ヲ代表スルト同時ニ獨任制ノ執行機關トシテ市ヲ統轄シ市ヲ代表スルコトトナレリ（市制第六十六條、第七十一條、第八十七條）。

二、助役　助役ハ市長ヲ補助スルノ機關ニシテ其ノ職務上亦當然參事會員トシテ議事ニ參與ス。助役ハ二人以上ヲ置ク場合ニ於テモ悉ク皆當然參事會員タルナリ（市制第七十二條、第九十六條）。

三、市參與　市參與モ亦其ノ職務上當然參事會員タル者ナレトモ、前二者ト其ノ趣ヲ異ニシ、稍變體

ニ屬スルモノナリ。市參與ハ何レノ市ニ於テモ之ヲ置クモノニ非サルカ故ニ、市參事會ノ構成分子トシテ常ニ存スルモノニ非ス。甲ノ市ニ於テハ參事會員中ニ市參與ヲ有スルモ、乙ノ市ニ於テハ之レナキ場合ヲ生スルナリ。又市參與ハ後ニ說明スルカ如ク市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任スル者ナルカ故ニ、市行政ニ關スル權限ハ市長助役ノ如ク一般的ナラス。故ニ其ノ擔任事業ニ關スル議事ニ限リ之ニ參與シテ參事會員タル職務ヲ行ハシムルモ、其ノ他ノ議事ニ付テハ全ク會議ニ列セシメサルナリ。但シ市長ノ委任ニ依リ議事ニ參與スル場合ナキニ非サルモ、此ノ場合ニ於テハ、市參事會員タルノ職務ヲ行フモノニハ非スシテ之カ議決ニハ加ハルヲ得サルナリ。市參與ハ名譽職タルヲ原則トスルモ、茲ニ所謂名譽職參事會員ニ非ルハ勿論ナリ（市制第七十一條、第七十二條、第七十四條、第九十五條）。

四、名譽職參事會員　名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ選擧スルモノナリ（市制第六十五條）。舊法ニ於ケル名譽職參事會員ハ助役ト共ニ市長ヲ補助セルモ、改正法ニ於テハ單純ナル議決機關ノ一員タルニ過キサルナリ。

名譽職市參與ト名譽職參事會員トハ之ヲ兼ヌルコトヲ得ルカ。蓋名譽職市參與ハ當然參事會員タル者ナルカ故ニ、參事會員タル市參與カ更ニ名譽職參事會員ヲ兼ネ又ハ名譽職參事會員タル者ヲ更ニ參事會員タル市參與ヲ兼ネ得ルノ理ナク、何レカ一方ヲ辭スルニ非サレハ後ノ當選ハ無效タルヘキモノナリト信ス。

（增）

名譽職參事會員ノ定數

市制　第六十五條　名譽職參事會員ノ定數ハ六人トス但シ第六條ノ市ニ在リテハ市條例ヲ以テ十二人迄之ヲ增加スルコトヲ得

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ其ノ選擧ニ關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中闕員アルトキハ直ニ補闕選擧ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル但シ市會議員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ後任名譽職參事會員選擧ノ日迄在任ス

市長助役及市參與ハ當然參事會員タル者ニシテ、其ノ參事會員タルノ資格ハ其ノ職ト相終始スルヲ以テ別ニ規定ヲ要セス。即チ本條ニ於テハ名譽職參事會員ノ定數、選擧及任期ニ付テ規定セリ。

名譽職參事會員ノ定數ハ六人トス。但シ第六條ノ市即勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ市條例ヲ以テ規定スル場合ニハ十二人迄之ヲ增加スルコトヲ得。蓋此等ノ市ハ其ノ區域モ廣濶ニシテ事務モ多端ニ、市會議員ノ數モ亦多キヲ以テ此ノ特例ヲ設ケタルナリ。始メ政府ノ原案ニ於テハ普通ノ市ヲ六人トシ第六條ノ市ヲ八人トシ條例ヲ以テ例外ヲ設クルコトヲ許ササリシモ議會ニ於テ此ノ如ク修正セリ。舊法ニ於テハ普通ノ市ハ六人、京都大阪ノ兩市ハ各九人トシ、何レノ市ニ於テモ條例ヲ以テスルトキハ之ヲ增減スルコトヲ得シメタルモ、改正法ニ於テハ普通ノ市ニ於テハ六人ヲ增減ス

ルコトヲ得ス、第六條ノ市ト雖、之ヲ減スルコトヲ得サラシメタリ。之レ執行機關タルト議決機關タルトニ依リ自ラ規定ヲ異ニセルナリ。

名譽職參事會員ハ市會議員中ヨリ市會ニ於テ之ヲ選擧ス。舊法ニ於テ年齡三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル公民中ヨリ選擧セシメタルモノト異ナリ、府縣制郡制ノ例ニ倣ヒタルハ、議決機關トシテ市會ノ補充機關タル作用ヲ爲サシムルカ爲ナリ。本條ノ選擧ハ市制第五十五條ニ所謂本法中別段ノ規定アルモノニ屬ス。故ニ同條ニ依ラスシテ市制第二十五條、第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ、全ク市會議員選擧ノ例ニ依レリ。即チ第二十五條ヲ準用スルノ結果、其ノ第一項ニ依リ無記名投票ヲ以テスヘク、第二項ニ依リ投票ハ一人一票ニ限ルヘク、第五項ニ依リ自ラ被選人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘク、第六項ニ依リ被選人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ササルヘク、第七項ニ依リ市長ノ定ムル所ノ一定ノ投票用紙ヲ用フヘキナリ。第三項第四項第五項但書第八項及第九項ハ準用ナシ。第二十八條ヲ準用スル結果第一項ニ依リ投票ニ付テハ成規ノ用紙ヲ用キサルモノ、現ニ名譽職參事會員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ、一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ、被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ及爵位職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ除クノ外被選擧人ノ氏名外ノ他事ヲ記入シタルモノハ無效投票トナルヘシ。第二項ノ準用ナキハ單記投票ノ性質上言ヲ俟タサル所トス。第三十條ヲ準用スルノ結果ハ第一項ニ依リ有效投票ノ最多數ヲ得タル者當選者トナル。即チ比較多數ヲ得タル者當選者タルヘク、若シ得票數同シキ者ヲ生シタルトキハ第二項ニ依リ年長者當選者トナリ、年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ムルコトトナルナリ。而シテ投票ニ付異議ヲ生シタルトキハ、本條ニ依リ市會ニ於テ之ヲ決定ス。此ノ決定ニ付テハ異議ノ申立又ハ訴願訴訟ヲ許スノ明文ナキカ故ニ、監督官廳又ハ市長カ市制第九十條ノ處置ヲ取ルノ外他ニ救濟ノ途ナキナリ。

名譽職參事會員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

名譽職參事會員ノ選擧

準用ノ範圍

補闕選擧

名譽職參事會員中ニ闕員ヲ生シタルトキハ直ニ補闕選擧ヲ行ハサルヘカラス。故ニ市長ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ取ルヲ要スルナリ。而シテ名譽職參事會員ハ死亡辭任ノミナラス市會議員タル資格ノ消滅ニ依リテモ退職者ト爲ル法ハ選任ノ際ニ市會議員タルヲ必要トスルニ止マラスシテ市會議員任期滿了ノ場合ヲ除クノ外ハ（未條第三項）在職ノ間市會議員タルヲ要ストスルナリ。補闕選擧モ亦選擧ナルヲ以テ前項ノ選擧方法ニ依ルハ勿論ナリ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル。茲ニ「依ル」ト謂フハ四年トスルノ意ニ非ス。市會議員ノ任期ト相終始スルノ意ナリ。故ニ市會議員タルノ任期滿了ト共ニ名譽職參事會員ノ任期モ亦滿了スルナリ、然レトモ市參事會ハ市會ト異ナリ、細目ノ事項ヲ議決スルヲ以テ自然頻繁ニ開會スルコトヲ要シ長ク之ヲ闕ク能ハサルノ理由アルヲ以テ、特ニ市會議員任期滿了ノ場合ニ於テハ後任者選擧ノ日迄在任スルコトト爲セルナリ。市會カ解散ヲ命セラレタルトキ、又ハ名譽職參事會員カ總辭職

名譽職參事會員ノ任期

現ニ名譽參事會員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルル投票ノ效力

ヲ爲シタルトキハ、同シク市參事會ヲ開ク能ハサルモ、此ノ場合ニハ該當セス。蓋前ノ場合ニ在リテハ解散セラレタル市會議員ヲ參事會員トシテ就職セシムルハ甚タ穩當ヲ闕ク場合多カルヘク、後ノ場合ニ在リテハ市會ヲシテ直ニ後任者ヲ選擧セシムルコトヲ得ヘキヲ以テ特例ヲ設ケサリシナリ。

名譽職參事會員ハ市會議員ノ任期滿了ノ場合ト雖、後任者選擧ノ日迄在任スルヲ以テ市會定期改選ノ場合ニ於テハ新ニ名譽職參事會員ヲ選擧スルニ當リテハ多クノ場合ニ於テ其ノ市會議員中現ニ名譽職參事會員タル市會議員ノ氏名ヲ記載スルノ投票ハ第二十八條第一項第二號ヲ準用スル結果無效投票ト爲ルヘキカ。換言スレハ市會議員定期改選ノ場合ニ於テハ市參事會員ハ再選セラルルヲ得サルカ如キモ余輩ハ此ノ如キ投票ハ之ヲ無效ト爲スヘキモノニ非スト解スルノ至當ナルヲ信ス。第二十八條第一項各號ニ揭クル所ノ無效投票中ニハ其ノ性質上當然無效タルヘキモノニシテ法ハ唯之ヲ宣言スルニ過キサルモノト、法ノ規定ヲ俟ツテ初メテ無效タルヘキモノトアリ。而シテ第二號ノ如キハ第四號及第五號ト共ニ實ニ前者ニ屬スルモノナリ。故ニ之カ準用ヲ爲スニ當リテモ宜シク法ノ趣旨ヲ解釋シテ之カ爲投票ノ當然無效タル場合ニ限リ之ヲ準用セサルヘカラス。此ノ際ニ於ケル名譽職參事會員ハ後仕者ノ選擧ト共ニ退職スルモノナルヲ以テ性質上其ノ選擧ト兩立シ得サルモノニ非ス。從テ此ノ如キ投票ヲ無效トスルハ決シテ當然ノ宣言ト見ルヘキモノニ非ス。故ニ法カ現ニ名譽職參事會員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタル投票ヲ無效トスルハ此ノ如キ場合ニ準用セシメムトスルニ非スシテ增員選擧又ハ補闕選擧ノ場合ニ適用セシメムトスルモノト解スヘキナリ。

市參事會ノ議長

市制　第六十六條　市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス

本條ハ市參事會ノ議長及其ノ代理ニ付テ規定ス。市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス。市長故障アルトキハ、市長代理者之ヲ代理ス。市長カ市參事會ニ於ケル關係ハ恰モ町村長カ町村會ニ於ケルト相同シ。故ニ本條ノ解釋ハ町村制第四十五條ヲ參照スレハ自ラ明白ナルヘキヲ以テ茲ニハ之ヲ反覆セス。

市長及市長ノ代理者共ニ故障アルトキハ何人ニ於テ之ヲ代理スヘキカ。余輩ハ此ノ場合ニ於テハ議長及其ノ代理者ナキヲ以テ、市制第七十條第一項ニ依リ會議ヲ開クコトヲ得サルモノト信ス。蓋市制第四十九條第七十條及町村制第四十五條ノ如キハ明カニ年長議員又ハ年長會員ノ代理スヘキ場合ヲ規定セルヲ以テ、法カ特ニ茲ニ之ヲ規定セサルハ偶然ノモノト謂フコト能ハス。纔テ之ヲ市參事會ノ成立ニ見ルモ執行機關タル分子ト議決機關タル分子トヲ集メテ特殊ノ議決機關ヲ構成セシメタリ。故ニ其ノ何レカ一方ヲ缺クトキハ此ノ如キ構成ヲ採レルノ趣旨ヲ沒却スルニ至ルヘシ。市制第七十條ノ場合ノ如ク到底他ニ會議ヲ開クノ途ナキモノハ格別、本條ノ如ク一時ノ現象ニ過キサルモノハ寧ロ不便ヲ忍ヒテ之ヲ後日ニ讓ルノ至當ナルヲ覺ユルナリ。況ンヤ其ノ極メテ稀有ノ場合タルオヤ。

市　制第二款　職務權限

前款ニハ市參事會ノ組織ニ付テ規定セルヲ以テ、本款ハ之ニ次キ其ノ如何ナル職務ノ範圍ヲ有スルカヲ規定ス。市參事會ハ既述ノ如ク議決ノ機關ナリ、其ノ職務ノ範圍ハ法ノ明示スル所ニ限リ主トシテ市會ノ補充機關タルノ作用ヲ爲スモノニシテ、市會ノ如ク其ノ權限ニ付廣キ推定ヲ受クルモノニ非サルナリ。

市參事會ノ職務權限

市會ノ委任ヲ受ケタル事項

市　制　第六十七條　市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二　市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事

三　其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

本條ニハ市參事會ノ職務權限ヲ規定ス。市參事會ハ市會ト同シク議決機關ナルモ其ノ權限ハ概括的ニ非サルコトハ既述ノ如シ。市參事會ノ權限ニ屬スルモノヲ分チテ三ト爲ス即チ左ノ如シ。

一　市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

市制第四十三條ハ市會カ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任シ得ルコトヲ規定セリ。本條ハ之ト相表裏シテ同一事ヲ二方面ヨリ規定セルニ過キサルヲ以テ玆ニ之ヲ再言セス。唯一ツノ事件

市會ニ提出スヘキ議案ニ對スル意見ノ陳述

カ果シテ市會ノ委任ノ範圍内ナルヤ否ヤニ付テ疑問ヲ生スルトキハ、結局市會ノ解釋スル所ニ從ハサルヘカラサルモ、市會カ委任シタル事件カ果シテ市會ノ權限内ニ屬スル事件ニシテ、從テ市參事會カ議決セサルヘカラサルヤ否ヤノ疑ヲ生シタルトキハ、市參事會ハ獨立ノ解釋ニ依ルヘク、若シ市會ノ權限内ニ屬セスト認ムルトキハ之ヲ議決セサルコトヲ得ルナリ。

二　市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事

市制第八十八條ハ市長カ議案ヲ市會ニ提出スルニ當リテハ前ニ之ヲ市參事會ノ審査ニ付シ、其ノ意見ヲ議案ニ添付シテ市會ニ提出スヘキコトヲ命セリ、故ニ玆ニ之ヲ規定セルナリ。固ヨリ意見ニ過キサルヲ以テ何等市長又ハ市會ヲ束縛スルモノニ非サルナリ。又市會ハ發案權ヲ有セサルコト既述ノ如クナルヲ以テ市會ノ參考ニ供スル市參事會ノ意見モ亦新ナル事項ヲ追加スルコトヲ得ス。唯可否ヲ表スルカ又ハ市會職權ノ範圍内ニ屬スル修正意見ヲ附スルコトヲ得ヘキモノト解スヘキナリ。玆ニ議案ト謂フハ決算報告及選擧ヲモ包含スヘキカ。決算報告ニ付テハ單ニ文字ノ上ヨリ之ヲ見レハ疑ナキニ非サルモ市制第百四十二條第四項ノ規定ヨリシテ之ヲ議案ト見ルヲ至當トスヘク、選擧ニ付テハ玆ニハ之ヲ包含セサルモノト解スルノ外ナシ、選擧其ノ者ハ議案タラサレハナリ。

法令ニ依リ屬セシメタル權限

三　其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

本條ハ市參事會ノ議決ニ關スル權限ニ付テノミ規定スルモノニ非サルカ故ニ、玆ニ法令ニ依リ其ノ

權限ニ屬スル事件ト謂フハ議決ノミナラス、選擧ヲモ亦之ヲ包含スルモノト解セサルヲ得ス。又法令ト謂フヲ以テ法律ノミナラス、其ノ他ノ命令ヲ以テモ權限ヲ付與スルコトヲ得ルナリ。本法中市參事會ノ權限ニ屬セシメタルモノハ市ノ公益ニ關スル意見書ノ提出、行政廳ノ諮問ニ對スル答申（市制第七十一條）、市會ノ議決スヘキ事件ノ代決（市制第九十一條）、市長ノ專決處分ノ報告ヲ受クルコト（市制第九十二條）、報酬給料退隱料等ノ給與ニ關スル異議ノ決定（市制第百七條）、年度ヲ超ユル納稅延期ノ許可ニ關スル議決（市制第百二十八條）、市稅ノ賦課又ハ財產營造物ヲ使用スル權利ニ關スル異議ノ決定（市制第百三十條）、一時借入金ニ關スル議決（市制第百三十二條）ノ如キ之レナリ。從來他ノ法令ニ依リ市參事會ニ屬セル事件ハ、改正法ノ下ニ組織セラレタル市參事會ニ於テモ亦、其ノ權限ニ屬スヘキカ。蓋市參事會カ市ノ執行機關タル故ヲ以テ其ノ權限ニ屬セシメタルモノハ、改正法ニテハ執行機關タル市長ノ權限ニ屬スヘク、其ノ他ニ付テハ執行機關タリシ市參事會ノ權限ヲ、直ニ議決機關タル市參事會ニ屬スルモノト解スルハ甚タ理由ナキニ似タルモ、法カ市參事會ト明言セル以上ハ、其ノ改正ナキ限リ仍市參事會ノ權限ニ屬スルモノト解スルヲ至當ナリト云ハサルヘカラス。

市制　第六十八條　市參事會ハ市長之ヲ召集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ召集スヘシ

市參事會ハ市長之ヲ召集ス。市長ハ議長トシテ之ヲ召集スルニ非スシテ市長ノ名ヲ以テ召集スルナリ。而シテ市長ハ必要ノ場合ニ隨時之ヲ召集シテ可ナリト雖、名譽職參事會員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ、市長ハ必ス之ヲ召集セサルヘカラス。名譽職參事會員カ請求ヲ爲スニ當リテハ其ノ發案權ヲ有スル事項ニ限ルヘキハ市會ト同シ。其ノ他ノ說明ハ總テ市會ト同樣ナルヲ以テ市制第五十一條ヲ參照スヘシ。

市參事會ノ召集

市制　第六十九條　市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

市參事會ハ市會ト異ナリテ全ク之ヲ公開セス、如何ナル場合ニ於テモ之カ傍聽ヲ許ササルナリ。蓋其ノ理由ハ一ハ市參事會ノ議事ハ細目ニ亘ルモノ多ク、重要ノ度大ナラサルカ故ニ強テ公開セサルヘカラサルノ必要ナキト共ニ、秘密ヲ要スヘキモノ多キニ依ルヘク、一ハ府縣參事會郡參事會ノ例ヲ襲用セルニ依ルヘシ。然レトモ公開セサルハ一般人民ニ對スルモノナルヲ以テ監督官廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ臨場シ得ルモノト解スヘキハ市會ニ付テ述ヘタル所ノ如シ。

市參事會ノ傍聽禁止

サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除斥ノ爲名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

市參事會員ノ定員數

市參事會ハ其ノ組織市會ト異ナルヲ以テ、其ノ定足數ニ關スル規定モ亦自ラ異ナレリ。市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者ト名譽職參事會員定數ノ半數以上トカ出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス。故ニ議長又ハ其ノ代理者出席セサルカ又ハ名譽職參事會員ノ出席者其ノ定數ノ半數ニ滿タサルトキハ他ノ參事會員ハ全部出席スルモ會議ヲ開クコトヲ得サルナリ。之レ蓋市參事會ハ執行機關ト議決機關トノ分子ヲ加味シテ構成セルモノナルヲ以テ其ノ何レカ一方ヲ缺クトキハ會ノ性質ヲ沒却スルノ嫌アルニ依ルナルヘシ。然トモ此ノ原則ニハ例外アリ。

例外

第一ノ例外ハ名譽職參事會員ニ關スルモノニシテ(一)名譽職參事會員カ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付議事ニ參與スルコトヲ得サル爲其ノ定數ノ半數ニ滿タサルトキ、(二)同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其ノ定數ノ半數ニ滿タサルトキ、(三)召集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ、議長ニ於テ出席ヲ催告スルモ仍其ノ定數ノ半數ニ滿タサルトキハ、名譽職參事會員全部出席セサルモ仍會議ヲ開クコトヲ得ルノ條項ナルヲ以テ詳細ハ同條ヲ參照スレハ明白ナルヘシ。第二ノ例外ハ議長又ハ其ノ代理者ニ關スルモノニシテ、議長及其ノ代理者カ同時ニ自己又ハ前揭ノ親族ノ一身上ニ關スル事件ニ付除斥セラレタルトキハ、年長ノ名譽職參事會員カ議長ノ職務ヲ代理シテ會議ヲ開クコトヲ得ルナリ。但シ年齡同シキ者二人以上アルトキハ如何ナル方法ニ依ルヘキカ、法ニ規定ナキヲ以テ年長者ハ何レモ議長タルノ權利ヲ有スヘキモ此ノ如キハ稀有ニ屬シ若シ事實生シタルトキハ抽籤等便宜ノ方法ニ依ルヘキナリ。

市參事會員ノ除斥

以上二ノ例外ニ關シテ述ヘタルカ如ク、議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ、其ノ議事ニ參與スルコトヲ得サルナリ。然レトモ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シテ發言ノミハ之ヲ爲スコトヲ得。之レ市制第五十四條ニ規定スル所ト同樣ノ制限ナルヲ以テ之ヲ參照スヘシ。仍市制第九十一條第二項ニ於テハ、市參事會カ市會ノ代決ヲ爲ス場合ニ付、市制第百四十二條第四項ニ於テハ決算ノ報告ニ付、市長市參與及ヒ助役カ議決ニ加ハルコトヲ得サルノ規定アリ。此ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員ノミヲ以テ議決ヲ爲スヘキハ勿論ナ

ノ。

市制第七十一條　第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條並第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

市會ニ關スル條項ノ準用

前數條ニ述ヘタル以外ノ市參事會ノ權限ニ關シテハ本條ニ依リ概ネ市會ノ規定ヲ準用セリ。即チ(一)市參事會ハ市ノ公益ニ關シ意見書ヲ提出シ得ヘク(市制第四十六條)、又行政廳ノ諮問ニ答申スヘク(市制第四十七條)、市長及其ノ委任又囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シ發言シ得ヘク(市制第五十條)、市長ハ會期ヲ定メテ市會ヲ召集シ(市制第五十一條第二項)、又之ヲ閉閉スヘク(同第五項)、議事ハ過半數ヲ以テ決シ、議長裁決權ヲ有スヘク(市制第五十三條)、法律勅令ニ依リ選舉ヲ行フトキハ市會ニ於ケルト同一手續ニ依ルヘク(市制第五十五條)、議長ハ會議ヲ總理シ議事ヲ整理スルノ權、議場ノ秩序ヲ保持スルノ權及市參事會ヲ代表スルノ權ヲ有スヘク(市制第五十七條)、會員ハ選舉人ノ指示委囑ヲ受ケ又ハ無責ノ言等ヲ用フルヲ得サルヘク(市制第五十八條)、議長ハ議場ノ秩序ヲ紊ス議員ニ付テ處分ヲ爲シ得ヘク(市制第六十條第五項及第六十二條第二項)、市會ニ書記ヲ置キ議長ノ任免ニ依リ庶務ニ從ハシムヘク(市制第六十九條)、議長ハ會議錄ヲ調製セシムヘキナリ(市制第六十二條第一項及第二項)。

以上揭タル所ハ市會ニ關シテ詳說セルヲ以テ各條項ヲ參照スレハ自ラ明白ナルヘク更ニ說明ノ要ナシ。市制第四十四條ヲ準用セサルハ市制第六十七條第三號中ニ包含スルカ爲ニシテ、市制第四十五條ヲ準用セサルハ此等ノ權ヲ市會ニ與ヘタル以上ハ市參事會ニ更ニ之ヲ與フルノ必要ナキニ依ルヘク、市制第五十一條第三項及第四項ヲ準用セサルハ、既述ノ如ク特ニ告知ノ必要ナキト實際ノ不便トニ依ルヘク、市制第六十二條第三項ヲ準用セサルハ議長カ市長タルニ依リ。市制第六十三條ヲ準用セサルハ小ナル合議體ナルヲ以テ細密ノ手續ヲ定ムルノ要ナキニ依ル。第五十五條ノ準用ニ付テハ市參事會ハ命令ヲ以テモ選舉ヲ命セラルルコトアルモ其ノ選舉ハ此ノ條項ニ從フノ要ナク、又法律勅令ニ依リテ行フ場合ニ本法中別段ノ規定アル場合ナシ。而シテ投票ノ異議ノ決定及指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ハ勿論市參事會自ラ之ヲ議決スヘキナリ。第五十九條ノ準用ニ付テハ無論會議規則ニ違反スル場合ヲ生セス。

市制第四章　町村制第三章　市町村吏員

前二章ニハ議決機關タル市町村會ト市參事會ニ付テ規定ス。市町村吏員ハ市町村ニ對シ一身ヲ捧ケテ特定ノ勞務ニ從フ特別ノ服從義務ヲ負フ者ニシテ、其ノ市町村ニ對スル關係ハ、官吏カ國家ニ對スル關係ト正ニ相同シ。唯其ノ服從義務カ國家ニ對スルニ非スシテ市町村ニ對スルノ差アルノミ。從ツテ市町村ノ吏員ハ市町村ニ於テ之ヲ選任ス。然レトモ市町村ハ絕對ニ之カ選任ノ權ヲ有スルニ非ス、國家ハ監督權ノ行使トシテ市町村ノ選任

シタル者ニ付國家ノ承認ヲ受ケシメ、已ムヲ得サル場合ニ於テハ全ク自ラ之カ選任ヲ爲スコトヲモ得ルナリ。市町村吏員ニ於テ最モ特色トスル所ハ名譽職ナリ。國家ノ官吏ハ殆ント悉ク有給ナルニ反シテ、市町村ノ吏員ハ名譽職ノ制ヲ取ルモノ甚タ多シ。名譽職トハ一身ヲ捧ケテ公務ニ從事スルニ非スシテ各業務ノ傍公務ニ從フコトヲ得ル者ヲ謂フ。蓋市町村ニ於テハ專ラ其ノ住民ノ公共心ニ訴ヘ成ルヘク之ヲシテ公務ニ從ハシメ、以テ自治ノ本旨ヲ完ウセントスルカ故ニ名譽職ノ制ヲ取ルハ自然ノ數ナリ。名譽職ハ有給吏員ト異ナリ、(一)其ノ勞務ニ對スルノ報酬ヲ受クルコトアルモ給料ヲ受クルコトナク、(二)其ノ服務ハ自己ノ任意ニ非スシテ法律上ノ義務ニ基ク、(三)從テ任期ノ定アルモノ多ク、一定ノ任期ヲ經過スレハ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得、(四)又名譽職ノ擔任ハ必ス職務ト相伴フ者ニシテ職務ヲ離レテ選任ナキナリ、(五)而シテ之カ選任ハ公民タルノ權ヲ有スル者ノ中ヨリセサルヘカラス。茲ニ說ク所ノ名譽職ハ名譽職吏員タル者ニシテ、市町村會議員名譽職參事會員ノ如キハ名譽職タリト雖特別ノ服從義務ヲ負フ者ニ非サルカ故ニ固ヨリ名譽職吏員ニハ非ルナリ。有給吏員ニ至リテハ國家ノ官吏ト多ク異ナル所アラス。最後ニ注意スヘキハ本章ハ總テ本法ニ所謂市町村吏員ノ組織選舉及職務竝限ニ關スル規定ヲ包含スルモ獨リ市制第百六十四條及町村制第百四十四條ノ規定ニ依リ監督官廳ニ於テ選任セル吏員ニ付テハ之ヲ其ノ條項ニ讓レルコト之レナリ。

本款ニハ市町村ノ吏員ハ如何ナル者ヲ以テ組織セラルルカヲ規定シ、且其ノ吏員ノ選舉ニ依リ職ニ就ク者ト任免ニ依リ職ニ就ク者トノ別及其ノ名譽職タル者ト有給吏員タル者トノ別等ヲ明カニセリ。市町村ノ吏員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ組織ス。以下各條ニ於テ之ヲ詳述スヘシ

市

- 市長（選舉 有給吏員）
- 市參與（選舉 名譽職又ハ有給吏員）
- 助役（市長ノ推薦又ハ選舉 有給吏員）
- 收入役（市長ノ推薦又ハ選舉 有給吏員）
- 副收入役（市長ノ推薦又ハ選舉 有給吏員）
- 委員（選舉 名譽職）
- 其ノ他ノ市吏員（市長ノ任命 有給吏員）

町村

- 町村長（選舉 名譽職又ハ有給吏員）
- 助役（町村長ノ推薦又ハ選舉 名譽職又ハ有給吏員）
- 收入役（町村長ノ推薦又ハ選舉 有給吏員）
- 副收入役（町村長ノ推薦又ハ選舉 有給吏員）
- 委員（選舉 名譽職）
- 其ノ他ノ町村吏員（町村長ノ任命 有給吏員）

行政區（第八十條）

- 區長（市長ノ任命、有給吏員）
- 區長（選舉 名譽職）
- 區長代理者（選舉 名譽職）

區長代理者（選舉名譽職）
區收入役（市長ノ任命有給吏員）
區副收入役（市長ノ任命有給吏員）
其ノ他ノ市吏員（市長ノ任命有給吏員）

第六條ノ市ノ區

區長（市長ノ任命有給吏員）
區收入役（市長ノ任命有給吏員）
區副收入役（市長ノ任命有給吏員）
其ノ他ノ市吏員（市長ノ任命有給吏員）

市制 **第七十二條** 市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム
助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得
特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置クコトヲ得其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

町村制 **第六十條** 町村ニ町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ增加スルコトヲ得

本條ハ市ニ付テハ市吏員ノ最モ重要ナル市長、市參與及助役ニ付テ規定セリ。市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表スル者ナルヲ以テ、市ノ大小ヲ問ハス皆一人トス。助役ハ市長ノ事務ヲ補助スル者ナルヲ以テ、市ノ事務ノ繁閑ニ依リ自ラ其ノ數ヲ異ニセサルヲ得ス。故ニ普通ノ市ニ於テハ一人、第六條ニ依リ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ內務大臣ノ定メタル數（東京市三人、京都市二人、大阪市二人）ヲ置クヲ原則トシ、尙例外トシテ市ノ事情ニ應シ市條例ヲ以テ規定スルトキハ之ヲ增加スルコトヲ得セシム。

市長及助役ノ外特別ノ必要アル市ニ於テハ市參與ヲ置クコトヲ得セシム。市參與ノ制ハ改正法ニ於テ始メテ之ヲ採用セル所ニシテ、市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業、例ヘハ水道瓦斯電燈電車ノ如キ事業ヲ擔任セシム。舊法ニ於テハ市參事會員ヲシテ此ノ如キ一部ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得タルモ、改正法ニ於テハ市參事會ヲ以テ純然タル議決機關ト爲セル結果市參事會員ヲシテ執行事務ニ參與セシムルコト能ハサルニ至レルヲ以テ、新ニ之ニ代ラシメムトスルナリ。然レトモ市參與ハ必スシモ常ニ之ヲ置クノ必要ナキ市モアルヘク、又市ノ事情ニ依リ必要ノ程度モ一樣ナラサルカ故ニ法律ヲ以テ劃一ノ規定ヲ設クルハ實際ニ適セサルヲ免レス。故ニ其ノ之ヲ置クト否ト其ノ定數ヲ幾人ト爲スカノ如キハ一切市條例ヲ以テ之ヲ規定セシムルコトヽス同時ニ之ヲ定ムルコトヲ要スルナリ。市參與ノ制ニ付テハ其ノ職務權限ノ條ニ（市制第九十五條）ニ於テ之ヲ詳述スヘシ。

町村長及助役

町村モ亦市ト同シク町村長ハ之ヲ一人トシ、助役ハ原則トシテ之ヲ一人トシ、條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得セシム。其ノ理由ハ市制ニ於テ說述セル如クナルヲ以テ之ヲ再說セス。

（增）

市制第七十三條　市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三人ヲ選擧推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

市長ヲ有給吏員トスル理由

本條ハ市長カ如何ナル種類ノ吏員ニ屬スルカヲ明ニシ、其ノ就職ト退職トニ付テ規定セリ。

市長候補者ノ選擧推薦

市長ハ市ヲ統轄シ一切ノ執行事務ヲ擔任スル責務アリ。從テ其ノ事務多ク其ノ責大ナリ到底職業ノ餘暇ニ於テ之ニ當ラシムル能ハス。且此ノ如キ重要ナル人ハ之ヲ狹キ範圍ニ於テ求ムルコト能ハサルヲ以テ、之ヲ有給吏員トシ衣食ノ爲ニ奔走スルナカラシメ、一身ヲ捧ケテ專ラ其ノ職ニ盡サシメムトスルナリ。

市長ハ內務大臣ノ命令ニ依リ市會ニ於テ候補者三人ヲ選擧推薦シ、內務大臣更ニ之ヲ上奏シ裁可ヲ得テ始メテ就職ス。此ノ如ク手續ヲ鄭重ニセルハ其ノ重職タルカ故ナリ。市長ノ選擧推薦ハ內務大臣ノ命令ニ依ル旨ヲ規定セルヲ以テ市長缺ケルコトアルモ市會ニ於テ直ニ之ヲ選擧推薦スルコト能ハス內務大臣ノ命令ヲ俟ッテ始メテ市會ヲ召集シテ之ヲ選擧推薦ヲ命スルハ勿論ナルモ、市長ノ選擧推薦ハ任期滿限ノ際ノ如キハ豫メ之ヲ命スルモ亦固ヨリ違法ニ非ス。市長候補者ハ之ヲ三人トシ市會ハ之ヲ同一市會ニ於テ推薦シ、一時ニ三人ヲ推薦セサルヘカラス。特ニ候補者ヲ三人トセルハ裁可ノ際適任者ヲ選擇セラルルノ餘地ヲ存セムトスルニ在ルモ、仍三人悉ク適任者ニ非スシテ裁可ヲ得サリシトキハ、追テ推薦セシメ裁可ヲ得サリシトキハ如何ニスヘキカ。舊法ニ於テハ再推薦ヲ爲サシメ市長ヲ以テ官吏ヲ派遣シ、市長ノ職務ヲ管掌セシムヘキコトヲ規定スルモ、不裁可ノ場合ニ裁可ヲ得ルニ至ル迄更ニ選擧推薦ヲ命スヘキハ法文ヲ俟タスシテ明ナルノミナラス、代理ノ規定ハ一般ノ場合ニ必要ニシテ特ニ此ノ場合ニ限ルモノニ非ラス。然ルニ舊法ニ於テハ之ヲ缺ケルヲ以テ改正法ニ於テハ第九章ニ廣ク之ヲ規定シ茲ニハ之ヲ削除セリ（第百六十四條）。

裁可ナキ場合

市長ハ有給職ナルヲ以テ固ヨリ市公民タル者ニ限ラス、廣ク何人ヲモ選擧スルコトヲモ得ヘク、未成年ト雖裁可ノ有無ハ別問題トシテ、法律上無資格者タルニ非サルナリ。唯市制第八十四條ノ規定ハ失職ニ關スルモノナルモ、法ノ主旨トスル所ハ在職ノ資格ヲ制限スルニ在ルコト明カナルヲ以テ、同條ノ場合ニ該當スル者ハ始メヨリ市長タルノ資格ナキ者ト解セサルヘカラス。市制第百七十條末項ノ規定ニ該當スル者モ亦同樣ナリ。市長候補者ノ選擧ハ市制第五十五條ノ規定ニ依ルヘキコト勿論ナルヲ以テ茲ニ之ヲ再說セス。市長選擧ノ場合ニ於テ現市長氏名ヲ記載スルノ投票カ無效投票ト爲ラサルハ名譽職參事會員ニ付、市制第六十五條ニ於テ述ヘタル所ノ如シ。市長候補者ハ市會カ之ヲ選擧推薦

スヘキモノナルヲ以テ市會議長ヨリ之ヲ内務大臣ニ推薦セサルヘカラサルナリ。

市長ノ任期

市長ノ任期ハ四年トス。舊法ニ於テハ之ヲ六年トセルモ改正法ニ於テハ市會議員ノ任期ヲ改メテ四年トセルヲ以テ之ト權衡ヲ得シメムカ爲ニ之ヲ改メタルナリ。然レトモ市長ハ市會議員ノ如ク前任者ノ殘任期間在職スルモノニ非スシテ裁可ノ日ヨリ起算シテ四年間即四年ヲ經タル裁可ノ日ノ前日迄在職スルナリ。其ノ豫メ裁可ヲ請ヘルモノニ在リテハ其ノ豫メ定メタル就職期日ヨリ就職スヘク、若シ就職ノ期日ヲ定メサリシ場合ニ於テハ現任者ノ任期滿限ノ翌日又ハ退職失職死亡ノ日ヨリ就職スヘキモノト解スヘキナリ。

市長ノ退職

市長ハ再任セサル限リハ、任期滿限ノ日ヲ以テ當然退職者ト爲ルモ任期中ハ自己ノ意思ノミヲ以テ退職スルコトヲ得ス、内務大臣ノ認可ヲ得テ始メテ退職スルコトヲ得ルナリ。舊法ニ於テハ三月前ニ申立ツルトキハ、何時ニテモ退職スルコトヲ得ヘク、唯退隱料ヲ受クルノ權ヲ失ハシメシニ過キサリシモ、此ノ如キハ選任ノ鄕軍ナルニ比シ權衡ヲ得サルノミナラス、市長ヲシテ責任ヲ輕ムセシムルノ弊アルヲ以テ之ヲ改正セルナリ。市長カ任期中失踪セル如キ場合ヲ生シタルトキハ如何ナル處置ヲ取リ得ヘキカ。任期アル吏員ハ任期中ハ隨意ニ退職セシムルコトヲ得サルヲ原則トスルヲ以テ、懲戒ニ依リ解職ヲ爲シ得ルノ事情存スル場合ヲ除クノ外ハ、任期ノ滿了ヲ待ツノ外ナク、缺員トシテ候補者ノ選舉推薦ヲ爲スコトヲ得サルモノト解セサル能ハサルヘシ。

（增）

市制　第七十四條　市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

市參與ハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

名譽職市參與ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

名譽職ナル市參與ト有給吏員タル市參與

市參與ハ市長ト異ナリ、市ノ事務ノ全般ニ渉リテ責ヲ負フモノニ非ス、特別ノ事業ヲ擔任スルモノナルヲ以テ、必スシモ專ラ之ニ從事スル有給吏員ヲ必要トスルモノニ非サルト、特別ノ事業ニ經驗ヲ有シ、且市ニ於テ重望ヲ有スル人物ヲシテ公共ノ事ニ盡サシメムトスルノ趣旨トニ基キ之ヲ名譽職トス爲セリ。然トモ市ノ事情ハ一樣ナラス、或ハ其ノ事業極メテ大規模ニシテ、到底名譽職ヲ以テシテハ人ヲ得ル能ハサル場合モアルヘク、或ハ市公民中ニ之ニ當ルヘキ適當ノ人物ヲ見出ス能ハサルコトモアルヘシ。此ノ如キ場合ニ於テ强テ此ノ原則ニ依ラシムルハ膠柱ノ誹ヲ免レス。故ニ例外トシテ其ノ定數ノ全部又ハ一部ヲ、隨意ニ有給吏員ト爲スコトヲ得セシメタリ。唯輕々シク例外ヲ設ケシムルハ弊害ヲ生シ易キヲ以テ、市參與ヲ置クノ條例中ニ之ヲ定メシムルコトト爲セルナリ。市參與ヲ有給吏員ト爲スニ當リ、一定ノ資格ヲ有スル者ニ限リテ、之ヲ選任スルコトヲ規定スルハ敢テ妨ナキモノト解スヘシ。

市參與ノ選擧

市參與ハ市ニ於テ極メテ重要ナル職務ナルヲ以テ之ヲ市會ニ於テ選舉セシメタル上内務大臣ノ認可

ヲ受ケシム。而シテ名譽職市參與ハ之ヲ市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ選擧セシムルハ蓋名譽職ノ擔任カ市公民ノ義務ナルニ依ルモノニシテ總テノ名譽職ニ通スル規定ナリ。有給市參與ニ至リテハ重キヲ廣ク適任ノ者ヲ得ムトスルノ點ニ置クヲ以テ、市長ト同シク何人ヲ選任スルモ可ナリ。市長ニ付テ述ヘタル所ヲ參照スヘシ、

市參與ノ就職

市參與ノ任期ト退職

市參與ノ就職ハ先ニ市長ニ付テ述ヘタルト同シク認可ノ日ヨリ之ヲ起算ス。而シテ名譽職市參與ニ付テハ有給吏員ノ選任ニ於ケルカ如ク、豫メ本人カ果シテ其ノ任ヲ受クルヤ否ヤヲ確ムルノ必要ナキナリ。蓋法カ名譽職ノ擔任ヲ以テ公民ノ義務ト爲スヲ以テナリ。然レトモ公民カ名譽職タラサルヘカラサルノ義務ハ兵役ノ義務ト異ナリ本人カ就職ヲ肯ムセサルニ當リ、之ヲ强制スルコト能ハス。唯市制第十條ニ依リ制裁ヲ加フルコトヲ得ルノミ。故ニ認可ノ日ヨリ就職スト謂ヘハ默示ヲ以テ承諾ノ意ヲ表セルコトヲ推定スルモノニシテ本人カ辭任ノ意ヲ表セルトキハ始メヨリ決シテ就職スルコトナキナリ。

市參與ノ任期及退職ニ付テハ法ハ何等規定スル所ナキヲ以テ、市ハ何時ニテモ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ退職セシムルコトヲ得ヘク、市參與モ亦何時ニテモ職ヲ辭スルコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス。尤モ名譽職市參與カ自ラ退職スル場合ニハ、市制第十條ノ制裁ヲ受クルコトアルヘキハ勿論ニシテ、唯市長ニ於ケルカ如ク認可ヲ受クルノ必要ナキノミ。然レトモ市カ市參與ノ任期ヲ定ムルハ固ヨリ之ヲ爲シ得ヘク、此ノ場合ニハ市參與ヲ置クノ條例中ニ規定シテ可ナリ。臨時ノ事業ノ爲ニ置キタル市參與カ其ノ事業ノ終了ト共ニ職ヲ失フヘキハ言ヲ俟タサル所ナリ。此ノ如ク市參與ノ任期ヲ一定セサルハ之ヲシテ成ルヘク長ク其ノ職ニ在ラシメ、充分事業ノ效果ヲ擧ケシメムトスルニ在リ。

有給市參與ト名譽市參與トヲ相互ニ變更スル場合

市參與カ名譽職タル場合ニ於テ新ニ條例ヲ改正シテ有給ト爲シ、又ハ有給タリシ市參與ヲ名譽職ト爲シタル場合ニ於テハ、其ノ市參與ハ引續キ其ノ職ニ在ルヤ否ヤ。此ノ場合ニ於テハ前後ノ市參與ハ全ク性質ヲ異ニスルヲ以テ當然解職セルモノト解スヘキナリ。然ラハ條例ノ規定ヲ以テ引續キ在職セシムルコトヲ得ルカ。法ハ市參與ヲ選擧スヘキヲ規定スルノミナルヲ以テ、假令市會ノ意思カ同一人ヲ市參與タラシムルニ在ルコトヲ認メ得ルモ、到底條例ノ規定ヲ以テ之ニ代フルコト能ハサルナリ。

助役ノ選任

市制　第七十五條　助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選擧シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長又ハ市會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

助役ハ市長ノ事務ヲ補助シ、市長故障アルトキハ之ヲ代理スルノ職務ヲ有スルヲ以テ其ノ事務モ繁

雜ナルヘク、又十分能力アル人物ヲ得ルノ必要アリ。故ニ之ヲ市長ト同シク有給吏員ト爲セリ。又其ノ職責上市長ノ信任スル者ヲ以テ之ニ充ツルヲ相當トスルノ理由アルヲ以テ、舊法ノ如ク之ヲ市會ノ選擧ニ一任セス市長ヲシテ推薦セシメ、其ノ推薦者ニ付市會之ヲ決定シ、府縣知事ノ認可ヲ受ケシムルコトト爲セリ。認可ヲ府縣知事ニ止メタルハ重要ノ度、市長及市參與ニ比スレハ稍輕キモノアルヲ以テナリ。市長カ推薦ヲ爲スニ當リテハ一人ヲ推薦スヘク而シテ市會カ其ノ者ニ決定スルヲ欲セサルトキハ更ニ推薦ヲ爲スヘキナリ。助役ノ選任ヲ以テ絕對ニ市長ノ推薦ニ依ルモノトスルトキハ、市長缺員ノ如キ場合ニ於テハ先ツ市長ヲ選任シタル後ニ於テ始メテ助役ノ選任ヲ爲ササル可ラス。然ルニ事實ニ於テハ市長ハ其ノ人ヲ得ルニ困難ニシテ往々長日月ノ間之ヲ缺クコトアリ。而モ此ノ如キ際ニ於テハ助役ヲ要スルコト最モ切ナルモノアルヲ以テ、市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選擧シ府縣知事ノ認可ヲ請フコトヲ得シメタリ。此ニ「市長職ニ在ラサルトキ」ト謂フハ市長缺員ノ場合ヲ指スモノニシテ、假令市長ノ代理ヲ爲スヘキ他ノ助役アリ、又ハ監督官廳ノ選任セル市長代理者アリテ市長ノ事務ヲ取ルモ、市長ニ代ハリテ推薦ヲ爲スコトヲ得サルナリ。又選擧ニ付テハ市長ノ場合ノ如ク他ニ之ヲ命令スルモノ非サルカ故ニ、市長ノ代理者カ之ヲ發案シ、其ノ認可モ亦市會議長ヨリセシテ市長ノ代理者ヨリ之ヲ申請スヘキモノトス。

助役ノ認可ヲ府縣知事ニ申請セルニ當リ府縣知事ニ於テ認可セサルニ對シ、市長又ハ市會ニ於テ不

助役ノ選任不認可ノ場合

服アルトキハ、更ニ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得。蓋助役ノ如キハ市ニ於ケル重要ナル吏員ナルヲ以テ、成ルヘク市ノ意思ヲ尊重スルヲ相當ト認メ此ノ規定ヲ置ケルナリ。

市長及市參與ニ付テ此ノ如キ途ヲ開カサリシハ、更ニ之ヲ具狀スヘキ上級ノ機關ナキヲ以テノ故ノミ。本項ノ規定ニ依ル具狀ハ別ニ期限ヲ定メス。而シテ之ヲ異議ノ申立又ハ訴願ト見ルコト能ハサルヲ以テ第百六十條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス。從テ何時ニ至ルモ其ノ權利ヲ行使シ得ルモノト解スヘキカ如シ。不認可ノ場合ニ於テ市長及市會共ニ之ニ不服ナキトハ、再推薦又ハ再選擧ヲ爲スヘキハ規定ヲ俟タサル所ナルヲ以テ、改正法ニハ舊法ノ如ク別ニ規定ヲ設ケサルコト市長ノ場合ト同一ナリ。

助役ノ任期ハ四年トシ、府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中ニ退職スルコトヲ得ス。其ノ他就職退職等ニ付テハ市長ト同樣ニ解釋スヘキヲ以テ市制第七十三條ヲ參照スヘシ。

助役ノ任期ト退職

市制　第七十六條　市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市公民トス

市長有給市參與及助役ノ職ニ依ル公民權

市長市參與及助役ノ如キハ重要ノ吏員タルニ拘ラス、之ヲ市公民以外ノ者ヨリ選任スルコトヲ得シメタルハ、既ニ述ヘタルカ如ク廣ク適當ノ人物ヲ得ントスルニ依ルモノナルモ、自治ノ本旨タル固ト成ルヘク其ノ公民ヲシテ自治體ノ行政ニ與ラシメムトスルニ在ルヲ以テ其ノ趣旨ヲ貫キ此等ノ者ニハ在職ノ間公民權ヲ與ヘテ自治體トノ關係ヲ深カラシメムトスルナリ。本條ニハ市制第九條第一項ノ規

在職ノ間公民權ヲ有ス

定ニ拘ラスト規定スルヲ以テ如何ナル者ト雖、其ノ職ニ就キ如何ナル事實ノ存スルニ拘ラス、公民權ヲ取得スルカ如キモ市制第八十四條ニハ此等ノ者カ失職スル場合ヲ揭クルヲ以テ、其ノ規定ニ相當スル者ハ假令選任セラルルモ始メヨリ職ニ就クノ資格ナキモノト謂フヘク、又市制第百七十條ニ該當スル者モ同樣ナルコトハ市長ニ付テ述ヘタル所ノ如シ。

市長有給市參與及助役カ其ノ職務ニ依リテ得ル公民權ハ其ノ在職ノ間ニ過キスシテ、一旦其ノ職ヲ去ルトキハ復直ニ之ヲ喪フヲ以テ就職前ヨリ既ニ公民權ヲ有スル者ナルカ、又ハ在職中ニ市制第九條第一項ノ要件ヲ具備スルニ至リタル者ニ非サレハ、公民權ヲ必要トスル職ニ選任セラルルコトヲ得ス。蓋此等ノ職ヲ退キテ其ノ職ニ移ラムトスルノ瞬間ニ公民權ヲ喪ヒテ資格ヲ缺クニ至ルヘケレハナリ。然レトモ公民權ヲ有スル以上ハ固ヨリ選擧權ハ之ヲ有スヘク且其ノ選擧權ニ付テハ其ノ市內ニ於テ自己ノ居住スル區ノ選擧權ヲモ得ルナリ。仍改正法ニ於テハ公民權ニ付テハ住所ヲ有スルコトヲ要件トセルカ故ニ一般ニハ二ノ市町村ニ於テ公民權ヲ有スルコトナキモ此ノ場合ニ於テハ其ノ例外ヲ爲スコトトナルナリ。唯多數ノ場合ニ於テハ住所ヲ新市町村ニ轉スルコトトナルヘシ。

名譽職町村

町村制　第六十一條　町村長及助役ハ名譽職トス

町村ハ町村條例ヲ以テ町村長又ハ助役ヲ有給ト爲スコトヲ得

町村長及助役ハ有給ト名譽職トノ異ナリ、名譽職タルヲ原則トスルハ町村ノ事務ハ市ニ比シテ簡單ナルヲ以テ專務ノ者ヲ必要トセサルト、從テ其ノ人物モ必スシモ十分ノ手腕ヲ必要トセサルニ依リ之ヲ求ムルコト容易ナルヲ以テナリ。然レトモ町村ノ事情ハ必スシモ一概ニ論スル能ハサルヲ以テ、例外トシテ條例ヲ以テ有給ト爲スノ途ヲ開ケリ。舊法ニ於テハ助役ハ大ナル町村ニ於テ一名ヲ限リ有給ト爲シ得ルコトヲ規定スルモ、大ナル町村ナルヤ否ヤノ認定モ困難ナルノミナラス、其ノ制限モ實際ノ事情ニ適セサル場合アルヘキヲ以テ之ヲ改メタルナリ。茲ニハ「町村長又ハ助役」ト謂フモ何レカ一方ヲ限リ有給ト爲シ得ルノ意ニ非スシテ兩者ヲ有給ト爲スコトヲモ得ルハ勿論ナリ。其ノ他ハ市ニ付テ述ヘタル所ヲ參照スヘシ。

町村長及助役ノ任期

町村制　第六十二條　町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及町村助役ノ任期ハ市長及市助役ト同シク四年ナリ。本條ニ付テハ各市制ノ條項ニ付テ述ヘタルモノノ外別ニ說述スヘキモノナシ。但シ市制ト異ナリ舊法ニ於テモ亦四年ノ任期ニシテ改正法ハ唯之ヲ襲踏セルナリ。

町村制　第六十三條　町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選擧ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ前項ノ例ニ依ル

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選擧權ヲ有スル者ニ限ル

有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

町村長及助役ノ選任

町村長及助役ハ、市ニ於ケルト同シク、町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選擧シ、助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム。而シテ町村長缺員ノ場合ニ於テ助役ハ町村會ニ於テ之ヲ選擧スルコトモ亦全ク相同シ。但シ第六十四條ノ規定ニ依リ、兩者共ニ府縣知事ノ認可ヲ受クヘキハ勿論ナリ。

町村長及町村助役ハ市長及市助役ト異ナリ、名譽職ヲ原則トシ有給ヲ例外トナスヲ以テ、名譽職ノ者ニ關シテハ名譽職市參與ト同シク、町村公民中選擧權ヲ有スルコトヲ以テ其ノ資格ト爲セリ。舊法ニ於テハ仍三十歳以上ノ者タルコトヲ必要トセルモ、改正法ハ此ノ制限ヲ撤廢セリ。有給町村長及助役ニ關シテ、市ニ於ケルト同シク公民タルノ資格ヲ有セサル者ニ付テハ在職ノ間公民權ヲ與フルコトセリ。本條モ亦市制ニ付テ說キタル所ト對照スレハ自ラ明白ナルヲ以テ特ニ之ヲ再說セス。

（判例）

一　村長ノ選擧ニ違法アリトシ其ノ取消ヲ求ムル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナシ（三四、一〇、二、裁決）

二　本條ニ依リテ公民權ヲ得タル收入役ノ如キハ選擧權ヲ有スルモノナルヲ以テ之ヲ選擧人名簿ニ登載シタルハ違法ニアラス（二四、九、二五、行判）

町村制　第六十四條　町村長ヲ選擧シ又ハ助役ヲ定メ若ハ選擧シタルトキハ、府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

町村長及助役ノ認可

前條ノ規定ニ依リ町村長ヲ選擧シタルトキ、又ハ助役ヲ定メ若ハ選擧シタルトキハ、府縣知事ノ認可ヲ受ケサルヘカラス。町村長ノ認可ヲ府縣知事ニ止メタルハ、蓋一ハ市ニ比スレハ事務モ簡單ナルヲ以テ其ノ長タル者モ市ニ於ケルカ如ク愼重ノ手續ヲ取ルノ必要少キト、一ハ其ノ數非常ニ多キヲ以テ幾分簡略ナル方法ニ依ラムトセルナルヘシ。町村長又ハ助役ノ不認可ニ付テハ、舊法ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ必要トセルモ、此ノ點ニ於テ市助役ト手續ヲ異ニスルノ理由ナク又實際ニ於テ府縣知事カ不當ノ處分ヲ爲スノ虞少ク、且救濟ノ方法モ存スルヲ以テ改正法ニ於テハ之ヲ削除セリ。但シ其ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ、內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得ルハ市助役ニ於ケルト同樣ナリ。

有給町村長及有給助役ノ退職

名譽職町村長及名譽職助役ハ第八條ノ規定ニ依リ其ノ退職ニ付制裁アルモ、有給町村長及有給助役ハ此ノ如キ制裁ナキヲ以テ別ニ制限ヲ加ヘサレハ輕々シク其職ヲ退クニ至ルヘキニ依リ、三箇月前ニ申立ツルトキハ任意退職スルコトヲ得ヘシトセリ。即チ三箇月ヲ經過スレハ當然退職者トナルナリ。然レトモ未タ三箇月ヲ經過セスト雖、町村ニ於テ後任者ヲ選ヒタルトキハ其ノ認可ヲ得タルトキヨリ又退職ヲ許シタルトキハ其ノ議決ノ日又ハ指定シタル日ヨリ退職者タルモノトス。換言スレハ町村ハ其ノ退職ヲ承認スルコトハ自由ナルモ、若シ之ヲ欲セサレハ其ノ辭意ヲ表示シテヨリ三箇月間ハ仍在

名譽職町村長及名譽職助役ノ退職

職ヲ強フルコトヲ得ルナリ。本項ハ政府ノ原案ニ於テハ市助役ニ於ケルト同シク府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ退職スルコト能ハストセルヲ、帝國議會ニ於テ修正セルモノナリ。蓋町村長町村助役ノ如キハ其ノ人ヲ得ルニ難カラストノ理由ナルヘキモ、假令三箇月前ニ申立テシムト雖、任意ノ退職ヲ許スハ責任ヲ重ムシテ職務ニ盡瘁セシムル所以ニ非ス。且舊法ノ如ク退隱料ヲ受クルノ權ヲモ失ハシメサルヲヤ。寧ロ政府ノ原案ノ如クスルヲ以テ立法ノ當ヲ得タルモノナリトスヘシ。

町村長又ハ助役カ退職ノ申立ヲ爲シタルトキ未タ三箇月ヲ經過セス、又ハ町村會ニ於テ承認ヲ爲ササル間ハ、隨意ニ其ノ申立ヲ撤回スルコトヲ得ルヤ否ヤハ意見ノ岐ルル所ナリ。然レトモ一旦退職ノ申立ヲ爲シタル以上ハ其ノ之ニ應スルヤ否ヤハ全ク對手方、即チ市町村ノ權内ニ在ルモノナルカ故ニ自己ノミノ單獨意思ヲ以テ之ヲ撤回スルコトヲ得サルモノト解スヘシ。

名譽職町村長及名譽職助役ノ如ク名譽職ニ在ル者ハ、總テ辭表ノ提出ト同時ニ當然退職ト爲ルモノトセルハ、從來實際ニ於テ取リ來レルノ解釋ナリ。

（判例）

一　有給ノ町村長ニシテ任期中辭職ヲ申立ツルトキハ町村會ハ其認否ヲ議決スヘキモノトス（三一、四、二三、行判）

二　有給町村長ノ辭職ノ申立ニ對シ町村會カ承認ノ議決ヲ爲セハ其町村長ハ直ニ職務ノ解除ヲ得ルモノトス（三一、四、二三、行判）

三　町村ノ名譽職ニ在ル者ハ辭職屆書ヲ提出スルトキハ之ト同時ニ退職シタルモノニシテ町村會ノ議決ヲ俟テ始メテ退職者ト爲ルニ在ラス（二七、一二、二一、行判）

市町村長市參與及市助役タルノ資格ニ對スル制限

市制　第七十七條　市長市參與及助役ハ第十八條第二項ニ揭ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ市ニ對シ請負ヲ爲スコトヲ得ス

市長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市參與ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

市參與ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十八條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

町村制　第六十五條　町村長及助役ハ第十五條第二項ニ揭ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ町村ニ對シ請負ヲ爲シ及同一ノ行爲ヲ爲ス者ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人タルコトヲ得ス

町村長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十五條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ市町村長、市參與及市町村助役タルノ資格ニ對スル制限ヲ規定セリ。其ノ制限ハ一ハ業務ニ關スルモノニシテ、一ハ身分ニ關スルモノナリ。

業務ニ關スルモノニ付テハ市ト町村トハ其ノ規定ヲ異ニス。市長、市參與及市助役ハ市制第十八條第二項ニ揭ケタル職即チ所屬府縣ノ官吏及有給吏員、其ノ市ノ有給吏員、檢事警察官吏及收稅官吏、神官神職僧侶其ノ他諸宗教師竝小學教員ト兼ヌルコトヲ得ス。又市ニ對シテ請負ヲ爲スコトヲ得ス。町村長

及町村助役ハ其ノ外仍町村ニ對シ請負ヲ爲ス者ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人タルコトヲモ得サルナリ。此等ノ職務ニ關スル詳細ノ說明及其ノ立法ノ理由ハ市制第十八條及町村制第十五條ヲ參照スヘシ市ト町村ト規定ヲ異ニセル理由ハ市ニ於テハ此等ノ業務ニ從事スル者多キニ市長市參與及市助役ヲ得ルノ困難町村ニ於テ町村長及町村助役ヲ得ルヨリモ大ナルカ故ニ幾分其ノ制限ヲ寬クシテ人物選擇ノ餘地ヲ存セシメタルニ在リ。此等ノ業務ニ從フ者ハ假令市町村ニ於テ選任セラルルモ之ヲ辭セサル限リハ就職スルコトヲ得ス。就職後此等ノモノニ選擧セラルルモ吏員タル地位ヲ退カサル以上ハ之ニ從事スルコトヲ得サルナリ。

身分ニ關スル制限

身分ニ關スルモノニ付テハ父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ在職スルコトヲ禁セリ。蓋此等ノ者同時ニ在職シテ一族其ノ市町村ノ要職ヲ專ラニスルトキハ、人情ノ常トシテ情弊ノ其ノ間ニ生スルノ虞アルニ由ル。父子兄弟トハ先ニ說明シタルカ如ク繼父子養父子ヲモ含ムハ勿論ナリト雖、通俗ニ所謂父子兄弟ヲ指スモノニ非ス、親族法上ニ定ムル所ノ父子兄弟ヲ謂フナリ。立法ノ理由トスル所ノ情弊ハ果シテ此ノ親族關係ノ間ニ於ケル制限ノミヲ以テ斷チ得ルヤ否ヤハ疑ナキニ非サルモ、到底確タル標準ヲ求メ難キヲ以テ又已ムヲ得サルナリ。本條ノ規定ニ依ルニ市ニ於テハ市長ト父子兄弟ノ縁故アル者ハ、市長在職中ニ市參與又ハ市助役ニ還任セラルレハ無資格者トナリ其ノ職ニ就クコトヲ得ス。又自己在職中ニ父子兄弟ノ縁故アル者市長ニ還任セラルルカ又ハ自己ト市長トノ間ニ父子兄弟タル縁故ヲ生スレハ其ノ市參與又ハ助役ハ直ニ職ヲ失ハサルヘカラス。市ニ於ケル市參與ト助役トノ間、町村ニ於ケル町村長ト助役トノ關係モ亦同樣ナリ。次ニ市參與數人アルトキハ、父子兄弟ノ縁故アル者ハ、同時ニ在職スルコトヲ得ス。市町村助役數人アルトキニ付テモ亦同シ。故ニ此ノ際ニハ其ノ何レカ一人職ニ在リテ他ハ職ニ在ルコトヲ得サルモノトセサルヘカラス。依テ市制第十八條第五項町村制第十五條第五項ノ規定ヲ準用シテ其中ノ年長者ヲシテ在職セシムルコトト爲セルナリ。故ニ假令年少者先ニ在職スルモ父子兄弟ノ縁故アル者後ヨリ還任セラルレハ、年少者ハ直ニ職ヲ失フナリ。此ノ點ハ市町村會議員ニ於テ選擧ヲ異ニスルトキハ後ノ者ノ議員ト爲ルコトヲ得サルト少シク其ノ規定ヲ異ニセリ。

（增）

市制第七十八條　町村制第六十六條　市長有給市參與及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長有給市參與及有給町村長及有給助役ハ郡長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長有給市參與及有給町村長及有給助役ハ會社ノ重役又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

本條ハ前條以外特ニ市長有給市參與市助役有給町村長及有給町村助役ノ如ク、給料ヲ受クル者ニ對スル業務ノ制限ニ付テ規定セリ。有給吏員ハ名譽職ト異ナリ、專心自治體ノ事務ニ從事セシメムカ爲ニ、特ニ其ノ生活ノ資料タル給料ヲ給スルヲ以テ、之ヲシテ他ノ業務ニ從ハシムルノ必要ナキノミナ

報償アル業務

ラス、自由ニ他ノ業務ニ從ハシムルトキハ之カ爲ニ本務タル自治體ノ事務ニ專心ナラサルノ弊アリ。殊ニ報償アル業務ニ付テ然リトス。然トモ自治體ノ事務ニ累ヲ及ホササル範圍ニ於テハ、之ヲ許スモ敢テ弊害ヲ生スヘキニ非ス。故ニ本條ニ於テ市長有給市參與及市助役又ハ有給町村長及有給町村助役ハ府縣知事又ハ郡長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ、他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ。即其ノ果シテ市町村ノ事務ニ累ヲ及ホササルヤ否ヤハ府縣知事及郡長ヲシテ認定セシムルコトトセリ。町村長及町村助役ハ其ノ許可ヲ郡長ニ受ケシムルハ市ト異ナリ、町村ノ第一次監督官廳ハ郡長ナルヲ以テナリ。然ラハ本條ニ所謂報償アル業務トハ何ソヤ。報償トハ勞務ニ對スル財產上ノ對價ヲ受クルコトニシテ、其ノ對價ハ固ヨリ金錢タルト否トヲ問ハサルナリ。業務トハ職業ト爲スノ意ニシテ單ニ一回ノ報償ヲ得タルカ如キハ報償アル業務トイフコトヲ得ス。必ス多少永續シテ職業ト見ルヘキ狀態ニ在ラサル可ラス。而シテ之レ到底各場合ノ事實ニ付テ之ヲ判斷スルノ外ナキナリ。舊法ニ於テハ有給ノ職務ト營業トノミヲ禁セルヲ以テ、三等郵便局長ノ如キ又ハ手當慰勞金ノ類ヲ受クル職務ニ從事スル者ノ如キハ之ヲ包含セサリシモ、改正法ハ廣ク報償ナル文字ヲ用キタルヲ以テ、此等ノ者ハ悉ク之ヲ包含スルコトト爲ルナリ。之ニ反シ舊法ノ有給ナル文字ノ中ニハ、有給ノ官吏吏員ヲ含ムコトハ明瞭ナルモ、改正法ノ報償ナル文字ニ有給ノ官吏吏員ヲ含ムヤハ稍疑ナキニ非ス。蓋官吏吏員ノ俸給給料ハ之ヲ勞務ニ對スルノ對價ト謂ヘキモノニ非サルヲ以テナリ。現ニ本法ニ於テモ給料ハ報

酬トハ之ヲ區別シテ規定セリ。然トモ立法ノ主旨ヲ案スルニ有給ノ職務ト營業トヲ一括シテ之ヲ報償アル業務トセルハ、一ヲ以テ二ヲ總括セムトスルニ在ルヘク、從テ官吏吏員モ亦本條中ニ包含スト解スヘキナリ。但シ官吏ニ付テハ官吏服務紀律中ニ本屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ、本務ノ外給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得サル旨ヲ規定セリ（第十三條）。以上ノ禁止ハ他ノ公共團體ノ名譽職ニ及ハサルコト論ナキヲ以テ、一町村ノ有給町村長ト他町村ノ名譽職町村長ト相兼ヌルカ如キモ敢テ之ヲ違法ト謂フコト能ハス。其ノ程當ヲ缺クノ行爲トシテ認可ヲ得サルニ至ルコトアルヘキハ自ラ別問題トス。但シ名譽職ト雖、報酬ヲ受クル者ニ至リテハ之ヲ本條ニ包含スヘク、從テ之ト相兼ヌルコトヲ得サルモノト解スヘキカ如シ。休職ノ官吏ハ官吏タル身分ヲ存スルモ職務ヲ取ラサルカ故ニ之ヲ業務ト謂フコト能ハス。從ツテ假令俸給ヲ受クルモ本條中ニ包含セサルモノト謂ハサルヘカラス。

以上法ハ許可ヲ得スシテ報償アル業務ニ從フコトヲ禁スルニ拘ラス、此等ノ吏員ニシテ其ノ禁ヲ犯シタルトキハ其ノ行爲ハ如何ナル結果ヲ來スヘキヤト云フニ。其ノ行爲ハ違法タルヘキモ無效タルヘキモノニ非ス、此等ノ吏員ニ對シテハ必要ニ應シ懲戒ノ制裁ヲ爲シ得ルニ止マルモノトス。

第二項ニ於テ會社ノ重役又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ禁セルモ亦前項ト同主旨ニ出ツ、但シ此ノ場合ニ於テハ前項ト異ナリ此等ノ業務ハ絕對ニ之ヲ禁止セルカ故ニ、吏員ノ地位ト兩立セス何レカ一方ヲ拋棄スルノ外ナキモノトス。會社ハ民事會社ト商事會社ヲ包含スヘク、重役及支配人ノ何

タルカハ先ニ既ニ之ヲ述ヘタリ。其ノ他ノ事務員トハ支配人ヲ除キ會社一般ノ使用人ヲ云フ。此等ノ業務ハ到底吏員ノ地位ト兩立シ得ル如キ簡單ナルモノニ非ヲルノミナラス、弊害ヲ生スルノ虞最モ多キヲ以テ、法ハ許可ヲ留保スルノ方法ヲ採ラスシテ全ク之ヲ禁止セルナリ。

市制 **第七十九條** 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項乃至第三項第七十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得

町村制 **第六十七條** 町村ニ收入役一人ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

收入役及副收入役ハ町村會之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及副收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十三條第四項ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用ス

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

出納其ノ他會計ノ事務ハ最モ弊害ヲ生シ易キ事項ナルヲ以テ、特ニ責任アル吏員ヲ置キテ之ヲ掌ラシメ且收支ノ命令ヲ爲ス者ト實際ノ出納ヲ爲ス者トヲ異ニスルヲ必要トス。故ニ本條ニ於テハ市町村ニ收入役一人ヲ置クコトヲ規定セリ。舊法ニ於テハ別ニ收入役ノ職務ヲ代理シ、又ハ補助スヘキ者ヲ置カサリシモ、收入役ハ必スシモ故障ナキモノト謂フ能ハス。又大ナル市町村ニ於テハ事務ノ分量多ク且複雜ナルモノアルヘキヲ以テ、市ニ於テハ市條例ヲ以テ規定スルトキハ仍副收入役一人又ハ數人ヲ置クコトヲ得ルコトトセリ。町村ニ至リテハ其ノ事務モ簡單ナルモノ多キカ故ニ、特別ノ事情アル町村ニ限リ且其ノ數ヲ一人ニ制限セリ。蓋濫リニ之ヲ置クヲ得シムルトキハ徒ラニ無用ノ吏員ヲ增スノ弊アルヲ以テナリ。其ノ町村條例ヲ以テ之ヲ設クヘキハ市ト同樣ナリ。

收入役及副收入役ハ市町村共ニ有給吏員ニシテ、其ノ任期ハ市町村長及助役ト同シク四年ナリ。町村ニ於テ町村長及助役ハ名譽職ヲ以テ原則トセルニ拘ラス、收入役及副收入役ニ限リテ之ヲ有給吏員ト爲セルハ其ノ事務ノ性質上最モ細密ナル注意ヲ要スルヲ以テ選擇ノ範圍ヲ廣カラシメムトスルト、最モ正直ナル人物ヲ要スルヲ以テ專心之ニ從事セシメムトスルニ在リ。

收入役及副收入役ハ市町村長ノ推薦ニ依リ市町村會之ヲ決定シ、市ニ於テハ府縣知事、町村ニ於テ

特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ナシテ收入役ノ事務ヲ掌セシムルコトヲ得

ノ選任

ハ郡長ノ許可ヲ受クルヲ要ス。但シ市ニ於テハ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選擧スルコトヲ得ルモ、町村ニ於テハ町村長ノ推薦ヲ待ツノ外ナキナリ。蓋シ町村ニ於テハ事務ノ簡單ナル結果暫時ノ缺員モ之ヲ忍フコト能ハサル程ニ不便ヲ來スノ虞ナク、又町村長ヲ得ルニモ左程困難ナラサルヲ以テ其ノ就職ヲ俟ツテ然ル後推薦セシムルモ敢テ晩キニ非ス、從テ特ニ變例ヲ開クノ必要ナキナリ。此レ恐ラク帝國議會ニ於テ助役ニ關スル條項ヲ修正スルニ當リ町村ノ收入役及副收入役ニ付テハ之ヲ原案ノ儘ニ存置セル所以ナルヘシ。仍助役ノ條項ヲ參照スヘシ。

收入役及副收入役ニ對スル制限

收入役及副收入役ノ不認可アリタルトキ之ニ不服ナル市長又ハ市會ハ內務大臣ニ、町村長又ハ町村會ハ府縣知事ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得ルハ略助役ノ場合ニ於ケルト同シ。

次ニ收入役タル者ノ資格及行爲ノ制限ニ關シテハ、市制ニ於テハ市制第七十七條第一項及第四項竝第七十八條ノ規定ヲ準用シ、町村ニ於テハ第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ヲ準用セル結果殆ムト市長有給市參與市助役又ハ有給町村長有給助役ト同樣ノ制限ヲ受クルコトトナルナリ。唯收入役及副收入役ハ之ヲ市町村長市參與及助役ト比較スルトキハ其ノ地位稍下ルモノアルヲ以テ、其ノ身分ノ制限ニ關シテハ此等ノ者ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ就クコトヲ得ス、若シ就職後ニ緣故ヲ生スルカ又ハ緣故アル者市町村長等ノ職ニ就クトキハ、其ノ收入役又ハ副收入役ハ當然退職トナルナリ、收入役ト副收入役ノ間ニ於テモ副收入役ハ就職ノ前後ヲ問ハス、父子兄弟タル

町村ノ特例

緣故アル收入役ト同時ニ職ニ在ルコト能ハサルナリ。仍市ニ於テハ副收入役ハ一人ニ限ラレサルヲ以テ、若シ副收入役ノ間ニ同樣ノ緣故者ヲ生スルトキハ年少者其ノ職ヲ失フコトトナルナリ。本條ハ又收入役ハ其ノ職務重要ナルヲ以テ在職ノ間公民權ヲ取得スルノ條項ヲモ準用セリ。但シ副收入役ハ此ノ特典ヲ受クルコトナシ。

收入役ヲ置クノ理由ハ上ニ既ニ述ヘタル所ノ如シト雖、事務極メテ簡單ニシテ到底之カ爲ニ一人ノ收入役ヲ置ク必要ナキカ如キ、又ハ到底其ノ人ヲ得ル能ハサルカ如キ等特別ノ事情アル町村ニ於テハ、郡長ノ許可ヲ得ルトキハ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得セシメタリ。固ヨリ變通ノ途ナルヲ以テ濫リニ之ヲ許スノ法意ニ非サルハ勿論ナリ。茲ニ特別ノ事情ト謂フハ如何ナル事情ヲ指スカ上述セル所ハ單ニ其ノ一例ニ過キス。實際ニ於テハ種々ノ場合ヲ生スヘク、結局之ヲ各場合ノ事實ニ依リテ判斷スルノ外ナキナリ。又兼掌セシムルト謂フハ如何ナルコトヲ意味スルカ此ノ場合ニ町村長又ハ助役ハ收入役トシテ會計出納ノ事務ヲ掌ルカ、又ハ町村長若ハ助役トシテ之ヲ掌ルカ、法ハ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムト謂ヒテ收入役ヲ兼ネシムト謂ハサルヲ以テ町村長又ハ助役トシテ其ノ名ヲ以テ（即チ文書ハ收入役事務兼掌町村長助役何某ト記載シ）收入役ノ事務ヲ執ルヘキナリ。

（判例）

一　町村制中二種ノ公民權アルノ理ナキヲ以テ公民權ヲ得タル收入役ハ選擧權ヲ有スルモノト爲ササルヲ得ス（二四、九、二五、行

第六條ノ市ノ區長ノ任命

第六條ノ市ノ區長ノ業務ニ對スル制限

市制 第八十條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシ市長之ヲ任免ス
第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ハ之ヲ區長ニ準用ス

第六條ノ市、卽勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ニハ區長一人ヲ置キ、之ヲ有給吏員トシ、專ラ市長ヲシテ之ヲ任免セシム。第六條ノ市ノ如何ナルモノナルカハ其ノ條下ニ於テ之ヲ說述セルカ如シ。此等ノ區ハ法人トシテ頗ル繁多ナル事務ヲ有スルヲ以テ特ニ有給吏員ヲ置キテ其ノ事務ヲ處理セシムルコトト爲セルナリ。元來市制ニ於テハ市以下ノ團體ヲ認メサルヲ主旨トスルモ、第六條ノ市ノ區卽所謂自治區ノ如キハ其ノ沿革及實際ノ狀況ヨリシテ已ムヲ得ス之ヲ法人トシテ認ムルニ至レルモノナルヲ以テ、其ノ區長ノ任免ノ如キモ之ヲ市長ノ權內ニ收メテ市トノ關係ヲ緊密ナラシムルノ制ヲ採リ、又之ヲ市吏員トシテ市ニ從屬セシムルコトト爲セルナリ。後ニ說明スル如ク區長以外ノ區ニ屬スル吏員ヲモ悉ク市吏員タラシムルハ蓋之カ爲ナリ。舊法ニ於ケル區長ハ名譽職ヲ原則トシ、例外トシテ有給吏員ヲ置クコトヲ得セシメタルモ、改正法ニ於テハ實際ノ事情ニ照シテ之ヲ改メタリ。

區長ニハ第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ヲ準用セルヲ以テ、資格上一定ノ業務ニ對スル制限ハ市長有給市參與及助役ト異ナルコトナキモ、身分ニ關スル制限ハ全ク是レナキナリ。從ツテ假令市長市參與及助役ト父子兄弟タル緣故アル者ニテモ同時ニ其ノ職ニ在ルコトヲ得ルナリ。蓋市ノ事務ノ範圍ト區ノ事務ノ範圍トハ自ラ區別アリ、此等ノ緣故者ニ付制限ヲ置クノ必要ヲ認メサルカ故ナリ。

區收入役及區副收入役ノ任命

市制 第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役及區副收入役各一人ヲ置ク
區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役又ハ區長トノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命ス
區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ
前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區副收入役ニ之ヲ準用ス

第六條ノ市ノ區ニハ前條ニ規定スル區長ノ外仍本條ニ依リテ區收入役、區副收入役トヲ置クヘキナリ。蓋其ノ理由トスル所ハ市ニ收入役及副收入役ヲ置クト同シ。單ニ區收入役一人ノミヲ置クコトアリ又ハ區收入役一人ト區副收入役一人トヲ竝置スルコトアリ。其ノ何レニ從フヘキカハ法ニ何等ノ規定ナキヲ以テ、之カ任命權ヲ有スル市長ノ意思ニ依リ定マルモノト解セサルヘカラス。然レトモ法ハ之ヲ置クコトヲ規定スルヲ以テ、市長ハ少クトモ區收入役一人ハ之ヲ置カサルヘカラス。又市長ハ區收入役及區副收入役ヲ任免スルモ、區長ノ如ク自ラ直接ニ之ヲ任免スルコト能ハス、法ハ第八十六條ノ吏員中ヨリ之ヲ命スヘキコトヲ規定スルヲ以テ、其ノ條項ニ依リテ區長ノ申請ニ待タサルヘカラス。蓋區收入役及區副收入役ハ區ノ事務ニ從フモノナルヲ以テ、區長ヲシテ其ノ區ニ適當ナル人物ヲ選擇シ、之ヲ申請セシムルコトヲ爲セルナリ。然ラハ市長カ區長ノ申請ヲ待タスシテ區收入役又ハ區

區收入役及區副收入役ノ身分上ノ制限

副收入役ヲ任命セルトキハ其ノ行爲ハ無效タルヘキモノナリヤト謂フニ、申請ヲ爲スハ單ニ內部ノ手續ニ過キサルヲ以テ、市長ナル市機關カ正當ニ意思表示ヲ爲シタル以上ハ有效ニ成立スルモノト解スヘキナリ。但シ市長ハ違法ノ責ヲ免ルルコト能ハサルハ勿論トス。區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員ナルヲ以テ、市有給吏員タルハ言ヲ俟タサル所ナリ。

區收入役及區副收入役タルニハ身分上ノ制限アリ。即市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣故ナク、又區收入役ト區副收入役相互ノ間ニモ此ノ如キ緣故アラサル者ノ中ヨリ之ヲ命セサルヘカラス。又既ニ在職スルモ市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長ニ父子兄弟タル緣故者就職スルカ、又ハ新ニ之ト其ノ緣故ヲ生シタルトキハ、自己ノ職ヲ失ハサルヘカラス。區收入役ト區副收入役トノ關係ニ於テハ、區副收入役ハ、區收入役ト父子兄弟ノ緣故アルトキハ職ニ就キ、又ハ職ニ在ルコトヲ得サルナリ。

區長ニ付テハ何等身分上ノ制限ヲ加ヘサルニ、區收入役及區副收入役ニハ此ノ如ク制限ヲ加ヘ、又市參與トノ間ニハ何等身分上ノ制限ヲ加ヘサルハ如何ナル理由ナリヤ。蓋シ會計出納ノ事務ハ最モ嚴密ナラサレハ區民ヲシテ心ヲ安セシムル能ハス。故ニ勉メテ弊害發生ノ虞アル懸念ヲ除カムトセルナリ。市參與ニ至リテハ其ノ掌ル所ノ事務ノ關係上之ヲ制限スルノ必要ナキヲ以テナリ。區收入役及區副收入役ハ區長ト異ナリ業務上ノ制限ハ何等之レナキナリ。

市制　第八十二條　第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス

內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

町村制　第六十八條　町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス

本條ハ所謂行政區ニ關スル規定ナリ。市町村ハ最下級ノ自治團體ナルヲ以テ更ニ下級ノ團體ヲ設ケサルヲ以テ立法ノ主旨ト爲スモ、市制第六條ノ市ノ區ハ特別ノ事由ニ依リ之ヲ法人ト爲セルハ既ニ述ヘタル所ノ如シ。然ルニ其ノ他ノ市又ハ町村ニ於テモ區域廣濶ナルカ人口稠密ナルモノハ、總テノ事務ヲ一區劃トシテ處理セシムルハ行政ノ周到ヲ期スル所以ニ非サルノミナラス、場合ニ依リテハ却テ勞費ノ增嵩ヲ來スコトナキニアラス。故ニ本條ヲ以テ處務便宜ノ爲區ヲ劃スルコトヲ得シム。固ヨリ法人トシテ之ヲ認メタルニ非ス、唯行政區劃トシテ設クルモノナルヲ以テ、市町村ノ統一ヲ期スル上ニ於テ多ク惡影響ヲ及ホササルヘキヲ思ヒ之ヲ許セルナリ。舊法ニ於テハ町村ハ區劃廣濶ナルカ又ハ

區長及其ノ代理者ノ選任

人口稠密ナル場合ニ限リ區テ置クコトヲ得タルニ比シ、稍廣キニ失スルカ如キモ、區域廣濶ナラス人口稠密ナラサルモ交通不便ナル場合ノ如キハ亦其ノ必要アルヘク、一概ニ場合ヲ限定シ難キヲ以テ改正法ノ如クスルヲ實際ニ適セリトスヘキナリ。

區ヲ設クルト否トハ市町村ノ自由ナルモ市町村ノ一部分ニ限リ區ヲ設クルコトハ之ヲ許サス。又一旦之ヲ設ケタル以上ハ毎區區長及其ノ代理者一人ヲ置ク、即區長一人ノミヲ置クハ法ノ許ササル所ナリ、必ス區長代理者ヲモ置カサルヘカラサルナリ。區長及其ノ代理者ハ名譽職トシ市町村會ニ於テ市町村公民ニシテ選擧權ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選擧ス。區長及其ノ代理者ヲ名譽職ト爲スハ、區ノ事務ハ比較的簡單ナルト市町村ノ事務ハ成ルヘク公民ヲシテ之ニ關與セシムルノ主旨ニ依レルナリ。第六條ノ市ノ區ト異ナリ、區長、代理者ヲ置キタルハ、彼ハ有給ノ吏員ニシテ且其ノ下ニ多數ノ吏員ヲ有スルモ、此ハ名譽職ナルヲ以テ其ノ專心職務ニ從事スル能ハサルヲ慮リ、時々ノ故障ノ爲事務ノ澁滯ヲ來ササラシメムトセルナリ。舊法ニ於テハ市ニ付テハ區公民又ハ隣區ノ公民中ヨリ選擧セシムルコトトセルモ、市ノ吏員タル以上ハ廣ク市公民中ヨリ選擧セシムルヲ正當トスルカ故ニ之ヲ改正セサルナリ。又舊法ニ於テハ區會ヲ設クルトキハ區會ニ於テ之ヲ選擧セシムルコトト爲セルモ、其ノ區會ハ所謂財産區ニ關スルモノニシテ本條ノ區ハ所謂行政區ナルヲ以テ改正法ノ如ク全然市町村會ニ於テ選擧セシムルノ勝レルニ如カス。區長及其ノ代理者ノ任期ニ付テハ法ハ何等規定スルナキモ、市町村ハ條例ヲ以テ隨意ニ之ヲ設クルコトヲ得ヘキモノトス。而シテ市町村會ノ議決ヲ以テ其ノ任期中ニ區ヲ廢止シタルトキハ、區長及其ノ代理者ハ當然失職スヘク、又其ノ條例ハ市町村會ノ議決ヲ俟タス當然消滅ス。

市ニ於ケル特例

以上ノ外市ニ付テ仍特別ノ規定アリ。內務大臣ノ指定スル市ニ於テハ前項ノ規定ト異ナリ、區長ヲ有給吏員ト爲シ、其ノ他區收入役及區副收入役ヲ置キ得ル等市制第六條ノ市ノ區ニ於ケル如ク爲スコトヲ得。蓋第六條ノ市以外ニ於テモ其ノ繁華ナルモノニ在リテハ事情殆ント之ト異ナラサルモノアリ、到底名譽職ヲ以テ其ノ任ニ膺ラシムル能ハサル事情アルヲ以テ特ニ例外ヲ許セルナリ。舊法ニ於テハ人口二十萬以上ノ市ニ限リシモ、法律ニ此ノ如キ範圍ヲ確定スルハ實際ノ必要ニ應スルコト能ハサルヲ以テ改正法ハ之ヲ內務大臣ノ指定ニ一任シ明治四十四年內務省令第十四號ハ名古屋市ヲ指定セリ。

本條ニ依リ內務大臣ノ指定セル市ハ必ス區ヲ設ケサルヘカラサルカ、又ハ區ヲ設クルトキハ其ノ區長ヲ有給吏員ト爲ササルヘカラサルモ、區ヲ設クルト否トハ其ノ市ノ自由ニ屬スヘキカ。法ハ前項ノ規定ニ拘ラスト規定セルヲ以テ、後段ノ如ク唯有給吏員ト爲スノミヲ指定スルノミト解スヘキナリ。

本條ニ依リ內務大臣ノ指定シタル區ニハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ヲ準用スル結果、區長代理者ヲ置カスシテ區收入役區副收入役ヲ置クコト、及其ノ市長、收入役ニ對スル關係、其ノ他職務權限ハ總テ第六條ノ市ノ區ト同樣ナルヲ以テ、茲ニハ之

ヲ略ス。但シ之カ爲メニ法人ト爲ルモノニ非ルハ勿論ナリ。而シテ本條ハ仍勅令ニ詳細ノ規定ヲ設クルコトヲ委任セリ。（明治四十四年勅令第二百四十號ハ區ヲ以テ選擧區ト爲シタルトキハ選擧ニ關スル市制ノ規定中第六條ノ市ノ區長及區役所ニ關スル規定ハ區長及區役所ニ準用セリ）

（增）

臨時又ハ常設委員ノ設置

市制　第八十三條　市町村制　第六十九條　市町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市町村會ニ於テ市會議員、名譽職參事會員、又ハ市町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス但シ委員長ハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ常設委員ノ組織ニ關シテハ市町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

以上市町村ノ事務ヲ處理スルカ爲メニ必要ナル機關ニ付テ規定セルモ、猶特ニ或ル事項ニ關シテ調査ヲ爲シ、又ハ之ヲ處辨スルコトヲ要スルコトモアルヘシ。此ノ場合ニ於テ成ルヘク廣ク市町村ノ公民ヲシテ市町村ノ公務ニ參與シ、其ノ公益ノ爲ニ盡サシメムトスルノ自治ノ方針ト、成ルヘク市町村內ノ各地ノ事情ヲ明白ニ知悉スルヲ欲スルノ主旨トニ依リ、臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得シム。委員ハ敎育、勸業、衞生、土木等ノ事務ニ付キ其ノ何タルヲ問ハス之ヲ設クルコトヲ得ルモ、其ノ事務ハ市町村ノ事務ノ範圍ニ限ラルルコト勿論ナリ。但シ地方學事通則及小學校令ニ依リテ設クル學務委員ハ、本條ニ所謂委員ニ非ラスシテ特別法ニ依リ認メラレタルモノナルヲ以テ、其ノ特別法令ニ依リテ設置スル學區ニ之ヲ置クコトヲ得ルハ言ヲ俟タス。又市町村ノ委員ヲ設ケ之ニ一區ノ事務ヲ分擔セシムルカ如キ固ヨリ妨ナキナリ。委員ノ權限ハ市町村事務ノ範圍ニ屬スル以上ハ、如何ナルモノヲモ之ニ屬セシムルコトヲ得ト雖、元來市町村長監督ノ下ニ在リテ其ノ命ヲ享ケテ事務ヲ處理スルモノナルヲ以テ、市町村會ニ議案ヲ提出スルカ如キハ其ノ職權內ニ在ラサルモノトス。

委員ノ組織

委員ハ名譽職トシ、市ニ於テハ市會議員、名譽職參事會員又ハ市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ市會ニ於テ之ヲ選擧シ、町村ニ於テハ町村會議員又ハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ町村會ニ於テ之ヲ選擧ス。此ノ如ク公民權ヲ有スル者ニ限レルハ、蓋委員ヲ置クノ立法ノ主旨ヲ貫徹セムトスルナリ。委員ヲ設クルニ當リテハ或ハ之ヲ市町村會議員中ノミヨリ選擧スルコトヲモ得ヘク、或ハ市町村公民中ノミヨリ之ヲ選擧スルコトヲモ得ヘク、或ハ兩者ノ中ヨリ之ヲ選擧スルコトヲモ得ヘシ。市ニ於テ名譽職參事會員ノミヨリ選擧スルコトヲモ得ヘク、又市會議員ト名譽職參事會員トヨリ、又ハ市公民ト名譽職參事會員トヨリ選擧スルコトヲ得ヘキノミナラス、此ノ三者ノ中ヨリモ之ヲ選擧スルコトヲ得ヘシ。其ノ何レニ依ルカハ一ニ實際ノ便宜如何ニ依ル。舊法ハ此ノ點ニ付明カニ區別シテ規定ヲ置ケタルヲ以テ稍狹ク之ヲ解釋スルノ已ムヲ得サルモノアリタリト雖、改正法ハ此ノ如ク廣ク解シ得ヘキモノト信ス。何レノ場合ニ於テモ委員長ハ市町村長、又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與、又ハ市町村助役ヲ以テ之ニ充テサルヘカラス。之レ委員ハ市町村長ノ指揮ヲ受ケ、市町村ノ執行事務ニ參與スルモノナルヲ以テ、之ヲ統一スル市町村長トノ關係ヲ緊密ナラシメムトスルニ在リ。法ハ委員長ヲ置クコトヲ命スルヲ以テ委員ノ組織ハ之ヲ合議體ト爲ササルヘカラサルナリ。其ノ他委員ノ任期定員等ニ

常設委員ノ組織ニ關スル特例

付テハ、法ハ何等ノ規定ヲ置カサルヲ以テ、一ニ市町村ノ定ムル所ニ依ル。唯前揭地方學事通則及小學校令ニ依ル學務委員ノ如キ又ハ傳染病豫防法ニ依ル傳染病豫防委員ノ如ヤ、特ニ法ニ規定セルモノハ各之ニ準據スヘク、市町村ノ自由ニ定メ得ヘキ範圍ニ屬セサルハ勿論ナリトス。

以上ハ委員ニ關スル一般ノ規定ナレトモ、常設ノ委員ヲ置ク場合ニ於テハ、條例ヲ以テ前述スル所ニ異ナリタル組織ノ委員ヲ置クコトヲ得。例ヘハ委員ノ組織ヲ合議體ト爲サスシテ、一人ノミヲ置クカ如キ、市町村會議員ヨリ三分ノ一、市町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ三分ノ二ヲ選舉スルカ如キ、市町村公民中選舉權ヲ有スル者ニシテ猶一定ノ資格ヲ必要トスルカ如キハ、皆之ヲ定ムルコトヲ得ルナリ。然ラハ有給ノ委員ヲ置キ、又ハ公民タラサル者ヨリ選舉スルカ如キコトヲ定ムルヲ得ルカ。蓋此ノ如キハ全ク委員ヲ設ケシムル立法ノ主旨ヲ超脫スルモノニシテ、之ヲ許シ得ルモノニ非ス。前述ノ學務委員ニ小學校教員ヲ加ヘ傳染病豫防委員ニ醫師ヲ加フルカ如キハ、畢竟法律ノ特別ノ規定ニ依ルモノニシテ、之ト同一ニ論スルコト能ハサルナリ。常設委員ト雖、別段ノ規定ニ依ラサルモノハ條例ヲ設クルノ要ナク、又別段ノ組織ニ依ル常設委員ヲ廢スル場合ニ於テハ條例ヲ廢止スヘキモノナルコトハ言ヲ俟タサルナリ。

（判例）

一　本條ハ當然市會ノ議決ヲ要スル事項ニシテ之ヲ調査スル爲ノ委員ヲ置クコトヲ得ルノ規定ナレハ市民ヨリ提出スル建議請願書ノ取調委員ヲ設置スルカ如キハ市會ノ權限ヲ超エタルモノナリ（二七、五、五、行判）

二　町村ノ共有財産及營造物管理常設委員ハ町村制ニ所謂町村ノ名譽職ナリ（三三、六、二九、行判）

市制第八十四條
町村制第七十條

名譽職　市町村長及名譽職助役其ノ他町村公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市町村公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第十一條第九條第十一條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

市町村公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル名

キハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲市町村公民タル者ニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第十一條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間ニ關スル給料ヲ支給スルコトヲ得ス

名譽職吏員ノ如ク市町村公民ニ限リテ擔任スルコトヲ得ル職務ハ元來市町村公民ノ義務ナルト同時ニ權利トシテ之ヲ擔任セシムルモノナルヲ以テ、一旦其ノ職ニ就キタル者カ、其ノ市町村公民タル資格ニ故障ヲ生シタル後モ猶其ノ職務ニ在ラシムルハ、立法ノ主旨ヲ貫徹スルモノニ非サルヲ以テ、本條ニ於テ此等ノ職員ニシテ公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ旨ヲ規定セリ。又陸海軍ノ現役者及戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタル者ハ公務ニ參與スルヲ得セシメサルヲ原則トセルヲ以テ、在職中ニ之ニ當ルニ至リタル者モ亦同シク職ヲ失フコトトセリ。公民權喪失ノ場合ハ市制第十一條町村制第八十四條町村制第三章第一款第七十條第二項ニ規定セル所ニシテ、其ノ條項

職ニ就キタルカ爲ニ公民權ヲ得タル者ノ失職

職務ノ停止

ヲ說明スルニ當リ詳述セルヲ以テ茲ニ之ヲ再言セス。本條ノ失職ハ市町村會議員ノ如ク議決ヲ要スルモノト異ナリ、何等ノ手續ナク當然其ノ職ヲ失フモノナルニ依リ、市制第九條第二項町村制第七條第二項ノ如キ規定ニ依リ特免ヲ爲スノ餘地ナキハ勿論ナリ。名譽職ノ擔任ハ單ニ公民タルニ止ラス、仍選舉權ヲモ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルニ拘ラス、茲ニ之ニ言及セサルハ以上三ノ場合ノ外特ニ選舉權ノミヲ失フ場合ナキヲ以テナリ。

以上ハ市町村公民ニ限リテ擔任スルヲ得ヘキ職務ニ關スルモノナルモ、之ト反對ニ職務ニ就キタルカ爲公民權ヲ得タル者、即市長助役有給市參與有給町村長助役ノ如キ者ニ付テモ、或ル事實例ヘハ失神犯罪等ノ事實ヲ生シタルーキハ之ヲ退職セシムルニ非サレハ、實際ニ職務ヲ執行セシムル能ハサルカ、又ハ之ヲ其ノ職ニ置クコトノ極メテ不穩當ナル場合ヲ生ス。故ニ此等ノ者ニシテ禁治產者若ハ準禁治產者ノ宣告ヲ受ケタルトキ、又ハ市制第十一條第二項第三項町村制第九條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ、即公民權停止ノ條件ニ該當スルカ、陸海軍ノ現役ニ服スルカ、若ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキハ、前項ニ於ケルト同シク當然職務ヲ失ハシムルコトト爲セルナリ。

上述ノ如ク前揭ノ職ニ在ル者ハ、何レモ犯罪ニ關シテハ刑ノ宣告ヲ受ケサル限リ其ノ職ヲ失ハス。之レニ因ヨリ當然ノコトナリト雖犯罪ノ狀況極メテ明白ナルカ如キ場合ニ、未タ宣告ヲ受ケサルノ故ヲ以テ職務ヲ執ラシムルハ、甚タ懸念ニ堪ヘサルモノアルノミナラス、假令犯狀未タ明白ナラサルモ犯

罪ノ種類ニ依リテハ之ヲシテ在職セシムルコトハ、一般住民ニ不安ノ感ヲ起サシメ、延ヒテ自治行政ノ上ニ惡結果ヲ及ホスコトナシトセス。然トモ亦一方ニ於テハ單ナル疑念ヲ以テ職ヲ失ハシムルハ酷ニ失スルヲ以テ、禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲、豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ、監督官廳ハ其ノ職務ヲ停止スルコトヲ得セシメタリ。而シテ此ノ場合ニハ其ノ期間名譽職ニ付テハ報酬、有給吏員ニ付テハ給料ヲ支給スルコトヲ得サルナリ。

市制第八十五條　町村制第七十一條　前數條ニ定ムル者ノ外市町村ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市町村長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

前數條ニ揭ケタル吏員ハ皆市町村ニ缺クヘカラサル吏員ナルモ、其ノ外市町村事務ヲ處理スル上ニ於テ多クノ下級補助吏員ヲ必要トスルハ言ヲ俟タス。故ニ本條ニ於テハ前數條ニ揭クル者ノ外市町村ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ、市町村長ヲシテ之ヲ任命スルコトヲ得セシメタリ。蓋此等ノ吏員ハ皆下級ノモノタルヲ以テ必スシモ之ヲ公民ニ限ルノ要ナク、又勿論任命ニ付特別ニ鄭重ナル手續ヲ必要トスルモノニ非ス、故ニ之ヲ市町村長ノ任免ニ一任セルナリ。然レトモ之ヲ置クヤ否トヲ全ク市町村長ニ一任スルトキハ濫設ノ弊ヲ生シ、徒ニ市町村ノ經費ヲ膨脹セシムルノ虞ナシト謂フヘカラサルヲ以テ、其ノ定數ハ之ヲ市町村會ニ於テ議決セシムルコトト爲セルナリ。故ニ市町村長ハ其ノ定數ノ範圍內ニ於テ各場合ニ之ヲ任免スルコトヲ得ルノミニシテ、假令豫算ニ剩餘アリトスルモ市町村會ノ議決ヲ經

スシテ定數ヲ超ユル人員ヲ任命スルコトヲ得サルナリ。

本條ニ掲クル吏員ハ之ヲ置クト否トヲ問ハス全ク市町村ノ自由ナルヲ以テ、若シ事務極メテ簡單ナルトキハ全ク之ヲ置カサルモ固ヨリ妨ナキナリ。然トモ本條以外更ニ特殊ノ名譽職吏員ヲ置クカ如キ、又ハ任免ノ權ヲ市町村長以外ニ屬セシムルカ如キハ法ノ許ササル所ナリ。蓋法ハ自ラ市町村吏員ノ組織ヲ定メ市町村ノ自由ニ變更スルコトヲ禁スルノ主旨ナレハナリ。但シ舊法ニ於テハ書記其ノ他附屬員及使丁ヲ置クコトヲ得ト規定セルモ、改正法ニ於テハ唯必要ナル市町村吏員ヲ置クコトヲ得ト謂フヲ以テ其ノ名稱ノ如キハ全ク市町村ノ自由ニ附シ得ヘキナリ。又此等ノ吏員ハ下級ノ吏員ナルヲ以テ業務又ハ身分ニ關シ何等制限スル所ナシ。從テ其ノ如何ナル者ヲヨリ任命スルカハ全ク自由ニシテ唯行政ノ實際ニ於ケル穩當不穩當ノ問題ヲ生スルノミ。

圖書館令第六條ニ規定スル館長、司長及書記ノ如キ、又明治三十九年勅令第二百六十七號ニ依ル市ノ產業ニ關スル技師技手ノ如キハ、本條ニ依ラサル市町村吏員ナルカノ疑アルモ此ノ勅令ヲ以テ法律ノ例外ヲ設クルヲ得サルヲ以テ此等ノ者ニ付テハ市町村ハ唯費用ヲ負擔スルニ過キサルモノト謂フヘク、之ヲ以テ市町村吏員ナリト解スルコト能ハス。小學校敎員ノ如キ亦然リ。汚物掃除法施行規則ニ依ル掃除監視吏員ノ如キハ、唯命令ヲ以テ名稱ヲ附スルニ過キサレハ、固ヨリ本條ニ依ル吏員ト解スヘキナリ。

（判例）

一　町村吏員ハ本條ニ依リ町村會ニ於テ其人員ヲ定ム（豫算ニ剩餘アリトテ町村長ハ定員以外ノ吏員ヲ任用スルヲ得ス（二八、五、一四、行判）

市制　第八十六條　前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

勅令ヲ以テ指定スル市ノ區、及內務大臣カ指定シテ有給區長ヲ置カシムル市ノ行政區ノ如キハ、其ノ事務複雜ナルヲ以テ亦前條ノ如キ下級ノ補助員ヲ必要トスルカ故ニ、本條ニ於テ此等ノ區ニモ必要ノ市吏員ヲ置キ、市會ニ於テ議決シタル定數ノ範圍內ニ於テ市長ニ之ヲ任免セシム但シ區ニ從屬スル吏員ナルヲ以テ之ヲ區長ノ申請ニ待ツコトト爲セリ。此レ最モ區ニ適當ナル人物ヲ得ルノ方法ナレハナリ。

此等ノ吏員カ市ノ吏員タルコトハ第八十二條第三項ノ市ノ區ニ付テハ疑ナキ所ナルモ、第六條ノ市ノ區ニ付テハ何等規定ナキトキハ其ノ法人タルノ故ヲ以テ疑ナキニ非ス。然ルニ市町村制ノ主旨トシテ。市町村ヲ以テ自治團體ノ最小ナルモノト爲サムトセルヲ以テ、成ルヘク總テノ事物ヲ市ニ統一スルノ方針ニ依リ、本條ハ之ヲ市吏員トシテ市長ノ任免ニ依ラシムルコトト爲セリ。

第六條及第八十二條第三項ノ區ニ屬スル市吏員

第二款　職務權限

前款ニ規定スル如ク、市町村ハ幾多ノ吏員ヲ有スルヲ以テ、之カ權限ヲ定メ上下ノ關係ヲ明カニスルニ非サレハ、其ノ事務ヲ進捗スルニ由ナシ。故ニ本款ニ於テハ各吏員ノ職務ノ範圍ニ付テ規定セリ。

市制第八十條
町村制第七十二條　市町村長ハ市町村ヲ統轄シ市町村ヲ代表ス

市町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二　財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四　證書及公文書類ヲ保管スル事

五　法令又ハ市町村會ノ議決ニ依リ使用料手數料、加入金、市町村稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六　其ノ他法令ニ依リ市町村長ノ職權ニ屬スル事項

市町村長ハ既述ノ如ク市町村ノ執行機關ニシテ、市町村會又ハ市參事會ニ於テ議決シタル事項ハ皆之カ執行ノ責ヲ負ヒ、內部ニ付テハ市町村ノ一切ノ事務ヲ統轄スルト共ニ、外部ニ對シテハ市町村ヲ代表ス。故ニ市町村ノ意思決定ニ關シテ市町村會カ廣キ推定ヲ受クルカ如ク其ノ他ノ事務ニ付テハ市町村長ハ之ト同シク廣キ推定ヲ受クルヲ以テ、其ノ權限ハ一々之ヲ揭記スルコトヲ得ルモノニ非ス。此ニ列記スルモノハ法文ニ明示セルカ如ク概目ニ過キスシテ、唯重要ナルモノニ止マル。從テ市町村長ノ職務ノ範圍ヲ考究シテ解決セサルヘカラサル場合ハ勿論ナリ。今左ニ本項各號ニ揭クル所ヲ說明スヘシ。

市町村會又ハ市參事會ヘノ發案權及其ノ議決ノ執行

一　市町村會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事。

市會及市參事會ノ議決スヘキ事件ニ就キ、議案ヲ發スルノ權限ナリ。發案權ハ獨リ市町村長ニ屬シ、市町村會又ハ市參事會ニハ全然屬セサルカハ議論アル所ナルコト前述ノ如シ。發案權カ獨リ市町村長ニ存スト爲ス者ハ市町村會及市參事會ハ議決ノ機關タルニ止ル、廣ク發案ノ權ヲ認メタルノ條項ナシ、從テ之ヲ有セサルモノト解セサルヘカラス、之ニ反シ市町村長ハ執行ノ機關トシテ發案ノ權ヲ有ス、殊ニ本條ニ於テ之ヲ規定セル以上ハ其ノ獨リ市町村長ニ屬スルハ亦疑ヲ容ルルノ餘地ナシト主張シ、發案權ハ市町村會及市參事會ニモ存スト爲ス者ハ、大凡自己ノ權限ニ屬スルモノハ、自ラ進ンテ之ヲ直接ニ行フノ權限ヲモ含ムモノナラサル可ラス、故

ニ法カ市町村會及市參事會ニ與ヘタル權限ニ付テハ、市町村會及市參事會ニ於テ自ラ之ヲ發案シ議決スルコトヲ得ルハ當然ノ事理ニシテ、發案ノ權ナキコトハ却ヶ法文ヲ待テ明カナルヘキナリ、故ニ市町村會ニ於テハ市町村長及市町村會ノ兩者發案權ヲ有シ、市參事會ニ於テハ市參事會及市長共ニ發案權ヲ有スルモノト解スヘキヲ主張ス。從來ノ行政裁判所ノ判例及實際ノ取扱ハ、發案權ハ獨リ市町村長ニノミ存ストイフニ一致セリ。改正法ニ於テ此ノ點ニ於テ何等特ニ規定スル所ナカリシヲ以テ見レハ、立法ノ主旨ハ從來ノ如ク市町村長ニノミ發案權ヲ有セシムルニ在ルコト疑ヲ容レサルナリ。尤モ發案權ハ獨リ市町村長ニノミ存スルモ、此等ノ合議體ニ於テ補闕選舉ノ要否ヲ決スルカ如キ、被選舉權有無ノ決定ヲ爲スカ如キ、意見書ヲ提出スルカ如キ、諮問ニ答申スルカ如キ、會議規則、傍聽人取締規則ヲ設クルカ如キ法カ特ニ認ムル範圍ニ於テハ、市町村會カ發案ノ權ヲ有スルモノト解スヘキコトハ屢說述セル所ナリ。

發案權ノ侵害

發案權ハ獨リ市町村長ニノミ存スルモノトスルトキハ、市町村會又ハ市參事會ニ於テ、修正ノ權ヲ行使スルニ當リ、何レノ點迄ハ發案權ヲ侵害セサルモノトスヘキカ。此ノ點ニ付テハ既ニ數次ノ判例アリ、略其ノ範圍ノ一定シタルモノアリト雖、事ノ實際ニ當リテハ各事實ニ付之ヲ決定スルノ外ナキナリ。單ニ理論ノ上ヨリ之ヲ見レハ、議案ノ性質ヲ變更スルカ如キ修正ハ、修正ニ非スシテ發案權ノ範圍ヲ侵スモノト謂ハサルヘカラス。之レ亦既ニ述ヘタル所ナルヲ以テハ之ヲ再說セス。

議案撤回權

發案權ハ市町村長之ヲ有スルモ、既ニ發案シタル議案ヲ撤回スルノ權ハ之ヲ有スルヤ否ヤ。此ノ點ニ付テハ法ハ何等ノ規定スル所ナキモ、之ヲ發スル權アル者ハ又之ヲ廢スルノ權ヲモ有スルモノト解スルコト相當ナルカ如シ。從テ市町村長ハ未タ議決ヲ經サル議案ハ、何時ニテモ之ヲ撤回スルコトヲ得ヘキナリ。

財產營造物ノ管理又ハ其ノ事務ノ監督

本號ノ規定ハ選舉ヲ包含スヘキカ。蓋シ改正法ニ於テハ選舉ト議決トハ明ニ之ヲ區別シタルノミナラス、事ノ性質ヨリ見ルモ選舉ノ如キハ之ヲ議案ト謂フコト能ハサルヲ以テ、茲ニハ之ヲ含包セサルモノト解スヘキナリ。然トモ此ニ揭クル所ハ市町村長ノ職務ノ概目ニ過キサルヲ以テ、選舉モ亦市町村長カ執行機關トシテ之ヲ市町村會ノ會議ニ付スヘキモノト謂ハサルヘカラス。尤モ法律勅令ノ規定ニ於テ反對ノ意思ヲ推測シ得ヘキモノアルトキハ其ノ規定ニ從フヘキハ勿論ナリトス。

二　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事。

財產及營造物ヲ管理スル事モ亦市町村長ノ權限ニ屬ス。唯市參與市町村助役區長及委員ノ如キハ本法又ハ市長ノ命ニ依リ、其ノ責任ヲ以テ之カ管理ノ事務ヲ掌ルコトアルヘキヲ以テ、其ノ場合ニ於テハ市町村長ハ唯監督ノ責ヲ負フヲ以テ足レリトス。舊法ニ於テハ特ニ市町村ノ財產及營造物タルコトヲ明示セルモ解釋上同一ナルヘキハ明白ナリ。蓋市町村ニ屬セサル財產營造物ニ付テハ第六號ニ揭クル市町村長ノ權限ニ屬スヘキモノナレハナリ。

収支命令及會計監督

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事。

市町村ノ出納其他ノ會計事務ハ收入役之ヲ掌ルモ、其ノ收支ノ命令ヲ爲スハ市町村長ノ權限ニ屬ス。收入役ハ唯市町村長ノ命令ニ依リ現實ノ出納ヲ爲スノミ。之レ蓋シ二箇ノ機關ヲシテ互ニ相獨立セシメテ、弊害ノ生スルヲ防制セムトスルニ在ルハ前ニ述ヘタルカ如シ。而モ市町村長ハ市町村ヲ統轄スルノ職務ヲ有スルヲ以テ其ノ監督ノ責任ハ之ヲ負ハサルヘカラス。

證書及公文書類ノ保管

使用料、手數料、加入金、市町村稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收

四　證書及公文書類ヲ保管スル事。

證書及公文證書ヲ保管スルコトモ亦市町村長之ヲ掌ルモ之ニ關スル證書及公文書類ノ保管ハ、之ヲ市町村長直接ノ管掌ニ委スヘキハ論ヲ俟タス。

五　法令又ハ市町村會ノ議決ニ依リ使用料、手數料、加入金、市町村稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事。

本號モ亦市町村ニ屬スルモノニシテ、國其ノ他ニ屬スルモノヲ包含セス。而シテ市町村長ハ法令又ハ市町村會ノ議決ニ依ルノ外執行スルコトヲ得サルナリ。換言スレハ現實ニ之ヲ賦課徵收スルニ止マルモノトス。

法令ニ依リ屬スル職權

六　其ノ他法令ニ依リ市町村長ノ職權ニ屬スル事項。

以上揭ケタルモノノ外法令ニ依リ市町村長ノ職權ニ屬スル事項ハ、市町村長之ヲ擔任スルノ義務アリ。市町村會ノ權限ハ法律勅令ニ依ルノ外之ヲ附加スルコトヲ得サルモ、市町村長ハ省令府縣令ノ如キモノノ命スル所ト雖亦之ヲ擔任セサル可ラス。蓋市町村長ハ自治體ノ吏員ナルモ、一方ニ於テハ國ノ行政區劃タル市町村ニ關スル諸種ノ事務ヲ掌ルヲ以テ、下級ノ命令ヲ以テモ之ニ事務ヲ擔任セシムルヲ得サレハ、實際ノ不便甚シキヲ以テナリ。

市町村長カ市町村ノ意思ヲ決定スル場合

以上市町村長ノ執行機關タルコトヲ述ヘタリ。然トモ市町村長ハ絕對ニ市町村ノ意思ヲ決定セサルニ非ス。市町村會ノ議決ノ範圍内ニ於テハ實ニ市町村長カ市町村ノ意思ヲ決定スルナリ。加之市制第九十二條町村制第七十六條ノ如キ場合ニハ、市町村長ハ獨立ニ市町村ノ意思ヲ決定スルコトヲ得ルナリ。唯市町村長ハ市町村會ノ議決ヲ執行スルノ義務アルヲ以テ、其ノ議決ノ不利不便ナル故ヲ以テ之カ執行ヲ拒ムコト能ハス。其ノ議決カ權限ヲ超越スルカ、違法ナルカ又ハ公益ヲ害スル場合ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得ルノミ。

（判　例）

一　町村會ノ議スヘキ原案ハ總テ町村長ヨリ發スヘキモノトス（三一、一、二八、行判）

二　市ノ行政事務ニ關スル發案權ハ本條ニ於テ市會ノ議事ヲ準備シトアリテ其市參事會ニ屬スルコトヲ明示シ而シテ他ニ之ヲ市會ニ與ヘタル規定ナキ以上ハ制第三十三條第四十八條ノ如キ場合ヲ除ク外市參事會ニノミ屬スルモノト謂ハサルヲ得ス（二八、五、一四、行判）

（舊法市制第三十三條ハ改正法市制第四十六條ニ舊法市制第四十八條ハ改正法市制第六十三條ニ相當ス）

三　府縣制第七十五條第一項ニ依リ府縣歳出入豫算ノ發案權ハ府縣知事ニ屬スルモノトス(三二、七、一〇、行判)

四　縣會ニ於テ知事ノ發案ニ包含セサル豫算項目ヲ挿入議決シタルハ越權ナリ(三二、七、一〇、行判)

五　縣會ニ於テ新ナル一ノ工事費ヲ豫算ニ加ヘテ議決シタル處置ハ知事ノ職權ニ屬スル發案權ヲ侵シタルモノトス(三五、七、八、行判)

六　町村カ條例ヲ以テ常設委員ヲ置キ町村有金穀ヲ管理セシムル場合ニハ町村長ハ管理ノ職責ヲ有セス從テ其金穀ノ滅失ニ對シ賠償ノ責ヲ負フモノニ非ス(三九、六、二八、行判)

七　府縣參事會ハ案件ニ對シ相互ニ發議討論ヲ爲シ得ヘキモノナレハ訴願ニ對スル審議中其會員ノ發議セル意見ニ基キ該訴願ヲ却下スヘキコトヲ議決スルモ之ヲ以テ其權限ヲ超エ府縣知事ノ發案權ヲ侵害シタルモノト爲スヲ得ス(三六、七、一〇、行判)

八　町村長ノ職務トシテ町村ヲ代表スルコトハ町村制ノ範圍内ニ於ケル町村ニ屬スル事件ニ限ルヘキモノトス(二六、三、二八、行判)

九　町村長ノ資格ヲ以テ衆議院議員ニ感謝狀ヲ發シタルハ町村長ノ職務ニ違背シタルモノトス(二六、三、二八、行判)

一〇　町村會ノ議事錄ノ署名者ヨリ其署名取消ノ申出アリタルニ拘ハラス町村長カ之ヲ取消サスシテ監督官廳ニ提出シタルハ不當ノ處置ナリ(三六、一、二八、行判)

一一　町村長カ町村會ノ議員トシテ不當ノ處置ヲ爲シタルハ即チ町村長ノ職務ニ違フタルモノトス(三六、一、二八、行判)

一二　組合町村長カ收入役ノ身元保證金ヲ徵シタル後事後ニ町村會ノ承諾ヲ受ケタルハ該會ノ權限ヲ侵シタルモノトス(二八、五、一四、行判)

一三　小學校管理者タル町長カ其學校勤務ノ教員等ニ對シ訓戒ヲ加フルノ方法ヲ誤リタルハ正當ニ其職務ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス(二八、六、一、行判)

一四　町村役場ノ帳簿樣式ヲ定ムル訓令ハ知事カ其監督上ノ必要ニ基キ下級行政廳ノ事務ヲ整理セムカ爲發シタル命令ニ外ナラサレハ町村長ハ之レニ對シテ遵奉ノ義務アリトス(二六、五、二六、行判)

一五　郡長カ町村長ニ對シテ發シタル訓示ハ其監督權上ノ命令ニ屬ス(二六、三、二八、行判)

一六　郡長カ其監督權ニ基キ職務違背ノ廉ヲ以テ町村長ヲ處分シタルニ付キ法律ノ明示ヲ爲ササルハ違法ニアラス(二六、三、二八、行判)

一七　村長ハ何等ノ事情アリテ村治上ニ困難ヲ見ルコトアルモ法律命令ニ從ヒ其職務ヲ行フ義務アルモノトス(二四、四、二一、行判)

一八　町村制第六十八條ニ依リ郡長カ村會ニ再議ヲ命シタルニ出席議員ナキカ爲メニ村會成立セサリシ場合ニ於テ村長カ郡長ニ對シ直ニ之カ報告ヲ爲ササルハ其職務ヲ怠リタルモノト謂フヘカラス(三〇、五、三、行判)

一九　適法ノ召集手續ヲ盡シタルモ出席議員ナキカ爲メニ村會ヲ開會スルニ至ラサルハ村長ノ職務怠慢ニアラス(三〇、五、三、行判)

二〇　町村内區ノ財産營造物ニ付其區限リ特ニ其費用ヲ負擔スル時ハ其財産又ハ營造物ニ就テハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ從ヒ町村長之ヲ管理ス故ニ本條ニ準シ其管理スル區有財産ニ付町村長部外ニ對シ其區ヲ代表シテ訴訟ヲ爲スノ權能ヲ有スルヤ疑ヲ容レス(二八、五、一民判)

二一　權利卽財産ナリトハ法理上認メテ適當ト爲ス所ナレハ流水使用ノ權利モ亦一ノ財産ナリトス而シテ本訴所爭ノ用水ハ區内人民ノ費用ヲ以テ共同ニ之ヲ使用スルモノナレハ所謂區ノ特別財産ナルコトモ亦言ヲ待タス已ニ區ノ特別財産ニシテ町村會ノ議決ヲ經タルコト明了ナル以上ハ本條ニ依リ町村長之ヲ管理スヘキハ理ノ當然ナリトス(二八、五、一、民判)

二二　町村制第百十五條ノ町村長ノ財産又ハ營造物ノ管理ハ之レ職任上ノ管理ニテ當ニ本條ノ擔任事務ニ屬ス可キモノトス故ニ其管理ハ郡參事會ニ於テ條例ヲ發行シ區會又ハ區總會ヲ設ケタル場合ニノミ限ル可キモノニアラス(二八、四、二二、民判)

二三　町村ノ合併ニ起因スル大字卽部落カ財産ヲ有スルトキハ公法上ニテ其部落ニ法人格ヲ授與スルコトハ町村制ノ規定ニ於テ

之ヲ明認セラル可ク且此法人ハ所謂存在ニ依ル人格ニシテ別ニ何等ノ手續ヲモ要スルコトナク町村ト齊シク町村制ノ實施ト同時ニ確認セラレ法人ハ自ラ其事務ヲ處辨スルコトヲ得サルニ依リ町村制ニ於テモ其代理機關ヲ以テ其所屬町村長ノ職務トナシタルコトモ亦明認セラルル所ナリ(三〇、三、一七、民判)

二四　町村内ノ區カ特別ニ獨立シテ財産ヲ所有スルコトヲ得ル以上ハ之レ即權利ノ主體タル法人ナリトス故ニ法人タル區ノ所有ニ係ル財産ノ管理者ハ勿論町村長タルヘキヲ以テ區ノ名義ヲ以テ訴訟幷和解ニ關スル事務ヲ擔任スル職務權限ヲ有スルコト自ラ明カナリトス(三〇、二、二二、民判)

市制　第八十八條　市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ議案ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

議案ニ對スル市參事會ノ審査權

市會ニ議案ヲ提出スル權限ハ、前述ノ如ク市長ニ屬スルモ、本條ハ市長カ之ヲ提出スルニハ一ノ手續ヲ經サルヘカラサルコトヲ規定ス。即其ノ提出前之ヲ市參事會ノ審査ニ付シ、其ノ意見ヲ議案ニ添附シテ市會ニ提出セサルヘカラス。蓋シ豫メ少數ノ者ヲシテ充分綿密ニ議案ノ内容ヲ審査セシメ、以テ其ノ意見ヲ市會議決ノ參考ニ資セムトスルナリ。市會ニ於テ其ノ意見ヲ採用スルト否トハ固ヨリ其ノ自由ナリ。又假令市會ニ於テ市參事會ノ意見ヲ採リテ議決スルモ市參事會ノ意見カ效力ヲ生スルニ非スシテ、其ノ議決ハ市會ノ議決トシテ效力ヲ生スルナリ。

市參事會ノ意見ハ或ハ全然原案ニ贊成ナル場合モアルヘク、或ハ全然之ニ反對ナル場合モアルヘク、或ハ修正ヲ欲スル場合モアルヘシ。其ノ何レノ場合タルヲ問ハス、市長ハ常ニ自己ノ原案ヲ議案トシテ之ニ其ノ意見ヲ添付シテ市會ニ提出スヘク、決シテ市參事會ノ意見ノ爲ニ原案ヲ變更スル必要ナキナリ。然ラハ市長ハ市參事會ノ意見ヲ相當ナリト認ムルトキハ自ラ原案ニ市參事會ノ意見ト同樣ノ修正ヲ加ヘ、然ル後之ヲ市會ニ提出スルコトヲ得ルカ。此ノ場合ニ於テハ市參事會ノ意見カ市長ノ提出スル議案ニ全然一致スルコトハ明カナリト雖、後ノ議案ハ市參事會ニ提出シタルモノト異ナルモノナレハ、形式上更ニ之ヲ市參事會ノ審査ニ付セサルヘカラサルモノナリト信ス。市參事會ノ意見カ如何ナル場合タルヲ問ハス、市長カ一旦其ノ審査ニ付シタル議案ヲ其ノ儘市會ニ提出スルコトヲ中止スルハ、其ノ權内ニ在ルモノニシテ、違法ニ非ラスト謂ハサルヘカラス。市參事會ノ修正意見ハ議會修正權ノ範圍ト同樣ナラサルヘカラサルハ前ニ述ヘタリ。

審査ヲ經サル議案

市長カ本條ノ手續ヲ經スシテ議案ヲ市會ニ提出シタルトキハ市會ハ之ヲ議セサルコトヲ得ヘシト雖、市會モ亦誤テ之ヲ議決シタル場合ニ於テハ其ノ議決ハ果シテ有效ノモノナリヤ。惟フニ市參事會ノ意見ヲ添付スルハ内部ノ手續ニ過キス、且其ノ意見ハ市會カ之ヲ採用スルト否トハ自由ニシテ法カ之ヲ添付スルコトヲ命セルハ其ノ意見ヲ參考ニ資セシメムカ爲ナルヲ以テ、此ノ手續ノ欠缺ハ市會ノ議決ヲ無效タラシムルモノニ非スト解セサル能ハス。

市制　第八十九條　市
町村制　第七十三條　町村長ハ市町村吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十五圓以下ノ過怠金トス

市町村長ノ市町村吏員ニ對スル指揮監督ト懲戒權

市町村長ハ市町村ヲ統轄スルノ機關ナルヲ以テ、之ニ市町村ノ執行事務ニ從事スル吏員ヲ指揮監督スルノ權ヲ與ヘサルヘカラス。又其ノ指揮監督ヲ爲スニ當リテハ之ニ一部ノ懲戒權ヲ與ヘサレハ充分指揮監督ノ實ヲ擧ケシムル能ハス。故ニ本條ニ於テ市町村長ニ市町村吏員ヲ指揮監督スルノ權ヲ與ヘ、且市長ニハ譴責及十圓以下ノ過怠金ヲ町村長ニハ譴責及五圓以下ノ過怠金ニ科スル權ヲ與ヘタリ、指揮監督ノ權及懲戒權ハ市町村長カ任免ノ權ヲ有セサル吏員ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得ルナリ。然トモ假令任命權ヲ有スル者ニ付テモ懲戒トシテノ解職ハ之ヲ市制第百七十條及町村制第百五十條ノ規定ニ依リ府縣知事又ハ郡長ノ處分ニ待タサルヘカラス。蓋懲戒解職ハ最モ愼重ノ審査ヲ要スルヲ以テ法ハ之ヲ市町村長ノ手ニ委セス、知事又ハ郡長ヲシテ之ヲ行ハシムルコトト爲セルナリ。從ッテ市町村長ニシテ吏員ノ懲戒解職ヲ欲スルトキハ監督官廳ノ監督權ノ發動ヲ仰クノ外ナシ。市ニ在リテハ十圓以上町村ニ在リテハ五圓以上ノ過怠金ニ付テモ亦同樣ナリトス。市町村長ハ又市町村吏員ノ行爲譴責ヲ爲ス迄ノ價値ナシト認ムルトキハ之ニ對シテ戒飭ヲ加ヘテ止ムコトヲモ得ヘシ。戒飭ハ因ヨリ單純ナル監督權ヲ行フニ過キスシテ懲戒ニ非サルヤ論ナキナリ。又任命ノ權ヲ有スル吏員ニ付テハ之ヲ罷免スルコトヲ得ルナリ。然レトモ單純ナル罷免ハ懲戒トハ全ク性質ヲ異ニシ、市町村長カ任命權ヲ利用シテ事實上懲戒ノ實ヲ擧クルニ過キサルナリ。

本條ニ規定スル懲戒ハ譴責及過怠金ナルモ法ハ唯市町村長ノ爲シ得ル懲戒ノ種類ニ譴責ト過怠金トノ二者アルヲ規定セルノミニシテ二者ハ之ヲ並科シ得ヘキニ非ス。譴責ト過怠金トハ仍官吏ニ於ケル譴責ト罰俸トノ如ク情輕キ者ハ之ヲ譴責シ、情重キ者ハ之レニ過怠金ヲ科スルナリ。

如何ナル行爲アルトキハ之ヲ懲戒スヘキカハ各場合ノ問題ニシテ一概ニ之ヲ論スル能ハサルモ、少クトモ違法ノ行爲アルカ、職務ヲ怠リタルカ、又ハ吏員タルノ體面ヲ汚辱シタル等ノ事實ナクムハ之ヲ懲戒スルコト能ハサルナリ。充分職務上ノ注意ト手續トヲ盡シタルニ拘ラス、偶其ノ結果ノ失敗ニ終リタルカ如キ場合ニハ之ヲ懲戒スルコト能ハサルナリ。懲戒ハ又刑罰ト異ナリ、便宜ノ問題ニシテ必要ノ問題ニ非ス。故ニ同一ノ行爲ニ對シテ同一ノ懲戒處分ヲ爲スノ必要ナク、或ハ全ク之ヲ處分セサルコトヲモ得ルナリ。要ハ實際ノ效果如何ヲ見テ懲戒處分ヲ爲スコトト其ノ程度トカ最モ實際ノ事情ニ利益アリト信スル點ニ止マルヘキナリ。本條ノ懲戒ハ輕易ナル程度ノモノニ屬シ、其ノ吏員ノ權利ヲ害スルコト甚タ大ナラス、又其ノ場合モ比較的多數ナルヲ以テ、之ヲシテ一々訴願スルノ權ヲ得セシメハ市町村長ノ監督權ヲシテ充分有效ナラムシムル能ハス。依テ市制第百七十條又ハ町村制第百五十條ノ場合ト異ナリ、之ニ訴願權ヲ與ヘサルコトト爲セリ。

舊法ニ於テハ使丁ノ懲戒ニ付テ規定スルモ、改正法ニ於テハ使丁ノ如キ雜役者ハ事實ノ使用者トシテ法文上ニハ之ヲ認メス、故ニ之ニ關スル規定ヲ設ケサルナリ。

（判　例）

一　町村役場吏員カ不正ノ行爲アルトキハ之カ監督ノ任アル町村長ハ其行爲ヲ關知セサルトノ理由ニ依リ曠職ノ責ヲ免ルヘカラス（二八、五、一四、行判）

二　町村ノ吏員カ常例ノ手續ヲ盡シテ其事務ヲ行フヲ以上ハ職務上相當ノ注意ヲ缺キタルモノト謂フヲ得ス（二七、二、二四、行判）

三　懲戒處分ノ取消ヲ請求スル事件ニ對シテハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ（三六、六、三〇、行判）

市制　第九十條　市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村制　第七十四條　町村會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル郡長ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其ノ裁決第二項ノ裁決又ハ前項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村會ノ議決公益ヲ害シ又ハ町村ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ郡長ノ處分ヲ請フヘシ

前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項府縣參事會ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得
第二項及第四項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

越權、違法又ハ公益ヲ害スル選擧又ハ議決ニ對スル市町村長ノ匡正權

權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ

市町村ノ事務ニ付テハ其ノ議決機關ニ屬スルモノタルト、其ノ執行機關ニ屬スルモノタルトヲ問ハス、國家ノ監督官廳ハ嚴密ニ之ヲ監視シテ誤ナカラシメムコトヲ期スト雖、多數ノ市町村ニ對シテ完全ニ其ノ實ヲ擧クルコト難キノミナラス、屢市町村ノ事務ニ容喙スルハ却ツテ自治ノ發達ヲ望ム所以ニ非サルヲ以テ　法ハ其ノ機關ヲシテ互ニ相牽制セシメテ以テ其ノ非違ニ陷ルヲ防ケリ。故ニ市制第四十五條及町村制第四十二條ニ於テハ議決機關ニ執行機關ヲ監視スルノ權ヲ與ヘ、本條ニ於テハ執行機關タル市町村長ニ決議機關ノ非違ヲ匡正スルノ權ヲ與ヘタリ。本條ニ規定スル場合二アリ。(一)ハ市町村會又ハ市參事會ノ議決又ハ選擧カ其ノ權限ヲ超エ、又ハ法令若ハ會議規則ニ違背セリト認ムル場合ニシテ、(二)ハ其ノ議決カ公益ヲ害シ又ハ市町村ノ收支ニ關シテ不適當ナリト認ムル場合ナリ。何レノ場合ニ在リテモ市町村長ハ自己ノ意見ニ依リ、又ハ監督官廳ノ指揮ニ從ヒ其ノ理由ヲ示シテ、議決ニ付テハ再議ニ付シ、選擧ニ付テハ再選擧ヲ行ハシメサルヘカラス。而シテ若シ其ノ事件カ市町村長ニ於テ執行セサルヘカラサルモノナルトキハ其ノ執行ヲ停止スルヲ要ス。

何カ權限ヲ超越シタリト謂フヘキカハ、一ニ之ヲ各場合ノ事實ニ依リテ判定セサルヘカラス。然トモ市町村會ハ市制第四十一條町村制第三十九條、市參事會ハ市制第六十七條ニ於テ其ノ權限ヲ定メラ

背キタル議決又ハ選擧ト公益ヲ害シ又ハ收支ニ關シ不適當ナル議決ノ意義

ルルヲ以テ、其條項ニ含マサル事件ハ即權限ヲ超エタルモノト謂フヘク、又此等ノ合議體ハ假令其ノ事件トシテハ權限ニ屬スルモ原則トシテ之カ發案ノ權ヲ有セサルヲ以テ、市町村長ノ發案權ヲ侵害セリト認ムヘキモノモ亦權限超越ナリ。何カ法令又ハ會議規則ニ違背スルヤモ亦權限超越ノ問題ト同シク、各個ノ場合ニ決スヘキコトニ屬スルモ、明ニ法令又ハ會議規則ニ衝突スル內容ヲ有スル議決ヲ爲シ、又ハ其ノ定メタル手續ヲ履マスシテ議決若ハ選擧ヲ爲スカ如キハ、之ヲ違法ト認ムヘキナリ、例ヘハ監督官廳ノ不信認ヲ議決セルカ如キ、議案ヲ修正スルニ當リ發案權ヲ侵スノ修正ヲ爲セルカ如キ、又ハ有給吏員ニシテ市長ノ任免スヘキモノヲ選擧セルカ如キハ權限超越ノ議決又ハ選擧ニシテ、過半數ニ達セサル多數ヲ以テ議事ヲ決セルカ如キ、會議規則中三讀會ヲ經ヘキヲ定メタルニ拘ラス其ノ手續ヲ履マスシテ議決セルカ如キ、又ハ市制第五十五條町村制第五十一條ノ手續ニ依ラスシテ市町村長ノ選擧ヲ爲セルカ如キハ法令又ハ會議規則ニ背ケル議決又ハ選擧ナリ。公益ヲ害スルトハ市町村ノ公益ヲ害スルモノノミナラス、一般ノ公益ヲ害スルモノヲモ總テ之ヲ包含ス。收支ニ關シ不適當ナリト謂フハ單ニ必要ノ費用ヲ全ク計上セサルモノノミナラス過剩ニシテ濫費ニ屬スルモノ、過少ニシテ到底目的ニ達スルコト能ハサルモノヲモ包含ス。而シテ何カ之ニ相當スルヤハ一定ノ標準ヲ以テ之ヲ定メ難シ、結局事實ニ依リ條理ト常識ニ依リテ之ヲ判斷スルノ外ナキナリ。但シ法令ニ依リテ市町村ノ義務ニ屬スル費用ヲ豫算ヨリ削除セルカ如キハ、違法ノ議決ト謂フヘク、收支ニ關シ不適當ナル

議決ト謂フヘキモノニ非ス。

程由ヲ示スノ程度

市町村長カ市町村會又ハ市參事會ノ議決ヲ再議ニ付スルニ當リ理由ヲ示スハ如何ナル程度ニ於テスヘキカ。權限ヲ超越シ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ其ノ權限超越又ハ背法ノ部分ヲ指摘スルヲ要スルカ、又公益ヲ害シ又ハ收支ニ關シ不適當ト認ムルトキハ其ノ公益ヲ害シ又ハ不適當ナルコトヲ指示スヘキカ。蓋法ノ主旨ハ何等ノ理由ヲモ示サスシテ再議ニ付スルトキハ、其ノ何カ故ニ再議ニ付セラルルカヲ知ル能ハサルヲ以テ、之ヲ明カニスルニ在ルモ、何等其ノ程度ニ付キ規定スル所ナキヲ以テ、其ノ越權ニ因ルカ、違法ナルニ因ルカ、公益ヲ害スルニ因ルカ、又ハ收支ニ關シ不適當ナルニ因ルカヲ明カニスルヲ以テ足レリトスヘキナリ。

議決ヲ改メサルトキハ再議ニ付シテ其ノ反省ヲ促スノ外、仍之ニ

以上述ヘタル議決機關ノ非違ニ付テハ、議決ニ限リ之ヲ再議ニ付シテ其ノ反省ヲ促スノ外、仍之ニ處スルノ方法ヲ規定ス。其ノ方法ハ(一)ノ場合ニ於ケルト、(二)ノ場合ニ於ケルト其ノ規定ヲ異ニス。

(一)ノ場合ニ於テハ市町村長カ再議ニ付セルニ拘ラス、市町村會又ハ市參事會カ確ク取リテ其ノ議決ヲ改メサルトキハ、市町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得。仍特別ノ事由アルトキハ再議ニ付スルノ手續ヲ省キ直ニ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得ルナリ。又監督官廳即市ニ就テハ內務大臣府縣知事、町村ニ付テハ郡長府縣知事內務大臣ハ、市町村長ノ申請アル迄ハ何時ニテモ自ラ此ノ如キ議決ヲ取消スコトヲモ得ルナリ。(二)ノ場合ニ於テハ市町村會又ハ市參事會カ議決ヲ改メサルトキハ、市町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得ルナリ。又監督官廳即市ニ就テハ內務大臣府縣知事、町村ニ付テハ郡長府縣知事內務大臣ハ、市町村長ニ取消權ヲ與ヘスシテ之ヲ監督官廳又ハ府縣參事會ニ與フルハ其ノ專橫ノ弊ヲ防カムカ爲ナリ。又(一)ノ場合ト(二)ノ場合トニ差異ヲ設ケタルハ、(一)ハ其ノ爭點法令及規則ノ解釋ニ係リ單純ナル認定ノ問題ニ屬シ、其ノ爭點亦法令規則違背ノ如ク必スシモ明瞭ナラサルヲ以テ、其ノ間ニ幾分カ寬嚴ノ差ヲ附シタルナリ。

議決ヲ改メサルトキ

市町村長カ再議ニ付シタルモ議決ヲ改メスト雖モ如何ナル場合ヲ謂フヘキカ。法ノ主旨トスル所ハ單ニ議決ヲ改ムルヲ以テ足レリトスルモノニ非スシテ、其ノ越權若ハ違法又ハ公益ヲ害シ若ハ不適當ナル點ヲ改ムルコトヲ要求スルナリ。故ニ其ノ點ニシテ改マラスムハ議決ヲ改メサルモノトシテ裁決ヲ請フコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス。若シ然ラスシテ單ニ議決ヲ改メタルヲ以テ足レリトスルトキハ、或ハ更ニ修正シテ益非違ノ點ヲ甚タシカラシムル如キ、或ハ非違ノ點ヲ存置シテ他ノ部分ニノミ修正ヲ加フル如キ場合ニ於テハ全ク裁決又ハ處分ヲ請フ能ハサルカ、又ハ新ナル議決トシテ更ニ再議ニ付セサルヘカラス、此レ豈ニ法ノ意ナラムヤ。

特別ノ事由ノ意義

次ニ特別ノ事由アルトキトハ如何ナル場合ニ之ヲ適用スヘキカ。蓋特別ノ事由ト謂フハ府縣制第八十三條カ同樣ノ場合ニ付、場合ニ依リト規定セルトハ意味ヲ異ニス。場合ニ依リトハ一ニ其場合ノ便

再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ行ハシムヘキト再議ニ附スルニ附スルヲ能ハサルトキ

宜ニ一任スルノ意ニ過キスト雖、特別ノ事由ト謂フトキハ特ニ其ノ方法ヲ取ルノ必要アル場合ナラサルヘカラス。故ニ單ニ到底議決ヲ改メサルヘシトイフカ如キハ之ヲ以テ特別ノ事由ト謂フコト能ハス。之ニ反シ再議ニ付セムトスルモ結局市町村會又ハ市參事會カ定足數ニ達セサリシ場合ノ如キハ之ヲ特別ノ事由ト謂フコトヲ得ヘシ。

市町村會又ハ市參事會ノ議決ヲ再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ爲サシムルニ付、法ハ何等ノ制限ヲモ置カサルヲ以テ、必スシモ同會期クルヲ要セス。時ノ情況ニ依リ次ノ會期ニ於テ再議ニ付スルモ妨ケナキナリ。改選又ハ解散ニ依リ異ナリタル議員又ハ會員ノ交替セルニ過キスシテ市町村會自體ハ同一ナルヲ以テ、之ニ向テ再議ニ付スルコトハ亦妨ケナシト解セサルヘカラス。然ラハ再議ニ付セムトスルモ會議成立セス、又ハ議員若ハ會員招集ニ應セサル場合ハ如何。(一)ノ場合ニ於テハ特別ノ事由アルモノトシテ、再議ニ付セスシテ府縣參事會ニ裁決ヲ請フ事ヲ得ルヤ疑ヲ容レス。(二)ノ場合ニ於テハ法ハ再議ニ付セスシテ裁決又ハ處分ヲ請フコトヲ許ササルヲ以テ、全ク裁決又ハ處分ヲ請フノ權ナキモノトスルカ、又ハ市制第九十一條及第九十二條又ハ町村制第七十五條及第七十六條ノ規定ニ依リ處置スルコトヲ得ルカ、余輩ハ後ノ手段ニ依ルコトヲ得ルモノナリト信ス。但シ此ノ如ク解スル結果(一)ノ場合ニ於テモ臨時急施ヲ要スル事件ニ付テハ亦市制第九十二條又ハ町村制第七十六條ノ規定ニ依ルコトヲ得ヘキモ仍(二)ノ場合カ(一)ノ場合ニ比シ簡單ナル手續ニ依ルコトヲ得ルニ至ルヘシ。然トモ之レ法ノ結果ニシテ之ヲ如何トモスル能ハサルナリ。

選擧ヲ改メサルトキ

本條ハ選擧ヲ改メサル場合ニ何等之ニ代ハルヘキモノニ付規定スル所ナシ。蓋選擧ニ付テハ府縣參事會ノ裁決ヲ以テ之ニ代フルハ甚タ穩當ナラサルニ因ルヘシ。故ニ結局何回ニテモ再選擧ヲ行ハシメ之カ反省ヲ促スカ、又ハ監督官廳ニ於テ之ヲ取消スノ外ナカルヘク、事至急ヲ要スル場合ノ如キハ事務ノ澁滯ヲ免レスト雖亦已ムヲ得サルナリ。

效力方法

本條非違ノ匡正ハ之ヲ監督官廳又ハ府縣參事會ノ裁決又ハ處分ニ依リ之ヲ決シ、市町村長ヲシテ自ラ之ヲ決セシメサルノ注意ヲ取ルト雖、事甚タ重大ナルヲ以テ終局ノ手段ヲ盡シテ之ヲ確定スルノ方法ヲ取レリ。而シテ此ノ點ニ付テモ(一)ノ場合ト(二)ノ場合トハ其ノ規定ヲ異ニス。即チ(一)ノ場合ニ於テハ市ニ在リテハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ市長、市會、市參事會又ハ監督官廳タル府縣知事ノ何レヨリモ、又監督官廳ノ取消處分ニ不服アルトキハ市長、市會又ハ市參事會ノ何レヨリモ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得。町村ニ在リテハ監督官廳タル郡長ノ取消處分ニ不服アルトキハ、町村長又ハ町村會ノ何レヨリモ更ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得ヘク、其ノ裁決又ハ第二項ニ依リテ町村長カ請ヘル府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ、町村長町村會又ハ府縣知事ノ何レヨリモ、又監督官廳タル府縣知事ノ取消處分ニ不服アルトキハ町村長又ハ町村會ノ何レヨリモ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルナリ。(二)ノ場合ニ於テハ市ニ在リテハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ市長、市會、市參事會又

ハ府縣知事ノ何レヨリモ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得。町村ニ在リテハ郡長ノ處分ニ不服アルトキハ町村長又ハ町村會ノ何レヨリモ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得ヘク、其ノ裁決ニ付テ不服アルトキハ町村長、町村會又ハ府縣知事ノ何レヨリモ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ルナリ。此ノ如ク(一)ノ場合ニ於テハ行政訴訟ニ依リ、(二)ノ場合ニ於テハ訴願ニ依ラシメシハ、(一)ハ法令ノ解釋ニ屬スル事件ニシテ(二)ハ全ク認定ノ問題タレハナリ。又第二項ニ依ル內務大臣ノ取消ノ處分ニ訴訟ヲ許ササルハ、本法ニ於テハ一方ニ於テハ內務大臣ノ決定ヲ以テ終局ノモノトシ、他方ニ於テハ行政裁判所ヲシテ最終ノ決定ヲ爲サシメサルノ方針ヲ取リシヲ以テナリ。

判決裁決又ハ處分ノ效果

以上ノ手段ニ依リ其ノ議決正當ナリト確定セラレタルトキハ其ノ議決ノ效力ハ始メニ遡リテ確定スヘク、執行停止ハ玆ニ其ノ效力ヲ失ヒ、市町村長ハ之ヲ執行スルノ義務ヲ負フ。若シ其ノ議決又ハ選擧カ取消サレタルトキハ其ノ效力ハ又始メニ遡リテ議決又ハ市參事會ハ同一事件ニ付再ヒ同樣ノ議決又ハ選擧ヲ爲スコトヲ得ス。但シ此ノ場合ニ於テ越權ノモノハ機關ノ意思ト見ルコト能ハサルヲ以テ元來其ノ性質上效力ヲ生スルモノニ非ス、故ニ判決又ハ裁決ニ依ル取消ハ單ニ之ヲ宣言スルノミ。其ノ他ノモノニ在リテハ假令違法ノモノト雖、當然無效ナルニ非ス。判決裁決又ハ處分ニ依リテ玆ニ始メテ取消サルルノ結果ヲ生スルナリ。後ノ場合ニ於ケル取消ノ效果ハ判決、裁決又ハ處分アリタル後ニノミ生スルヤ、又ハ議決又ハ選擧ノ當時ニ遡リテ效果ヲ生スルヤ

執行停止ノ範圍

ハ其ノ何レニ解スルカニ依リテ實際上ノ影響ヲ異ニス。市町村長ハ再議ニ付スルニ當リ執行ヲ停止スルコトヲ要スト雖、事件ノ種類ニ依リテハ執行ヲ要セスシテ當然效力ヲ生スルモノアリ、又市町村長カ既ニ執行セルニ監督官廳カ之ニ命令シテ再議ニ付セシムルコトモアルヘシ。此ノ場合ニ於テ若シ取消ノ效果カ遡ルモノトスレハ、其ノ議決ニ因ルノ行爲ハ悉ク無效ト爲ルヘク、遡ラサルモノトスレハ有效ト爲ササルヘカラス。蓋法ノ趣旨トスル所ハ斯カル議決又ハ選擧カ全ク存セサルコトヲ欲スルニ在ルヲ以テ、其ノ始メニ遡リテ效果ヲ生スルモノト解スヘシ。

市町村會又ハ市參事會自ラ取消シ得ルヤ

議決又ハ選擧ノ執行ヲ停止スルハ、其ノ直接ノ執行ヲ停止スルニ過キサルカ、又ハ總テノ隨伴セル結果ヲモ停止スルモノト解スヘキカ、余輩ハ後ノ解釋ヲ取ルヲ以テ法意ニ合スルモノト信ス。故ニ議決又ハ選擧カ直ニ效力ヲ生シ、更メテ特ニ執行ヲ爲スノ餘地ナキモノハ、其ノ議決又ハ選擧ノ結果ヨリ生スルモノニ付テ停止スヘキナリ。例ヘハ市會ニ於テ違法ニ市參事會員ヲ選擧シタルトキハ、市長ハ其ノ市參事會員ヲ招集スルコト能ハス。蓋市參事會員タルハ市會ニ於ケル當選ヲ本人カ承諾スルニ依リテ效力ヲ生シ、市長ノ執行ヲ要スルモノニ非ヲルヲ以テ之ニ伴フ效果ニ付執行ヲ停止スルナリ。

市町村長又ハ監督官廳カ匡正ノ手段ヲ取ルノ以前ニ於テ、市町村會又ハ市參事會ハ自ラ其ノ議決又ハ選擧ヲ取リ消スコトヲ得ルカ。蓋取消モ亦一ツノ發案ナルヲ以テ其ノ事件カ市町村長ノ發案權ニ屬スルモノニ在リテハ之ヲ取消ス能ハス。市町村會又ハ市參事會ニ於テ發案權ヲ有スルモノニ在リテハ

匡正權ヲ行使スヘキ期間

區會又ハ市町村組合會又ハ町村組合會ニ對スル適用

之ヲ取消スコトヲ得ルモノト解スヘキナリ。例ヘハ豫算ノ議決ノ如キハ之ヲ取消スコトヲ得サルモ、市町村ノ公益ニ關スル意見書ノ如キモノニ付テハ之ヲ取消スコトヲ得ルナリ。

本條ノ規定ハ如何ナル時期ニ於テモ之ヲ適用スルコトヲ得ルカ。換言スレハ議決又ハ選擧アリタル後幾許ノ日時ヲ經過スルモ之ヲ取消スニ付何等ノ制限ナキカ。或ハ法ニ何等ノ制限ナキモ議決事項ノ執行終了後ハ之ヲ行使シ得サルモノト解セサルヘカラストスル者アリ。然レトモ越權ノ議決ノ如キハ假令執行後ト雖之ヲ取消スノ權ヲ與ヘサルハ條理ニ合セス、余輩ハ此ノ解釋ノ理由ヲ發見スルコト能ハス。畢竟本條ノ權利ハ何時之ヲ行使スヘキカ法ニ之ヲ制限スルモノナク、行政ノ實際ニ讓レルモノト謂ハサル可ラス。

本條ノ規定ハ之ヲ區會及市町村組合會又ハ町村組合會ニ之ヲ適用スルコトヲ得ルカ。市町村組合及町村組合ニ關シテハ、市制第百五十六條及町村制第百三十六條ニ於テ、廣ク市又ハ町村ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得ル旨ヲ規定スルヲ以テ本條モ亦之ヲ適用スヘキモノト解スヘシ。而シテ市町村組合及町村組合ノ權限ハ、其ノ目的ニ依リ限局セラルルヲ以テ市町村ノ如ク廣汎ナルコト能ハス。從テ組合會カ其ノ目的外ノ事件ヲ議決スルトキハ、市町村長ハ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得ルナリ。區會ニ關シテハ、市制第百四十六條及町村制第百二十六條ニ於テ、市會又ハ町村會ニ關スル規定ヲ準用スルニ過キス。然ルニ本條ハ市町村長ノ權限ヲ規定シ直接市町村會ニ關スルモノニ非サルヲ以テ疑ナキニ在ラスト雖、若シ此ノ準用ナクシテ、區會ノ議決ハ違法タルト公益ニ害アルトヲ問ハス、區長ニ於テ執行スヘキモノナリトセハ、其ノ非理タルコト論ナシ、故ニ市町村會ノ議事ノ效力ニ關スル規定タル點ニ於テ亦市町村會ニ關スル規定トシ、從テ區會ニ準用スルモノト解セサルヘカラス。

本條ハ議決及選擧ニ付テノミ規定スルヲ以テ、固ヨリ市町村會ニ於テ選擧又ハ當選ノ效力等諸種ノ異議ヲ決定スル場合ニ及ハス。此等ノ場合ニ於テハ市町村會ハ獨立ノ地位ヲ有シ、監督官廳ト雖訴願ノ提越アル場合ノ外之ニ干與スルヲ得ス。然トモ苟クモ議決タル以上ハ市町村會ニ於テ發案權ヲ有スル公益ニ關スル意見ナルト會議規則等ノ議定ナルトハ問フ所ニ非サルナリ。

（判　例）

一　町村制第八條（舊法）ノ規定ハ正當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シタル者ニ對シ其情狀ニ從ヒ制裁ヲ加フヘキノ法意ニ止マルヲ以テ既ニ加ヘタル制裁ヲ減免スルノ村會ノ議決ハ越權ナリトス（三二、六、三〇、行判）

二　縣知事カ縣稅賦課規則中或一部ノ改正案ヲ縣會ノ議ニ付シタルニ際シ縣會カ同規則中他ノ部分ヲモ改正シタルハ縣知事ノ發案セサルコトヲ議決シタルモノニシテ越權ノ措置ナリトス（三六、五、一一、行判）

三　府縣會カ府縣知事ノ解任ヲ內務大臣ニ建議スルコトノ議決ヲ爲シタルハ府縣制第十七條第二項ニ定メタル權限ヲ越エタルモノトス又府縣制第八十四條第二項ハ同制第十五條ニ列記セル事件ニ關スル府縣會ノ議決ナルト同制第十七條第二項ニ依ル議決ナルトヲ問ハス等シク之ヲ適用スヘキモノトス（二六、三、二二、行判）

四　村會議長カ議事ノ採決ニ際シテ可否同數ナルニ拘ハラス再議決ノ手續ヲ行フコトナク直ニ自己ノ意見ヲ以テ可否ヲ定ムルハ不法ナレトモ本條ノ規定ニ依リ之カ匡正ノ途ヲ講セサル以上ハ該決議ハ有效ニ存立スルモノトス從テ村會ハ恣ニ之ヲ取消スコ

議決ノ故障ノ場合ニ關スル町村長ト市トノ關係

ニ故障ナキヲ保シ難キヲ以テ組織シ、之ニ依リテ意思ヲ決定シ、之ヲ表示スルノ途ヲ設ケサルトキハ、既述ノ如シ。而シテ機關ノ活動ヲ期スルコト能ハサルハ勿論ニシテ、法人ハ機關ヲ以テ組織シ、之ニ依リテ意思ヲ決定シ、之ヲ表示スルノ途ヲ設ケサルトキハ、既述ノ如シ。而シテ機關ノ活動ヲ期スルコト能ハサルハ勿論ニシテ、

（第二編市制第四章第二款第九十一條、第三款第九十五條）

町村制第七十三條　町村會ノ議決ニ付テハ市制第百四條ノ規定ヲ準用ス

（第二編市制第四章第二款第九十一條、第三款第九十五條）

市制第百四條　市會ノ議決ニ付テハ第百三條ノ規定ヲ準用ス

（第二編市制第四章第二款第九十一條、第三款第九十五條）

市制第百三條　市會ノ議決ニ付テハ第百條第一項及前三項ノ規定ニ依ル

（第二編市制第四章第二款第九十一條、第三款第九十五條）

市制第百條　市會ノ議決ニ付テハ市長ハ其ノ會議ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開キ又ハ市參事會ノ決定ニ依リ市參事會ノ場合ニ於テ仍市參事會ヲ開キ又ハ府縣參事會ノ決定ニ依リ府縣參事會ノ場合ニ於テ仍府縣參事會ヲ開キ又ハ府縣知事ノ指揮ヲ得テ第百一條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開キ又ハ第百一條第一項但書ノ場合ニ於テ仍

議決ニ關スル故障ノ一

職務ヲ行ヒ能ハサル場合

處置方法

ト能ハス、殊ニ重要ナル機關ニ於テ然リトス。市町村ニ於ケル最モ重要ナル機關ハ議決機關ト執行機關ナリ。故ニ此ノ二ノ機關ノ故障ニ付テハ法ハ詳密ナル規定ヲ設ク。本條ハ即其ノ一ニシテ議決機關タル市町村會及市參事會ニ關スルモノナリ。此ノ場合ニ於テ市町村長ノ發動ニ俟タシムルハ其ノ市町村ノ事務一切ヲ總括スルノ權限ヲ有シ、此等ノ議決機關ト相對スル重要機關タレハナリ。

市町村會又ハ市參事會ニ關スル故障ト認メラルルモノニシテ其ノ意思ニ基カサルモノ三アリ。即(一)ハ市町村會又ハ市參事會ノ全ク成立セサルコト之レナリ。(二)ハ議長又ハ議員若ハ會員カ、自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟、姉妹ノ一身上ニ關スル事件ナルカ爲、除斥セラレテ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ、又ハ召集ニ應スルモ出席議員又ハ會員定數ヲ闕キ、議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數（市參事會ニ在リテハ名譽職市參事會員ノ半數）ニ滿タサルトキハ、法ハ定足數ニ達セサルモ會議ヲ開クコトヲ許スト雖、其ノ規定ニ拘ラス仍會議ヲ開クコト能ハサルコト之レナリ。(三)ハ市町村長ニ於テ市町村會又ハ市參事會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルコト是レナリ。(一)ハ前ニ既ニ之ヲ說述シタルカ如ク全ク議員若ハ會員ヲ缺クカ、又ハ其ノ數會議ヲ開クニ足ラサル（或ハ）ノ缺員ヲ生シタル場合、(二)ハ出席セル議員又ハ會員ノ總數議長ヲ合セテ二人ニ達セサル場合ニシテ。(三)ハ市町村會又ハ市參事會ニ付議スヘキ事件急施ヲ要シ、之ヲ召集シテ議決セシムルノ暇ナキ場合ナリ。天災其ノ他ノ事由ニ依リ召集スル能ハサル場合ハ、召集スルノ暇ナキモノト謂フ

市會ニ關スル場合

ヲ得ヘキカ。然ラス。兩者ハ其ノ觀念ヲ異ニス。然トモ急速召集スルコト能ハサルカ爲ニ、召集スルノ暇ナキニ至ルコトハアリ得ヘキナリ。

上述シタル三箇ノ場合ニ處スルニハ市ト町村トニ關シ其ノ規定ヲ異ニス。蓋其ノ議決機關ト監督官廳トニ相違アルヲ以テナリ。今先ツ市ヨリ之ヲ說述スヘシ。

市會ニ關シ上述三箇ノ場合ヲ生シタルトキハ其ノ何レタルニ論ナク、市長ハ市會ノ權限ニ屬シ其ノ議決ヲ經ヘキ事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得。蓋市參事會ハ市會ト同シク市ノ議決機關ニシテ、其ノ會員モ市會議員中ヨリ選擧セラルルモノヲ有スルノミナラス、市會ノ委任アルトキハ其ノ權限ニ屬スルコトヲ議決シ得ルモノナルカ故ニ、市會ニ代ツテ市ノ意思ヲ決定セシムルニ最モ適當ナルヲ以テナリ。然ルニ市參事會ニハ市會議員以外ノ市參事會員アリ。此等ハ此ノ如ク市會ノ代決ヲ爲サシムル場合ニハ之ヲ除外スルヲ穩當トスヘキヲ以テ、市長市參與及助役ハ市參事會員タルモ議決ニ加ハルコトヲ得サル旨ヲ規定セルナリ。但シ市制第五十條ニ規定セル者ト同シク、會議ニ列席シテ議事ニ參與シ發言スルコトヲ妨ケサルヤ勿論ナリ。本條ノ場合ニ於テ市參事會カ代決ヲ爲シ得ル事件ハ、市會カ市參事會ニ委任スルコトヲ得ル事件ニ限ラサルモノトス。又其ノ議案ハ市會ニ提出スルモノニ非サルヲ以テ市參事會ノ意見ヲ添附スルコトヲ要スルモノニ非ス。故ニ既ニ市參事會ノ審査ヲ經タルモノナルト否トニ拘ラス之ヲ代決セシムルコトヲ得ルナリ。

市參事會ニ關スル場合

次ニ市參事會ニ於テハ如何ニ之ヲ處スヘキカ。法ハ(三)ノ場合ニ付テハ之ヲ次ノ市制第九十二條ニ規定シ、(一)及(二)ノ場合ニ於テハ府縣參事會ニ其ノ代決ヲ請フコトヲ得セシム。蓋之ヲ市長ニ專決セシムルトキハ、便宜ナルヘキモ濫用ノ弊ヲ生スヘク、又市會ヲシテ代決セシムルトキハ、本末ヲ顚倒スルノミナラス、市會モ亦同樣故障ノ狀態ニ在ルコトアルヘク、殊ニ市參事會カ市會ノ代決ヲ爲スヘキ場合ニハ、循環シテ結局應用ニ困シム場合ヲモ生スヘキヲ以テ、市ニ付テ訴願裁決ノ如キ一部分ノ監督權ヲ有シ、且上級ノ地方團體ニ於テ最モ類似ノ組織ヨリ成レル府縣參事會ヲシテ、之ヲ決定セシメムトスルノ趣旨ナリ。

町村會ニ關スル場合

町村會ニ於テハ(三)ノ場合ニ付テハ市參事會ニ於ケルト同シク、之ヲ次ノ第七十六條ニ規定シ、(一)及(二)ノ場合ニ付テハ町村長ハ郡長ニ具狀シテ其ノ指揮ヲ請ヒ、自ラ其ノ事件ヲ處置スルコトヲ得ルナリ。町村ニ於テハ市參事會ノ如キ機關ヲ有セサルヲ以テ、自ラ規定ヲ異ニセサルヲ得サルモ、之ヲ郡參事會ニ代決セシメサルハ何ソヤ。本來ヨリ謂ヘハ此ノ方法ニ依ルヲ最モ權衡ヲ得タルモノトスヘキモ、改正法ニ於テハ町村ノ監督ニ付テハ全ク郡參事會ヲ除外スルノ方針ヲ取リシヲ以テナリ。而シテ之ヲ府縣參事會ノ代決ニ委センカ、郡長ヲ以テ第一次ノ監督官廳トスル町村トシテハ、市ニ對スルノ權衡ヲ得タルモノト謂フ可ラス。茲ニ於テカ已ムヲ得ス郡長ノ指揮ヲ請ハシメテ專橫ニ流ルルヲ防キ、以テ之ヲ町村長ノ處置ニ任セルナリ。

議決ニ關スル故障ノ二應權ヲ行使セヤル場合

以上說ク所ノ外、仍市町村會又ハ市參事會ノ意思ニ基キテ故障ヲ生スル場合アリ。即チ議決ヲ爲ス能ハサル事情ナキニ拘ラス、議決ヲ爲ササル場合之レナリ。此ノ場合ニ於テハ市會又ハ市參事會ニ付テハ、市長ヨリ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得ヘク、町村會ニ付テハ町村長ヨリ郡長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ、自ラ其ノ事件ヲ處置スルコトヲ得。市會ニ付テ市參事會ノ議決ニ付セス、直ニ府縣參事會ノ裁決ヲ請ハシムル所以ノモノハ、其ノ多クハ主トシテ市會內部ノ軋轢又ハ市町村長ニ對スル反感等ニ因ルヲ以テ、斯カル際ニハ市參事會モ亦渦中ニ卷カルルヲ通常トシ、到底充分ノ目的ヲ達スル能ハサレハナリ。

議決ヲ爲ササストハ故意ニ議決ヲ爲ササルヲ謂フモノニシテ、議決ヲ爲ス能ハサルモノトハ其ノ意ヲ異ニス。市町村長カ會期ヲ定メテ招集セルトキニ當リ、或ハ議案ノ調查ヲ要スルモノ多カリシ爲、或ハ天災等ノ故障アリテ開會ノ日少ナカリシ爲、議案ノ議決ヲ終了スル能ハサリシカ如キハ、之ヲ議決ヲ爲ササルモノト謂フヲ得ス。府縣側ニ於テハ此ノ場合ヲモ想像シテ規定ヲ設ケリト雖、市町村會又ハ市參事會ノ如キハ、府縣會ノ如ク一定ノ時期ニ會期ヲ定メテ招集スルモノトハ異ナリ、隨時招集スルモノナルヲ以テ、更ニ之ヲ招集スルモ支障ナキニ依リ特ニ規定ヲ置カサリシナリ。唯故意ニ議決ヲ爲ササル場合ハ、時日ヲ遷延スルモ更ニ招集ヲ爲スモ效果アルヘキニ非サルカ故ニ、之カ規定ヲ設クルノ要アルナリ。然ラハ如何ナル場合ヲ以テ故意ニ議決ヲ爲ササルモノト謂ンヘキカ。畢竟各場合ニ付

之ヲ判斷スルノ外ナキモ、會期ヲ定メテ招集セル場合ニ故意ニ議事ヲ遷延シテ會期ヲ經過セシメタルカ如キハ、口實ノ如何ニ拘ラス議決ヲ爲ササルモノト謂フヘキナリ。

決定ニ關スル故障

以上述ヘタル所ハ市町村會又ハ市參事會ノ議決ニ關スルモノナルモ、法ハ仍決定ニ付テモ同樣ノ處置ヲ取リ得ルコトヲ規定ス。即市會ニ付テハ上述ノ各場合ニ應シテ市參事會又ハ府縣參事會ニ代ハラシムヘク、市參事會又ハ町村會ニ付テハ何レノ場合タルヲ問ハス府縣參事會ニ代ハラシメ（市參事會）、又ハ郡長ノ指揮ヲ請ヒテ町村長之ヲ處置スルコトヲ得（町村會）。但シ市町村會又ハ市參事會ノ決定ニ付テハ之ニ不服アル者ニ對シ、訴願又ハ訴訟ヲ許セル條項多キカ故ニ（市制第二十一條、第三十六條、第三十八條、第百七條、町村制第十八條、第三十三條、第三十五條、第八十七條第百三十條、第百四十六條、第百九十五條）、各本條ニ於テ訴願又ハ訴訟ヲ許セル事項ニ付テハ本項ノ場合ニモ亦之ヲ許スノ規定ヲ置ケリ。然トモ此ノ訴願及訴訟ニ關スル規定ハ、寧ロ注意的ノ條文ト見ルヲ至當ナリト。何トナレハ市町村會及市參事會ノ決定スヘキ事件ヲ代決セル場合ニ、代決セル決定ハ即市町村會又ハ市參事會ノ決定ナリト解シ、總テノ條項ヲ適用セサレハ充分法ノ趣旨ヲ貫撤スルコト能ハサレハナリ。殊ニ市制第三十六條及町村制第三十三條ニ於テ然リトス。

次ノ會議ニ於ケル報告

本條ノ處置ハ誠ニ已ムヲ得サルニ出ツト雖、元來市町村會又ハ市參事會ノ權限ニ屬スル事項ナルヲ以テ、法ハ市町村長ニ命シ、次ノ會議ニ之ヲ報告セシム。固ヨリ報告ニ過キサルヲ以テ、市町村會又ハ市參事會ハ其ノ結果ヲ知了スルニ止マリ、何等其ノ效力ヲ左右スルコト能ハサルハ論ナキナリ。而シテ前條ト異ナリ本條ノ處置ニ付テハ訴願又ハ訴訟ヲ許スノ條項ナシ。郡長ノ町村長ニ對スル指揮モ町村長ニ對スルモノナルノミナラス、命令トハ云フヲ得ヘキモ、處分トシテ町村制第百三十八條ニ依リ訴願ヲ爲シ得ヘキモノニ非サルナリ。

市町村長ノ專決處分權

最後ニ本條ノ規定ハ選舉ニ付適用ナキハ、前條ニ付テ述ヘタル所ノ如シ、又區會及組合會ニ對スル關係ニ付テモ玆ニ之ヲ再說セス。

市制第九十二條　市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市
町村制第十六條　町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町
參事會成立セサルトキ又ハ市町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市町村長ハ
之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ
前項ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ
提起スルコトヲ得

本條ハ所謂市町村長ノ專決處分ノ權ニ付テ規定セリ。專決處分ヲ爲シ得ル場合二アリ。一ハ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會又ハ町村會カ成立セサルトキニシテ、他ハ前條ニ於テ(三)トシテ說明セル招集ノ暇ナキ場合之ナリ。此ノ二ノ場合ニ於テハ市町村長ハ市町村會又ハ市參事會ノ議決又ハ決定スヘキ事件ヲ專斷決行スルコトヲ得。蓋此等ノ場合ニ通常ノ徑路ヲ行カントスルトキハ機宜ヲ失シテ

到底衆厄ヲ避ケ幸福ヲ增進スルコト能ハサルヲ以テ此ノ變例ヲ開ケルナリ。會議不成立ノ場合ハ前條ニ於テ既ニ述ヘタル所ナルモ、本條ニ於テハ更ニ急迫ノ事情ナカルヘカラス。即チ到底府縣參事會ノ裁決ヲ仰キ、又ハ郡長ノ指揮ヲ仰クノ猶豫モナキ事件タルコトヲ要ス。招集ノ暇ナキ場合ニ付テモ亦同樣ナリ。市會ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セサルハ事極メテ變例ニ屬スルヲ以テ、先ツ市參事會ニ代決セシメ、其ノ代決モ亦不可能ナル場合ニ始メテ本條ニ依ラシメムトセルカ故ナリ。從テ市會及市參事會共ニ本條ノ場合ニ相當スルトキハ市會ノ議決又ハ決定スヘキ事件ト雖、市長ハ直ニ之ヲ專決シ得ルハ論ナキ所トス。

果シテ一ノ事件カ此ノ場合ニ該當スルヤ否ヤハ全ク市町村長ノ認定ニ屬スト雖、事苟クモ急ヲ要スルモノハ如何ナル事件モ悉ク之ヲ專決シ得ルモノトスルハ法ノ趣旨ニ非ス。必スヤ之カ爲ニ市町村ノ蒙ムル不利不便忍フヘカラサルモノアルカ、又ハ生存發達ノ上ニ重要ナル關係アルモノナカラサルヘカラスト信ス。例ヘハ災害ニ遭遇シ之カ復舊住民ノ救助急ヲ要スルカ如キハ其ノ例ナリ。此ノ權限ハ市町村會ノ權限ニ立入ルコト極メテ多大ニシテ、且濫用ノ弊ヲ生スルノ虞ナキニ非スト雖、亦一方ニ於テハ之ニ對シ種々ノ掣肘ヲ加フルトキハ、市町村長ヲシテ逡巡時機ヲ失セシメ、行政ノ敏活ヲ期スル能ハサルモノアルヘキヲ以テ、單ニ次ノ會議ニ於テ之ヲ報告セシムルニ止メタリ。

本條ノ規定ニ依リテ爲セル專決事件中其ノ處分ニシテ、市參事會又ハ町村會ノ爲セル場合ニ於テ訴願及訴訟

願又ハ訴訟ヲ許シタルモノハ、前條ノ如ク之ニ訴願又ハ訴訟ヲ許スコトト爲セリ。

市制第九十三條　町村制第七十七條　市町村長其ノ他市町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

市町村吏員ノ國及公共團體ノ事務擔任

市町村長及其ノ他ノ吏員ハ市町村ナル自治團體ニ對シ、服從義務ヲ負フ者ニシテ、市町村ノ事務ヲ擔任スルノ義務アルモ、國家ノ事務ニ至リテハ法律ニ別段ノ規定ナキ限リハ之ヲ擔任スル義務ヲ有セス。然ルニ市町村ノ區域ハ同時ニ國ノ最下級ノ行政區域ナルヲ以テ市町村又ハ其ノ住民ニ關スル國ノ事務ハ、之ヲ市町村ノ吏員ヲシテ取扱ハシムルハ最モ適當ニシテ、且費用ヲ節約スルノ利甚タ大ナリ。府縣又ハ郡ノ事務ニ付テモ亦同樣ナリ。又市町村其ノ他公共團體相互ノ間ニ共助ノ途ヲ開クトキハ、其ノ利便亦甚タ大ナルモノアリ。之レ本條ニ於テ市町村長其ノ他市町村吏員ハ、法令ノ定ムル所ニ依リ、國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ルノ義務アルコトヲ規定セル所以ナリ。法ハ法令ノ定ムル所ニ依ルヘキヲ規定スルヲ以テ、法令ニ於テ命セサル事項ハ、假令團體相互間ノ合意ニ依リ義務ヲ負ハシメムトスルモ能ハサルヤ勿論ナリ。

其ノ執行

茲ニ規定スル所ノ事務ハ固ヨリ其ノ市町村ノ事務ニ非ス。從テ其ノ費用ハ事務ノ屬スル國又ハ公共

ニ要スル費用

身分ノ關係

實例

團體ニ於テ之ヲ負擔スルノ理ナリト雖、事務ノ多クハ其ノ市町村ノ住民ニ關係ヲ有スルノミナラス、公共團體ノ事務ニ付テハ概ネ相互ニ之ヲ擔任スルモノナルヲ以テ、之カ事務ヲ取扱フ市町村ノ負擔ト爲セルナリ。然レトモ法令ニ別段ノ規定アルトキハ之ニ從フヘキコト勿論ナリ。

市町村ノ吏員ハ假令此ノ如キ事務ヲ擔任スルモ其ノ身分ニ變更ヲ及ホスモノニ非ス。假令國ノ事務ヲ掌ルモ市町村長ハ依然トシテ團體ノ吏員ニシテ國家ノ官吏ニハ非サルナリ。然トモ國ノ事務ヲ掌ル場合ニ於テハ國ノ機關トシテ活動スルモノナルヲ以テ、法令ニ依リ上官ノ命令ニ服スルコトハアルヘキモ、決シテ市町村會ノ干渉ヲ受クルコトナキナリ。但シ其ノ費用ヲ市町村ニ負擔セシメタル場合ニ於テハ、其ノ費用ニ付テハ市町村會ノ議決ヲ經サルヘカラサルナリ。

法令ヲ以テ市町村長ニ國ノ事務ヲ掌ラシメタルモノハ甚タ多ク枚擧ニ遑アラス。衆議院選擧法、戸籍法、徴兵令、徴發令、刑事訴訟法、國稅徴收法、土地收用法、傳染病豫防法、種痘法、精神病者監護法、墓地埋葬取締規則、行旅病人死亡人取扱法、水難救護法、河川法、砂防法、森林法、害蟲驅除豫防法及耕地整理法ノ如キ皆之ニ屬ス。公共團體ノ事務ニ付テハ府縣制、郡制、水利組合法及租稅其ノ他ノ收入徴收處分囑託ニ關スル法律（明治四十年法律第三十四號）中ニ之ヲ規定ス。市町村長以外ノ吏員ヲシテ國ノ事務ヲ司ラシムルノ規定ハ小學校令（第六十一條）及本法中（市制第九十七條町村制第八十條）ニ其ノ例アリ。公共團體ノ事務ニ付テハ本法（市制第九十七條町村制第八十條）府縣制（第八十條）郡制（第六十八條）及水利組合法（第三十四條）中ニ之ヲ規定セルモノアリ。

（增）

市町村長ノ事務ノ分掌

市制　第九十四條　市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

町村制　第七十八條　町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

本條ハ市町村吏員ノ事務分掌及事務代理ニ付テ規定セリ、市町村長ハ市町村ヲ總括シ、執行事務ニ付テハ總テ責任ヲ負フモノナレトモ、市町村ノ事務複雜ナル場合殊ニ市町村長カ名譽職タル場合ニ於テ、實際各種ノ場合ニ充分ノ責任ヲ以テ事務ヲ處理スルコトハ甚タ難シ。故ニ一定ノ市町村吏員ヲ限リ其ノ事務ノ一部ヲ分掌セシメ、其ノ責任ヲ以テ之ヲ處理スルコトヲ得セシメタリ。唯必要以上濫リニ分掌ノ事務ヲ多クシ、市町村長ノ責務ヲ等閑ニ附スルカ如キコトヲ防カムトスルト、事務ノ種類ニ依リテハ之ヲ分掌セシムルノ不穩當ナルモノアルヲ以テ之ヲ避ケシメムカ爲、市長ハ府縣知事、町村長ハ郡長ノ許可ヲ受ケシムルコトトセリ。又分掌ノ事務ニハ國ノ事務ト市町村ノ事務トアルヲ以テ、市町村ノ事務ニ付テハ許可ヲ受クルノ前豫メ市町村會ノ同意ヲ得ヘキコトヲ命セリ。蓋事重大ナルヲ以テ市町村ノ意思ニ反シテ之ヲ許可スルハ不穩當ナルヲ以テナリ。市町村長ノ事務ヲ分掌スルコトヲ

得ヘキ市町村吏員ハ助役ニシテ、仍市制第六條ノ規定ニ依リ勅令ヲ以テ指定セラレタル市、市制第八十二條第三項ニ依リ內務大臣ニ於テ區長ヲ有給吏員トナスコトヲ指定シタル市（市制第八十二條第四項）及町村ニ於テハ區長ニモ之ヲ分掌セシムルコトヲ得。町村ノ區長ニ分掌ヲ許シ、普通ノ市ノ區長ニ之ヲ許ササルハ、町村長ハ名譽職ヲ原則トスルト、町村ハ市ニ比スレハ區域廣濶交通至難ノ地アルトニ依リ、實際已ムヲ得サル場合ヲ生スルコトアルヲ以テナリ。

分掌ノ方法及範圍

事務ノ分掌ハ其ノ種類ニ依リテ定ムルト、地域ニ依テ定ムルトヲ論セス、之ヲ爲スコトヲ得。助役ニ付テハ勸業兵事戶籍等事務ノ種類ニ依ルモノ普通ナルヘク、區長ノ如キハ其ノ區ニ屬スル事務ヲ廣ク分掌スルカ如キ地域ニ依ルモノ多カルヘシ。然トモ助役ヲ島嶼ノ如キ孤絕シタル部落ニ派シテ分掌事務ヲ執ラシメ、又ハ區長ヲシテ或ル事務ヲ限リ分掌セシムルモ亦妨ナキナリ。唯注意スヘキハ區長ヲシテ其ノ區外ノ地域ニ屬スル事務ヲ分掌セシムルハ、全ク分掌者ノ權限內ニ在ラサル事務ナルカ故ニ之ヲ爲スコト能ハサルナリ。何レノ場合ニ於テモ分掌ノ事務ニ付テハ權限ノ變更ヲ來シタルモノト見ルヘク、分掌者ハ自己ノ名ニ依リ自己ノ責任ヲ以テ事務ヲ處理スヘク、市町村長ハ監督ノ責任ヲ負フニ止マル。

市町村長ノ事務ノ一部ノ臨時代理

市町村長ハ上述シタルカ如キ事務分掌ニ依ルノ外、市町村吏員ヲシテ自己ノ事務ヲ處理セシムル權限ヲ有セサルトキハ巨細ノ事務ヲ自ラ處理セサルヘカラス。之レ實際ニ於テ不可能ノコトタルヤ論ナシ。故ニ本條ニ於テハ市町村長ハ市町村吏員ヲシテ、其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシメ得ルコトヲモ規定セリ。之レ舊法ニ存セスシテ改正法ニ於テ始メテ採用セル所ナリ。大凡事務ノ代理ニ付三箇ノ場合アリ、一ハ市町村長カ其ノ補助機關ヲシテ事實上ノ事務ヲ處理セシムル場合ナリ。之レ敢テ法ノ規定ヲ待タス當然爲シ得ル所ナリ。從テ此ノ場合ニ於テハ代理者ハ市町村長ノ名ヲ以テ之ヲ處理シ、事務ニ付テノ責任ハ總テ市町村長之ヲ負ハサルヘカラス。二ハ市町村長ニ故障アルカ爲、助役ノ之ヲ代理スル場合ナリ。此ノ場合タルヤ、市町村長カ缺員ナルカ又ハ全ク事務ヲ執ル能ハサルノ際ニシテ、助役ハ全ク自己ノ責任ヲ以テ代理スルナリ。從テ市町村長ハ其ノ監督ノ責任ヲモ負ハサルナリ。三ハ兩者ノ中間ニ屬シ、市町村長ハ全ク事務ヲ取ルコト能ハサルニ非ス、唯一部ノ故障アルカ、又ハ執務ノ不便アルカ爲ニ、法ノ規定ニ依リ市町村ノ吏員ヲシテ一部ノ事務ヲ代理セシムルモノニシテ本條ノ場合即之レナリ。此ノ場合ニ於テハ法ハ代理ヲ認メタルヲ以テ、代理事務其ノモノニ付テハ代理者自ラ其ノ責ニ任スルモ、之ヲ代理セシメシコトカ果シテ適當ナリシヤ否ヤニ付テノ責任ト監督ノ責任トハ市町村長之ヲ負ハサルヘカラス。而シテ其ノ吏員カ市町村長ノ推薦又ハ任命ニ係ルトキハ其ノ責ヲモ負ハサルヘカラサルナリ。但シ代理者ハ法ノ認容ニ依リ代理ヲ命セラルルモノナレハ代理ノ範圍內ニ於テハ外部ニ對シ權限ヲ有ス從テ代理ノ表示ヲ爲シ自己ノ名ヲ以テ事務ヲ處理ス。仍注意スヘキハ法ハ臨時ノ代理ヲ許セルノミナルヲ以テ、常時引續キ或ル事務ヲ本條ニ依リテ代理セシムルカ如キハ許

事務分掌及事務代理ヲ許スヘキ範圍

サレサル所ナリトス。又一部ノ事務ニ限ルヲ以テ、市町村長ノ事務ノ全部ヲ擧ケテ代理セシムルカ如キハ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ。

事務分掌及事務代理ニ關シ、法ハ事務ノ性質ニ付何等ノ制限ヲモ加ヘサルヲ以テ、苟クモ市町村長ノ事務全部ニ非ヲル限リ如何ナル種類ノ事務ヲモ分掌又ハ代理セシメ得ルカ、然ラス。此ノ場合ニ於テハ市會カ市參事會ニ權限ヲ委任スルノ條下ニ述ヘタルト同シク、法カ市町村長ヲシテ其ノ事務ヲ掌ラシムルノ精神ヲ尋ネテ以テ之ヲ決セルサヘカラス。法ノ精神カ特ニ市町村長タル者ヲシテ、或ル組織ニ與ラシメムトセルモノハ之ヲ分掌又ハ代理セシムルコトヲ得ス。之ニ反シ法カ唯市町村長ノ一般ノ權限ニ屬セシメタルモノハ、之ヲ分掌又ハ代理セシムルコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス。例ヘハ市長カ市參事會ノ議長ト爲ルカ如キ、東京市長カ市區改正委員會ノ委員ト爲リ、橫濱市長カ臨時橫濱港設備委員會ノ委員ト爲ルカ如キ場合ハ、組織ニ關スルモノナルヲ以テ、之ヲ分掌又ハ代理セシムルコトヲ得サルナリ。其ノ他ノ事務ニ至リテハ、兵事、勸業、學事、衞生等ノ各事務ハ勿論、苟モ市町村長ノ事務タルモノハ、之ヲ分掌又ハ代理セシムルコトヲ得ヘシ。唯各場合ノ實際ニ當リ、其ノ果シテ穩當ナリヤ否ヤハ自ラ別問題ナリトス。

【判例】

一　本條ノ規定ハ事務分配ノ方法ヲ定メタルニ過キスシテ町村長ハ助役ヲシテ事務ヲ分掌セシメタル場合ト雖仍其事務ニ付責任ヲ免ルルコトヲ得ス（三四、一二、九、行判）

二　町村役場ノ處務規定ニ學事ニ關スル事務ハ助役ノ管理スヘキコトヲ定ムルモ之ヲ以テ該事務ニ關シ町村長ニ其ノ責任ナシト謂フヲ得ス（三一、二、一九、行判）

市參與ノ職務權限

市制　第九十五條　市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

本條ハ市參與ノ職務權限ヲ規定セリ。輓近都會ノ發達ニ伴ヒ、市ニ於テ水道下水瓦斯電氣電燈電車等ノ事業ヲ經營セムトスルノ趨勢ヲ加ヘ來レリ。然ルニ此等ノ事業タルヤ其ノ規模大ニシテ、且特別ノ技術ニ關スルモノナルヲ以テ、特ニ責任ヲ以テ其ノ事業ヲ經營スルノ人ヲ得ルノ必要アリ。市長ヲシテ一般事務ノ傍之ニ當ラシムルハ到底經營ヲ全クスル所以ニ非サルノミナラス、特別ノ技術ニ關スル智識ハ必スシモ之ヲ市長ニ望ムコト能ハス、助役ニ付テモ亦同樣ノ憾アリ。舊法ニ於テハ市參事會員ヲシテ之ニ當ルコトヲ得セシモ、改正法ニ於テハ全ク其ノ組織ヲ改メタルカ故ニ、玆ニ新ニ市參與ノ制ヲ設ケ、市長ノ指揮監督ノ下ニ特別ノ事業ヲ自己ノ名ニ於テ擔當處理セシム。

玆ニハ市ノ經營ニ屬スル事業ト謂フヲ以テ、小學校ノ如キ國ノ營造物又ハ區ニ於テ經營スル營造ニ付テハ市參與ヲ置ク能ハサルナリ。又事業ト謂フヲ以テ單純ナル事務ハ市參與ノ擔任シ得ル所ニ非ス、必スヤ事業ト稱シ得ルモノナラサルヘカラス。更ニ特別ノ事業ト謂フヲ以テ或ル格段ナル事業ナ

ラサルヘカラス。單ニ土木事業ト謂フカ如キハ市參與ヲシテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得ス。從テ特別ノ事業アルニ非サレハ絕對ニ市參與ヲ置クコトヲ得サルナリ。

市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ受クヘキコトヲ規定セルハ、市參與モ亦吏員ナルヲ以テ、市制第八十九條ニ規定スル市長ノ權限ト相對シテ之ヲ明カニセルニ過キサルナリ。

助役ノ職務權限

市制　第九十六條
町村制　第七十九條　助役ハ市町村長ノ事務ヲ補助ス
助役ハ市町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ市町村長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

本條ハ助役ノ職務權限ニ付テ規定セリ。助役ハ市町村長ノ事務ヲ補助シ、市町村長故障アルトキ之ヲ代理スルノ權限ヲ有ス。市町村長ノ補助機關ハ獨リ助役ノミニ非ス。市町村長ハ多クノ補助機關ヲ有セサレハ其ノ職務ヲ執行スルコト能ハサルヤ論ナキナリ。然レトモ他ノ補助機關ハ概ネ定マリタル事務ニ付市町村長ヲ補助スルモノナリ。助役ニ至リテハ此等補助機關中最高ノモノニシテ、一般ノ事務ニ付市町村長ヲ補助スルノ職權アルモノナリ。實際ニ於テハ助役數人アル場合ノ如キハ、之ヲシテ專ラ或ル一部ノ事務ヲ執ラシムルコトアルヘシト雖、之カ爲ニ助役カ其ノ以外一般ノ事務ニ付補助スルノ職權ヲ失フモノニ非ス。又分掌事務ヲ有スル者ト雖、其ノ分掌事務ニ付責任ヲ負フト共ニ、一般ノ事務ニ付テハ仍市町村長ヲ補助スルノ義務ヲ有スルモノナリ。

助役カ市町村長ノ代理ヲ爲ス場合

此ノ如ク助役ハ最高ノ補助機關トシテ、一般ニ亙リテ市町村長ノ事務ヲ補助スルモノナルヲ以テ、市町村長故障アルトキ之ヲ代理スルハ事ノ當然ナリ。茲ニ故障ト謂フハ市町村長缺員ナルカ、又ハ久シク病氣旅行等ノ爲全ク事務ヲ見ルコト能ハサル場合ヲ指スモノナリ。單ニ一部ノ故障ノ如キハ寧ロ臨時ノ事務代理ニ屬スヘキナリ。故ニ此ノ場合ニ於テハ事務分掌又ハ事務代理ノ場合ト異ナリ、市町村長ノ意思ノ發動ヲ待タス、法律上當然ニ且市町村長ノ全部ノ事務ニ付代理ヲ爲スナリ。換言スレハ市町村長ナル機關カ一時助役ナル機關ニ變更セラレタリト見ルヘキ狀態トナルナリ。從ツテ助役ハ自己ノ名ヲ以テ市町村ノ行政ヲ處理スヘク、市町村長ハ毫モ之ニ付テ責任ヲ負ハサルモノトス。

助役ノ代理順序

助役ノ數ハ一人ヲ原則トスレトモ、第六條ノ市及條例ヲ設ケタル市町村ニ於テハ數人ノ助役アルコトハ前既ニ述ヘタル所ノ如シ。此ノ場合ニ於テ何人カ代理ヲ爲スヘキカヲ定メサレハ、同時ニ代理權ヲ有スル者數人ヲ生シ、事務ノ統一ヲ保ツコト能ハサルヲ以テ、市長ヲシテ豫メ代理ノ順序ヲ定メ之ニ依ルヘキ旨ヲ規定セリ。

（附）

市制　第九十七條　收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ收入役ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第二編　市制　第四章　第二款　第九十六條　町村制　第三章　第二款　第七十九條

ハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

町村制　第八十條　收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

收入役ノ職務權限

本條ハ收入役及副收入役ノ職務權限ヲ規定ス。收入役ハ市町村ノ會計事務及法令ノ定ムル所ニ依リ市町村長又ハ市町村吏員ノ掌ル國府縣其ノ他公共團體ノ事務ニ關シ其ノ會計ニ屬スル事務ヲ掌ル。而シテ此等ノ會計事務ニ付テハ收入役ハ市町村長ノ補助機關タルニ非スシテ、之ニ對シ獨立ノ地位ヲ有シ、自己ノ責任ト自己ノ名ヲ以テ之ヲ處理ス。市町村長ハ市ノ統轄者トシテ監督ノ責ヲ有スルニ過キス。恰モ助役其ノ他ノ分掌事務ニ彷彿タリ。唯彼ト此ト異ナル所ハ一ハ市町村長ノ意思ニ因リ一ハ法律上當然此ノ職權ヲ有スルニ在リ。然レトモ收入役ハ此等ノ會計事務ニ付テ一切ノ權限ヲ有スルモノニ非ス。蓋會計事務トハ金錢物品ニ論ナク總テノ動產不動產及財產ノ收支及管理ニ關スル一切ノ事務ヲ包含スルモノト解セサルヘカラス。而モ此ノ如キ廣キ權限ハ收入役ノ有スル所ニ非ス。茲ニ所謂會計事務ト謂フハ市町村會カ市町村ノ財產ノ收支及管理ノ方法等ニ付議決シタル範圍內ノモノタルハ固ヨリ論ナク、實際ノ收支ニ當リテモ收支ノ命令ハ市町村長ニ屬シ、財產及營造物ノ管理モ亦市町村長ノ掌ル所ナリ。故ニ收入役ノ事務ノ範圍ハ事實出納以下ノ會計事務ニ限局セラル。且此ノ範圍內ノ事務ト雖、法令ヲ以テ特ニ收入役以外ノ者ニ管掌セシムヘキコトヲ規定セルトキハ之ニ從フヘキナリ。

財產ノ意義如何

副收入役ノ職務權限

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ、其ノ故障アルトキ之ヲ代理ス。其ノ收入役トノ關係ハ市町村長ト助役トノ關係ニ正ニ相同シク、代理ノ際ハ自己ノ名ト自己ノ責任トヲ以テ收入役ノ事務ヲ處理スルナリ。副收入役ハ町村ニ於テハ一人ナルモ、市ニ於テハ數人ヲ置クコトヲ得ルヲ以テ、助役ト同シク豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ代理ヲ爲スヘキコトヲ規定セリ。代理ノ順序ヲ定ムルコトヲ收入役ニ一任セスシテ市長ノ權ニ屬セシメシハ、收入役ト雖勿論市長ノ監督ニ屬スヘキモノナルヲ以テ、之ヲシテ多ク獨立シタル權限ヲ有セシムルハ市ノ統轄ニ不利ナルニ依ル。其ノ他本項ノ主旨ハ助役ニ就テ說明セル所ヲ推セハ自ラ明瞭ナルヘキヲ以テ更ニ之ヲ贅セス。

收入役ノ事務分掌

收入役ノ事務極メテ繁忙ナル市町村アルヘキヲ以テ市町村長ノ事務ニ倣ヒ、市長ハ府縣知事、町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得セシム。其ノ分掌ヲ爲シ得ヘキ者ハ副收入役ナルモ、第六條ノ市即勅令ヲ以テ指定セラレタル市、及市制第八十二條第三項ニ依リ有給區長ヲ置クヘキコトヲ指定セラレタル市ニ於テハ、仍區副收入役ニモ之ヲ分掌セシムルコトヲ得ルナリ。分掌事務中市町村ニ屬スルモノハ市町村長ノ事務ノ分掌ト同シク、許可ヲ受クルノ前市町村會ノ同意ヲ得サルヘカラス。本項モ亦曩ニ市町村長ノ事務ノ分掌ニ付テ述ヘタルト同樣ニシテ、唯異ナル所ハ分掌スル所ノ事務ノ範圍ニ過キサルヲ以テ之ヲ略ス。但シ分掌セシムルト否トヲ市町村長ヲシテ定メシムルハ、前項代理順序ニ付テ述ヘタルト同一ノ理由ニ基ツクナリ。而シテ分掌者ノ名ヲ以テシタル事務ニ付テハ收入役ハ監督ノ責任ヲ負フノミニ止マリ、市町村長ハ監督ノ責ト分掌セシメタルコトノ可否ニ付テノ責トヲ負ハサルヘカラス。

收入役代理者

收入役ハ會計事務ニ付獨立ノ地位ヲ有スルヲ以テ、缺員等ノ故障アルトキ之ヲ代理スヘキ者ナカルヘカラス。故ニ法ハ副收入役ノ制ヲ設ケ、又監督官廳ニ臨時代理者ノ選任及官吏派遣ノ權ヲ與ヘタルモノナリ。（市制第百六十四條、町村制第百ノ十四條）、副收入役ナキ市町村ニ於テ監督官廳ノ職權ニ依リテ常ニ此ノ需用ニ應セムトスルハ甚タ當ヲ得サルヤ論ナシ。故ニ副收入役ヲ置カサル市町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ市ハ府縣知事、町村ハ郡長ノ認可ヲ受クヘキコトヲ規定セリ。此ノ場合ノ代理者ハ副收入役ト同シク自己ノ名ト自己ノ責任トヲ以テ代理事務ヲ處理スヘク、從テ收入役ハ其ノ事務ニ付テ責ヲ負ハス、又監督ノ責任モアルコトナキナリ。代理者ヲ定メ置クヘキヤ否ヤハ必スシモ明瞭ナル問題ニ非ス。大凡監督權ノ作用ハ指揮シ命令シテ其ノ事務ヲ擧ケシムルニ在リテ、自ラ其ノ事務ヲ處理スヘキモノニ非ス。若シ自ラ之ヲ處理スルノ場合アレハ法規ニ之ヲ許シタルノ根據ナカルヘカラス。然モ本法ニ於テハ市町村長ハ監督官廳ニ收入役ノ事務ヲ處理セシメ得ヘキ規定ナシ。故ニ余輩ハ此ノ如キ場合ニ於テハ市町村長ハ監督官廳ノ注意ヲ喚起シ、臨時代理者又ハ職務管掌者ヲシテ其ノ職務ヲ掌ラシムル途ヲ採ルノ外ナシト信ス。

一時全ク收入役ノ代理スルタル者ノ闕ケタル場合ノ處置

（判　例）

一　町村ノ實地ノ出納及ヒ現金ノ保管ハ本條ニ依リ事ヲ收入役ノ職責ニ屬スルモノトス故ニ盜難亡失ニシテ不可抗力ニ出テタル限リハ收入役ヲシテ之ヲ賠償セシムヘクモ町村長ニ對シ賠償責任ヲ負ハシムヘキモノニアラス（三九、三、八、行判）

二　町村收入役ハ執務時間ノ內外ヲ問ハス現金保管ノ職責ヲ有シ不可抗力ニ因ル場合ノ外其責任ヲ免ルヽコトヲ得ス從テ盜難其他ノ危險ノ豫防上相當ナル設備ヲ爲ササルカ爲保管金ヲ亡失シタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（三九、三、八、行判）

三　町村ハ其町村ノ國稅ヲ徵收シ之ヲ國庫ニ送付スルノ責任ヲ有ス從テ詐稅金ハ本條ニ依リ收入役ニ於テ當然受領スヘキモノナレハ其保管上ノ注意ヲ缺キ之ヲ亡失シタルトキハ賠償ノ責ヲ免カレサルモノトス（三八、一〇、一九、行判）

四　收入役納稅者ヨリ納入シタル地方稅金ヲ管理中其不注意ニ因リ亡失シタルトキハ收入役ハ賠償ノ責ヲ負フヘキモノトス（二五、一〇、二〇、行判）

五　收入役代務者ノ資格アル者カ其受領ノ金員ヲ費消シタルトキハ之カ使役者タル收入役ニ於テ其責任ヲ免ルヘカラス（二八、一四、行判）

市制　第九十八條　第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區內ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス

第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

區長ノ職務權限

本條ハ勅令ヲ以テ指定スル市ノ區長ノ職務權限ヲ規定ス。此等ノ市ノ區長ハ市長ノ命令ヲ承ケ又ハ法令ノ規定ニ從ヒテ、其ノ區ノ區域內ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル。第六條ノ市ノ區ノ何タルカハ既ニ前ニ之ヲ述ヘタリ。即行政事務ヲ有スルト同時ニ財產營造物ヲ所有スルコトヲ得ル公法人ニシテ、其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法律命令ヲ以テ區ニ屬セシメタル事務ハ、之ヲ處理スルノ義務ヲ有スルカ故ニ、市ノ事務及此等ノ事務ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒテ區長之ヲ管掌スルノ職權ヲ有ス。

區ハ一面市內ノ行政區劃ニシテ區長ハ區內ニ於ケル市ノ事務ヲ掌ルヲ以テ、市町村ニ於ケルト同シク區長其ノ他區ノ吏員ハ、市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ規定ニ從テ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ルコトトセリ。前ニ市町村ニ付テ述ヘタルモノノ中衆議院議員選擧法戶籍法傳染病豫防法精神病者監護法及種痘法ノ如キハ、卽此等ノ義務ヲ命スルノ法令ナリ。茲ニハ廣ク區吏員ト規定スルモ區收入役及區副收入役ハ次條ノ規定ニ依リ上記ノ事務ノ中出納其ノ他會計事務ニ限リ之ヲ擔任スヘキモノナリ。

區長ノ職權ハ上述ノ如ク廣汎ナルヲ以テ、其ノ故障アルトキ之ヲ代理スヘキ者ヲ置カサレハ事務ノ澁滯ヲ來スヲ免カレス、此ノ場合ニハ區收入役及區副收入役タラサル區所屬吏員ノ上席者ヨリ順次區長ノ事務ヲ代理スヘキコトヲ定ム。特ニ代理者ヲ選定セサルハ、此等ノ區長ノ事務繁雜ナリト雖市

區長故障アルトキノ代理

區長及區ノ吏員ハ國及公共團體ノ事務擔任

町村ト異ナリ別ニ代理者ヲ置ク迄ノ必要ナカルヘキヲ以テ簡易ノ制ヲ取レルナリ。何人カ上席ナルヤハ市ノ制度ニ依リ之ヲ定ムルノ外ナシ。其ノ區收入役及區副收入役ヲ除外セルハ、會計事務ニ付區長ニ對シ獨立ノ地位ヲ有スルヲ以テ、兩者ノ事務ヲ幷セテ行ハシムルハ、特ニ區收入役及區副收入役ヲ設ケタル立法ノ精神ヲ沒却シ、弊害ヲ生スルノ虞アルヲ以テナリ。區收入役代理者モ亦少クトモ代理ノ期間ハ、區長ノ代理ヲ爲シ得サルモノト解スヘキナリ。

區長及區所屬ノ市吏員ノ事務ノ執行ニ要スル費用

本條ニ規定スル事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ之ヲ市ノ負擔トセリ。蓋第一項第二項ニ於ケル事務ノ多クハ、本來市ノ事務タルヘキモノヲ區ヲシテ行ハシムルカ故ナリ。然トモ區本來ノ事務ニ付テハ、區カ其ノ負擔ニ任スルハ其ノ處ナリトセサルヘカラス、故ニ此等ハ但書ノ規定ニ依リ、其ノ相當セルモノハ區ノ負擔トセラルヘキナリ。(明治四十四年勅令第二百四十四號第十三條參照)

有給區長ヲ置クヘキ市ヘノ準用

最後ニ本條ノ規定ハ內務大臣カ有給區長ヲ置クヘキモノトシテ指定シタル區ニ悉ク準用セラルルカ故ニ、此等ノ區ノ區長及區所屬ノ吏員ハ亦本條ノ適用ヲ受クルコトト爲ルナリ(市制第八十二條)。

市制　第九十九條　第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務竝國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ニ規定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

區收入役及區副收入役ノ職務權限

本條ハ第六條ノ市、卽勅令ヲ以テ指定スル市ノ區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ付規定ス。第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ、又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務ト、國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ補助シ區收入役故障アルトキハ之ヲ代理ス。區副收入役ハ區收入役ノ事務ヲ補助シルハ前述ノ如クナルヲ以テ、區收入役ハ市收入役ニシテ市長ニ非サル補助及代理ノ關係ハ市副收入役ノ市收入役ニ於テ會計事務ノ責任ヲ負フ者ハ市收入役ニシテ市長ニ非サ員ナルヲ以テ市長ノ監督ヲ受クヘキハ論ナキナリ。其ノ區長ニ對スルノ關係ハ市收入役ト市長トノ關係ト同シク會計事務ニ付テハ唯區長ノ監督ヲ受クルニ止マルモノトス。區副收入役ノ區收入役ニ對スヲ代理ノ順序ニ關スル規定ヲ必要トセサルノミ。

區收入役ノ事務ノ分掌

區收入役ノ事務ハ、第六條ノ市ニ在リテハ其ノ分量モ甚タ多ク、且會計ノ事務ハ正確嚴密ナラサルヘカラサルカ故ニ、一人ヲシテ事實不可能ナル責任ヲ負ハシムルハ當ヲ得サルヲ以テ、區長ニ付テハ事務ノ分掌ヲ許ササリシニ拘ハラス、區收入役ニ付テハ之ヲ認メタリ。即區長ハ市長ノ許可ヲ得ルトキハ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得ルナリ。但シ他ノ事務分掌ノ例ニ倣ヒ、區ニ關スル會計事務ナルトキハ區長ハ豫メ區會ノ同意ヲ得タル後之カ許可ヲ爲ス前先ツ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トス。區長ヲシテ區收入役ノ事務ノ分掌ヲ定メシムルハ、市ニ於テ市收入役ノ事務ノ分掌ヲ市長ニ定メシメルト同一理由ナリ。其ノ他ハ總テ市收入役ノ條ヲ參照スヘシ。

區收入役代理者

區收入役故障アルトキハ區副收入役之ヲ代理スヘキモ、區副收入役ヲ置クト否トハ市ノ自由ナルヲ以テ、區副收入役ヲ置カサル場合ニ付テ別ニ代理ノ規定ヲ設クルノ必要アリ。依テ此ノ場合ニハ市長ハ區ノ吏員中ニ之ヲ代理スヘキ者ヲ定ムヘキコトヲ命セリ。其ノ選定ハ市收入役ノ代理者ト同シク平素豫メ之ヲ爲シ置クヲ法ノ精神トス。

有給區長ヲ置ク市ヘノ準用

本條ノ規定モ亦前條ト同シク內務大臣カ有給區長ヲ置クヘキモノトシテ指定シタル市ノ區收入役及ヒ區副收入役ニ關シ之ヲ準用スヘキモノトス。

市制第百條　名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助ス

名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

町村制　第八十一條　區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

普通ノ市及町村ノ區長ノ權限

第六條ノ市及內務大臣カ有給區長ヲ置クヘキモノト指定シタル市ヲ除キ、其ノ他一般ノ市ト町村トハ、處務便宜ノ爲區ヲ置クト否トハ其ノ市町村ノ自由ナルコト既述ノ如シ。本條ハ此等ノ市町村カ區ヲ置キタル場合、其ノ區長及其ノ代理者ノ職務權限ニ關スル規定ナリ。此等ノ區ノ區長ハ市町村長ノ命ヲ承ケ、市町村長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助シ、其ノ代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ、區長ノ故障アルトキ之ヲ代理ス。抑市ノ區長ニ三種アリ。一ハ第六條ノ市ノ區長ニシテ有給職タリ、二ハ處務便宜ノ爲ニ劃シタル區中內務大臣ノ指定ニ依リテ有給區長ヲ置クコトヲ得ル區ノ區長、三ハ其ノ他ノ處務便宜ノ爲ニ劃シタル區ノ區長ニシテ名譽職タリ。而シテ本條ハ第三ノモノニ付規定スルヲ以テ特ニ名譽職區長ト稱スルモ、町村ニ於テハ區長ヲ置クヲ得ルノ區ハ、唯處務便宜ノ爲ニ劃スルモノノミナルヲ以テ、其ノ區長ハ名譽職ナルモ特ニ名譽職ノ文字ヲ附セサリシナリ、實質ニ於テハ全ク同一タリ。區長代理者ニ付テモ亦同シ。區長代理者ノ代理ノ場合ハ助役副收入役等ニ付前ニ屢述ヘタル所ト異ナル所ナシ。唯此ノ場合ニ於テ區長ハ市長ノ事務ヲ補助スルニ過キサルヲ以テ自己ノ名ヲ以テスルノ事務ナク、從テ區長代理者モ亦補助事務ヲ代理スルノミ。本條ニハ市町村長ノ事務ヲ補助スル

コトヲ規定スルヲ以テ、國又ハ公共團體ノ事務ト雖、已ニ市町村長ノ事務タリ且區内ニ關スルモノタルト以上ハ之ヲ補助スルナリ。

《判　例》

一　區長ハ其事務カ町村固有ノ事務タルト否トニ拘ラス町村長ノ事務ヲ補助スヘキ職責ヲ有シ區ヲ郡會議員選擧事務ニ付テモ亦町村長ヲ補助スヘキモノナレハ所謂選擧事務ニ關スル吏員ナリ（三四、一〇、一六、行判）（三七、一、二二、行判）

二　苟モ町村長ノ管掌ニ屬スヘキ事務ナル以上ハ其種類性質ノ如何ヲ問ハス別ニ反對ノ規定ナキ限リ區長及區長代理者ヲシテ之ヲ補助セシムルコトヲ得（四一、三、一八、行判）

委員ノ職務權限

市制第百一條　町村制第八十二條

委員ハ市町村長ノ指揮監督ノ下ニ財産又ハ營造物ヲ管理シ、又ハ市町村ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

本條ハ委員ノ職務權限ヲ規定ス。委員ハ市町村長ノ指揮監督ノ下ニ財産又ハ營造物ヲ管理シ、又委託ヲ受ケテ市町村ノ事務ヲ調査シ若ハ處辨ス。委員ニハ常設委員ト臨時委員アリ。兩者ハ其ノ組織ニ付テハ異ナルコトアルモ、職務權限ハ全ク相同シ。勿論各個ノ委員カ皆等シク茲ニ揭クル全部ノ職權ヲ有スルニ非ス。或ハ財産又ハ營造物ヲ管理スルノ委員モアルヘク、或ハ市町村ノ事務ノ一部タル勸業衞生土木敎育等ニ付テノ調査委員モアルヘク、或ハ此等ノ事務ヲ處辨スルモノモアルヘシ。而シテ此等ノ委員ハ市町村ノ需用ニ應シ、或ハ常設委員タリ、或ハ臨時委員タルナリ。唯其ノ何レニ在リテモ此ニ揭クル以外ノ職權ヲ有スルコトアルナシ。即委員ノ職務ハ内部ニ關スルモノニ過キスシテ自己ノ名ヲ以テ市町村ヲ代表シ外部ニ對スル權ノ如キモ之ヲ有スル能ハサルナリ。同樣ノ解釋ヲ取レルカ如シ。委員ハ區ノ事務ニ付テ之ヲ設クルコトヲ得ルナリ。舊法ニ於テハ特ニ事務分掌ナル文字ヲ用キタルニ拘ラス、仍村組合及町村組合ハ之ヲ設クルコト能ハサルハ法文上明カナルモ市町

市制第百二條　町村制第八十三條

市制第八十五條及町村制第七十一條ノ吏員ノ職務權限

本條ハ市町村長、市參與、助役、收入役、副收入役及委員等ノ者以外ニ於テ特ニ法カ名稱ヲ附セサル吏員ニ關スル職務權限ナリ。此等ノ吏員ハ前述ノ如ク法ニ名稱ヲ附セサルモ所謂市町村書記等下級吏員ヲ指スモノニシテ市町村長ノ命ヲ承ケテ諸種ノ事務ニ從事ス。勿論實際ニ於テハ市町村長カ悉ク直接ニ命ヲ下スモノニ非スシテ市町村長ノ定ムル所ノ處務規程ニ從ヒ上司ノ命ヲ承クルコトアルヘキナリ。

《判　例》

一　町村役場吏員カ宿直ヲ爲シ得サル事由アルトキハ他ノ吏員ニ代勤セシメ又ハ町村長ニ申告スル等相當ノ處置ヲ爲ササルヘカラス從テ擅ニ使丁及ヒ小使ヲシテ代勤セシムルカ如キハ其職務ヲ盡ササルモノトス（三八、一〇、三、行判）

二　村役場ノ書記ハ元來村長ニ從屬シテ庶務ニ從事スヘキ吏員ニシテ村長ノ指揮ニ依リ何レノ事務ヲモ取扱フヘキ者ナレハ選擧ノ際他ノ事務ヲ分掌シタリトスルモ村長ノ指揮ヲ受クレハ何時ニテモ選擧事務ニ關係セサルヘカラス（三三、一二、七、行判）（三

七、七、八、行列）

三　町村ノ書記ハ町村制第七十二條ニ依リ町村長ノ指揮ノ下ニ事務ヲ分掌スルモノナレハ其ノ命令ヲ受ケテ町村稅滯納處分ヲ爲スモ違法ト謂フヲ得ス（三四、四、二二、行列）

四　町村ノ庶務ハ町村長自ラ行フコトヲ要スルモノ外書記ヲシテ分掌セシムルコトヲ得故ニ財產差押執行ノ如キハ書記ニ於テ之ヲ行フモ違法ニアラス（三八、四、二九、行列）

五　町村制第百二條ハ町村ノ收入ヲ定期內ニ完納セサル者アルニ方リ之ヲ徵收スルノ方法ヲ示シタルニ過キスシテ町村長自ラ之ヲ行フヘキコトヲ命シタルモノニアラス（三八、四、二九、行列）

市制第八十六條ノ委員ノ職務權限

區長事務ノ代理

市　制　第百三條　第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

本條ノ吏員ハ第六條ノ市及內務大臣カ有給區長ヲ置クヘキモノトシテ指定シタル市ノ區ニ於ケル區長以外ノ吏員ニ關スル職務權限ヲ規定ス。此等ノ吏員ハ區收入役區副收入役及區書記ノ類ニシテ區長ノ命ヲ承ケテ事務ニ從事スルモ固ヨリ市吏員タルヲ以テ、市長ノ指揮監督ヲモ受クヘキハ勿論ナリトス。又市書記等ト同シク處務規程ノ定ムル所ニ依リ、區長以外ノ上司ノ命ヲ承クルコトアルヘキナリ。

區長ハ此等ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得ルナリ。臨時代理ノ何タルカハ前ニ述ヘタル所ノ如シ。區收入役、區副收入役及現ニ代理セル區收入役ノ代理者ヲシテ區長ノ事務ヲ代理セシムルヲ得サルモノト解スヘシ。

給料及給與

本章ハ專ラ市町村吏員及其ノ他ノ名譽職ノ財產上ノ權利ニ付テ規定セリ。本章ニ揭クルモノハ費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職、給與金、死亡給與金及遺族扶助料トス。名譽職ハ業務ノ傍團體ノ事務ニ從フモノナルカ故ニ、其ノ生活ノ資料ヲ給スルノ要ナシ。唯職務ノ爲ニ要スル費用ヲモ之ニ負擔セシムル能ハサルカ故ニ、法ハ其ノ費用ノ辨償ヲ得セシム。又其ノ勞務ニ付テハ報酬ヲ與フル相當ナル場合アルヲ慮リ、之ヲ給スルコトヲ許セリ。有給吏員ハ之ニ反シ一身ヲ捧ケテ市町村ノ事務ニ從フ者ナルカ故ニ、固ヨリ生活ノ資料ヲ得ルノ途ヲ與ヘサルヘカラス。故ニ之ニ給料ヲ支給シテ其ノ地位ニ相當スルノ生活ヲ爲スヲ得セシムル。又一身ヲ捧ケテ職務ニ從フ以上在職中退職後ノ計ヲ爲ス能ハサルハ勿論ナルヲ以テ、退隱料、退職給與金、死亡給與金及遺族扶助料ノ制ヲ設クルヲ得セシメ、安シテ其ノ事務ニ服セシメムトセリ。旅費ニ至リテハ名譽職ノ實費辨償ト同シク、職務ニ要スルノ費用ナルヲ以テ、之ヲ支給セシメタルナリ。而シテ舊法ノ如ク本章ヲ市町村行政ノ一部ニ規定セシテ別ニ一章ヲ置キタルハ、獨リ市町村吏員ノミナラス其ノ他ノ名譽職タル市町村會議員等ニ關スル給與ヲモ包含スルヲ以テナリ。從ツテ本章ハ市町村ノ事務ニ從事スル者ノ給料又ハ給與ニ關スル規定ノ一切ヲ網羅スルモ、唯市制第百六十四條及町村制第百四十四條ノ規定ニ依リ監督官廳ノ選任セル吏

員ニ關スルモノ及職務停止中ノ吏員ニ付テハ各其ノ條項ニ於テ例外ヲ設ケタリ。

市制 第百四條 名譽職市參與、市會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職市參與、名譽職區長、名譽職區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

町村制 第八十四條 名譽職町村長、名譽職助役、町村會議員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長、名譽職助役、區長、區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

名譽職ノ費用辨償

本條ハ名譽職ノ費用辨償及報酬ニ付規定ス。名譽職町村長、名譽職助役、市町村會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲ニ要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得。名譽職市町村ノ公民ヲシテ本務ノ傍其ノ市町村ノ公務ニ參與セシメ、市町村ノ自治ノ爲ニ盡サシムルヲ趣旨トスルモ、此等ノ職員カ職務ノ爲ニ要セシ費用ヲモ負擔セシムルハ其ノ理ナキヲ以テ費用ハ之カ辨償ヲ受クルコトヲ得セシメタルナリ。費用ノ辨償ハ實費ヲ支給スヘキモノナリト雖、各箇ノ場合ニ一一實費ヲ計算スルハ煩ハシキノミナラス、或ハ殆ントト之ヲ分別シテ計算スルコト能ハサル場合モアルヘキヲ以テ、豫メ一定ノ標準ヲ設ケ之ニ該當スルモノハ其ノ定ムル所ノ實費ヲ要セルモノト看做スモ亦不可ナキナリ。此ノ場合ニ於テハ不足ヲ請求スルコトヲ得ス、又過剩ヲ返附スルノ要ナシ。例ヘハ旅費ニ一定ノ標準ヲ設ケ又ハ市町村會議員ニ開會中一定ノ滯在日當ヲ給スルカ如キ之レナリ。茲ニ其ノ他ノ名譽職員ト謂フハ名譽職區長、區長代理者及委員ヲ謂フ。舊法ニ於テハ市町村會議員ニ實費ノ辨償ヲ爲シ得ルヤ否ヤニ付、解釋二ニ分レ判例ハ之ヲ消極ニ解セルヲ以テ改正法ニ於テハ特ニ之ヲ明記セルナリ。

名譽職ノ報酬

名譽職町村長、名譽職市參與、名譽職助役、名譽職區長、區長代理者及委員ニハ上ニ述ヘタル費用辨償ノ外、勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得。報酬ハ有給吏員ノ給料ト異ナリ、勞務ニ對スル對價ナリ。故ニ勞務ニ相當セサルヘカラサルナリ。給料ノ如ク吏員タル身分ニ適應スルモノニ非サルナリ。唯事ノ實際ニ於テハ勞務ノ價値ハ人ニ依リテ異ナリ、確タル標準ナキヲ以テ往々給料ト區別ナキ狀況ヲ呈スルニ至ル。而モ其ノ觀念ニ於テハ明白ナル區別アリ。從テ報酬ハ必スシモ之ヲ給セサルヘカラサルモノニ非サルモ、給料ハ必ス之ヲ給セサルヘカラス。勤務ニ相當スルトハ如何ナル程度ノモノヲ謂フカハ、各場合ニ於テ事務ノ繁閑地位ノ優劣等一般ノ狀況ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルノ外ナシ。抑此等ノ名譽職ニ限リ報酬ヲ受クルヲ得シメタルハ多クハ吏員トシテ常時市町村ノ事務ニ從事スルヲ以テ

議決機關ノ構成分子タル市町村會議員市參事會員ニ比シ勤勞ノ度モ亦自ラ大ナルモノアリ、各自ノ本業ニ累ヲ及ホスコトモ亦從テ大ナルヘケレハナリ。

費用辨償及報酬ノ額ト其ノ支給方法

費用辨償及報酬ノ金額ハ何程トスヘキカハ、市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ムヘキナリ。費用辨償及報酬ハ之ヲ辭スルコトヲ得ルハ勿論ナリ。仍市制第八十四條第二項町村制第七十條第二項及市制第百七十條第五項及町村制第百五十條第五項ニハ名譽職ニ停職ヲ命シ、其ノ間報酬ヲ停止スルノ條項アルヲ注意スヘシ。

有給吏員ノ給料及旅費

（判例）

一　現金ヲ支給セスシテ會議費中ヨリ議員ノ辨當料ヲ支拂フカ如キハ實費辨償金ト謂フヲ得ス（三五、一二、二二、行判）

市制　第百五條　市長、有給市參與、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

町村制　第八十五條　有給町村長、有給助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

市長、有給町村長、有給市參與、有給助役其ノ他ノ有給吏員ニハ給料及旅費ヲ支給セサルヘカラス。而シテ其ノ金額及支給ノ方法ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ムヘキナリ。給料ハ報酬ト異ナリ勤務ニ對スルノ反對給付ニハ非ス總テ有給吏員ハ一身ヲ捧ケテ市町村ノ爲ニ其ノ職務ヲ盡ササルヘカラスシテ名譽職ノ如ク業務ノ傍ニ職務ヲ執ルモノニ非ス。從テ自ラ產ヲ治メ生計ヲ立ツル能ハサルカ故ニ、市町村ハ之ニ對シテ其ノ地位ニ相應スルノ生活ヲ爲サシムルノ資料ヲ給セサルヘカラス。之レ即給料ニシテ國家ノ官吏ニ於ケル俸給ニ相當スルモノナリ。旅費ハ有給吏員カ職務ノ爲旅行スルニ當リ其ノ實費ヲ支給スルヲ趣旨トス。然レトモ費用辨償ニ付テ述ヘタルカ如ク、一定ノ標準ニ依リ之ヲ支給スルハ固ヨリ妨ケナキナリ。舊法ニ於テハ給料額ノ議決ニ付テハ其ノ吏員ノ地位ニ依リ、市ニ在テハ內務大臣又ハ府縣知事、町村ニ在リテハ郡長ノ許可ヲ受クルヲ必要トシ、又市ニ於テハ廣ク有給吏員ノ給料額ヲ條例ヲ以テモ定メ得ルコトヲ規定セルモ改正法ニ於テハ之ヲ削除セリ。蓋之ヲ經驗ニ徵スルニ此ノ如キ監督ヲ必要トセルノ事實ナキヲ以テ寧ロ之ヲ市町村ニ一任スルヲ實際ニ適スルモノト認メタルニ因ルヘシ。

市制第百六十四條及町村制第百四十四條ノ規定ニ依リ、監督官廳カ選任スル市町村長、助役、收入役又ハ副收入役ノ臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ市町村吏員タルニ拘ラス監督官廳之ヲ定ムヘク又前條ニ於テ名譽職ニ付テ說明セルト同シク、市制第八十四條町村制第七十條及市制第百七十條町村制第百五十條ニ有給吏員ノ給料ヲ停止スヘキ場合ヲ規定セリ。

（增）

市制　第百五條　有給吏員ニハ市町村條例ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

退隱料、退職給與金、死亡給與金及遺族扶助料

本條ハ有給吏員ノ退隱料、退職給與金、死亡給與金及遺族扶助料ニ付テ規定セリ。退隱料ハ官吏ノ恩給ニ相當スルモノニシテ、吏員退職ノ後終身其ノ生活費ノ一部ヲ補助スルヲ目的トシ、退職給與金ハ官吏ノ退官賜金ニ相當スルモノニシテ、退職ノ際一時其ノ生活費一部ヲ補助スルヲ目的トス。死亡給與金ハ官吏ノ死亡賜金ニ相當スルモノニシテ、在職中死亡セル吏員ノ遺族ノ生活費ノ一部ヲ一時補助スルヲ目的トシ、遺族扶助料ハ官吏ノ遺族扶助料ト同シク永ク遺族ノ生活費ノ一部ヲ補助スルヲ目的トス。抑有給吏員ハ前述ノ如ク其ノ一身ヲ捧ケテ市町村ノ爲ニ職務ニ服スル者ニシテ給料ニ依リテ其ノ生活ヲ維持ス。然ルニ給料ハ其ノ身分ニ相應スルモノナルヲ以テ到底退職後ニ於ケル生活ノ計ヲ爲シ、又ハ身後ノ餘財ヲ積ムニ足ラス。故ニ吏員カ退職又ハ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者又ハ其ノ遺族ノ生活ヲ維持セシムルハ吏員ヲシテ安ンシテ職ニ盡サシムル所以ナルト共ニ吏員カ退職シ又ハ死亡セル場合ハ直ニ生活ニ窮困スルカ如キハ、一般吏員ノ品位ヲモ害スルモノナルヲ以テ、此等ノ制度ヲ設クルハ極メテ必要ノコトナラサルヘカラス。唯其ノ權利タル箇人ニ關シ重大ニシテ屢變更スルヲ忌ムカ故ニ之ヲ條例ヲ以テ規定スヘキコトヲ命セルナリ。

市町村ハ本章ニ掲ケタル給與ヲ定メ得ルカ

前數條ニハ吏員ノ給料及給與ノ種類ニ付テ規定セルカ、市町村ハ其ノ規定セル以外ノ財產上ノ利益ヲ吏員ニ與フルコト能ハサルカ。換言スレハ前數條ノ規定ニ其ノ種類ヲモ限定スルモノナルカ、又ハ唯之ヲ定ムル手續ヲ規定スルニ過キサルカ。抑市町村ハ其ノ市町村ノ公共事務ニ付廣キ權限ヲ有スルヲ以テ吏員ヲシテ充分其ノ力ヲ職務ニ盡サシムルノ方法ハ、市町村ノ發達ニ必要ナルモノトシテ之ヲ企畫實行シ得サルヘカラス。故ニ市町村カ本章ニ規定スル以外ノ財產上ノ利益ヲ與フルコトヲ認メタルトキハ、之ヲ給與スルモ固ヨリ違法ナラサルモノト解スヘキナリ。即本章ニ掲クル給與ノ種類ハ限定的ニ非サルナリ。尤モ名譽職ニ給料ヲ給スルカ如ク性質上爲シ得ヘカラサルモノハ之ヲ違法ナリト謂フヘキモ、其ノ他ノモノハ法律上爲シ得ヘカラサルモノニ非ス。故ニ例ヘハ國家ノ官吏ト權衡ヲ失スルカ如キモノハ監督權ノ作用ニ依リテ之ヲ監視スルノ外ナキナリ。

給料及給與ニ關スル異議ノ申立

市制第百七條
町村制第八十七條　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ市町村會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ市町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前述シタル費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ハ名譽職又ハ吏員若ハ其ノ遺族カ市町村ニ對スル公法上ノ權利ナルヲ以テ之ヲ民事ノ裁判所ニ出訴スルコトヲ能ハス。故ニ別ニ其ノ救濟ノ方法ヲ設クルノ必要アルヲ以テ、本條ニ於テハ此等ノ給與ニ付關係者ニ

於テ異議アルトキハ、之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ。茲ニ關係者ト謂フハ名譽職員、市町村吏員又ハ其ノ遺族ヲ指稱スルナリ。又異議ノ申立ハ給與ニ付テノミ之ヲ爲スヲ得ヘキヲ以テ、其ノ定メタル額又ハ支給方法ニ付テハ之ヲ申立ツルコトヲ得ス。實際ノ支給ニ當リ此等ノモノヲ定メタル議決ニ違反スルニ當リテ始メテ之ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ。

異議ノ申立アリタルトキハ市長ハ之ヲ市參事會、町村長ハ之ヲ市町村會ノ決定ニ付セサルヘカラス。而シテ此ノ決定ニ對シテハ不服アル關係者又ハ市町村長ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得ヘク、其ノ訴願ノ裁決ニ不服アルトキハ、關係者、市町村長又ハ府縣知事ノ三者何レヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルナリ。蓋此等ノモノニ關スル異議ハ事權利ノ有無ニ關スルモノナルヲ以テ行政訴訟ノ提起ヲ許セルナリ。

（判　例）

一　町村吏員カ給料其ノ他ノ支給ヲ受クヘキ金員ノ拂渡ヲ請求スルハ本條ニ所謂給料ニ關スル異議ニアラス（二四、一〇、一九、行判）

二　村役場書記カ村長ニ對シ數回諸所ニ出張セル旅費及日當ヲ請求シタルモ其ノ下渡ナキコトヲ不當トスル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ（三八、一一、二二、行判）

市制　第百八條
町村制　第八十八條　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ

給料及給與ニ要スル費用ノ負擔

前數條ニ述ヘタル費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料ノミナラス、其ノ他如何ナル給與ニテモ皆其ノ市町村ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス。之レ固ヨリ言ヲ俟タサル所ニシテ市町村カ其ノ機關ノ爲ニ要スル費用ハ自ラ負擔スヘキハ疑ヲ容ルルノ餘地ナキモ、法カ特ニ之ヲ規定セル結果若シ之ヲ豫算ニ載セサルトキハ法令ニ依リ負擔スル費用トシテ市制第百六十三條及町村制第百四十三條ノ規定ニ依リテ監督官廳カ强制豫算ヲ命スルコトヲ得ルナリ。茲ニ其ノ他ノ給與ト謂フハ既述ノ如ク市町村ハ必スシモ前ニ列記セルモノニ限ラス、苟クモ其ノ公共事業ノ範圍内ニ屬スルモノト認ムルトキハ如何ナル給與ヲモ支給スルコトヲ得レハナリ。

（判　例）

一　褒賞ハ職員ノ特別勤勞ニ對シ給與スルモノニシテ即給料ノ一種ナレハ豫算表中雜給ノ項ニ其ノ科目ヲ設ケタルハ違法ノ歲出ナリト云ヲ得ス（二八、九、三〇、行判）

市制　第六章
町村制　第五章

市町村ノ財務

負擔ノ自

市町村自治行政ノ趣旨ハ、自己ノ負擔ニ於テ其ノ公共事務ヲ處理スルニ存ス。其ノ行政ノ經費カ、

自治行政ノ關係

直接住民相互ノ負擔ニ係ルヲ以テ、住民ノ其ノ行政ニ對シ利害ヲ感スルコト頗フル適切ナリ。故ニ能ク理事者ヲ督勵シテ、其治績ヲ擧ケシメムコトヲ期ス。行政ノ善惡カ直接影響スル所ハ住民ノ福利ニ存ス。故ニ各舊テ其ノ出費ノ負擔ニ任ス。是ヲ以テ市町村ノ財務ハ、其ノ自治行政ニ於テ重要ナル地位ヲ占メ、其ノ經理ノ當否ハ、直ニ以テ自治行政擧否ノ依テ岐ルル所タルナリ。此ノ負擔ニ關スル市町村ノ行政ヲ稱シテ其ノ財務行政ト云フ。故ニ市町村ノ財務ハ、其ノ收入カ何ニ於テ求メラルヘク、其ノ支出カ何ニ對シテ爲サルヘク、而シテ其ノ收入支出ハ如何ナル方法ニ於テ經理セラルヘキモノナリヤニ歸着スヘシ。本章ニ於テ收入ノ目的タル財產、營造物、市町村稅、及支出ノ目的タル市町村費並

市町村ノ財務

私經濟ト公經濟トノ別

ニ付規定シタル所以ナリ。

私經濟トハ私人ノ經濟ヲ云ヒ、公經濟トハ國家其他公共事務ヲ目的トスル團體ノ經濟ヲ云フ。私經濟ハ利益ヲ目的トスルヲ以テ、收入ヲ計リテ支出ヲ制スヘク、公經濟ハ公共事務ヲ目的トスルヲ以テ、支出ヲ計リテ收入ヲ制スヘシ、之レ財政學上ノ原則タリ。然トモ之ヲ誤リ解シテ、私人ノ經濟ハ利益ヲ主トスルヲ以テ、苟モ收入ナケレハ如何ナル必要ノ費用モ之ヲ支出スヘカラス、公共團體ノ經濟ハ公共事務ノ爲存スルヲ以テ、苟モ必要ナル支出タル以上、團體ノ資力如何ニ拘ラス、之レカ收入ノ道ヲ講セサルヘカラスト爲スヘカラス。要ハ唯重キヲ何レニ置クカノ區別ニ過キサルナリ。私人ト雖重要缺クヘカラサルノ支出アルニ際シテハ、借入金ヲ爲シテモ之ニ充テサルヘカラサルカ如ク、公共團體ト雖其ノ負擔ニ堪ヘサルニ於テハ、必要ナル公共事務モ之レヲ犧牲ト爲ササルヘカラサルナリ。財政學者カ公私經濟ノ間ニ此ノ區別アル所以ノ說明トシテ、個人ノ經濟ハ其ノ生活ニ於テ主タル目的ヲ爲スモノナルニ反シ、公共團體ノ經濟ハ從タル地位ヲ存スルニ過キスト爲スハ、之ヲ字義通リニ解スルニ於テハ、誤ニ陷ルコトナキヲ保セス。個人ト雖、經濟カ生活ノ目的ニ在ラスシテ手段タルコトハ、公共團體ト異ナルコトナシ、唯私人ノ經濟ニ於テハ、其ノ收入ニ限度アリテ爾カモ其ノ欲望ニ際限ナシ、故ニ經理ノ方法トシテ收入ニ重キヲ置キ、之ニ應シテ欲望ヲ按排スルヲ要スルニ反シ、公共團體ノ收入ニハ一定ノ限度ナシ、其ノ財產收入カ收入ノ一部分ヲ爲スハ勿論ナリト雖、大部分ハ之ヲ團體員ニ對スル公課ニ待タサルヘカラス、故ニ課セサレハ收入ナシトモ云ヒ得ヘク、又課スレハ團體員ノ資力ノ許ス限リ、其ノ收入ハ無限ナリトモ云ヒ得ヘシ。爾カモ其ノ目的ハ公共事務トシテ、一定ノ限度ヲ存シ得ヘキモノタリ、從ソテ其ノ經理ノ方法ハ、事務ヲ以テ重シト爲シ、先ツ如何ナル事務カ必要缺クヘカラサルヤ否ヤヲ決シ、之ニ應シテ收入ヲ按排シ　必要ナル經費ハ之ヲ徵收スルト共ニ、不要ノ收入ハ之ヲ賦課セサルコトヲ主義トセサルヘカラス、之レ兩者ノ區別ノ存スル所ニシテ實ニ又其ノ全部タリ。故ニ公經濟ニ於テ支出カ收入ヲ定ムル標準タリトノ意義ハ、必要ナル公共事務ハ收入ニ依リ左右セラルヘキモノニ在ラストト云フニ存スルコト勿論ナレトモ、之ト共ニ其ノ程度ノ問題タルコト、及一

面不急ノ經費ヲ徴收スヘカラサルモノタルコトヲ意味スルモノナルハ、事ニ其ノ局ニ當ル者ノ常ニ忘ルヘカラサル所ナリトス。

公共的活動ノ區別

市制町村制 第一款 財産營造物及市町村税

財産ノ所有ノ二目的的

市町村ハ公共團體ナリ、故ニ其ノ總テノ活動ハ常ニ公共ノ利益ヲ目的トシテ行ハル。公共ノ目的ヲ離レテ市町村ノ活動ナシ。然トモ其ノ活動カ公共ノ利益ト相關聯スル狀態ニ至リテハ、種類ニ依リ自カラ直接間接ノ區別存ス。交通、衞生、敎育等諸般ノ施設ヲ爲スハ、直接ニ公共ノ利益ヲ目的トスル活動タリ、反之此等ノ施設ニ要スル經費ヲ支辨スル目的ヲ以テ行ハルル、財産ノ取得又ハ租税ノ賦課徴收ハ、間接ニ公共ノ利益ヲ目的トスル活動タリ。然リ直接ト間接ノ區別存スト雖モ、等シク市町村ノ公益ヲ目的トスル活動ナルヲ以テ、其ノ間ニ輕重ノ別ナキノミナラス、實ハ間接ノ活動アルカ故ニ、始メテ直接ノ活動モ其ノ存在ヲ保テ得ルモノタルナリ。而シテ市町村ノ財務行政ハ、此ノ間接的公共活動ニ屬シ、財産營造物及市町村税ハ、間接的公共活動ノ依テ行ハルル基礎ヲ爲スモノタリ。

私人カ其ノ利益ノ爲ニ財産ヲ所有スルカ如ク、市町村モ亦其ノ利益ノ爲ニ財産ヲ所有ス。利益トハ自己ノ目的ニ都合好キコトヲ意味ス、故ニ市町村ノ財産ヲ所有スルハ、其ノ目的タル公共ノ利益ヲ計ルカ爲ニスルモノタルコトハ言ヲ須ヒサルナリ。然トモ其ノ財産ノ公共ノ目的ニ供セラル方法ニ至リテハ、直接ナルコトアリ間接ナルコトアリ。直接トハ財産カ其ノ有ノ儘ニ於テ直ニ行政ノ用ニ供セラレ、公共ノ目的ヲ達スル手段タル場合ヲ云ヒ。間接トハ財産ヨリ生スル收入カ行政設備ノ費用ニ當テラレ、間接ニ公共ノ目的ヲ達スル手段タル場合ヲ云フ。前者ニ在リテハ市町村ノ財産ヲ所有スル目的カ、之ヲ以テ專ラ行政ノ手段ニ供スルニ存シ、其ノ收益ノ伴フト否トハ問フ所ニ非サルヲ以テ、之ヲ行政財産ト稱シ。後者ニ在リテハ其ノ目的トスル所專ラ收益ニ存シ、直接公共ノ利益タルヘキ事實ヲ伴フト否トハ問フ所ニ非サルヲ以テ之ヲ收益財産ト稱ス。例ヘハ市町村カ其ノ住民ノ共同放牧場ニ充ツル目的ヲ以テ所有スル原野ハ、之ヨリ收入ノ生スルト否トニ拘ラス行政財産タリ。又收益ノ目的ヲ以テ所有スル山林ハ、事實ニ於テ住民カ之ニ放牧ノ便宜ヲ有スルコトアリト雖收益財産タルナリ。收益財産ニ對スル市町村ノ活動ハ、私人ノ其ノ所有財産ニ對スル活動ト何等異ナル所ナシ。故ニ其ノ所有權カ所謂民法上ノ所有權ニシテ、私法ノ原則ニ依リ支配セラルヘキモノタルコトハ言ヲ須ヒサルナリ。然トモ行政財産ニ對スル市町村ノ活動ニ至リテハ、殆ント私法ノ適用ヲ受クルコトナク、全ク公法關係ニ於テ行ハル、從ツテ其ノ所有權ノ性質如何ニ關シテハ、學說岐ル。或者ハ行政財産ニ對スル國家ノ所有權ハ公法上ノ所有權ニシテ、民法上ノ所有權トハ全ク別個ノモノタリ、其ノ所有スルコトカ直接公共ノ目的ニ供スルニ存シ、公法上ノ要求ニ出ツル以上、其ノ權利カ私法上ノモノニ非サルヤ當然ナルヘキコトヲ主張ス。然トモ此ノ見解タル財産ノ所有權其ノ者ト、所有者カ其ノ財産ヲ利用スル方法ノ結果トシテ受クル、他ノ法律關係トヲ混同シタルモノナルヘシ。行政財産ト雖其ノ所有權ハ

行政財産收益財産

行政財産ノ所有權ノ性質

等シク民法上ノ所有權タリ、私法ノ原則ニ依リ支配セラル、唯其ノ利用ノ目的カ公共ノ行政ニ存スル結果、其ノ關係ニ於テ後ヨリ公法上ノ原則ノ制縛ヲ受ケ、爲ニ所有權ノ私法的作用ノ大部分カ一時其ノ活動ヲ中止セラレタルノミ、之アルカ爲ニ、所有權其ノ者カ公法的ニ變シタルニハ在ラス。所有權者トシテ爲シ得ヘキ總テハ、私法規定ノ外ニ出ツルコトナシ、其ノ公法的利用ハ市町村ノ公共團體タルノ他ノ理由ヨリ來ルモノニシテ、所有權者トシテノ作用ニアラサルナリ。

營造物

公用財産ト營造物

行政財産ハ其ノ利用ノ方法ニ依リ、更ニ公用財産ト營造物財産トニ分ル、前者ハ市町村役場ノ敷地建物等ノ如ク市町村自身カ其ノ必要ノ爲使用スル財産ヲ云ヒ、後者ハ道路河川等ノ如ク住民一般ノ使用ニ供スルヲ目的トスル財産ヲ稱ス。

營造物トハ國及府縣市町村等公共團體ノ經營ノ下ニ、一般ノ直接使用ニ供セラレタル財産ヲ云フ。故ニ市町村ノ營造物ト云フトキハ、市町村カ其ノ經營ノ主體タル營造物ノ義タリ。營造物トハ物ニ關スル觀念タリ、蓋物ハ財產トシテ所有權ノ目的物タリ、民法ノ原則ニ依リ管理處分セラル、故ニ若シ公共團體カ之ヲ以テ直接其ノ行政ノ目的ニ供用セント欲スルニ當リ、尙其ノ本來ノ性質タル民法ノ原則ニ依リ支配セラルルニ於テハ、其ノ公共ノ利益ニ供スル目的ハ遂ニ達スルニ由ナキニ終ルヘシ。是ヲ以テ公法上營造物ナル觀念生シ、斯ノ如キ物ハ其ノ行政ノ用ニ供用セラルル間、公法ノ原則ニ依リ支配セラレ、民法上ノ所有權ハ其ノ公共ノ目的ニ牴觸スル限度ニ於テ活動ヲ制限セラルヘキモノトセラレタルナリ。故ニ營造物ノ觀念ハ物ヲ離レテ存在シ得ヘカラサルナリ。然ルニ或ハ營造物カ公共ノ直接使用ニ供セラルル設備タル點ニノミ重キヲ置キ、營造物ハ必スシモ物ニ限ラス人ノミヲ以テ組織セラルルコトモアリ得ヘシ、市町村ノ施設スル音樂隊又ハ貨物運搬夫ノ如キ此ノ類ナリト云フモノハ、營造物ノ行政上何カ故ニ存スルカノ根本義ヲ解セサルモノト爲ササルヘカラス、斯ノ如クムハ市町村長助役書記等モ亦營造物タルニ歸着セムノミ。

營造物ノ組織

營造物ハ公共ノ使用ニ供セラレタル物ナリト雖、其ノ物カ公共ノ目的ヲ達シ得ルカ爲ニハ、物自體ノミニテ足ルモノアリ、或ハ特ニ人ノ行爲ノ之ニ共同スルコトヲ必要トスルモノアリ。道路堤防溜池等ハ前者ニ屬シ、病院學校等ハ後者ニ屬ス。是ヲ以テ從來營造物ヲ定義スル學者ノ多クハ之ヲ以テ物及人ヲ以テ成リ又ハ物ノミヲ以テ成ル設備ナリト爲セリ。然トモ設備ヲ以テ營造物ナリト云フハ當ラス、設備セラレタル物カ營造物タルナリ。物自體カ直ニ公共ノ用ニ供シ得ル場合ハ、之ヲ營造物ト爲スコトカ公共ノ使用ニ供スル設備ニシテ、物カ營造物タリ又學校病院等ノ如ク敷地建物ノミヲ以テシテハ、未タ公共ノ目的ヲ達スル能ハサル物ニ在リテハ、之ニ職員ノ行爲カ加ハルコトニ依リ、始メテ物カ公共ノ目的ニ供シ得ル如ク設備セラレ、營造物タル地位ニ置カルルナリ。職員ノ行爲ハ物ヲ營造物タラシムルニ必要ノ要素タルコトハ勿論ナリト雖、之レカ爲職員カ營造物タリ、又ハ職員ト建物ノ合體カ營造物タルニハ非ラス、斯ノ如ク設備セラレタル土地建物其ノ他ノ附屬物品カ營造物タルナリ。

營造物ノ使用ニ供セラルル二方法

營造物ノ一般ノ使用ニ供セラルルニ二種ノ方法アリ、一ハ之ヲ使用スル者ヲ區域ニ依リ若ハ一定ノ條件ニ依リ制限スルコトハ之ヲ妨ケサルモ、苟クモ其ノ條件ニ滿スニ於テハ、之ヲ使用セントスル者ハ別ニ營造物ノ經營者又ハ管理者ノ同意ヲ求ムルヲ要セス、自己ノ意思ノミニ依リ直接之ヲ使用シ得セシムルモノニシテ、道路公園河川等ノ普通ノ使用ハ之ニ屬ス。他ハ之ヲ使用セントスル者カ、營造物ノ經營者又ハ管理者ニ依リ使用ヲ許可セラルルニ於テ、始メテ之ヲ使用スルコトヲ得セシムルモノタリ、學校病院等ノ使用ハ之ニ屬ス。

營造物所屬ノ標準

營造物ハ之ヲ經營スル主體ト、其ノ物ノ所有者ト異ナルコトヲ妨ケス。又管理若ハ經營ノ負擔ヲ爲ス者ヲ別ニスルコトモ之レヲ妨ケサルナリ。市町村ノ營造物トシテ施設經營セラルル病院ノ敷地建物カ、私人ノ所有物タルハ決シテ之ヲ妨ケス。然トモ已ニ營造物タル地位ニ置カレタルモノナルヲ以テ、私人ノ所有權ハ營造物ノ公法上ノ作用ニ依リ制限セラルヘキモノタルハ勿論ナリ。又國ノ營造物タル道路、河川ニシテ、其ノ管理若ハ費用ノ負擔ヲ市町村ノ義務トセラレタルモノモ少カラサルナリ、是ニ於テ市町村ノ營造物トハ何ヲ稱スルヤノ問題起ル。物ノ所有權ノ所在ハ之ヲ區別スヘキ標準ニ非ラス。管理若ハ費用負擔ノ所在モ之ヲ區別スヘキ標準ニ非サルナリ。吾人ハ市町村ノ營造物トハ、市町村カ專ラ其ノ住民ノ使用ニ供スル目的ヲ以テ、施設ノ決定ヲ爲スモノナリト云ハント欲ス。專ラ住民ノ使用ニ供スト云フハ、住民以外ノ者ニ使用セシメスト云フノ義ニハ非ラス、權利トシテ使用シ得ヘキ者ハ住民ニ限ルノ意ナリ。吾人ノ營造物經營ノ主體ト云フハ、斯ノ如キ意義ニ於テ營造物ノ施設決定ヲ爲ス者ヲ指稱スルナリ。道路河川等ノ多クハ、市町村住民ニ限リ專ラ使用ノ權利ヲ有スルモノニ非ラス、故ニ假令市町村カ其ノ管理負擔ニ任スルコトアリトスルモ、市町村ノ營造物ニ非ラス。公園病院等ハ權利トシテ之ヲ使用シ得ヘキ者ハ、市町村住民ニ限ラル、故ニ市町村ノ營造物ナリ。小學校ハ國ノ營造物ナリヤ將タ市町村ノ營造物ナリヤニ關シテハ、議論ノ岐ルル所タリ。吾人ヲ以テ之ヲ見レハ、市町村カ其ノ住民ニ限リ、之ヲ使用スルノ權利アルモノトシテ施設スルノ點ニ於テハ、市町村ノ營造物タルヘキ性質ヲ有スルモノナレトモ、小學校令ノ規定ニ於テ、小學教育ヲ國ノ事業ト爲シ、小學校ヲ國ノ營造物ナリトスル趣旨カ、特ニ顯著ナルヲ以テ、本來市町村ノ營造物タルヘキモノカ、特別ノ法令ノ規定ニ依リ、國ノ營造物ト爲サレタル例外ノ場合ナリト云フヲ相當ナリト信ス。

營造物ノ經營者

營造物トハ國及公共團體ノ經營スルモノニ付之ヲ云フナリ。故ニ假ヒ一般ニ使用セシムル目的ヲ以テ施設セラレタル物ト雖、其ノ經營ニシテ私人ニ屬スルトキハ營造物ト云ハサルナリ。蓋國及公共團體ハ、公共ノ事務ヲ以テ其ノ生存目的トスル團體ナルニ依リ、其ノ施設シタル物ニ關シテハ斯ノ如キ特質ヲ有セシムルノ必要アリト雖、私人ハ一般行政ヲ爲スヘキモノニ非ラス、權力行使ノ主體タルヘキモノニ非ラス、故ニ其ノ經營スルモノニ關シ斯ノ如キ公法上ノ性質ヲ有セシムル必要ナキニ外ナラサルナリ。然レトモ營造物カ公共ノ用ニ供セラルルモノタルコトニノミ重キヲ置ク者ハ、亦私人ノ經營

スル物ニ付テモ營造物ノ存シ得ルコトヲ主張ス、勿論營造物ノ必要ナル所以ニ顧ルコトナク、法律ヲ以テ之ヲ認容スルニ於テハ敢テ妨ケサルヘシト雖、今日此等ノ人ニ依リ營造物ナリト解セラルル、官ノ許可ニ依リ行フ渡船ノ如キハ、公共ノ使用ヲ拒ムコト能ハスト云フ條件ノ下ニ、私法行爲ヲ爲スニ外ナラサルナリ。

市町村稅ハ市町村カ其ノ公共事務ヲ經營スル費用ニ充ツルカ爲、公力ニ依リ强制徵收スル公法上ノ收入ナリ。市町村ハ其ノ財產ヨリ生スル私法上ノ收入、及對價ノ意義ニ於テ徵收スル使用料、手數料等、公法上ノ收入ヲ以テ其ノ支出ニ充ツルコト勿論ナリト雖、尙不足スル場合ニ於テハ、其ノ必要ナル費用ヲ支辨スルカ爲ニ、收入ヲ得ルノ方法ヲ講セサルヘカラス。是ニ於テカ其ノ團體員ニ對シ、財產ノ一部ヲ强要ス、之レ即市町村稅ナリ。市町村稅ハ斯ノ如ク必要ノ費用ヲ得ルカ爲ニ徵收スルモノナルヲ以テ、之ニ對シテ對償ヲ給スヘキモノニ非ラス。其ノ一方的負擔タルコトカ租稅ノ特徵タリ。之レ等シク公法上ノ收入ニシテ、使用料手數料等ト異ナル所タリ。使用料手數料ハ市町村有財產又ハ營造物ヲ使用シタル代價、若ハ市町村ヲシテ特定ノ行爲ヲ爲サシメタルノ對價ナリ。故ニ又其ノ額ニ於テ使用者又ハ行爲要求者ノ受クル利益若ハ市町村ノ受クル負擔ニ比例スルコトヲ主義トスルニ反シ、租稅ニハ全ク此事ナシ。又租稅ハ財產ノ價格カ其ノ收入ノ目的ニシテ、特定ノ物品カ徵收ノ目的ニ非サルヲ以テ、夫役現品ノ如ク直接其ノモノカ、其ノ儘ニ於テ市町村ノ事務ノ爲必要ナルニ依リ、

行ハルル徵收ハ租稅ニハ非サルナリ。

市制第百九條　町村制第八十九條　收益ノ爲ニスル市町村ノ財產ハ基本財產トシ之ヲ維持スヘシ
市町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

本條ハ市町村ノ主要ナル財源タルヘキ收益財產ノ處置ニ關スル規定タリ。蓋市町村ハ之ヲ組成スル團體員カ其ノ負擔ニ於テ公共ノ事務ヲ處理スル團體ナリ、故ニ其ノ行政ノ爲要スル費用ハ團體員直接其ノ負擔ニ任スルヲ本義トス。是ヲ以テ市町村ノ經費ハ主トシテ其ノ財產ヨリ生スル收入ニ依ルヘキモノナリト云フハ語弊ナキ能ハス、若シ市町村ノ經費カ財產收入ヲ以テ支辨スヘキ本來ノ性質ノモノナラハ、財產ノ造成ハ正ニ市町村ノ一事業タラサルヘカラス、既ニ其ノ事業タルヘキモノナラハ、市町村カ之ヲ造成スル目的ヲ以テ營利事業ヲ爲シ能ハサルノ理由アルコトナシ。然リ市町村ハ財產收入ヲ以テ其ノ經費ヲ支辨スルコトヲ主義トスルモノニ非ラスト雖、若シ其ノ公共事務ヲ經營スルニ附隨シテ財產ノ生スルコトアリ、又ハ從來所有シタル財產アル場合ニ於テ、之ヲ以テ資源ト爲シ團體員負擔ノ一部ヲ輕減スルハ敢テ妨ナキノミナラス、其ノ財產ヲ普通ノ方法ニ於テ改良增殖スルモ亦支障アルヘキ理ナシ、之レ財產管理ノ方法ニ過キサレハナリ。財產ノ市町村費ニ對スル地位ハ斯ノ如ク從タルニ止マルト雖、其ノ團體員負擔ノ輕重ニ影響スル所大ナルヲ以テ、實際ノ問題トシテハ、其ノ處理

ノ當否カ市町村ニ對シ至大ノ關係ヲ有スル重要事項タルナリ。

收益財產

收益ノ爲ニスル財產トハ、市町村ノ之ヲ所有スル目的カ專ラ之ヨリ生スル收入ヲ得ルニ存シ、其ノ實際ニ於テ市町村住民カ之ヲ利用スルカ如キ事實ノ有無ハ問ハサルナリ。專ラ其ノ經濟上ノ價額カ所有ノ理由タル財產ヲ云フ。斯ノ如キ財產ハ市町村經費ノ財源タルヘキモノナルヲ以テ、住民ノ一時ノ負擔ヲ輕減スル目的ノ爲ニ、奈リニ之ヲ消費シ盡スヘカラス、宜シク其ノ財產自身ハ之ヲ永久ニ傳ヘ保存シテ、唯之レヨリ生スル利子其ノ他ノ收益ヲ消費スルニ止メサルヘカラス。之レ法律カ之ヲ基本財產トシテ維持シ消費スヘカラサルモノト定メタル所以ナリ。此ノ如キ基本財產ハ所謂市町村ノ一般的基本財產タリ、法律ノ命スル所ハ斯ノ如キ財產ニ關シテハ、市町村ハ當然基本財產トシテ維持スヘキモノナリトスルニ在ルヲ以テ、市町村ニ於テ取捨スルノ餘地ナシ、故ニ之レヲ基本財產ニ編入スルノ處置ハ、別ニ市町村會ノ議ヲ經ルノ必要ナク、市町村長限リニ於テ處理スヘキモノトス。

基本財產

收益ノ爲ニスル財產トハ所謂收益財產ノ義ニシテ行政財產ニ對スル觀念タリ、勿論其ノ中間ニ市町村カ其ノ豫算執行等ノ結果トシテ取得スル、使用ノ目的定マレル收入ハアレトモ玆ニ所謂財產ノ範圍ニハ屬セサルナリ、故ニ財產ニシテ行政財產ニ非サルモノハ總テ本條ノ適用ヲ受クルナリ。市町村カ其ノ住民ニ殖林ノ模範ヲ示スカ爲ニ經營スル山林ノ如キ、其ノ直接目的トスル所ハ模範ヲ示スニ存スルヲ以テ、之ヲ指シ收益ノ爲ニスル財產ト云フハ少シク當ラサルカ如シト雖、其ノ行政財產ト爲スノ實際ニ適合セサルハ論ナキニ依リ、財產ヲ二種ニ分別スル主義ノ立法ノ下ニ於テハ、收益財產ニ屬スルモノト云ハサルヘカラス、故ニ等シク本條ニ依リ基本財產ニ編入セラルヘキモノタリ。又臨時收入シタル金穀ノ如キモ、其ノ性質ニシテ收益財產タル以上當然基本財產ニ編入セラルヘキコト勿論ナリ、舊法ニ於テハ此點ニ付特ニ規定ヲ存シタリト雖、改正法ニ於テハ言ヲ須ヒサルモノナリトシテ省略セラレタルナリ。

收益財產ノ範圍

行政財產ハ基本財產ニ入ラス

基本財產トシテ維持スヘキモノハ收益財產ニ限ル、行政財產ハ與カル所ニ非サルナリ。之レ基本財產ハ私法關係ニ於テ處分セラルヘキ經濟財產ノ隨意處分ヲ制限シテ、永久ノ資源タラシムルヲ目的トスル制度ナレハ、經濟的利用ヲ缺ク行政財產ノ關係セサルハ當然ノ事理ナリ。然ルニ舊法ニ於テハ不動產積立金穀等ハ之ヲ基本財產ト爲スヘキモノト廣ク規定シタル結果、墓地學校敷地等經濟關係ニ於テハ無意義タル行政財產モ、尙基本財產トシテ整理スルノ必要アリ不都合少カラサリシヲ以テ、改正法ニ於テハ特ニ之ヲ區別シタルナリ。固ヨリ現ニ行政財產タル「物」ト雖、一旦其ノ公用ヲ廢シ收益財產ニ變スルトキハ、其ノ公用ヲ廢スルト同時ニ基本財產ニ編入セラルヘキモノタルコトハ別ニ說明ヲ要セサル所トス。

特別基本財產

以上ハ市町村ノ一般的基本財產ニ關スル事項タリ。一般基本財產ハ其ノ收益ヲ以テ市町村ノ一般支出ニ充ツルヲ目的トシ、費途ニ於テ制限アルモノニ非ラス。然トモ市町村ハ此ノ一般基本財產ノ外、

別ニ限定的特殊ノ目的ニ供用スルカ爲ニ、特別ノ基本財産ヲ設ケ、又ハ金穀等ヲ積立ツルコト、特種事業ノ完全ナル發達ヲ期スル上ニ於テ便宜ナルコト少カラサルノミナラス、用途ヲ指定シタル財産ノ寄附ヲ受クルカ爲ニモ必要ナラスムハアラサルナリ。之レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ。特定ノ目的トハ例ヘハ病院經營ノ目的ノ爲、救貧院經營ノ目的ノ爲等ト云フカ如シ、特別ノ基本財産トハ其ノ基本財産タル性質トシテ市町村ハ容易ニ其ノ元本ヲ使用スル能ハサルハ一般基本財産ト異ナルコトナシト雖、其ノ收益ノ使用カ特定ノ支出ニ限リ爲サルルコトニ於テ區別ヲ存ス。金穀等ヲ積立ツルトハ金穀、公債證書、株券等ヲ特殊ノ費用ニ充ツル目的ヲ以テ積立ツルモノニシテ、例ヘハ學校建築費ノ積立、災害救助金ノ積立、又ハ備荒貯蓄米ノ積立ヲ爲スカ如キ之ナリ。積立金穀ノ基本財産ト異ナルハ、豫定ノ事實生スルトキハ、單ニ收益ノ使用ニ止ラス、元本モ亦共ニ使用セラルヘキコトヲ豫期スル點ニ存ス。

舊法ニ於テハ臨時ニ收入シタル金穀ハ、基本財産ニ加入スヘキコトヲ定ムルト共ニ、寄附者ニ於テ其ノ使用ノ目的ヲ指定シタル寄附金等ハ其ノ例外タルヘキコトヲ規定シタリ。改正法ニ於テ此臨時收入カ基本財産ニ加入セラルヘキモノタルコトハ已ニ述ヘタルカ如シ。然ラハ寄附者ニ於テ其ノ使用ノ目的ヲ指定シタルモノハ如何、之レ亦改正法ニ規定ナキ所ナレトモ、改正法ハ舊法ト異ナリ、一般的基本財産ノ外ニ、特別基本財産又ハ別途積立金ノ制ヲ認メタルニ依リ、用途指定ノ寄附金ハ二者中何レカニ屬セシメ得ヘキモノタルナリ。唯其ノ寄附者ノ指定スル方法ニシテ、若シ現ニ市町村ノ設クル特別基本財産又ハ積立金穀ノ何レニモ相當セサルモノタル場合ニ於テハ、市町村ハ此ノ寄附金ノ爲更ニ新ナル特別基本財産又ハ積立金穀ニ關スル制ヲ設クル必要アリ、而シテ其ノ制定ハ監督官廳ノ許可ヲ要スル事項ナルヲ以テ、市町村ハ豫メ其ノ制ヲ設ケ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ、寄附者ノ寄附ヲ受諾スル能ハサルモノトス、之レ舊法ト同シカラサル所ナリ。

財産造成

財産ノ造成ハ市町村ノ事業ニ非スト雖、住民ノ負擔餘力アルニ當リ其ノ一部ヲ醵出シ、以テ後日ノ負擔輕減ヲ計畫スルカ如キハ、團體員相互ノ利益ノ爲ニ正ニ爲スヘキ所ニシテ、又財産造成ヲ目的トスル事業ニモ在ラス、單ナル財産積立ノ方法ニ過キサルナリ。故ニ市町村ハ必要ニ應シ基本財産トシテ積立ツルカ爲ニ、市町村稅ヲ賦課スルモ亦妨ケサルモノトス。

區ト基本財産

基本財産積立金穀等ハ、市町村ヲシテ其ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ、若ハ各種事業ノ經營ヲ便ナラシムルカ爲設クル制度ナルヲ以テ、市町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルカ爲ニ法人タル區ノ如キ、財産營造物ノ管理以外別ニ事務ヲ有セサルモノニ在リテハ、財産營造物ヨリ生スル收入ヲ財産ニ積立加入セシムルハ格別、其ノ以外ニ於テ基本財産又ハ積立金穀等ヲ設ケ得ヘキモノニアラサルナリ。

基本財産積立金穀等ノ管理方法ノ適否ハ、市町村ノ利益ニ影響スルコト少シト爲サス、且ツ其ノ元

本ハ之ヲ使用セサルヲ原則トスレトモ、時ニ處分ノ必要ナキ能ハス、又動產ヲ不動產ニ變スルカ如ク、處分其ノ者ヲ利益トスル場合ナキニアラサルヲ以テ、之ヲ許スト共ニ其ノ實行ハ頗フル注意ヲ要スヘキモノトシ、市制第百六十七條町村制第百四十七條ニ依リ、府縣知事又ハ郡長ノ許可ヲ受クヘキモノト爲シタリ。不動產ノ管理及處分ニ關スル事項ハ、同條ニ依リ均シク又許可ヲ要スル事項ナリト雖、基本財產トシテ許可ヲ受ケタル不動產ニ付、更ニ其ノ適用アルヘキモノニ非サルコトハ言ヲ俟タサル所ナリ。

特別法ニ依ル基本財產

市町村ノ公用財產又ハ營造物

市町村ノ基本財產積立金穀等ヲ設クル場合ハ、本法ノ外地方學事通則等他ノ法律ニ依ル場合アリ、此ノ如キ基本財產、積立金穀等ハ、本條ニ所謂基本財產等ニハ非サルナリ、從ツテ其ノ管理處分等カ亦本法ニ依ラサルコトハ自然ノ結果ナリ。

市制第百十條
町村制第九十條　舊來ノ慣行ニ依リ市町村住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市町村會ノ議決ヲ經ヘシ
前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市町村ヘ之ヲ許可スルコトヲ得

本條ハ市町村住民中特ニ其ノ一部ノ者ノ爲ニ存スル公共用財產及營造物ニ關スル規定ナリ。蓋市町村ノ財產又ハ營造物ハ市町村住民ノ共同使用ニ供セラルヘキモノニシテ、特ニ住民中ノ一部ノ者ニ限リ之ヲ使用セシムヘキモノニ非ラス。然トモ市町村有ノ財產營造物中ニハ、種々沿革ヲ有スルモノ少カラス。從來甲部落ノ者ニ限リ採薪ノ權利ヲ有シタル村有山林アリ、又乙部落ノ者ニ限リ引水ノ權利ヲ有シタル村有溜池アリ、斯ノ如キモノニ付、直ニ之ヲ一般住民ノ使用ニ移サムトスルカ如キハ、或ハ從來ノ使用者ノ權利ヲ害シ、或ハ市町村全體ノ平和ヲ攪亂スルノ嫌アルコトモアルヘシ。是ヲ以テ此ノ如キ沿革アルモノハ總テ之ヲ從來ノ慣行ニ依ラシムルコトト爲シタルナリ。然トモ時代ノ變遷ト共ニ、舊慣ノ變更ヲ要スルコトモアルヘク、又之ヲ廢止シテ一般ノ使用ニ移シ得ルニ至ルコトモアルヘシ、斯ノ如キ場合ハ其ノ變更廢止ヲ爲サシムルコト必要ナルヲ以テ、市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲シ得ヘキモノト爲シタルナリ。即市町村長ニ於テ變更又ハ廢止ノ必要アリト認ムルトキハ、市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ處理スヘキモノト爲シタルナリ。

財產營造物ノ使用權

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利トハ、勿論公法關係ニ於テ使用スルノ義ナリ、民法上ノ權利關係ニハ非サルナリ。已ニ然リトスレハ、公法關係ニ於テ權利トシテ使用セラルル財產ハ市町村ノ營造物ニ外ナラサルナリ。故ニ財產又ハ營造物ト稱シ營造物以外ニ公共用財產アルノ觀アラシムルハ一見異ナルカ如シ。然レトモ之レ從來市町村ノ有スル公共用財產ナルモノノ性質、甚タ不明瞭ナルカ爲已ムヲ得サルノ結果ニ出ツルナリ。例ヘハ某部落民カ共同採薪ノ慣行アル市町村有山林ハ營造物ナリヤ、若シ營造物ナリトスレハ、其ノ營造物タルコトヲ廢止セサル限リ、賣買貸借等民法上ノ處分ノ目的タリ得ヘカラサルニ拘ラス、實際ニ於テハ共有財產ノ如キ取扱ヲ受クルモノモアリ、直ニ之ヲ指シテ營造

物ナリト云フモ當ラサル嫌アリ。又時トシテハ部落人民ニ於テ、其ノ財産ヨリ生スル收入ヲ分割取得スヘキ權利ヲ有スルモノモアリ。住民タル關係ニ於テ使用セラルル市町村有財産中ニハ、斯ノ如キモノ少カラサルヲ以テ特ニ財産トシテ之ヲ掲ケタルナリ。

新ナル使用ノ許可

敍上ノ財産營造物ハ舊慣ニ從フコトヲ原則トスレトモ、元市町村ノ財産營造物ナルヲ以テ、市町村會ニ於テ認メテ必要ナリトスルトキハ、之ヲ變更廢止スルヲ妨ケスト爲シタル趣旨ハ、之ヲ推シテ新ニ此等ノ財産營造物ヲ使用セント欲スル者アル場合ニ、市町村會カ認メテ以テ相當ナリト爲スニ於テハ之ヲ許可シ得ルモノト爲ササルヘカラス、之レ本條第二項ノ規定アル所以ニシテ畢竟舊慣變更ノ一場合タルニ過キサルナリ。唯之ヲ舊慣ノ廢止變更トシテ處理セントスルトキハ、市制第百六十七條町村制第百四十七條ニ依リ、府縣知事又ハ郡長ノ許可ヲ受クルヲ要スルヲ以テ、輕易ノ事件ナリトシ市町村限リ有效ニ許可シ得セシムルカ爲ニ、特ニ之ヲ掲ケタルモノトス。

財産ノ使用規則

市制第百十一條　町村制第九十一條　市町村ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市町村規則ヲ設クルコトヲ得

本條ハ前條ノ財産ニ付キテハ、營造物ト等シク使用方法ニ關シ市町村規則ヲ制定シ得セシムルノ規定タリ。蓋前條ノ財産ハ營造物ニ非ラスト雖、其ノ一部住民ノ使用スル關係ニ於テハ營造物ト異ナル所ナシ。營造物ニ關シテハ既ニ市町村ハ規則ヲ設ケ、之レヲ使用スル住民ヲシテ種々ナル制限ノ下ニ立タシメ、以テ之カ利用ヲシテ其ノ處ヲ得セシムルト共ニ管理保存ノ道ヲ得セシムルノ方法アリ、財産ニ關シテ異ナルヘキ理由ナキナリ、之レ本條ノ規定アル所以ニシテ、畢竟斯ノ如キ財産ハ其ノ公法上ノ取扱ニ於テハ、營造物ト異ナルコトナカラシムルノ趣旨ニ外ナラサルナリ。規則ノ自主法規トシテノ性質如何ハ前ニ之ヲ述ヘタリ、住民ノ權利義務ニ渉リテ規定スルコトヲ妨ケサルナリ。唯規則ノ關係スル所ハ專ラ使用ノ方法ニ止マルヲ以テ、事實ノ問題トシテハ其ノ必要少カランノミ。此ノ他此ノ種ノ財産ニ付テモ、營造物ト等シク條例ヲ設ケ得ルコトハ、條例ノ性質ヨリ來ル自然ノ結果トス（市制第十二條町村制第十條參照）。

財産使用ニ對スル負擔

市制第百十一條　町村ハ第百十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ第九十一條第一項ノ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

本條ハ市町村ノ財産及營造物ニ付、舊慣ニ依リ特殊ノ權利ヲ有スル者ニ對シ負擔ヲ命シ得セシムルノ規定タリ。蓋舊慣ニ依リ市町村住民ノ一部カ特ニ使用スル權利ヲ有スル財産及營造物ニ關シテハ、依然舊慣ニ依ルヘキモノト爲シタルニ依リ、從來其ノ使用ニ對シ別ニ負擔ヲ爲スノ慣行ナキ限リ、新ニ使用料等ヲ徵收スヘキモノニ非ラスト雖、此等住民ハ他ノ住民ニ比シ特殊ノ利益ヲ有スル者ナルニ依リ、若シ市町村ニ於テ收入ノ必要アルニ於テハ、其ノ利益ニ對シ一定ノ負擔ヲ爲サシムルモ敢テ不當

ノ事ト云フヘカラサルナリ。之レ本條ノ規定アル所以ニシテ、市町村ハ其ノ特殊權利者ニ對シ、使用料トシテ一定ノ公法上ノ負擔ヲ命スルコトヲ得ルモノトセラレタルナリ。新ニ使用ヲ許可セラルル者ニ對シ、使用料ヲ徵收シ得ルコトモ同一理由ニ基ツク。而シテ其ノ加入金ヲ徵收スルコトヲ得セシメタルハ、舊慣ノ使用者ハ其ノ財產又ハ營造物ノ施設ニ付相當ノ負擔ヲ爲シタル結果、特殊權利ヲ取得シタル場合多キヲ以テ、後ヨリ其ノ負擔ヲ分任スル意義ニ於テ之ヲ認メタルナリ。從テ其ノ收入ハ市制第百二十二條及町村制第百二條ノ規定ニ依リ、先ツ其ノ財產營造物維持ノ費用ニ充テラルルナリ。

加入金ノ徵收

使用料加入金ト維持費ノ關係

新加入者ニ付使用料ト一時加入金ノ何レカ一ヲ徵收シ、又ハ二者共ニ之ヲ徵收スルヲ得セシメタルハ、舊慣ノ使用者ニ於テ使用料ヲ徵收セラレサルトキハ、一時加入金ヲ納メシメ、使用料ヲ徵收セラルルトキハ使用料ヲ納メシムルヲ趣旨トス。然トモ新加入者ノ使用料ヲ負擔スルハ、必スシモ舊慣ノ使用者カ使用料ヲ負擔スルコトト因果ノ關係アルニアラサルヲ以テ、舊慣ノ使用者カ使用料ヲ納メサルトキト雖、新加入者ニ對シテ使用料ヲ徵收シ、又ハ使用料ト加入金トヲ共ニ徵收シ得サルニ非サルノミナラス、事理ニ於テモ却テ之ヲ相當ナリトスル場合多々之アルヘキナリ。

斯ノ如キ財產營造物ノ維持ニ要スル費用ヲ其ノ關係者ノ負擔タラシメ得ヘキコトハ、市制第百二十二條及町村制第百二條ノ規定スル所ナリ。故ニ維持費ノ徵收ニ關シ之ヲ徵收スルモ妨ケサルナリ。然トモ其ノ徵收セラレタル使用料加入金ハ、先ツ此等財產營造物維持ノ費用ニ充テラルヘキコトモ亦前二條ノ規定スル所タリ。

使用料及手數料

使用料加入金ハ維持費ノ必要ヲ理由トシテ爲スモノニハアラサルナリ。從テ維持費ノ額ト無關係ニ徵收シ得ヘキノミナラス、假令維持費ヲ要セサル財產ニ關シ之ヲ徵收スルモ妨ケサルナリ。然トモ其ノ徵收セラレタル使用料加入金ハ、先ツ此等財產營造物維持ノ費用ニ充テラルヘキコトモ亦前二條ノ規定スル所タリ。

可ヲ得テ定ムヘキモノト爲スニ依リ、事實上本法ノ規定ニ從ヒ得ヘカラサルモノアルヲ以テナリ。

使用料ハ公法關係ノ收入ナルヲ以テ之レヲ徵收シ得ルカ爲ニハ、營造物ヲ使用スルコトヲ必要トスヘク、例ヘハ病院ニ入院シ、公園ニ茶店ヲ設ケ、圖書館ニ圖書ヲ借覽スルカ如シ。故ニ假令營造物ヲ使用スル場合ニ於テモ、其ノ關係ハ全ク民事上ノモノタリ、其ノ使用ニ對スル報償ハ、民法上ノ契約關係ニ於テ之レヲ收得スルコトヲ得ヘク公法上ノ使用料トシテ徵收スルコトハ爲シ得ヘカラサルナリ。例ヘハ

女學校令、中學校令等ニ於テハ、其ノ公立ニ係ルモノノ入學料及授業料ハ、地方長官又ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ、又ハ行爲ヲ列擧シ、其ノ使用料又手數料ニ關シ別種ノ規定ヲ設ケ、本法ニ依ラシメサルコトヲ得ルモノトス。然ルニ非レハ一定ノ事務ヲ以テ營造物ヲ指定シ、之ニ使用ヲ强制スルコトヲ得ルモノニアラス。故ニ使用料ハ公法關係ノ收入ナルヲ以テ之レヲ徵收シ得ルカ爲ニハ、營造物ヲ使用スルモノニ對シ、特定的負擔ヲ命スルコトヲ得ルモノニアラス。故ニ假令營造物ヲ使用スルモノニ對シ、使用料ヲ徵收スルコトヲ得ルカ如シト雖、其ノ使用カ全ク民事上ノモノタルトキハ、使用料ヲ徵收スルコトヲ得ス。例ヘハ市町村カ使用料又ハ手數料ヲ賦課徵收シ得ヘキ場合ニ於テモ、市町村カ營造物ヲ使用スルモノニ對シ、本法ノ外他ノ法令ニ依リ規定セラルルモノニ非サレハ、使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得ス。

市町村カ使用料又ハ手數料ヲ賦課徵收シ得ヘキ場合ニ於テモ、本法ノ外他ノ法令ニ依リ規定セラルルモノニ非サレハ、使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得ス。

使用料ハ公法關係ノ收入ナルヲ以テ之レヲ徵收シ得ルカ爲ニハ、營造物ヲ使用スル者カ、之ニ比例シテ多額ノ負擔ヲ爲スハ相當ノ事タラスムハアラサルナリ、之レ本條ノ規定アル所以ナリ。

ハ各其ノ法令ノ規定ヲ適用スヘク本法ノ關スル所ニ非ス。例ヘハ市町村ノ經營スル高等女學校、中學校、小學校ノ授業料、地盤官有ニ屬スル堤塘道路並木敷使用料水道條例ニ依ル水道使用料、戶籍手數料等之ナリ。法律ニ依リ定メラレタル使用料手數料カ本法ノ範圍外タルコトハ法理上別ニ故障ナシト雖、單ニ動令ニ根據ヲ置ク使用料手數料ハ、本法ニ於テ使用料手數料ハ條例ヲ以テ規定ヲ爲スヘキモノトス。

モノトス。

之ヲ現行法規ノ解釋トシテハ、斯ノ如ク說明スルニ非レハ一貫スルコトヲ得ス。然ルニ結果、動令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトニ歸着スヘキヲ以テ、妥當ノ見解ナリト爲スヘカラサルナリ。然ルニ非レハ一貫スルコトヲ得ス。然ルニ結果、動令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトニ歸着スヘキヲ以テ、妥當ノ見解ナリト爲スヘカラサルナリ。然ルニ非レハ一貫スルコトヲ得ス。

使用セサル者ヨリモ多シ。又市町村ノ機關ニ就キ一定ノ事務ヲ處理ヲ要求セサルモノハ、之ニ依リ市町村ノ經營スル高等女學校、中學校、小學校ノ使用料

公園ノ敷地頗ル廣キノ故ヲ以テ、其ノ公園タル利用ヲ妨ケサル限度ニ於テ、私人ノ邸宅敷地トシテ貸付スルカ如キ、又ハ病院カ一時入院者ナキノ故ヲ以テ、會社ノ創立事務所ニ貸付スルカ如キ場合之レナリ。

使用關係ハ住民ニ限ラス

營造物ハ其ノ目的ニ從ヒ使用スルニ於テハ、其ノ使用者カ市町村住民タルト否トニ拘ラス、其ノ使用關係ハ公法上ノモノタリ。從ツテ其ノ使用者ニ對シ公法上ノ負擔トシテ使用料ヲ徵收スルハ決シテ妨ケサルナリ。或ハ營造物使用ノ權利アル者ハ其ノ住民ニ限ルヲ以テ、他市町村住民ノ之ヲ使用スルハ民法上ノ契約關係ニ於テセサルヘカラス、從ツテ其ノ使用ニ對スル報償ハ、民法上ノ使用料金タルヘキコトヲ主張スルモノナキニ非サレトモ。營造物ノ營造物タルハ、其ノ使用權利者トノ關係ニ於テ存スルニハアラス、其ノ公共ノ利用ニ供セラレタル點ニ存スルナリ。住民ハ當然之レヲ使用スルノ權利アリト云フニ止マリ、住民以外ノ者ニ對シ其ノ利用ヲ許サスト云フニハアラス、若シ許ササルモノナレハ假令民法上ノ契約ニ依ルト雖、之ヲ使用シ得ヘキ理ナシ。其ノ之ヲ利用シ得ルハ、住民以外ノ者ト雖市町村ノ許可ヲ得ルニ於テハ、營造物ノ性質上等シク其ノ下ニ包容セラルルカ爲ナリト云ハサヘカラス。之ニ對シ營造物トシテ活動スルカ故ニ、從ツテ又公法上ノ關係ニ於テ使用料ヲ徵收シ得ヘキ理ナリトス。

（增）

市制　第百十四條
町村制　第九十四條　財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

競爭入札

本條ハ市町村長カ直接金錢上ノ利害ヲ伴フヘキ契約ヲ爲スニ當リ、競爭入札ニ依ルヘキ場合ニ關スル規定ナリ。茲ニ所謂財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給トハ、既ニ市町村會ニ於テ賣却貸與スヘキモノト決シタル財産、又ハ請負ニ附スヘキモノト決シタル工事、若ハ買入ルヘキモノト決シタル物件勞力等ヲ、市町村長カ執行者トシテ實際ニ執行スルニ當リ、競爭入札ニ付スヘキモノナリト爲シタルナリ。蓋シ此等ノ事項ハ直接金錢上ノ利害ト密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ、事ニ其ノ局ニ當ル者ヲシテ時ニ結托不正ノ處置ニ出テシムルコト少シト爲サス。其ノ市町村經濟ニ及ホス利害ノ關係亦淺カラサルヲ以テ、市町村長ヲシテ非違ヲ爲ス能ハサラシムルカ爲、此等ノ契約ハ總テ一般ノ競爭入札ニ依リ締結スヘキモノト爲シタルナリ。然トモ天災地變等ニ際シ之ニ應スルカ爲、急遽起工ノ必要ヲ生シ又ハ物件勞力等ノ供給ヲ要シ、其ノ他豫期シタル事實ノ急變ニ依リ工事ノ急速着手ヲ要スルカ如キ場合ニ於テモ、猶ホ競爭入札ニ依ラサルヘカラスト爲ストキハ、實際ノ必要ニ伴ハサルノ結果ヲ生スヘク。又入札ニ附スヘキ財産工事若ハ物件勞力等ノ價格僅少ニシテ、入札ノ爲ニ要スル費用例ヘハ廣告料等ニ比シ其ノ價値ナキ場合ニ於テモ、猶ホ競爭入札ニ依ラサルヘカラサルモノト爲ストキハ、元市町村ニ不利益ヲ生スルコトヲ防クカ爲ニ設ケラレタル競爭入札ノ制ハ、却テ之ヲ

隨意契約ヲ許ス場合

害スルノ具トナルニ終ルヘシ、依テ此等ノ場合ニ於テハ理事者ハ競爭入札ニ依ルコトナクシテ事件ヲ處理シ得ヘキモノト爲シタルナリ。又競爭入札ノ制ハ元理事者ノ不正行爲ヲ不能ナラシメ、市町村ノ損害ヲ未發ニ防カムトスルニアルヲ以テ、市町村ノ意思ヲ代表スヘキ市町村會カ、認メテ以テ競爭入札ノ要ナシトスル場合ニ於テハ、其ノ適用ナカラシムルコト當然ノ理ナリ、之レ市町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラスト爲シタル所以ナリ。

財產ノ範圍

財產ハ一切ノ市町村財產ヲ包含ス、故ニ基本財產ニ屬スル現金ヲ貸與スル場合ニ於テモ、原則トシテハ競爭入札ニ依ラサルヘカラス。然トモ斯ノ如キハ經濟ノ實際ニ就テ爲シ得ヘキコトニ非ラス、依テ市町村長ハ豫メ市町村會ノ同意ヲ求メ、競爭入札ニ依ラサルノ手續ヲ爲スヘキモノトス。又物件ノ供給ハ必スシモ其ノ所有權ヲ移スヘキ場合ニ限ラス、借入ル場合ノ如キモ之ヲ包含ス、物件ト云フトキハ一切ノ動產不動產ヲ包含スレトモ、權利ハ之ヲ含ムコトナシ。又其ノ他ノ供給ト云フモノモ主トシテ物件勞力ト其ノ類ヲ一ニスルモノヲ指スモノニシテ、例ヘハ電燈ノ供給ノ如キ、「物ノ供給」ト云ヒ得ルヤ否ヤノ疑アルモノニシテ、而カモ之レニ準シテ取扱フヘキモノノ爲ニ規定セラレタルナリ。從ツテ之レ亦權利ヲ含ムコトナシ。故ニ市町村カ公債株券等ヲ取得セント欲スルトキハ、市町村長ハ競爭入札ニ依ルコトナクシテ、之ヲ買入レ得ルモノト云ハサルヘカラス。市町村會ノ同意ヲ得ルノ方法ハ、個々ノ事件ニ付其ノ時々之ヲ求ムルモ、或ハ一定ノ標準ヲ定メ包括的ニ豫メ其ノ同意ヲ得置クモ

物件ノ範圍

市町村ノ補助能力

共ニ支障ナシ。臨時急施ヲ要スルモノナリヤ否ヤハ、一ニ市町村長ノ認定ニ屬ス、認定ニシテ不當ナレハ監督官廳ノ監督權ニ依リ處置セラルルノミ、認定其ノ者ノ效力ニ影響ナシ。

市制第百十五條　町村制第九十五條　市町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

本條ハ市町村ノ寄附又ハ補助能力ニ關スル規定タリ。蓋市町村カ其ノ性質上寄附又ハ補助行爲ヲ爲シ得ヘキ團體ナリヤ否ヤハ、舊法ノ時代ニ於テ爭ハレタル問題ナリ、或ハ市町村ハ公共事務ヲ處理スルコトヲ以テ目的トス、事務ノ範圍ハ其ノ以外ニ出スルコトヲ得ス、寄附補助ハ其ノ結果トシテ間接ニ市町村カ利益ヲ受クルコトハ之アルヘシト雖、事務其ノ者カ、公共ノ利益タル性質ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ、市町村ノ事務タル能ハサルコトヲ主張ス。然トモ他人ノ經營スル事業ニシテ市町村ノ公益ニ關スル場合ニ於テ、若シ寄附又ハ補助ナキニ於テハ、完全ニ遂行セラレサルモノナラムニハ、之ヲ助成スルコトハ即直接ニ市町村ノ公益ニ關スル事務ニシテ、寄附又ハ補助ハ之ニ要スル費用ノ支出ニ過キサルヲ以テ、市町村ノ當然爲シ得ヘキ所ナリト云ハサルヘカラス。唯舊法ニ規定ナキノ故ヲ以テ常ニ爭ハレタル事項ナルニ依リ、改正法ニ於テハ特ニ明文ヲ以テ之ヲ規定シタルナリ。

寄附補助ノ要件

公益上必要アル場合ト云フヲ以テ、寄附又ハ補助ヲ爲スコトカ市町村ノ公益ノ爲必要缺クヘカラサ

特別法ニ依ル寄附補助

ル場合タラサルヘカラス。單ニ事業カ市町村ノ公益ニ關係スルモノナリト云フノミニテハ足ラサルナリ。例ヘハ病院ノ設立ハ市町村ノ公益ニ關係スルコト勿論ナリト雖、若シ其ノ經營者ニシテ之ヲ維持スルニ堪フルニ於テハ、補助ノ有無ハ市町村ノ公益ト何等關係ナシ。唯市町村ノ補助ナケレハ事業成立セス若ハ改良セラレスト云フカ如ク、其ノ補助ノ有無カ直接一般ノ公益ニ關係ヲ有スヘキトキニ於テ、始メテ補助シ又ハ寄附シ得ルナリ。斯ノ如クニシテ始メテ寄附又ハ補助カ市町村ノ公益ヲ進ムルニ於テ有效ニシテ、所謂市町村ノ公共事務タリ得ヘキナリ。

寄附ト云ヒ補助ト云フ普通ノ場合ニ於テハ其ノ間區別アリ、寄附ハ之ヲ受クル者ノ資力ノ充分ナルト否トヲ問ハス、出費者ヨリ提供ノ意味ニ於テ行ハルルモノヲ云ヒ、補助トハ之ヲ受クルモノノ資力不足ナルカ故ニ、之ヲ補足スル意味ニ於テ行ハルルモノヲ云フ。然トモ市町村ニ在リテハ、寄附ト雖相手方ノ資力充分ナル場合ニ於テ爲シ得ヘカラサルヲ以テ、寄附ト云フモ補助ト云フモ單ニ名義ノ差別ニ過キサルナリ。

市町村ノ補助ヲ爲シ得ヘキ場合ハ、本法ノ外他ノ法律及法律ノ委任ニ依ル勅令ニ於テ之ヲ認メラレタル場合アリ。例ヘハ河川法第三十五條砂防法第十九條第二十條及農會法ノ委任ニ基ク農會令第二十條ノ如キ之ナリ。此等ノ規定ニ依ル補助ハ改正法施行後ニ於テモ仍別種ノ補助トシテ、本法ノ適用以外ニ置クヘキ否ヤハ、基本財産及使用料手數料等ノ場合ト比較シテ少シク論究スルノ必要アリ。基本財産使用料等ニ關シテハ、舊法ニ於テ已ニ其ノ規定存スルニ拘ラス各其ノ關係法規ニ特ニ規定セルヲ以テ、全ク本法以外ニ置クノ趣旨タルコト規定上之ヲ認ムルコトヲ得レトモ、補助ニ關シテハ舊法ニ其ノ規定ナク、從ツテ其ノ能否ニ付議論アリタルヲ以テ、若シ立法ノ趣旨カ市町村ハ當然ノ作用トシテハ之ヲ爲シ得ヘカラサルニ依リ、各關係法規ニ於テ之ヲ認メタリト云フニ存セハ、改正法ハ其ノ主義ヲ改メタルモノトナルニ依リ、各關係法規ノ補助ニ關スル規定ハ當然ノ事トシテ其ノ適用ヲ失ヒ、今後ノ補助ハ本法ニ依リ爲スヘキモノナリト云ヒ得ヘシ。然トモ吾人ハ改正法ノ補助ニ關スル規定ハ、已ニ述ヘタル如ク舊法時代ニ於テモ爲シ得タル行爲ヲ單ニ明記シタルニ過キスト解スルニ依リ、從來各關係法令カ其ノ事項トノ關係ニ於テ、市町村ノ補助ヲ市町村制ニ依ラシメス、自己直接ノ規定ノ下ニ支配シ、其ノ補助ニ關スル方法等自己ノ便宜ニ從ヒ規定スルノ必要ニ出テタルモノニシテ、改正法ノ下ニ於テモ依然其ノ效力ヲ有スヘキモノナリト信ス。從ツテ河川法砂防法等ノ如ク其ノ補助方法ニ關シ特別ノ規定（二十九年勅令第二百三十五號、三十一年勅令第十五號）ヲ有スルモノハ勿論、農會法ノ如ク其ノ方法ニ至リテハ本法ト異ナルコトナキモノト雖、今後本法ノ補助ニ關スル規定如何ニ變動セラルルニ拘ラス、其ノ變更以外ニ立ツテ存續セシムル趣旨ニ於テ立法セラレタルモノトシ、依然其ノ規定ニ依リ處理セラルヘキモノナリトス。特ニ行政裁判所判例ノ如ク、寄附補助モ公共事務ニ該當スルトキハ不當ニ在ラスト雖、農會ニ補助スルカ如キハ公共事務ニ在ラスト云フニ

於テハ、其ノ存續スヘキモノタルコト益〻明ナリトス。

（判　例）

一　農會ニ與フル補助ハ市町村ノ必要ナル支出ニ在ラス（二五、六、一三、行判）

舊法時代ニ於ケル行政裁判所ノ見解ニシテ農會令發布以前ノ例例ナリ

二　寄附行爲カ制第二條ノ公共事務ニ該當スル以上ハ町稅トシテ寄附金ヲ徴收スルコト不當ニ非ラス（二九、五、二七、行判）

必要費用ノ意義

市制第百十六條　町村制第九十六條　市町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市町村ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市町村稅及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

本條ハ市町村カ其ノ義務トシテ必ス支出ヲ要スル費用ノ範圍、幷ニ其ノ支出ニ充ツヘキ收入ノ種類及順序ニ關スル規定タリ。蓋市町村ハ自治團體トシテ自己ノ負擔ニ於テ其ノ公共事務ヲ處理スルモノナルニ依リ、其ノ事務ニ必要ナル費用ハ、之ヲ支辨スヘキコト當然ナリ。然トモ市町村カ事實ニ於テ其ノ出費ヲ厭ヒ公共事務ヲ澁滯セシメテ顧ミス、若ハ市町村長ノ義務ニ屬セシメタル國其ノ他ノ團體ノ事務ニ要スル費用ノ支出ヲ拒ミタルトキハ如何。監督官廳ニ於テ之ヲ強制シ得ルカ爲法規ノ根據ア

法令ニ依リ市町村ニ屬スル負擔

ルコト必要ナリ。之レ本法第一項ノ規定アル所以ニシテ強制豫算ノ源ヲ爲スモノタリ。其ノ必要ナル費用トハ第二條ニ於テ說明シタル所謂必要事務ニ要スル費用ニシテ、市町村カ苟モ自治團體タルニ於テ缺クヘカラサル必須ノ公共事務、及法令ニ依リ特ニ遂行ヲ命セラレタル公共事務、並從來法令舊慣ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ、市町村ニ屬セシメタル事務ニシテ市町村カ行フ一切ノ固有事務ノ費用ナリト爲スヘカラス、固有事務ノ中ニハ必要事務ト隨意事務ノ別アリ、隨意事務ニ要スル費用ハ市町村カ經濟ノ都合ニ依リ、其ノ支出ヲ廢シ事務ヲ繰延フルモ自由タラサルヘカラス、唯其ノ事務カ各種ノ關係ニ於テ、其ノ市町村ニ取リ必要廢止スヘカラサルモノト爲リタルトキニ於テ、始メテ必要ナル費用トシテ動カスヘカラサル市町村ノ義務負擔ト爲ルナリ。此ノ關係ハ舊法市制町村制ノ理由ニ徴スルモ明ナリトス。從來法令ニ依リ市町村ノ負擔ニ屬スル費用トハ、市町村ノ負擔スル事務ニアラサルヲ以テ、其ノ費用ハ當然市町村ノ負擔ニ屬スヘキモノニ非ラスト雖、法令ニ於テ特ニ之ヲ市町村ノ負擔ト爲シタルモノ、例ヘハ戸籍事務、徴兵事務其ノ他種々ノ事項ニ於テ、費用ノ市町村負擔タリシモノハ今後モ亦市町村ニ於テ負擔スヘク、變更ナキコトヲ示スモノタリ。將來法律勅令ニ依リ其ノ負擔スル費用トハ、今後新ニ市町村ニ負擔ヲ命スルハ、法律又ハ勅令ニ依ルヘキコトヲ定ムルト共ニ、今後ト雖勅令ヲ以テスルニ於テハ之ニ負擔ヲ命シ得ヘキコトヲ明

ニシタルナリ。

支出ニ充ツル收入ノ順序

市町村カ其ノ負擔ニ於テ自己ノ公共事務ヲ處理スト雖、結局團體員各自ノ負擔ニ於テ自治行政ヲ行フノ謂タリ。故ニ公課ノ負擔ハ自治行政當然ノ結果ナリト雖、若シ其ノ團體ニシテ財產上ノ收入、其ノ他當然團體ニ歸屬スル收入ノ別ニ存スルモノアルニ當リテハ、先ツ之ヲ以テ其ノ支出ニ充テ公課ノ負擔ハ其ノ輕減ヲ計ルヘキモノタルコトハ、已ニ述ヘタルカ如シ。之レ本條第二項ノ規定アル所以ニシテ、市ノ經費ハ先ツ當然市ニ歸屬スヘキ收入ヲ以テ之ニ充テ、其ノ不足アルニ及ヒテ始メテ市稅及夫役現品ヲ賦課スヘキモノト爲シタルナリ。本項ノ規定ヲ解シ市町村費ノ支出ハ財產ヲ以テ充ツルヲ本義トシ、租稅ハ例外ノ場合ニ屬スト爲スノ誤タルコトハ已ニ述ヘタルカ如シ。

財產トハ一切ノ收益財產ヲ意味ス動產タルト、不動產タルト、公債タルト、株券タルトヲ分ツコトナシ。故ニ基本財產ヨリ生スル利子ハ必ス之ヲ以テ支出ニ充テサルヘカラス、之ヲ支出ニ充ツルコトナクシテ租稅ヲ賦課スルコトハ爲シ能ハサルナリ。基本財產ヨリ生スル利子ハ當然之ヲ基本財產ニ加入スト規定シタル條例ハ違法ナリ、然トモ其ノ利子ニ相當スル金額ヲ更ニ基本財產トシテ蓄積スル爲支出スルニ於テハ、財產收入カ必要ナル支出ニ充テラルルモノナルヲ以テ支障ナシ。故ニ每年利子ニ相當スル金額ヲ、更ニ基本財產トシテ蓄積スルモノトシテ規定セラレタル條例ハ有效ナリ。此ノ關係ハ注意シテ區別スルコトヲ要ス。使用料、手數料ニ付テハ已ニ之ヲ述ヘタリ。過料トハ市制第百二十九條町村制第百九條ニ依リ、市町村カ其ノ條例ノ規定ニ依リ、條例違反者ニ科シ徵收スル公法上ノ收入ニシテ、過怠金トハ市制第六十三條第八十九條第百七十條、及町村制第五十九條第七十三條第百五十條ニ依リ、懲罰トシテ市町村會議員又ハ市町村吏員ニ科シ徵收スル公法上ノ收入タリ。其ノ他法令ニ依リ市町村ニ屬スル收入トハ、法令ノ規定上當然市町村ノ權利ニ屬スル公法上ノ收入ヲ稱ス、例ヘハ國稅徵收ニ對スル交付金、府縣稅徵收ニ對スル交付金、傳染病豫防費補助、戶籍手數料、海員手數料、水利組合費徵收ニ對スル交付金等ノ如シ

（判例）

一 町村ニテ負擔スヘキモノハ町村ニ缺クヘカラサル要費ナラサルヘカラス故ニ區裁判所出張所トシテ國庫ヘ寄附ノ目的ヲ以テ建物ヲ建築スルハ不當ナリ（二五、一〇、二〇、行判）（三一、一一、一一、行判）

二 里道ノ修繕工事ヲ村長ニ於テ執行シタルニ起因セル田地堀潰ニ係ル事件ノ訴訟費用ハ村長一已ノ費用ナリト云フヲ得ス（二七、五、一四、行判）

三 町村聯合會ノ議決ニ依リ賦課セラレタル聯合町村費ヲ村會ノ議決ニ依リ村長ニ於テ職務上ノ行爲ヲ以テ賦課令狀ヲ發シ其ノ村內ニ賦課シタルニ起因シタル訴訟費用ハ其ノ負擔タルヘキコト當然ナリ（二三、四、八、行判）

四 小學校ニ他村生徒ノ入學ヲ許スモ違法ナリト云フヲ得ス區ヲ之カ爲ニ學校費ノ增加ヲ來シタリトスルモ其ノ費用ノ負擔ヲ免ルルヲ得ス（二八、九、三〇、行判）

五 市制第二條（舊法）ノ範圍ヲ超越シタル行爲ノ費用ハ市ノ必要ナル支出ニ非ス（三一、一〇、七、行判）

六　囚徒カ拘留中傳染病ニ罹リ刑期滿了シタルモ尚全治セサルトキハ其ノ放免地ナル監獄所在町村ニ於テ之ヲ救治スヘキ義務アリ從テ之ニ要スル費用ハ當然負擔ヲ免ルルコトヲ得ス(三七、一、二九、行判)

七　町村制第二條(舊法)ニ所謂町村公共ノ事務トハ町村カ義務トシテ若クハ其ノ公益上行ハサルヲ得サル事務ヲ指稱シ女子師範學校敷地ノ補償ノ如キハ之ヲ含マス(三九、七、九、行判)

附加税

市制第百十七條　町村制第九十七條　市町村税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　國税府縣税ノ附加税

二　特別税

直接國税又ハ直接府縣税ノ附加税ハ均一ノ税率ヲ以テ之ヲ徴收スヘシ但シ第百六十七條第百四十七條ノ規定ニ依テ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

國税ノ附加税タル府縣税ニ對シテハ附加税ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別税ハ別ニ税目ヲ起シテ課税スルノ必要アルトキ賦課徴收スルモノトス

本條ハ市町村税トシテ賦課シ得ヘキ租税ノ種類及其ノ制限ニ關スル規定タリ。

市町村ノ賦課シ得ヘキ租税ハ附加税ト特別税ノ二トス。附加税トハ其ノ賦課ヲ受クヘキモノカ、既ニ他ノ團體ニ對シ租税ヲ負擔スルノ事實アルニ當リ。其ノ租税額ヲ標準トシ一定ノ税率ヲ以テ算出シタルモノヲ、附加シ負擔セシムルヲ云ヒ。特別税トハ斯ノ如ク附隨ノモノニ非スシテ、賦課ヲ受クル者ニ屬スル課税物件ヲ直接標準ト爲シ、一定ノ税率ヲ以テ獨立的ニ賦課徴收スルモノヲ云フ。蓋市町村税ハ附加税ヲ以テ常例トスルニ依リ、獨立的ニ賦課スルモノハ之ヲ特別税ト稱シタルニ外ナラサルナリ。

特別税

附加税ノ性質

附加税ハ國税及府縣税ニ對シ之ヲ附加ス。即國税又ハ府縣税ヲ負擔スル者ニ對シ其ノ税額ヲ課税ノ標準トシ、之ニ一定ノ税率ヲ乘シ算出シタルモノヲ、其ノ者ノ市町村税トシテ賦課スルナリ。課税ノ標準ハ國又ハ府縣ノ租税タルコトヲ要スルカ故ニ、若シ其ノ標準ヲ租税以外ニ定メタルトキハ、假令其ノ結果ニ於テ同一ニ歸着スルコトアルモ、特別税ニシテ附加税ニハアラサルナリ。例ヘハ地租ノ附加税ハ地租算定ノ標準タル地價ヲ課税標準トシ賦課スルモ、税率ノ定メ方ニ依リ同一ノ結果ヲ收メ得ヘシ、然レトモ之ヲ以テ國税ノ附加税ナリトハ云フヘカラサルナリ。

國税府縣税ノ直接ト間接ノ別

附加税ノ課税標準タル國税及府縣税ハ、之ヲ直接及間接ニ區別シ、國税ニ關シテハ其ノ間多少取扱ヲ異ニス。兩者ノ區別ハ市制第百七十五條町村制第百五十五條ニ依リ、内務大藏兩大臣ノ指定スル所ニシテ、必スシモ財政學上ニ所謂直接税、間接税ノ區別ト一致スルモノニアラス。附加税ハ主トシテ直接税ニ附加スルヲ主義トシ、且ツ公民資格、選擧權等モ直接税ニ基礎ヲ置ク場合多キヲ以テ、此等ヲ參酌シ適宜ニ指定セラルモノトス。現ニ直接税トシテ指定セラレタルモノハ國税ニ於テハ地租、所得税(所得税法第三條第一項第二種ノ所得中、無記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ除ク)、營業税、鑛業税、賣藥營業税。府縣税ニ於テハ戸數割、家屋税、營業税、雜種税トシ、仍府縣限リ特ニ徴收スルモノニシテ直接税ト爲スヲ要スルモノハ、知事ノ稟申

ニ依リ内務大藏兩大臣ニ於テ指定スルモノトス。

附加稅ノ均一稅率

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ、均一ノ稅率ヲ以テ徵收スルコトヲ要ス。蓋國稅府縣稅ハ各課稅物件ニ對シ公平ニ賦課セラレタルモノト認ムヘキヲ以テ、附加稅モ之ニ對シ均一ノ稅率ヲ以テ、徵收スルヲ公平ナリトスヘケレハナリ。均一ノ稅率トハ仍同一歩合ト云フカ如シ。甲乙内丁皆其ノ地租額ノ百分ノ十ヲ課稅セラルル類ノ義ナリ。均一ノ稅率ニ依ルコト勿論公平ナルヘシト雖、時ニ其ノ市町村ノ事情ニ依リ、强チ適當ノ方法タラサルコトモアルヘシ、之レ市制第百六十七條町村制第百四十七條ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ、不均一ノ賦課ヲ爲スヲ妨ケスト爲シタル所以ナリ。例ヘハ宅地ト田畑等トノ間ニ其ノ稅率ヲ異ニシ、又ハ等級アル戶數割ニ於テ、其ノ各等間ノ稅率ヲ異ニスル必要アル場合ノ如シ。特ニ明治四十一年法律第三十七號地方稅制限ニ關スル制ニ於テ、昨今兩年度ノ改正ハ地租ノ附加稅制限率ニ付宅地其ノ他ノ土地ノ間ニ區別ヲ設ケタルヲ以テ、之ニ關シテハ不均一賦課ヲ要スル場合自然多キヲ加フヘキ理ナリ。

法ハ直接國府縣稅ニ付特ニ均一賦課ヲ必要トシ、不均一賦課ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ受クヘキコトハ本條第二項ノ規定ナレトモ、此ノ規定ハ舊市制町村制第九十條第二項カ、附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ、均一ノ稅率ヲ以テ市町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トスト規定シ、附加稅ハ直接國府縣稅ニ附加スルヲ原則トスヘキコトヲ闡明シタル趣旨ヲ、沿革的ニ繼承シタリト云フノ外他ニ意義ナシ。改正法ニ於テハ此ノ趣旨ノ闡明ナルコト規定上甚タ不明亮ナリト雖、其ノ之ニ過キサル所以ハ、間接國稅又ハ間接府縣稅ノ附加稅ナリト雖均一ノ稅率ニ依ルヘク、其ノ不均一ナラシメントスルトキハ許可ヲ要スルコトハ、市制第百六十七條町村制第百四十七條ニ依リ明ナリ。已ニ然リトセハ直接稅ト間接稅ノ間別ニ差異ナキニ拘ラス、獨リ直接稅ニ限リ此ノ規定存スルニ照シ明ナリト云ハサルヘカラス。

間接稅ノ附加稅ハ許可ヲ要ス

國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課シ得ヘキ限度ニ付國稅ニ關シテハ明治四十一年法律第三十七號ニ於テ地租、營業稅、所得稅ニ付、賣藥稅法ニ於テ賣藥營業稅ニ付、鑛業法ニ於テ鑛業稅ニ付、砂鑛區稅法ニ於テ砂鑛區稅ニ付制限アリ。故ニ此ノ制限ヲ超エテ附加スル能ハスト雖此等制限ノ規定ナキモノニ付テハ幾何ノ附加稅ヲ爲スヘキヤハ全ク住民負擔力ノ如何ニ關スル問題ニシテ市町村ノ自由ニ存ス。

間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スルハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ要ス、之レ已ニ述ヘタル如ク市町村ノ附加稅ハ主トシテ直接稅ニ附加スルヲ本義トシ、從ツテ國稅負擔ノ狀況等ヲ斟酌シ、其ノ直接稅トスヘキモノヲ定メタルニ、若シ自由ニ間接稅ニ附加稅ヲ爲サシムルニ於テハ、國稅ノ負擔能力ニ影響スルコト少カラサルノミナラス、各地方區々ニ課稅セシムルカ如キモ、宜シキヲ得タルモノニ非サルヲ以テ、許可ヲ受ケシメ已ムヲ得サルモノニ限リ附加セシムルコトト爲セルナリ。

附加稅ノ附加稅ナシ

國稅ノ附加稅タル府縣稅、即地租割、所得割、營業稅附加稅、鑛業稅附加稅、賣藥營業稅附加稅等

ニハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス、之レ本條第三項ノ規定ナリ。二重ノ課稅ヲ避クルノ趣旨ニ外ナラサルナリ。舊法時代ニ於テハ特ニ此ノ禁止規定ナカリシト雖、實際ニ於テ妥當ナラサルモノトシ、之ヲ賦課セシメサリシカ、改正法ニ於テ特ニ之ヲ明ニシタルナリ。然トモ國稅ニ對シ府縣稅トシテ附加稅ヲ許スモノニ付テハ、多クハ其ノ法律ニ於テ同時ニ市町村ノ課稅方法ト其ノ限度トヲ規定スルヲ以テ、事實ノ問題トシテ此ノ規定ヲ必要トスル場合ハ甚タ少カルヘシ

特別稅ノ件置

特別稅ハ附加稅ニ依リ其ノ費用ヲ支辨シ能ハサル場合ニ於テ、市町村限リ別ニ稅目ヲ起シ賦課スル例外的租稅タリ。其ノ稅目、賦課ノ方法等ハ市制第百六十六條町村制第百四十六條ニ依リ、內務大臣ノ許可ヲ受ケ市町村條例ヲ以テ規定スヘキ事項タリ（市制第百二十九條參照、町村制第百九條參照）。附加稅ニ依リ其ノ費用ヲ支辨シ能ハサル場合ト云フト雖、必スシモ總テノ附加稅ヲ賦課シテ尙不足ナリト云フ意義ニハ在ラス、附加稅トシテ賦課スルコトカ不適當ナル事情存スル場合等ニ於テハ、附加稅ノ餘力存スルモ仍特別稅ヲ起スコトヲ妨ケサルナリ。（特別稅中段別割ニ付テハ明治四十一年法律第三十七號ノ課稅ノ制限ヲ定ム）

本稅ナケレハ附加稅ナシ

附加稅ハ本稅ニ對シテ附加スルモノナルニ依リ、之ヲ賦課シ得ルカ爲ニハ必ス其ノ者カ本稅ノ納稅者タルコトヲ必要トス。故ニ府縣稅戶數割ノ賦課期日以後ニ於テ、市町村稅ノ納稅義務ノ生シタル者、絕對ニ戶數割ノ賦課ヲ受ケサルトキハ、之ニ對シテ附加稅トシテ戶別割ヲ賦課シ得ヘカラス。然トモ既ニ本稅ヲ負擔スル者ナルニ於テハ、之ニ附加稅ヲ賦課スルハ必スシモ本稅ト同時日ニ於テスルコトヲ要セス、日ヲ異ニシテ徵收期日ヲ定ムルコトヲ妨ケス、唯本稅徵收期日ト同一ニスルカ又ハ其ノ以後ニ於テ定ムルヲ便宜ナリトスルノミ、且其ノ本稅ノ納付カ必スシモ附加稅ヲ賦課セントスル市町村ニ存スルヲ必要トセス、市町村稅納付ノ義務ハ滯在又ハ物件所有等ノ事實ニ依リ發生スルモノニシテ、本稅ハ其ノ標準タルニ過キサレハナリ。從テ二重ニ課稅セラルルコトアルモ亦免カレサルナリ。又附加稅ハ本稅ヲ標準トスルモノナルニ依リ其ノ賦課方法ヲ本稅ト同一ナラシメサルヘカラス。故ニ十等ニ分タレタル戶數割ニ對シ十三種ノ區別ヲ設ケテ市町村稅ヲ賦課シ、或ハ貧富ノ差別ヲ設ケサル戶數割ニ對シ、等差ヲ設ケテ市町村稅ヲ賦課シ、府縣稅營業稅雜種稅中ノ或種目ニ限リ市町村稅ヲ賦課スルカ如キハ、假令其ノ課稅標準ヲ府縣稅又ハ國稅ニ置クト雖附加稅ニ非スシテ特別稅タリ。然トモ已ニ賦課方法ヲ一ニスルニ於テハ、各種目ニ依リ、又ハ各等級ニ依リ其ノ稅率ヲ異ニスルモ單ニ不均一ノ賦課タルニ止マリ、附加稅タルコトニ於テハ妨ケサルナリ。故ニ等級アル戶數割ニ戶別割ヲ附加スルニ當リ、各等ノ間其ノ稅率ヲ異ニシ、雜種稅ニ附加スルニ當リ船車稅ト漁業採藻稅ト其ノ稅率ヲ異ニシ、地租ノ附加稅ニ於テ田畑地租ト其他ノ土地地租トノ間ニ法定制限率ノ比例ニ伴ハスシテ各其ノ稅率ヲ異ニスルカ如キハ不均一ノ附加稅ナリト云フニ過キサルナリ。

附加稅ハ本稅ト課稅方法ヲ同一ニス

特別稅ハ、市町村ノ租稅ニシテ附加稅タラサルモノハ皆之ニ當ルヘキヲ以テ、何ヲ課稅標準ト爲スモ自由ナリト雖土地、國稅ヲ賦課スル營業及所得、鑛業、砂鑛業等ノ如ク、市町村ニ於テ一定ノ附加

稅（土地ニ付テハ段別割ヲ含ム）ヲ賦課スル外、之ニ對シ課稅スル能ハサルモノニ對シテハ特別稅ヲ賦課シ得サルヤ勿論ナリ

（判例）

一　直接府縣稅ノ日稅月稅ニハ其ノ附加稅ヲ課スルヲ得ヘシ本條（舊法第九十條）ニ何等除外例ヲ規定セス（二三、一二、二四、行判）

二　政府ノ裁可ヲ經タル地方稅中ノ雜種稅タル漁業稅ニ附加稅ヲ課シタルハ不當ニ在ラス（二四、三、三、行判）

三　特別稅ハ費途ノ如何ニ關スルモノニアラス而シテ如何ナル場合ニ特別ノ稅目ヲ起シ之ヲ賦課スヘキヤ否ヤハ法律中規定ナキヲ以テ當該町村ニ於テ必要ト認メタル場合ニ相當ノ手續ヲ以テ賦課徵收スルヲ得ルモノナリ（二六、一〇、一四、行判）

四　寄附行爲カ制第二條ノ公共事務ニ後當スル以上ハ町村各自ノ承諾ヲ要ムルコトナク町稅トシテ寄附金ヲ徵收スルモ不當ニアラス（二九、五、二六、行判）

五　附加稅ハ其ノ附加スヘキ租稅ノ稅率ニ據リ賦課スヘキモノナルニ本件戶別割ハ其ノ主稅タル縣稅戶數割ノ稅率ニ據ラス某村限リ特ニ等級ヲ設ケ一種ノ稅率ヲ定メタルモノナレハ之ヲ附加稅ナリト云フヘカラス（三〇、一二、一八、行判）

並ニ所得稅率ハ賦課方法ノ義ニ外ナラス

六　府縣稅ノ附加稅ニ付テハ法令中何等制限ナシ故ニ假令稅額カ主稅ヨリ多大ナルモ之ヲ以テ附加稅ニ非ラスト云フヲ得ス（三五、一一、二六、行判）

七　附加稅ハ本稅アリテ始メテ之ヲ賦課スヘキモノトス從テ絕對的ニ本稅ヲ納付セサル者ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルヲ得ス（四一、二、二八、行判）

八　附加稅ヲ賦課スルハ其ノ主稅納付者居住ノ町村ニ限ルモノニ在ラス（三二、一二、二五、行判）

市制町村制　第百十八條　第九十八條　三月以上市町村内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

滯在者ノ納稅

遡リ追徵ス

本條ハ住民ニ非サル市町村内滯在者ニ對シ課稅スル場合ニ關スル規定ナリ。蓋市町村ノ費用ハ市町村住民之ヲ負擔スルヲ本義トスルヲ以テ、苟モ住民タル以上ハ其ノ單純ナル事實ニ依リ、當然市町村稅ヲ負擔ス。居住ノ長短等ハ問フ所ニ非サルナリ。然トモ住民ニ非ラスト雖已ニ其ノ市町村内ニ居住スルニ於テハ、等シク其ノ市町村ノ保護ノ下ニ立ツ者ナルヲ以テ、之ニ對シ相當ノ負擔ヲ爲スハ當然ナリト云ハサルヘカラス。之レ本條ノ規定アル所以ニシテ、本條ハ滯在三月以上ニ及フ者ハ、之ヲ住民ト同一ニ看做シ、市町村稅ヲ負擔スル義務アル者ト爲シタルナリ。三月以上トハ引續キ三月以上滯在スルノ義ニシテ、斯ノ如キモノハ遡リテ其ノ滯在ノ初ヨリ納稅ノ義務アリシモノト看做サレ追徵セラルルナリ。之レ三月以上ノ滯在ハ義務ニ於テ住民ト同一視セラルル當然ノ結果ナリ。又單ニ納稅ノ義務アリト云フニ止マルヲ以テ、財産營造物ヲ共用スル等、住民トシテノ權利ヲ取得スルモノニアラサルハ勿論ナリ。兵營病院學校ノ構内ニ在ル官吏等ハ舊法ニ於テハ居住カ住民ノ資格ナリシヲ以テ住民トシテ取扱ハレタリト雖モ、改正法ニ於テハ之ヲ住民トスヘキヤ滯在者トスヘキヤハ、一ニ此等ノモノカ、生活ノ本據トスル事實ノ有無ニ依リ決セサルヘカラサルモノトス。又納稅義務カ滯在ノ初ニ遡ル結果トシテ、甲町村ニ於テ府縣稅戶數割ヲ納ムルニ依リ之カ附加稅ヲ納付シタル後、乙町村ニ轉

シタル者アル場合ニ於テ、甲町村ニテ納メタル本稅額ヲ標準トシ、同シ期間内ニ更ニ乙町村ノ戶數割ヲ賦課セラルルコトアルモ已ムヲ得サルナリ。

（附）

市制 第百十九條
町村制 第九十九條

市町村内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖市町村内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ市町村内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シ賦課スル市町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

物件稅行爲稅

物件

本條ハ市町村ノ住民又ハ滯在者ニ非サル者ニシテ、爾カモ尙市町村稅納付ノ義務アル者ニ關スル規定タリ。住所又ハ滯在ナクシテ、尙市町村稅ヲ負擔スル所以ノモノハ、其ノ物件ヲ所有シ又ハ營業若ハ行爲ヲ安全ニ爲シ得ルコトカ、市町村ノ保護ニ基クモノナレハナリ。物件トハ一切ノ有體物ヲ意味ス、所有シ使用シ若ハ占有スト云フモノハ、處分ニ非サル一切ノ權利行使ノ狀態ヲ指シタルニ外ナラス。即チ所有者タルト使用者タルト、單ナル占有者タルニ止マルトヲ分タス、苟モ市町村内ニ在ル土地家屋物件ニ對シ權利行使ノ地位ニ在ル者ハ、直接其ノ土地家屋物件ヲ標準トシ若ハ其ノ物ニ依リ收得スル收入ヲ標準トシタル、課稅ノ負擔ニ任スヘキモノトセルナリ。營業ハ商業工業等一切ノ營利事業ニシテ生業トセラルルモノヲ云ヒ、營業所ヲ設ケタル場合ニ於テ、始テ其ノ營業自體ヲ標準トシ若

營業

ハ之ヨリ生スル收入ヲ標準トシテ課稅セラレタル負擔ニ任ス。然ノハ製造會社カ甲村ニ製造工場ヲ置キ、販賣店ハ之ヲ乙村ニ定メタル場合ニ、甲村ハ其ノ營業所ノ一タル製造工場カ自村ニ在ルノ故ヲ以テ、收入ノ一部ニ對シ課稅シ得ヘキヤ否ヤ。或ハ此場合ニ於ケル實際ノ收入ハ販賣店ニ於テ生シ、製造工場ニ於テハ何等收得ナキノ理由ヲ以テ、甲村ニ課稅權ナキコトヲ主張ス。然トモ法ハ營業所ノ收入ト云ハスシテ、營業ノ收入ト云ヘリ。今製造業ハ製作ヨリ販賣ニ通シテ一ノ營業タリ、從ツテ營業ノ收入ト云フトキハ、製作ヨリ販賣ニ渉リテ收入スルモノト解セサルヘカラサルヲ以テ、甲村ハ收入中製作行爲ニ屬スヘキ部分ニ對シ、課稅シ得ヘシト云フヲ相當ナリト信ス。又營業所ヲ設ケサル營業ニハ課稅シ得ヘカラサルコト勿論ナレトモ、之レ普通狀體ニ於テ營業所ヲ設ケ行ハルヘキ營業ヲ目的トシテ規定シタルモノナルニ依リ、行商ノ如ク營業ノ性質上營業所ヲ設ケサルモノハ其ノ關スル所ニ非ス。從テ行商ハ營業トシテ課稅シ得ヘカラサルハ勿論ナレトモ、特定ノ行爲ヲ爲スモノトシテ行爲稅ヲ賦課スルハ敢テ妨ケナシト云ハサルヘカラス、之レ舊法ト異ナル所タリ。特定ノ行爲ヲ爲ス者トハ舊法ニ規定ナキ所ニシテ、例ヘハ演劇相撲流筏木材川下漁獵等ノ如キ特殊ノ行爲ヲ爲スモノニシテ、其ノ行爲自體ヲ課稅標準トシ賦課ス。苟モ特殊ノ標目ヲ有スル行爲タル以上總テ之ヲ包含ス。然トモ單ニ市町村内ヲ通過スルカ如キハ、普通ノ行爲ニシテ特定的タル性質ヲ有セサルニ依リ課稅ノ標準タル能ハス。故ニ單ニ市町村内ヲ通過スルニ過キサル汽車ニ對シテハ、行爲稅ヲ課スル能ハサルモ

ノトス。

（判例）

一　一定ノ場所ニ於テ營業ヲ爲ス者即行商ニアラサル者ニハ其ノ場所カ營業者ノ本據タルト否トヲ論セス町村税ヲ賦課スルコトヲ得（三四、一二、一三、行判）

二　市ノ營業者カ其ノ營業ニ付市税ヲ納ムルノ義務ハ市内ニ於テ營業ヲ爲スニ依リ發生スルモノナレハ其ノ以前他ノ市町村ニ於テ爲シタル營業ニ付テハ納税ノ義務ナシ（三六、一〇、七、行判）

三　鐵道會社ニシテ旅客及貨物ヲ運搬シ利益ヲ收ムルコトヲ目的ト爲スモノカ製作所ヲ設ケテ營業用ノ車輛ヲ製作シ又ハ修繕スルハ其ノ營業準備ヲ爲スニ過キサレハ製作場ハ會社ノ營業場ニ在ラス（三八、四、二一、行判）

四　營業トハ現實ノ營業行爲ヲ指稱シ其ノ行爲ノ基ツク契約カ何地ニ成立シタルヤ又其ノ報償カ何地ニテ支拂ハルルヤハ問フ所ニ在ラス（四〇、一一、二五、行判）

五　株式會社ノ支店ハ反證ナキ限リ本店ト同一業務ヲ取扱フ場所ト認ムルヲ當然トス（四一、二、二八、行判）

六　土地收用法ニ依リ土地ヲ收用シタル鐵道會社ニ對シ町村税賦課條例中ニ土地建物ヲ讓受ケタル者トアル規定ヲ適用シテ町村税ヲ賦課シタルハ不當ニ在ラス（三〇、六、三〇、行判）

七　會社ノ合併ニ依ル所有權ノ移轉ハ京都市歩一税賦課條例ニ所謂讓與ニ包含ス（三五、五、二六、行判）

市制　第百二十條
町村制　第百條　納税者ノ市町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市町村外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加税ヲ賦得スル場合及住所滯在市町村ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市町村税ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

課税標準ヨリ除クヘキモノ

本條ハ市町村税ヲ賦課スルニ當リ、其ノ課税標準ニ加フヘカラサルモノ、及課税標準ノ分別ニ關スル規定ノ一タリ。蓋市町村税ニシテ單ニ其ノ市町村内ニ住所ヲ有シ若ハ滯在スルノ事實ヲ標準トシ、對人的ニ賦課セラルルモノハ、之ヲ別トシ、物ヲ標準トシ若ハ收益ヲ標準トシテ賦課セラルルモノハ、畢竟其ノ市町村内ニ於テ物ヲ所有シ又ハ收益ヲ得ルノ事實アルニ依ルモノナラスムハアラス。故ニ假令住民又ハ滯在者ニ對シ此ノ種ノ租税ヲ賦課スル場合ト雖、尚此ノ趣旨ヲ滅却スヘカラサルナリ。之レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ。

本條第一項ハ市町村住民又ハ三ケ月以上ノ滯在者ニ對シ租税ヲ賦課スル場合ニ於テ、若シ其ノ課税ノ標準カ土地家屋物件若ハ其ノ收入ニ存シ、又ハ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ存スルトキハ、其ノ者ノ市町村外ニ有スル此等ノ關係ハ、其ノ課税標準ヨリ除クヘキコトヲ明ニシタルモノニシテ、前條ノ規定ト相表裏スルモノタリ。即市町村外ニ存スル此等ノ關係ニ對シテハ、前條ノ規定ニ依リ其ノ所在市町村ニ於テ課税シ得ヘキモノナルニ依リ、住所又ハ滯在市町村カ之ヲ合セ課税スルハ二重ノ課税タリ。且ツ純理ヨリスルモ、課税スヘカラサル性質ノモノタルヲ以テ除外シタルナリ。從テ本項カ住所又ハ滯在ノ事實ナキ納税者ニ適用ナキコトモ當然トス。何トナレハ此等ノ者ハ前條ノ規定ニ

二市町村以上ニ渉ル課稅標準ノ處理

依リ、已ニ其ノ課稅カ市町村內ニ有スル關係ニ限ラレタレハナリ。

本條第二項ハ課稅ノ標準タルヘキ收入カ二市町村以上ニ渉リテ存在シ、爾カモ其ノ何レノ部分カ何レノ市町村ニ屬スヘキモノナルヤ不明ナル場合ノ處分ヲ規定スルナリ。即二市町村以上ニ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者カ、其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ各營業所毎ニ分別シテ納付スルトキハ、其ノ本稅ノ基礎タル營業又ハ收入カ各當該市町村ニ存スルモノト認ムヘキニ依リ、各其ノ本稅ニ對シ附加稅ヲ賦課スルニ於テ支障ナシト雖。若シ其ノ本稅ヲ分別スルコトナクシテ一市町村ニ於テ納付スルトキハ、其ノ基準タル營業又ハ收入ハ、如何ニ各市町村ニ分レ存在スルモノト看做スヘキカ不明ナリト云ハサルヘカラス。又住所ト滯在トヲ別ニシテ二市町村以上ニ有スル者ノ收入ニ對シ、課稅センストスルニ當リ、其ノ課稅標準カ土地家屋物件ヨリ生スル場合ナラハ、土地家屋物件ニ付キ調査シ區別シ得ルヲ以テ支障ナシト雖。若シ斯ノ如キ有體物ニ關係セスシテ、勤勞ヨリ得ル收入例ヘハ官吏銀行員ノ所得等ニ對シ賦課センストスルトキハ、住所地ト滯在地トノ間ニ如何ニ分屬スヘキヤ、又ハ其ノ何レノ一方ニ專屬スヘキモノナリヤハ不明ナリト云ハサルヘカラス、共ニ其ノ分別方法ヲ定ムルコトヲ要ス。然トモ此等ノ場合ニ處シ細大漏ラサス、適當ノ規定ヲ爲サムコトハ頗フル繁雜ニ渉ルヲ以テ、特ニ勅令ヲ以テ適宜ノ方法ヲ設ケシムルコトト爲シタルナリ。（明四十四年勅令第二百四十一號參照）

（判例）

一　停車場ニ於テ營業ヨリ收入シタルモノハ停車場所在ノ村內ニ於ケル營業ヨリ收入シタルモノナレハ其ノ總額ニ課稅スルコトヲ得（三四、一二、一三、行判）

二　鐵道會社カ荷客ノ引受運搬及送屆ニ依リテ收得スル運賃ハ列車ノ通過スル各町村ニ分屬スヘキモノニアラスシテ營業行爲ノ本源タル搭載驛ニ於ケル營業收入ナリ（四一、三、三〇、行判）

課稅外物件

所得稅法第五條ノ所得

市制町村制第百二十一條第百一條　所得稅法第五條ニ揭ケタル所得ニ對シテハ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地竝敎會所說敎所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテハ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ敎會所說敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用敬意者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル前四項ノ外市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ハ主トシテ公益上ノ理由ヨリ市町村稅ヲ賦課シ得ヘカラサルモノニ關スル規定タリ。

一　所得稅法第五條ニ揭ケタル所得ハ其ノ之ヲ有スル者ノ境遇上又ハ其ノ者ノ事務ノ性質上、之ニ所得稅ヲ賦課スルコトヲ不穩當ナリトシタルモノニ屬スルヲ以テ、市町村稅モ亦之ニ賦課セシメサル

コトト爲シタルナリ。

（參照）所得稅法

第五條　左ニ揭ケル所得ニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ニ係ル俸給

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給

三　旅費學資金及法定扶助料

四　營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六　外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資產營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七　此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケル配當金及割賦賞與金

神社寺院祠宇佛堂

二　神社寺院祠宇佛堂トハ神靈佛像ヲ安置スル一切ノ宗教上ノ建物ヲ意味ス。神社トハ神靈ヲ鎭祭シ專ラ公衆ノ參拜ニ供スルモノヲ謂ヒ、祠宇トハ奉齋主神ヲ鎭祭シ神葬式ヲ營ミ、衆ヲ公衆ノ參拜用ニ供スルモノ、即主トシテ明治十七年太政官達第二十五號墓地及埋葬取締規則發布以前ノ建造ニ係ルモノヲ云フ。寺院トハ宗派ニ屬シ住職之ヲ管理シ佛儀ヲ營ムモノヲ云ヒ、佛堂トハ概ネ宗派ニ屬セス、受持僧侶之ヲ管理シ單ニ公衆ノ參拜ニ供スルモノヲ云フ。此等ノ殿堂ノ用ニ供スル附屬ノ建物及其ノ境內地ハ、神靈佛像ノ尊嚴ヲ維持シ宗教上ノ儀式ヲ行ヒ、一般ノ禮拜ニ供スル等公益上必要ノ設備ナルヲ以テ、之ヲ公課徵收ノ外ニ置キタルナリ即其ノ所有權ノ何人ニ存スルニ拘ラス課稅ノ目的ト爲スヲ得ス、敎會所說敎所ニ關スル係ルモノヲ云フ。寺院トハ宗派ニ屬シ住職之ヲ管理シ佛儀ヲ營ムモノヲ云ヒ、佛堂トハ概ネ宗派ニ屬セス、受持僧侶之ヲ管理シ單ニ公衆ノ參拜ニ供スルモノヲ云フ。此等ノ殿堂ノ用ニ供スル附屬ノ

公共用財產

建物及其ノ境內地ハ、神靈佛像ノ尊嚴ヲ維持シ宗敎上ノ儀式ヲ行ヒ、一般ノ禮拜ニ供スル等公益上必要ノ設備ナルヲ以テ、之ヲ公課徵收ノ外ニ置キタルナリ即其ノ所有權ノ何人ニ存スルニ拘ラス課稅ノ目的ト爲スヲ得ス、敎會所說敎所ニ關スル係ルモノヲ云フ。寺院トハ宗派ニ屬シ住職之ヲ管理シ佛儀ヲ營ムモノヲ云ヒ、佛堂トハ概ネ宗派ニ屬セス、受持僧侶之ヲ管理シ單ニ公衆ノ參拜ニ供スルモノヲ云フ。此等ノ殿堂ノ用ニ供スル附屬ノ建物及其ノ境內地ハ、神靈佛像ノ尊嚴ヲ維持シ宗敎上ノ儀式ヲ行ヒ、一般ノ禮拜ニ供スル等公益上必要ノ設備ナルヲ以テ、之ヲ公課徵收ノ外ニ置キタルナリ即其ノ所有權ノ何人ニ存スルニ拘ラス課稅ノ目的ト爲スヲ得ス、敎會所說敎所ニ關スル係ルモノヲ云フ。寺院トハ宗派ニ屬シ住職之ヲ管理シ佛儀ヲ營ムモノヲ云ヒ、佛堂トハ概ネ宗派ニ屬セス、受持僧侶之ヲ管理シ單ニ公衆ノ參拜ニ供スルモノヲ云フ。此等ノ殿堂ノ用ニ供スル附屬ノ

三　其ノ他ノ公共團體トハ、郡、水利組合、商業會議所等ノ公法人ノ義タリ。即國府縣以下ノ公共團體ノ公共用家屋、物件及營造物等ハ、其ノ之ヲ所持シ使用セラルル所以カ公益ノ爲ニシテ、收益ノ爲ニ非サルヲ以テ、之ヲ目的トシテ國又ハ公共團體ニ課稅スルハ勿論、其ノ所有者カ私人タル場合ニ於テハ、其ノ所有者ニ對シテモ課稅スル能ハサルモノトス。然レトモ若シ其ノ所有者カ貸付料ヲ徵シテ、國又ハ公共團體ニ貸付使用セシメ居ル如キ事情ナルニ於テハ、所有者ハ之ヲ收益ノ爲ニ利用スルモノナルニ付、之ニ對シ課稅スルモ故障アルヘキ理ナク。又府縣市町村等カ施設スル公園、及其ノ公園ノ附屬トシテ施設シタル茶店等ハ、之ヲ其ノ團體ヨリ見ルトキハ營造物トシテ公用ニ供シタルモノナレトモ、其ノ茶店ヲ借受ケ營業ヲ爲ス者ハ、營造物ヲ使用シテ收益ヲ計ルモノナルニ

依リ、此等ノ使用收益者ニ對シテ課稅スルニ於テ故障アルヘキ理ナシ、之レ但書ノ存スル所以ナリ。仍舊法ニ所謂官公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地營造物及家屋ト云フモノハ、多クハ當然茲ニ所謂公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ包含セラルルナリ。

四　國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ關シテハ、國ニ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス。特ニ國ニ對シテト云フモノハ前二項ト其ノ趣旨ヲ異ニスル點タリ。前二項ニ於テハ各其ノ條件ニ該當スル土地及物件ニ關シテハ、何人ニモ課稅スルヲ得スト雖、此ノ場合ニ於テハ單ニ國ニ課稅シ得サルニ止マルヲ以テ、國有ノ土地家屋等ヲ使用收益スル者等ニ對シ課稅スルハ敢テ妨ケサルナリ。而シテ何カ故ニ特ニ國ニ對シテ課稅スルヲ得サルモノトシ、府縣郡其ノ他公共團體ノ事業行爲土地家屋物件ニ對シ免稅ノ規定ナキヤニ至リテハ、此等ノ團體ハ皆地方的ニシテ國ノ如ク必スシモ自己ノ上級團體タルニ非サルヲ以テ、程度ノ問題トシテ國ニ止メタルニ外ナラサルナリ。事業又ハ行爲ノ性質ヲ分タス、公共的施設ナルト、收益事業ナルトヲ區別セサルナリ。

五　前四項ノ外市町村稅ヲ賦課シ得サルモノハ、別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ルト云フモノハ。已ニ畢竟國家ニ對シテハ何等課稅スルコト能ハサラシムルカ趣旨タルナリ。

施行セラレタル法律勅令ニ於テ賦課ヲ禁シタルモノアレハ其ノ禁制ニ從フヘキハ勿論、今後法律勅令ニ於テ規定セラルルヲ妨ケサルノミナラス、單ニ賦課禁止ノ爲ニスル勅令ヲ發スルモ仍妨ケサル

コトヲ明ニシタルナリ。今日已ニ存スルモノトシテハ明治四十一年法律三十七號地方課稅制限ニ關スル制、鑛業法、砂鑛區稅法、賣藥營業稅法等ハ、市町村稅ノ一部ニ關シ本項ノ所謂法律ニ相當スヘシ。又郵便法第七條第二項ハ、郵便專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナキ旨規定スルヲ以テ、三等郵便局カ其ノ事務所ニ使用スル私有ノ建物敷地舟車馬等ハ、茲ニ所謂法律ニ依リ市町村稅ヲ賦課シ得サルモノトナサレタルモノト云フヘキナリ。舊法ニ於テハ皇族ニ係ル市町村稅ノ賦課ハ、追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル旨ノ規定存シタルモ、改正法ニ於テ削除シタルヲ以テ、之ニ關スル處理ハ茲ニ所謂勅令ヲ以テ規定スヘキモノナリト主張スルモノナキニ非サレトモ、皇族ニ對シテハ皇室典範增補第八條ノ規定ニ依リ、諸般ノ法律命令ハ特ニ之ヲ適用スル旨ヲ明ニセサル限リ、適用セラレサルモノト定メタル以上ハ、市制町村制全部之ニ適用ナキモノト解スルヲ以テ其ノ當ヲ得タルモノト爲スヘシ。

市制町村制　第百二十二條　數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ市町村稅ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツルニ足ラサルトキハ其ノ不足ヲ負擔スル者ニ對シ其ノ負擔額ニ應シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ市町村ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

市町村ノ一部ヲ利スル財産營造物

本條ハ住民ノ一部分ニ於テ專ラ使用スル財産營造物ノ設置維持等ニ要スル費用ノ負擔ニ關スル規定ナリ。蓋營造物ハ市町村ノ全部ヲシテ使用セシムルコトヲ本則トスレトモ、灌漑用水路ノ如キ、堤防ノ如キ、營造物ノ性質上之ヲ使用シ利益ヲ受クヘキモノカ、地域ノ關係ナク、數個人ニ限ラレ、又ハ地域的ニ一部落ニ限ラルルモノナキニ非ラス、此ノ如キ營造物ハ其ノ實際ノ必要ヲ感スル者カ、特定ノ數個人又ハ一部落ニ止マルヲ以テ、假令市町村ノ營造物ナリト雖利益ノ在ル處即負擔ノ生スル處タルノ理ニ依リ、其ノ設置維持其ノ他之ニ要スル費用ハ其ノ關係者又ハ部落ニ於テ負擔スルヲ相當トス。之レ本條ノ規定アル所以ナリ。舊法ニ於テハ斯ノ如キ場合ハ必ス其ノ關係者若ハ部落ニ其ノ費用ヲ負擔セシムヘキモノト爲シタレトモ、凡ソ市町村ノ施設ハ物ノ性質ニ依リ、又ハ所在ニ依リ、其ノ利益ヲ受クルニ於テ多少ノ厚薄アルハ免カレサル所ナルヲ以テ、此ノ場合ト雖其ノ利害關係者カ甚タ多數人ニ上リ、又ハ一部ノ區域カ市町村ノ大部ニ渉ル等ノ場合、若ハ市町村ノ他ノ施設等ノ關係上之ヲ一部負擔ト爲スノ必要ナキ場合ニ於テ、仍強ヒテ一部負擔ト爲サシムル必要ナキヲ以テ、改正法ニ於テハ市町村ノ意思ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ、市制第百六十七條町村制第百四十七條ニ依リ、

一部ノ意義

監督官廳ノ許可ヲ得テ一部負擔ト爲シ得ルコトト爲セルナリ。而シテ其ノ負擔セシムヘキ費用ハ、營造物ノ設置維持其ノ他一切ノ費用ナルヲ以テ、之レカ管理ニ要スル委員ノ旅費日當及實費辨償等モ包含スルモノト解スヘキナリ。

市町村ノ一部ト云フハ其ノ一部カ法人タルト、或ハ單純ナル區劃ニ過キサルトハ問フ所ニ非ラス、假令法人タル場合ト雖茲ニ所謂營造物ハ市町村ノ營造物ニシテ、其ノ法人タル區ノ營造物ニハ非サルナリ。從テ其ノ負擔ハ區費ノ負擔ニ非ラス、區住民トシテノ負擔ニ非スシテ市町村住民トシテノ負擔ナリ。部内ニ於テ市町村稅ヲ納ムル義務アル者トハ其ノ關係部内ニ住所ヲ有スル者、三月以上市町村ニ滯在スル者ニシテ現ニ其ノ部内ニ滯在スル者及其ノ部内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有スル者、營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者、又ハ特別ノ行爲ヲ爲ス者ヲ云フナリ。

數人又ハ一部ヲ利スル營造物ニ要スル費用ハ、其ノ關係者又ハ一部ノ者ヲシテ負擔セシムルコトヲ得ト雖、其ノ營造物ヨリ生スル使用料等市町村收入ノ存スル場合ニ於テハ、費用ヲ負擔セサル他ノ一般住民ノ爲ニ要スル經費ニ之ヲ充ツルヲ相當トスヘキ理由ナシ。是ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ、先ツ其ノ收入ヲ以テ費用ニ充テ、不足額ニ付關係者又ハ一部ノ者ニ負擔ヲ命スヘキモノトセルナリ。故ニ若シ或年度ニ於テ使用料等收入ノ額カ寧ロ其ノ費用ノ額ニ超ユルコトアル場合ニ於テハ、須ラク市制第百九條第二項町村制第八十九條第二項ニ依リ、特定ノ目的ヲ有スル積立金トシテ蓄積シ、他年度

ノ費用ニ充ツヘキモノナリトス。其ノ一部ヲ利スル營造物ニ付テハ、以上ノ外更ニ其ノ一部限リノ收入アルトキハ、先ツ其ノ收入ヲ以テ營造物ノ費用ニ充ツヘキモノトス。之レ蓋其ノ部內ノ納稅者カ、全體ニ營造物ノ費用ヲ負擔スキモノタル以上、其ノ全體ノ利益ノ爲ニ生スル收入ハ假令其ノ營造物ヨリ生シタルモノニ非スト雖、先ツ之レヲ其ノ費用ニ充ツルコト相當ノ順序タルニ依ルナリ。然トモ此ノ際ニ於ケル一部ノ收入ハ、法人タル區其ノ者ノ收入ニ外ナラス、一部カ收入ヲ爲シ得ル爲ニハ市制第百四十四條町村制第百二十四條ニ依リ法人タル場合ノ外有リ得ヘカラサレハナリ、已ニ然リトスレハ區ト云フ別ノ人格者ノ收入ヲ以テ、市ノ營造物ノ費用ヲ負擔スルモノニシテ妥當ナラサルヤヲ疑フ者ナキニ非サレトモ、畢竟區住民ノ公課負擔ヲ減少スル方法ニ外ナラサルヲ以テ、法律ヲ以テ之ヲ爲サシムルニ於テ何等故障アルヘカラサルナリ。

數人又ハ市町村ノ一部ヲ利スル財產ハ其ノ關係ニ於テ營造物ト異ナル所ナキヲ以テ、本條第四項ニ於テ營造物ト同一方法ニ依リ處理スヘキコトヲ規定シタルナリ、財產ト營造物ノ區別ニ付テハ已ニ屢記述シタルヲ以テ玆ニ贅セス。

（判例）

一 町村內ノ一部ノミ專ラ利害關係アル堤防ノ修築費ハ其ノ一部ニノミ賦課スヘキモノトス（二五、一、三、行判）

二 町村內ノ一部ニ專屬スル用水路ニ關スル費用ハ其ノ一部ニ於テ負擔スヘキモノトス（二五、六、四、行判）

三 町村ノ一部ニ於テ使用スル道路ノ修築費ハ之ヲ使用スルコト少キ者モ其ノ部內ニ居住スル以上之ヲ負擔スル義務ヲ有ス（三〇、六、三〇、行判）

以上ハ必ス一部負擔トスヘシト爲セル舊法時代ノ判例タリ

市制 第百二十三條 町村制 第百三條 市町村稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

本條ハ租稅其ノ者及之レカ賦課徵收方法ニ關シ、規定ノ足ラサルモノヲ勅令ヲ以テ補足シ得セシムル爲ノ規定タリ。蓋市町村カ其ノ特別稅トシテ起シ得ヘキ稅目ハ千差萬別ナルヲ以テ、時ニ或ハ其ノ稅ノ內容ニ涉リテ一定ノ準則ヲ定ムヘキコトナキヲ保セス。又其ノ賦課及徵收方法ニ關シテハ、其ノ無キヲ以テ、實際ノ活用ニ際シテハ決シテ本法ノ規定シタル所ヲ以テ全般ヲ率シ得ヘカラサルコト明ナリトス。故ニ其ノ必要ニ應シ實際ニ適合スル規定ヲ爲サシムル爲、本法又ハ他ノ法律ニ規定アル以外ノ事項ハ之ヲ勅令ノ規定ニ讓レリ。（明治四十四年勅令第二百四十一號參照）

一部ヲ利スル事件ノ費用負擔

市制 第百二十四條 町村制 第百四條 數人又ハ市町村ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市町村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

本條ハ市町村ノ一部又ハ數個人ノ利益ノ爲ニスル事項ニ關スル費用ハ、其ノ利害關係者ニ特別負擔

ヲ爲サシメ得ルコトニ關スル規定タリ。蓋市町村ノ事件ヲ處理スルハ一般住民ノ爲ニスルモノナルヲ以テ、之ニ要スル費用ハ住民一般ニ其ノ負擔能力ニ比例シ負擔スルコトヲ本義トスレトモ、時ニ其ノ處理スル事件カ地域ニ關係ナク數個人ニ對シ、又ハ地域的ニ一部落ニ對シ特別ノ利益ヲ與ヘ、他ノ住民他ノ部落ニ對シテハ、其ノ利害關係甚タ薄ク、又ハ全ク利害相關セサルモノナキニ非ス。斯ノ如キ場合ニ於テハ特ニ其ノ利益ヲ受クル者ニ對シ他ヨリ重キ特別ノ負擔ヲ爲サシメ、又ハ全ク此等ノ者ヲシテ負擔セシムルヲ妨ケサル理ナリ。然トモ其ノ事タル充分公平タルヲ要スルヲ以テ、市制第百六十七條町村制第百四十七條ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得セシメタルナリ。例ヘハ漁民ノ利益ノ爲ニ常ニ警報ノ通信ヲ徹シテ掲示シ、某部落ノ利益ノ爲ニ排水ヲ行ヒ又ハ消防組ヲ設クル等ノ如シ。舊法ニ於テハ負擔者ノ事情ニ依リ不均一ノ附加稅ヲ爲スコトハ認メラレタレトモ、住民ノ受クル利益ノ厚薄ニ依リ負擔ヲ異ニスルハ、營造物ノ場合ノ外之ヲ認メサリシカ、改正法ニ於テハ從來ノ經驗ニ徵シテ其ノ不便ヲ認メ特ニ其ノ途ヲ開ケルナリ。

市制第百二十五條　町村制第百五條　夫役又ハ現品ハ直接市町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

本條ハ市町村カ勞力及物品ノ供給ヲ必要トスル場合ニ於テ、之ヲ賦課徵收スルコトニ關スル規定タリ。蓋シ古物物交換ノ經濟時代ニ於テハ國ノ收入其ノ他ノ公課モ總テ現物ヲ以テ納付セラレ、公ノ事業ハ人民直接ノ勞力提供ニ依リ營マレタリシカ、貨幣經濟ノ發達ト共ニ今ヤ總テノ公收入ハ金錢ヲ以テ納付セシムルヲ主義トスルノミナラス、更ニ進ムテ小切手ヲ使用セシムルニ至ラムトス。然トモ市町村ノ事業トノ關係ニ於テハ、尙時ニ直接勞力又ハ現品ヲ提供セシムルコト、團體及人民相互ノ爲ニ便益ナル場合存スルノミナラス、天災事變等ニ際シテハ缺クヘカラサル必要事タルコトナシト爲サス、之レ夫役現品ニ關スル本條ノ規定アル所以ナリ。

夫役トハ市町村カ其團體員ニ對シ公力ヲ以テ強要スル勞力ノ提供ヲ意味シ、現品トハ其ノ物品ニ關スル場合ヲ意味ス。夫役現品ハ租稅ト等シク對價ノ性質ヲ有セサル公法上ノ絕對負擔タリト雖、租稅ノ如ク其ノ目的カ收入ニ存セス、勞力又ハ物自體ノ取得ニ存スルコトニ於テ異ナレリトス。勿論現行ノ制度ノ如ク價額ニ換算シテ義務者ノ選擇ニ委スルニ於テハ、大ニ其ノ特質ヲ滅シ收入ノ目的ニ變スルノ傾ナキニ非スト雖、本質ノ存スル所ハ特ニ注意シテ區別スルコトヲ要ス。

直接市町村ノ負擔者

夫役現品ハ直接市町村稅ヲ以テ標準課率トシ、直接市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於テハ直接國稅ヲ以テ標準課率トシテ其ノ負擔額ヲ定メ、更ニ之ヲ金額ニ算出シ賦課スルコトヲ要ス。直接市町村稅トハ市制第百七十五條町村制第百五十五條ニ依リ市町村稅中ニ就キ內務大臣ニ於テ直接稅ト指定シタルモノヲ云フコト、已ニ國稅府縣稅ニ付市制第百十七條町村制第九十七條ニ於テ述ヘタル所ト異ルコトナシ。現今兩大臣ニ於テ指定シタルモノハ、直接國稅ノ附加稅、直接府縣稅ノ附加稅及段別割ノ三種トス。此ノ他市町村ニ於テ特別稅トシテ徵收スルモノニシテ、直接稅ト爲サムト欲スルモノハ府縣知事ノ稟請ニ依リ、各別ニ兩大臣ニ於テ指定スルノ定ナルヲ以テ、各市町村ニ依リ同シカラストス。其ノ標準ヲ直接市町村稅又ハ直接國稅ニ取ラシメタルモノハ、租稅ノ負擔能力ニ比例セシメ以テ公平ヲ持スルニ外ナラス。而シテ更ニ之ヲ金額ニ算出スヘキモノト爲シタルハ、夫役現品カ必スシモ其ノ現物ノ提供ヲ必要ナリトスル場合ニ限リ賦課セラルルニ非スシテ、市町村或ハ特ニ其ノ負擔者ノ便宜ナリト認メタル場合ニモ之ヲ賦課スルノ制ヲ取リタルヲ以テ、事情ノ實際ハ必スシモ現物ヲ提供セサルモ、之ニ相當スル代償ヲ納付スルニ於テハ市町村ハ更ニ之ヲ以テ勞力又ハ物品ノ供給ヲ私法行爲ニ依リテ充シ、實際ノ必要ニ處スルニ於テ支障ナキヲ以テ義務者ノ選擇ニ委スルカ爲ナリ。即市町村稅賦課額一圓ニ夫役一人其ノ勞銀一圓ナリトスレハ、一圓五十錢ノ市町村稅ヲ賦課セラルル者ニハ夫役一人半其ノ金額一圓五十錢トシテ賦課スルナリ。

夫役現品ノ負擔者

夫役現品ハ直接市町村稅又ハ國稅ヲ標準トシテ賦課スルヲ本則トスルモ、已ニ租稅ニ付前數條ニ特別負擔ノ規定アル如ク、其ノ夫役現品ヲ以テ處理スヘキ事件ノ性質ニ依リテハ此稅率ニ依リ均一ニ負擔セシムルコトノ適當ナラサル場合アリ、之レ但書ノ規定ニ依リ特ニ許可ヲ受ケタルトキハ、稅額ニ比例セサルコトヲ得セシメタル所以ナリ。

夫役現品ハ市町村稅ヲ負擔スル者（市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ在リテハ之ニ相當スル者）ニ賦課ス。此ノ事明ニ之ヲ規定セス、特ニ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ノ如キハ、何人ニモ賦課シ得ルモノトスルコト一見相當ナルカ如シト雖、本條ニ於テハ原則トシテ市町村稅ヲ標準トシ賦課スヘシト云フカ故ニ、此ノ場合ニ於ケル負擔者ノ市町村稅負擔者ニ限ルヤ論ナシ。又急迫ノ場合ト雖之ヲ次條ト比較スルニ、次條ニ於テ市町村住民ニ限ラス一般ノ居住者ニ義務ヲ負擔セシムル爲ニハ特ニ居住者ト明言シタリ、然ルニ本條ニ於テハ其ノ明示ナキヲ以テ、原則タル市町村稅負擔者ニ限ル趣旨ナリト云ヒ得ヘキノミナラス、一般ノ居住者ニ命セサルヲ得サルカ如キ場合ハ次條ノ專ラ關知スル所ナルヲ以テ、本條ニ所謂夫役トシ又ハ現品トシテ負擔スル者ハ、市町村稅負擔者ニ限ラレタリト云ハサルヘカラサルナリ。

夫役現品ノ賦課ハ急迫ノ場合ニ限ランサルヲ以テ、市町村有山林ノ造成ノ爲ニ夫役ヲ賦課シ、又ハ備荒貯蓄ノ爲ニ穀物ヲ賦課スルカ如キハ決シテ支障ナキノミナラス、時ニ市町村及住民相互ノ爲便益ノ處置タラスムハアラサルナリ。

特殊技能ニ夫役ヲ課セス

代金納付ノ權利

急迫ノ場合ニ於ケル夫役

夫役ハ勞力ノ徴收ナリ、故ニ等シク勤勞ナリト雖單純ナル手足ノ働作ニ止マラス、學藝美術又ハ手工ト云フカ如ク、特殊ノ訓練ヲ要シタルモノニ對シテ之ヲ賦課スヘカラス。斯ノ如キハ何人モ有シ得ヘキ働作ニ非スシテ、特殊ノ財産的性質ヲ有スルヲ以テ、之ニ賦課スルカ如キハ負擔ノ公平ヲ得ルモノニアラサルナリ、之レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ。

夫役ハ單ニ勞力ヲ目的トス。特殊ノ勤勞ヲ要求スルニ非ラス。故ニ其ノ實際ノ勞役ニ從事スルモノカ何人タルカヲ問フヲ要セサルナリ、唯普通人ノ爲ス所ヲ爲シ得レハ即チ足ルナリ。從テ本人自ラ其ノ勞務ニ服スルモ、或ハ適當ノ代人ヲ以テスルモ自由タリ。又夫役現品ハ若シ其ノ相當金額ヲ納付スルニ於テハ、市町村ニ於テ之ヲ以テ人夫ヲ雇ヒ入レ、又ハ物品ヲ購入シテ使用スルニ於テ支障ナシ、之レ抑本條第一項ニ於テ金額ニ算出賦課セシメタル所以ナラスンハアラス、故ニ第四項ニ於テ夫役現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ト規定シタル所以ナリ。代フルコトヲ得トハ負擔者ニ於テ代納權利アリト云フノ義ニシテ、市町村ニ其ノ權利アリト云フニハアラス、若シ市町村ニ代納請求ノ權利アランカ、夫役現品ノ賦課ニハ非サルナリ。

夫役ハ市町村税又ハ國税ヲ準率トシ金額ニ算出シテ賦課スルヲ要シ、負擔者ニ於テ金錢ヲ以テ代納スルノ權利アリト雖。天災事變等ニ際シ急迫ノ必要ニ應スルカ爲、夫役ヲ賦課スル場合ニ於テハ、此ノ如キ餘裕ナキノミナラス、税額ニ比例シ出役ヲ求ムルニ於テハ必要ノ夫役ヲ得ルコト能ハス、況ンヤ金錢ノ代納アルニ於テハ益〻其ノ用ヲ缺クモノト云ハサルヘカラス。是ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ税額等ノ制限ニ從ハス、苟モ存スル所ノ勞力ハ之ヲ賦課シ、賦課セラレタルモノハ必ス夫役ヲ以テ之ニ應スルコトト爲ササルヘカラス、之レ本條第五項ノ規定アル所以ナリ。此ノ場合ニ於テモ代人ヲ出スコトヲ妨ケサル所以ノモノハ、勞力其ノ者カ必要ナルニ過キサルヲ以テナリ。而シテ税額ト比例セサルヲ以テ、家族ニ多ク壯丁ヲ有スル者ハ自然多數ノ夫役ヲ賦課セラルル場合アルヘシ、從テ其ノ夫役ニ應セサリシ爲、後日市制第百三十一條町村制第百十一條ニ依リ、金額ニ算出シテ納付ヲ命セラルルニ當リテモ、其ノ多數ノ夫役ヲ算出セラルルニ依リ、税額ニ比シ多額ノ負擔ヲ爲スハ免カレサル所ナリ。若シ然ラサルニ於テハ、多數ノ夫役ヲ命セラレタル者ハ出役セサルコトトナルヘキヲ以テ當然ノ事理トス。仍現品ニ關シテモ、急迫ノ場合ニハ夫役ト同一ノ必要生スヘキニ拘ラス、本項カ唯役ニ付テノミ規定シ、現品ニ及ハサリシ所以ノモノハ、現品ハ急迫ノ場合ニ於テハ次條第一項ノ規定ニ依リ、賦課ヲ待タス直接使用收用スルコトヲ得ルヲ以テ其ノ必要ナシト爲シタルナリ、詳細ハ次條ニ於テ之ヲ説明スヘシ。

（增）

市制　第百二十六條　非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ市長、警察官吏又ハ監督官廳ハ市内ノ居住

者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村制 **第百六條** 非常災害ノ爲必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村長警察官吏又ハ監督官廳ハ町村內ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ郡長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ハ非常災害ノ時ニ際シ、市町村カ他人ノ土地物件ヲ使用收用スルコトニ關スル規定タリ。蓋天變地異ノ災厄ニ際シ之ニ應スルノ處置ハ寸時ヲ爭フヘク、之ニ要スル土地物件ノ處分ニ關シ、悉ク權利者ノ同意ヲ要スルモノト爲ストキハ、單ニ時機ヲ失スルノミナラス時ニ一人ノ利慾ノ爲ニ全市町村カ慘害ノ淵ニ沈ムコトナシトセス。舊法ニ於テハ斯ノ如キ場合ニ處スル規定ナカリシ爲、不便ヲ感シタルコト少カラサリシヲ以テ改正法ニ於テ特ニ此ノ規定ヲ設ケタルナリ。

非常災害ノ爲必要アルトキトハ、非常災害カ直接ノ原因タル以上其ノ必要カ事前ニ存スルト、同時ニ存スルト、將タ事後ニ存スルトヲ問ハサルナリ。此ノ關係ハ之ヲ次項ノ規定ト對照スルニ於テ特ニ分明ナリトス、次項ハ非常災害ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキト制限シ、危險ノ將ニ至ラントスル時ニ限リタルヲ以テ、其ノ已ニ危險ヲ生シタル後ニ於テ、其ノ復舊ヲ爲スカ如キ場合ハ含マサルコトヲ示シタルニ拘ラス、本項ニ於テ單ニ必要アルトキト云フニ止メタルモノハ事後ノ場合モ之ヲ含マシメムト欲シタルニ外ナラサルナリ。故ニ風火水震等ノ天變地異アルニ當リテハ、將ニ來ラムトスル災害防止ノ爲、若ハ現ニ生シツツアル災害鎭滅ノ爲ニスルハ勿論、已ニ生シタル災害ノ事後處分ヲ爲スカ爲ニ必要アルニ於テハ、他人ノ土地又ハ土石其ノ他ノ物件ヲ使用シ又ハ收用スルコトヲ得ルナリ。例ヘハ洪水ノ爲將ニ決壞セムトスル堤防ヲ維持スルカ爲ニ、他人ノ土石ヲ使用シ、又ハ已ニ汎濫シタル洪水ヲ途中ニ抑止スルカ爲ニ必要ナル竹木ヲ收用スルハ勿論、一旦水害ノ去リタル後ニ於テ堤防ノ復舊工事ヲ爲スカ爲ニ必要アルトキハ、一時其ノ附近ノ土地ヲ使用シ又ハ之ニ必要ナル土石竹木

非常災害ノ前後ヲ別タス

等ヲ使用シ又ハ收用スルヲ妨ケサルナリ。之アルカ故ニ前條ニ於テ急迫ノ場合ニ當リテモ、現品ノ制

他人ノ意義

規ニ依ラサル徵收ヲ必要トセサリシナリ。而シテ使用シ又ハ收用シ得ヘキモノハ他人ノ土地土石竹木等ナリ、他人トハ自己以外一切ノ人格者ヲ包含ス、一般ノ私法人ハ勿論公共團體モ之ヲ包含ス。『其ノ他ノ物品』トハ土石竹木ニ準スヘキ物品タルヲ要スルコト勿論ナルヲ以テ、特殊ノ貴重品ニ適用シ得ヘカラサルコト言ヲ須ヒスト雖、他方ニ於テ損失補償ノ責ニ任スルヲ以テ、必スシモ木石ト等シク廉價ナルコトヲ必要トセサルヘシ。從ツテ危害切迫ノ場合ニ於テ堤防ノ決壞ヲ防止スル爲、俵米ヲ使用シ又ハ疊建具ヲ收用スルモ已ムヲ得サル處置タルヘシ。唯之ヲ使用又ハ收用セサルヲ得サル必要カ四圍ノ事情ニ依リ認メラルルヲ必要トスルノミ。然トモ物品タルコトヲ要スルカ故ニ、家屋等ノ建設物ニ適用スルコトヲ得ス。從ツテ疫病ノ流行ニ際シ、緊急ノ處分トシテ私人ノ家屋ヲ收用シ、隔離病舍ニ充ツルカ如キコトハ本項ニ依リ爲シ得ヘカラサルナリ。

損失補償ノ制

使用又ハ收用ハ公法上ノ處分ナリ、然レトモ其ノ目的トスル所ハ事實ニ於テ使用スルコト、又ハ其ノ物品ノ所有權ヲ公力ニテ移スコトニ止マリ。土地收用法等ニ所謂使用又ハ收用ト云フカ如キ、特殊ノ手續ヲ要スルモノト同一意義ヲ有スルニハアラサルナリ。而シテ使用收用ハ一般住民ノ利益ノ爲ニ特ニ其ノ土地又ハ物品ヲ有スル者ニ負擔セシムルモノナルカ故ニ、後日ニ於テ其ノ者ノ受ケタル損失ヲ補償セサルニ於テハ公平ナリト云フヘカラス、依テ特ニ損失補償ノ規定ヲ設ケタルナリ。補償金額ハ損失ヲ受ケタル者ト市町村トノ協議ニ依リ定メシムルコト最モ穩當ナルヲ以テ、先ツ協議ノ方法ニ依ラシムルト雖、協議調ハサルニ於テハ府縣知事鑑定人ノ意見ヲ徵シテ之ヲ決定ス。知事ニ決定ノ申請ヲ爲スハ市町村ヨリ爲スモ、損害ヲ受ケタル者ヨリ爲スモ妨ケスト雖、若協議調ハサルコト明白トアリタル場合ニ於テ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得セシム、公平ヲ期スル所以ニ外ナラサルナリ。府縣知事ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ決定ノ理由ヲ附シ本人ニ交付スヘキモノトス。決定ニ付特ニ形式ヲ規定シタルモノハ、本條ノ決定ハ異議ノ決定ニ非サレハ、市制第百六十條町村制第百四十條各第五項ノ適用アラサルヲ以テナリ。本人ニ交付スト云フトキハ決定ヲ請求シタル本人ニ交付スレハ足ルカ如シト雖、若シ然リトスレハ決定ハ其ノ處分アリタル日ヨリ二十一日ヲ經過スレハ確定スルヲ以テ、相手方ハ不知ノ間ニ決定確定シ、內務大臣ニ訴願スルノ權ヲ失スルヲ以テ、玆ニ所謂本人トハ各其ノ當事者ヲ意味スルモノト解シ、決定書ハ之ヲ各本人ニ交付スヘキモノトス。元來本條ノ規定ハ充分ナル精練ヲ欠クノ憾ナキ能ハサルモ、協議調ハサル場合ノ知事ノ決定ニ對シ訴願シ得ル者ハ、土地ヲ使用セラレタル者及市町村ノ双方ナラサルヘカラサルニ、「決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ」ト規定シタルヲ以テ、本法中他ノ文例ニ照セハ、始メ決定ヲ申請シタル者ニ限リ、訴願シ得ルモノノ如ク解セラル、然トモ斯クテハ不理極マル結果ヲ見ルヲ以テ　不得已文字ヲ

離レ條理ニ訴ヘテ、市町村及使用セラレタル者双方ニ訴願權アリト解セサルヲ得サルカ如キモ亦同一事例ナリ。或ハ茲ニ所謂本人トハ使用又ハ收用セラレタル個人ノ義ニシテ、市町村ヲ含マス、決定書ハ常ニ被處分者ニ交付スルナリ、從テ前項ニ於テ決定ヲ受ケタル者ト云フモ亦被處分者ニ限リ、市町村ハ之ヲ含マス、蓋市町村ハ監督官廳ノ處分ニ對シ訴願セシメサルナリト爲ス者アリ、斯ク解スルニ於テハ文字上ハ兎ニ角一應ノ辨明ヲ得ヘシ、然レトモ本條ノ如キ金錢上ノ事項ニ付、個人ニハ訴願權アルモ市町村ニハ之レナシト爲スカ如キハ、立法主義トシテ到底解スヘカラサルニ依リ、從フヘカラサルノ說明ナリト云ハサルヘカラス。

危害切迫ノ際ノ夫役

非常災害ノ際勞力ノ必要アルトキハ、前條末項ノ規定ニ依リ制規ニ依ラスシテ賦課徵收スルコトヲ得。然トモ夫役ハ人ノ勞役ナルニ依リ同意セサル者ヲシテ服務セシムルノ道ナシ、故ニ若シ出役セサルトキハ後日之ニ代ルヘキ金錢ヲ強制徵收スルナリ。從ツテ一般ノ義務者ヲシテ非常災害ノ爲必要ノ夫役ニ服セシムル道ハ、前條ノ規定ヲ以テ盡キタリト爲スヘキナリ。然トモ此等ハ市町村稅負擔義務者ノ範圍ニ限ラレ、來タ苟モ其ノ市町村內ニ現ニ居住スル者ハ皆之ヲ強制シ得ルモノニハ非サルナリ。然ルニ危害切迫ノ場合ニ於テハ之ヲ防止スルカ爲ニ有ユル手段ヲ講スルハ、市町村自體ノ生命ノ爲必要ノ事柄タラスンハアラス。是ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ市町村ハ其ノ納稅義務者ニ夫役ヲ負擔セシムルヲ以テ足レリト爲サス、苟モ其ノ市町村內ニ居住スル者ハ老若男女ヲ別タス、住民タルト一時ノ滯在者タルヲ問ハス、擧テ急ニ赴カシムルノ途アルヲ必要トス、之レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ。

補償ナキ所以

即災害ノ已ニ去リタル後ノ夫役等ハ、納稅者ニ負擔セシメ足ルト雖モ、苟モ危害ニシテ將ニ至ラムトスル危險狀態ニ在ルニ際シ之ヲ防止スル爲必要アルトキハ市町村長警察官吏又ハ監督官廳ハ、苟モ其ノ市町村ニ居住スル者ハ何人ヲ問ハス之ニ命令シテ防禦ノ事ニ從事セシムルコトヲ得セシメタルナリ。茲ニ警察官吏及監督官廳ヲ加ヘタルモノハ、斯ノ如キ場合ニ於テ多ク其ノ現場ニ臨ミ指揮スル地位ニアル者ナルヲ以テ、市町村長ヲ助ケ共ニ命令強制セシムルコト便利多キヲ以テナリ。而シテ本條第一項ノ土地ノ使用、土石竹木等ノ使用收用ニ對シテハ損害ノ補償アルニ拘ラス、非常災害ニ際シ負擔ニ比例セスシテ命シタル夫役及本項ニ依リ防禦ニ從事シタル者ニ對シ勞銀ノ補償ナキハ、一見公平ヲ欠クノ觀ナキニ非サルモ、土地物件ノ使用收用ハ一人ニシテ多額ノ損害ヲ餘儀ナクセラルルヲ以テ補償ノ必要アルモ、夫役ハ假令多ク負擔スルトモ雖甲乙ノ間甚タシキ懸隔ナク。又危害防止ノ爲急ニ赴クカ如キハ、市町村住民ノ自ラ進ムテ爲スヘキ所ナルヲ以テ、特ニ補償スルノ必要ナシト爲シタルニ外ナラサルナリ。

使用ニ對スル訴願

第一項ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者カ其ノ處分ニ不服アルトキハ、市ニ在リテハ府縣知事ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アレハ內務大臣ニ訴願シ。町村ニ在リテハ郡長ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アレハ府縣知事ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アレハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得セシム。公

平ヲ期スルナリ、市町村ヨリ訴願スルコトヲ得ス。之レ市町村ハ監督官廳ノ裁決ニ服セシメテ可ナリト爲スニ外ナラサルナリ。而シテ第一項ノ規定ニ依リ災害後ノ處理ノ爲ニ土地ヲ使用スル場合ニ非サレハ適用ヲ見サルナリ。何トナレハ災害前若ハ災害當時ノモノハ訴願提起ノトキニ於テハ、已ニ事後ニ屬シ訴願ノ目的タル土地使用ノ事實存在スヘカラサレハナリ。災害後ニ於テ土地使用ノ事實アルニ依リ始メテ處分ノ當否ノ問題生スルナリ、此ノ事後引續キ使用スル時ニ限リ訴願アリト云フコトカ、市町村ニ訴願權ヲ認メサルノ理由ヲ爲スナリ。

臨檢檢査

市制第百二十七條　町村制第百七條

市町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

本條ハ市町村稅ノ賦課漏レヲ防ク目的ヲ以テ、臨檢又ハ檢查ヲ爲ス場合ニ關スル規定ナリ。蓋市町村稅中附加稅ハ國稅又ハ府縣稅ニ附加スルヲ以テ、市町村カ直接其ノ賦課物件ノ存否、收入ノ多寡等ヲ調查スル必要アルコト少シ、然トモ特別稅ハ市町村限リ獨立ニ課稅スルモノナルヲ以テ、課稅物件ノ有無收入ノ多寡、實際賦課ノ有無等一ニ市町村カ其ノ直接調查ノ衝ニ當ラサルヘカラス。賦課前ニ於ケル調查ハ屆出ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖、實際賦課スルニ當リテ其ノ屆出又ハ市町村備

付ノ書類ニ依ル調查カ事實ト齟齬シ、賦課漏トナルモノノ有無ハ、一ニ現場ニ臨ミ物件又ハ帳簿等ヲ檢查スルノ外ニ途ナシ、之レ本條ノ規定アル所以ニシテ間接國稅犯則者處分法ノ例ニ倣ヒタルナリ。

本條ハ賦課漏ヲ防クカ爲ニ設ケラレタル規定ナリ。故ニ市町村稅ノ賦課ニ關シ必要アルトキハ賦課ノ前後ヲ問ハス之ニ依ルコトヲ得ヘシ、附加稅タルト特別稅タルトヲ問ハサルナリ。然トモ實際ノ必要カ主トシテ特別稅ニ付存スルコトハ已ニ述ヘタルカ如シ。當該吏員トハ市町村ノ吏員ニシテ租稅ノ事務ニ當ル者ヲ指稱ス、市町村長ハ勿論、其ノ他何レノ吏員モ市町村長ノ欲スル所ニ依リ稅務ニ從事スル者ト爲シ得ルヲ以テ、實際ニ於テハ總テノ市町村吏員ト云フト異ル所ナシ。唯收入役及副收入役ハ現金出納及會計ノ事務ニ當ルヘキ者ナルヲ以テ、當該吏員タルコトヲ得サルナリ。日出ヨリ日沒迄ノ間ハ曆ニ從フヘシ、夜間臨檢スルヲ得サルモノトセルハ住民ノ安靜ヲ害セサラムカ爲ナリ、營業者ニ關シテハ日出ヨリ日沒迄ノ外仍其ノ營業時間內ハ、何時ヲ問ハス臨檢又ハ檢查スルコトヲ得セシム。之レ營業者ノ家宅若ハ營業所ハ營業時間內公衆ニ對シ開カレタルモノニシテ、未タ安靜狀態ニ在ラサルモノナルヲ以テナリ。然トモ其ノ臨檢シ又ハ檢查シ得ル場所ハ、現ニ營業ノ存スル所ナラサルヘカラス。故ニ營業所ト住宅トヲ別ニスル者ニ對シ、其ノ住宅ニ臨檢ヲ要スルトキハ、日出ヨリ日沒迄ノ間ニ於テ爲ササルヘカラサルナリ。營業時間ノ如何ハ特ニ法令ニ依リ又ハ營業許可ノ條件トシテ公開時間ノ定アルモノハ別トシ、其ノ他ハ現ニ營業シ居ル事實ニ依ルヘシ。家宅若ハ營業所ハ其ノ附屬ノ

倉庫其ノ他ノ建物ヲ包含ス、之レ規定ノ性質當然ノ結果ナリ。臨檢トハ居住者ノ意志ニ反シテ家宅内ヲ檢査スルヲ云ヒ、帳簿物件ノ檢査トハ其ノ强制呈示ヲ意味ス。例ヘハ收入多寡ノ調査ノ爲帳簿ヲ檢査シ、荷馬車稅賦課漏ノ調査ノ爲荷馬車ヲ檢査スルカ如シ。

當該吏員臨檢又ハ檢査ヲ爲スニ際シテハ、其ノ當該吏員タル身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スルコトヲ要ス、證票ナクシテ臨檢又ハ檢査ヲ爲サムトスルトキハ、納稅者ハ之ヲ拒否シ、强テ行ハントスルトキハ腕力ヲ以テ拒ムコトヲ妨ケサルナリ。

市制第百二十八條　町村制第百八條　市町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會町村會ノ議決ヲ經ヘシ

市町村ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市町村稅ヲ減免スルコトヲ得

本條ハ市町村稅ノ延納減免ニ關スル規定タリ。蓋租稅ハ市町村活動ノ資源ナリ、而シテ其ノ支出ニ必要ナル程度ニ於テ賦課徵收スルモノナルヲ以テ、之ヲ徵收セサルコトハ必要ノ費額ヲ缺クノ結果ヲ來スヘク、又或者ニ其ノ負擔ヲ減免スルコトハ公平ヲ缺クノ結果トモナルヲ以テ、容易ニ爲スヘカラサルモノタルコト勿論ナリト雖、時ニ天災地變等ノ爲納稅者ニ於テ一時其ノ負擔能力ヲ缺クコトアリ、又甚タシキ窮困ノ事情ニ依リ强テ公課ヲ負擔セシムルコトカ人類共存ノ主旨ニ反スルコトモアリ得ヘキヲ以テ、時ニ例外ノ處置ヲ爲ス必要ナシトセス、之レ本條ノ規定アル所以ナリ。市町村稅ハ特別ノ事情アル者ニ對シ其ノ納稅ヲ延期スルコトヲ得。特別ノ事情トハ火災水害等ノ天災ハ勿論徵兵ノ爲ニ一時生計ノ擔當者ヲ失フカ如キ、疾病ノ爲收入ノ方法ヲ失フカ如キ、總テ納稅者ノ不正ニ基カサル出來事ニ依リ酌量スヘキ事情ニ在ルヲ云フ。斯ノ如キ者ニ對シ强テ定期ノ納稅ヲ要求スルハ人類共存ノ道タラサルノミナラス、時ニ却テ市町村ノ收入ヲ減スルノ結果ヲ來スヘシ、故ニ市町村ハ之ニ對シ延納ヲ許スコトヲ得。而シテ其ノ年度内ニ止マル場合ニ於テハ、收入現金ノ融通ニ止マルヲ以テ市町村長限リ之ヲ爲スコトヲ得レトモ、年度ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ年度ノ收入ヲ減スルノ結果トナルヲ以テ、市參事會又ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘキモノトナセルナリ。延期ヲ許スノ處分ハ納稅者ノ請求ニ依リ之ヲ爲スヘシ、請求ハ必ラシモ形式的ニ申出ツルコトヲ要セスト雖、其ノ之ヲ要求スル者タルコトヲ確認シ得ヘキ事實ナカルヘカラス。之レ許可ト云フ處分ノ性質上當然ノ事ニ屬ス。故ニ賦課ヲ受ケタルモノカ所在不明ノ時事實上其ノ徵收ヲ延期スルカ如キハ、便宜ノ處分トシテ爲サルルモノニシテ本條ニ關スル所ニハアラサルナリ。既ニ請求ニ依リ爲スモノナルヲ以テ、許可ノ處分ハ常ニ賦課後ニ於テ爲サレサルヘカラス。實際ノ取扱トシテハ特別ノ事情アル者ヨリ、豫メ概括的ニ延期ノ請求アルコトヲ妨ケスト雖、之ニ對スル許可ノ處分ハ個個ノ賦課ニ付其ノ都度之ヲ爲ササルヘカラサルモノトス。

租稅ノ減免

市町村ハ特別ノ事情アル者ニ對シ、市町村稅ヲ減免スルコトヲ得。特別ノ事情ノ何ナルカハ前項ト異ナルコトナシ、唯之レカ爲ニ納稅者ニ於テ納稅ニ堪ヘサルカ又ハ全部納稅ニ堪ヘサルノ事實ナカルヘカラス。堪ヘサルノ事實トハ必スシモ全財產ヲ擧ケテ尙足ラサルノ事實アルヲ必要トスト云フニ在ラス、之ヲ爲スコトカ直接ニ其ノ者ノ生計ヲ甚タシク困難ナラシムル事實アルニ於テハ足レリト爲ササルヘカラス。困難ノ爲ニ減免スヘキモノナルヲ以テ優遇ノ爲ニ減免セムトスルカ如キハ本條ノ關スル所ニ非サルナリ。減免ノ場合ハ市町村カ之ヲ爲スモノナルニ依リ、市町村會ノ議決ニ依リ處理スヘキコト言ヲ須ヒサルナリ。

減免ハ請求ヲ要ス

市町村稅ノ減免ハ、延期ノ場合ノ如ク規定上許可ノ形式ヲ採ラサルヲ以テ、本人ノ意思如何ニ拘ラス市町村ニ於テ自動的ニ處分シ得ルカ如クナレトモ、若シ然ラムニハ前項ト權衡ヲ失スルノミナラス、免除ハ當然ニ公民權喪失ノ結果ヲ伴フヲ以テ、本人ノ意思ニ反シ減免スルカ如キハ本項ノ趣旨ニ在ラスト解セサルヘカラス。唯其ノ處分ノ爲サルル時期ニ關シテハ、既ニ賦課シタルモノニ付之ヲ爲スモ未タ賦課セサル前ニ於テ概括的ニ之ヲ爲スモ妨ケサルナリ。

市制第百二十九條　町村制第百九條　使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ市町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

財產又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ市町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

條例規則ノ制裁

本條ハ市町村カ其ノ自主法規ニ制裁トシテ附スルコトヲ得ヘキ罰則ニ關スル規定タリ。蓋市町村ハ其ノ自主權ニ依リ條例及規則ヲ制定ス。此等ノ法規ハ多數ノ場合ニ於テ住民ノ權利行使ノ方法ニ關スルヲ以テ、其ノ規定ニ從ハサル者ハ權利ヲ行使セシメサルコトニ依リ、法規制定ノ目的ヲ達シ得ヘシト雖、時ニ事項ノ種類ニ於テハ事後ノ制裁ヲ加フルニ非サレハ、充分其ノ目的ヲ達シ難キ場合アリ。故ニ特ニ條例ニ限リ、特殊ノ場合ニ於テ行政上ノ制裁トシテ、五圓以下ノ過料ノ罰ヲ附スルコトヲ認メタルナリ、之レ本條ノ規定アル所以ナリ。

行政上ノ制裁ナリ

過料ハ刑法上ノ罰金ト等シク一定ノ法規的秩序ヲ破壞シタル者ニ對シ科スル財產上ノ苦痛タリ。然トモ罰金ハ社會ノ公共的秩序ヲ破ル者ニ對シ科スル刑事上ノ制裁タルニ反シ、過料ハ行政ノ範圍ニ於ケル秩序ヲ亂ス者ニ對シ科スル行政上ノ制裁ニ過キス。故ニ過料ハ刑法ノ原則ニ依リ支配セラルルコトナク、從ツテ刑法上ノ犯罪タルコトナシ。其ノ執行方法及受罰ノ效果等ハ一ニ之ニ關スル行政法規ニ依リ定マルナリ。

コトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ハ總テ市町村條例ヲ以テ規定スルコトヲ要ス。舊法ニ於テハ單ニ其ノ細則ヲ條例ヲ以テ規定スルヲ要スルノミニシテ、使用料手數料及特別稅其ノ者ノ設定ハ條例ニ依ルヲ要セサリシト雖、改正法ニ於テハ特ニ其ノ細則ニ限ルヘキ理由ナキト、住民ノ權利義務ニ關係スル事項ナルヲ以テ、之ヲ條例ニ規定シ判明ナラシムルコト便宜ナルトニ依リ、設定ヨリ賦課ノ徵收ノ方法ニ至ル迄總テ條例ヲ以テ規定スヘキモノトシ、且其ノ規定ノ遵奉ヲ完カラシメムカ爲、規定違反者ニ對シテハ五圓以下ノ過料ヲ科スルノ規定ヲ設ケ得セシメタルナリ。特別稅ニ關シ過料ノ制裁アルニ拘ラス、附加稅ハ市町村ニ於テ直接課稅物件等ノ調査ヲ要スルコト少ナキト、且多クハ本稅ト同時ニ賦課徵收セラルルモノナルヲ以テ、各其ノ本稅ニ關スル規定ヲ以テ足レリト爲シタルニ外ナラサルナリ。

財產營造物ノ使用方法

營造物又ハ公用ニ供シタル財產ノ使用方法如何ハ、直接其ノ營造物又ハ財產ノ保管上ニ至大ノ影響アルノミナラス、他ノ使用者ノ權利ニ關係スルコトモ少カラサルヲ以テ、使用ニ關スル秩序ハ完全ニ遵守セラルルコトヲ必要トス。故ニ其ノ制規ニ違反シタル者ニ對シテハ五圓以下ノ過料ヲ科スヘキ規定ヲ設クルコトヲ得セシメタルナリ。使用ニ付條例ヲ以テ過料ニ關スル規定ヲ設クルニ當リテハ、多クハ同時ニ使用方法ニ關シ積極的規定ヲ設ケ、其ノ制裁トシテ違反者ニ過料ヲ科スル規定ヲ置クコト普通ナルヘシト雖、法ノ要求スル所ハ使用方法ヲ定ムヘシト云フニ非サルヲ以テ、單ニ制裁ノ規定ヲ設クルニ止ムルヲ妨ケサルナリ。例ヘハ公園ノ使用ニ關スル制裁ノ條例トシテ、園中ノ花卉ヲ折ル者ハ五圓以下ノ過料ニ處スト云フカ如シ。

過料ノ處分

過料ノ處分ハ、舊法ニ於テハ特ニ市町村長ノ權限ニ屬スルコトヲ規定シタレトモ（第九十一條第二項參照）、同條例ノ規定ノ執行ニ過キサルヲ以テ、其ノ執行機關タル市町村長ニ屬スヘキコト言ヲ待タスト爲シ、改正法ニ於テハ其ノ規定ヲ省略シタルナリ

府縣知事ノ出訴權

過料ニ關スル市町村長ノ處分ヲ受ケタル者、其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得、而シテ府縣參事會ノ處分カ市町村ニ對シ不當ニ不利ナリト認メラルル場合ニ於テハ、市町村ノ爲ニモ抗爭ノ道ヲ開カサルヘカラス、之レ特ニ府縣參事會ノ裁決ニ對シ不服アルトキハ、市町村長ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシメタル所以ナリ。而シテ其ノ他ニ尙府縣知事ノ出訴權ヲ認メタルモノハ、府縣參事會ノ裁決カ不當ナル場合ニ於テハ、假令關係者ニ於テ不服ナキモ、監督官廳タル立場ヨリ事件ノ正當ナル處理ヲ期セサルヘカラストスルノ趣旨ニ出ラレタルナリ。故ニ府縣知事ハ必スシモ裁決カ市町村ニ對シ不利ナル場合ニ限ラス、過料ニ處セラレタル者ノ不利ナル場合ニ於テモ仍提起シ得ルモノタルナリ。

舊法ニ於テハ條例違反ノ制裁ヲ刑事罰タル科料トシ、市町村長ノ處分ニ不服アル場合ニ於テハ、司法裁判所ニ出訴セシメタリト雖、刑事罰ヲ科スルノ不穩當ナルト刑法上ノ犯罪ヲ市町村長ヲシテ處置

セシムルコトノ不穩當ナルトニ依リ、改正法ニ於テハ行政上ノ制裁タル過料ニ改メ、同時ニ行政裁判所ノ權限ニ移シタルナリ。

（增）

市制第百三十條　町村制第百十條　市町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及ヒ加入金ノ徵收竝夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ就テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

賦課ノ意義

本條ハ市町村稅其ノ他ノ公課ノ賦課又ハ徵收ニ付爲サレタル違法處分ノ救濟ニ關スル規定タリ。蓋市町村稅其ノ他ノ公課ハ、住民ノ其ノ團體ニ對スル主要ノ負擔ナルヲ以テ、最モ公平ノ方法ニ於テ賦課徵收セラルルルハ、各人ノ權利擁護ノ上ニ於テ最モ必要ノ事ニ屬ス。之レ本條ノ規定アル所以ナリ。

市町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者、其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ、市町村長ニ異義ノ申立ヲ爲スコト得。異議ノ申立ハ賦課ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムルトキニ限ラル。賦課トハ市町村會ニ於テ議決シタル課稅標準ニ依リ、賦課規則ノ定ムル所ニ從ヒ、之ヲ課稅物件ニ適用シ稅額ヲ定メテ、各納稅義務者ニ其ノ負擔ヲ命スル市町村長ノ處分ヲ云フ。故ニ納稅義務者ノ異議ノ申立ハ、畢竟市町村長ノ處分ヲ以テ之ヲ爲スモノタリ。即市町村長カ市町村會ノ議決ヲ事實ニ適用スルニ當リ課稅ノ物件多寡ヲ誤マリ若ハ課稅スヘカラサル物件ニ對シ賦課シ、課率ヲ誤マリ若ハ稅額ノ算出ヲ誤マリ、又ハ納稅義務者ヲ誤マリテ負擔ヲ命シ若ハ賦課規則ニ違反シテ賦課シタルカ如キ場合ニ於テハ賦課ヲ受ケタル者ハ之ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ、市町村會ノ議決トハ直接何等ノ關係ナシ。關係ナシト云フハ之ヲ理由トシテ異議ノ申立ヲ爲スコト能ハスト云フニ止マリ、市町村長ニ於テ市町村會ノ議決ヲ誤マリナク事實ニ適用シタルトキハ、之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコト能ハスト云フニハアラサルナリ。假令市町村會ノ議決ヲ執行シタルニ過キサル場合ト雖、若シ其ノ議決ニシテ違法ノモノタリ、法律上賦課シ得ヘカラサル物又ハ人ニ對シ、賦課スヘキモノト議決シタリトセンカ、之ニ依リ執行シタル市町村長ノ賦課モ亦違法ノモノタラサルヘカラサルナリ。唯斯ノ如キ場合ニ於テモ異議ノ目的タルモノハ市町村長ノ處分カ違法ナリト云フニ存スヘクシテ、議決ハ目的ニ非サルナリ。此ノ事タル實質的違法ノ場合ニ於テハ、何レヨリ云フモ差違ナシト雖、錯誤ノ場合若ハ議事ノ手續ニ付違法アル場合ニ關シテハ、時ニ相違ノ生スルコトナシトセス。例ヘハ町村ニ於テ住民ヲ貧富ノ程度ニ依リ等級別ト爲シ戶別割ヲ賦課スル爲、町村會ニ於テ財產ノ多寡ヲ標準トシ各人別ニ等級ヲ分ツニ當

違法又ハ錯誤アルヲ要ス

リ誤ツテ某ノ財産ヲ過當ノ多額ニ認定シ不相當ノ等級ニ組入レ議決シタリトセムカ、町村會ノ議決トシテハ錯誤ニ基ツク議決タルコト論ナシ。然トモ議決ハ議決トシテ有效ニ成立ス、故ニ後日町村長カ其ノ等級別ニ依リ之ニ相當スル戸別割ヲ某ニ賦課シタリト雖、町村長ノ賦課ニ於テハ何等錯誤アルコトナシ、從テ某ハ錯誤ヲ理由トシテ賦課ニ對シ異議ヲ申立ツルヲ得ヘカラス。又市町村會ノ議事手續ニ於テ違法アリト雖、其ノ議決ハ相當ノ手續ヲ以テ取消サレサル限リ有效ニ存續スヘキヲ以テ、之ニ基キ爲シタル市町村長ノ賦課ハ何等違法ノ廉存スルコトナシ。故ニ賦課ヲ受ケタルモノハ議決ノ違法ヲ理由トシテ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘカラサルナリ。

使用權ニ關スル異議

賦課ニ對シ異議ヲ申立ツルニハ違法又ハ錯誤アリト認ムルコトヲ要ス。違法ハ實體法ニ違反スルコトアリ、手續法ニ違反スルコトアリ。例ヘハ法令上市町村稅ヲ賦課スヘカラサル人又ハ物件ニ對シ賦課スルハ前者ニシテ、賦課規則ニ違反スルハ後者ニ屬ス。錯誤ハ課稅物件ヲ誤マリ、稅率ヲ誤マリ、賦課額ヲ誤マル等其ノ場合多シ、又同一事實カ觀察ノ方法ニ依リ、違法トモナリ錯誤トモナルヘシ、法ノ適用上別ニ區別スル必要ナシ。唯違法及錯誤以外ノ事由ニ依リ申立得ヘカラサルコトヲ注意スルヲ要スルノミ。又異議ノ申立ハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日以內ニ於テ爲スコトヲ要ス。期間ノ計算ハ一般ノ例ニ依リ處分アリタル翌日ヨリ曆ニ從ヒ之ヲ爲スヘキモノトス。

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ、之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得、之レ本條第二項ノ規定ナリ。財産又ハ營造物ヲ使用スル權利カ公法上ノ使用權ヲ意味スルコトハ既ニ屢述ヘタル如シ。使用スル權利ニ關スルトハ使用權有無ノ如キ根本ノ問題ハ勿論、使用權ハ之ヲ認ムルモ特ニ其ノ使用ヲ拒否シ、若ハ使用ノ程度ヲ制限シ、使用ノ方法ヲ制限スル等一切ノ場合ヲ包含ス。或ハ使用ノ方法ノ如キハ含マスト云フ者ナキニアラサルヘカラサルナリ。勿論市町村ハ營造物ニ關シテハ營造物規則ヲ設ケ、又市町村住民中特ニ使用ノ權利ヲ有スル者アル財産ニ關シテハ其ノ使用方法ニ關スル規則ヲ設クルコトヲ得ルヲ以テ、此等ノ規則ニ依ル使用制限ニ對シ、異議ヲ申立ラ得サルハ言ヲ須ヒサレトモ、若シ此等ノ規則ニ從ヒ使用セントスル者ニ對シ、尙其ノ使用方法ヲ制限セムトスルカ如キ場合ニ於テ、異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキヤ論ナキナリ。財産ノ使用方法ニ付テハ種々ノ體樣アルコト既ニ述ヘタルカ如シ。故ニ財産ヨリ生スル收入ノ分配ヲ受クル權利ノ如キモ、若シ存スルニ於テハ、主トシテ舊慣ニ依リ一部住民ニ使用權アル財産ニ關スルト雖、今後市町村基本財産造成ノ結果、財産ヨリ生スル收入ヲ以テ市町村ノ經費ヲ支辨シ、年年殘餘ヲ生スルヲ以テ、其ノ收入ノ一部ヲ住民ニ分配スルカ如キ事實アルニ至ラハ、亦公法上ノ使用權トシテ本項ノ適用ヲ受クルモノト云ハサルヘカラス。

個人ノ訴願訴訟

前二項ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ、市町村長ハ之ヲ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付スルコト

市町村長ノ訴願訴訟

ヲ要ス、其ノ決定ヲ受ケタル納稅者ハ、之ニ對シテ不服アルトキハ更ニ府縣參事會ニ訴願シ、其ノ裁決ニ對シ尙不服アルカ、又ハ市參事會ノ決定ニ對シ第五項ノ規定ニ依リ市町村長ヨリ提起シタル訴願ニ付縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ對シ不服アルトキハ、行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルナリ。訴願訴訟ノ結果賦課カ違法又ハ錯誤ノモノト決定シタルトキハ、市町村長ハ徵收金ノ還付等納稅者ノ原狀回復ヲ爲スヘキモノタルコト勿論ナレトモ、夫役ノ賦課ニ對シ勞務ヲ提供シ、現品ノ賦課ニ對シ提供シタル現品カ既ニ使用シ盡サレタル場合ニ於テハ、勞務又ハ現品ヲ還付シ能ハサルニ依リ、其ノ算出金額ヲ還付スヘキモノナリト云ハサルヘカラス。

使用料手數料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ハ、共ニ市町村長ノ爲ス處分ニシテ、其ノ性質市町村稅ノ賦課ト異ナル所ナキヲ以テ、之ニ第一項及前項ノ規定ヲ準用シタルナリ。之レ本條第四項ノ規定タリ。茲ニ使用料手數料及加入金ニ關シテハ賦課ト云ハスシテ特ニ徵收ト云フ所以ノモノハ、此等ニ關シテハ賦課ノ處分ナク直接徵收處分ヲ爲スモノナルヲ以テナリ。

第三項及第四項ニ依リ租稅ノ賦課使用料手數料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ付行フ市參事會若ハ町村會ノ決定、又ハ府縣參事會ノ裁決ニ對シテハ、市町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシム、市町村ノ利益ヲ保護セシムルニ外ナラサルナリ。而シテ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ對シ市長又ハ町村長ヨリ訴願ヲ提起セシムルハ、賦課徵收ノ處分カ固市町村長ノ權限ニ屬シ、爾カモ其ノ議決機關ト意見ヲ異ニスル場合ナルヲ以テ市町村長ニモ意見ノ主張ヲ許シ、之ニ依テ處分ノ公平ヲ期セムト欲シタルナリ。

知事ノ訴訟

本條第六項ハ前三項ノ規定ニ依リ爲ス府縣參事會ノ裁決ニ對シ府縣知事ヨリモ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシム。其ノ裁決ノ市町村會ニ不利ナル場合ト、市町村長ニ對シ不利ナル場合トヲ別タス、所謂公正ナル處置ヲ希望スル目的タルコト前條ノ場合ト異ナルコトナシ。

（判例）

一　賦課ヲ以テ不法トスルモノハ其ノ不法ノ點ノ何レニアルヤヲ問ハス皆悉ク之ヲ論爭スルコトヲ得（三一、一〇、七、行判）

二　市ハ市外ニ於ケル土地家屋營業若ハ其ノ所得ニ對シテハ課稅權ヲ有ス（三五、一一、二一、行判）

三　他ノ法令ノ規定ナキ以上本稅納付地ニアラサレハ附加稅ヲ賦課シ得サルモノト云フヲ得ス（三七、四、六、行判）

四　日ヲ以テスル期限ノ計算ハ初日ヲ算入セサルヲ一般ノ通則トス（二九、五、二六、行判）

五　區會カ其ノ區全體ノ利害ニ關スル堤防ノ修築費ヲ議決シテ之ヲ同區內土地所有者ニ賦課シタルハ違法ニアラス（三〇、三、一六、行判）

六　町村稅ヲ以テ支出スヘキ警衞費ハ天災事變等災害ヲ防禦スルカ爲支出スヘキモノトス　故ニ選擧鬪爭等時ニ於テ警衞費ヲ支出シ防禦セサルヘカラサル非常災害ヲ生セントスル事實アリト認メ得ヘキ證左ナキニ該費用ヲ村稅トシテ賦課徵收シタルハ其ノ當ヲ得タルモノニ非ス（二五、一二、一九、行判）

七　收用シタル土地建物ニ賦課除例申請受ケタルモノトアル規定ヲ適用シ村稅ヲ賦課シタルハ不當ニアラス（三〇、六、三〇、行判）

八　一定ノ場所ニ於テ營業ヲ爲ス者ハ其地所カ營業者ノ本據ナルト否トニ拘ラス總テ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

九　寺院ノ所有地ト雖寺院ノ用ニ供スルモノニ非サレハ免税ノ限ニ在ラス（三六、七、一、行判）

一〇　未タ當選資格有無ノ議決ヲ爲ササル議員ヲ召集セスシテ開會シタル村會ハ正當ニ成立シタルモノナリト云フヲ得ス其ノ議決ハ違法ノモノナルヲ以テ之ニ依ル村税モ亦不法ノモノトス（三八、七、七、行判）

適當ノ判決ニアラスト認ム

市制　第百三十一條　市町村制　第百十一條　市町村税、使用料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ市町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市町村條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徴收金ハ府縣ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國税ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ノ

其ノ他ノ收入ノ範圍

夫役現品ノ督促

本條ハ市町村ノ公收入ノ完納ヲ强制スル手續ニ關スル規定タリ。蓋市町村ノ租税其ノ他ノ公ノ收入ハ公法關係ニ於ケル收入ナルヲ以テ、私法規定ニ依リ司法裁判所ニ訴ヘテ其ノ義務ノ履行ヲ强制シ得ヘカラス、別ニ其ノ方法アルコトヲ要ス、之レ本條ノ規定アル所以ナリ。

第一項ニ其ノ他ノ市町村ノ收入ト云フモノハ、列記以外ノ一切ノ市町村公收入ヲ意味ス。而シテ茲ニ使用料又ハ手數料ト云フモノハ、本法ニ依テ使用料手數料ナラサルヘカラサルヲ以テ、他ノ法令ニ依ル使用料手數料例ヘハ並木敷使用料小學校ノ授業料等ニシテ市町村ノ收入ニ屬スヘキモノハ、所謂其ノ他ノ市町村ノ收入トシテ、本項ノ規定ヲ適用スヘキモノナリトス

第二項ニ於テ市町村ハ期限ヲ定メテ之ヲ督促スヘシト云フモノハ、其ノ夫役現品ニ代フル金錢ヲ督促スヘキ義ニシテ、夫役現品其ノ者ノ督促ハ之ヲ包含セサルモノト解セサルヘカラス。何トナレハ夫役現品ハ原則トシテ一定ノ時期ニ必要アルカ爲之ヲ賦課スルモノトス、故ニ定期ヲ經過スルニ於テハ其ノ要ナキ場合多ケレハナリ。或ハ定期ヲ經過スルモ尚實際ニ於テ必要アル場合ニハ、市町村長ハ兩者ニ付督促ヲ行ヒ、義務者ニ於テ選擇納付スルヲ得ト主張スル者ナキニ非サレトモ、或場合ニ於テハ金錢ニ限リ、或場合ニ於テハ夫役現品モ可ナリト云フカ如キ選擇ノ自由ハ、特ニ明文ニ規定ナキ限リ存シ得ヘカラサルモノト爲スヲ相當トス。即定期内ニ在リテハ夫役現品ヲ以テスルト、代金ヲ以テスルトハ、納付義務者ノ權利ナリト雖、期限經過ノ後ニ於テハ代金ヲ以テ納付スルノ一方法存スルノミ、

督促手數料

市町村長モ納付義務者モ之ヲ變更スル權利ヲ有セサルナリ。此ノ關係ハ督促カ滯納處分ノ前提トシテ行ハルルモノナルコトニ照スモ亦明ナリトス。

督促ハ納稅義務者ノ指定ノ期間內ニ於テ義務ノ履行ヲ爲ササルカ爲、特ニ手數ヲ重ネシムルモノナルヲ以テ、之ニ對シ相當ノ手數料ヲ徵收スルヲ妨ケサルナリ、之レ本條第三項ニ於テ條例ノ定ムル所ニ依リ、督促手數料ヲ徵收スルコトヲ得セシメタル所以ナリ。手數料ノ徵收時期及手續等ハ凡テ條例ヲ以テ定ムヘク、必スシモ督促シタル收入ト理論上同一時タルヲ要スルモノニ非ラスト雖、若シ時ヲ異ニスルトキハ更ニ之カ爲ニ強制徵收ヲ爲ス必要生スルヲ以テ、同一時ニ徵收スルヲ相當トス。

滯納處分

滯納者督促ヲ受ケ仍其ノ指定期限內ニ全部納付セス、又ハ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ヲ金額ニ算出シ納付ヲ命シタルニ拘ラス、其ノ指定期限內ニ全部納付セサルトキハ、國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スヘキモノトス。國稅滯納處分ノ例ニ依ルトハ國稅徵收法ノ滯納處分ニ關スル規定ヲ準用シ、滯納處分ヲ爲スヘキノ義タリ。

督促手數料ノ徵收期

督促手數料ハ本法ニ依ル手數料ナルヲ以テ、字義ノ解釋トシテハ前條第四項ノ規定ノ適用アルコト勿論ナリ。從テ之ヲ定期ニ納付セサルトキハ、本條第一項ニ依リ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ督促シタル後ニ非サレハ、滯納處分ノ目的ト爲ス能ハサルカ如シ、又實際ノ取扱トシテ斯ノ如クスルヲ妨ケスト雖、若シ然ラムカ納稅者ニ於テ任意督促手數料ヲ納付セサルニ於テハ、同一手數料ノ爲際限ナク滯

納處分ヲ繰返ササルヘカラス。斯ノ如キハ法ノ精神ナリト云フヘカラサルヲ以テ、本條第三項ニ於テ、市町村條例ノ定ムル所ニ依リト云フモノハ、徵收手續ニ關シテ本法ノ例外ヲ開クコトヲ條例ニ委任シタルモノト解シ、其ノ條例中別ニ督促ノ手續ヲ須ヒス、主タル收入ト同時ニ滯納處分ニ依リ徵收スル旨ノ規定ヲ爲スヲ妨ケサルモノトササルヘカラス。

先取特權

第一項乃至第三項ノ徵收金、即市町村ノ一切ノ公收入金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス、之レ納稅義務者カ破產又ハ家資分散ノ場合ニ於テ、其ノ財產ノ分割ニ付一般債權者ニ對シ優先權ヲ認メタルナリ。公收入ノ優先權ハ其ノ團體ノ重要ノ程度ニ從ヒ區別セラル。即國ヲ以テ最優先者トシ、府縣及之ニ準スヘキモノ例ヘハ北海道地方費等之ニ次ク、而シテ市町村ハ之ヲ府縣ノ次順位ニ置キタルナリ。府縣ノ次順位ナルカ故ニ府縣ト同一順位ノモノニ對シテモ亦次順位タルコト當然ナリ。即納稅者ノ財產中ヨリ先ツ國ノ徵收金ヲ控除シ、殘餘ヨリ府縣及之ト同順位ノモノノ徵收金ヲ控除シ、尙殘餘アルニ於テ始メテ市町村及之ト同順位ノモノノ徵收金カ優先取得スルナリ。同一順位ノ間ニ於テハ權利ノ分量ニ比例シテ按分ス。其ノ追徵還付及時效ニ付テ國稅ノ例ニ依ルト云フモノハ、租稅等ニ付納稅者ニ於テ隱蔽逋脫ノ爲、又ハ市町村長ニ於テ賦課漏ノ爲、徵收不足タリシモノノ追徵或ハ違法若ハ錯誤ニ依リ賦課徵收シタルモニシテ、訴願訴訟ノ結果若ハ市町村自己ノ錯誤發見ノ結果擧戾スヘキモノノ還付、及此等追徵權又ハ還付義務ノ消滅スヘキ時效ハ、凡テ國稅ノ例ニ從フノ義ナリ。國稅ニ付テ

追徵還付及時效

ハ地租條例、所得稅法、相續稅法、酒造稅法等ノ如ク、其ノ追徵又ハ還付或ハ時效ニ付各其ノ稅法ニ規定ヲ有スルモノアリ、又多クノ稅法ノ如ク此等ニ關シ何等ノ規定ヲ有セサルモノアリ、規定アルモノハ各其ノ規定ニ從フヘク。規定ナキモノハ、其ノ還付ニ付テハ會計法第十八條ニ依リ、徵收ニ付テハ同第十九條ニ依リ五年ニシテ時效完成スルモノトス。故ニ市町村稅ニシテ國稅ノ附加稅タルモノハ、其ノ本稅ニ特別規定アルモノハ其ノ規定ノ例ニ依リ、特別規定ナキモノハ會計法ノ時效ニ依ルヘク。又府縣稅ノ附加稅タルモノハ府縣稅自體ノ追徵還付及時效カ國稅ノ例ニ依ル（府縣制第百十六條）ヲ以テ國稅ノ附加稅ト異ナルコトナシ。而シテ特別稅タル市町村稅ニ付テハ、獨立稅ナルヲ以テ、國稅ノ追徵還付及時效ニ關シ一般法タル會計法第十八條及第十九條ニ其ノ範ヲ取リ處理スヘキモノトス。仍會計法ニ所謂時效ハ公收入支出ニ關スル特別時效ニシテ、民法ニ所謂時效ト別種ノモノナルヲ以テ、其ノ五年ノ完成期ハ請求ト云フ一事實ニ依リ中斷セラルル外、他ニ何等ノ中斷事由ナキモノタルコトヲ注意スルヲ要ス。

前三項ノ處分即督促手數料徵收ノ處分、滯納處分又ハ追徵還付ノ處分ヲ受ケタル者、其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得。而シテ其ノ府縣參事會ノ裁決ニ對シテハ府縣知事又ハ市町村長ヨリ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシム、其ノ理由ニ至リテハ前條ノ場合等ト異ナルコトナシ。

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止スト云フモノハ、滯納處分カ不法又ハ不當ニ執行セラルルトキハ、假令訴願訴訟ニ依リ後ヨリ之ヲ取消スト雖、不動產ノ如キ當然所有權ノ原權利者ニ復舊スヘキモノハ別トシテ、動產ノ如キ卽時時效ノ效果ニ依リ、公賣ヲ受ケタル者ニ於テ原始的ニ所有權ヲ取得スヘキモノニ付何等ノ效果ナキニ終ルヲ以テ、被處分者ノ權利ヲ完全ニ擁護スルノ爲ニハ差押處分カ爭ナク若ハ訴願訴訟ノ手續ヲ盡シテ不動ノモノトナル迄、公賣ノ執行ヲ停止スル外ナシト爲シタルニ依ルナリ。「處分ノ確定ニ至ル迄」トハ、字句ノ聯絡上ノ解釋トシテハ、「第四項ノ處分」ト云フモノト同一ナルヘキヲ以テ、滯納處分ノ確定ニ至ル迄ヲ指スト云ハサルヘカラサルカ如シト雖、斯ノ如ク解スルトキハ、滯納處分ハ公賣ヲ爲シ其ノ公賣代金ヲ處分シテ後始メテ完結スルモノナルニ依リ、若シ公賣ノ執行ヲ停止セラルルヽニ於テハ、處分ハ永久ニ確定シ得ヘカラサルヲ以テ不條理タルヲ免カレス。故ニ玆ニ處分ト云フハ滯納處分中ニテ特ニ差押處分ヲ指シタルモノト解セサルヘカラサルナリ。卽滯納處分中ニテ差押物件公賣ノ處分ハ、差押處分ノ確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行シ得サルノ義ナリ。差押處分ハ差押ノ事實アリタル後二十一日以內ニ訴願訴訟ノ提起アリタルトキハ、市制第百六十條町村制第百四十條ニ依リ確定シ、又訴願訴訟ノ提起アリタルトキハ其ノ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキニ於テ確定ス。此ノ確定ノ事實アル迄ハ公賣ノ執行ハ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ。而シテ公賣執行ノ停止ハ絕對的規定ナルカ故ニ、假令差押ヲ受ケタル者ニ於テ訴願訴訟ヲ提起

セサルトキト雖、二十一日ヲ經過シテ差押處分確定スル迄ハ公賣ヲ爲シ得ヘカラサルナリ。又公賣ハ例外ナク停止セラルルモノナルカ故ニ文理ノ解釋トシテハ、國稅滯納處分ニ於テ即時公賣シ得ル、不相應ニ保存費ヲ要スル物件又ハ著シク其ノ價格ヲ減損スル虞アル物件（國稅徵收法施行細則第二十二條參照）ト雖、尙公賣シ得サルカ如シ、然レトモ公賣執行ヲ停止スル法ノ精神ハ、被處分者ノ利益保護ニ存スルヲ以テ、斯ノ如キ公賣停止カ却テ被處分者ノ不利益ト爲ルカ如キモノニモ仍本項ノ適用アリト解スルハ正當ニ非サルヘシト信ス。

《判　例》

一　僅少ノ滯納稅金ニ多額ノ財產ヲ公賣スルハ違法ニ在ラス（二四、一〇、一〇、行判）

二　公賣ニ鑑定人ヲ設ケテ利害關係人ヲ立會ハシメサルハ違法ニ在ラス（二四、一〇、一〇、行判）

三　豫定ノ公賣時間ヲ伸長スルハ違法ニ在ラス（二六、七、五、行判）

四　滯納處分ニ於テ財產ノ差押ヲ爲スニハ差押調書ヲ作成スルコトヲ要ス（三〇、一〇、二二、行判）

五　財產差押ノ執行ハ町村書記ヲシテ行ハシムルモ違法ニ在ラス（三四、四、二二、行判）

六　町村稅ノ訓滿得免ニ付テハ會計法第十九條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス（三九、五、二二、行判）

市　制　第百三十二條　市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村制　第百十二條　町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

本條ハ市町村ノ起債及一時借入金ニ關スル規定タリ。蓋市町村ハ其ノ財產收入使用料手數料等ヲ以テ之ヲ支辨シ、不足アル場合ハ市町村稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘキモノナリト雖、時ニ其ノ經營セントスル事業ノ性質等ニ依リ、一時ニ多額ノ支出ヲ要シ財產等ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ得ヘカラサルハ勿論、市町村稅ヲ以テ充テントスルモ之レ亦負擔能力ニ一定ノ限度アリ、一時ニ多額ノ賦課ニ堪フヘカラス、已ムヲ得ス一時負債ヲ起シテ其ノ必要ニ應シ、後日漸ヲ以テ財產收入及租稅等ニ依リ之ヲ償還スルノ必要アルコトアリ、又假令其ノ年度全體ニ渉リテハ收入ヲ以テ支出ヲ辨シ得ヘシト雖或時期ニ於テ收入ノ支出ニ伴ハサル爲、一時資金ノ融通ヲ圖ルノ必要アルコトアリ、之レ本條ノ規定

償債償還

アル所以タリ。然トモ何レモ已ムヲ得サルニ出タル臨機ノ處置ナルヲ以テ、之ヲ濫ニスヘカラサルハ勿論、特ニ起債ニ付テハ負擔ヲ後日ニ貽スモノナルニ付一倍ノ注意ヲ爲スコト必要ナリトス。

市町村ハ現ニ已ニ負債ヲ有スルコトアルヘク、今後ハ又本條ニ依リ負債ヲ有スルニ至ルコトアルヘシ。此等ノ負債ハ一定ノ時期ニ於テ償還期ニ達スルニ拘ラス、市町村ノ資力充分ナラスシテ、償還ニ充ツヘキ財源ニ窮ス、然レトモ期限到達ノ負債ハ之ヲ償還セサルヘカラス、不得已更ニ負債ヲ起シテ舊債ヲ償還スルヲ要シ、或ハ又負債ハ未タ償還期ニ達セスト雖其ノ利率頗ル高ク市町村ノ不利益ナルモノモアルヘシ。斯ノ如キ場合ニ於テハ可成低利ノ負債ニ借換ヘ、以テ其ノ年年ノ負擔ヲ減少スルハ市町村ノ將ニ努ムヘキ所ナリ。即之ヲ爲スカ爲ニ市町村ハ更ニ負債ヲ爲スノ必要アリ、之レ其ノ負債ヲ償還スルカ爲市町村ヲシテ起債スルコトヲ得セシメタル所以ナリ。

永久ノ利益ヲ爲ルヘキ支出

市町村ハ一ノ自治團體トシテ、無窮ノ生命ヲ有スヘキ人格者タリ。故ニ其ノ自己ノ爲ニ計畫ヲ立ツルヤ、決シテ目前ノ利害ヲノミ打算スヘキモノニ非ス。今日ニ於テ至大ノ犧牲ヲ拂フモ若シ永久ニ渉リテ其ノ利益ヲ享受スルノ道アラハ、進テ之カ施設ヲ爲スヲ要ス。例ヘハ上下水道ヲ起シテ永久ニ衞生上ノ利益ヲ受ケ、電車電燈瓦斯ノ供給事業ヲ起シテ永久ニ交通其ノ他ノ便益ヲ享受シ、其ノ他水利排水ニ道路河川ノ修築ニ植林ニ開墾ニ其ノ例ハ擧ケテ數フヘカラサルナリ。斯ノ如キ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ノ場合ニ於テハ、到底爲シ得ヘキ所ニ非サルノミナラス、若シ強テ之ヲ賦課ニ求ムレハ住民ヲ困弊セシメ其ノ餘弊ト利益ト相償ハサルニ終ルヘシ。是ヲ以テ一時資源ヲ他ニ求メ漸ヲ以テ收入及租稅ニ依リ之ヲ償還スルノ必要アリ、之レ市町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ノ爲ニ起債ヲ爲スヲ得セシメタル所以ナリ。永久ノ利益トナルヘキ支出トハ、必スシモ市町村カ直接事業ヲ經營スル爲ノ支出タルヲ要セス、他人ノ事業ヲ助成スルコトカ其ノ永久ノ利益タルヘキ場合ニ於テハ、亦起債スルヲ妨ケサルナリ。然トモ起債ハ負擔ヲ後日ニ貽スモノナルヲ以テ、少額ノ支出增加ノ爲ニ之ヲ爲スヘキモノニ非サルコト勿論ナレハ、起債ヲ要スルカ如キ多大ノ補助ヲ爲シ、爾カモ之カ市町村ニ甚タ利益ナリト云フカ如キ場合ハ事實ニ於テ甚タ少カルヘキナリ。

天災事變

天災事變ハ時ニ多大ノ損害ヲ市町村ニ及ホシ、水害後ニ於ケル堤防道路用水路ノ修築、火災風害後ニ於ケル營造物其ノ他ノ復舊等、一時ニ多額ノ支出ヲ要スルモノアリ。又流行病ノ暴發ニ際シ防遏ノ施設ヲ爲スノ必要アルコトアリ。其ノ他天災事變ニ準スヘキ出來事ニシテ之ニ應スルカ爲、一時多大ノ支出ヲ要スルモノアルハ誠ニ免カレサル所ナルヲ以テ、又市町村債ヲ起スコトヲ得セシム。

起債ニ付議決スヘキ事項

市町村債ハ以上三場合ニ限リ之ヲ起スコトヲ得セシム。然トモ其ノ後日ノ負擔タル點ニ於テ、市町村ノ利害ニ關係ヲ有スルコト甚タ大ナルヲ以テ、市町村會ニ於テ其ノ議決ヲ爲スニ當リテハ、同時ニ如何ナル方法ニ依リ之ヲ起スヤ、即一個人ヨリ借入ルヤ又ハ廣ク公衆ニ募集スルヤ、利息ノ定率ヲ如何

ニスルヤ、又其ノ償還ハ据置年賦償還ト爲スヤ、一時ノ償還ト爲スヤ、之ニ充ツル財源ハ何ニ求ムルヤ等、後日償還ニ窮スルカ如キコトナキ方法ヲ定メ、共ニ議決ヲ爲スコトヲ要ス。而シテ其ノ事重大ナルカ故ニ市制第百六十六條町村制第百四十六條ニ依リ、内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス。其一旦許可ヲ受ケタル後ニ於テ之ヲ變更スルトキ亦然リ。之レ起債ノ許可ハ其ノ金額、起債方法、利息、償還方法等カ、皆政府ノ許可ヲ決定スルニ重要條件ヲ爲シタルモノナレハナリ。故ニ金額ノ增減ハ勿論、起債時期ノ變更、利息定率ノ增減、償還時期ノ變更、年別償還額ノ變更等皆許可ヲ要ス。起債金額及利率ノ減少ハ市町村ノ負擔ヲ減少スルモノニ付、許可ヲ要セサルカ如シト雖、若シ金額ニシテ甚タ少額ニ減少セラルルニ於テハ、別ニ起債ノ必要ナシトスルコトモアルヘク。又利率ノ減少モ不相當ナルニ於テハ、確實ニ其ノ必要金額ヲ得ル能ハスシテ、却テ不利益ニ終ルコトナシトセス、故ニ總テ皆許可ヲ受クルコトト爲シタルナリ。然トモ之ニ關シ別ニ法定ノ制限アルニ非サルヲ以テ、許可セラルルト否トハ別トシテ一個人ヨリ借入ルルト、公債ノ方法ニ依ルト、内國債ト爲スト外國債ト爲スト等ハ總ヲ自由ナリトス。唯現時ノ取扱ニ於テ若シ外國債ト爲ストキハ、其ノ起債ノ交涉ヲ開始スル前ニ於テ、内務大藏兩大臣ノ承認ヲ受クヘキモノトス、之レ其ノ時期ノ當否ハ、市町村自身ノ爲ニ至重ノ利害關係アルノミナラス、國家ノ財產政策ニモ影響スルコトアルヘキヲ以テナリ。

以上ハ市町村カ其ノ年度ニ於ケル收入ヲ以テ償還スル目的ニ非ラス、次年度以後ニ涉ル收入ニ依リ償還スル意思ヲ以テ起ス負債ニ付之ヲ云ヘルナリ。其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキ借入金モ亦市町村ノ負債タルコトニ於テ變ル所ナシト雖、斯ノ如キハ其ノ負擔ヲ後年ニ貽スモノニ非ラスシテ、唯市町村ノ收入ニハ一定ノ時期アルカ爲、一會計年度ヲ通計スルニ於テハ收入ヲ以テ支出ヲ支辨シ盡スニ於テ何等故障ナシト雖、一時支出ノ現金ニ窮スル場合ノ融通ノ方法トシテ、之ヲ爲スニ止マルモノナレハ、特ニ普通ノ起債ト區別シテ便宜ノ方法ニ依リ、之ヲ爲シ得ルノ途ヲ開カサルヘカラス、之レ本條第三項及第四項ノ規定アル所以ナリ。即市町村ノ豫算上ノ經理ノ便ニ應スルカ爲、豫算ニ認メタル金額ノ支出ヲ爲ス爲ニ必要アルトキハ市ニ於テハ市長ハ市參事會ノ議決ヲ經町村ニ於テハ町村會ノ決議ヲ以テ、一時借入金ヲ爲スコトヲ得ルト共ニ、元豫算經理ノ便宜ノ爲ニシタルモノナルヲ以テ、其ノ借入行爲ノ屬スル會計年度内ノ收入ヲ以テ、之ヲ償還スヘキモノト爲シタルナリ。會計年度内ノ收入トハ其ノ出納閉鎖期迄ニ、其ノ年度ノ收入トシテ收納スルモノノ義ナリ。

起債ハ市町村ニ特ニ認メラレタル權能ナリ、故ニ單ニ財產及營造物ノ管理ヲ爲スニ止マル市町村ノ一部タル區ハ、假令其ノ管理ノ爲ニ多數ノ費用ヲ一時ニ支出スル必要アル場合ト雖、之カ爲ニ負債ヲ起スコト能ハス、故ニ其ノ必要ニシテ避クヘカラサル場合ニ於テハ、之ヲ市町村ノ負債トシテ市町村カ直接起債ノ衝ニ突リ、其ノ借入レタル金額ヲ區ニ交付使用セシメ、其ノ償還ハ區ノ收入ヲ以テ之ニ充ツルノ外途ナシト云ハサルヘカラス。然ラハ市町村ハ何ノ名義ニ於テ斯ル起債ヲ爲スヘキカ、思フ

一時借入金

區ノ爲ニスル起債

ニ區ノ永久ノ利益タルヘキ事項ハ、同時ニ市町村ノ永久ノ利益タル事項タルヘク。區ノ天災事變等ハ同時ニ市町村ノ天災事變タルヘキヲ以テ、此ノ名義ニ於テ爲スコトヲ妨ケサルヘシ。一時借入金ニ付テモ亦、特ニ明文ヲ以テ市町村ニ許サレタル事項ナルニ依リ區ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノト云フノ外ナシ、而シテ一時借入金若シ絕對不能ノモノトスレハ、之ヲ爲サスシテ豫算ノ經理ヲ爲スコト決シテ不能ニ非サルヲ以テ、事實ノ問題トシテハ生スルコトナカルヘシト雖、若シ絕對的必要アル場合ニ於テハ、市町村ヨリ一時ノ立替金ヲ爲スヲ妨ケサルヘシ。蓋シ交付金又ハ立替金ハ、畢竟一時的讓與トシテ觀念シ得ヘキヲ以テナリ。

豫算ノ本旨

（判　例）

一　町債ノ償還年次ヲ擅ニ繰下クタルハ違法ナリ（二九、九、二八、行判）

市制町村制　第二款　歳入出豫算及決算

本款ニ於テハ市町村歳入出豫算ノ調製、出納、及歳入出ノ決算竝市町村ノ支拂金ニ關スル時效等ヲ規定セリ。

事ノ大小ヲ論セス、事業ノ難易ヲ問ハス、其ノ當事者ノ多少ニ拘ラス、凡ソ最少ノ失費ヲ以テ最大ノ效果ヲ擧ムント欲セハ、須ラク收支ノ關係ヲ豫定シ、之ニ依テ出納ヲ爲シ其ノ事業ヲ經營スヘキナリ。斯ノ如クニシテ事業ハ始メテ最モ經濟的ニ執行セラルヘク、且其ノ收支ハ明確トナルヘキナリ。大ハ國家ヨリ小ハ一個ノ會社ニ至ルマテ、豫算ヲ設ケ以テ其ノ收支ヲ豫定スルハ之レカ爲ニ外ナラス。市町村制カ等シク豫算ノ編製ニ就テ規定スル所以ノモノ亦此ノ趣旨ニ外ナラサルナリ。

豫算ハ收支ノ見積計算ナリ。豫算ハ其ノ文字自身カ示スカ如ク全ク收支ノ豫想ニ過キス。既ニ收支ノ豫想ニ過キストスレハ、實際ノ收支カ之ト伴ハサルコトアルハ亦免レサル所ナリ。市町村ハ豫算ニ見積ラレサルヲ理由トシテ、法令ノ命スル收支ヲ拒ムコト能ハサルナリ。然トモ事務ノ執行ニ當ル者ハ、別ニ法令ニ依リ豫算ノ示ス所ニ從ヒ收支ヲ爲スヘキコトヲ命セラルルカ故ニ、之ニ反シテ收支ヲ爲スコト能ハス。即此等ノ法令ノ結果トシテ間接ニ豫算ニ依リ制セラル。市町村ハ豫算ナキ故ヲ以テ法令ノ命スル收支ヲ拒ム能ハスト雖、其ノ執行ニ當ル吏員ハ豫算ニ從ハサル收支ヲ爲スコト能ハス、其ノ結果ハ豫算ヲ更正スヘキコトト爲ルナリ。此ノ豫算ヲ正シテ而シテ後ニ始メテ吏員カ收支ヲ爲シ得ルト云フノ點ニ於テ、單ニ事實ノ見積リニ過キサル豫算カ實際上偉大ナル效力ヲ生スルコトトナリ。市町村自體ヨリ云ヘハ事實ノ見積リニ過キス、然トモ事務執行ノ吏員ヨリ云ヘハ豫算執行ニ關スル法令ノ力ニ依リ其ノ行爲ノ標準タリ。之レ實ニ即儉行政ニ於テ豫算カ重要ナル地位ヲ占ムル所以ナリ。是ニ於テカ市町村カ豫算ノ制ヲ設クルハ、一ハ其ノ財政上ノ理由トシテ、之ニ依テ會計ヲ整理

豫算ノ性質ニ關スル學說

シ收支ヲ明カニセムト欲スルカ爲ニシテ、他ハ之ニ依リ其ノ吏員カ任意ニ收支ノ事務ヲ遂行シ、徒ラニ其ノ經費ヲ膨大ナラシムルコトナカランコトヲ欲スルカ爲ナリ。

豫算ノ性質ニ就テハ委任說アリ、法規說アリ、訓令說アリ、委任說ハ豫算ハ之ニ依リテ執行機關ニ其ノ收支出納ノ權利ヲ委任スルモノナリト謂フニ在リ、然トモ市町村カ豫算ヲ編成スルハ市町村長ニ委任ニシテ其ノ收支ヲ取扱ハシムルモノニ非ス、市町村長カ豫算ニ從ヒ取扱フ收入ハ即チ市町村ノ收支ニシテ、市町村長ノ行フ所ハ即チ市町村ノ豫算ノ執行ニ外ナラス、其ノ間ニ委任ノ關係アルニ非ラサルナリ。法規說ハ豫算ハ準則ヲ定メ、執行機關ハ之ニ依テ其ノ行動ヲ控束セラルルモノナリト謂フニ在リ、然トモ豫算ハ直ニ執行機關ヲ拘束スルモノニ非ス、別ニ收入支出ヲ羈束スル法規ノ存在スルニ依リテ、始メテ執行機關ヲ拘束スルナリ。會計ニ關スル法規カ、豫算ニ依リ財務ニ關スル法規ニ從ヒ、收入支出ヲ爲スヘシト謂フニ依リ、吏員ハ豫算ニ遵據スルナリ、豫算其ノ者ニ拘束力アルニハ非サルナリ。訓令說ハ豫算ハ團體ノ主腦カ其ノ作成ニ依リテ、團體ノ吏員ニ之ニ依ルヘキコトヲ命スル訓令ノ性質ヲ有スルモノナリト謂フニ在リ、然トモ團體ノ吏員カ豫算ニ遵據スルハ、豫算其ノ者ノ拘束力ニ非サルコト已ニ述ヘタルカ如シ、其レ自體ニ拘束力ヲ有スルモノニ非ラストセハ、命令ノ一種タル訓令ニ非サルコト言ヲ須ヒサルナリ。要之豫算ノ者ハ事實ノ豫想ニ過キス、事實ノ豫想ニ過キスト雖、他ノ法令トノ關係ニ於テ吏員ハ之ニ遵據スルコトヲ強制セラルルニ依リ、爲ニ豫算ノ重要ノモノタルヲ毀損スルコトアラサルナリ。

一般會計ト特別會計

豫算ハ之ニ依リテ收入支出ヲ爲シ之ニ依リテ會計ヲ整理スルヲ主タル目的トス、從ツテ其ノ性質トシテ不分割ノモノナラサル可ラス。換言セハ總テノ歲入出ハ一括シテ一個ノ豫算トナスヘク、幾多ノ豫算カ個々別ニ存在スヘキニアラス。若シ然ラスシテ歲入出ノ關係ヲ明瞭ナラシメムトスル目的ハ遂ニ達スヘカラサルナリ。豫算ノ分立ハ之ニ依リテ即豫算ナキニ等シキ結果ヲ生シ、遂ニ又個々ノ豫算ニ對スル總豫算ヲ編成スルニアラサレハ、會計ノ整理ハ得テ期スヘカラサルナリ。然トモ時ニ或ハ或種ノ事業ニ限リ其ノ收支ノ關係ヲ獨立セシメ、他ノ事業ト共ニ其ノ收支ヲ混同セシムルノ不可ナル場合ヲ生スルコトアルヘシ。例ヘハ其ノ事業カ容易ニ一般ノ施設ト獨立スヘキ性質ノモノニシテ、且其ノ事業ノ根底ヲ確實ナラシメムヘキ必要アルモノアリ。斯ノ如ク他ノ施設ト其ノ收支ノ關係ヲ一括スルニ於テハ、或ハ却テ其ノ事業ノ發展ヲ阻礙スヘキカ如キ場合ニ於テハ其ノ事業ノミヲ以テ別箇ノ豫算ト爲シ一般ノ會計ヨリ獨立セシメ、其ノ事業ノ獨立ヲ維持スルハ又已ムヲ得サルコトニ屬ス。斯ルト會計ハ之ヲ特別會計ト稱シ以テ一般會計ト區別ス。舊市制町村制ニ於テハ、明文上特別會計ヲ認メス、僅ニ豫算ニ於テ特別會計ヲ認ムルノ趣旨ヲ示シ、以テ實際ノ必要ニ應シタルニ過キサリキ。然トモ新法ニ於テハ特別會計ヲ設置スルヲ得ルノ明文ヲ掲ケ以テ時世ノ進運ニ從フ。

豫算ト其ノ施行

豫算ハ單純ナル收支ノ見積計算ナリ、其レ自體ニ何等ノ拘束力ナシ、故ニ之ヲシテ實際ニ行政ヲ運行スル者ノ行爲ノ標準タラシムルカ爲ニハ、別ニ其ノ關係ヲ規律スル法規ナカルヘカラス。是ヲ以テ本款ニ於テハ、市町村ノ豫算執行ニ關スル各種ノ會計規定ヲ設ク。

決算及其ノ性質

豫算ニ依リ、一定ノ規定ニ從ヒ收支ヲ爲ス、亦之カ決算ナカルヘカラス。蓋決算ハ事實ナリ、如何ニ豫算ヲ執行シタルカヲ示スモノタリ、即豫算ニ依リ出納ヲ爲シ其ノ現計ヲ總括シタルモノナリ。豫算ハ單ニ見積リナリ收支ノ事實ハ豫定シタル如ク生スルモノニアラス。從ツテ玆ニ決算ヲ爲シ以テ收支ノ事實ヲ明ニスルヲ要スルナリ。市町村ノ豫算ハ市町村會ノ議決ニ依リテ成立スルモノナルカ故ニ、決算モ亦市町村會ノ認定ニ附シ以テ執行機關カ其ノ會計上ノ取扱ニ於テ法令ニ違背セサリシヤ、豫算ニ違反セサリシヤ、又ハ其ノ收支ハ果シテ必要ニシテ適當ナリシヤ否ヤノ認定ヲ受クルヲ要ス。

本款ニ規定スル所ハ以上豫算、出納並決算ニ關スルモノタリ。

市制第百三十三條　町村制第百十三條　市町村長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ運クトモ年度開始ノ一月前ニ市町村會ノ議決ヲ經ヘシ

市町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ市町村會ニ提出スルトキハ市町村長ハ併セテ事務報告書及財產表ヲ提出スヘシ

豫算ノ調製

本條ハ市町村ノ豫算ノ調製、其ノ議定ノ時期及會計年度ニ關スル規定タリ。豫算ノ性質ニ就テハ屢ニ一言セルカ如ク、之ニ依リテ會計ヲ整理シ收支ノ均衡ヲ保タシメムトスルモノナリ。市町村長ハ即每會計年度一年間ノ歲入歲出ノ見積計算表ヲ調製シ、市町村會ノ議決ヲ經テ市町村ノ收支ヲ定ムヘク、市町村ハ之ニ依リテ其ノ理事者ヲシテ收支ヲ爲スノ準繩ヲ得セシムルナリ。市町村長ハ每會計年度一年間ニ生スヘキ收入及支出ヲ豫定シテ之ヲ市町村會ノ議決ニ付スルモノタリ。其ノ收入及支出トハ會計年度間ヲ通シテ收入ト爲リ又ハ支出ト爲ルヘキモノノ一切ヲ包含シ、其ノ公法上ノ源因ニ依ルト私法上ノ源因ニ依ルトヲ別タサルナリ。市町村長ハ其ノ豫算調製ノ準備及其ノ下調等ニ至リテハ、之ヲ他ノ吏員ヲシテ爲サシムルコトヲ得ヘシト雖、其ノ豫算トシテノ調製ニ就テハ本條ニ明カナルカ如ク全ク市町村長ノ職務ナリ。豫算ハ一年間ノ收支ヲ豫定スルモノニシテ數年間ノ收支ヲ豫定スルコトヲ得ス、亦每年之ヲ調製スルモノニシテ一時ニ數年分ヲ調製スル能ハサルナリ。豫算ハ如何ナル式ニ於テ之ヲ編製スヘキカ、市制第百四十三條町村制第百二十三條ハ、內務大臣ニ於テ之ヲ定ムヘキコトヲ規定ス、現行ノ豫算樣式ハ明治二十二年內務省令第二號ヲ以テ規定セラル。改正法ノ下ニ於テハ、相當ノ時期ニ至リ改正セラルヘシト雖、當分ハ此ノ樣式ニ依ルモノナルヘシ。市町村長ハ此ノ式ニ依リ豫算表ヲ調製シ之ヲ市町村會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ルヲ要ス。其ノ豫算表ヲ提出スヘキ時期ニ就テハ運クトモ年度開始ノ一月前ニ市町村會ノ議決ヲ經ヘキモノトセルカ故ニ、市町村長ハ年度開始ノ一月

豫算式

豫算議定ノ時期

豫算案ノ議定

前ニ其ノ議決ヲ經得ヘキ時期ニ於テ之ヲ提出スルヲ要ス。即チ市町村會ヲシテ年度開始一月前迄ニ議決セシメ得ヘキ樣、審査又ハ議決ノ餘裕ヲ存シタル時ニ於テ提出スヘキモノナリ。而シテ年度開始ノ一月前トハ如何ナル時期ヲ謂フカ、本條第二項ニ依レハ市町村ノ會計年度ハ放府ノ會計年度ニ依ルモノトス。政府ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ルヲ以テ、年度開始ノ一月前トハ二月二十八日迄ヲ謂フモノナリ。若シ夫レ市町村長カ二月二十八日迄ニ議決シ得ヘキ餘裕ヲ存セスシテ豫算ヲ市町村會ノ議ニ附シ、或ハ市町村會ニシテ法定ノ期限迄ニ之ヲ議決セサルトキハ如何ゝ或ハ本項ノ規定ヲ以テ、市町村會ノ豫算ヲ議決シ得ヘキ時期ニ關スルモノナリトシ、此ノ以後ニ於テハ市町村會ニ豫算議定ノ權能ナシト云フモノナキニ非ラス。然トモ本項カ特ニ市町村長ハ云云スヘシト規定スルニ徴シ、市町村長ニ對スル命令規定タルニ過キサルハ明ナリトス。從ツテ市町村長カ提出ノ時期ヲ失シタル場合ニ於テハ、市町村長ニ對スル監督上ノ責罰ヲ加フルハ格別、之カ爲ニ市町村會カ豫算議定權ヲ失フモノト爲スヘカラサルナリ。反之市町村長カ適當ノ時期ニ於テ提出シタルニ揭ラス、市町村會ニ於テ其ノ議決ヲ怠慢ニ付スル場合ニ於テハ、市町村會カ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルモノナルヲ以テ、市町村長ハ市制第九十一條第四項町村制第七十五條第二項ニ基キ、府縣參事會ノ議決ヲ求メ或ハ郡長ノ指揮ヲ受ケ處置スルコトヲ得ルモノトス。

豫算ハ市町村會ノ議決ヲ經ルヲ要スルヲ以テ、市町村會ノ豫算案ノ修正權ノ制限

豫算ハ市町村會ノ議決ヲ經ルヲ要ス。即チ市町村會ヲシテ年度開始一月前迄ニ議決セシメ得ヘキ樣、審査又ハ議決ノ餘裕ヲ存シタル時ニ於テ提出スヘキモノナリ。而シテ年度開始ノ一月前トハ如何ナル時期ヲ謂フカ、本條第二項ニ依レハ市町村ノ會計年度ハ放府ノ會計年度ニ依ルモノトス。政府ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ルヲ以テ、年度開始ノ一月前トハ二月二十八日迄ヲ謂フモノナリ。若シ夫レ市町村長カ二月二十八日迄ニ議決シ得ヘキ餘裕ヲ存セスシテ豫算ヲ市町村會ノ議ニ附シ、或ハ市町村會ニシテ法定ノ期限迄ニ之ヲ議決セサルトキハ如何ゝ或ハ本項ノ規定ヲ以テ、市町村會ノ豫算ヲ議決シ得ヘキ時期ニ關スルモノナリトシ、此ノ以後ニ於テハ市町村會ニ豫算議定ノ權能ナシト云フモノナキニ非ラス。然トモ本項カ特ニ市町村長ハ云云スヘシト規定スルニ徴シ、市町村長ニ對スル命令規定タルニ過キサルハ明ナリトス。從ツテ市町村長カ提出ノ時期ヲ失シタル場合ニ於テハ、市町村長ニ對スル監督上ノ責罰ヲ加フルハ格別、之カ爲ニ市町村會カ豫算議定權ヲ失フモノト爲スヘカラサルナリ。反之市町村長カ適當ノ時期ニ於テ提出シタルニ揭ラス、市町村會ニ於テ其ノ議決ヲ怠慢ニ付スル場合ニ於テハ、市町村會カ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルモノナルヲ以テ、市町村長ハ市制第九十一條第四項町村制第七十五條第二項ニ基キ、府縣參事會ノ議決ヲ求メ或ハ郡長ノ指揮ヲ受ケ處置スルコトヲ得ルモノトス。

豫算ハ市町村會ノ議決ヲ經ルヲ要スルヲ以テ、市町村會ノ豫算案ノ修正權ノ制限

ニ當リテ之カ修正ヲ爲スコトヲ得ヘキハ當然ナリ。然レトモ市町村會ハ其ノ修正ヲ爲スニ當リテハ獨リ或ル費目ノ削除又ハ費額ノ增減ヲ爲シ得ルニ止マリ、新ニ費目ヲ追加シ得サルモノト謂ハサルヘカラス。何トナレハ費目ノ新設ハ新ナル事業ノ計畫ナルヲ以テ、豫算編成權ナキ、換言スレハ事業ヲ計畫スルノ權能ナキ市町村會ニ於テ爲シ得ヘキ事柄ニ非サルナリ。事業ノ計畫ハ實際ニ市町村ノ事務執行ヲ擔任スル市町村長ニ專屬ス、市町村會ハ其ノ計畫ニ付是トスルモノヲ認メ非トスルモノヲ削除スルニ止マルヘキモノナリ。費額ニ付テモ或ハ之ヲ削減スルハ可ナリ、增額スルハ事業計畫者カ必要ナラストスルモノニ付程度ヲ越エテ執行ヲ强フルモノナリト論スル者ナキニ非ス。然トモ費額ノ增加ハ決シテ新規事業ノ計畫ニ非ラス、其ノ市町村長ニ於テ爲サムトスル事業ヲ市町村ノ利益ノ爲ニ、仍ヨリ多ク完全ニ執行セムコトヲ希望スルニ止マルヲ以テ、市町村ニ修正權アル以上爲シ得ルモノト云ハサルヘカラス。唯注意スヘキハ、市町村長ニ於テ提案ノ金額ヲ以テ完全ニ遂行シ得ヘシト爲ス際ニ於テ、强テ之ヲ增額スルハ不要ノ金額ノ支出ナルヲ以テ爲スヘキニ非ス、其ノ增額ニ依リ一層完全ヲ期セラルヘキトキニ於テノミ合法ノ處理タルコト之ナリ。市町村會ハ斯ノ如ク豫算案ノ修正ヲ爲シ得ヘシト雖、法令ノ規定ニ依リ市町村ノ負擔タルヘキモノ、又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命セラルル費用ニ就テハ、其ノ削除減額ヲ議決シ得サルモノト謂フヘシ。之レ事理ニ於テ當然ナルノミナラス、市

ラ明カナル所トス。以上ノ外市町村會ノ豫算ニ對スル修正ハ自由ナリ。然トモ若シ其ノ費目ノ削除又ハ額ノ增減ニシテ甚タシク不適當ナルニ於テハ、市制第九十條町村制第七十四條ニ依リ、市町村長ハ之ヲ再議ニ附シ、市町村會カ其ノ決議ヲ更メサルトキハ、市ニ在リテハ府縣參事會ノ裁決、町村ニ在リテハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得ルナリ。

會計年度

本條第二項ハ會計年度ニ關スル規定ニシテ、市町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ルモノトス。而シテ政府ノ會計年度ハ會計法第一條ニ依リ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノナリ。市町村ノ會計年度ヲ政府ノ會計年度ト同一ニ爲シタルハ單ニ便宜ノ問題ニシテ敢テ何等ノ理由ナシ。會計年度トハ之ヲ基礎トシテ一ノ收支計算カ行ハルヘキ期間ノ謂ナリ、換言セハ豫算ノ效力カ發生繼續スル一定ノ期間ナリ。會計年度開始シタル日ヨリ豫算ハ之ヲ執行シ得ヘク、其ノ終ルト共ニ豫算ハ假令其ノ費額ニ於テ剩餘アルモ既ニ執行期間ヲ經過シタルカ故ニ之ヲ使用スルコトヲ得サルモノトシ。市町村會カ議決シタル豫算ハ、會計年度ノ開始ニ依リテ初メテ執行セラルヘキ狀態ニ置カルルナリ。蓋財政ノ整理上豫算ノ必要アリトセハ其ノ繼續期間ニ一定ノ制限ナカルヘカラス。年度ノ區別ナクンハ財政計畫ヲ立ツル能ハス。會計年度ヲ知ル爲ニ缺クヘカラサル「時」ニ關スル區分ナリ。

事務報告書

本條第三項ハ市町村長カ豫算ヲ市町村會ニ提出スルニ當リ、事務報告書及財產表ヲ併セテ提出スヘキコトヲ規定ス。蓋此等ノ書類ハ豫算案議定ニ際シ市町村會カ豫算ノ內容ヲ審査スルニ於テ最モ緊要ノ關係ヲ有スルモノナレハナリ。本項ニ所謂事務報告書トハ獨リ固有事務ニ就テノミナラス委任事務ノ報告ヲモ尙之ヲ包含スルモノニシテ、市町村ノ事務ノ概要ヲ知悉シ得ヘキ狀況ノ下ニ報告書ヲ作成スルモノトス。財產表モ亦之ニ同シク獨リ基本財產ノミナラス、普通財產ヲモ擧ケテ之ニ記載シ、財產ノ狀況ヲ知悉シ得ヘキ程度ニ於テ記載スルコトヲ要ス。而シテ事務報告書ハ如何ナル期間ノ事務ヲ記載スヘキモノナルカ、法文ニ何等ノ明記ナキヲ以テ實際ノ便宜ヲ標準トシテ之ヲ定メサルヘカラス。事務報告ヲ提出スルハ之ニ依リ從來事務執行ノ狀況ヲ知リ、新豫算ノ議定ニ資スルニ有ルヲ以テ、最モ新シキ狀況ヲ知ルノ必要アリ。然トモ豫算ハ遲クトモ年度開始前一ケ月ニ於テハ議決スルヲ要スルヲ以テ會計年度ニ依リ最新ノモノヲ作成スルコトハ爲シ得ヘカラス、故ニ曆年ニ依リ前年一月ヨリ十二月迄ノ事務ニ付之ヲ調製シ、翌年初ニ於ケル豫算會議ニ提出スルヲ以テ相當トスヘシ。財產表ニ付テモ亦同シ。而シテ財產表中ニハ既往ニ於ケル一切ノ財產ノ增減變更及管理ノ概況ハ必ス之ヲ記スヘシト解セサルヘカラス。何トナレハ財產ハ市町村收入ノ一部ヲ生スルモノナルヲ以テ、其ノ增減ノ理由及管理ノ善惡ハ市町村會ヲシテ之ヲ知ラシムルノ必要アルコト更ニ言ヲ俟タサレハナリ。

財產表

議員ノ成立時期

市町村會及市町村長ノ豫算編成議決ニ對スル關係ハ以上ノ如シ、然ラハ斯ノ如キ豫算ハ何レノ程度ニ達セハ豫算トシテ成立シタリト云フヘキヤ、豫算ノ成立時期ニ關スル問題之ナリ。豫算ハ市町村會ノ

年度開始後豫算不成立ノ場合

議決ヲ經ルモノナルヲ以テ、一般ノ場合ニハ其ノ議決ニ依リテ成立スルコト勿論ナリ。然トモ若シ其ノ豫算中ニ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ヲ編入シタルトキハ其ノ事項ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ效力ヲ發生セス、從ツテ之ニ關係シタル豫算モ亦有效ノモノタル能ハサルナリ。例ヘハ市町村條例ノ許可ヲ前提トシテ特別稅ノ新設ヲ豫定シ、又ハ繼續費ヲ定メテ豫算ヲ編成シタル場合ニ於テ、市町村條例ノ許可又ハ繼續費ノ設置許可ナキ間ハ之ニ關スル豫算モ亦完全ニ成立シタルモノニアラス。然ルニ豫算ハ豫算トシテ唯一不可分ノ性質ヲ有スルヲ以テ、其ノ中ニ假令一事項ナリトモ有效ニ成立セサルモノアルニ於テハ、之カ爲ニ全體ノ豫算カ有效ノモノタル能ハサルナリ。故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ豫算ハ其ノ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ノ全部ニ付許可アリタルトキニ於テ、始メテ成立シタルモノト云ハサルヘカラス。從テ若シ其ノ一部不許可ニ終リタルトキハ豫算全部ハ不成立ニ終ルヲ以テ、市町村ハ更ニ其ノ豫算ノ編成議決ヲ爲ササルヘカラス。茲ニ於テカ往往ニシテ年度既ニ開始スルニ拘ラス、豫算猶成立セサルノ事實ヲ生ス。此ノ場合ニ於ケル處置如何。市町村ノ豫算ニ關シテハ政府ノ豫算ノ如ク、其ノ不成立ノ場合ニ前年度ノ豫算ヲ執行スヘキモノトスル明文ナキヲ以テ、全ク收支ノ豫算ナク從ツテ全然收支ヲナスヲ得サルモノトス。之ヲ從來ノ例ニ依ルニ制限外課稅ノ許可ヲ受クルカ如キ場合ハ、多クハ年度開始後ニ於テ尙豫算ノ成立ヲ見ル能ハサルナリ、此ノ場合ニ於テ市町村長ハ必要ナル物品購入ノ契約ヲ爲シ、現物ノ引渡ヲ受クルコトハ或ハ之ヲ爲シ能ハサルニ非サルモ支拂ノ命令ヲ發スル能ハス、故ニ市町村ノ豫算ハ年度開始迄ニハ必ス議決シ又ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ努ムヘキモノトス。

（判　例）

一　本條ノ期間後ニ豫算表ヲ議決シタルハ手續上ノ瑕疵タルヲ免レサルモ議決ノ效力ニ影響ヲ及ホサス（三五、一二、一二、行判）

二　收入役缺員ノ爲助役ニ於テ一時之ヲ掌理スルモ收入役ノ給料ヲ定ノ置クハ必要ノ豫算ナリ（二八、九、三〇、行判）

三　基本財產項目ヲ揭ケサル豫算表等ヲ村會ニ提出シタルニ關シ出訴ヲ許ス法令ナシ（二九、一〇、八、行判）

市制第百三十四條　町村制第百十四條

市町村長ハ市町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

本條ハ既定豫算ノ追加又ハ更正ニ關スル規定ナリ。豫算ハ年度開始前ニ於テ會計年度間ノ收支ヲ豫定スルモノナルカ故ニ、之ヲ實際ニ運行スルニ當リテハ事情ノ變遷ニ依リ、時ニ其ノ計畫通リ收支シ能ハサルコトナキニアラス。或ハ天災事變アリ、或ハ法令ノ改正アリ、或ハ臨時特ニ生シタル事件アリ、從ツテ或ル項目ノ收入ハ全ク欠缺シ、或ル項目ノ支出ハ頗ル多大ヲ要スルコトアリ。又甲ノ支出ヲ廢シテ新ニ乙ノ支出ヲ爲スヲ必要トスルコトモアリ。收支ノ關係編成當時ト頗フル其ノ趣ヲ異ニスルコトアルヲ免カレス。斯ノ如キ場合ニ於テ既定ノ豫算ニ依リ、實際ノ政務ヲ運行セムコトハ得テ望ムヘカラス。之レ本條ノ規定アル所以ニシテ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲シ依リテ以テ實際ノ必要ニ

應シ適當ナル施設經營ヲ爲サシメムトス。

豫算ハ一年ノ收支ヲ見積リ以テ其ノ年度ニ於ケル事業ノ計畫ヲシテ蹉跌ナカラシメムコトヲ期スルモノナルカ故ニ、豫算調製ノ正確ヲ期スルコトハ市町村長ノ吏員トシテノ責任ナリ。從テ其ノ追加更正ハ之ヲ濫ニスヘキモノニ非サルコト勿論ナリト雖、後日ノ出來事ニ依リ實際ノ必要生シタリトセハ亦敢テ辭スヘキ所ニ非サルナリ。追加豫算トハ豫算議決後其ノ豫算ニ新ニ收支ノ款項ヲ設ケ其ノ豫定金額ヲ定メ、或ハ既定豫算ニ定メタル豫算金額ニ不足ヲ生シタル場合ニ其ノ豫算金額ヲ增加スルヲ謂ヒ、更正豫算トハ既定豫算金額ノ範圍內ニ於テ款項ノ豫算金額ヲ彼此增減シ、或ハ款項等ヲ削除スルヲ謂フ。現行ノ豫算式ニ於テハ目節モ亦之ヲ市町村會ノ議決ニ付スヘク金額ノ彼此增減モ亦更正豫算ノ目的トナルカ如シト雖、市町村財務規程ノ施行ニ依リ目節ハ單ニ豫算ノ說明タルニ止マリ其ノ增減ハ更正豫算ニ非サルナリ。（附錄市町村財務規程參照）

既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スノ時期ニ就テハ法文ニ何等ノ制限ナキヲ以テ、市町村長ハ豫算成立後ハ未タ其ノ執行ノ時期ニ至ラスト雖之ヲ提出シ得ヘシ。然トモ其ノ未タ成立セサル豫算ニ付キ追加更正ヲ爲シ得ヘカラサルヤ論ナシ。法文ニモ特ニ既定豫算ト制限セリト雖、之レ殆ト言ヲ須ヒサルナリ。故ニ假令市町村會ニ於テ議決シタル豫算ト雖監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノニアリテハ、其ノ許可ヲ受クル迄ハ未タ成立シタル豫算ニ非サルカ故ニ之ニ對シ追加又ハ更正ノ豫算ヲ提出シ得ルモノニ非サルナリ。又豫算ハ一會計年度ヲ限リ有效ニ執行セラルヘキモノナルカ故ニ、年度經過後ニ於テハ假令未タ出納閉鎖期限前ニ屬スルトキト雖之ニ對シ追加又ハ更正ノ豫算ヲ提出シ得ルモノニアラサルナリ。（附錄市町村財務規程第十八條參照）

追加豫算ト更正豫算

既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲ス時期

繼續費ノ必要

市制　第百三十五條　町村制　第百十五條　市町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費トシテ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ

本條ハ繼續費ニ關スル規定ナリ。舊法ニ於テハ繼續ノ制度ヲ設ケサリシカ故ニ不便少カラサリシカ新法ニ於テハ此ノ制度ヲ設ケ以テ時世ノ進運ニ伴ハムトス。蓋繼續費ハ一定ノ事件ニ關シ之ニ要スル費用ノ支出ヲ數事間ニ涉リ確定シ置クノ制ナリ。例ヘハ市町村カ道路ノ改修又ハ學校ノ建築ノ如キ、二年又ハ三年ニ涉リ其ノ事業ヲ竣功セシムヘキ必要アルニ際シ、其ノ每年ノ支出額ヲ市町村會ノ自由議決ニ一任スルトセムカ、本年度ニ於テ其ノ支出ヲ議決スルモ、次年度ニ於テ或ハ政黨政派ノ關係其ノ他感情等ノ問題ニ依リ、又ハ意見ノ相違ニ依リ其ノ支出ヲ議決セサルカ如キコトナシトセス。斯ノ如クムハ獨リ事業ノ進行ヲ阻礙スルニ止ラス、亦前年度ニ支出セル費用ヲ全然無益ニ了ラシムルカ如キコトナキヲ保セサルナリ。茲ニ於テカ事業計畫ノ始ニ於テ、其ノ完成ニ至ル迄ノ豫定費用ヲ確定ノモノタラシメ。事業ヲシテ不動ノ基礎ノ上ニ立タシムル必要アリ、之レ繼續費ノ制ノ存スル所以

ナリ。繼續費ハ斯ノ如ク數年ニ渉リ支出ヲ要スル豫定費用ヲ、初年ニ於テ確定スルモノナルカ故ニ其ノ事件ニ要スル各年度ノ支出額ハ其ノ初メノ議決ニ依リテ決定シ、次年度以後ノ支出額ニ就テハ單ニ收支ノ均衡ヲ得セシムル爲ニ當該年度ノ豫算ニ計上スルニ止マリ、市町村會ハ執行機關ノ發議ニ基キ其ノ變更ヲ爲ス場合ノ外之ヲ修正スルヲ得サルモノトス。又繼續費ハ其ノ期間ヲ改訂シタル各年度ノ支出額ヲ豫定スルモノナリ總金額カ所謂所要ノ金額ニシテ、各年度ノ支出額ハ便宜之ヲ分割シタリト云フニ外ナラス。從ツテ其ノ實行ニ當リ殘額ヲ生シタル場合ハ繼續費ノ性質上當然繼續年度ノ終リマテ順次繰越使用シ得ヘキモノタリ。市町村財務規程第十四條ハ繼續費ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得ルヲ規定シ、以テ繼續費ノ使用ニ關シ疑ヲ存スルノ餘地ナカラシメタリ。（附錄參照）

繼續費ノ性質

繼續費ノ變更

本條ニ依リ繼續費ヲ定ムル場合ハ、市費又ハ町村費ヲ以テ經營スヘキ事件ニ關シ、少クトモ一年以上繼續シテ費用ノ支辨ヲ要スル場合ナラサルヘカラス。而シテ之ヲ定ムルニハ市町村會ノ議決ヲ以テ其ノ總額ト年割額トヲ定メ。更ニ市ニ於テハ府縣知事、町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ受クルヲ要ス。其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ。

繼續費ノ變更トハ年限ノ短縮延長又ハ年割額ノ變更增減ヲ爲ス場合ヲ指スモノニシテ、變更議案ニ對シテハ市町村會ハ單ニ變更ノ部分ニ關スルモノヲ否決又ハ修正シ得ルニ止マリ、其ノ議案以外ニ抄

リテ豫メ定メタル繼續費ニ影響ヲ及ホスカ如キ議決ヲ爲シ得ルモノニアラス。變更議案カ全部否決セラレタルトキハ市町村長ハ前ニ定メタル繼續費ノ豫算ヲ執行スヘク、又變更カ議決セラレタリトスルモ監督官廳ノ許可ヲ受クルニアラサレハ、確定セサルモノナルカ故ニ若シ其ノ不許可ノ場合ニ於テハ依然前ノ豫算ニ從フヘキモノナリ。之レ繼續費ノ性質ニ依リ當然ノ結果タリ。

市制第百三十六條　町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ
町村制第百十六條　豫備費ハ市町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

本條ハ豫備費ニ關スル規定ナリ。蓋シ豫備費ハ豫算ヲ實際ニ執行スルニ當リ、其ノ豫定セサル事實ノ發生シ又ハ豫定金額ニ超過スル場合ニ、如何ナル僅少ノ金額ト雖追加豫算又ハ更正豫算トシテ、市町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ支出シ得ヘカラサルモノト爲スニ於テハ、其ノ煩ニ堪ヘサルノミナラス勞費ヲ要スルコト大ナルヲ以テ、輕微ノ支出ハ此等ノ手續ヲ要スルコトナクシテ、市町村長限リ便宜支出ノ途ヲ得セシムル爲、一定ノ金額ヲ豫備トシテ豫算ニ計上シ置クモノタリ。故ニ豫備費ハ市町村長限リ之レカ支出ヲ決シ得ルモノニシテ、其ノ使用ノ目的ハ豫算ニ於テ豫見セサリシモノ又ハ豫見シテ充分ナラサリシ費用ヲ支出スルニ存ス。豫算外ノ支出トハ豫算ニ揭ケタル費目ニ屬セサル支出ヲ謂ヒ、豫算超過ノ支出トハ豫算ニ揭ケアル費目ノ豫算金額ヲ超過スル支出ヲ謂フナリ。豫算外ノ支出又

豫備費支出ノ場合

ハ豫算超過ノ支出ハ既定豫算ノ追加更正ヲ爲ス場合ノ外總テ豫備費ヲ以テスルヲ要ス。豫備費ヲ支出スルニハ市町村會ノ議決ヲ要セス、市町村長ニ於テ直ニ之ヲ支出シ得ヘシト雖、其之ヲ支出シ得ル場合ハ天災地變其他止ムヲ得サル必要アル場合ニ限リ勉メテ制限的ニ解釋スヘキモノトス。然ラサレハ豫備費ヲ設クルコトハ却テ濫費ヲ招クノ基タラスンハアラス。何トナレハ豫備費ニハ始メヨリ其ノ費途アルヘキ筈ナケレハナリ。尙豫備費支出ノ制限ハ市町村會カ豫算ヲ議決スルニ際シ否決セル費途ニ充ツルコトヲ得サルコト之ナリ。之レ寧ロ當然ノ事ニシテ、若シ然ラストセハ市町村長ハ豫備費ハ必ス之ヲ設置セサル可ラサルヲ奇貨トシ、事實ニ於テ市町村會ノ議決ヲ覆ヘスノ擧ニ出ツルコトヲモ爲シ得ヘケレハナリ。

豫算ノ報告

市制第百三十七條
町村制第百十七條

豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

市町村ノ豫算ニハ本條ニ依リテ必ス豫備費ヲ設ケサルヘカラス。市町村カ其ノ豫算ニ豫備費ヲ設クルハ即法令ニ依ル義務タルナリ。故ニ市町村ニシテ豫備費ヲ豫算中ニ設ケサルトキハ、監督官廳ハ之ヲ強制設置セシムルコトヲ得ヘシ、市町村長カ豫算ヲ調製スルニ當リテハ必ス豫備費ノ款項ヲ設クヘク、市町村會ハ其ノ金額ヲ增減スルハ格別其ノ項目ヲ削除スルカ如キコトヲ爲スヲ得サルモノトス。

本條ハ豫算ノ報告及告示ニ關スル規定ナリ。議決セラレタル豫算ヲ其ノ監督官廳ノ報告スルハ、之ニ依リテ一ハ市町村ノ收支關係ヲ知得セシメ一ハ之ニ依リテ其ノ監督ヲ爲サシムルカ爲ニ外ナラス。府縣知事又ハ郡長ハ此ノ報告アルニ依リテ、市町村ノ豫算カ果シテ其ノ公共事務ヲ執行スルニ適當ノモノナルヤ否ヲ檢シ、或ハ法令ノ規定ニ依リ市町村ノ負擔ニ屬スヘキモノ、又ハ監督官廳ノ命シタル費用カ果シテ豫算ニ載セラレタルヤ否ヤヲ調査シ、以テ適當ノ注意ヲ與ヘ、或ハ强制豫算ヲ命シ又監督官廳ノ許可ヲ要スヘキモノアルトキハ果シテ市町村カ許可ヲ受ケテ執行スルヤ否ヤヲ監視ス。府縣知事又ハ郡長ニ對スル報告ハ、議決ヲ經タル後直ニ之ヲ爲スコトヲ要ス。直ニ爲スコトヲ要スルカ故ニ假令豫算中監督官廳ノ許可ヲ要スル事項アルカ爲ニ、豫算ハ未タ有效ニ成立セサル場合ニ於テモ、議決セラレタル豫算トシテ直ニ之ヲ報告スルコトヲ要スルナリ。

豫算ノ告示

豫算ハ議決ヲ經タル後監督官廳ニ報告スルト同時ニ、其ノ要領ヲ告示スルコトヲ要ス。告示ハ一般住民ニ周知セシムルノ必要ニ基クモノナルカ故ニ、例ヘハ豫算中ニ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキモノアリ、未タ其ノ許可ノ指令ニ接セサル間ハ、豫算ハ未確定ノモノナルカ故ニ其ノ確定ヲ俟チテ告示スルモ毫モ妨ケサルコトト信ス。條文ノ規定ハ議決ヲ經タルトキ直ニ告示スヘシトアルヲ以テ、斯クノ如ク解スルハ當ラサルカ如シト雖、告示ヲ爲スノ必要ハ一般住民ヲシテ異議ヲ申立テシムルニアラス、單ニ其ノ要領ヲ周知セシムルヲ目的トスルモノナルカ故ニ、成否未確定ノモノヲ告示スルモ何等ノ利益ナク、監督官廳ニ對スル報告ト大ニ趣ヲ異ニスルモノアルヲ以テ法文ノ精神玆ニ存スト云フヲ妨ケ

サルカ如シ。仍豫算ノ告示ハ要領ニ付之ヲ爲スヲ以テ足リ、豫算全般ヲ告示スル必要ナシ。而シテ告示カ一定ノ公告式ニ依リ爲サルヘキモノタルハ亦言ヲ俟タス。

市制 第百三十八條
町村制 第百十八條　市町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

本條ハ特別會計ノ設置ニ關スル規定ナリ。市町村ノ收支ハ之ヲ國家ノ收支ノ如ク租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ、一切ノ經費ヲ歲出トシ之ニ依リテ一箇ノ豫算ヲ編成シ以テ其ノ會計ヲ單一ナラシムルヲ原則トス。然トモ事件ノ種類ニ依リ其ノ收支ヲ一般會計ヨリ分立セシメ、獨立ノ會計トシテ收支ノ均衡ヲ計ルヲ必要トスル場合ナキニ在ラス之ヲ例セハ都市ニ於ケル電車電燈事業ノ如キ、之ニ依ツテ多額ノ收入ヲ得ルト同時ニ亦多額ノ改良費ヲ要シ建設費ヲ要スルモノニアリテハ若シ之ヲ一般會計ニ屬セシムルニ於テハ其ノ事業ノ收入ヲ以テ他ノ一般ノ支出ニ應スヘキ結果、其ノ事業カ改良費ヲ支出シ或ハ新ニ建設ヲ爲スニ於テ一層有利ナリトセラルル場合ニ於テモ、尙且之レカ建設ヲ爲ス能ハス改良ヲ爲ス能ハサルコトトナルモノアルヘク、又其ノ反對ニ鑑ミ建設改良ヲ行ヒ收入ノ之ニ伴ハサル結果、災厄ヲ他ノ施設ニ及ホスコトモナキニ非サルヘシ。故ニ此ノ如キモノニ在リテハ其ノ會計ヲ一般會計ヨリ分離シ獨立經營セシムルコト事業自體ノ爲ニモ又一般會計ノ爲ニモ、有利ノ事タラスムハアラサルナリ、之レ特別會計ノ設置セラルル所以ナリ。

特別會計ノ設置

特別會計ハ一般會計ト直接ノ交涉ヲ絕チ、其ノ收支ヲ以テ其ノ支出ヲ算スルヲ本義トス。然トモ固收支ヲ別箇ニ整理シ事業ノ經營方針ヲ確立スルヲ趣旨トシ、必スシモ事業自體ノ收入充分ナルカ故ニト云フニ非サルヲ以テ、一般會計ヨリ特別會計ニ資金補給ヲ爲スヲ妨ケサルノミナラス、公債整理基金特別會計ノ如ク、其レ自體ニ何等ノ直接收入ナキモノモ亦特別會計タルニ妨ケサルナリ。又特別會計ハ其ノ收入ハ舉ケテ其ノ支出ニ當テサルヘカラサルニ非ラス、會計經營ヲ別ニスルニ止マルヲ以テ其ノ會計ニ餘裕アルトキハ一般會計ニ資金ヲ繰入ルコトモ亦妨ケサルナリ。

特別會計ハ一般會計ト分立スルモノナリト雖、等シク市町村ノ會計タリ。其ノ豫算ハ等シク市町村ノ豫算ナル故ニ市町村會ノ議決ヲ經ルヲ要スルヤ言ヲ俟タサルナリ。而シテ如何ナル場合ニ特別會計ヲ設ケ得ヘキヤハ法文何等ノ規定ナキヲ以テ、如何ナル目的ノ爲ニモ如何ナル事業ニ對シテモ、其ノ設置ヲ妨ケスト雖、之ヲ濫リニスヘキニ非ラサルナリ。

市制 第百三十九條　市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ
收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

町村制 第百十九條　町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受ケタルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス

謄本交付ノ必要

本條ハ收入役カ豫算謄本ノ交付ヲ受ケ、支拂命令ヲ審査シ、支拂ノ執行ヲ爲スコトニ關スル規定タリ。收入役ハ市町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル。而シテ收入役カ市町村ノ出納ヲ爲スニ當リテハ豫算ニ準據セサルヘカラサルハ言ヲ俟タサル所ナリ。之レ本條カ市町村長ヲシテ豫算ヲ議決シタルトキハ、其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシト規定シ、收入役ヲシテ其ノ出納ヲ爲スニ當リ應照スル所アラシメタル所以ナリ。收入役ニ豫算ノ謄本ヲ交付スルハ以上ノ目的ニ出ツルモノナルカ故ニ其ノ豫算カ確定シタルモノナラサルヘカラス。從ツテ市町村會カ豫算ヲ議決スルモ許可ヲ要スヘキモノアルトキハ、其ノ許可ヲ得タル後ニ於テ交付スヘキコト勿論ナリ。若シ町村長又ハ助役カ收入役ノ事務ヲ兼掌スル場合ニ於テハ、町村長又ハ助役ト市町村ノ出納事務ヲ取扱フ者トハ同一人ナルモ其ノ資格ニ於テハ全ク異ナルモノナルカ故ニ、町村制本條第三項ニ於テ收入役ニ關スル規定ヲ準用シタルモノナリ。即チ此ノ場合ニ於テハ收入役ノ事務ヲ兼掌スル町村長又ハ助役ニハ町村長ヨリ豫算ノ謄本ヲ交付シ、交付ヲ受ケタル者ハ收入役トシテ現金支拂ニ關スル第二項ノ責務ヲ負擔セサルヘカラス。

收入役ノ命令審査權

支拂命令ハ市町村長之ヲ發ス（市制第八十七條第二項第二號、町村制第七十二條第二項第二號）。然トモ若シ市町村長ニシテ爲スヘキ支拂命令ヲ爲ササルトキハ、市ニ在リテハ府縣知事、町村ニ在リテハ郡長並ニ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ發スルコトヲ得ヘシ。而シテ收入役ハ市町村長又ハ是等ノ官吏吏員ノ支拂命令アルニアラサレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス。又假令是等ノ者ヨリ支拂命令アリタルトキト雖、支出ノ豫算ナキ場合即チ豫算ニ揭ケラレタル支出科目ニ屬セサルモノナルトキ、及豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ違背シタルモノナルトキハ又支出ヲ爲スコトヲ得サルモノトス。蓋收入役ハ出納ノ事務ニ就テハ自ラ獨立ノ地位ヲ有シ、監督官廳又ハ市町村長ノ支拂命令ノ內容ヲ審査シ、命令セラレタル經費ハ豫算上正當ニ支出シ得ルモノナリヤ否ヤ、其ノ經費ハ豫算額ニ超過スルコトナキヤ否ヤ、支出科目又ハ所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ否ヲ調査シ然ル後其ノ命令ニ從ヒ支拂ヲ爲スヘキモノナリトス。若シ收入役支拂命令ヲ審査セス違法ニ支拂ヲナシタル場合ニ於テハ、之レ收入役ノ過失ニシテ之ニ對シ賠償ノ義務ヲ負ハサルヘカラス。市制第百七十一條、及町村制第百五十一條ノ規定ニ基キ明治四十四年勅令第二百四十五號第二條ハ收入役ノ賠償責任ニ付規定セリ。（附錄參照）然トモ收入役カ支拂命令ヲ審査スル權能ハ、其ノ命令カ豫算上適法ナリヤ會計ニ關スル規定ニ照シ違反スル所ナキヤ否ヤニ止マリ、若シ此等ノ點ニ於テ違法ナケレハ其ノ支出ノ目的カ市町村ノ爲ニ適當ノモノナリヤ否ヤニ及ヒ得ヘキニハアラサルナリ。事件ノ適否ヲ決スルハ市町村長ニ專屬スル權能ナリ、收入役ノ與カルヘキ

所ニ在ラス。次ニ收入役ハ支拂命令ヲ受ケタルトキハ、其ノ支出豫算ニ揭ケラレタル科目ニ屬スルヤ否ヤ、支出科目ナキモ豫算外カ支出トシテ豫備費ヨリ支出シ得ヘキモノナリヤ否ヤ、即市町村會ニ於テ否決シタル費途ニ屬セルヤ否ヤ、又費目流用ヲ爲スヘキモノニ關シテハ、彼是流用ヲ許ササル費用ニ屬セサルヤ否ヤヲ檢シ、且其ノ他財務ニ關シ別ニ存スル規定及市制第百四十三條町村制第百二十三條ニ依リ內務大臣ノ定メタル市町村財務規定ニ反スルコトナキヤ否ヤヲ審査シ、其ノ不都合アルニ於テハ支拂ヲ拒絕スヘキコト勿論ナリト雖、若シ此等ノ形式ニ於テ一モ缺タルコトナキトキハ、其ノ支出カ市町村ノ利益タルヘキト不利益タルヘキトハ一モ關スル所ニ在ラス、支拂命令者ノ命スル所ニ從ヒ之レカ支拂ヲ爲ササルヘカラサルモノトス。

町村長又ハ助役カ收入役ノ事務ヲ兼掌スル場合ニ於テ、假令其ノ人ハ同一人タルコトアルヘシト雖、町村長カ其ノ收入役ノ事務ヲ兼掌スル町村長又ハ助役ニ對シ支拂命令ヲ爲シ、之ヲ受ケタルモノハ其ノ資格ニ於テ審査ノ權利及義務ヲ有スヘキコト收入役ノ場合ト異ナルヘカラサルナリ。

市制　第百四十條
町村制　第百二十條　市町村ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

本條ハ市町村ノ支拂金ニ關スル時效ノ規定タリ。市町村ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ、政府ノ支拂金ト其ノ軌ヲ一ニスルモノト爲シタルナリ。政府ノ支拂金ニ關スル時效ニ就テハ會計法第十八條ノ規定スル所ナリ。其ノ條文ニ曰ハク「政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ償主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲ササルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルモノトス、但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル」ト。本條ノ規定ハ政府ノ負債ト云ヒ其ノ公法上ノ原因ニ基ツクトヲ區別セサルナリ。即官吏ノ俸給又ハ徵發物件ノ對價ノ如キハ勿論、工事請負ニ對スル支拂金、物品ノ買上代金ノ如キモ總テ民法ノ時效ニ從ハス五年ノ期滿免除ヲ以テ支配セムトスルナリ。政府カ斯ノ如ク時效ノ規定ヲ置キタルモノハ會計ノ整理ノ爲メナルヲ以テ、絕對的ノ規定ニシテ、他ノ法律ニ特別ノ規定ナキ限リハ政府ノ負債ニ就テハ全ク此ノ規定ヲ適用スヘキモノナリトス。而シテ會計法ニハ支出若ハ仕拂ノ請求ヲ爲ササルモノハ期滿免除トナルヘキモノト規定セルカ故ニ、年度經過後滿五箇年內ニ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲナシタルトキハ時效ハ茲ニ中斷セラレ、更メテ五年ノ期間ヲ計算スルモノナリ。會計法ニ支拂フヘキ年度トハ、會計規則（明治二十二年勅令第六十號）第二條ニ規定スル所ニ依リテ決スヘキモノナリトス。

以上政府ノ支拂金ニ就テ記述セル所ハ直ニ本條ノ解釋ニ適用スヘク、本條ノ市町村ノ支拂金モ亦公法上ノ原因ニ依ルモノト私法上ノ原因ニ依ルモノ、換言セハ公法上ノ負債ト私法上ノ負債トヲ包括シ、其ノ時效ニ付テハ會計法第十八條ノ例ニ依リ民法ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ラスト爲シタルナリ。之レ蓋市町村モ亦政府ト等シク短期ノ時效ヲ以テ、債務ノ整理ヲ爲スコト會計整理上已ムヲ得サル所

政府ノ支拂金ニ關スル規定

ナルヲ以テナリ。從ツテ此ノ規定ハ市町村ノ債務ニ付絕對ニ適用セラルヘク、假令市町村ノ意思ヲ以テスルモ民法ノ時效ニ關スル規定ヲ容ルヘキ餘地存セサルナリ。而シテ其ノ仕拂フヘキ年度ハ財務ニ關スル規定トシテ內務大臣ニ於テ之ヲ定ムヘク、市町村財務規定第四條ハ各歲出ノ所屬年度ヲ明定セリ。（附錄參照）

舊法ニハ時效ノ規定ナカリシヲ以テ公法上ノ負債ニ就テハ一般民法ノ規定ニ依ラサルヘカラサリキ。新法ニ於テハ舊法ニ於ケル不備ヲ補ヒ本條ノ規定ヲ置キタリト雖、本法施行ノ際ニ於テ從來進行シツツアリシ期間ハ之ヲ如何ニスヘキカニ就テハ本法中別段ノ規定ナシ、或ハ又財務ニ關スル規定トシテ內務大臣ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ相當トスヘシ。然トモ其ノ之ナキ間ハ理論ニ依リ決定スルノ外ナシ。惟フニ法律ノ效力ハ旣往ニ遡ラサルヲ常則トス、從ツテ本條ノ規定ハ本法施行後新ニ生スル債務、及本法施行後民法ノ規定ニ從ヘハ仍五年以上ノ時效ヲ有シ得ヘキ從來ノ債務ニ付テノミ其ノ適用アリト云ハサルヘカラス。

今民法ノ規定ニ從ヘハ債權ノ時效ハ十年トス。故ニ從來市町村ノ負擔シタル債務ニシテ、本法施行ノ際現ニ七年ノ時效期間ヲ經過シタルモノハ、本法ノ施行ニ依リ、當然債務消滅スヘキニ非ラス。本法適用以外トシテ殘期間タル三年ノ時效期間ヲ保有スヘク、五年ヲ經過シタルモノハ、本法ノ適用有無ハ效果ニ相違ナシト雖、本法ノ適用トシテ本法施行ノ日ヨリ五年ノ時效期間ヲ計算スヘク。未タ三年ヲ經過シタルニ止マルモノハ、民法ニ依レハ仍七年ノ時效期間ヲ有スヘキモノナレトモ、本法適用ノ結果本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ、期滿免除ニ依リ債務消滅スヘキナリ。即此ノ如キ債務ニ關シ、始メテ完全ナル本法ノ適用ヲ見ルナリ。以上ノ設例ハ便宜ノ爲メ單ニ時效ノ期間ヲ五年トナセリト雖會計法ニハ「支拂フヘキ年度經過後」ト規定セルヲ以テ若シ會計年度ノ開始日タル四月一日ニ於テ支拂フヘキ負債ナルニ於テハ、滿六年ヲ經過セサレハ時效ニ罹ラス又別ニ法律ヲ以テ期間ノ定アル債務ニ付テハ其ノ期間ニ依ルコト勿論ナリ。

市制 **第百四十一條** 市ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ之ヲ檢査シ且每會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘシ

檢查ハ市長之ヲ爲シ臨時檢查ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

町村制 **第百二十一條** 町村ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ之ヲ檢查シ且每會計年度少クトモ二回臨時檢查ヲ爲スヘシ

檢查ハ町村長之ヲ爲シ臨時檢查ニハ町村會ニ於テ選擧シタル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

本條ハ市町村長ノ出納檢查ニ關スル規定ナリ。市町村ノ會計事務ハ市町村長ノ監督スル所タリ。市町村長ハ其ノ會計事務ヲ監督スルノ職責ヲ有スト雖、自ラ出納ノ事務ヲ取扱フ者ニアラス。從ツテ時々其ノ出納ヲ檢查シ違法ニ收支セサルヤ、計算ニ過誤ナキヤ、實際ノ收支ハ收支ノ命令ニ符合スルヤ

定期檢及査臨時檢査

又ハ其ノ收支ハ方式ニ違フコトナキヤ等ヲ檢査スルニアラサレハ監督者タル職責ヲ盡ス能ハサルノミナラス又以テ市町村ノ會計ヲ整理スル能ハサルヘシ。是レ本條ノ規定アル所以ナリ。而シテ其ノ檢査ハ分チテ二トナシ一ハ一定ノ日ヲ定メテ毎月行フモノニシテ之ヲ定期檢査ト稱スルコトヲ得ヘク、他ハ毎會計年度内ニ少クトモ二回以上隨時ニ行フモノニシテ法文之ヲ臨時檢査ト稱ス。定期檢査ト謂ヒ臨時檢査ト謂フ其々法文ニ何等ノ制限ナキヲ以テ、其ノ檢査ノ内容又ハ方式ニ於テハ異ナルモノナシ、只臨時檢査ハ毎月行フモノニアラスシテ臨時ニ行フ所其ノ之ヲ行フニ當リテハ市ニ於テハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二名以上、町村會ニ於テハ町村會ノ選擧シタル議員二名以上ノ立會ヲ以テ爲スヲ要スル點ニ於テ定期檢査ト異ナルノミ。

定期檢査ハ毎月執行スヘキモノニシテ臨時檢査ハ其ノ期ヲ定メスシテ行フモノナルヲ以テ或ハ其ノ檢査期日ノ一致スルコトアルヘシ(立會人ノ都合等ニ依リ)。斯ノ如キ場合ニ於テハ同時ニ兩檢査ヲ行ヒ又ハ臨時檢査ハ之ヲ後日ニ延期シ得ルト雖、定期檢査ハ之ヲ延期シ又ハ之ヲ省略スルコトヲ得ス。

市制　第百四十二條　市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ附スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

町村制　第百二十二條　町村ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第六十七條第八項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ト共ニ之ヲ郡長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

本條ハ出納閉鎖ノ時期及決算ニ關スル規定ナリ。會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルト雖、現金ノ出納ハ必スシモ之ヲ年度内ニ終了シ得ルモノニアラス。何トナレハ極端ノ例ヲ以テ之ヲ謂ヘハ三月三十一日午後四時ニ支拂命令ヲ發シタル場合ノ如キハ、如何ニスト雖其ノ權利者ニ於テ年度内ニ支拂ヲ受ケ得ヘキニ非ス。其ノ他收入ニ付テモ支拂ニ付テモ、場所ノ遠隔私人ノ滯納等ニ依リ、年度内ニ收支シ得ヘカラサルモノハ甚タ多シトス。從ツテ市町村ノ會計ヲ整理シ決算ヲナス上ニ於テハ、年度經過後ニ渉リ一定ノ出納閉鎖期限ヲ定メ以テ年度ノ内ニ發セル收支ノ命令ヲ執行シ、之レカ整理ヲ爲ササルヘカラス、之レ本條ノ規定アル所以ナリ。

出納閉鎖ノ時期

出納閉鎖ノ時期ハ翌年度ノ六月三十日ナリ。從ッテ年度中ノ出納ハ此ノ期限迄ニ收支ノ整理ヲナスヲ要ス。換言セハ出納閉鎖ノ期限ハ收支ノ整理期限ナリ、豫算施行ノ期間ニアラス。故ニ年度經過後豫算ニ剩餘金アルノ故ヲ以テ、四月以後ニ物品ヲ購入シ六月三十日迄ニ其ノ仕拂ヲ爲スカ如キハ違法ニシテ爲スヲ得ルモノニ非ラス。然レトモ出納閉鎖期限ニ至ルマテハ、該年度ニ屬スル歲入ニ對シ收入命令ニ發シ、支拂義務ノ確定シタル債務ニ對シ仕拂命令ヲ發スルハ敢テ妨ケサルナリ。之レ年度內ニ權利義務ノ確定シタル收支ノ實際ノ整理ニ外ナラサレハナリ。政府ノ會計ニ於テハ仕拂命令ヲ發シ得ヘキ時期ハ翌年度五月三十一日限リトスルモ（會計規則第四十四條）、本法ニハ此ノ規定ナキヲ以テ出納閉鎖時期マテニ整理シ得ル期日ニ於テ收入命令又ハ仕拂命令ヲ發スルコトハ之ヲ爲シ得ヘキモノト解スヘキナリ。

事前監督
事後監督

豫算ハ市町村ノ議決ニ依リ成立ス。豫算ノ施行ニハ監督制度ノ之ニ伴ヒテ始テ收支ノ嚴正ナル實行ヲ期待シ得ヘキモノナリ。現金カ果シテ安全ニ保管セラレ、出納計算ニハ過誤ナキヤ、收支ノ命令カ果シテ市町村會ノ議決セラレタル趣旨ニ反セス、又ハ法令ニ準據シテ行ハルヤヲ充分ニ監督スルニ於テ豫算施行ノ正確ヲ期スルコトヲ得ヘシ。而シテ監督ノ方法ハ事前監督ト事後監督トアリ。事前監督トハ豫算ノ施行完了前ニ於テ行フ所ニシテ、市制第四十五條町村制第四十二條及前條ニ依リテ行フモノ即チ之ナリ。事後監督トハ豫算ノ施行完了後ニ於テ行フモノニシテ、本條第二項ニ依ルモノ即チ

決算ト決算報告書提出ノ時期

決算ニ依リテ行フ所ノ監督之ナリ。

蓋決算トハ豫算施行ノ成績ヲ明ニシ會計監督ノ爲ニ調製スルモノタリ。其ノ調製ヲ爲スハ市町村收入役ノ職責ナリ。收入役ノ調製スル決算ノ式ハ如何ニスヘキヤハ本法ニ規定ナキモ、規定第二十條ハ決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ、之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ付スヘキヤノト爲セリ。（附錄參照）　收入役ハ決算ヲ調製シタルトキハ證憑書類ヲ添附シ、出納閉鎖後一月以內即七月三十一日迄ニ必ス市町村長ニ提出スヘシ、市町村長ハ收入役ヨリ決算ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ其ノ收支ニ關スル意見ニ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市町村會ノ認定ニ付スヘキモノトス。市町村長ハ必ス意見ヲ付スルヲ要スルヲ以テ、其ノ異議アル場合ハ勿論、其ノ異議ナキ場合ニ於テモ其ノ旨ノ意見ヲ付セサルヘカラサルナリ。通常豫算ヲ議スル會議トハ追加豫算又ハ更正豫算ヲ議スル會議ニアラスシテ、一般豫算ヲ議決スル會議ヲ謂フ。一般豫算ヲ議決スル會議ハ年度開始前少クトモ一月ニ於テ開クヘキモノタリ。從テ決算ハ此ノ會議ニ提出スルカ又ハ其ノ以前ノ會議ニ提出シ認定ヲ經ヘキモノタルナリ。市町村會ノ認定ニ付ストハ市町村會ノ承認ヲ求ムルノ意ニ外ナラス。承認ノ效力ハ單ニ事實上執行機關ノ施行シタル結果ヲ是トシ否トスルニ過キス、之ニ依ッテ法律上ノ效果ヲ生スルモノニアラス。然トモ其ノ次年度豫算ヲ議スル上ニ於テ、理事者ノ施設ニ對スル精神上ノ作用ニ至大ノ影響ヲ及ホスヲ以テ、實際且重要ノ監督方法タルナリ。

決算報告ハ議案ニ非ラス

本條市制第四項ハ、決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ付規定ス。之ヲ市參事會ノ權限ニ關スル市制第六十七條及同第八十八條ノ規定ニ徴スルニ市參事會ノ權限ヲ有スルハ市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ關スル場合ナラサルヘカラス。決算ハ事實ノ認定ヲ受クル爲ニ市會ニ提出スルモノナルヲ以テ、之ヲ議案ナリト云フハ直接相當セサルノ嫌ナキニ非ラス。然トモ之ヲ實際ノ必要ニ鑒ミルトキハ其ノ決算ノ當否及之ニ對スル市長ノ意見ニ對シ、市參事會ノ意見ヲ付セシムルハ有益ノ事タラスムハアラス。故ニ本法ハ便宜之ヲ議案ナリト看做シ、市參事會ノ議ニ付スヘキモノトシテ、本項ノ規定ニ依リ其ノ議決ノ場合ニ付必要ノ制限ヲ付シタルモノト解セサルヘカラサルナリ。

決算ハ市町村收入役ニ於テ之ヲ調製シ市町村長之ヲ審査シタル後、市町村會ノ認定ニ附スルヲ本則トスレトモ、特別ノ事情ニヨリ町村助役カ收入役ノ事務ヲ兼掌スル場合ニハ決算ハ町村長自ラ調製スルモノナルカ故ニ、固ヨリ更メテ町村長ニ提出シ審査ヲ爲シ意見ヲ付スルノ必要ナシ、故ニ爲スノ要ナカルヘキヲ以テ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘキコトセルナリ。而シテ本條町村制第三項ニ第六十七條第八項トアルモ同條ニハ第八項ナシ之レ帝國議會ニ於テ政府案ヲ修正スルニ當リ、第六十七條六項七項ヲ合併シタルニ拘ハラス本條ノ修正ヲ遺失シタル結果ニ外ナラス。故ニ茲ニ第八項トハ同條末項ト見ルヘキナリ。

決算ヲ市參事會及町村會ノ認定ニ付スル場合ニハ、市ニ在リテハ市長、市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルヲ得ス。町村ニ在リテハ町村長、助役ハ共ニ町村會議長ノ職務ヲ行フコトヲ得サルモノトス。之レ此等吏員ハ直接豫算ノ執行ニ當リタルモノナルカ故ニ、議事ノ公正ヲ持保スルノ必要ニ出ツルモノタリ、從テ單ニ議決ニ加ハルヲ得サルニ止マリ會場ニ列席シ辯明說明ヲ爲スハ決シテ禁スル所ニ非サルナリ。若シ町村長又ハ助役カ町村會ノ議員タル場合ニハ、議員トシテノ資格ト町村長又ハ助役トシテノ資格トハ、別個ノモノナルカ故ニ、議決ニ加ハルコトヲ得ト解スヘキカ如キモ、議長トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ禁シタル法ノ精神ヨリ觀レハ、其ノ議員トシテ議決ニ加ハルコトモ亦町村制第五十條ノ規定ノ適用ニ依リ、禁シタルモノト解スヘキナリト信ス。

市町村會ニ於テ決算ノ認定ヲナシタルトキハ、市町村長ハ速ニ之ヲ府縣知事又ハ郡長ニ報告スヘク且ツ決算ノ要領ヲ告示スヘキナリ。

（判例）

一　決算ヲ遲延シタルハ本條ノ規定ニ違背ス（三三、七、一〇、行列）

二　決算報告ハ其ノ期限ヲ過クルヲ得ス（二八、五、一四、行列）

三　豫算更ニ決算ノ報告ハ正式ニ之ヲ爲ササル可カラス（二五、二、一八、行列）

市制　第百四十三條
町村制　第百二十二條　豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

委任規定ノ意義

本條ハ財務ニ關シ必要ノ規定ヲ爲スノ權限ヲ、內務大臣ニ委任シタル規定ナリ。蓋シ單純ナル法ノ執行ニ止マル規定ハ、別ニ法律ノ委任ナシト雖、主務大臣カ其ノ當然ノ權限トシテ爲シ得ヘキコト勿論ナリ。然トモ本法ニ揭ケタル財務ニ關スル規定ハ、唯其ノ大綱ニ止マルヲ以テ、之ヲ實際ニ運行セムトスルトキハ、法律又ハ勅令ヲ要スル事項ニ渉リ規定ヲ爲ス必要アルコト少シト爲サス。斯ノ如キハ單純ナル執行法規ノ爲シ得ヘキ所ニ非サルナリ。之レ本條ノ存スル所以ニシテ、其ノ趣旨トスル所ハ、財務ニ關シ本法ノ規定ヲ補修スルカ爲ニ必要アル場合ニ於テハ、內務大臣限リ立法事項又ハ勅令事項ニ渉リ、規定シ得セシムルニ存スルナリ。

豫算調製ノ式ハ現行ノモノ存スト雖、從來ノ經驗ニ徵シ完全ナリト云フヘカラサルニ依リ、相當ノ時期ニ於テ改定ヲ要スヘシ。費目ハ豫算ニ定メタル各款ノ金額彼是流用スルヲ得ス、各項ノ金額ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルヲ得ルモノトス。其ノ他公金ノ受拂、現金ノ出納及保管ニ關スルコト等皆市町村財務規程ニ於テ之ヲ規定ス。（附錄參照）然レトモ仍後日ニ至リ必要アルトキハ、內務大臣ハ本法ノ規定ニ基キ必要ナル改正ヲ爲スヲ得ルコト勿論ナリトス。

市制　第七章
町村制　第六章　市町村ノ一部ノ事務

本法ハ舊法ト同シク市町村ヲ以テ最下級ノ地方團體ト爲スヲ以テ一般ノ主義ト爲ス。此ノ如キハ更ニ狹小ナル地域ヲ基礎トセル團體ノ人格ヲ承認スルコトカ却ツテ國家ノ圓滿ナル發達ヲ遂ケシムル所以ニ非スト認メタルニ依ル。故ニ市又ハ町村ノ區域廣大ナルモノニ在リテモ（市制第六條ノ市ノ區ヲ除ク）單ニ市又ハ町村行政ヲ處理スル便宜ノ爲區ヲ劃スルコトヲ得セシメタルニ止マル。（市制第八十二條町村制第六十八條）從ツテ區長及其ノ代理者ハ區ノ機關ニ非スシテ市町村ノ機關ナリトス。然レトモ我國地方部落ノ發達ノ沿革ハ舊法施行以前ヨリ市町村ノ一部落トシテ既ニ財產ヲ有シ、又ハ營造物ヲ設ケ、實際上部落ノ名ニ於テ權利ヲ行使シ、義務ヲ負擔セルモノアリタルノミナラス、舊法施行以後ニ於テモ市町村合併ノ際協議調ハスシテ財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタル被合併市町村即チ新市町村ノ一部落カ舊法ノ解釋如何ハ別問題トシテ實際上依然權利義務ノ主體トシテ活動セシモノアルヲ見ルナリ。本法ハ此等ノ事實ヲ承認シ財產又ハ營造物ニ關スル事務ヲ市町村ノ一部ノ事務トシテ規定ス。而シテ玆ニ所謂市町村ノ一部カ本法ニ於テ果シテ如何ニ取扱ハレタルヤ、換言スレハ或ハ單純ナル行政區劃トシテ、或ハ私法人トシテ、或ハ又公法人トシテ取扱ハレタルモノナルカハ專ラ次條ノ解釋如何ニ係ルヲ以テ之ヲ次條ニ於テ述フルヲ便宜トス。

市町村一部ノ事務トハ專ラ財產又ハ營造物ニ關スル管理及處分ニ關スル事務ヲ指揮ス。區會ヲ設クルヲ得ル規定、區會議員ニ關スル規定及訴願ニ關スル規定等皆管理又ハ處分ノ爲ニスル事項ノ範圍ヲ出テス。

市制第百四十四條 市町村制第百二十四條 市町村ノ一部ニシテ財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財產又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市町村ノ財產又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中前段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ財產又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財產又ハ營造物ノ屬スル市町村ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ市町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

市町村ノ一部ノ法律上ノ性質

本條ハ市町村ノ一部ニシテ財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノノ存在ヲ法律上承認シ、其ノ管理及處分、費用ノ分擔竝其ノ會計ニ關スル事項ヲ規定ス。財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタル市町村ノ一部ハ、單純ナル市町村ノ行政區劃ニ過キスシテ、其ノ財產又ハ營造物ト稱スルハ實ハ市町村自體ノ財產又ハ營造物ナリヤ、將又私法人若ハ公法人トシテ一定ノ範圍ノ權利能力ヲ有スルモノナリヤニ付テハ、舊法ノ下ニ幾多ノ議論ノ存セシ所ニシテ本法ニ於テモ亦論議ノ餘地ナシトセサルヘク、總テ本條ノ解釋如何ニ係ル。

單純ナル行政區劃ニ非ス

市町村ノ一部ヲ以テ單純ナル行政區劃ナリトスルノ者ハ、市制及町村制各第一條カ市町村ノ法人タルコトヲ明記セルノミナラス、市制第六條カ勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ノ法人タルコトヲ明定セルニ拘ハラス、本條ニ於テハ何等ノ明記ナキコトヲ以テ理由ト爲ス。然レトモ此ノ如キ說ハ遂ニ一顧ノ價値ナシ。蓋自然人以外ニ於テ權利義務ノ主體タリ得ヘキ者ハ、民法及其ノ他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得スト雖(民法第三十三條)民法ハ法律ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得サルヲ規定スルニ止マリ、法律ニ於テ特ニ法人タルコトヲ明記スルノ必要アルコトヲ規定セルニ非ス。從ツテ法律ニ於テ一定ノ範圍ニ於テ權利能力ヲ有スルコトヲ規定スルヲ以テ足ル。元來市町村ノ一部ヲシテ從來ノ儘財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケシムルコトヲ承認スルコトハ、之ヲ强制シテ市町村ニ統一スルコトカ却ツテ市町村內部落間ノ感情ヲ融和スル能ハスシテ、其ノ圓滿ナル發達ヲ企圖シ難キ場合アルヲ想像シ止ムヲ得サルニ出テタル制度ナリトス。立法者ハ其ノ法人タルコトヲ明記シ、市町村住民ヲシテ恰モ法人ノ存在ヲ希望スルカ如キ感想ヲ抱カシムルヲ欲セス、部落有財產ノ統一ハ依然之ヲ希望スルコトノ必要上、殊更ニ「法人」ノ文字ヲ避ケタルナリ。「法人」ノ文字ヲ以テ法人ナラスト爲ス可ラス。「財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノ」ト規定シ、「其ノ財產又ハ營造物ノ屬スル市町村ノ一部」ト規定スルヨリ見ルモ、本法ニ於テハ市町村ノ一部ヲ以テ公私何レカノ法人ナリトスルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ。「特別ノ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔

法人ナル文字ヲ明記セサル理由

舊來ノ慣行ニ依リ財產使用ノ權利ヲ有スル住民アル場合

財產ノ利用關係ノ民法ノ支配ヲ受クル場合

スルトキ」ト規定シ、（舊市制第百十四條町村制第百十三條）市町村ノ營造物ニシテ市町村一部ノ者ノ專ラ使用スルモノト區別ヲ爲サス、以テ市町村一部ノ人格ノ存在ヲ疑ハシムルカ如キ舊法ノ規定ノ解釋ヲ移シテ以テ本法ノ解釋ト爲ス能ハサルハ勿論ナリ。

本條ニ所謂市町村ノ一部カ公法人ナリヤ私法人ナリヤハ之ヲ單ニ財產ノミヲ有スルモノト、營造物ヲ設ケタルモノトニ分チ研究スルヲ必要トス。

一單ニ財產ノミヲ有スルモノ

單ニ財產ノミヲ有スル市町村ノ一部ハ更ニ（一）之ヲ舊來ノ慣行ニ依リ、又ハ新ニ許可ヲ得テ市町村住民中特ニ使用スル權利ヲ有シ使用料ヲ徵收スルモノト、（二）其ノ利用方法トシテハ單ニ民法ノ支配ヲ受クルニ過キサルモノトニ區別スルヲ要ス。前者ニ在テハ市町村ノ一部ハ財產ノ使用料ヲ徵收シ、定期內ニ納メサルトキハ之ヲ督促シ督促手數料ヲ徵收シ得ヘク、仍指定ノ期限內ニ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得ヘシ（後ニ說明スト雖市制第百十條乃至第百十二條第百三十一條町村制第九十條乃至九十二條第百十一條等皆本條ニ依リ市町村ノ一部ノ財產ニモ準用アリ）即チ當該市町村ノ一部ハ其ノ使用者ニ對シ命令ヲ爲シ、之ヲ强制シ得ヘキ權力ヲ有ス。此ノ點ノミニテモ其ノ單純ナル私法人ニ非スシテ公法人ナルコト明ナリ。而シテ其ノ公法人ニシテ地方團體ナルコトハ後者ノ說明ニ於テ更ニ明ナリ。後者ニ在ツテハ財產ノ利用關係ハ單純ナル私法關係ナリ、從ツテ此ノ點ノミヨリ見ルトキハ恰モ私法人ナルカ如シ。然トモ此ノ種ノ市町村ノ一部モ亦財產ニ關シ特ニ

私法人ニ非ス

要スル費用アルトキ、例ヘハ不動產ヲ有シ水害ノ爲ニスル復舊費ノ如キハ之ヲ部內ノ人民ニ賦課シ得ヘク、期限內ニ完納セサルモノハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分シ得ヘシ。或ハ本條第二項ノ規定ハ單ニ費用カ市町村ノ一部ノ負擔タルコトヲ規定セルニ止マリ、徵稅ノ主體ハ依然市町村自體ニシテ、從ツテ後者ノ如キハ私法人ナリト說ク者アランモ蓋誤ナリ。本條第二項ノ規定ハ部落ノ名ニ於テ徵稅セシメス市町村稅ノ名義ヲ以テ徵收セル從來ノ行政實例ニ合致セシムルト同時ニ、其ノ徵稅主體タルコトヲ一見知得シ得ヘキ文字ヲ殊更ニ忌避シタルモノニシテ、從ツテ徵稅ノ主體ハ市町村自體ナルカ如ク見ユト雖、若シ此ノ如ク解スルトキハ同條第三項ニ於テ第一項ニ依ル部落ノ收入ト、本項ニ依ル部落ノ收入トヲ合シテ市町村ノ會計ヨリ分別シ置クコトノ規定ハ徹底セサルヘシ。何トナレハ第二項ノ市町村自體ノ收入ヲ何等ノ手續ニ依ラスシテ部落自體ノ收入ト合シ、部落ノ費用ノ爲ニ使用シ得可ラサレハナリ。此ノ點ヨリシテ吾人ハ第二項ヲ以テ部落ニ徵稅ノ權力ヲ認メタルモノト解シ、從ツテ後者モ亦徵稅ニ關シ命令强制ノ權ヲ有スル公法人ニシテ部落住民ハ單ニ部落內ニ滯在シ又ハ住所ヲ有スル等ノ事由ニ依リ當然其ノ費用ヲ負擔セサル可ラサルヲ以テ又地方團體ナリト解ス。若シ夫レ區（舊市制第百十三條町村制第百十四條）ハ單ニ財產又ハ營造物ニ關スル權利ヲ有スルニ過キスシテ公法的ノ權力ヲ有セス、從ツテ唯私法人ノ一面ノミヲ有スルニ止マリ、獨立シタル公共團體即チ公法人ニ非ストスル大審院判例ハ（三十八年五月十八日第二民事部判決）舊法時代ニ於テモ地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ基ク明治三十八年勅令第百九十五

號カ區ヲ以テ公共團體ト爲セルニ依リ其ノ誤ナルヲ知ルヲ得ヘク、之ヲ以テ本法ヲ律ス可カラサルハ勿論ナリ。

公法人ナリ

二　營造物ヲ設ケタルモノ

市町村ノ一部ノ設ケタル營造物ノ主體カ部落自體ナルコトハ自ラ其ノ管理及處分ニ關スル事務ヲ行フヘキモノナルコト（第一項）及「營造物ノ屬スル市町村ノ一部」トアルニ依リテモ知ラルヘシ。從ツテ其ノ使用料ノ徵收及管理ノ費用徵收等ニ關シ利用者又ハ部落內ニ滯在シ若ハ住居ヲ有スル者等ニ對シ命令强制ノ力ヲ用ヒ得ヘキニ依リ、地方團體タル公法人タルヲ知ルヲ得ヘシ。

之ヲ要スルニ市町村ノ區ハ財產ノミヲ有スルモノト營造物ヲ有スルモノトヲ問ハス總テ地方團體タル公法人ナリ。然レトモ官有財產管理規則第十二條第十三條及官有地特別處分規則第三條等ノ適用ヲ受ケサルモノナルコトハ勿論ナリトス。

市町村ノ一部ノ權利能力

新ニ財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケムカ爲課稅シ又ハ贈與ヲ受クルヲ得ス

前述ノ如ク本法ハ財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタル市町村ノ一部ヲ其ノ管理及處分ノ事務ニ付公法人トシテ認メタルニ止マル。換言スレハ部落ハ管理及處分ノ事務以外ニ付何等ノ權利能力ナシ。故ニ從來財產又ハ營造物ナキ部落カ新ニ此等ノ一ヲ設クル能ハサルハ勿論、既ニ此等ノ一ヲ有スルモノト雖モ管理ノ目的以外ニ於テ新ニ營造物ヲ設ケムカ爲部內ニ課稅シ、又ハ財產ヲ作成センカ爲贈與ヲ受クルカ如キハ許ス可ラス。然レトモ事苟モ管理及處分ニ關スルトキハ本法其ノ他ノ法律又ハ勅令ニ別段

管理及處分ノ範圍

ノ規定ナキ限リ、市町村ノ財產又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ルモノナルカ故ニ、財產收入又ハ使用料ノ收入ニシテ經費支辨ノ殘餘ヲ預金ト爲シ、或ハ之ヲ以テ不動產有價證券等ヲ購買スルカ如キ、不動產タル財產ヲ處分シテ動產タル財產ト爲スカ如キハ可能ナリ。其ノ他管理及處分ニ付テハ次條ニ規定スル區會ノ設ケナキトキハ市町村會之ニ與リ特ニ管理者ナキトキハ市町村長之ヲ管理シ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スヘク、財產ニ付訴訟アルトキハ市町村長ハ訴訟當事者タルヘク（當該市町村トノ間ノ訴訟ニ付テハ一市町村長モ原被兩造ヲ兼ヌルコトトナルヲ以テ特別ノ規定設クル要アリ）、使用料及費用等ノ强制徵收ヲ爲シ得ヘク、財產ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ原則トシテ競爭入札ト爲スヘク、使用料加入金ノ增額變更不動產ノ管理處分等ノ事項ニ關シテハ、或ハ內務大臣或ハ內務、大藏兩大臣或ハ府縣知事、郡長ノ許可ヲ受ケサル可カラス（市制第四十二條第八十七條第百一條第百十條乃至第百十四條第百二十二條第百三十一條第百六十五條乃至第百六十八條町村制第四十條第七十二條第八十二條第九十條乃至第九十三條第百二條、第百十一條第百四十五條乃至第百四十八條等多々アリ）。茲ニ所謂市町村ノ一部ハ市制第百二十二條町村制第百二條ニ所謂市町村ノ一部ニ非サルカ故ニ、市町村ノ一部ニ對シ費用ヲ負擔セシムルハ府縣知事又ハ郡長ノ許可ヲ受クルヲ要セス。然レトモ若シ本條ニ所謂市町村ノ一部ニシテ、尙其ノ一部又ハ數人ヲ利スル營造物又ハ財產アルトキハ、其ノ部內ニ於テ市町村稅ヲ納ムル者又ハ關係者ニ負擔セシムヘク、從ツテ此ノ場合ノ費用負擔ニ付テハ府縣知事又ハ郡長ノ許可ヲ受ケサル可ラスト信ス（市制第百二十二條第百六十七條町村制第百二條第百四十七條）。以上ノ場合ニ於ケル市町村長又ハ市町村會ノ活動ハ、區ノ機關トシテ

ノ活動ナルコトニ注意スルヲ要ス。

選擧權ヲ有ス

市町村ノ一部ハ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ關シテノミ權利能力ヲ有スト雖、市制第十四條第三項町村制第七二條第三項ハ法人ニモ選擧權ヲ付與スルコトヲ規定スルカ故ニ、市町村ノ一部モ亦其ノ市町村又ハ他市町村ニ於テ土地ヲ所有シ、多額ノ納稅者タルトキハ市町村會議員ノ選擧權ヲ有シ、其ノ代表者タル市町村長ニ於テ投票ヲ爲シ得ヘキモノトス。

基本財産ヲ有スルコトヲ得ルヤ

市町村ノ一部ハ其ノ財産ヲ基本財産トシテ維持スヘキ義務ヲ負擔スルヤ、又特定ノ目的ヲ定メ特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得ルヤ。蓋市町村ヲシテ其ノ收益財産ヲ基本財産トシテ維持スヘキ義務ヲ負擔セシムルハ、專ラ市町村自體ノ基礎ヲ鞏固ナラシメントスルニ外ナラス。之ニ反シ市町村ノ一部ヲシテ財産ヲ有シ、又ハ營造物ヲ設ケタルヲ承認セルハ、單ニ市町村ノ統一ヲ傷害スルヲ避ケンカ爲止ムヲ得サルニ出テタルナリ、從ツテ基本財産ノ設置ハ許ス可ラス。特定ノ目的ヲ定メ特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀ヲ積立ツルカ如キニ至ツテハ、其ノ財産ヨリ生スル自然ノ收入ヲ增積スル場合ハ格別、其ノ以外ニハ財産又ハ營造物ノ管理及處分ノ能力ノ範圍外ナリ、許ス可ラサルヤ勿論ナリ。市町村ノ一部起債ヲ爲スヲ得ルヤハ問題ナリト雖爲スノ權能ナシトスルヲ正當トス。從來ノ實例ハ之ヲ市町村ノ公債トシテ募集シ以テ區ノ費用ニ充當シタリシト雖、正確ナル理由ヲ示スモノナシ。余輩ハ本條第二項カ特ニ費用負擔ノ事ヲ規定セルニ鑑

起債ヲ爲スヲ得ルヤ

ミ起債ヲ爲スコトハ財産又ハ營造物ノ管理ノ範圍ニ屬セサルモノトシテ其ノ權能ナシト論定ス。

市町村ノ一部ノ負擔

財産又ハ營造物ニ關シ特ニ必要ナル費用ハ、市町村ノ一部ノ負擔トスヘキモノナルコトハ部落カ人格ナルコトニ依リテ當然ノ事理ナリ。本條第二項特ニ之ニ關スル規定ヲ設クルハ、一部ノ負擔トシテ之ヲ部落ノ人民ニ賦課シ得ヘキコトヲ認メムトスルニ依ル。賦課ハ市町村稅ノ形ニ於テスルヲ從來ノ例トス。故ニ其ノ賦課徵收ノ手續ハ市町村稅ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケ、課稅法定制限ヲ超ユルヤ否ヤヲ見ルハ區ノ分ヲ市町村ノ分ニ通算シ許可ヲ受クヘク、間接國稅ニ附加稅ヲ課シ若ハ特別稅ヲ賦課スル市町村ニ於テ別ニ其ノ市町村內ノ區ニ於テ同一ノ賦課ヲ爲サムトスル場合ニ兩者ヲ通算シテ許可ノ課率ノ範圍ヲ超過セサル限リ共ニ賦課スルヲ得ヘク若シ市町村ノ賦課稅ノミニテハ法定ノ制限ヲ超過セス區ノ分ヲ加フル爲超過スルトキ即市町村ノ議決カ區會議決ヨリ早キトキハ區會議決ノミニ付許可ノ申請ヲ爲スヘキモノトス。然トモ徵稅ノ主體ハ部落自體ナリ、此ノ場合ニ於テ市町村ノ機關ハ區ノ機關ナリ。而モ區ノ費用カ區民ニ對シ强制徵收シ得ヘキコトハ明文上明ナラスト雖、前ニモ述ヘタル如ク本條第二項ノ規定ヲ瞹昧ナラシメ市町村稅トシテ統一シテ賦課セシメントスル立法者ノ意見ニ基キ、市町村稅ナル形ニ於テスルカ故ニ、市町村稅ノ例ニ從ヒ强制徵收シ得ヘシト爲シタルモノト解スルヲ以テ正當トスヘシ。仍市町村內各部落ニ於テ所有スル財產ノ訴訟和解ヲ區會若ハ市町村會ノ議決ニ依リ、市町村長ニ於テ執行スルニ當リ要スル訴訟費用ハ、普通役場事務ニ要スル費用ト異ナル

訴訟和解ノ費用

ヲ以テ別途支出トシテ關係部落ノ負擔タルヘキモノトス。

會計ノ分離

市町村ハ部落ノ財産又ハ營造物ノ使用料財産ヨリ生スル私法的收入及部落人民ニ對スル賦課ニ依リテ得タル收入ハ、之ヲ合シテ別會計ト爲サヽルヲ可ラス。本條第三項「市町村ノ一部ハ」云々ト規定スルモ一部カ之レ以外ニ於テ分別スヘキ會計ナキカ故ニ、本項ハ市町村ノ機關カ部落ノ機關トシテ此ノ會計ヲ取扱フ上ニ於テ必要ナル注意的規定ナリト云フヲ適當トスヘシ。然レトモ實際上ノ取扱トシテハ從來市町村カ公債募集金ヲ區ニ交付スルニハ市町村ノ支出ニ「何區費ニ支出」、區ノ收入ニ「市町村ヨリ受入」トシテ科目ヲ設置シ附記ニ其ノ理由ヲ記入スルヲ例トス。

終リニ於テ特ニ注意スヘキハ所謂學區ハ本條ノ適用ナキコトヲ之レナリ。（營造物タル學校ハ市町村ノ經營スル國ノ營造物タルコト前ニ述ヘタルカ如シ而シテ其ノ費用ハ學區之ヲ負擔ス）。學區ノ財產ハ全然地方學事通則ノ支配ヲ受ク。故ニ基本財產ヲモ設クルコトヲ得ヘシ（地方學事通則第九條及第十條）。

（判例）

一　町村內一部ニ屬スル財產ヲ管理スルハ町村長ノ職權ニ屬ス（三一、四、一二、行判）

二　町村長ノ管理スル財產ニ關シ人民總代ノ名義ヲ以テ爲シタル出願ハ無效ナリ（同上）

三　官有ノ堤塘ニシテ修築費ノ縣ノ負擔ニ屬スルモノハ町村又ハ區ノ營造物ニ非ス（三一、二、一九、行判）

市制（第百四十五條）町村制（第百二十五條）　前條ノ財產又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市町村會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經テ市町村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケヲ市町村會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

本條ハ財產又ハ營造物ニ關スル事務ニ付區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得ルヲ規定ス。蓋市町村ノ行政ハ出來得ヘキ丈之ヲ統一スルヲ必要トス。故ニ部落ノ財產又ハ營造物ノ管理及處分ニ關スル事務ト雖別ニ之カ機關ヲ設ケス、其ノ議決ノ如キモ市町村會ヲシテ之ヲ爲サシメ負擔ノ如キモ一般市町村稅ニ參酌シテ爲サシムルカ如キハ國家ノ最モ希望スル所ナリ。然トモ部落ノ利益ハ必スシモ常ニ市町村自體ノ利益ト合致セス、從ツテ市町村會ヲシテ部落ノ事務ヲ議決セシムルコトカ却ツテ市町村ノ統一ノ傷害スルコトアルヘシ。此ノ如キハ部落ノ財產又ハ營造物ニ關シ、市町村自體又ハ市町村ノ他ノ一部ト爭議ヲ生シ、訴訟ヲ爲サムトスルカ如キ場合ニ於テ多ク存ス。此ノ如キ場合ニ於テ區會又ハ區總會ヲ設クルヲ得セシムルハ止ムコトヲ得サル必要事ナリトス。而シテ必要ノ認定ハ專ラ府縣知事又ハ郡長ニ於テ之ヲ爲スモノナルカ故ニ、全然其ノ自由ニ存スト雖上述ノ範圍ヲ出ツルコトハ穩當ナラサルヘシ。

「意見ヲ徵シ」ノ意義

市町村會ノ意見ヲ徵スルハ單ニ市町村會ノ意嚮ヲ知ラントスルノミ。其ノ同意ヲ得ントスルニ非ス。將又府縣知事若ハ郡長ハ其ノ意見ニ拘束セラルモノニ非ス。意見ヲ徵スルハ府縣知事若ハ郡長ノ發議ニ係ラサル可ラス。故ニ其ノ發議ニ依ラスシテ市町村會ノ議決ニ基キ市町村長ヨリ申請アリタリ

條例ノ設定及改廢

トスルモ更ニ意見ヲ徵セサル可ラサルナリ。而シテソハ獨リ區會又ハ區總會ヲ設クルニ付テノミナラス、設置ノ方法即チ條例ニ規定スヘキ事項ニ付テモ仍意見ヲ徵スヘキモノトス。

內務大臣ノ許可

區會又ハ區總會ヲ設ケントスレハ、府縣知事又ハ郡長ハ市町村條例ヲ設定セサル可ラス。元來條例ノ設定又ハ改廢ハ市町村會之ヲ議決スルヲ原則トスルモ（市制第四十二條町村制第四十條）、此ノ場合ニ於テハ市町村ト部落ト利害關係ヲ異ニスルモノナルヲ以テ、府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ、郡長ハ單獨ノ意思ヲ以テ條例ヲ設定スルモノトス。郡參事會ノ議決ヲ經ルヲ要セサルコトト爲シタルハ本法カ郡制廢止ト關連ノ問題タリシ痕跡ナリ。設定シタル條例ノ改廢モ亦其ノ設定ト同一手續ニテ行ハルルモノトス。

議決スヘキ事項

條例中ニ揭クヘキ事項ハ次條之ヲ規定ス。府縣知事又郡長ニ依リ設定セラレタル條例モ亦市町村條例ノ一タルヲ失ハサルヲ以テ、又內務大臣ノ許可ヲ受サル可ラス、其ノ改廢ニ付亦同シ（市制第百六十五條町村制第百四十五條）、然レトモ贈與其ノ他事由ニ依リ財產又ハ營造物ノ移轉又ハ消滅ニ歸シタルトキハ、區會條例ハ當然消滅シ廢止條例ヲ發行スルヲ要セサルモノトス。仍町村ヲ市ト爲シ、市ヲ町村ト爲シタトキニ於テモ、區會ニ關スル條例ハ其ノ際消滅スヘキニ非ス、從ツテ次條ニ說明スル區會議員モ亦依然トシテ在職スルモノトス。

區會又ハ區總會ノ議決スヘキ事項ハ財產及營造物ニ關シ市町村會ノ議決スヘキ事項ナリ。故ニ其ノ權限ハ財產又ハ營造物ノ管理及處分ニ關スル事務ノ範圍ヲ出テス。區ニ利害關係アリト云フノ故ヲ以テ土木工事請負ノ如キ議決ヲ爲スヲ得ス。然レトモ間接國稅ノ附加稅又ハ特別稅ヲ市町村ノ一部限リ賦課若ハ新設セムトスル場合ノ如キ區會ノ議決ヲ以テ許可ヲ受クヘキモノニシテ、且其ノ區限リ新設スル特別稅ニ付テモ亦其ノ議決ヲ以テ許可ヲ得テ市町村條例ヲ設ケ得ヘキモノトス。

（判例）

一　區會ハ區有財產及營造物ニ關スル事務ノ外他ニ議決權ナシ。（二八、一〇、五、行列）

二　區會條例ハ町村條例ト等シク町村制第百二十五條（本法第百四十五條）ニ從ヒ內務大臣ノ許可ヲ要ス（二五、二、二六、行列）

三　區ハ起債ノ如キ事項ニ付テハ權能ヲ有セス（三六、一二、二八、行列）

四　區會條例中ニ區會ノ議決スヘキ事項トシテ區有不動產ノ賃入書入ヲ爲スコトヲ規定セルモ其ノ規定ハ區カ自ラ起債ヲ有スニアラサル場合ニ適用セラルヘキモノト解スヘク之ヲ以テ區ニ起債權ヲ附與シタルモノト論スルヲ得ス（三六、一二、二八、行列）

市制　第百四十六條　區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選擧權及被選擧權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選擧ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選擧人名簿又ハ選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選擧權ノ有無ノ決定ハ市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會議員ノ選擧ニ付テハ前條ノ市條例ヲ以テ選擧人ノ等級ヲ設クサルコトヲ得

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

町村制　第百二十六條　區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選擧權及被選擧權ニ關スル事項ハ

前條ノ町村制例中ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ關スル事項ニ付亦同シ
區會議員ノ選擧ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選擧人名簿又ハ選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選擧權ノ有無ノ決定ハ町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ
區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

區會議員ノ地位

條例ニ規定スヘキ事項

本條ハ區會議員、區會及區總會ニ關スル法規ノ適用ヲ確定シ、以テ舊法カ區會又ハ區總會ヲ設ケ、其ノ會議ハ市町村會ノ例ニ依ルヲ得ルコトヲノミ規定セシ爲生シタル、區會議員ノ名譽職タルヤ否ヤ、從ツテ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒辭シタル場合ニ制裁ヲ加フルヲ得ルヤ否ヤ、其ノ選擧ハ何ニ準據スヘキモノナリヤ等ノ疑問ヲ一掃セルナリ。

區會議員ハ市町村ノ名譽職トス。名譽職ノ何タルヤハ前述セリ茲ニ省略ス。故ニ正當ノ事由ナクシテ其ノ當選ヲ辭シ、其ノ職ヲ辭シ、又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ、公民權ヲ停止シ又ハ市町村稅ヲ增課シ得ヘキモノトス（市制第十條町村制第八條）、其ノ之ヲ議決スル機關カ區會ニ非スシテ市町村會ナルコトハ區會議員カ區ノ名譽職ニ非スシテ市町村ノ名譽職ナルヨリ來ルヘキ當然ノ結論ナリ。

前條ニ掲クル條例ニハ區會ノ議決スヘキ事項以外ニ於テ、議員ノ定數、任期、選擧權及被選擧權ニ關スル事項ヲ規定セサル可ラス。從ツテ被選擧權ヲ有セサルモノヲモ規定セサル可ラサルコト勿論ナリ。蓋市町村會ノ例ニ據ルヘキ旨ヲ規定セサルハ、之ニ準據スルコトカ却ツテ部落ノ事情ニ適應セサルコト多キニ依ル。部落ノ狹小ナル爲區總會ヲ設クル場合ニ於テハ、其ノ組織ハ町村條例中ニ規定スヘキモノトス。區總會ナルカ故ニ區內ノ公民權ヲ有スルモノ全部ヲ以テ組織スルコト最モ普通ニシテ又事情ニ適應スルモノナルヘシ。其ノ組織ハ選擧權等ニ付規定スルノ要ナキモノトス。

選擧ノ方法

本條第一項ニ掲ケタル部落特種ノ事情ニ適應セシムヘキ必要アルモノヲ除キ、其ノ選擧ノ方法ニ關シテハ市町村會議員ノ其レト異リタル主義ヲ採用スルノ必要ヲ見ス。即チ本法ハ市町村會議員ニ關スル訴願訴訟、選擧會場、投票ノ日時、議員數、選擧會場ノ取締、投票ノ無記名制、投票ノ無效、當選者ノ決定及告知、選擧又ハ當選ノ效力ニ關スル訴願訴訟、補缺選擧等總テ市町村會議員ノ選擧ノ例ニ依ル（市制第十五條乃至第十七條第二十條乃至第二十一條町村制第十三條第十四條第十七條乃至第三十八條）。然レトモ選擧人名簿ニ關スル異議ノ決定（市制第二十一條町村制第十八條）及選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定（市制第三十八條町村制第三十五條）ハ區會ニ於テ爲スヲ得ス、市町村會ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトセリ。之レ財產又ハ營造物ノ管理及處分ノ爲ニ設ケラレタル區會ニ、之ニ直接ノ關係ナキ事件ニ付決定權ヲ與フルコト不穩當ナリト認メタルニ依ル。市町村會ノ決定ニ不服ナルトキ更ニ訴願及訴訟ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナリトス。區總會ノ組織員ニ關シ此ノ種ノ規定ナキハ多クノ區總會ニ在ツテハ、公民權ヲ有スル者ヲ以テ組織スルカ故ニシテ、其ノ然ラサ

ルモノニ付テハ町村條例中ニ之ヲ規定セシムヘキ趣旨ナリト解スヘシ。

選擧人ノ等級

市會議員ノ選擧人ハ分チテ三級トスルカ故ニ、若シ本條ニ於テ特例的規定ヲ設ケサルトキハ市ノ區會議員ノ選擧人モ亦分チテ三級ト爲ササル可ラス。然レトモ比較的人口寡小ナルカ如キ市ノ區會議員ノ選擧人ニモ、此ノ例ヲ以テスルコトハ却ツテ事情ニ適應セサルコトアルヘシ。故ニ市制ニ在ツテハ本條第三項ニ於テ前條ノ市條例ヲ以テ選擧人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得セシメタリ。從ツテ等級ヲ減シテ之ヲ二級ト爲スコトハ許サスト解セサル可ラス。而シテ町村制ニ於テ此ノ種ノ規定ナキハ一見怪ムヘキカ如シト雖、同法第十三條第八項ハ特別ノ事情アリテ選擧人二級分別ノ制ニ依リ難キ町村ニ於テハ、町村條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得ル旨ヲ規定シ、此ノ規定モ亦本條中ニ準用セラルルカ故ニ、前條ノ條例中ニ等級ヲ設ケサルコトヲ掲クルヲ得ヘク、以テ市制ト同一結果ヲ來シ得ヘキモノトス。

市町村會ニ關スル規定ノ準用ノ範圍

本條第四項（市制）又ハ第三項（町村制）ニ區會又ハ區總會ニ「關シテハ」トアルハ區會又ハ區總會ノ會議ニ關シテハ、市町村ニ關スル規定ヲ準用スルモノト解スヘシ。從ツテ財産又ハ營造物ノ管理及處分ノ事務ニ關シ、市制町村制第二章第二款ノ準用アルヘク、區會及區總會ノ議長ハ市ノ區會ニ在リテハ議員中ヨリ選擧シ町村ノ區會又ハ區總會ニ在リテハ町村長議長ト爲ルモノトス（市制第四十八條第四十九條、町村制第四十九條）、

區長

終リニ於テ特ニ研究スヘキハ此ノ如キ區ノ區長ナリトス。舊法ハ「市内ノ一區」（市制第百十三條）又ハ「町村内ノ區（第六十四條）」ト規定スルカ故ニ此等ノ區ニ於テハ區長ハ區會ヲ設クル區ニ於テハ區會之ヲ選擧スヘキモノナリシモ、本法ハ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタル區ノミヲ見テ規定ヲ設ケ、市町村ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ラシメタルヲ以テ區會ハ其ノ管理及處分ニ關シテノミ市町村會ト同樣ノ權限ヲ有シ區長ヲ選擧スルハ其ノ權限ニ屬セス。從ツテ處務便宜ノ爲ニ設ケタル區ニ在ツテハ區長ハ財産又ハ營造物ニ關スル事務ニ付吏員トシテ市町村長ノ事務ノ分掌ヲ受ケ以テ區ノ事務ヲ處理スヘク、其ノ他ノ區ニ在ツテハ區長ヲ置クコトヲ得サルモノトス（市制第八十二條第八十七條、町村制第六十八條第七十二條）、

市制第百四十六條　第百四十四條
町村制第百二十七條　第百二十四條
ノ場合ニ於テ市町村ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ内務府縣大臣知事ニ訴願スルコトヲ得

本條ハ市制第百四十四條町村制第百二十四條但書ニ該當スル「別段ノ規定」ナリ。若シ然ラストスレハ殊更ニ本條ヲ設クルノ必要ナク市制第百五十八條町村制第百三十八條ノ規定ニ依リ、市町村ノ一部モ亦内務大臣又ハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得ヘケレハナリ。從ツテ町村ノ一部ニシテ或ハ不動産ノ管理又ハ處分ニ關スル事項ニ付、郡長ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得ルニ止マリ其ノ裁決ニ不服アルモ更ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得サルモノト解セサル可ラス。然モ本條ノ規定ニ拘ハラス内務大臣ニモ訴願スルコトヲ得ルモノナリト解スル實際家ノ多キコトハ立法ト解釋ト

ヲ混同セルモノニシテ吾人ノ奇訝ニ堪ヘサル處ナリ。

市制第百四十八條　町村制第百二十八條　第百四十四條ノ市町村ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

市町村ノ一部ノ事務ニ關シテハ、舊法ハ僅ニ二條ヲ設ケタルノミニシテ、沿革多ク其ノ態樣ニ於テ種々異ナリタル部落有財産營造物ヲ規律スルニ於テ頗ル不備ナルモノアリ。多クハ內務省訓令等ヲ以テ其ノ欠缺ヲ補ヒタリシモ、元ヨリ止ムヲ得サルニ出テタル窮策ナリシナリ。本法ハ之ニ關シ上來述ヘタル數條ノ規定ヲ存スト雖、尙更ニ特例ヲ開クノ必要ナル場合アルヘキヤ之ヲ豫想スルニ難カラサルヲ以テ、特ニ此ノ規定ヲ設ケ特例モ亦法規ニ根據ヲ有セシメムトスルモノナリ。故ニ例ヘハ市町村ノ一部ニシテ其ノ財產又ハ營造物ニ關シ、其ノ市町村又ハ其ノ市町村ノ一部ト爭論ヲ生シタルトキハ其ノ事件ヲ處理セシムル爲事務管掌者ヲ置クコトヲ得ルカ如キ規定、此ノ如キ事務管掌者ノ選任職務權限等ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケシムルカ如キ規定ヲ設クルコトヲ得ヘシ。

市制第八章　町村制第七章

市町村組合

市町村組合トハ市組合、市町組合、市町村組合及市町村組合ノ總稱ニシテ、町村組合トハ町組合、村組合及町村組合ノ總稱ナリ。其ノ固有事務又ハ委任事務ノ一部又ハ全部ヲ共同處理スル公法人ナリ。郡ト市町村トノ中間ニ於テ此ノ種ノ公法人ヲ認ムルハ自治行政ノ組織ヲ複雜ニシ、事務ヲ繁多ニシ負擔ヲ加重スルノ虞ナキニ非スト雖、公共的設備（水道、電氣、學校、衞生設備等ヲ爲ス必要ノ增加ハ或ハ任意ニ或ハ强制シテ其ノ事務ヲ共同處理セシムルヲ便宜ト爲スニ至レリ。蓋一部又ハ全部ノ事務ノ爲ニ市町村自體ヲ合併スルカ如キハ或ハ必要ノ範圍ヲ脫スヘク、或ハ必要ナリトスルモ事實上ノ不能不便若ハ慣習ノ許ササル處アルヘケレハナリ。

組合ヲ認ムル理由

町村組合ハ舊法亦之ヲ認ム。然レトモ規定ノ不備ハ(一)法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘ可キ資力ヲ有スル町村間ノ組合ヲ强制スルコト能ハス、(二)組合規約ノ設定及變更等ニ付監督官廳ノ許可ヲ受ケサルモノ多數ヲ生シ、(三)協議ニ成リタル町村組合ハ又協議ニ依ルニ非サレハ解除スルコトヲ得サル等ノ憾アリキ。本法ハ總テ此等ノ不備ヲ補ヘリ。市町村組合ハ舊法之ヲ認メス。然トモ社會ノ發達ハ之ヲ認メサルコトヲ許サス。即テ全部事務ノ爲ニスル組合竝議決機關及吏員ノ消滅ニ關スル規定ヲ除キ大體ニ於テ町村組合ト同一規定ヲ設ケタリ。何カ故ニ町村組合ト規定ヲ異ニシタルカハ便宜ノ爲之ヲ次條ニ解ク。

市町村組合及町村組合ノ種類及其ノ性質等ハ次條之ヲ規定ス。故ニ總テ之ヲ次條ノ解釋ニ讓ルヲ適當トス。

市制町村制釋義

市制　第百四十九條　市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

市町村組合ハ法人トス

町村制　第百二十九條　町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合內各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス」

町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合內各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ決議ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ前二項ノ町村組合ヲ設クルコトヲ得

町村組合ハ法人トス

任意組合及強制組合

本條ハ市町村組合及町村組合ノ設立、設立ニ依リ生スヘキ結果及組合ノ性質ニ付テ規定ス。市町村組合タルト町村組合タルトヲ問ハス、分チテ之ヲ二トスルヲ得、任意組合及強制組合之レナリ。任意組合トハ市町村又ハ町村ノ任意ニ依リ其ノ協議ヲ以テ設立セラルヘキ組合ヲ云ヒ、強制組合トハ公益上必要アル場合ニ於テ府縣知事ノ設立スル組合ヲ云フ。故ニ強制組合ニ在リテハ市町村ニ於テ之カ設立ヲ希望スルト否トヲ問ハサルナリ。任意組合ノ外特ニ強制組合ヲ認メタルハ、關係市町村ノ之ヲ欲セサルニ拘ハラス組合ヲ組織セシムルコトカ公共ノ利益ヲ增進スル場合アルヘキヲ認メタルニ依ル。任意組合及強制組合ハ各之ヲ一部組合及全部組合ニ分ツコトヲ得。任意一部組合トハ關係市町村又ハ町村ノ任意ノ協議ニ依リ、其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲ニ設立セラルヘキ組合ニシテ任意全部組合トハ關係町村ノ任意ノ協議ニ依リ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲ニ設立セラルヘキ組合ヲ云フ。強制一部組合トハ關係市町村又ハ町村ノ意思如何ニ拘ハラス其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲府縣知事ノ設立スル組合ヲ云ヒ、強制全部組合トハ關係町村ノ意思如何ニ拘ハラス、其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲府縣知事ノ設立スル組合ヲ云フ。今之ヲ成條ニ照ラシ解スレハ次ノ如シ。

任意町村一部組合設立ノ結果

一、任意一部組合（市制及町村制各本條第一項）ハ市町村ノ間又ハ町村ノ間ニ在ツテモ設立スルコトヲ得。故ニ任意一部組合中ニハ市町村組合アリ町村組合アリ。共同處理セントスル事務ハ公共事務及委任事務ノ範圍ヲ出ツ可ラス。故ニ漁業ノ如キモ舊來ノ慣行ニ依リ行フモノヲ除キ漁業法ニ所謂漁業ノ如キ營利ノ目的ヲ以テスルモノノ如キ組合ハ許ス可ラス。協議ハ關係市町村會又ハ町村會ノ決議ニ依リテ市町村長之ヲ爲ス。協議調ヒタルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可ラス。許可ニ依リテ始メテ組合ハ法律上有效ニ成立ス。

任意一部組合タル町村組合設立セラレタルノ結果トシテ、組合內各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ

職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ、其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅スルモノトス。故ニ例ヘハ水道事務ノ爲ニ町村組合ヲ設立シタルトキハ、成立ト同時ニ各町村ノ水道吏員ハ消滅シ、現水道吏員ハ組合ノ吏員ト爲ラサル限リ當然失職スヘク、又一町村カ之レト同時ニ或ハ又時ヲ異ニシテ衞生事務又ハ勸業ノ事務等ノ爲メニ同一關係町村トノ共同處理ノ事務ヲ增加シ、又ハ他ノ町村ト町村組合ヲ設立シ、遂ニ一町村ノ事務ナキニ至リタルトキハ其ノ吏員ハ總テ消滅スルモノトス。町村會ニ付テモ亦之レト同シク、一町村カ他町村ト共同處理ノ事務漸次增加シ、遂ニ組合ニ於テ町村會ノ職務ノ全部ヲ共同處理スルニ至リ、或ハ甲乙丙丁等多クノ他町村ノ各一部組合ヲ設立シ、遂ニ町村會ノ職務ノ全部ナキニ至リタルトキハ町村會ハ消滅ス。「町村會及町村吏員」ト規定セスシテ「町村會又ハ町村吏員」ト規定セルハ町村吏員ノ消滅ト町村會ノ消滅トハ多クノ場合ニ於テ同時ニ發生スヘキモノニ非サルカ故ナリ。

任意一部組合タル市町村組合ニ付テハ此ノ種ノ規定ナシ。組合ヲ組織セル市ノ側ニ在リテハ假令多クノ種類ノ組合ヲ設立スト雖、市會カ全然其ノ職務ヲ失フカ如キハ想像シ得ヘキ稀有ノ場合ナリ。然レトモ既ニ他町村ト組合ヲ組織セル町村カ市ト更ニ組合ヲ組織スルニ依リ、茲ニ町村會ノ職務カ全然消滅スルニ至ルヘキ場合アルコトハ町村制ニ規定セルト同一程度ノ想像ヲ以テ思考シ得ヘキ處ナルヘク、此ノ場合ニ關スル規定ヲ欠缺スルコトハ假令實際ノ場合ニ於テハ町村會ノ職務ナキニ至リ、町村會自體モ自然消滅スルニ至ルヘキモ町村制ト比シテ規定ノ均衡ヲ得サルヘシ。殊ニ吏員ノ如キニ至ツテモ組合ノ場合ニ在ツテモ市町村組合ノ場合ニ在ツテモ町村制ト町村トヲ問ハス當然消滅スルニ至ラサルヘク町村制ニ比シテ甚シク均衡ヲ得サルモノト云ハサルヲ可ラス。

二、強制一部組合（市制本條第二項及町村制本條第三項）　モ亦市町村ノ間又ハ町村ノ間ニ於テモ存在スルヲ得ヘク、市町村組合アリ、町村組合アリ。事務ノ範圍モ亦任意一部組合ノ場合ト相同シ。而シテ何ヲ以テ公益上必要ナリト爲スカハ一ニ府縣知事ノ認定ニ係ル。市町村會ノ意見ヲ徵スルハ其ノ參考トスルニ止マリ府縣參事會ノ議決ヲ經ルヲ要スルハ府縣知事ノ獨斷ヲ避ケントスルノ趣旨ニ出ツ。內務大臣ノ許可ニ依リ組合ノ成立ハ法律上有效ニ認メラル。

強制一部組合タル町村組合ノ場合ニ於テモ亦任意組合ノ場合ノ如ク、組合カ各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタル時ハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅スヘキモノトス。但シ市町村組合ニ在ツテハ一ニ逃ヘタルト同一理由ニ基キ町村制トノ間不均衡タルヲ免レス。

三、任意全部組合（町村制本條第二項）　ハ町村組合ニ限ル。蓋市ト町村ト多クノ場合ニ於テ事務ノ範圍ヲ異ニセルモノ事務ノ全部ニ付テ共同處理スル場合生シ得ヘクモアラス、市ト市ノ全部組合ノ如キハ想像シ

得ヘキモアラサレハナリ。特別ノ必要例ヘハ法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フヘキ資力ヲ有セサルカ如キ場合ニ於テハ町村ハ町村會ノ決議ニ依リ其ノ協議ヲ以テ全部事務ノ爲ニスル組合ヲ設立シ得ヘシ、但シ府縣知事ノ許可ヲ得ルヲ要ス。町村事務ノ全部ヲ共同處理スル組合ナルカ故ニ組合内各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ全部消滅スルハ自然ノ理ナリ。此ノ場合ニ於テモ仍關係町村ヲ名義上タリトモ存セシメ、組合ノ存立ヲ認メタルハ關係町村ノ事情ヲ參酌シタルニ基ク。

任意全部組合設立ノ結果

四、彈制全部組合（町村制本條第三項）モ亦町村組合ニ限ル。之カ理由モ亦前項ニ述ヘタルト同シ。設立手續等ハ二ニ述ヘタルト同シ、茲ニ贅セス。

地方團體ナリ

以上述ヘタル所ニ依リ設立セラレタル組合ハ總テ公法人トス。市町村組合及町村組合モ亦組合ノ地域ヲ有シ地域内ニ於ケル人民ヲ強制シ得ヘキ人格者ニシテ地方團體ナリ。其ノ法人タルコトヲ明記セルハ此ノ如キ組合ノ設立セラルルコトハ彼ノ市町村内ノ區ノ存在ノ如ク希望ス可ラサルモノニ非スシテ往々市町村合併ノ先驅トシテ或點ニ於テ希望スヘキ性質ノモノタレハナリ。其ノ權利能力ハ共同處理セル事務ノ範圍ニ於テ存スルコト疑ヲ入レス。

市町村財産ノ處分

組合ヲ設クルモ組合市町村ノ財産ハ共同事務ノ範圍ニ於テ又ハ全部トシテ、組合財産ト爲ルヘキモノニ非スシテ依然各市町村ノ財産タリ。組合ノ設立ハ市町村ノ廢置分合ト異ナリ、故ニ財産處分ニ關スル規定ナキナリ、從ツテ若シ市町村ノ財産ヲ組合成立ト同時ニ組合財産タラシメントセハ、之ニ關スル事項ヲ組合規約中ニ規定シ組合ノ成立ト同時ニ讓渡ノ手續ヲ爲スヘキモノトス。

（判　例）

一、數町村ノ共同漁業ノ爲ニ本條ノ町村組合ヲ設クルヲ得ス（二六、一〇、三〇、行判）

二、町村組合ノ事務ハ公共事務ナラサル可ラス（二九、一一、一一、行判）

三、町村組合ノ代表者ハ組合ノ爲ニ訴ヲ爲シ又訴ヲ受クル權限ヲ有ス（三三、六、八、行判）

市制　第百五十條　市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

町村制　第百三十條　前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セムトスルトキハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ增加セムトスルトキハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラムトスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ一部事務ノ爲設クル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

本條ハ市町村組合ヲ組織スル市町村ノ增減、町村組合ヲ組織スル町村ノ增減及一部組合ニ於テ處理スル共同事務ノ變更ニ關シテ規定ス。之ヲ任意ノ變更及强制ニ依ル變更トニ分ツヲ便トス。

一、任意ノ變更

一部組合ノ場合

(イ)　市町村組合及町村一部組合ハ其ノ任意設立ノモノタルト强制設立ノモノタルトヲ問ハス、組合市町村數若ハ町村數ヲ或ハ增加シ、或ハ減少セムトスルトキ、又ハ共同處理セル事務ノ變更(增加、減少、取換ヲ含ム)ヲ爲サムトスルトキハ、關係市町村又ハ關係町村(市町村又ハ町村數ノ增加ノ場合ニハ、新ニ加ハルヘキ市町村、其ノ減少ノ場合ニハ、組合ヨリ退カムトスル市町村ヲ含ム)ノ協議ニ依リ、府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可ラス。而シテ此ノ場合ニ於テ組合會ノ議決ニ依リテ之ヲ爲ス旨ヲ規定セサルハ、組合ハ歸屬セシメラレタル事務ノ範圍ニ於テ權利義務ノ能力ヲ有スルモノニシテ、其ノ以外ノ事務ヲ組合ノ事務タラシメ、又組合ノ事務ヲ變シテ他ノ事務ト爲スカ如キ、或ハ組合ヲ組織セル市町村ノ數ヲ增加スルハ組合自體ノ權能ニ屬セサルカ故ナリ。唯組合ヲ組織セル市町村數ノ減少及共同事務ノ減少ノ場合ニ於テハ、組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケシメ適當ナルカ如シト雖、組織セル市町村ノ意思ニ顧慮スル所ナクシテ之ヲ爲サシムルコト設立ノ趣旨ト相反シ穩當ナラサルヲ以テ、此ノ場合モ亦關係市町村又ハ町村ノ協議ニ依リ、府縣知事ノ許可ヲ受ケシムルコトト爲シタルナリ。

關係市町村ノ協議ニ依ル理由

全部組合ノ場合

(ロ)　町村全部組合ハ其ノ任意設立タルト强制設立タルトヲ問ハス組合町村ノ數ヲ減少セムトスルトキト組合町村ノ數ヲ增加セムトスルトキニ區別スルヲ得ヘシ。前者ニ在リテハ組合會ノ議決ニ依リ、府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可ラス。蓋全部組合ナルカ故ニ組合ヲ組織セル各町村ノ議決機關ナキカ故ニ之ニ議決セシメ得サルハ勿論ニシテ組合會ニ議決セシムルコトハ事ノ性質上最モ穩當ナリトス。組合ヨリ退キタル町村ハ新ニ町村會、町村長等ノ吏員ヲ設ケサル可ラス。後者ニ在リテハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラムトスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可ラス。此ノ場合ニ於テモ許可ヲ受クヘキモノハ町村組合ト新ニ加ハラントスル町村トニシテ町村組合ハ本項ニ依リ此ノ種ノ能力ヲ認メラレタルモノナリ。

二、强制ニ依ル變更

强制設立タルト任意設立タルトヲ問ハス府縣知事ハ公益上必要アリト認メタルトキハ、一部組合(市町村組合若ハ町村組合)ノ場合ニ在リテハ關係ア市町村會又ハ町村會(新ニ加ハラムトスル市町村又ハ退カムトスル市町村ヲ含ム)ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ、組合市町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更(前同樣)ヲ爲スコトヲ得ヘク、全部組合(町村組合)ノ場合ニ在リテハ組織スル町村數ヲ減少セムトスルトキハ組合會ノ意見、町村數ヲ增加セムトスルトキハ其ノ町村組合及新ニ加ハラムトスル町村會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經內

組合ノ變更

務大臣ノ許可ヲ得テ、組合數ヲ減少シ又ハ增加スルヲ得ルモノトス。彈制シテ組合數ヲ增減シ又ハ其同事務ノ變更ヲ爲スハ彈制組合ヲ設立スルト同シク關係市町村、組合等ノ欲セサルト否トニ拘ハラス、之ヲ强制スルコトカ却ッテ公益ヲ增進スヘキ場合アリト認メタルニ依ル。

任意一部組合ハ之ヲ變シテ强制シテ全部組合トシ、彈制一部組合ハ之ヲ變シテ任意ニ全部組合タラシムルヲ得ルヤ。或ハ町村制第百三十條ハ「共同事務ノ變更」ト規定スルカ故ニ一部ノ事務ヲ變更シテ全部事務ト爲スコトヲ得ヘク、從ッテ一部組合ヲ變シテ全部組合ト爲スニハ本條ノ適用アリト說ク者アレトモ誤レリ。何トナレハ本條第一項ハ單ニ一部組合カ一部組合トシテ共同事務ノ變更ヲ爲ス場合ノ規定ナレハナリ。一部組合ヲ全部組合ニ變更スルヲ得ルヤ否ヤハ、一部組合ヲ組織セル全町村カ全部組合ニ變更シ得ルヤ否ヤノ問題ト、一部組合ヲ組織セル町村中ノ全部ニ非スシテ其ノ內ノ二三町村ノミノ全部組合ニ變更シ得ルヤ否ヤノ問題トニ分ッヲ要ス。前ノ場合ニ於テハ組合町村ハ一部組合ヲ解除スルコトナク、前條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ全部組合ヲ組織スルコトヲ得ヘク、既存一部組合ノ事務ハ全部組合ノ成立ノ爲メニ目的タル事務ヲ消失シ消滅スルニ至ルヘシ。後ノ場合ニ於テハ一部ノ町村ヲ除外シテ全部組合ヲ成立セシムルコトハ除外サレタル町村ヲシテ一部ノ事務ヲ共同處理スル能ハサラシムルニ至リ、全部組合ヲ組織セムトスル町村ハ、他ノ町村ニ對スル組合義務ノ違反タルニ至ルヘシ。從ッテ此ノ場合ニ於テハ一部組合解除ノ手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ、全部組

組合市町村ノ合併

合ヲ成立セシムルヲ得スト信ス。

全部組合又ハ一部組合中ノ二以上ノ市町村ノ合併ハ、市制町村制各第三條ニ依ル。從ッテ組合ト合併トハ直接ノ關係ナシ。唯合併ノ結果トシテ組合ノ消滅スルコトアリ、例ヘハ甲町乙村ヲ以テ組織セル組合ニ於テ甲町乙村ヲ合併シテ一町村トナリシ時ノ如シ。又組合市町村數ノ減少ヲ來スコトアリ、例ヘハ甲乙兩町及丙村ノ組合ニ於テ甲乙兩町カ合併シテ一町ト爲リタル時ノ如シ。

市制　第百五十一條　市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

町村制　第百三十一條　町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ヲ變更セムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

本條ハ市町村組合又ハ町村組合ノ組合規約ノ設定及變更ノ手續ニ付テ規定ス。組合規約ノ何タルヤ

ハ次條ニ於テ法律ノ明定スヘキコトヲ命スル事項ノ内容ニ依リ確定スヘキモノナルモ、之ヲ概論スルトキハ組合規約ハ組合ノ基礎法ナリ、行爲ノ準據法ナリ、組合ノ共同事務ノ範圍、意思決定ノ機關及執行機關ノ組織費用支辨ノ方法等多クハ之ニ依リテ確定セラル。組合規約ノ設定及變更ハ之ヲ任意的設定及變更ト强制的設定及變更トニ分ツコトヲ得。

組合設立ノ場合

一、任意的設定及變更　市町村又ハ町村カ市町村組合又ハ町村組合ヲ設ケントスルトキハ、其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可ラサルト同時ニ、別ニ關係市町村又ハ町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ、府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可ラサルナリ。

組合設立以後ノ場合

市町村組合又ハ町村一部組合ニ於テ組合規約ヲ變更セムトスルトキモ亦關係市町村又ハ町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ受ケサル可ラス。町村全部組合ニ於テ組合規約ヲ變更セムトスルトキハ組合會ノ議決ヲ經、府縣知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス。「組合會ノ議決ヲ經」ト爲セルハ主トシテ組合ヲ組織スル町村ノ議決機關ノ組合成立ト同時ニ消滅セルニ基ク。變更ヲ受クヘキ組合規約ハ末項揭クル强制シテ設定セラレタルモノナルト否トヲ問ハスト解スヘシ。組合規約ノ變更ハ前條揭クル所ノ組合市町村又ハ町村數ノ增減又ハ共同事務ノ變更ニ關スル場合アルヘク、或ハ又組合ノ名稱、組合役場ノ位置等ニ關スル場合アルヘシ。前者ノ場合ニ在ツテハ其ノ規約變更ノ手續ハ前條揭タル事項ノ變更ノ手續ト同時ニ爲サレサル可ラサルヘク、後者ノ場合ニ在ツテハ然ラサル場合多カルヘシ。而シテ組合規約ヲ變更シテ町村一部組合ヲ町村全部組合ヲ變シテ直チニ町村一部組合ト爲スコトモ亦組合會ノ議決ヲ經、府縣知事ノ許可ヲ受クルニ依リ可能ナルカ如ク思考スル者アリト雖誤レリ。何トナレハ前條ニ於テハ單ニ市町村組合又ハ町村一部組合ノ組合町村數ノ增減及共同事務ノ變更、町村全部組合ノ組合町村數ノ增減ノミヲ豫見セルノミニシテ町村制前條第二項ハ町村全部組合ノ共同事務ノ變更ニ付テ規定セサルヨリ見ルトキハ、組合規約ノ變更ニ依リ全部組合ヲ變シテ一部組合タラシムルコトハ法ノ認メサル所ニシテ、一部組合ヲ設立セントスレハ全部組合ヲ解クコトヲ必要トスル趣旨ナリト解スルヲ相當トスヘシ。一部組合ヲ變シテ全部組合ト爲サムトスルトキハ前條說明シタル許可ノ申請（町村制第百二十九條第二項）ヲ爲スヘク、又ハ强制シテ規約ヲ設クルコトヲ得ヘシ。（町村制第二十九條第三項本條第三項）

全部組合ヲ一部組合ト爲シ得ルヤ

二、强制的設定及變更　公益上必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ市町村組合又ハ町村一部組合ニ付テハ關係アル市町村會又ハ町村會ノ意見ヲ町村全部組合ニ付テハ組合會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ設定シ又ハ變更スルコトヲ得ルモノトス。强制シテ組合規約ヲ設定スルコトハ强制設立ノ場合ニ適用アルコト勿論ナリト雖、任意設立ノ場合ニ於テモ亦適用アルカ如ク解セラルル餘地アリ。然レトモ此ノ如キハ恐ラクハ立法者ノ豫見セサル所ナリ。市制前條第一項町村制前條第一項及第二項ノ場合ニ於ケル組合規約ノ變更モ亦强制シテ之ヲ

爲スノ趣旨ニ非サルヘシ。此等以外ノ事項ニ付テハ强制設立ニ依ル組合タルトヲ問ハス組合規約ヲ強制シテ變更セシメ得ヘキモノナリトス。

（智）

市制　第百五十二條　組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル市町村組合ノ共同事務、組合役場ノ位置、組合會ノ組織及組合會議員ノ選擧、組合吏員ノ組織及選任竝組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

町村制　第百三十二條　組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル町村、組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムヘシ

一部事務ノ爲ニ設クル組合ノ組合規約ニハ前項ノ外組合會ノ組織及組合會議員ノ選擧、組合吏員ノ組織及選任竝組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

一部組合

本條ハ市町村組合又ハ各町村組合規約中ニ於テ規定セサル可ラサル事項ヲ定ム。然レトモ限定的ノモノニ非サルカ故ニ之レ以上他ノ規定ヲ設クルヲ妨ケサルハ勿論ナリ。全部組合ト一部組合トニ分チテ設クルヲ便宜トス。

一、一部組合（市町村組合及町村一部組合）　規約ニ在ツテハ左ノ諸事項ニ付規定ヲ設ケサル可ラス。

（イ）組合ノ名稱「何村何村組合」「何町何村」ト記載スヘキモノトス。

（ロ）組合ヲ組織スル市町村又ハ町村法人タル組合團體ヲ組織スル團體員ハ團體成立ノ基礎ナルカ故ナリ。

（ハ）組合ノ共同事務　組合共同事務ノ範圍ハ組合ノ權利義務ノ能力ノ範圍ヲ決定スルモノナルカ故ナリ。

（ニ）組合役場ノ位置　ハ組合市町村ノ利害關係多キ所ナルヲ以テ特ニ規定セシムルナリ。

（ホ）組合會ノ組織及組合議員ノ選擧　組合議員ノ定數、任期、選擧權、被選擧權、選擧ノ方法選擧ノ效力、等ヲ規定スルヲ要ス。

（ヘ）組合吏員ノ組織及選任　吏員タルヘキ者ノ資格、任期、定數、及其ノ選任ノ方法等ヲ規定スルヲ要ス。

（ト）組合費用ノ支辨方法　組合事務ノ處理上必要アル費用ノ組合市町村又ハ町村ニ於ケル負擔額ノ割合等經費支出ノ方法ヲ規定スルヲ要ス。

二　全部組合（町村組合）規約ニ在ツテハ左ノ諸事項ニ付規定ヲ設ケサル可ラス。

（イ）組合ノ名稱

（ロ）組合ヲ組織スル町村

（ハ）組合ノ共同事務

（ニ）組合役場ノ位置

全部組合ニ在ツテハ唯僅ニ以上四事項ニ付テ規定ヲ要スルノミ。一部組合ノ組合規約ニ於テ規定スルヲ要スル殘餘ノ事項ハ全部組合ニ在ツテハ町村ニ關スル規定カ準用セラルヘキニ依リ組合會ノ組織及組合會議員ノ選擧ニ付テハ町村會ノ組織及町村會議員ノ選擧ノ規定ノ準用アルヘク（第二章）、組合吏員ノ組織及選任ニ付テハ町村吏員ノ組織及選任ノ規定ノ準用アルヘク。（第三章）、費用支辨ノ方法ニ付テハ町村費支辨ノ方法ニ關スル規定ノ準用アルヘシ。（第五章）、此ノ如キハ全部組合ハ事實ニ於テ町村ト毫モ異ナル所ナキカ故ナリ。

本條ハ任意組合タルト強制組合タルトヲ問ハス其ノ適用ヲ見ル。從ツテ本條ハ組合ヲ組織スル市町村又ハ町村ヲ拘束スル法規タルト同時ニ又府縣知事ニ對スル命令ナリ。（前條末項）

（判　例）

一　組合會ハ組合規定ノ範圍外ニ渉リ又ハ之ニ矛盾ノ議決ヲ爲スヲ得ス（二八、五、一五行判）

二　本條ノ組合會議ノ組織ニハ議員選擧ノ方法及其資格任期ノコトヲ包含ス（三〇、七、五行判）

三　組合村長カ其職責タル事務ヲ他ノ人ニ命シタルモ組合ハ之ニ給料ヲ支拂フ責ナシ（三〇、一〇、一八行判）

市　制　第百五十三條　市町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

町村制　第百三十三條　町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ解クコトヲ得

本條ハ市町村組合又ハ町村組合ノ解除ニ付テ規定ス。組合ノ解除ハ別チテ之ヲ二トスルヲ得、組合ノ任意ノ協議ニ依ル場合及府縣知事ノ強制ニ依ル場合之レナリ。

一、組合ノ任意ノ協議ニ依ル場合

市町村組合又ハ町村一部組合ヲ解カムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ、町村全部組合ヲ解カムトスルトキハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス。舊法ニ於テハ郡長ノ許可ヲ以テ足レリトセシモ之ヲ存續セシムルトキハ公益上至大ノ關係アルノミナラス、本項ノ規定ハ府縣知事ニ於テ強制組織シタル組合ニモ適用アルヲ以テ、之ヲ府縣知事ノ權限ニ屬セシメタルナリ。

許可ヲ受クヘキ主體ハ一部組合ニ在ツテハ關係市町村又ハ町村ニシテ全部組合ニ在ツテハ組合自體ナリ。強制組合ト雖任意ノ協議ニ依リ解除スルコトヲ得ヘシ。府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ組合ハ其ノ存立ヲ失ヒ、一部組合ニ在リテハ關係市町村又ハ町村ノ議決機關及執行機關ハ當然共同事

務ノ復歸ニ依リ權限ノ擴張ヲ受クヘク、其ノ消滅セル町村ノ機關アルトキハ新ニ之カ講要ヲ要スヘク、全部組合ニ在ッテハ關係町村ハ新ニ議決機關及執行機關等ヲ構成セサル可ラス。

二、府縣知事ノ強制ニ依ル場合

府縣知事ニ於テ公益上必要アリト認メタルトキハ、一部組合ニ在リテハ關係アル市町村會又ハ町村會ノ意見ヲ徵シ、全部組合ニ在リテハ組合會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ組合ヲ解クコトヲ得。舊法ニ在ッテハ此ノ種ヲ規定ナク爲ニ存續セシムルコトノ却ッテ公益ヲ害スルモノアル場合ニ於テ之カ解散ヲ強制スルコト能ハサリキ。本法ハ此ノ缺點ヲ補充セルモノナリト雖組合ノ解除ヲ欲スルト否トニ拘ハラス、此ノ如キ手段ヲ執ルコトハ頗ル重大ナル事項ナルカ故ニ頗ル其ノ手續ヲ鄭重ニセリ。強制解除ヲ爲スハ任意組合タルト強制組合タルトハ問ハス。仍強制解除ノ效果ハ任意解除ノ場合ニ同シ。

(裁決例)

一、町村組合ハ本條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス（三一、一一、四裁決）

市制 第百五十四條 第百五十條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第百五十條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

町村制 第百三十四條 第百三十條第一項第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第百三十條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

本條ハ市町村組合又ハ町村一部組合ノ組合市町村又ハ町村ノ數ヲ增減シ、又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスル場合、町村全部組合ノ組合町村ノ數ヲ增減セムトスル場合、及市町村組合又ハ町村組合ヲ解カムトスル場合ニ於ケル財產處分ニ關スル手續ニ付テ規定ス。組合設立ノ場合ニハ財產處分ナク其ノ組合數增減又ハ事務ノ變更ノ場合等ニ於テアルハ組合設立後賦課、組合市町村ヨリノ讓渡等ニ依リ取得シタル財產アルカ爲ナリ。卽チ新ニ組合ニ加入スル市町村ハ組合ノ旣ニ所有セル財產ニ相當シテ幾分ノ出資ヲ爲ササル可ラサルヘク、脫退スル市町村ハ財產ノ幾分ヲ取得セサル可ラサルヘシ、事務ノ變更ノ場合ニ於テモ亦然リ。

任意組合市町村ヲ增減シ又ハ事務ノ變更ヲ爲ス場合

一、市町村組合及町村一部組合

(イ) 關係市町村又ハ町村ノ數ヲ增減シ、又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係市町村（新ニ加ハラムトスル市町村、退カムトスル市町村ヲ含

強制シテ組合市町村ヲ増減シ又ハ事務ノ變更ヲ爲ス場合

ム以下同シ）ノ協議ニ依リ、府縣知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス。此ノ許可ノ申請ハ市制第百五十條第一項町村制第百三十條第一項ノ許可ノ申請ト同時ニ爲サルヘキモノナルニ依リ、財產處分ニ關シ關係市町村又ハ町村ノ協議纏ラサルトキハ勢ヒ前者ノ申請ヲ爲スコトナカランモ、組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトニ付テノミ協議纏リ、財產處分ニ付テ協議纏ラサル場合ヲモ想像シ得ヘキカ故ニ、此ノ如キ場合ニ於テ前者ノ申請ト同時ニ協議纏ラサル事由ヲ詳記セシメ、本條第二項ノ例ニ倣ヒ強制シテ處分ヲ爲スノ途ヲ開キタル方適當ナリシナラントト思考ス。本條ノ解釋トシテハ後者ノ協議纏ラサリシトキハ、前者ノ許可ノ申請モ同時ニ爲シ得ヘカラサルモノト解スヘシ。

（ロ）府縣知事ニ於テ公益上必要ナリト認メ、強制シテ組合市町村又ハ町村ノ數ヲ增減シ、又ハ共同事務ノ變更ヲ爲ス場合ニ於テ財產處分ニ關スル事項ハ、關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムルモノトス。此ノ場合ニ於テハ財產處分ニ關スル事項ハ常ニ市町村若ハ町村數ノ增減又ハ共同事務ノ變更ノ事ト同時ニ一括シテ府縣參事會ノ議決ニ付セラレ、內務大臣ノ許可ヲ申請スヘキニ依リ一方ノミノ不許可アルコトナキモノトス。

任意解除ノ場合

（ハ）任意ニ市町村組合又ハ町村一部組合ヲ解カムトスル場合ニ於テ財產處分ニ關スル事項アルトキハ、組合ヲ組織セル市町村ノ協議ニ依リ、府縣知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス。此ノ場合ニ於テモ亦解除ノミノ協議成リ財產處分ニ關シテ協議纏ラサリシ場合ヲ豫想シテ規定ヲ設ケサリシハ（イ）ノ場合ニ於ケルヨリ或ハ實際ノ不便ヲ感スルコト多カルヘシ。唯組合ニ關スル規定カ元大要ナルニ依リ、此ニ及ハサリシモノナルヘシ。

強制解除ノ場合

（ニ）府縣知事ニ於テ強制シテ市町村組合又ハ町村一部組合ヲ解除シタル場合ニ於テ財產處分ニ關スル事項アルトキハ組合ヲ組織セル市町村會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムルモノトス。亦解除ノ處分ト同時ニ一括シテ爲サルヘキモノトス。

二、町村全部組合

（イ）町村全部組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セムトスル場合ニ於テ財產處分ニ關スル事項アルトキハ、町村數減少ノ問題ト同時ニ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス。此ノ場合ニ於テモ一、ノ(イ)ニ述ヘタルト同樣ニ財產處分ニ關スル事項ノミ議決ナカリシ場合ヲ豫想シテ規定ヲ設クルヲ可トセン。

（ロ）府縣知事ニ於テ公益上必要アリト認メテ強制シテ組合町村ノ數ヲ增減スル場合ニ於テ財產處分ニ關スル事項アルトキハ、其ノ增加ノ場合ニ在ツテハ新ニ加ハラムトスル町村ノ町村會及組合會ノ意見ヲ、其ノ減少ノ場合ニ在ツテハ組合會ノ意見ヲ徵シ、組合町村數ノ增減ノ問題ト同時ニ府

縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムルモノトス。

(ハ)　組合會ノ議決ニ依リ町村全部組合ヲ解カムトスル場合ニ於テ財產處分ニ關スル事項アルトキハ、同時ニ組合會ノ議決ヲ經、組合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス。此ノ場合ニ於テモ一、ノハト同一ナル問題ヲ生スヘシ。

(ニ)　府縣知事ニ於テ强制シテ町村全部組合ヲ解カムトスル場合ニ於テ財產處分ニ關スル事項アルトキハ、同時ニ組合會ノ意見ヲ徵シ、府縣參事會ノ議決ヲ經、內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムルモノトス。

前各項ヲ通シテ「財產ノ處分ニ關スル事項」トハ單ニ動產不動產等積極的ニ存スル財產ノ處分ノミナラス、組合ヲ組織セルニ依リ財產ニ附隨シテ生シタル負債又ハ新ニ組合ニ加入セムトスル市町村ノ財產ニ附隨セル負債ヲ包含ス。蓋財產トハ權利義務ノ總稱タルコト、市町村ノ廢置分合ニ關スル條下ニ於テ述ヘタルカ如シ。

市制　第百五十五條　第百四十九條第一項第百五十三條第一項
町村制　第百三十五條　第百二十九條第一項及第二項第百三十條第一項及第二項第百三十一條第一項及前條第一項……
第二項第百三十三條第一項竝前條第一項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ市町村組合ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得
組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル市町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以內ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

財產ニ關スル事項

訴願ヲ爲シ得ヘキ場合

本條ハ市町村組合又ハ町村組合ノ任意設立、組合町村ノ增減共同事務ノ變更、組合規約ノ設定及變更竝組合ノ訴願權、組合費ノ分配ニ對スル市町村ノ異議ノ申立其ノ他之ニ關シ府縣知事ノ爲シタル處分ニ對スル市町村、市町村組合又ハ町村組合ノ管理者、府縣知事等ノ訴願權又ハ訴訟權ヲ認メタル規定ナリ。

市町村組合又ハ町村組合ノ任意設立(市制第百四十九條第一項町村制第百二十九條第一項及第二項)、組合市町村又ハ町村數ノ任意ノ變更又ハ一部組合ノ共同事務ノ任意ノ變更(市制第百五十條第一項町村制第百三十條第一項及第二項)、組合規約ノ任意ノ設立及變更(市制第百五十一條第一項及町村制第百三十一條第一項)、組合ノ任意解除(市制第百五十三條第一項及町村制第百三十三條第一項)、竝組合規約ノ任意ノ設定及變更ニ伴フ財產處分ニ關スル事項(市制及町村制各前條第一項)、ハ關係市町村若ハ町村ノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ常ニ府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可ラス。府縣知事ハ協議若ハ議決ニ拘ハラス、之ニ不許可ノ指令ヲ與フルコトアルヘク、又ハ請可申請ノ趣旨ニ反セスト認メ更正許

可ヲ爲スコトアルヘシ（市制第百六十八條町村制第百四十八條）、不許可又ハ更正許可ニ對シ不服アル市町村、市町村組合又ハ町村組合ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ヘシ。不服アル市町村ハ勿論、關係市町村ナラサル可ラス。訴願ノ提起ハ處分アリタル日ヨリ二十一日以內ナラサル可ラス（市制第百六十條町村制第百四十條）、裁決ニシテ府縣知事ノ處分ヲ正當ナリト爲シタルトキハ不許可又ハ更正許可ハ茲ニ決定ス。處分ヲ不當又ハ不法ナリト裁決シタルトキハ處分ハ內務大臣ノ裁決ニ依リ效力ヲ失ヒ、內務大臣ノ定ムル所ニ從フコトトナルナリ。

組合費ノ分賦異議ノ申立

組合費ノ分賦ハ組合規約ノ規定スル所ニ係ル。其ノ分賦カ法令其ノ他規約ノ定ムル所ニ違ヒ又ハ錯誤アリト認メタルトキハ、市町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以內ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ。期日ハ告知ノ市町村ニ到達シタル日ヨリ起算ス。全部組合ニ在ツテハ組合費ノ賦課ハ町村費ニ關スル規定ノ適用ヲ受ク。故ニ組合町村ニ分賦スルコトナシ。故ニ本項ノ適用ヲ見ス。

市町村カ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘク、市町村ニシテ若シ此ノ決定ニ不服アルトキハ決定アリタル日ヨリ二十一日以內ニ府縣參事會ニ訴願スルヲ得。組合ノ管理者モ亦組合會ノ決定ニ不服アリタルトキハ、府縣參事會ニ訴願スルヲ得ヘシ。市町村ノ訴願ニ對スル府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ市町村又ハ組合管理者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ。市町村ハ又組合ノ管理者ノ爲シタル訴願ニ對スル府縣參事會ノ裁決ニ對シ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘシ。本條

第四項「前項ノ決定及裁決」ト規定シ、其ノ前項ノ裁決中ニハ「第四項ノ裁決」即本項管理者ノ訴願ニ對スル裁決ヲ包含スルヲ以テ、管理者カ其ノ受ケタル裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴シ得ルコト既ニ屢述ヘタル例ト相同シ。

府縣參事會ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシム。監督ノ實效ヲ擧ケシメントスルカ爲ナリ。

（裁決例）

一　聯合村會カ聯合村費及缺損金ノ分增ヲ議決スルトキハ聯合各村ハ之ヲ負擔セサル可ラス（二九、一二、二八、裁決）

二　組合規約ニ依リ費用分擔ノ義務アル町村ニ對シ組合長カ徵稅令書ヲ發シタルハ不當ニ非ス（二九、四、一三、裁決）

市制第百五十六條　町村制第百三十六條　市町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村ニ關スル規定ヲ準用ス。

本條ハ原則トシテ市町村組合ニ關シテハ市、町村組合ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定ム。故ニ全部組合ニ在ツテハ組合會ノ組織、議員ノ選擧、吏員ノ組織及選任費用ノ支辨方法等皆町村ニ關スル規定準用セラルヘク、組合費ノ徵收ハ市町村稅ノ徵收方法ニ依ルヘク、組合ニ對スル監督モ亦市町村ニ關スル監督規定ノ準用アルモノトス。市町村組合參事會モ亦市參事會ニ關スル規定ノ

準用ヲ以テ設クルコトヲ得ト爲スヲ理論トス。然レトモ當局者ハ市參事會ニ關スル規定ハ市町村組合ニ準用ナシトセルモノノ如シ。

市制第九章 町村制第八章 市町村ノ監督

國家ハ自己ノ圓滿ナル發達ヲ企圖セムカ爲、國家ノ內部ニ他ノ團體ト共ニ市町村團體ノ法律上ノ人格ヲ認メ、之ニ一定ノ範圍內ニ於ケル權利能力ヲ付與シ、以テ公ノ行政ヲ行フコトヲ承認ス。從ツテ此ノ範圍內ニ於ケル市町村ノ活動ハ國家ノ活動ニ非スシテ自治體タル市町村自體ノ獨立ノ意思ニ依ル活動ナリト雖、國家ノ爲ニ必要ナル活動タルヲ失ハス。故ニ若シ市町村ノ活動ニシテ其ノ付與セラレタル權利能力ノ以外ニ脫出シ、又ハ國家自體ノ發達ヲ阻害シ、其ノ統一ヲ傷害スルカ如キモノアランニハ遂ニ國家カ市町村團體ヲ承認シタル所以ヲ沒却スヘシ。國家ノ市町村團體ニ對スル監督權ノ必要茲ニ於テカ生ス。

國家ノ監督權ノ必要

監督權ノ範圍

市町村ニ對スル國家ノ監督權トハ市町村ノ事務ノ執行ニ關シ國家ノ有スル權力ヲ謂フ。然レトモ此ノ監督權モ亦絕對無制限ナル可ラス。蓋市町村モ亦獨立ノ意思ヲ有スル人格者ナルカ故ニ無制限ナル監督權ノ行使ハ市町村ノ人格ヲ破壞シ、其ノ團體人格ヲ認メタル趣旨ヲ沒却スヘケレハナリ。故ニ監督權行使ノ範圍ハ法規ヲ以テ確然之ヲ限定スルヲ必要トスヘク、法ノ規定ニ基キテノミ監督權ハ存在ス、即チ本章ノ規定アル所以ナリ。

私法人ニ對スル監督權トノ範圍同シカラス

國有事務執行ニ對スル國家ノ監督權

市町村ニ對スル國家ノ監督權ハ私法人ニ對スル國家ノ監督權ト其ノ範圍ヲ同ウセスシテ前者ハ後者ヨリ其ノ行使ノ範圍廣大ナリ。蓋私法人ノ事務ノ執行カ法規ニ違反セサルヤ否ヤ、公共ノ利益ヲ害セサルヤ否ヤ等、專ラ消極的ニ之ヲ監督スルヲ以テ足レリト雖、市町村ノ事務ノ執行ハ直接國家全體ノ利害ニ關係スルコト多ク、從ツテ單ニ法規ノ違反及公益ノ侵害ニ關スル監督ノミナラス、進ンテ積極的ニ團體人格ヲ承認セル理由ニ基キ之ヲ保護シ、其ノ事務ノ進捗發達ニ關シテ監督ヲ怠ル可ラス。

市町村ニ對スル國家ノ監督權ハ其ノ固有事務ニ對スルト同シク其ノ委任事務ニ付テモ亦行使セラレサル可ラス。然レトモ市町村自己ノ事務ナルニ反シ、其ノ委任事務ハ國家ノ事務ニシテ其ノ事務執行ノ關係ニ於テハ市町村ハ國家ノ機關ナリ。故ニ委任事務ノ執行ニ對スル國家ノ監督ハ國家上級機關ノ下級機關ニ對スル監督權ノ作用ナルモ、固有事務ノ執行ニ對スル國家ノ監督ハ獨立ノ人格者ニ對スル自由ノ制限ナリ。從ツテ後者ノ監督權ハ前者ノ監督權ヨリモ行使ノ範圍明確ナラシメサル可ラスシテ唯其ノ範圍ニ於テノミ行使スルヲ得ルノミナリ。

市町村ニ對スル監督權ハ常ニ國家ノ監督權ヲ行使スヘキモノハ或ハ官廳（府縣知事又ハ郡長）ナルコトアリ、或ハ上級自治體ノ機關（府縣參事會）ナルコトアリ。上級自治體ノ機

關ヲシテ下級自治體ヲ監督セシムルハ、下級自治體ノ發達ハ直接上級自治體ニ關係ヲ有スルモノナルト同時ニ、國家ノ官廳ノミヲシテ監督權ヲ行使セシムルコト人民ヲシテ政府壓迫ノ感ナカラシメントスルニ出ツ。然レトモ上級自治體ノ機關カ監督權ヲ行使スル場合ト雖、常ニ國家ノ監督權ノ行使ナリ此ノ場合ニ於ケル上級自治體ノ機關ハ國家ノ機關ナリ、換言スレハ國家ノ監督權ハ此ノ場合ニ於テ自治體ノ機關ニ委任セラレタルナリ。

監督權ノ作用

市町村ニ對スル國家監督權ノ作用ハ之ヲ三種ニ別ツ。(一)市町村ノ實況ヲ知ルカ爲ニ爲ス監督作用(二)市町村自治行政ノ實行ヲ强制スル監督作用(三)市町村自治行政ノ弊害ヲ防止スル監督作用之レナリ。第一ノ目的ノ爲ニハ國家ハ或ハ官吏ヲ派シテ市町村ヲ視察セシメ、或ハ報告ヲ徵シテ實況ヲ調査ス。第二ノ目的ノ爲ニハ或ハ市町村ノ行爲ニ對スル許可權ヲ留保シ、或ハ市町村自治體ノ法規ノ發案權ヲ留保シ、或ハ國家自ラ市町村自治體ノ意思ヲ作成ス。第三ノ目的ノ爲ニハ或ハ一定ノ行爲若ハ不行爲ヲ命シ、或ハ爲スヘキ行爲ヲ强制シ、或ハ市町村ノ機關ヲ解散シ、若ハ懲戒ヲ行フ。之カ詳細ナル說明ハ以下各條ニ於テ爲スヘシ。

舊法ト異ナル點

監督ニ關スル本法ノ規定モ亦舊法ニ比シテ著シク改正セラレタリ。或點ニ於テハ監督權行使ノ範圍ヲ縮少シ（例ヘハ監督官廳ノ許可ヲ要スル事ヲ中輕易ナルモノニ付許可ヲ受ケサルコトヲ得セシメタルカ如キ）、自由活動ノ範圍ヲ擴張シ、（例ヘハ訴願又ハ訴訟ヲ提起シ得ル期間ノ延長ノ如キ）、或點ニ於テハ監督權ノ行使ヲ嚴ニシ（例ヘハ起債ニ對スル監督ノ如キ、懲戒解職ヲ受ケタル者、事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對スル制裁ノ如キ）、或點ニ於テハ從來規定ノ不備ヲ補足ス（例ヘハ代執行ノ如キ、吏員故障アルトキ臨時代理者ノ選任若ハ官吏派遣ノ如キ）、又之レヲ各條ニ於テ說カン。

市ニ於ヲ第一次監督官廳カ府縣知事ナル理由

市　制　第百五十七條　市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス。

町村ニ於テ第一次監督官廳カ郡長ナル理由

町村制　第百三十七條　町村ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

本條ハ市又ハ町村ニ對スル國家ノ監督權ヲ行使スヘキ官廳及其ノ順位ヲ規定ス。監督權ヲ行使スヘキ官廳ヲ稱シテ監督官廳ト謂フ。町村ニ對スル第一次ノ監督官廳ハ郡長、第二次ノ監督官廳ハ府縣知事、第三次ノ監督官廳ハ內務大臣ナルモ市ニ對スル第一次ノ監督官廳ハ府縣知事ニシテ第二次ノ監督官廳ハ內務大臣ナリ。市ニ對シ第一次ノ監督官廳トシテ郡長ヲ規定セサルハ、市ハ郡ノ區域內ニ屬セサル自治團體ニシテ、市ノ行政ノ如何ハ郡自治體ニ對シ直接影響スル所ナク、從ツテ官廳トシテ郡自治體ノ代表者タル郡長ニ監督セシムル理由毫モ存セサルカ故ナク。町村ノ第一次監督官廳ヲ郡長トシタルハ、各其ノ地域カ郡自治體又ハ府縣自治體ノ區域ニ包含セラレ、其ノ行政ノ如何カ直接郡又ハ府縣自治體ノ行政ニ影響スルモノナルト同時ニ、官治行政タル郡行政又ハ府縣行政トノ調和統一ヲ保持スルノ必要アルニ由ル。其ノ最高監督官廳ヲ總ヲ內務大臣トシ爲

箇々ノ事務ニ對スル監督

固有事務タルト委任事務タルトハ問ハス

シタルハ國家一般ノ官治行政ト自治行政トノ調和ヲ保持スルノ必要ニ出テタルコト言ヲ俟タス。

市又ハ町村ニ對スル一般監督官廳及其ノ順位ハ上ニ述ヘタルカ如シ。然レトモ市又ハ町村ノ箇々ノ事務ニ對スル監督作用カ常ニ此ノ順位ニ從ツテ又ハ此等ノ官廳ノミニ依リテ行ハルルモノナリトノ誤解ナカランヲ要ス。法ハ市町村ノ事務ニシテ事態重キモノニアリテハ直接内務大臣ノ監督ノ下ニ立タシメ或ハ町村ノ事務ト雖直接府縣知事ノ監督ノ下ニ立タシム。法ハ又官廳以外ニ於テ上級自治團體ノ機關タル府縣參事會或ハ前記以外ノ官廳（各省大臣以下各省ノ系統ニ屬セル官廳）ノ監督ノ下ニ立タシム。本條規定スル監督官廳及其ノ順位ハ市又ハ町村ヲ一般的ニ監督スル官廳及之ニ必要ナル順位ナルコトヲ知ルヲ要ス。箇々ノ事務カ他ノ官廳又ハ自治體ノ機關ニ監督セシメラルト雖、一般監督官廳ハ依然總括シテ市町村監督ノ地位ニ立テルモノトス。

市町村ニ對スル監督ハ固有事務ニ付テハ勿論、委任事務ニ付テモ特ニ法規カ他ノ官廳等ノ監督權ヲ規定セサル限リ、本條記載ノ監督官廳ニ屬ス。其ノ機關ニ對スル一般的監督ニ付テモ亦然リ。

市制　第百五十八條　本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル市ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村制　第百三十八條　本法中前段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ノ監督ニ關スル郡長ノ處分ニ不服アル町村ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

訴願權ヲ認ムル理由

本條ハ國家ノ監督權行使ニ對スル市町村ノ救濟手段ニ關スル一般的規定ナリ。市町村ニ對スル府縣知事又ハ郡長ノ處分ハ法規ノ命スル處ニ從ヒ、又ハ法規ノ許ス範圍内ニ於テ其ノ自由裁量ヲ以テ行ハルヘキモノナリト雖、或ハ法規ノ誤解ニ基キ、或ハ穩當ナラサル裁量ニ基キ、不法又ハ不當ナル處分ヲ爲スコトナキニ非サルヘシ。此ノ如キ場合ニ於テ市町村ヲシテ何等救濟手段ヲ講スル能ハサラシムルハ、市町村ノ人格ヲ認メ自ラ行政セシムル所以ト合致セス。故ニ本法ハ各條ニ於テ救濟手段トシテ或ハ訴願或ハ訴訟ヲ爲スヲ得セシム。本條ハ各條ニ於テ別段ニ規定ヲ設ケ府縣知事又ハ郡長ノ處分ニ對スル救濟手段ヲ採ルヲ得セシメタルモノヲ除キ各條ニ於テハ唯府縣知事又ハ郡長ノ處分權ヲ認メタルニ止マル規定ニ對シ適用アラシム。

處分ノ範圍

町村ハ府縣知事ノ處分ニ對シ訴願ヲ得ス

府縣知事又ハ郡長ノ市又ハ町村ニ對スル監督ニ關スル處分ハ或ハ各町村ノ事務ニ關スル命令ナルコトアルヘク、或ハ其ノ行爲ニ對スル許可ナルコトアルヘシ。市町村ハ其ノ何レノ場合タルヲ問ハス、市ニ在ツテハ内務大臣ニ訴願スルヲ得ヘク、町村ニ在ツテハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得ヘシ。府縣知事ノ處分ニ對シテハ町村ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス。之レ町村ニ對スル監督官廳ノ處分ヲナスモノハ多クハ郡長ナルト同時ニ一般的ニ訴願ヲ爲スヲ許ス範圍ヲ第二次監督官廳ノ處分ニマテ及ホスコトノ必要ノ程度ヲ越ユト思考シタルニ依ルナルヘシ。然レトモ府縣知事カ同一事件ニ付市町村ニ對シ同時ニ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ

爲スカ如キコトモ想像シ得ヘク、從テ此ノ場合ニ於テ一方ハ此ノ處分ニ對シ訴願ヲ爲シ得ルニ拘ラス、他方ハ訴願スルコトヲ得サレハ均衡ヲ失スルカ如シ。

訴願ノ性質

訴願ハ行政廳ニ對シテ違法又ハ不當ナリト認ムル行政處分ノ再審査ヲ請求スル手續ニシテ、其ノ官廳ヲシテ再審査ヲ爲シ、之ニ對スル方法ヲ爲サシムヘク法律上ノ拘束力ヲ有スルモノヲ謂フ。訴願ヲ爲スニ當リ理由タル違法又ハ不當ノ認定ハ市町村ニ於テ之ヲ爲ス。而シテ本法中訴願ノ手續ニ關シ規定ナキトキハ總テ訴願法（訴願法第十七條）ニ據ルモノトス。

別段ノ規定

本條訴願ノ主體ハ市町村ナリ。故ニ市町村ノ機關例ヘハ市町村會市町村長ノ如キハ自ラ機關トシテ訴願ヲ爲スコトヲ得ス。但シ各條中特ニ機關ニ訴願權ヲ認メタル場合ハ別段ナルコト勿論ナリ。

訴願法行政裁判法本法等トノ關係

「別段ノ規定」トハ市制第七十五條町村制第六十七條ノ如キ規定ヲ謂フ。仍府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ヘキモノトス。（市制第百五十九條町村制第百三十九條）

訴願法、行政裁判法及明治二十三年法律第百六號ハ本法トノ關係ニ付テハ攻究ノ必要ナシトセス。此等ノ法規ハ訴願又ハ訴訟ニ關スル一般法ニシテ本法ハ同法ヲ所謂「法律勅令ニ別段ノ規程」ニ該當スル特別法ナリ。故ニ一般法ニ於テ訴願又ハ訴訟ヲ許容セル事件ニ付テモ、本法カ特ニ事件ヲ限局シテ之ヲ許容セル場合（例ヘハ市制第百三十條町村制第百十條）ニ於テハ訴願又ハ訴訟ハ其ノ範圍ニ於テノミ爲スヲ得ヘク、一般法ノ適用ナキモノトス。然トモ本法中何等規定セサルトキ、又ハ訴訟ノ一方ヲ許容シ其ノ事件カ一般法記載ノ事項ニ該當セルトキハ行政裁判法第十七條第三項、及次條ノ規定以外ニ於テハ、訴願又ハ訴訟ノ何レヲ選フカノ選擇ノ自由ヲ有スヘク一般法ハ其ノ適用アリ。仍手續等ニ付テモ別ニ本法ニ特別ノ規程ナキ限リ一般法ノ適用アルモノトス。

（判例）

一　町村ノ行政事項ニ關スル訴願ニ府縣知事ノ裁決ニ不服アルトキハ町村制ニ出訴ヲ許ス明文アルモノヲ除ク外本條（舊市制第百十六條町村制第百二十條）第一項ニ依リ內務大臣ニ訴願ス可シ（二四、七、一〇、行判）

市制第百五十九條　町村制第百三十九條　本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

本條ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得サル場合ヲ規定ス。蓋我國法上行政處分ノ救濟手段ハ最後ニ於テ、行政訴訟ト各省大臣ニ對スル訴願トニ分ル、故ニ行政廳ノ處分ニ不服アリテ上級行政廳ニ訴願シタリトシテ行政訴訟ヲ提起スヘキヤハ、當該者ノ任意ニ係リ、地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ各省大臣中權限アルモノニ訴願スヘキヤ、將又直ニ行政訴訟ヲ提起スヘキヤモ亦當該者ノ任意ニ係ル。略

訴願ヲ許サヽル理由

言スレハ各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ、行政訴訟ヲ爲シ得サル以外ニ於テハ一定ノ事項ニ付テハ訴願ヲ爲シ又ハ訴訟ヲ爲スノ選擇ノ自由ヲ有スルモノトス（行政裁判法第十七條、明治二十三年法律第百六號及訴願法）。更ニ又本法各條中市町村ノ監督ニ關スル事項ニ付訴訟ヲ許容セル場合ニ於テハ、市町村ノ權限ヲ以テ前條ニ依リ訴願ノ途ヲ採ルコトヲ得ルノ結果ヲ生ス。故ニ本法中何等規定スル所ナケレハ、訴願ノ裁決ニ不服アルトキ訴訟ノ提起ヲ許セル場合ニ於テハ、其ノ事項訴願法第一條列記ノ事件又ハ前條ニ該當スルニ依リ自由ノ選擇ヲ以テ内務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得ヘシ。然レトモ本法中行政裁判所ニ出訴シ得ルコトヲ許容セル事件ハ多クハ法規ノ違反又ハ市町村若ハ個人ノ權利ノ消長ニ關スルヲ以テ、別ニ内務大臣ニ訴願スルヲ得ルノ途ヲ開クノ必要ナク、却ツテ利益ナシ。即本條ニ於テ本法中訴願ノ裁決ニ不服アルトキ訴訟ノ提起ヲ許容シタル規定アル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルヲ得サラシメタル所以ナリ。故ニ例ヘハ租税及手數料ノ賦課ニ關スル件又ハ租税滯納處分ニ關スル件ノ如キハ、訴願法上内務大臣ニモ訴願ヲ爲シ得ヘシト雖、市町村税賦課ノ違法若ハ錯誤、手數料ノ賦課、又ハ市町村税ノ滯納處分ニ關シテハ本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシメタルニ依リ内務大臣ニ訴願ヲ爲シ得サルモノトス。（市制第百三十條、第百三十一條、町村制第百十條、第百十一條）

市制　第百六十條
町村制　第百一十條

異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

異議ノ申立ト訴願ノ提起

本條ハ異議ノ申立訴願若ハ訴訟ノ提起ノ期間、異議ノ申立期間ノ計算方法、異議ノ決定ノ方式及異議ノ申立ト處分ノ執行トノ關係ニ付テ規定ス。

異議ノ申立ハ訴願ノ提起ト異ナリ。訴願ハ行政廳ノ處分ニ對シ其ノ上級行政廳ノ再審査ヲ要求スル手續ナルニ反シ、異議ノ申立ハ處分ヲ爲シタル行政廳ニ對シ其ノ再考ヲ求メ、之ニ對スル決定ヲ爲サシムヘキ法律上ノ拘束力アルモノヲ謂フ。其ノ行政上ノ救濟手段タルコトニ於テハ一ナリト雖、一ハ上級行政廳ノ行爲ヲ要求シ、他ハ處分行政處ノ反省ヲ促スノ點ニ於テ異ナリ。從ツテ前者ハ下級行政廳ノ行爲ニ對スル上級行政廳ノ監督ヲ促ス原由トナルモ、後者ニ在ツテハ單ニ處分ノ匡正ヲ求ムルニ過キス。然レトモ此等ノ點ヲ外ニシテハ異議ノ申立ハ訴願ノ提起ト其ノ實質上何等異ナル所ナシ。故

ニ訴願法ニ於テモ處分官廳ニ對スル異議ノ申立ヲモ訴願ト云ヒ、假法ニ於テモ亦總テ訴願ナル文字ノ下ニ之ヲ包含セシメタリ（訴願法第三條、府市制第二十八條、町村制第二十九條）。本法ハ嚴然兩者ヲ區別ス（市制第二十一條第二項、第三十六條第二項、第三十三條第一項及第三項等）。

異議ノ申立及訴願提起ノ期間

異議ノ申立ヲ爲スヲ得ル者ハ各條ニ於テ之ヲ定ム。申立ハ處分アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲ササル可ラス。蓋「アリタル日」ニ付テハ之ヲ對話者間ト隔地者間トニ分チテ說クヲ要ス。對話者ニ對シテハ「アリタル日」ハ處分ヲ爲シタル日ナルコト勿論ナリ。隔地者ニ對シテハ其ノ書類ノ到達シタル日即處分ノ成立ノ日ナリトス。或ハ隔地者ニ對シテモ處分ヲ爲シタル日ト說ク者アレトモ誤ナリ。何トナレハ行政處分ハ常ニ本人ニ到達スルニ依リテ效力ヲ生スヘク、效力ヲ生セサル以前ニ遡リテ期間ヲ計算ノ基礎ニ置カムトスルハ甚シキ不當ナレハナリ。

訴願ヲ提起シ又ハ異議ノ申立ヲ爲スヘキ期間ハ、處分決定又ハ裁決アリタル日ノ翌日ヨリ起算シテ二十一日以内トス。訴願法ハ「處分ヲ受ケタル後六十日」「裁決ヲ受ケタル後三十日」ノ期間ヲ許容スト雖、此ノ如ク長期間事件ノ確定ヲ未定ニ置クコトハ、自治行政ノ運用上不得策ナルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ短縮セルナリ。休日祭日ノ如キハ之ヲ控除スヘキ限ニ非ス、唯其ノ前後日カ此等ニ該當スルトキニ限リ之ヲ控除スヘシ。「二十一日以内ニ之ヲ爲ス」トハ異議ノ申立ヲ爲スヘキ行政廳又ハ訴願書ノ經由スヘキ行政廳ニ文書又ハ口頭申立ノ二十一日以内ニ到達又ハ申出アルコトヲ必要トスルノ謂ナリ。訴願ニ在リテハ訴願者ハ必スシモ期限内ニ裁決ヲ爲スヘキ行政廳ニ到達スルヲ要セス。訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘキモノトス。（訴願法第九條第二項）異議ノ申立ハ證明ノ目的ノ爲ニ文書ヲ以テスルヲ普通トスルモ必要ナル要件ニハ非ラス。異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ハ訴願法ノ規定ニ依ルモノナルカ故ニ、訴願ト同シク文書ヲ以テスルトキハ郵便ヲ以テ差出スコトヲ得ヘク、郵便遞送ノ日數ハ之ヲ異議ノ申立期間内ニ算入セサルモノトス（訴願法第十條第二項）。仍訴願ニ在リテハ經由ス可キ行政廳ヲ經由セサル爲、却下セラレタル訴願ハ最初處分決定又ハ裁決ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ、二十一日以内ニ再ヒ提起スルヲ得ルモノトス。

異議ノ申立期間ノ計算

異議ノ申立又ハ訴願提起ノ期間ハ以上述ヘタル如シト雖、本法中別ニ期間ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ期限ニ依ルモノトス。故ニ「縱覽期間内」（市制第二十一條第三項、町村制第十八條第三項）、「七日以内」（市制第三十六條第二項、町村制第三十三條第一項）、「三月以内」（市制第百三十條第一項、町村制第百十條第一項）ノ規定アルトキハ此ノ期間ニ從フ。

宥恕スヘキ事由アルトキ

訴願ノ提起及異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得ルモノトス（本條第四項訴願法第八條第三項）。而シテ何ヲ以テ「宥恕スヘキ事由」トスルカハ一ニ行政廳ノ認定ニ係ルト雖天災地變等等不慮ノ災害ヲ意味スルモノナリ。

裁決又ハ決定ハ文書ヲ以テス

訴願ノ裁決及異議ノ決定ハ共ニ文書ヲ以テ之ヲ爲シ、其ノ理由ヲ付スヘク、訴願ニ在リテハ其ノ處

分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘク、異議ノ申立ニ在リテハ之ヲ申立人ニ交付スルモノトス。

處分ノ執行ハ停止セス

訴願ノ提起又ハ異議ノ申立アルモ、處分ノ執行ハ原則トシテ之ヲ停止セサルモノトス。然レトモ其ノ提議又ハ申立カ理由アリト認メラルヘキ場合。處分ノ取消サルヘキ虞アル場合ニ於テ、其ノ執行カ原狀回復ニ不便ナルカ如キ場合ニ於テ、行政廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ、其ノ職權ニ依リ又ハ處分ニ利害關係ヲ有スル者（異議ノ申立ノ場合）、若ハ訴願人（訴願ノ場合）ノ請求ニ依リ處分ノ執行ヲ停止スルヲ得ルモノトス。舊法ハ訴願又ハ訴訟ヲ提出スルトキハ原則トシテ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スヘキモノト爲セリ。（舊市制第百十六條末項、町村制第百二十條末項）。新法カ訴願法ノ規定ト同シク原則トシテ其ノ執行ヲ停止セサルハ停止カ行政ノ敏活ナル作用ヲ阻害スルカ故ナリ。訴願法ハ「法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外」ト規定スルカ故ニ別段ノ規定アルトキハ處分ノ執行ヲ停止スルコト勿論ナリ。例ヘハ滯納處分ニ付テハ差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定（異議ノ申立、訴願若ハ訴訟期間ノ經過決定裁決ノ確定若ハ判決アリタルコト）ニ至ルマテ執行ヲ停止スルカ如シ（市制第百三十一條末項、町村制第百十一條末項）。

訴訟提起ノ期間

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定、又ハ裁決アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ、三十日以内ニ之ヲ爲ササルヘカラス。行政裁判法ハ法律勅令ヲ以テ異リタル期間ヲ定メタル場合ノ外、原則トシテ行政廳ニ於テ處分書若ハ裁決書ヲ交付シ、又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘキ旨ヲ規定スト雖、（行政裁判法第二十二條）本法ハ又長期間事件ヲ未確定ニ放抛シ置クノ行政上不得策ナルヲ以テ之ヲ短縮シテ規定セリ。訴訟手續等ハ總テ行政裁判法ノ規定ニ依ル。故ニ訴訟提起ノ日限、其ノ他行政裁判法ニ依リ裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝災害事變ノ爲遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規定ノ適用アルモノトス。

（判　例）

一　市制町村制ノ規定ニ基ク行政訴訟ハ本條（舊市制第百十六條、町村制第百二十條）ノ期限内ニ提起スルヲ要ス（三二、一、二〇、行判）

二　期限ノ計算方ヲ不服トスル訴願ノ棄却ニ對シ出訴ヲ許ス場合ナシ（二三、一〇、二八、行判）

三　行政訴訟提起ノ期限ハ里程ニ對スル伸長日數ヲ加算ス（二三、一〇、二八、行判）（明治十年第十九號布告第四條第五條及第十五條參照）

市制第百六十一條
町村制第百四十一條　監督官廳ハ市町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徵シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ市町村ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳市町村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

本條ハ市町村ニ對スル國家ノ監督權ノ作用中其ノ實況ヲ知ラシムカ爲行フ監督作用、概括的監督命令

實況知悉ノ爲ニスル監督作用

及處分竝ニ下級官廳ノ監督ニ對スル上級官廳ノ監督ニ付テ規定ス。

市町村ノ行政ヲシテ國家ノ一般行政ト調和統一ヲ保持シ圓滿ナル發達ヲ爲サシメンカ爲適切ニ監督權ヲ行使セシニハ、必スヤ常ニ監督機關ニ於テ市町村ノ實況ヲ知悉シ居ラサル可ラス。本條第一項ハ之カ爲メニ凡ソ四種ノ監督ニ必要ナル作用ヲ規定ス。

一、事務ノ報告ヲ爲サシムルコト、事務ノ報告ヲ爲サシムルコトハ多數ノ市町村ヲ監督シ實況ヲ知悉スル上ニ於テ最モ必要ノ事ニ屬ス。本法ハ市町村會議員ノ當選ノ場合竝歲入出豫算及決算ニ關シテハ、郡長又ハ府縣知事ニ報告スヘキコトヲ規定スト雖(市制第三十四條、第百三十七條、第百四十二條、町村制第三十一條、第百十七條、第百二十二條)此ノ以外ニ於テ事件ノ發生前又ハ後ニ於テ必要ナル報告ヲ爲サシムル必要アリ、然レトモ其ノ監督上必要ナル範圍ナラサル可ラス。何ヲ以テ監督上必要ナル範圍ナリトスルカハ監督官廳ノ認定ニ係ルト雖市町村ノ事務錯亂澁滯セサルヤ否ヤ、其ノ執行カ法規ニ違反セサルヤ、公益ヲ害スルノ虞ナキヤ否ヤ等ニ關スルトキハ報告ヲ徵シ得ルコト勿論ナリ。而シテ報告ハ其ノ固有事務タルト委任事務タルトヲ問ハス、將又箇々ノ事務ノ執行ノ前後ニ於テ徵スルト概括的規定例ヘハ村役場會計規程及諸帳簿樣式ニ係ル訓令ヲ發シテ報告セシムルヲ問ハス。明治二十五年五月九日內務省訓令第三百五十號ハ市町村事務報告例概則ヲ定メ、之ニ基キテ府縣ヲシテ概括的規定ヲ設クルノ便ニ資ス。事務ノ重要程度ニ應シ即報、月報、半年報、年報等ノ區別ヲ設クルノ必要モ亦之レアルヘシ。

命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スノ幡

二、書類帳簿ヲ徵スルコト、書類帳簿ノ整理法規ニ違反セサルヤ、其ノ記入ニ付懈怠ノ痕ナキヤニ付テハ特ニ之ヲ徵シ、調査ヲ爲ス必要アル場合アリ。監督官廳タル自然人ニシテ單ニ自己ノ利益ノ爲ニ書類帳簿ヲ徵スルカ如キハ勿論違法ナリ。

以上二箇ノ監督作用ハ包括的監督ノ規定(市制第百五十七條町村制第百三十七條)ノミニ依リテ當然爲シ得ヘキ所ナリヤ否ヤハ議論ノ存スル所ナリト雖、本法ハ特ニ規定スルノ穩當ナルヲ認メ、此ノ種ノ事項ヲ列記セルナリ。

三、實地ニ就キ事務視察ヲ爲スコト、監督官廳カ居ナカラニシテ單ニ報告書類帳簿ヲ檢閱スルノミヲ以テハヨク市町村ノ實況ヲ知悉シ得ヘキ所以ニ非ス。當該市町村ニ臨ミ事務ヲ視察スルハ、監督權當然ノ作用トシテ爲シ得ヘキ所ナレトモ、特ニ注意的規定トシテ之ヲ揭ク。事務ノ視察ハ事務執行ノ狀況、書類帳簿ノ檢閱、吏員ニ對スル尋問等ヲ包含ス。明治二十五年五月內務省訓令第三百四十九號ハ市町村巡視規程概則ヲ定メ府縣ヲシテ依ル所ヲ知ラシム。

四、出納ヲ檢閱スルコト、收支計算ノ正確ナルト否トハ市町村ノ發達ニ多大ノ影響アリ。官吏ヲ派遣シ、出納ノ檢閱ヲ爲スハ又事務視察ノ一ニ位スト雖、特ニ之ヲ規定セルヲ見ルモ其ノ重要ナルモノヲ知ルヲ得ヘシ。

本條第二項ハ第一項ト同條ニ規定スルト雖其ノ重要ノ權限付與タルコトニ於テハ殆ト同日ノ談ニ非サルサリ。蓋市町村モ亦前ニ述ヘタルカ如ク一個ノ人格者トシテ獨立ノ意思ヲ以テ其ノ事務ヲ遂行

ス。國家ノ之ニ對スル煩多ナル干渉ハ其ノ人格ヲ認メタル所以ト合致セス。若シ監督官廳ニシテ監督上必要ナリト稱シ、命令又ハ處分ヲ濫發スルコトアランカ、市町村ノ自治行政ハ官治行政ト何等選フ所ナキニ終リ、地方特種ノ事情ニ適應スル行政ハ得難カルヘシ。然トモ市町村カ其ノ自治權ノ認メラルル所以ノモノモ、國家カ其ノ國家トシテノ發達ヲ期スル上ニ便宜ナリト爲タル結果ニ外ナラサレハ其ノ活動ヲ監督スルニ於テ必要ナルトキハ之ニ對シ適當ノ命令ヲ發シ得サルヘカラス、之レ本條ノ規定アル所以ナリ。唯夫レ監督官廳カ市町村ノ監督ヲ爲スハ法令ノ範圍内ニ於テ爲スモノナルカ故ニ其ノ命令ノ法律勅令ニ違反シ得ヘカラサルハ勿論自治行政ノ趣旨ニ鑑ミ、深ク意ヲ用フヘキ所トス。

命令處分ノ停止及取消

下級監督官廳ノ市町村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ハ違法又ハ不穩當ナルコトアルヘシ、否第二項ノ如キ廣汎ナル命令處分ノ規定アル場合ニ於テハ其ハ稀有ニ非サルヘシ。此ノ如キ場合ニ於テハ上級監督官廳ハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ、又ハ取消スコトヲ得ヘシ。停止ハ停止以後ノ事件ニ就テハ命令又ハ處分ナキ以前ノ現狀ニ回復セシメ、取消ハ始メヨリ命令又ハ處分ナキト同一ノ結果ヲ生セシム。本條第三項ハ單ニ第二項ノ命令處分ニ關シテノミ規定セルニ非スト知ルヘシ。仍本項ハ直接ニハ自治行政ニ對スル監督ニ非スシテ、官治行政ニ對スル監督ナルコト說明ヲ要セサルヘシ。

（判例）

一　郡長カ村長ニ對シテ發シタル訓示ハ監督權上ノ命令ナリ（二六、三、二八、行判）

二　監督廳ノ訓令ニ下級行政廳ニ對スル命令ナリ監督權ノ行使ハ事前ニ行フト事後ニ行フトヲ問ハス（二六、五、二七、行判）

市制町村制第百六十二條　市制町村制第百四十二條　内務大臣ハ市町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得　市町村會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

解散ノ意義

解散ノ理由時期及形式

本條ハ市町村會ノ解散ニ付規定ス。蓋解散トハ市町村會ヲシテ其ノ成立ヲ失ハシムル處分ノ謂ニシテ、市町村自治行政ノ實行ヲ彈制スル監督作用ノ一ナリ。市町村會解散ノ結果ハ市町村會議員ヲシテ任期滿了以前ニ於テ其ノ資格ヲ消滅セシム。資格ノ消滅ハ解散ノ效果ニシテ其レ自體解散ニ非ス。

内務大臣ハ市町村會ノ解散ヲ命スルヲ得。如何ナル場合ニ於テ之ヲ命スルヲ得ヘキヤハ法ニ規定ナシト雖、其ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ、法令若ハ會議規則ニ違反シ、又ハ議決公益ヲ害シ、若ハ市町村ノ收支ニ關シ不適當ト認メ之ヲ再議ニ付シタルニ拘ハラス、尚前議決ヲ改メサルカ如キ、到底市町村會ノ反省ヲ求ムルコト能ハサルカ如キ場合ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス。解散ノ時期ニ付テモ亦規定ナシ。故ニ現ニ開會中ニ於テ之ヲ爲スト、閉會中ニ於テ之ヲ爲ストヲ問ハス。或ハ閉會中ニ之ヲ爲スヲ得トスルハ、上述シタル解散ノ意義ト矛盾セルカ如ク感スル者アランモ然ラス。市町村會ハ帝國議會ト異ナリ議員選擧ノ終了ニ依リ當然帝國議會ノ如ク一堂ニ會スルヲ必要トセス。然トモ閉會ノ場合ニ於テハ議員各所ニ散在セルヲ以テ解散ノ處分ハ之ヲ各自ニ通知スルヲ必要トス。此ノ通知ハ

各議員ノ資格ノ消滅ノ通知ニ非ス、市町村會ノ成立ヲ失ハシメタルコトノ通知ナリ。此ノ結果ハ各議員資格ノ消滅ナリトス。解散ノ形式モ亦規定ナシ。故ニ文書ヲ以テスルト電報ヲ以テスルトヲ問ハス。

解散後ノ選擧

市町村會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選擧セサル可ラス。解散ノ日ノ翌日ヲ計算ノ起點トスヘシ。此ノ選擧モ亦總選擧トシテ總テ第二章第一款ノ規定ニ從フテ行ハル。選擧セラレタル議員ノ任期ハ總選擧ノ第一日ヨリ起算シ、四年ナルコト言ヲ俟タス。

解散後成立ノ間ノ事件ノ處置

解散後新市町村會未タ成立セサル間ニ在ツテハ、市町村長ハ市制第九十一條及第九十二條町村制第七十五條及第七十六條ノ規定ニ從ヒ事件ヲ處置スルモノトス。

議案不繼續ノ原則

解散前後ノ市町村會ハ其ノ間議案不繼續ノ原則ノ適用アルモノトス。故ニ前ノ市町村會ニ於テ第一第二讀會ヲ議了シタルモノト雖、後ノ市町村會ニ於テハ同一事件ニ付更ニ第一讀會ヨリ議事ヲ開カサル可ラス。

市制第百六十三條
町村制第百四十三條　市町村ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得　市町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市町村ノ負擔トス

強制豫算ノ意義

前二項ノ處分ニ不服アル市町村又ハ市長又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ハ所謂強制豫算代執行及之ニ對スル救濟手段ニ付テ規定ス。強制豫算ハ市町村自治行政ノ實行ヲ強制スル監督作用ノ一ニ位ス。

一、強制豫算　市町村長ハ毎會計年度歳入出豫算案ヲ調製シ、遲クトモ年度開始ノ一月前ニ市町村會ノ議決ヲ經サル可ラス（市制第百三十三條、町村制第百十三條）。議決ヲ經タル豫算ハ直ニ之ヲ市ニ在ツテハ府縣知事、町村ニ在ツテハ郡長ニ報告セサル可ラス。（市制第百三十七條、町村制第百十七條）報告ヲ受ケタル府縣知事又ハ郡長ハ、其ノ豫算ニ市町村カ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ載セサルトキハ、理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得。此ノ場合ニ於テ當該官廳ハ市町村ニ命シ、自ラ豫算ノ調製ヲ更メシムルコトヲ妨ケスト雖、若シ市町村ニ於テ改メサルトキハ當該官廳ハ必ス之ヲ豫算ニ加ヘサルヘカラス。法文ハ「加フルコトヲ得」ト謂フト雖、其ハ市町村ニ對スル義務ノ方面ヨリ規定セルニ過キサルモノニシテ若シ市町村カ改メサルトキハ府縣知事又ハ郡長ハ其ノ職務ノ關係ヨリスレハ必ス加ヘサル可ラサルモノナリトス。

府縣知事又ハ郡長ニ於テ豫算ニ加ヘラレタル費用ハ市町村會ノ議決ヲ經タルモノニ非スト雖又法律上市町村ノ豫算タルヲ失ハス。勿論歳入又ハ歳出ノ部ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキモノアル

法令ニ依リ負擔スル費用

トキハ其ノ許可アル迄ハ確定的豫算トシテ豫算全部ニ付收入ヲ爲シ、支出ヲ爲スコト能ハサレトモ許可ヲ必要トスル事項ノ許可アルタルニ依リ、當然確定的豫算ノ一部ト爲ルヘキモノナリトス。此ノ如ク市町村會ノ議決ニ依ラス監督官廳ノ處分ニ依リ豫算タルヘキモノヲ强制豫算ト謂フ。

「法令ニ依リ負擔スル費用」トハ本法其ノ他ノ法律又ハ命令ニ依リ命セラレタル負擔ノ義ナリ。故ニ例ヘハ小學校令ニ依ル市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ノ如キ（同令第五十一條）傳染病豫防法ニ依ル諸費ノ負擔ノ如キ（同法第二十一條）市町村名譽職員等ニ對スル費用辨償報酬有給吏員等ニ對スル給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ノ如キ（市制第百八條町村制第八十八條）モ亦此ノ內ニ包含セラル。

當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用

豫算ニ載セサルトキ

「當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用」トハ市町村ノ營造物等ニ對シ市町村ハ公益上、一定ノ支出ヲ爲サシムルヲ必要ト認メ命シタルカ如キモノヲ云フ。或ハ職務管掌ノ爲ニ派遣シタル官吏ノ旅費ノ如キ本條第二項ノ費用ノ如キヲ云フト爲スモノナキニアラサレトモ、此等ハ法令ニ依リ負擔スルモノニシテ、職權ニ依リ命スルモノニハ非サルナリ。「豫算ニ載セサルトキハ」トハ議決シタル豫算ニ載セサルトキノ意ナリ。或ハ市町村長カ市町村會ニ提出スル豫算案ニ載セサルトキハト解スヘシト雖モ、此ノ如キハ「市（町村）ニ於テ」トアルヲ忘レタルモノナルト同時ニ、議決以前ニ於テ常ニ豫算案ヲ監督官廳ニテ知ルヲ得ヘカラサルコトヲ知悉セサルノ誤ナリ。

議出ノ側ニ於テノミ存ス

代執行ノ意義

强制豫算ハ唯其ノ議出ノ側ニ於テノミ存ス。故ニ府縣知事又ハ郡長ハ此ノ支出ニ合致スヘキ收入ヲ豫算ニ加フルコトヲ得ス。此ノ支出ニ合致スヘキ收入ヲ以テ之ヲ議決セサル可ラス。若シ市町村長ニ於テ發案ヲ爲サヽルトキハ、次項ノ適用ヲ見ルヘク、市町村會ニ於テ之ヲ議決セス、又ハ議決スト雖其ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市町村長ハ市制第九十條第五項第九十一條第四項町村制第七十四條第五項第七十五條第二項ニ依リ處置スルヲ得ルモノトス。

二、代執行、市町村長其ノ他ノ吏員ハ第三章第二款ノ規定ニ依リ市町村自體ノ事務其ノ他法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ルノ義務ヲ有ス。此等ノ吏員ニシテ其ノ當然執行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ、市町村ノ活動ハ玆ニ休止ス。此ノ憂ナカラシメムカ爲本條第二項ハ此ノ如キ場合ニ於テ市ニ在ツテハ、府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏々員、町村ニ在ツテハ郡長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏々員ヲシテ之ヲ執行スルコトヲ得セシム、之ヲ代執行ト謂ノ。此ノ場合ニ於ケル府縣知事郡長又ハ官吏ハ假令市町村ノ事務ヲ行フト雖國家ノ機關ナリ、吏員モ亦當該市町村ノ吏員ナラサルトキハ府縣郡ノ吏員ニシテ亦國家ノ機關ナリトス。更ニ又當該市町村吏員ニ非サルモノノ事務執行ト雖亦其ノ執行セラレタル事務ハ市町村自體又ハ國家府縣其ノ他公共團體ノ事務ニシテ事務其ノモノノ性質ヲ變スルモノニ非ス。舊法（前揭）中「臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサ

ル」場合ニ府縣知事又ハ郡長ノ強制支出ハ此ノ一ニ位スルナリ。

代執行ニ要スル費用ハ市町村ノ負擔トス。官吏々員ノ旅費ハ勿論筆墨紙等ニ至ル迄皆然リ。代執行ニ依ル處分カ不法又ハ不當ナリトシテ訴願又ハ訴訟ノ目的トナリ、裁決又ハ判決ニ於テ取消サレタル場合ニ於テモ其ノ處分ハ市町村等ノ處分ニシテ、從テ市町村ハ當然其ノ費用ヲ負擔セサル可ラス。

三、救濟手段　府縣知事又ハ郡長ノ強制豫算ノ處分ニ不服アルトキハ、町村ニ在ツテハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘク、市ニ在ツテハ直チニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘシ。町村ニ於テ直接ニ出訴スルヲ許ササルハ行政裁判法カ地方上級廳ノ處分ニ非サレハ出訴ヲ許ササルト歩調ヲ一ニシタルニ依ル。（同法第十七條第二項）不服ノ理由ハ法令其ノ他官廳ノ職權ノ解釋ニ係ルコトモアルヘク、計上セラレタル金額ノ多寡ニ係ルコトモアルヘシ。代執行ノ處分ニ不服アルトキハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣知事ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘク、市長其ノ他ノ吏員ハ直接ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘシ、不服アリトシテ訴願又ハ訴訟ヲ提起シ得ル吏員ハ執行スヘキ事件ヲ執行セサリシ吏員ニ限ル。訴願又ハ訴訟ノ費用ハ當該市町村ノ負擔ナルコト勿論ナリ。

本條第三項ハ「市（町村）又ハ市（町村）長其ノ他ノ吏員」トアルモ、第一項ニ付テハ市又ハ町村、第二項ニ付テハ市町村長又ハ其ノ吏員ノミ訴願又ハ訴訟ヲ爲シ得ルモノト解スルヲ正當トスヘシ。或ハ第二項但書ニ於テ代執行ノ費用ヲ市町村ニ於テ負擔スルノ故ヲ以テ、市町村モ亦第二項ニ關シ訴願訴訟ノ理アリト爲ス者アレトモ誤ナリ。何トナレハ市町村長等吏員ノ事務執行ニ要スル費用ハ當然市町村ノ負擔タリ。代執行ナルカ爲之ヲ規定シタル故ヲ以テ市町村モ亦訴願訴訟ヲ爲シ得ヘシトノ結論ヲ生セサルヘク、代執行ニ依リ、利害ノ干渉ヲ有スルモノハ吏員自體ニシテ市町村ニ非サレハナリ。

（判例）

一　強制豫算ニ依ル國稅亡失金支出ノ命令ハ違法ニ非ス（二七、一、二四、行判）

二　村會カ法令ニ依ル負擔ノ支出ヲ拒ムトキハ監督官廳ハ強制豫算ヲ命スヘキモノニシテ第六十八條（舊法）ノ規定ヲ適用シ再議ニ付セシメタルハ違法ノ處置ナリ（二九、六、五、行判）

三　監督官廳カ町村制第六十一條（舊）ヲ適用シ職權ヲ以テ選任シタル村長代理者ノ給料及費用ハ本條當該官廳ノ職權ニ依テ命スル支出ナリ（二九、七、九、行判）

四　本條（舊町村制第百四十三條）ニ依リ郡長ノ命シタル追加豫算案ヲ町村會カ否決シタル場合ニ町村長之ヲ再議ニ附シタルハ違法ナリ（三一、三、一四、行判）

市制町村制　第百八十四條　第百四十四條　市町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ電助代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於ケル

第三編　市制　第九章　第百六十四條　町村制　第八章　第百四十四條

テハ其ノ旅費ハ市町村費ヲ以テ弁償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ市町村吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

職務管掌者ヲ設クル理由

故障

本條ハ市町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アリタル場合ニ於ケル職務管掌者ヲ確定スル規定ナリ。蓋市町村長ハ市町村ヲ統轄シ、市町村ヲ代表シ市町村ノ事務ノ執行ニ付テ重大ナル職務ヲ擔任シ、助役ハ市町村長ノ事務ヲ補助シ、市町村長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘク、收入役ハ市町村ノ出納、其ノ他ノ會計事務ヲ掌ルヘク、副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ、收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘク、皆市町村執行機關ノ中堅タリ。此等ノ機關ノ活動ノ休止ハ即チ市町村ノ活動ノ一日モ停ル可ラス、機關ノ故障アリタルトキハ直チニ此ノ故障ヲ除却スルノ途ヲ講セサル可ラス。即本條ハ此等ノ機關ノ一ニ故障アリタル場合ニ於テハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ、又ハ官吏ヲ派遣シ故障アル機關ノ職務ヲ管掌セシムルヲ得ルコトト爲セリ。

「故障」ハ機關ノ地位ニ當レル個人ヨリ生シタルモノナルト、外部ヨリ生シタルモノナルトヲ問ハス。故ニ個人ノ精神上又ハ身體上ノ都合ニ依リ一時職務ヲ執ル能ハサルカ如キ場合、天災又ハ地變ニ依リ長キ期間ニ亘リ役場ニ出勤スル能ハサルカ如キ場合、死亡又ハ辭任ニ依リ後任者ノ未タ決定セサルカ如キ場合ト、後任者ニ付市町村會ニ於テ選擧シ又ハ定メタルニ拘ハラス、未タ裁可又ハ認可ノナキ場合タルトヲ問ハス。

市制第九十六條町村制第七十九條等ト關係

派遣セラレタル官吏

本條第一項ハ市制第九十六條第二項第九十七條第二項第百二條又ハ町村制第七十九條第二項第八十條第二項第三項第八十三條ト如何ナル關係ヲ有スルヤ。此等ノ條項ニ依ルトキハ市町村長故障アルトキハ助役之ヲ代理シ收入役故障アルヘキハ副收入役、副收入役ヲ置カサル町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受ケテ定メタル吏員之ヲ代理スルコトヲ規定シ、助役若ハ副收入役故障アルトキ、吏員ハ市町村長ノ命ヲ承ケ其ノ事務ニ從事スルコトヲ得ルカ故ニ、市町村長助役共ニ故障アル場合、收入役副收入役等ニ故障アル場合等ノ外ハ全然其ノ適用ヲ見サルカ如シ。然トモ余輩ハ前揭各代理ニ關スル規定ハ助役副收入役カ原則トシテ有スル權限ヲ揭ケタルニ過キスシテ、監督官廳ハ機關故障ノ程度時日ニ鑑ミ、例外トシテ法定ノ代理者ヲ排除シ、本條第一項ノ職務管掌者ヲ定ムルコトヲ得ト解スルノ正當ナルヲ信ス。從ツテ職務ノ管掌ヲ爲サシメタルトキハ助役副收入役等ハ代理ノ權限ヲ行使スル能ハサルナリ。

監督官廳ハ普通ハ第一次ノモノトス、然レトモ第二次以上ノモノタルヲ妨ケス、又其ノ官廳ノ屬スル官署ノ官吏タルト下級官署ノ官吏タルトヲ問ハス。派遣セラレタル官吏ハ市町村長ノ吏員ト爲ルモノニ非ス、依然國ノ官吏トシテ市町村ノ事務ヲ行フモノトス。國ノ官吏トシテ行フモノナルカ故ニ何等規定スル所ナケレハ其ノ旅費ノ如キモ國庫ノ負擔タルヘキコト勿論ナリト雖、元來市町村ノ爲ニスルモノナルヲ以テ本法ハ此ノ費用ヲ以テ市町村ノ負擔ト爲セリ。

臨時代理者

臨時代理者トシテ選任セラルヘキ者ハ當該市町村ノ住民タルト否トヲ問ハス。選任セラレタル者ハ職務ヲ管掌スル期間、當該ノ市町村ノ有給吏員トス。單純ナル有給吏員ナルカ故ニ市町村長助役又ハ收入役ノ職務ヲ行フト雖其ノ期間市町村公民タルモノニ非ス。（市制第七十六條第七十九條第三項町村制第六十三條第四項第六十七條第五項）從ツテ選擧權ヲ有セス。（從來公民タル資格ヲ有スルモノノ公民タルコトハ言ヲ俟タス）、而シテ臨時代理者ノ給料額及旅費額等ハ監督官廳ニ於テ之ヲ定ムルモノトス。市町村ノ負擔タルコト勿論ナリ。

官吏ノ召還臨時代理者ノ解任

職務管掌ノ爲派遣シタル官吏ヲ召還シ臨時代理者ヲ解任スルノ權カ、派遣シ又ハ選任シタル監督官廳ニ在ルコトハ規定ナシト雖蓋當然ナリ。

舊法ハ市長ノ再推薦又ハ町村長　市町村助役收入役ノ再選擧ニシテ裁可又ハ認可ヲ得サル場合ニ臨時代理者又ハ職務管掌者ヲ置クヘキコトヲ規定シタルニ過キサリキ（舊市制第五十二條町村制第六十一條）本法ハ職務管掌ノ場合ヲ擴張シテ規定シタリト雖實際ノ適用ト監督官廳ノ多大ナル注意ヲ拂ハスンハ、市町村自治行政ニ累ヲ及ホスコトアルニ至ルヘシ。

市制第百六十五條
町村制第百四十五條

左ニ揭クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　市町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二　學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事

本條ハ市町村條例ノ規定、改廢及貴重ナル物件ノ處分又ハ變更ニ關シ規定ス。

條例ノ設定又ハ改廢

一、市町村條例ノ設定又ハ改廢　市町村條例ハ認メラレタル市町村ノ自主權ニ基キ市町村會ノ裁決ヲ以テ市町村住民ノ權利義務又ハ市町村ノ事務ニ付規定ス（市制第十二條第四十二條町村制第十條第四十條）。條例ノ規定スル處ハ市町村會議員ノ定數ノ增減、市參與ノ如キ高等吏員ノ設定定數ハ勿論、使用料手數料特別稅ノ如キニ及ヒ、殊ニ財產又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルヲ得ルカ如キ等市町村住民ノ權利義務ニ重大ナル關係ヲ有ス。其ノ規定又ハ改廢ニ付內務大臣ノ許可ヲ必要トセルコト寧ロ當然ナリ。町村規則モ亦自主權ニ基キ設定セラルルモノナルモ其ハ單ニ營造物財產ニ關スル規律ニ屬シ殊ニ其ノ利用方法、利用者間ノ權利義務ニ關スル重大ナルモノハ條例ヲ以テ規定セラルルモノナルカ故ニ規則ニ付テハ舊法ト異ナリ、許可ヲ要セサルコトト爲セリ。

府縣知事又ハ郡長ノ設定若ハ改廢スル條例モ亦市町村條例タルヲ失ハサルカ故ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケサル可ラス。（市制第百四十五條町村制第百二十五條）市町村組合又ハ町村組合ノ條例モ亦內務大臣ノ許可ヲ受ケサル可ラス。（市制第百五十六條町村制第百三十六條）

貴重物件ノ處分又ハ變更

二、貴重ナル物件ノ處分又ハ變更　學術上、技藝上、美術上又ハ歷史上貴重ナル物件ハ出來得ヘキ丈ケ之ヲ市町村等ノ如キ公共團體ノ所有ニ屬セシメ置クコトハ其ノ散逸破壞ヲ防止スル上ニ於テ頗ル必要ナル事ニ屬ス。故ニ此ノ如キ物件ノ處分又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル場合ニ於テハ內務大臣ノ許可ヲ受ケシム。而シテ如何ナル程度ノ物件ヲ以テ貴重物件ト爲スヘキヤハ許可ヲ申請スル市町村ノ

認定ニ係ルト雖、監督官廳ニ於テ貴重物件ト認定シタルモノニ付許可ヲ受クル途ヲ採ラシムルコト毫モ不法ニ非ス。

處分及ビ不ナル變更「物件」

「處分」トハ舊法ニ所謂賣却讓與質入書入若ハ交換等ヲ指ス。物件ノ所有權ヲ移轉シ、消滅セシメ、其ノ上ニ他物權ヲ設定スルカ如キ等皆然リ。「大ナル變更」トハ物件ノ從來ノ形體ヲ失ハシムルカ如キ變更ヲ謂フ亦認定ニ係ル。舊法ハ「貴重ナル物品」ト規定セシモ本法ハ「貴重ナル物件」ト規定セリ（舊市制第百二十一條町村制第百二十五條）故ニ舊法時代ニ於テ疑問タリシ建物ノ如キモ本法ニ於テハ當然包含セラル。

（判　例）

一區會條例ハ町村條例ト同シク內務大臣ノ許可ヲ要ス（二五、二、一六、行判）

市制第百六十六條　町村制第百四十六條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　市町村債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別稅ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

四　使用料手數料及加入金ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

本條ハ起債特別稅間接國稅ノ附加稅、使用料手數料及加入金ニ付內務大臣及大藏兩大臣ノ許可ヲ要スヘキモノニ付規定ス舊法ニ對スル改正ノ理由ニ付テハ仍緒論ヲ對照スルヲ要ス。

起債ニ關シ許可ヲ受クヘキ事項

一、市町村債　市町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲、又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ市債ヲ起スヲ得ヘク其ノ市町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經サル可ラス（市制第百三十二條町村制第百十二條）議決ヲ經タルトキハ內務大臣及大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケサル可ラス。起債ハ其ノ新ニ爲スモノナルト、舊債ノ借換ヲ爲スモノナルトヲ問ハス、之ヲ一般募集ト爲スヘキヤ、又銀行會社商人等ノ特定人ヨリ起債ヲ爲スヘキヤ借入期限ヲ何年何月ト爲スヘキヤ等ノ起債ノ方法、利息ノ定率及幾年目ヨリ償還シ、幾何ノ割合ヲ以テ幾年目ヲ以テ償還シ終ルヤ、償還財源ハ之ヲ如何ニスヘキヤ等ノ償還ノ方法等亦併セテ許可ヲ受ケサル可ラス。其ノ此等ヲ變更シ或ハ銀行借入ヲ一般募集ニ變更セントシ、或ハ利率ヲ增減シ、或ハ償還年次表ヲ變更セントスルカ如キ場合ニモ亦許可ヲ受ケサル可ラス。敎育基金令ニ依ル敎育資金ノ借入モ亦一時借入金ニ非サル限許可ヲ要ス。

許可ヲ得タル後廢止シタル場合

一時借入金

一旦起債ノ許可ヲ得タル後之ヲ廢止セントスル場合ニ於テハ其ノ許可ノ稟請ヲ必要トセス、報告ヲ爲スヲ以テ足ル。借入ヲ爲サシテ借入期限ヲ經過シ其ノ後借入ヲ爲ス場合ノ如キハ許可ヲ要ス。

市制第百三十二條第三項町村制第百十二條ニ所謂一時借入金ヲ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以

テ償還スヘキモノニシテ、負擔ヲ後年ニ殘スヘキモノニ非サルト同時ニ、一般經濟界ニ影響スル處少ナキヲ以テ許可ヲ受クヲ要セサラシム。

特別稅ノ設置變更

減額ハ許可ヲ要セス

二、特別稅ノ新設增額及變更　特別稅ノ何タルカハ財務ノ章ニ於テ之ヲ述ヘタリ。其ノ新設ヲ爲スハ勿論增額又ハ變更ヲ爲ス場合ニ於テモ亦內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケサル可ラス。蓋特別稅ノ賦課ハ地方特殊產業ノ發達ニ影響スルモノナルト、率テ國家ノ財政、一般經濟界ニ及ホス影響尠少ナラサルニ依ル。特別稅ノ減額ハ許可ヲ要セス。減額トハ或ル特別稅カ課稅物件ノ種類ノ異ナルニ依リ（例ヘハ反別割ニ於テ地目ニ依リ）課率ヲ異ニシタルトキ均一ニ其ノ課率ヲ減少スルカ如キ場合　國府縣稅ノ或ル種類ニノミ課稅シタルヲ（例ヘハ縣稅雜種稅中ノ全部ノ種類ニ非サルモノニ課稅シタル如キ）均一ニ減額スルカ如キ場合ヲ謂フ。故ニ不均一ニ減額スルカ如キ場合ニ特別稅ノ變更トシテ許可ヲ要ス。

間接國稅ノ附加稅

間接國稅ハ多クノ場合ニ於テ消費稅ナリ

三、間接國稅ノ附加稅ノ賦課　間接國稅ノ何タルカモ亦財務ノ章ニ於テ之ヲ述ヘタリ。而シテ之ニ附加稅ヲ賦課スルコトハ通則トシテ認サル所ナルニ依リ若シ已ムヲ得サル事情ノ爲之ヲ許ス場合ニ當ツテハ直接國稅トノ權衡其他國稅ニ及ホス影響等比較考察ヲ要スヘキモノ甚多キ事亦前述ノ如シ。即チ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケシムル所以ナリ。間接府縣稅ノ附加稅ハ許可ヲ要セサルモノトス。蓋間接府縣稅中ニハ租稅トシテ重要ナルモノナク之ニ附加稅ヲ課スル場合ハ殆ントナキト同時ニ一般經濟界ニ關係アル所少ナケレハナリ。

四、使用料手數料及加入金新設增額及變更　此等モ亦內務大藏兩大臣ノ許可ヲ必要トス。此ノ如キハ市町村ヲシテ不當ノ料金ヲ徵收セサラシメントノ趣旨ニ出ツ。其ノ減額ノ許可ヲ要セサルコト及變更ノ意義等ハ特別稅ニ付述ヘタルカ如シ。

使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ハ舊法ト異ナリ市町村條例ヲ以テ之ヲ規定セサル可ラサルヲ以テ前條ノ規定及本條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クヘキモノトス。

以上ハ皆市町村組合又ハ町村組合ニ準用セラルルモノトス。（市制第百五十六條　町村制第百三十六條）

市制第百六十七條　町村制第百四十七條　左ニ揭クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　基本財產ノ管理及處分ニ關スル事
二　特別基本財產及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事
三　第百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
四　寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五　不動產ノ管理及處分ニ關スル事
六　均一ノ稅率ニ依ラサル國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
七　第百二十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八　第百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事、

九　第百二十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十　繩繢費ヲ定メ又ハ變更スル事

本條ハ府縣知事又ハ郡長ノ許可ヲ受クルヲ要スル事件ニ付規定ス。

基本財産ノ管理及處分

一、市町村ハ其ノ收益ノ爲ニスル財産ハ之ヲ基本財産トシテ維持スルノ義務アリ（市制第百九條第一項町村制第八十九條第一項）**從ツテ其ノ設置管理及處分ニ關シテハ市町村會ノ議決ヲ經サル可ラス**（市制第四十二條第七號町村制第四十條第七號）**。之レヲ設置スルモ管理宜シキヲ得ス、濫リニ處分ヲ爲スカ如キコトナカラシムルヲ要ス。即許可ヲ受ケシムル所以ナリ。管理ハ財產ノ形體ヲ失フカ如キ變更ヲ加ヘス、之ニ改良ヲ加ヘ利用スルト同時ニ、收益ヲ計ルカ如キヲ謂フ。處分ハ所有權ノ移轉又ハ消滅ヲ行ヒ、他物權ヲ設定スルカ如キヲ謂フ。其ノ貸附預入等ノ場合ニ關シ、市町村會ニ於テ豫メ一定ノ範圍方法ヲ議決シ、以後之ニ依リテ處分セムコトヲ稟請シタルトキ、府縣知事又ハ郡長ハ豫メ之ヲ許可スルヲ妨ケス。小學校基本財產ニ關シテハ、地方學事通則ノ規定ニ依ルヘク、本條ノ關スル所ニ在ラス。**

特別基本財產等ノ管理及處分

二、市町村ハ特定ノ目的ノ爲、特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得（市制第百九條第二項町村制第八十九條第二項）**。仍許可ヲ受ケシムルハ又一、ト同一ノ理由ニ屬ス。**

變更又ハ廢止

三、舊來ノ慣行ニ依リ市町村住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ、其ノ舊慣ニ依ル、若シ舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ、市町村會ノ議決ヲ經サル可ラス。然レトモ舊慣ヲ變更シテ其ノ一部ノ住民ノ權利ヲ剝奪シ又ハ全然舊慣ヲ廢シテ一般住民ノ使用シ得ル營造物ト爲スカ如キハ往々ニシテ慣行ニ依リ權利ヲ行使シ生活ヲ維持セル者ヲシテ困難ナル地位ニ陷ラシムルコトアリ。故ニ更ニ許可ヲ受ケシムルハ行政處分ニ屬ス。其ノ權利ノ公權ニ屬スルヲ以テ民事裁判所ノ關知スル所ニ非ス。

寄附及補助

四、市町村ハ其ノ公益上必要ナル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得（市制第百十五條町村制第九十五條）**。何ヲ以テ市町村ノ公益ニ關スト爲スカハ市町村ノ認定ニ係ル。認定ノ常ニ誤ナキヲ保セス誤リタル認定ハ却ツテ市町村ノ發達ヲ害スルヲ以テ即チ許可ヲ受ケシム。**

不動產ノ管理處分及取得

五、不動產ノ管理、處分及取得ハ市町村會ノ議決ヲ經サル可カラス（市制第四十二條第六號町村制第四十條第六號）**。其ノ取得ハ市町村財產ノ增加ナルカ故ニ別ニ許可ヲ要セスト雖、管理及處分ハ不動產ノ價値ノ增減及市町村財產ノ多寡ニ影響ス、即チ許可ヲ受ケシムルナリ。不動產ノ交換、不動產上ニ地上權等他物權ノ設定モ本法ニ於テハ許可ヲ要ス。**

國稅及府縣稅ノ附加稅

六、直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ徵收スルヲ原則トス（市制第百十七條第二項町村制第九十七條第二項）。然レトモ特ニ住民負擔ノ公平ヲ期スル爲均一ノ稅率ニ依ラスシテ附加稅ヲ賦課スルノ必要アルヘシ。此ノ如キ場合ニ於テハ其ノ公平ヲ保持スル爲許可ヲ受ケシム。間接國稅又ハ間接府縣稅ニ付亦同シ。間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スルハ前條ニ依リ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケサル可ラス。即チ間接國稅ニ付テハ均一附加稅ノ場合ニ於テハ、前條ノ許可ヲ以テ足ルト雖、若シ不均一附加ト爲サムトスルトキハ更ニ本條ノ許可ヲ要スルナリ。

不均一稅

所謂不均一稅トハ必スシモ市町村內ノ地域ニ依リ稅率ヲ異ニスル場合ノミナラス、例ヘハ地價割ニ於テ田畑ノ間其ノ率ヲ異ニシ、又所得稅附加稅ニ於テ本稅ノ等級ニ從ヒ其ノ率ヲ異ニスルカ如キヲモ含ム。附加稅カ法定ノ制限ヲ超過スル爲內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クル場合ト雖（明治四十一年法律第三十七號地方稅制限ニ關スル件第五條參照）尙不均一賦課ノ點ニ付テハ府縣知事又ハ郡長ノ許可ヲ受ケサル可ラス。

數人又ハ市町村ノ一部ノ費用ノ負擔

七、數人又ハ市町村內ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財產ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用トシテ其ノ關係者又ハ其ノ郡內ニ於テ市町村稅ヲ納ムル者ニ負擔セシムルハ公平ニ之ヲ爲ササル可ラス。即チ許可ヲ受ケシムル所以ナリ。市制第六條ノ市ノ區ノ營造物又ハ財產ノ費用ヲ區民ニ負擔セシメ、市制第七章町村制第六章ニ所謂市町村內ノ一部カ其ノ營造物又ハ財產ノ費用ヲ部內ニ賦課スル場合ハ本條ノ適用ナシ。

數人又ハ市町村ノ一部ニ特ニ利益アル事件

八、數人又ハ市町村ノ一部ニ對シ我ニ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得。此ノ場合ニ於テモ果シテ利益カ數人又ハ市町村ノ一部ニ關スルモノナリヤ、賦課ハ公平ヲ得タルヤニ付、愼重ノ審議ヲ要ス、即チ許可ヲ要スル所以ナリ。

夫役及現品

九、夫役又ハ現品ハ直接町村稅（之ヲ賦課セサルトキハ直接國稅）ヲ以テ準率ト爲シ、金額ニ算出シテ賦課スルヲ原則トス。然トモ其ノ準率ニ依ラスシテ賦課スルトキハ又負擔ノ公平ヲ期スル爲許可ヲ要ス。但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ノ如キハ準率ニ依ラサル場合ニ於テハ許可ヲ受ケシムルノ追ナキヲ以テ許可ヲ要セスト爲ス。

繼續費

十、市町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ、數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ、市町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年々ノ支出額ヲ定メ、繼續費ト爲スコトヲ得（市制第百三十五條町村制第百十五條）。繼續費ハ數年ニ亙リテ住民ノ負擔ヲ豫定シ、市町村ノ財政ニ多大ノ關係ヲ有スルヲ以テ許可ヲ受ケシム。

（判　例）

一　町村會カ其ノ議決ノ執行ニ付監督官廳ノ許可ヲ要セスト爲ス議決ナル爲ハ越權ナリ（二七、一二、八、行判）

二　基本財產支出ノ村會議決ヲ郡長カ不認可シタルニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ（二五、一二、六、行判）

市制　第百六十八條
町村制　第百四十八條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可シ與フルコトヲ得

第三編　市制　第九章　第百六十八條　町村制　第八章　第百四十八條

更正許可ヲ認ムル理由

本條ハ監督官廳ニ更正許可ノ權ヲ認メタル規定ナリ。市町村ノ許可ヲ申請シタル事件ニシテ、總テノ部分ニ於テ監督官廳ノ意思ニ合致スルニ非サレハ、假令多クノ部分ニ於テ之ヲ是認スト雖、不許可ノ指令ヲ爲ササル可ラス。市町村ハ之カ爲ニ更ニ又市町村會ヲ開カサル可ラサル可ク、或ハ爲ニ其ノ執行ノ遲延ニ依リ蒙ル損害少ナカラサルモノアルヘシ。此ノ手數ト損害トヲ省略センカ爲本條ハ府縣制ト均シク更正許可ノ權ヲ認ム。蓋此ノ條規ナケレハ監督官廳ノ許可權ハ當然ニハ更正ノ權ヲ包含セサレハナリ。

訴願ヲ爲スコトヲ得

何ヲ以テ許可申請ノ趣旨ニ反セストスルカハ監督官廳ノ認定ニ係ル。然レトモ其ノ認定カ市町村ニ於テ其ノ許可ヲ申請シタル趣旨ト反スト認メタルトキハ訴願スルコトヲ得ヘシ（市制第百五十八條、町村制百三十八條）。

更正許可ハ眞正ノ許可ニ非ス

更正許可ハ眞正ナル意義ノ許可ニ非ス。本法ニ所謂許可ハ多クノ場合ニ於テ市町村ノ行爲ヲ法律上有效タラシムル處分ナルモ、此ノ場合ニ於ケル許可ハ市町村ノ申請ヲ其ノ儘承認シタル部分ニ就テノミ眞正ナル意義ノ許可タリ。之ヲ更正シタル部分ハ實ハ許可ニ非スシテ監家機關カ自ラ市町村ノ意思ヲ決定シタルモノニ過キス。換言スレハ其ノ部分ハ實質上市町村ノ意思ヲ作成スル命令ニ過キス。又監督作用ノ一タルヲ失ハス。

市制第百六十九條　町村制第百四十九條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

本條ヲ設クル理由

本條ハ許可ノ職權ノ委任及許可ヲ要セサル事件ニ關シ規定ス。監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニシテ、當該監督官廳ノ許可ヲ受ケシムル趣旨ニ反セサル限度ニ於テ、之ヲ下級監督官廳ニ委任スルハ事務ノ簡捷ヲ計ル上ニ於テ必要ナリトス。更ニ又其ノ輕易ナル事件ニ付テハ殊更ニ許可ヲ受ケシムル必要ナキ場合アルヘシ。即チ本條ノ規定アル所以ナリ。

下級監督官廳ニ許可權ヲ委任シ、又ハ許可ヲ受ケサルヲ得セシムル必要アラハ、何カ故ニ本法ニ於テ始メヨリ下級監督官廳ノ許可ヲ受ケシメ、又ハ許可ヲ要セサル旨ヲ規定セサルヤ。蓋法文ハ特ニ概括的ニ事件ヲ規定シ箇々ノ場合ヲ徹細ニ分析シテ列擧スルコト能ハサルト同時ニ、時勢ノ變化ニ伴ヒ曾テ委任シタル事件又ハ許可ヲ要セスト爲シタル事件ニ付。委任ヲ取消シ又ハ更ニ許可ヲ受ケシムルノ必要ナル事アルヘシ。此ノ如キ實際ノ困難ト運用ノ便ニ資センセハ本條ノ如キ規定ヲ設クルノ外ナカルヘシ。

勅令ハ現在ニ於テハ明治三十三年勅令第百二十三號ノ存スルノミ。舊市制第百十五條第二項町村制第百十九條第二項ノ規定ニ基ケルナリ。故ニ本條ニ所謂輕易ナル事件ノ許可ヲ要セサルモノニ付テハ更ニ勅令ヲ以テ規定セラレサル可ラサルナリ。

市制第百七十條　府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市

長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經市長ニ就テハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス、

懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選擧補闕及任期竝懲戒審査會ノ招集及會議ニ就テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設ケルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

町村制 第百五十條 府縣知事又ハ郡長ハ町村長、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

但シ町村長、助役、收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ

本條ハ市町村吏員ニ對スル懲戒權。懲戒罰ノ種類、懲戒ノ機關及懲戒ニ對スル救濟等ニ付規定ス。

市町村吏員ニ對スル懲戒ハ別ヲ以テ之ヲ二ト爲ス其ノ一ハ吏員カ市町村ニ對スル服務義務ニ違反セル場合ニ於テ國家カ監督權ノ作用トシテ之ヲ戒飭スルモノニシテ其ノ二ハ國家ヨリ吏員自身ニ委任セラレタル事務ノ範圍ニ於テ、國家ニ對スル義務ニ違反スル場合ニ於テ國家ノ事務ノ執行ノ秩序ヲ維持スル爲之ヲ戒飭スルモノナリ。此等ノ戒飭ノ爲メニ科セラルル制裁ヲ懲戒罰ト謂ヒ、之ヲ課スルノ權ヲ懲

戒權ト謂フ。本條規定スル市町村吏員ニ對スル懲戒ハ、自治團體カ其ノ吏員ニ對シテ有スル特別ノ權力ニ基キテ爲ス懲戒（市制第八十九條町村制第七十三條）ヲ除キ前述二種ノ懲戒ニ付併セテ之ヲ規定ス。

懲戒ヲ行フヘキ機關

懲戒權ヲ行フヘキ機關ハ市ニ在ツテハ府縣知事、町村ニ在ツテハ府縣知事又ハ郡長トス。

懲戒ノ種類

懲戒權ノ目的タルヘキ市町村吏員ハ市町。村長、市參與、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ町村吏員トス。區長ハ市制第六條第八十二條第三項ノ市ノ區長及市町村ノ一部ノ區長ヲ含ム。

譴責、過怠金、停職及解職

懲戒罰ノ種類ハ懲戒ノ目的ニ從ツテ之ヲ二ニ分ツコトヲ得。其ノ一ハ義務違反者ニ對シ將來再ヒ義務違反ヲ爲サシメサラン爲科セラルル制裁ニシテ之ヲ匡正懲戒ト謂ヒ、其ノ二ハ吏員タルノ關係ヨリ之ヲ排除スル制裁ニシテ之ヲ排除懲戒ト謂フ。前者ハ之ヲ吏員タルノ關係ニ置キ制裁ヲ加フルモ仍改善セシムル餘地アリト認ムル場合ニ課セラルルモノニシテ、後者ハ吏員タルノ關係ニ置クコトカ吏員關係ノ秩序ヲ紊亂スト認ムル場合ニ科セラルルモノナリ。譴責及二十五圓以下ノ過怠金ハ前者ニ屬シ、解職ハ後者ニ屬シ、停職ハ兩者ノ中間ニ位ス。

譴責ハ單ニ義務違反ノ行爲ヲ戒告シ、將來ノ改善ヲ促ス處分ニシテ懲戒罰中最モ輕易ナルモノニ屬ス。過怠金ハ義務違反ノ行爲ヲ戒告シ、將來ヲ戒飭スル爲科セラルヘキ財產上ノ制裁ナリ。吏員ニ對スル懲戒權ハ自ラ進ンテ國家ノ監督權ノ下ニ立タントスルモノニ科セラルヘキ權力ニシテ刑罰權ニ非サルカ故ニ過怠金モ亦罰金ニ非ス。解職ハ吏員關係ヲ解除スルヲ謂ヒ、停職ハ改善ノ目的及一時吏員關係ヨリ排除スル目的ヲ以テ、一定ノ期間其ノ職務ヨリ離レシムル處分ヲ謂フ。

懲戒ノ手續

市長ノ解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經勅裁ヲ經ルヲ要ス。解職ハ勅裁ニ依リテ其ノ效力ヲ發生ス。町村長市參與助役收入役副收入役及勅令ヲ以テ指定スル市ノ區長（市制第八十二條第三項）解職ハ、懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ。前揭以外ノ吏員即チ市制第六條及第八十二條第三項以外ノ區ノ區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市町村員ノ譴責、過怠金及解職ハ市ニ在ツテハ府縣知事町村ニ在ツテハ府縣知事又ハ郡長之ヲ行フ。市町村長、市參與、助役、收入役、副收入役並市制第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ譴責及過怠金ニ付亦同シ。

府縣知事ハ市町村長、市參與、助役、收入役、副收入役及市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得ヘシ。此等ノ吏員ノ解職ニハ比較的長時日ヲ要シ、其ノ間依然之ヲ當該吏員タラシムルハ、市町村行政ニ或ハ不都合ナル結果ヲ生セシムルコトアルカ故ナリ。此ノ場合ニ於テハ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルヲ得サルモノトス。此ノ期間ヲ條例ニ於テ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ期間中ニ通算シテ規定スヘキヤ否ヤハ隨意ナリ。停職ヲ命セラレタルモノハ必スシモ常ニ解職セラルルモノニ非ス。停職ヲ解除スルハ停職ヲ命シタル府縣知事ニ於テ爲スヲ得ヘシ。

懲戒審査會

懲戒審査會ハ府縣高等官三人、及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人即チ六人ヲ以テ會員トシ、府縣知事ヲ會長トス、知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ。府縣名譽職參事會員ニ於テ互選スルハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス、過半數ヲ得タル者ナキ等ノ場合ニ於テハ總テ府縣制第五十五條ノ準用アリ、闕員アル場合ニ付亦同シ。其ノ任期ハ名譽職參事會員トシテノ任期ニ同シク其ノ改選毎ニ改選スヘキモノトス。審査會ノ召集ハ府縣知事之ヲ行ヒ（同第七十一條）議長代理者ハ高等官審査會員之ニ當ル。（同第六十七條）、議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ、可否同數ナルトキハ議長之ヲ決定シ（同第七十三條）、議長代理者議長ノ職務ヲ行フトキハ議決權及決定權ヲ有スルモノトス。此ノ如ク殆ト總テ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用スト雖補充員ハ之ヲ設クルコトヲ許サス（府縣制第四十九條第五十五條第六十六條第七十條第七十一條第七十四條等）審査ノ方法ハ自由ナリ、本人ヲ審問シテ之ヲ爲スト文書ヲ以テ審査スルトヲ問ハス。（附錄明治四十四年勅令第二百九十三號參照）

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ、二年間市町村ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス。故ニ市町村會議員市參事會員市町村長其ノ他ノ吏員ト爲ルコトヲ得ス。

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ、郡長ノ處分ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ、其ノ裁決ニ不服アルトキ、又ハ府縣知事ノ處分ニ付不服アルトキハ、內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ヘシ。市長ノ解職ニ付訴願ヲ許ササルハ解職カ勅裁ニ依ルモノナルカ故ナリ。

郡長ノ處分輕キニ失スト認メタルトキハ何レノ懲戒ヲ問ハス府縣知事ハ之ヲ取消シ自ラ處分スルヲ得ヘシ（市制第百六十一條末項町村制第百四十一條末項）。

懲戒ハ吏員タルノ關係ニ於テ吏員ニ課セラルヘキ罰ナリ。故ニ既ニ吏員タラサルモノニ付テハ在職中ノ行爲ヲ理由トシテ懲戒罰ヲ加フルヲ得ス。然レトモ一旦職ヲ離レタル者更ニ襲職シタルトキハ前職中ニ爲シタル行爲ヲ理由トシテ懲戒罰ヲ課スルヲ得。同一市町村ニ襲職スルト否トヲ問ハス。

（判例）

一　町村吏員常例ノ手續ヲ盡シ事務ヲ行ヒタル上ハ懲戒處分ヲ受クヘキニ非ス（二七、二、二一、行判）

二　町村役場吏員ノ不正行爲ハ監督ノ責アル町村長ニ責アリ（二八、五、一四、行判）

三　村長カ村會議員ニ招集ノ通知ヲ爲ササルヲ以テ過怠金ヲ科シタルハ不當ニ非ス（三三、七、九、行判）

四　私事旅行ニ關シ受クヘキ認可ヲ受ケサリシ町長ヲ懲戒シタルハ不當ニ非ス（三六、四、一、行判）

市制　第百七十一條　市町村制　第百五十一條　市町村吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證金及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

服務規律

市町村吏員モ亦官吏ノ國家ニ對スルト同シク、市町村ニ對シ特別ノ服從義務ヲ有ス。此ノ義務ヲ完

賠償責任

全ニ履行セシメントセハ其ノ服務ニ關シ一定ノ規定ヲ設ケ據ル所ヲ知ラシムルヲ必要トス。官吏ニ服務紀律アルカ如ク市町村吏員ノ服務紀律ヲ制定スルノ必要アルコト論ヲ俟タス。即命令ヲ以テ規定スル所以ニシテ明治四十四年內務省令第十六號ハ明治三十五年內務省令第三號府縣郡吏員服務規律ト同樣ナル服務規律ヲ設ケタリ。（附錄參照）

身元保證金

市町村吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事等アルカ爲、市町村ニ對シテ金錢上ノ損害ヲ與フルコトアルトキハ、當該吏員ヲシテ賠償セシメサル可ラス、故ニ本法ニ於テハ之カ規定ヲ命令ヲ以テ爲スコトトセリ。身元保證金ハ吏員トシテ特定ノ事務ヲ取扱フ爲ニ必要ナル市町村ニ對スル保證ナリ。如何ナル事務ヲ取扱フ吏員ニ對シ保證金ヲ納付セシムヘキヤ、其ノ金額モ、又命令ヲ以テ規定スヘキモノトス。明治四十四年勅令第二百四十五號ハ其ノ賠償責任及身元保證金ニ付テ規定セリ。（附錄參照）

事務引繼

事務引繼ノ敏速ナルコトハ市町村ノ活動上最モ希望スヘキコトニ屬ス。之ヲ拒ミタル者ノ如キニ至ツテハ宜シク制裁ヲ加ニサル可カラス。故ニ本法ハ之ニ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルヲ得セシム、過料ハ刑罰ニ非ス。行政上ノ目的ヲ達セムトスル手段ニ外ナラサルナリ。

過料

過料ハ現ニ吏員タル者ニハ勿論退職者ニモ亦科セラルヘキモノトス。過料ハ事務引繼ヲ容易ナラシメントスル行政罰ナレハナリ。引繼ヲ爲ササル以上何回之ヲ繰返スモ差支ナシ。滯納處分ニ依リテ徵收スルヲ得ルコト勿論ナリ、不服アル者ハ又訴願訴訟ヲ提起シ得ルモノトス（市制第百三十一條町村制第百十一條）。然トモ本條過料ノ處分ニ付テハ訴願又ハ訴訟ヲ許サス。（明治四十四年內務省令第十七號ハ事務引繼ニ關シ規定ス附錄參照ヲ要ス）

第十章　雜則

市制　第十章
町村制　第九章

以上各章ニ規定シタル事項中稀ニ生スル事項ニ關スル補充的規定、運用ニ必要ナル附屬的規定ヲ掲ク

町村制　第百五十二條　郡長ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數郡ニ涉ルモノアルトキハ府縣知事ハ關係郡長ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ其ノ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ

市制　第百七十二條
町村制　第百五十三條　府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

右三條ハ數府縣又ハ數郡ニ涉ル事件ニ付之ヲ管理スヘキ府縣知事、府縣參事會又ハ郡長ヲ確定スル規定ナリ。蓋舊法ニ於テハ此ノ種ノ規定ナク不便少ナカラサリシヲ以テ、實際ニ於テハ內務省訓令ヲ以テ本條揭クル趣旨ヲ實行セシメタリ。此ノ訓令ヲ明記シタルモノ即チ本條ナリ。

事件ヲ管理スヘキ者ノ指定ハ之ヲ分別シテ解釋スルヲ便宜トス。即チ郡長ノ職權ニ屬スル事件ニシ

テ一府縣内ノ數郡ニ渉ルモノナルトキ、例ヘハ二郡ニ跨リ町村組合ヲ設ケタルトキハ、關係數郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ、其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘク、數府縣ニ渉ルトキ、例ヘハ二縣ニ跨リ共有財產ノ爲町村組合ヲ設ケタルトキハ、關係數府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ、其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スルモノトス（町村制第百四十七條）。府縣知事ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ渉ルトキ例ヘハ府縣ヲ異ニスル町村カ一部事務ノ爲ニスル町村組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケムトスル場合等ニ於テハ、協議ヲ爲シタル町村ハ關係アル府縣知事ニ許可申請ノ書面ヲ進達スヘク、府縣知事ハ各之ヲ内務大臣ニ具狀スヘク、内務大臣ハ此ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事ヲ指定シ、指定セラレタル知事ハ單獨ノ意思ヲ以テ許可ヲ與フヘク、其ノ他總テノ管理事務ヲ行フモノトス（町村制第百五十九條第一項）。府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ渉ル場合ニ於テモ亦關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣參事會ヲ指定スルモノトス。例ヘハ公益上必要アル場合ニ於テ關係府縣知事カ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經、町村組合設置ノ爲内務大臣ノ許可ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ關係府縣知事ハ各議決スヘキ府縣參事會ノ指定ヲ具狀スルニ依リ一府縣參事會カ議決ノ權限ヲ有スルニ至ルカ如シ。然レトモ市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルカ如キ場合ニ府縣參事會ノ意見ヲ徵スルカ如キニ於テハ數府縣知事ハ意見ヲ徵スヘキ府縣參事會ノ指定ヲ具狀スルカ如キコトナレハ此ノ場合ニ於テハ各其ノ意見ヲ徵スルコトカ、最モ必要ナル事項ナルト意見ノ相違ハ内務大臣ヲシテ決定ヲ爲シ能ハサラシムルモノニ非スシテ前述シタル議決ノ相違カ事件ノ進行ヲ阻害スルカ如キ結果ヲ生スルモノニ非サレハナリ（市制第百四十九條第二項町村制第百二十九條第三項及市制第二條第二項）

市　制　第百七十三條　本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用分限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム、

第六條ニ依リ勅令ヲ以テ指定スル市、即東京市京都市及大阪市ノ如キニ在リテハ、其ノ他ノ市ニ比シ人口稠密ニシテ事務從ツテ繁多ナリ。故ニ本法第四章ニ揭クル市ノ有給吏員ノ組織及任用ニ關スル一般的規定ノミヲ以テ律スルコト不穩當ナル場合ヲ生スヘク、從ツテ此等ノ規定ニ依ルノ外其ノ組織例ヘハ第八十五條ニ規定スル有給吏員中ノ或者ニ主事技師技手等ノ特定ノ名稱ヲ有セシメ、權限ヲ有セシメ、任用即チ一定ノ資格アルモノニ非サレハ或程度以上ノ吏員タラシメサル等ノ規定ヲ設クルノ必要アルヘシ。又其ノ分限即チ休職停職退職等ニ關スル規定ヲモ設クルノ必要アルヘシ。本法ハ總テ此等ノ規定ハ勅令ヲ以テスルコトト爲セリ。勿論勅令ヲ以テ總テ細密ニ規定ヲ爲サストモ此等ノ市ヲシテ有給吏員ノ組織任用及分限ノ規定ヲ設ケシメ内務大臣等監督官廳ノ許可ヲ受ケシムル方法ヲ執ルモ亦隨意ナリトス。

第六條ニ依リ勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ法人ニシテ其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ受理ス此ノ種ノ區ハ第七章ニ規定スル市ニ一部タル區ト異ナリ、其ノ區域モ廣大ニシテ事務モ繁多ナリ。之ヲ同一ノ規定ヲ以テ律スル能ハサルコトアルヘシ故ニ本法ハ之ヲ勅令ノ規定ニ讓レリ。（明治四十四年勅令第二百四十四號ハ區會區ノ財産營造物區ノ費用並之カ支辨方法其ノ他區ノ財務及監督ニ關シ規定ス附錄參照ヲ要ス）

市制　第百七十四條
町村制　第百五十四條　第十三條ノ人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル。

市町村會議員ノ定數ハ人口ノ割合ニ應シ之ヲ定ム（市制第十三條　町村制第十一條）然トモ市町村ノ人口ハ移動常ナシ從ッテ如何ナル日ニ於ケル人口ヲ以テ議員ノ定數ヲ確定スヘキ標準ト爲スヘキヤヲ規定スルノ必要アリ。本條ハ之ヲ內務大臣ノ定ムル所ニ依ラシメントスルナリ。舊法ハ「最終ノ人口調査」ト規定ス。（舊市制第百三十條町村制第百三十五條）。新法モ亦專ラ諸種ノ統計ヲ爲シ人口ノ調査ヲモ行フ統計局ノ統計ヲ以テ標準トスヘク、恐ラクハ內務大臣ハ舊法ト同シク內閣統計局ニ於テ調査シ官報ヲ以テ報告スル最近ノ人々ヲ以テ標準トスルノ外ナカルヘシ。

市制　第百七十五條
町村制　第百五十五條　本法ニ於ケル、直接稅及間接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム。

何ヲ以テ直接稅ナリトシ間接稅ナリトスルヤハ市町村公民タルノ資格（「直接國稅」）（市制第九條　町村制第七條）、選舉權ノ有無（「直接市町村稅」）（市制第十四條　町村制第十二條）、選舉ノ等級（「直接市町村稅」）（市制第十五條　町村制第十三條）、選舉區ノ確定（「直接市町村稅若ハ直接國稅」）市町村稅ノ附加稅率（「直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率」）（市制第百十七條　町村制第九十九條）、夫役又ハ現品ノ算出（「直接市町村稅」「直接國稅」）（市制第百二十五條　町村制第百五條）、內務大臣ノ許可（「間接國稅ノ附加稅」）（市制第百六十六條　町村制第百四十六條）等ニ重大ノ關係アリ之ヲ學理ノ決定ニ一任スル能ハス。故ニ之レカ區別ヲ內務大藏兩大臣ニ於テ決定シ告示スルノ必要アリ。即チ本條ヲ設ケタル所以ナリ。明治二十一年大藏省告示第九十五號市制町村制中直接稅及間接稅ノ類別ハ前後五回ノ改正ヲ以テ之ヲ確定ス。即チ地租、所得稅（所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）、營業稅、鑛業稅及賣藥營業稅ヲ以テ直接國稅ト爲シ、戶數割、家屋稅、營業稅、雜種稅ヲ以テ直接府縣稅ト爲シ、直接國府縣稅附加稅及特別割ヲ以テ直接市町村稅ト爲シ、其ノ他ヲ間接稅ト爲シ、府縣市町村ニ於テ特ニ徵收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其ノ直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管內ニ告示セシムルモノトス。

市制　第百七十六條
町村制　第百五十六條　市又ハ市町村町村又ハ町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ市町村ノ事務ニ

付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

組合ノ廢置

市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ何タルヤハ既ニ述ヘタリ（市制第三條乃至第五條町村制第三條第四條）。此等ノ場合ニ於テハ常ニ其ノ事務ノ引繼等ニ關シ幾多ノ問題ヲ生スヘシ。本法ハ即之ニ關スル規定ヲ勅令ニ讓レリ。

市町村組合又ハ町村組合ニ付テハ法ハ其ノ廢置ヲ認メ、分合ヲ認メス。蓋組合ノ廢置トハ組合ノ解除又ハ其ノ設立ヲ謂フ。組合ノ場合ニ在ツテハ分合ニ依リテ廢置ヲ來スコトナシ。故ニ一組合ヲ分チテ直チニ二箇以上ノ組合ト爲シ、二箇以上ノ組合ヲ合シテ一組合ト爲シ、一組合ヲ既存組合ニ合併スルカ如キハ法ノ豫見セサル所ニシテ此等ノ場合ニ於テハ先ツ必ス組合ヲ解除スルヲ必要トス。法ハ市町村組合ノ廢置分合ト謂フト雖、分合ニ付テハ適用ナキモノト知ルヘシ。組合ノ廢置ノ場合ニモ亦組合ヨリ市町村ニ、又ハ市町村ヨリ組合ニ對シ事務ノ引繼等種々ノ必要ナル事務アリ、本法ハ亦之ヲ勅令ニ讓レリ。

組合ノ境界ノ變更

市町村又ハ町村組合ノ境界變更ハ組合市町村ノ加入若ハ脫退又ハ其ノ境界變更ニ依リテノミ生ス。一組合ノ地域ノ一部ヲ直接ニ他ノ組合ノ地域ト爲スカ如キハ、法ノ豫見スル所ニ非ス。組合ノ境界變更ノ場合ニ於テモ亦組合ヨリ組合ニ事務引繼等ニ關スル規定ヲ必要トス。

本法ハ亦勅令ヲ以テ規定スルコトト爲セリ。（附錄明治四十四年勅令第二百四十八號參照）

市制第百七十七條　町村制第百五十七條　本法ハ町村制第百五十七條ノ地域ニ之ヲ施行セス

前項ノ地域ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ本法ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコトヲ得

本條ヲ設ケタル理由

本法ハ市制及町村制ノ施行地域ヲ確定スル規定ナリ。蓋本法中其ノ施行地域ニ關シ何等規定スル所ナケレハ當然朝鮮、臺灣、樺太及關東洲ヲ除ク本邦領土ノ全部ニ施行セラル。然レトモ本法ノ如キ人智ノ比較的高キ程度ニ存スル地域ニ於テ施行スルヲ國家ノ發達上得策トシ、必要トスルモノニ在リテハ之ヲ未タ多ク開明ノ域ニ達セサル地ニ施行スルハ却ツテ國家ノ發達ヲ阻害スルニ終ルヘシ。故ニ本法ハ北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セサルコトト爲セリ。

町村制第百五十七條ノ二項ノ規定アル所以

市制本條ハ町村制第百五十七條ノ地域ニ之ヲ施行セサルコトヲ規定シ、町村制ハ北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セサルコトヲ規定スルカ故ニ、市制モ亦町村制不施行地ニ於テ施行セラレサルモノトス。此等不施行ノ地域ニ於テハ勅令ヲ以テ別ニ町村制ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス。蓋町村制本條第二項カ町村制ニ付テノミ特ニ此ノ規定ヲ設ケタルハ、市制ノ施行セラルヘキ地ハ從來ノ總テノ市ノ區域ニシテ、別ニ本法ニ代ハルヘキ制度ヲ設クルノ必要アル場合ヲ認メサルト同時ニ、町村制不施行地ニ於テハ勅令ヲ以テ法律事項ヲ規定セムトスル便宜ニ出ツルナリ。

不施行地ニ於ケル本法ニ代ハルヘキ制

市制町村制不施行地ニ關シテハ北海道ノ區ニハ北海道區制（三十年勅令第百五十八號）、町村ニハ北海道一級町村制（三十年勅令第百五十九號）、沖繩縣ノ區ニハ沖繩縣區制（四十一年勅令第四十三號）、沖繩縣町村、東京府伊豆七島ノ內大島、八丈島、鹿兒島縣大島郡及長崎縣對馬ニハ沖繩縣及島嶼町村制（四十年勅令第四十六號）、島根縣隱岐國ニハ三十七年勅令第六十三號町村制ニ代ハルヘキ制トシテ施行セラレ、東京府小笠原島、伊豆七島ノ內大島八丈島ヲ除キタル島嶼、北海道區一級及二級町村以外ノ町村、鹿兒島縣硫黃島、黑島、竹島、口之島、臥蛇島、平島、中之島、惡石島、諏訪ノ瀨島及寶島ニハ仍自治制度施行セラレサルモノトス。

附則

附則ハ本法ヲ施行スルニ付必要ナル經過的規定ナリトス。附則モ亦市制町村制ノ一部ナリト雖、附則ナラサル部分ハ永久的規定トシテ本法ノ本體ヲ形成スルニ反シ、附則ハ新舊法過度ノ時代ヲ融和スル一時的規定ナリ。然レトモ此ノ如キハ絕對的理由ノ存スルモノニ非スシテ曾テハ經過的規定モ亦之ヲ附則ナラサル部分ニ規定シ、附則中ニ永久的規定ヲ揭ケタルコトアリ。唯現今ニ於ケル立法例カ然リト云フノミ。

市制第百十八條　町村制第百五十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ本法施行ノ期日ニ關スル規定ナリ。蓋本法ノ如キ市町村自治行政ニ關スル根本法規ハ出來得ヘキ丈人民ヲシテ周知セシメ改正法ノ趣旨ヲ知ラシムルコトヲ必要トス。之レ政府カ議會ノ協贊ノ後直チニ裁可ヲ得明治四十四年四月六日ヲ以テ之ヲ公布セシ所以ナリ。然レトモ若シ本法中施行期日ニ關スル規定ヲ欠缺センカ、其ノ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ施行セラルルコトト爲ル（法例第一條）。此ノ故ヲ以テ本法ハ一般人民ニ周知セシムル必要ト本法附屬ノ勅令等ヲ發布シ本制施行ノ準備トノ爲ニ施行期日ノ規定ヲ勅令ニ委任シ明治四十四年十月一日ヲ以テ施行ノ日ト爲セリ。（附錄明治四十四年勅令第二百三十八號參照）

市制第百十九條　本法施行ノ際現ニ市會議員又ハ區會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

本法施行ノ際現ニ市長助役又ハ收入役ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日ニ於テ其ノ職ヲ失フ

町村制第百五十九條　本法施行ノ際現ニ町村會議員、區會議員又ハ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

本條ハ本法ト舊法トノ間任期ノ規定ヲ異ニスル市町村會議員、區會議員、町村全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員、市長、市助役及市收入役ニシテ本法施行ノ際ニ其ノ職ニ在ル者ハ本法ノ施行ニ依リ其ノ職務ノ期間ニ如何ノ結果ヲ及ホスヘキヤニ付テ規定ス。

舊法ハ市會議員及町村會議員ノ任期ハ之ヲ六年トシ、每三年半數改選ノ主義ヲ採用スト雖（舊市制町村制第十

市町村會議員

條)。本法ハ其ノ任期ヲ四年トシ全部改選ノ主義ヲ採ル(市制第十九條町村制第十六條)。故ニ若シ本法ニ於テ本法施行ノ際其ノ職ニ在ル者ノ任期ニ關シ何等ノ規定ヲ設ケサルトキハ、本法施行ノ際ニ於テ四年ニ該當スル者及四年以上其ノ職ニ在ル者ハ當然失職スヘク、未タ四年ヲ經過セサル者ハ襲職ノ始メヨリ起算シ四年ニ於テ失職スルニ至ルヘシ。然レトモ此ノ如キハ舊法ニ於テ既ニ享有セル權利ヲ剝奪スルカ如キ結果ヲ生スルヲ、本條ハ之レカ救濟ノ意味ヲ以テ「從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フ」コトヲ規定セリ。故ニ本法施行後ノ最初ノ半數改選ノ時期ニ當ツテハ三年ヲ經過セル者ト六年ヲ經過セル者ト將又本法施行前ニ於テ補缺又ハ增員ノ結果トシテ襲職シタルモノトヲ問ハス總テ失職スルモノトス。之レ全部改選ノ主義ヲ採用スル上ニ於テ止ムヲ得サル所ナリトス。但シ本法施行後最近ノ定期改選期以前ニ於テ補缺選舉ニ依リ當選シタル者ハ本法ノ規定ニ依リ前任者ノ殘任期間在任スヘク、若シ前任者ニシテ舊法及新法時代ヲ通シテ在職期間一年ナルトキハ後任者ハ尙三年ノ任期ヲ有スヘク、其ノ以前ニ於テ或ハ舊法ニ依ル最近ノ定期改選期ニ達スルコトアリ得ヘキカ故ニ此ノ種ノ議員ノミ獨リ此ノ改選期ニ於テ職ヲ失ハサルノ結果ヲ生スヘシ(市制第十七條町村制第二十條)。此ノ如キハ誠ニ稀有ノ例タルヘシト雖本條カ「本法施行ノ際現ニ議員ノ職ニ在ル者」ト規定シ施行後施行ノ際現ニ議員タル者ノ補缺トシテ當選シタル者モ亦從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フコトヲ規定セサル以上想像シ得ヘキ事例ニシテ全部改選ノ主義ハ此點ニ於テ破壞セラルルノ虞ナシトセス、市制第百

區會議員

全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員

八十一條及町村制第百六十一條ハ「本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ規定シ施行勅令第六條カ此ノ點ニ關シ規定ヲ設ケタル誠ニ理ナリ。(附錄參照)

舊法ニ在リテハ區會議員ノ任期ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトニ取扱ヒ(市制第百十三條町村制第百十四條)、新法ニ在リテモ亦之ヲ條例中ニ規定スルコトト爲セリ(市制第百四十六條町村制第百二十六條)從ツテ本條中「從前ノ規定」ト云フハ即チ市町村條例ヲ指稱セルモノニシテ、其ノ規定スル所ハ多樣ナルニ拘ハラス「最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失」ハシメタルハ舊法時代ノ條例ハママ全部改選ノ主義ニ依リタルモノアリト雖、多數ハ市町村會議員ノ選舉任期等ノ規定ニ準據シ、二級又ハ三級選舉ニシテ任期ヲ六年ト爲シ、半數改選ノ主義ヲ採レルヲ以テ本法施行上ニ於テハ本法規定スル市町村會議員ノ任期方法等ニ準據セシメントス欲シ、現在職員既存ノ權利ヲ尊重シツツ最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失ハシメムトセルナリ。本法施行後ノ補缺者ニ付テハ前同樣ノ結果ヲ生スヘシ。

全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員ノ任期ハ舊法ニ在ツテハ組合町村ノ協議ニ依リテ條例ヲ以テ規定スヘク、實例トシテハ總テ町村會議員ノ例ニ依ルコトトナレルカ故ニ、其ノ任期ハ四年ニシテ全部改選セラル。故ニ半數改選)ナリシト雖、本法ハ町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外、町村ニ關スル規定ヲ準用スル旨ヲ規定スルカ故ニ(町村制第百三十六條)、其ノ任期ハ四年ニシテ全部改選セラル。故ニ町村組合會議員モ亦市町村會議員ト同シク從前ノ例ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

へク本法施行後ノ補缺者亦前述ノ如シ。

市長、市助役及市收入役

舊法ハ市長市助役及市收入役ノ任期ヲ六年トスル（舊市制第五十條、第五十二條及第五十八條第二項）モ、本法ハ其ノ任期ヲ四年トスルカ故ニ（市制第七十三條、第七十五條及第七十九條）、若シ本條ノ規定ナケレハ前述シタルト同樣ニ就任ノ日ヨリ四年ヲ經過シタル時ヲ以テ職ヲ失フヘシ。「任期滿了ノ日ニ於テ其ノ職ヲ失フ」コトヲ規定シタルモ亦既存ノ權利ヲ尊重シタルナリ。町村長、助役及收入役ニ付テ此ノ種ノ規定ナキハ本法ニ於テモ亦其ノ任期ヲ舊法ノ如ク四年ト爲シタルニ依リ本法施行ニ依リ何等影響ヲ蒙ムル所ナキニ依ル。

名譽職市參事會員

名譽職市參事會員ノ任期ハ舊法ト異ナル所ナシト雖（舊市制第五十四條、新市制第六十五條）、舊法ハ市會ニ於テ其ノ市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧スルニ反シ本法ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選擧スルコトト爲セリ。然モ本法ハ其ノ被選擧資格ノ基礎ノ相違ヲ來セシニ拘ハラス何等ノ經過的規定ヲ設ケス。從ツテ舊法ニ依ル名譽職市參事會員ハ本法施行ト同時ニ失職スヘク、更ニ選擧ヲ行ハサル可ラサルナリ。

市ノ委員

市ノ委員ハ舊法ハ市會議員ヨリ出ツル者ハ市參事會之ヲ選擧シ其ノ他ノ委員ハ市長之ヲ選任スルコトヲ規定スレトモ（舊市制第六十一條）本法ハ市會ニ於テ市會議員、名譽職參事會員又ハ市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧スルモノニシテ（市制第八十三條）舊法ト選擧ノ方法ヲ異ニシ然モ經過ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ亦本法施行ト同時ニ失職スヘキモノトス。

第百八十條　第百六十條　舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

本條ハ本法ニ於テ現行刑法ノ刑名ヲ揭ケタルモノカ舊刑法ノ刑又ハ之ニ處セラレタル者ト如何ナル關係ヲ有スルヤ、換言スレハ舊刑法ノ刑又ハ之ニ處セラレタル者カ本法ノ適用上如何ニ取扱ハルヘキヤヲ規定ス。

刑法施行法第三十三條ハ死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做シ、同第三十條第二項ハ死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ、舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做スコトヲ規定スト雖、他ノ法律ニ於テ新刑法ノ刑名ヲ揭クルモノカ舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者、又ハ舊刑法ノ刑名ヲ如何ニ取扱フヘキヤヲ規定セス。刑法施行後施行ノ命令ニ揭ケタル新刑法カノ刑名舊刑法ノ刑名ト如何ナル關係ヲ有シ如何ニ之ヲ包含スルヤニ付テハ、明治四十二年勅令第百二十號ハ之ヲ明定セルカ故ニ、命令ニ於テ新刑法ノ刑名ヲ揭ケタルモノアルモ特ニ舊刑法ノ刑名トノ關係ヲ規定スルヲ要セスト雖、法律ニ付テハ此ノ種ノ規定ナシ、即チ本條ノ必要ナル所以ナリ。

本法ハ「六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者」（市制第九條町村制第七條）、「禁錮以上ノ刑」（市制第十一條、第八十

四條、町村制第九條、第七十條）等ノ規定ヲ有ス。舊刑法ノ適用ヲ受ケ其ノ重罪ノ刑（死刑、無期又ハ有期徒刑、無期又ハ有期流刑、重輕懲役及重輕禁獄）ニ處セラレタル者ハ、本法ヲ適用スル上ニ於テハ新刑法ノ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者トシテ取扱フヘク、舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ヲ適用スル上ニ於テ禁錮以上ノ刑ト看做シ、舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ、本法ニ掲クル新刑法ノ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノト看做シ取扱フヘキモノトス（新舊刑名相同シト雖全然別箇ノ刑ニ屬ス）。

舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ復權ヲ得タル者モ亦處セラレタル者ノ一ニ位ス。然レトモ既ニ復權ノ處分ヲ得舊刑法第三十一條列記ノ公權ヲ行使スルヲ得ルモノナルニ依リ、之ヲ本法ノ適用ニ於テ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者トシテ取扱フノ必要ナク利益ナシ、之レ第一項但書ノ規定アル所以ナリ。

市制 第百八十一條
町村制 第百六十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ニ必要ナル命令即チ施行命令ニ關スル規定ナリ。施行命令ハ單ニ本法ノ施行ニ關スル命令ナルヲ以テ、特ニ本法ニ於テ本條ノ如キ規定ヲ設クルコトナキモ當然規定シ得ヘキ處ナリ。然レトモ多數ノ用例ハ此ノ種ノ條規ヲ掲ク。之レ單純ナル施行命令以外ニ於テ、稀ニ存スル本法ノ不備ヲ委任命令ノ形式ニ於テ補充セントスルノ目的ニ出ツルナリ。（明治四十四年勅令第二百四十三號參照）

市制町村制釋義 終

附錄 ノ一

改正市制町村制條項舊法令條項對照表

改正市制	舊法令	頁
第一條	（市）第三條第一項	四
第二條	（市）第二條	四
第三條	○	五
第四條	（市）第四條第一項	五
第五條	（市）第五條	六
第六條	（市）第三條第二項第四條第二項	六
第七條	（勅）第十條、明治三十三年法律第七十七號	七
第八條	（市）第六條	七
第九條	（市）第七條、明治二十年內務省令第三號第八條、第十條	八
第十條	（市）第八條	九
第十一條	（市）第九條第一項乃至第三項	一〇
第十二條	（帝）第十條	一一
第十三條	（市）第十一條	一二
第十四條	（市）第十二條	一三
第十五條	（市）第十三條	一三
第十六條	（市）第十四條	一四
第十七條	（市）第十五條	一五
第十八條	（市）第十七條	一五
第十九條	（市）第十八條、第十五條	一六
第二十條	（市）第二十條	一八
第二十一條	（市）第二十一條	一九
第二十二條	（市）第十九條	一九
第二十三條	（市）第二十二條	二〇
第二十四條	（市）第二十三條	二〇
第二十五條	（市）第二十四條第一項	二一
第二十六條	○	二一
第二十七條	（市）第二十四條第二項	二一
第二十八條	（市）第二十三條第一項第二項	二一
第二十九條	（市）第二十五條	二一
第三十條	（市）第二十三條第三項	二一
第三十一條	（市）第二十六條	二一
第三十二條	（市）第十五條第三項、第二十七條	二一
第三十三條	○	二一
第三十四條	（市）第二十八條第二項	二一
第三十五條	（市）第二十八條第三項	二一
第三十六條	（市）第二十八條第二項第三項、第三十五條	二一

第三十七條……二四
第三十八條（市）第九條第四項、第二十九條、第三十五條……二四七
第三十九條……二五二
第四十條 明治二十三年法律第三十九號……二五四
第四十一條（市）第三十條……二六〇
第四十二條（市）第三十一條……二六四
第四十三條……二七一
第四十四條（市）第三十二條……二七二
第四十五條（市）第三十三條第一項……二七四
第四十六條（市）第三十三條第二項……二七八
第四十七條（市）第三十四條……二八〇
第四十八條（市）第三十七條……二八二
第四十九條（市）第三十八條第二項……二八三
第五十條（市）第四十條第一項……二九〇
第五十一條（市）第四十一條……二九六
第五十二條（市）第四十二條……三〇〇
第五十三條（市）第三十八條第一項、第四十三條第一項、第四十四條……三〇二
第五十四條（市）第四十五條……三〇六
第五十五條 附錄……三一四
第五十六條（市）第四十五條……三一九
第五十七條（市）第四十六條……三二一
第五十八條（市）第四十七條……三二三
第五十九條（市）第四十八條……三二六
第六十條（市）第四十九條……三二八
第六十一條（市）第四十九條……三三二
第六十二條（市）第四十九條……三三四
第六十三條（市）第四十九條……三三六
第六十四條（市）第四十九條……三三八
第六十五條（市）第四十九條……三四二
第六十六條（市）第四十九條……三四四
第六十七條（市）第四十九條……三四六
第六十八條（市）第四十九條……三四八
第六十九條（市）第四十九條……三五〇
第七十條（市）第四十九條……三五二
第七十一條（市）第四十九條……三五四
第七十二條（市）第四十九條……三五六
第七十三條（市）第四十九條……三五八
第七十四條（市）第五十一條、第五十二條、第五十三條……三六〇
第七十五條（市）第五十四條……三六二
第七十六條（市）第五十五條……三六四
第七十七條（市）第五十六條……三六六
第七十八條（市）第五十七條……三六八
第七十九條（市）第五十八條……三七〇
第八十條（市）第五十九條……三七二
第八十一條（市）第六十條……三七四
第八十二條（市）第六十一條……三七六
第八十三條（市）第六十二條……三七八
第八十四條（市）第六十三條……三八〇
第八十五條（市）第六十四條……三八二
第八十六條（市）第六十五條……三八四
第八十七條（市）第六十六條……三八六
第八十八條（市）第六十七條……三八八
第九十條（市）第六十八條……三九〇
第九十一條（市）第六十九條……三九二
第九十二條（市）第七十條……三九四
第九十三條（市）第七十一條……三九六
第九十四條（市）第七十二條……三九八
第九十五條（市）第七十三條……四〇〇
第九十六條（市）第七十四條……四〇二
第九十七條（市）第七十五條……四〇四
第九十八條（市）第七十六條……四〇六
第九十九條（市）第七十七條……四〇八
第百條（市）第七十八條……四一〇
第百一條（市）第七十九條……四一二
第百二條（市）第八十條……四一四
第百三條（市）第八十一條……四一六
第百四條（市）第八十二條……四一八
第百五條（市）第八十三條……四二〇
第百六條（市）第八十四條……四二二
第百七條（市）第八十五條……四二四
第百八條（市）第八十六條……四二六
第百九條（市）第八十七條……四二八
第百十條（市）第八十八條……四三〇
第百十一條（市）第八十九條……四三二
第百十二條（市）第九十條……四三四
第百十三條（市）第九十一條……四三六
第百十四條（市）第九十二條……四三八
第百十五條（市）第九十三條……四四〇
第百十六條（市）第九十四條……四四二
第百十七條（市）第九十五條……四四四
第百十八條（市）第九十六條……四四六
第百十九條（市）第九十七條……四四八
第百二十條（市）第九十八條……四四九
第百二十一條（市）第九十九條……四五一
第百二十二條（市）第百條……四五三
第百二十三條（市）第百一條……四五五
第百二十四條（市）第百二條……四五七
第百二十五條（市）第百三條……四五九
第百二十六條（市）第百四條……四六一
第百二十七條（市）第百五條……四六三
第百二十八條（市）第百六條……四六五
第百二十九條（市）第百七條……四六七
第百三十條（市）第百八條……四六九
第百三十一條（市）第百九條……四七一
第百三十二條（市）第百十條……四七三
第百三十三條（市）第百十一條……四七五
第百三十四條（市）第百十二條……四七七
第百三十五條（市）第百十三條……四七九
第百三十六條（市）第百十四條……四八一
第百三十七條（市）第百十五條……四八三
第百三十八條（市）第百十六條……四八五
第百三十九條（市）第百十七條……四八七
第百四十條（市）第百十八條……四八九
第百四十一條（市）第百十九條……四九一
第百四十二條（市）第百二十條……四九三
第百四十三條（市）第百二十一條……四九五
第百四十四條（市）第百二十二條……四九七
第百四十五條（市）第百二十三條……四九九
第百四十六條（市）第百二十四條……五〇一
第百四十七條（市）第百二十五條……五〇三
第百四十八條（市）第百二十六條……五〇五
第百四十九條（市）第百二十七條……五〇七
第百五十條（市）第百二十八條……五〇九
第百五十一條（市）第百二十九條……五一一
第百五十二條（市）第百三十條……五一三
第百五十三條（市）第百三十一條……五一五
第百五十四條（市）第百三十二條……五一七
第百五十五條（市）第百三十三條……五一九
第百五十六條（市）第百三十四條……五二一
第百五十七條（市）第百三十五條……五二三
第百五十八條（市）第百三十六條……五二五
第百五十九條（市）第百三十七條……五二七
第百六十條（市）第百三十八條……五二九
第百六十一條（市）第百三十九條……五三一
第百六十二條（市）第百四十條……五三三
第百六十三條（市）第百四十一條……五三五
第百六十四條（市）第百四十二條……五三七
第百六十五條（市）第百四十三條……五三九
第百六十六條（市）第百四十四條……五四一
第百六十七條（市）第百四十五條……五四三
第百六十八條（市）第百四十六條……五四五
第百六十九條（市）第百四十七條……五四七
第百七十條（市）第百四十八條……五四九
第百七十一條（市）第百四十九條……五五一
第百七十二條（市）第百五十條……五五三
第百七十三條（市）第百五十一條……五五五
第百七十四條（市）第百五十二條……五五七
第百七十五條（市）第百五十三條……五五九
第百七十六條（市）第百五十四條……五六一
第百七十七條（市）第百五十五條……五六三
第百七十八條（市）第百五十六條……五六五
第百七十九條（市）第百五十七條……五六七
第百八十條（市）第百五十八條……五六九
第百八十一條（市）第百五十九條……五七一
第百八十二條（市）第百六十條……五七三
第百八十三條（市）第百六十一條……五七五
第百八十四條（市）第百六十二條……五七七
第百八十五條（市）第百六十三條……五七九
第百八十六條（市）第百六十四條……五八一
第百八十七條（市）第百六十五條……五八三
第百八十八條（市）第百六十六條……五八五
第百八十九條（市）第百六十七條……五八七
第百九十條（市）第百六十八條……五八九
第百九十一條（市）第百六十九條……五九一
第百九十二條（市）第百七十條……五九三
第百九十三條（市）第百七十一條……五九五
第百九十四條（市）第百七十二條……五九七
第百九十五條（市）第百七十三條……五九九
第百九十六條（市）第百七十四條……六〇一
第百九十七條（市）第百七十五條……六〇三
第百九十八條（市）第百七十六條……六〇五
第百九十九條（市）第百七十七條……六〇七
第二百條（市）第百七十八條……六〇九
第二百一條（市）第百七十九條……六一一
第二百二條（市）第百八十條……六一三
第二百三條（市）第百八十一條……六一五
第二百四條（市）第百八十二條……六一七
第二百五條（市）第百八十三條……六一九
第二百六條（市）第百八十四條……六二一
第二百七條（市）第百八十五條……六二三
第二百八條（市）第百八十六條……六二五
第二百九條（市）第百八十七條……六二七
第二百十條（市）第百八十八條……六二九
第二百十一條（市）第百八十九條……六三一
第二百十二條（市）第百九十條……六三三
第二百十三條（市）第百九十一條……六三五
第二百十四條（市）第百九十二條……六三七
第二百十五條（市）第百九十三條……六三九
第二百十六條（市）第百九十四條……六四一
第二百十七條（市）第百九十五條……六四三
第二百十八條（市）第百九十六條……六四五
第二百十九條（市）第百九十七條……六四七
第二百二十條（市）第百九十八條……六四九
第二百二十一條（市）第百九十九條……六五一
第二百二十二條（市）第二百條……六五三
第二百二十三條（市）第二百一條……六五五
第二百二十四條（市）第二百二條……六五七
第二百二十五條（市）第二百三條……六五九
第二百二十六條（市）第二百四條……六六一
第二百二十七條（市）第二百五條……六六三
第二百二十八條（市）第二百六條……六六五
第二百二十九條（市）第二百七條……六六七
第二百三十條（市）第二百八條……六六九
第二百三十一條（市）第二百九條……六七一
第二百三十二條（市）第二百十條……六七三
第二百三十三條（市）第二百十一條……六七五
第二百三十四條（市）第二百十二條……六七七
第二百三十五條（市）第二百十三條……六七九
第二百三十六條（市）第二百十四條……六八一
第二百三十七條（市）第二百十五條……六八三
第二百三十八條（市）第二百十六條……六八五
第二百三十九條（市）第二百十七條……六八七
第二百四十條（市）第二百十八條……六八九
第二百四十一條（市）第二百十九條……六九一
第二百四十二條（市）第二百二十條……六九三
第二百四十三條（市）第二百二十一條……六九五
第二百四十四條（市）第二百二十二條……六九七
第二百四十五條（市）第二百二十三條……六九九
第二百四十六條（市）第二百二十四條……七〇一
第二百四十七條（市）第二百二十五條……七〇三
第二百四十八條（市）第二百二十六條……七〇五
第二百四十九條（市）第二百二十七條……七〇七
第二百五十條（市）第二百二十八條……七〇九
第二百五十一條（市）第二百二十九條……七一一
第二百五十二條（市）第二百三十條……七一三
第二百五十三條（市）第二百三十一條……七一五
第二百五十四條（市）第二百三十二條……七一七
第二百五十五條（市）第二百三十三條……七一九
第二百五十六條（市）第二百三十四條……七二一
第二百五十七條（市）第二百三十五條……七二三
第二百五十八條（市）第二百三十六條……七二五
第二百五十九條（市）第二百三十七條……七二七
第二百六十條（市）第二百三十八條……七二九
第二百六十一條（市）第二百三十九條……七三一
第二百六十二條（市）第二百四十條……七三三
第二百六十三條（市）第二百四十一條……七三五
第二百六十四條（市）第二百四十二條……七三七
第二百六十五條（市）第二百四十三條……七三九
第二百六十六條（市）第二百四十四條……七四一
第二百六十七條（市）第二百四十五條……七四三
第二百六十八條（市）第二百四十六條……七四五
第二百六十九條（市）第二百四十七條……七四七
第二百七十條（市）第二百四十八條……七四九
第二百七十一條（市）第二百四十九條……七五一
第二百七十二條（市）第二百五十條……七五三
第二百七十三條（市）第二百五十一條……七五五
第二百七十四條（市）第二百五十二條……七五七
第二百七十五條（市）第二百五十三條……七五九
第二百七十六條（市）第二百五十四條……七六一
第二百七十七條（市）第二百五十五條……七六三
第二百七十八條（市）第二百五十六條……七六五
第二百七十九條（市）第二百五十七條……七六七
第二百八十條（市）第二百五十八條……七六九
第二百八十一條（市）第二百五十九條……七七一
第二百八十二條（市）第二百六十條……七七三
第二百八十三條（市）第二百六十一條……七七五
第二百八十四條（市）第二百六十二條……七七七
第二百八十五條（市）第二百六十三條……七七九
第二百八十六條（市）第二百六十四條……七八一
第二百八十七條（市）第二百六十五條……七八三
第二百八十八條（市）第二百六十六條……七八五
第二百八十九條（市）第二百六十七條……七八七
第二百九十條（市）第二百六十八條……七八九
第二百九十一條（市）第二百六十九條……七九一
第二百九十二條（市）第二百七十條……七九三
第二百九十三條（市）第二百七十一條……七九五
第二百九十四條（市）第二百七十二條……七九七
第二百九十五條（市）第二百七十三條……七九九
第二百九十六條（市）第二百七十四條……八〇一
第二百九十七條（市）第二百七十五條……八〇三
第二百九十八條（市）第二百七十六條……八〇五
第二百九十九條（市）第二百七十七條……八〇七
第三百條（市）第二百七十八條……八〇九
第三百一條（市）第二百七十九條……八一一
第三百二條（市）第二百八十條……八一三
第三百三條（市）第二百八十一條……八一五
第三百四條（市）第二百八十二條……八一七
第三百五條（市）第二百八十三條……八一九
第三百六條（市）第二百八十四條……八二一
第三百七條（市）第二百八十五條……八二三
第三百八條（市）第二百八十六條……八二五
第三百九條（市）第二百八十七條……八二七
第三百十條（市）第二百八十八條……八二九
第三百十一條（市）第二百八十九條……八三一
第三百十二條（市）第二百九十條……八三三
第三百十三條（市）第二百九十一條……八三五
第三百十四條（市）第二百九十二條……八三七
第三百十五條（市）第二百九十三條……八三九
第三百十六條（市）第二百九十四條……八四一
第三百十七條（市）第二百九十五條……八四三
第三百十八條（市）第二百九十六條……八四五
第三百十九條（市）第二百九十七條……八四七
第三百二十條（市）第二百九十八條……八四九
第三百二十一條（市）第二百九十九條……八五一
第三百二十二條（市）第三百條……八五三
第三百二十三條（市）第三百一條……八五五
第三百二十四條（市）第三百二條……八五七
第三百二十五條（市）第三百三條……八五九
第三百二十六條（市）第三百四條……八六一
第三百二十七條（市）第三百五條……八六三
第三百二十八條（市）第三百六條……八六五
第三百二十九條（市）第三百七條……八六七
第三百三十條（市）第三百八條……八六九
第三百三十一條（市）第三百九條……八七一
第三百三十二條（市）第三百十條……八七三
第三百三十三條（市）第三百十一條……八七五
第三百三十四條（市）第三百十二條……八七七
第三百三十五條（市）第三百十三條……八七九
第三百三十六條（市）第三百十四條……八八一
第三百三十七條（市）第三百十五條……八八三
第三百三十八條（市）第三百十六條……八八五
第三百三十九條（市）第三百十七條……八八七
第三百四十條（市）第三百十八條……八八九
第三百四十一條（市）第三百十九條……八九一
第三百四十二條（市）第三百二十條……八九三
第三百四十三條（市）第三百二十一條……八九五
第三百四十四條（市）第三百二十二條……八九七
第三百四十五條（市）第三百二十三條……八九九
第三百四十六條（市）第三百二十四條……九〇一
第三百四十七條（市）第三百二十五條……九〇三
第三百四十八條（市）第三百二十六條……九〇五
第三百四十九條（市）第三百二十七條……九〇七
第三百五十條（市）第三百二十八條……九〇九
第三百五十一條（市）第三百二十九條……九一一
第三百五十二條（市）第三百三十條……九一三
第三百五十三條（市）第三百三十一條……九一五
第三百五十四條（市）第三百三十二條……九一七
第三百五十五條（市）第三百三十三條……九一九
第三百五十六條（市）第三百三十四條……九二一
第三百五十七條（市）第三百三十五條……九二三
第三百五十八條（市）第三百三十六條……九二五
第三百五十九條（市）第三百三十七條……九二七
第三百六十條（市）第三百三十八條……九二九
第三百六十一條（市）第三百三十九條……九三一
第三百六十二條（市）第三百四十條……九三三
第三百六十三條（市）第三百四十一條……九三五
第三百六十四條（市）第三百四十二條……九三七
第三百六十五條（市）第三百四十三條……九三九
第三百六十六條（市）第三百四十四條……九四一
第三百六十七條（市）第三百四十五條……九四三
第三百六十八條（市）第三百四十六條……九四五
第三百六十九條（市）第三百四十七條……九四七
第三百七十條（市）第三百四十八條……九四九
第三百七十一條（市）第三百四十九條……九五一
第三百七十二條（市）第三百五十條……九五三
第三百七十三條（市）第三百五十一條……九五五
第三百七十四條（市）第三百五十二條……九五七
第三百七十五條（市）第三百五十三條……九五九
第三百七十六條（市）第三百五十四條……九六一
第三百七十七條（市）第三百五十五條……九六三
第三百七十八條（市）第三百五十六條……九六五
第三百七十九條（市）第三百五十七條……九六七
第三百八十條（市）第三百五十八條……九六九
第三百八十一條（市）第三百五十九條……九七一
第三百八十二條（市）第三百六十條……九七三
第三百八十三條（市）第三百六十一條……九七五
第三百八十四條（市）第三百六十二條……九七七
第三百八十五條（市）第三百六十三條……九七九
第三百八十六條（市）第三百六十四條……九八一
第三百八十七條（市）第三百六十五條……九八三
第三百八十八條（市）第三百六十六條……九八五
第三百八十九條（市）第三百六十七條……九八七
第三百九十條（市）第三百六十八條……九八九
第三百九十一條（市）第三百六十九條……九九一
第三百九十二條（市）第三百七十條……九九三
第三百九十三條（市）第三百七十一條……九九五
第三百九十四條（市）第三百七十二條……九九七
第三百九十五條（市）第三百七十三條……九九九
第三百九十六條（市）第三百七十四條……一〇〇一
第三百九十七條（市）第三百七十五條……一〇〇三
第三百九十八條（市）第三百七十六條……一〇〇五
第三百九十九條（市）第三百七十七條……一〇〇七
第四百條（市）第三百七十八條……一〇〇九
第四百一條（市）第三百七十九條……一〇一一
第四百二條（市）第三百八十條……一〇一三
第四百三條（市）第三百八十一條……一〇一五
第四百四條（市）第三百八十二條……一〇一七
第四百五條（市）第三百八十三條……一〇一九
第四百六條（市）第三百八十四條……一〇二一
第四百七條（市）第三百八十五條……一〇二三
第四百八條（市）第三百八十六條……一〇二五
第四百九條（市）第三百八十七條……一〇二七
第四百十條（市）第三百八十八條……一〇二九
第四百十一條（市）第三百八十九條……一〇三一
第四百十二條（市）第三百九十條……一〇三三
第四百十三條（市）第三百九十一條……一〇三五
第四百十四條（市）第三百九十二條……一〇三七
第四百十五條（市）第三百九十三條……一〇三九
第四百十六條（市）第三百九十四條……一〇四一
第四百十七條（市）第三百九十五條……一〇四三
第四百十八條（市）第三百九十六條……一〇四五
第四百十九條（市）第三百九十七條……一〇四七
第四百二十條（市）第三百九十八條……一〇四九
第四百二十一條（市）第三百九十九條……一〇五一
第四百二十二條（市）第四百條……一〇五三
第四百二十三條（市）第四百一條……一〇五五
第四百二十四條（市）第四百二條……一〇五七
第四百二十五條（市）第四百三條……一〇五九
第四百二十六條（市）第四百四條……一〇六一
第四百二十七條（市）第四百五條……一〇六三
第四百二十八條（市）第四百六條……一〇六五
第四百二十九條（市）第四百七條……一〇六七
第四百三十條（市）第四百八條……一〇六九
第四百三十一條（市）第四百九條……一〇七一
第四百三十二條（市）第四百十條……一〇七三
第四百三十三條（市）第四百十一條……一〇七五
第四百三十四條（市）第四百十二條……一〇七七
第四百三十五條（市）第四百十三條……一〇七九
第四百三十六條（市）第四百十四條……一〇八一
第四百三十七條（市）第四百十五條……一〇八三
第四百三十八條（市）第四百十六條……一〇八五
第四百三十九條（市）第四百十七條……一〇八七
第四百四十條（市）第四百十八條……一〇八九
第四百四十一條（市）第四百十九條……一〇九一
第四百四十二條（市）第四百二十條……一〇九三
第四百四十三條（市）第四百二十一條……一〇九五
第四百四十四條（市）第四百二十二條……一〇九七
第四百四十五條（市）第四百二十三條……一〇九九
第四百四十六條（市）第四百二十四條……一一〇一
第四百四十七條（市）第四百二十五條……一一〇三
第四百四十八條（市）第四百二十六條……一一〇五
第四百四十九條（市）第四百二十七條……一一〇七
第四百五十條（市）第四百二十八條……一一〇九
第四百五十一條（市）第四百二十九條……一一一一
第四百五十二條（市）第四百三十條……一一一三
第四百五十三條（市）第四百三十一條……一一一五
第四百五十四條（市）第四百三十二條……一一一七
第四百五十五條（市）第四百三十三條……一一一九
第四百五十六條（市）第四百三十四條……一一二一
第四百五十七條（市）第四百三十五條……一一二三
第四百五十八條（市）第四百三十六條……一一二五
第四百五十九條（市）第四百三十七條……一一二七
第四百六十條（市）第四百三十八條……一一二九
第四百六十一條（市）第四百三十九條……一一三一
第四百六十二條（市）第四百四十條……一一三三
第四百六十三條（市）第四百四十一條……一一三五
第四百六十四條（市）第四百四十二條……一一三七
第四百六十五條（市）第四百四十三條……一一三九
第四百六十六條（市）第四百四十四條……一一四一
第四百六十七條（市）第四百四十五條……一一四三
第四百六十八條（市）第四百四十六條……一一四五
第四百六十九條（市）第四百四十七條……一一四七
第四百七十條（市）第四百四十八條……一一四九
第四百七十一條（市）第四百四十九條……一一五一
第四百七十二條（市）第四百五十條……一一五三
第四百七十三條（市）第四百五十一條……一一五五
第四百七十四條（市）第四百五十二條……一一五七
第四百七十五條（市）第四百五十三條……一一五九
第四百七十六條（市）第四百五十四條……一一六一
第四百七十七條（市）第四百五十五條……一一六三
第四百七十八條（市）第四百五十六條……一一六五
第四百七十九條（市）第四百五十七條……一一六七
第四百八十條（市）第四百五十八條……一一六九
第四百八十一條（市）第四百五十九條……一一七一
第四百八十二條（市）第四百六十條……一一七三
第四百八十三條（市）第四百六十一條……一一七五
第四百八十四條（市）第四百六十二條……一一七七
第四百八十五條（市）第四百六十三條……一一七九
第四百八十六條（市）第四百六十四條……一一八一
第四百八十七條（市）第四百六十五條……一一八三
第四百八十八條（市）第四百六十六條……一一八五
第四百八十九條（市）第四百六十七條……一一八七
第四百九十條（市）第四百六十八條……一一八九
第四百九十一條（市）第四百六十九條……一一九一
第四百九十二條（市）第四百七十條……一一九三
第四百九十三條（市）第四百七十一條……一一九五
第四百九十四條（市）第四百七十二條……一一九七
第四百九十五條（市）第四百七十三條……一一九九
第四百九十六條（市）第四百七十四條……一二〇一
第四百九十七條（市）第四百七十五條……一二〇三
第四百九十八條（市）第四百七十六條……一二〇五
第四百九十九條（市）第四百七十七條……一二〇七
第五百條（市）第四百七十八條……一二〇九
第五百一條（市）第四百七十九條……一二一一
第五百二條（市）第四百八十條……一二一三
第五百三條（市）第四百八十一條……一二一五
第五百四條（市）第四百八十二條……一二一七
第五百五條（市）第四百八十三條……一二一九
第五百六條（市）第四百八十四條……一二二一
第五百七條（市）第四百八十五條……一二二三
第五百八條（市）第四百八十六條……一二二五
第五百九條（市）第四百八十七條……一二二七
第五百十條（市）第四百八十八條……一二二九
第五百十一條（市）第四百八十九條……一二三一
第五百十二條（市）第四百九十條……一二三三
第五百十三條（市）第四百九十一條……一二三五
第五百十四條（市）第四百九十二條……一二三七
第五百十五條（市）第四百九十三條……一二三九
第五百十六條（市）第四百九十四條……一二四一
第五百十七條（市）第四百九十五條……一二四三
第五百十八條（市）第四百九十六條……一二四五
第五百十九條（市）第四百九十七條……一二四七
第五百二十條（市）第四百九十八條……一二四九
第五百二十一條（市）第四百九十九條……一二五一
第五百二十二條（市）第五百條……一二五三
第五百二十三條（市）第五百一條……一二五五
第五百二十四條（市）第五百二條……一二五七
第五百二十五條（市）第五百三條……一二五九
第五百二十六條（市）第五百四條……一二六一
第五百二十七條（市）第五百五條……一二六三
第五百二十八條（市）第五百六條……一二六五
第五百二十九條（市）第五百七條……一二六七
第五百三十條（市）第五百八條……一二六九
第五百三十一條（市）第五百九條……一二七一
第五百三十二條（市）第五百十條……一二七三
第五百三十三條（市）第五百十一條……一二七五
第五百三十四條（市）第五百十二條……一二七七
第五百三十五條（市）第五百十三條……一二七九
第五百三十六條（市）第五百十四條……一二八一
第五百三十七條（市）第五百十五條……一二八三
第五百三十八條（市）第五百十六條……一二八五
第五百三十九條（市）第五百十七條……一二八七
第五百四十條（市）第五百十八條……一二八九
第五百四十一條（市）第五百十九條……一二九一
第五百四十二條（市）第五百二十條……一二九三
第五百四十三條（市）第五百二十一條……一二九五
第五百四十四條（市）第五百二十二條……一二九七
第五百四十五條（市）第五百二十三條……一二九九
第五百四十六條（市）第五百二十四條……一三〇一
第五百四十七條（市）第五百二十五條……一三〇三
第五百四十八條（市）第五百二十六條……一三〇五
第五百四十九條（市）第五百二十七條……一三〇七
第五百五十條（市）第五百二十八條……一三〇九
第五百五十一條（市）第五百二十九條……一三一一
第五百五十二條（市）第五百三十條……一三一三
第五百五十三條（市）第五百三十一條……一三一五
第五百五十四條（市）第五百三十二條……一三一七
第五百五十五條（市）第五百三十三條……一三一九
第五百五十六條（市）第五百三十四條……一三二一
第五百五十七條（市）第五百三十五條……一三二三
第五百五十八條（市）第五百三十六條……一三二五
第五百五十九條（市）第五百三十七條……一三二七
第五百六十條（市）第五百三十八條……一三二九
第五百六十一條（市）第五百三十九條……一三三一
第五百六十二條（市）第五百四十條……一三三三
第五百六十三條（市）第五百四十一條……一三三五
第五百六十四條（市）第五百四十二條……一三三七
第五百六十五條（市）第五百四十三條……一三三九
第五百六十六條（市）第五百四十四條……一三四一
第五百六十七條（市）第五百四十五條……一三四三
第五百六十八條（市）第五百四十六條……一三四五
第五百六十九條（市）第五百四十七條……一三四七
第五百七十條（市）第五百四十八條……一三四九
第五百七十一條（市）第五百四十九條……一三五一
第五百七十二條（市）第五百五十條……一三五三
第五百七十三條（市）第五百五十一條……一三五五
第五百七十四條（市）第五百五十二條……一三五七
第五百七十五條（市）第五百五十三條……一三五九
第五百七十六條（市）第五百五十四條……一三六一
第五百七十七條（市）第五百五十五條……一三六三
第五百七十八條（市）第五百五十六條……一三六五
第五百七十九條（市）第五百五十七條……一三六七
第五百八十條（市）第五百五十八條……一三六九
第五百八十一條（市）第五百五十九條……一三七一
第五百八十二條（市）第五百六十條……一三七三
第五百八十三條（市）第五百六十一條……一三七五
第五百八十四條（市）第五百六十二條……一三七七
第五百八十五條（市）第五百六十三條……一三七九
第五百八十六條（市）第五百六十四條……一三八一
第五百八十七條（市）第五百六十五條……一三八三
第五百八十八條（市）第五百六十六條……一三八五
第五百八十九條（市）第五百六十七條……一三八七
第五百九十條（市）第五百六十八條……一三八九
第五百九十一條（市）第五百六十九條……一三九一
第五百九十二條（市）第五百七十條……一三九三
第五百九十三條（市）第五百七十一條……一三九五
第五百九十四條（市）第五百七十二條……一三九七
第五百九十五條（市）第五百七十三條……一三九九
第五百九十六條（市）第五百七十四條……一四〇一
第五百九十七條（市）第五百七十五條……一四〇三
第五百九十八條（市）第五百七十六條……一四〇五
第五百九十九條（市）第五百七十七條……一四〇七
第六百條（市）第五百七十八條……一四〇九
第六百一條（市）第五百七十九條……一四一一
第六百二條（市）第五百八十條……一四一三
第六百三條（市）第五百八十一條……一四一五
第六百四條（市）第五百八十二條……一四一七
第六百五條（市）第五百八十三條……一四一九
第六百六條（市）第五百八十四條……一四二一
第六百七條（市）第五百八十五條……一四二三
第六百八條（市）第五百八十六條……一四二五
第六百九條（市）第五百八十七條……一四二七
第六百十條（市）第五百八十八條……一四二九
第六百十一條（市）第五百八十九條……一四三一
第六百十二條（市）第五百九十條……一四三三
第六百十三條（市）第五百九十一條……一四三五
第六百十四條（市）第五百九十二條……一四三七
第六百十五條（市）第五百九十三條……一四三九
第六百十六條（市）第五百九十四條……一四四一
第六百十七條（市）第五百九十五條……一四四三
第六百十八條（市）第五百九十六條……一四四五
第六百十九條（市）第五百九十七條……一四四七
第六百二十條（市）第五百九十八條……一四四九
第六百二十一條（市）第五百九十九條……一四五一
第六百二十二條（市）第六百條……一四五三
第六百二十三條（市）第六百一條……一四五五
第六百二十四條（市）第六百二條……一四五七
第六百二十五條（市）第六百三條……一四五九
第六百二十六條（市）第六百四條……一四六一
第六百二十七條（市）第六百五條……一四六三
第六百二十八條（市）第六百六條……一四六五
第六百二十九條（市）第六百七條……一四六七
第六百三十條（市）第六百八條……一四六九
第六百三十一條（市）第六百九條……一四七一
第六百三十二條（市）第六百十條……一四七三
第六百三十三條（市）第六百十一條……一四七五
第六百三十四條（市）第六百十二條……一四七七
第六百三十五條（市）第六百十三條……一四七九
第六百三十六條（市）第六百十四條……一四八一
第六百三十七條（市）第六百十五條……一四八三
第六百三十八條（市）第六百十六條……一四八五
第六百三十九條（市）第六百十七條……一四八七
第六百四十條（市）第六百十八條……一四八九
第六百四十一條（市）第六百十九條……一四九一
第六百四十二條（市）第六百二十條……一四九三
第六百四十三條（市）第六百二十一條……一四九五
第六百四十四條（市）第六百二十二條……一四九七
第六百四十五條（市）第六百二十三條……一四九九
第六百四十六條（市）第六百二十四條……一五〇一
第六百四十七條（市）第六百二十五條……一五〇三
第六百四十八條（市）第六百二十六條……一五〇五
第六百四十九條（市）第六百二十七條……一五〇七
第六百五十條（市）第六百二十八條……一五〇九
第六百五十一條（市）第六百二十九條……一五一一
第六百五十二條（市）第六百三十條……一五一三
第六百五十三條（市）第六百三十一條……一五一五
第六百五十四條（市）第六百三十二條……一五一七
第六百五十五條（市）第六百三十三條……一五一九
第六百五十六條（市）第六百三十四條……一五二一
第六百五十七條（市）第六百三十五條……一五二三
第六百五十八條（市）第六百三十六條……一五二五
第六百五十九條（市）第六百三十七條……一五二七
第六百六十條（市）第六百三十八條……一五二九
第六百六十一條（市）第六百三十九條……一五三一
第六百六十二條（市）第六百四十條……一五三三
第六百六十三條（市）第六百四十一條……一五三五
第六百六十四條（市）第六百四十二條……一五三七
第六百六十五條（市）第六百四十三條……一五三九
第六百六十六條（市）第六百四十四條……一五四一
第六百六十七條（市）第六百四十五條……一五四三
第六百六十八條（市）第六百四十六條……一五四五
第六百六十九條（市）第六百四十七條……一五四七
第六百七十條（市）第六百四十八條……一五四九
第六百七十一條（市）第六百四十九條……一五五一
第六百七十二條（市）第六百五十條……一五五三
第六百七十三條（市）第六百五十一條……一五五五
第六百七十四條（市）第六百五十二條……一五五七
第六百七十五條（市）第六百五十三條……一五五九
第六百七十六條（市）第六百五十四條……一五六一
第六百七十七條（市）第六百五十五條……一五六三
第六百七十八條（市）第六百五十六條……一五六五
第六百七十九條（市）第六百五十七條……一五六七
第六百八十條（市）第六百五十八條……一五六九
第六百八十一條（市）第六百五十九條……一五七一
第六百八十二條（市）第六百六十條……一五七三
第六百八十三條（市）第六百六十一條……一五七五
第六百八十四條（市）第六百六十二條……一五七七
第六百八十五條（市）第六百六十三條……一五七九
第六百八十六條（市）第六百六十四條……一五八一
第六百八十七條（市）第六百六十五條……一五八三
第六百八十八條（市）第六百六十六條……一五八五
第六百八十九條（市）第六百六十七條……一五八七
第六百九十條（市）第六百六十八條……一五八九
第六百九十一條（市）第六百六十九條……一五九一
第六百九十二條（市）第六百七十條……一五九三
第六百九十三條（市）第六百七十一條……一五九五
第六百九十四條（市）第六百七十二條……一五九七
第六百九十五條（市）第六百七十三條……一五九九
第六百九十六條（市）第六百七十四條……一六〇一
第六百九十七條（市）第六百七十五條……一六〇三
第六百九十八條（市）第六百七十六條……一六〇五
第六百九十九條（市）第六百七十七條……一六〇七
第七百條（市）第六百七十八條……一六〇九
第七百一條（市）第六百七十九條……一六一一
第七百二條（市）第六百八十條……一六一三
第七百三條（市）第六百八十一條……一六一五
第七百四條（市）第六百八十二條……一六一七
第七百五條（市）第六百八十三條……一六一九
第七百六條（市）第六百八十四條……一六二一
第七百七條（市）第六百八十五條……一六二三
第七百八條（市）第六百八十六條……一六二五
第七百九條（市）第六百八十七條……一六二七
第七百十條（市）第六百八十八條……一六二九
第七百十一條（市）第六百八十九條……一六三一
第七百十二條（市）第六百九十條……一六三三
第七百十三條（市）第六百九十一條……一六三五
第七百十四條（市）第六百九十二條……一六三七
第七百十五條（市）第六百九十三條……一六三九
第七百十六條（市）第六百九十四條……一六四一
第七百十七條（市）第六百九十五條……一六四三
第七百十八條（市）第六百九十六條……一六四五
第七百十九條（市）第六百九十七條……一六四七
第七百二十條（市）第六百九十八條……一六四九
第七百二十一條（市）第六百九十九條……一六五一
第七百二十二條（市）第七百條……一六五三
第七百二十三條（市）第七百一條……一六五五
第七百二十四條（市）第七百二條……一六五七
第七百二十五條（市）第七百三條……一六五九
第七百二十六條（市）第七百四條……一六六一
第七百二十七條（市）第七百五條……一六六三
第七百二十八條（市）第七百六條……一六六五
第七百二十九條（市）第七百七條……一六六七
第七百三十條（市）第七百八條……一六六九
第七百三十一條（市）第七百九條……一六七一
第七百三十二條（市）第七百十條……一六七三
第七百三十三條（市）第七百十一條……一六七五
第七百三十四條（市）第七百十二條……一六七七
第七百三十五條（市）第七百十三條……一六七九
第七百三十六條（市）第七百十四條……一六八一
第七百三十七條（市）第七百十五條……一六八三
第七百三十八條（市）第七百十六條……一六八五
第七百三十九條（市）第七百十七條……一六八七
第七百四十條（市）第七百十八條……一六八九
第七百四十一條（市）第七百十九條……一六九一
第七百四十二條（市）第七百二十條……一六九三
第七百四十三條（市）第七百二十一條……一六九五
第七百四十四條（市）第七百二十二條……一六九七
第七百四十五條（市）第七百二十三條……一六九九
第七百四十六條（市）第七百二十四條……一七〇一
第七百四十七條（市）第七百二十五條……一七〇三
第七百四十八條（市）第七百二十六條……一七〇五
第七百四十九條（市）第七百二十七條……一七〇七
第七百五十條（市）第七百二十八條……一七〇九
第七百五十一條（市）第七百二十九條……一七一一
第七百五十二條（市）第七百三十條……一七一三
第七百五十三條（市）第七百三十一條……一七一五
第七百五十四條（市）第七百三十二條……一七一七
第七百五十五條（市）第七百三十三條……一七一九
第七百五十六條（市）第七百三十四條……一七二一
第七百五十七條（市）第七百三十五條……一七二三
第七百五十八條（市）第七百三十六條……一七二五
第七百五十九條（市）第七百三十七條……一七二七
第七百六十條（市）第七百三十八條……一七二九
第七百六十一條（市）第七百三十九條……一七三一
第七百六十二條（市）第七百四十條……一七三三
第七百六十三條（市）第七百四十一條……一七三五
第七百六十四條（市）第七百四十二條……一七三七
第七百六十五條（市）第七百四十三條……一七三九
第七百六十六條（市）第七百四十四條……一七四一
第七百六十七條（市）第七百四十五條……一七四三
第七百六十八條（市）第七百四十六條……一七四五
第七百六十九條（市）第七百四十七條……一七四七
第七百七十條（市）第七百四十八條……一七四九
第七百七十一條（市）第七百四十九條……一七五一
第七百七十二條（市）第七百五十條……一七五三
第七百七十三條（市）第七百五十一條……一七五五
第七百七十四條（市）第七百五十二條……一七五七
第七百七十五條（市）第七百五十三條……一七五九
第七百七十六條（市）第七百五十四條……一七六一
第七百七十七條（市）第七百五十五條……一七六三
第七百七十八條（市）第七百五十六條……一七六五
第七百七十九條（市）第七百五十七條……一七六七
第七百八十條（市）第七百五十八條……一七六九
第七百八十一條（市）第七百五十九條……一七七一
第七百八十二條（市）第七百六十條……一七七三
第七百八十三條（市）第七百六十一條……一七七五
第七百八十四條（市）第七百六十二條……一七七七
第七百八十五條（市）第七百六十三條……一七

第百四十五條 (市)第百十三條……五七
第百四十六條 ○……五八一
第百四十七條 ○……五八五
第百四十八條 ○……五八六
第百四十九條 ○……五八八
第百五十條 ○……五九三
第百五十一條 ○……五九七
第百五十二條 ○……六〇〇
第百五十三條 ○……六〇二
第百五十四條 ○……六〇四
第百五十五條 ○……六〇八
第百五十六條 ○……六一一
第百五十七條 (市)第百十五條第一項……六一五
第百五十八條 (市)第百十六條第一項……六一六
第百五十九條 (市)第百十六條第四項……六一九
第百六十條 (市)第百十六條第二項第三項第五項……六二〇
第百六十一條 (市)第百十七條……六二五
第百六十二條 (市)第百二十條……六二九
第百六十三條 (市)第百十八條……六三〇
第百六十四條 (市)第五十條、第五十二條第二項……六三五
第百六十五條 (市)第百二十一條……六三八
第百六十六條 (市)第百二十二條……六四〇
第百六十七條 (市)第百二十三條……六四三
第百六十八條 ○……六四七
第百六十九條 (市)第百十五條第二項……六四八
第百七十條 (市)第百二十四條……六四九
第百七十一條 (市)第五十八條第四項、第百十條第三項、第百二十五條……六五五
第百七十二條 ○……六五七
第百七十三條 (市)第百三十三條第二項……六五九
第百七十四條 (市)第百三十條……六六〇
第百七十五條 (市)第百三十一條……六六〇
第百七十六條 (市)第百三十三條第一項……六六一
第百七十七條 ○……六六三
第百七十八條 (市)第百二十六條……六六四
第百七十九條 ○……六六五
第百八十條 ○……六六九
第百八十一條 (市)第百三十三條第一項……六七〇

改正町村制舊法令

第一條 (町)第三條……四一
第二條 (町)第二條……四五
第三條 (町)第四條……五三
第四條 (町)第五條……六四
第五條 明治二十三年法律第七十七條……七五
第六條 (町)第六條……七七
第七條 (町)第七條 明治三十年內務省令第三號第八條……八三
第八條 (町)第八條……九八
第九條 (町)第九條第一項乃至第三項……一〇六
第十條 (町)第十條……一一一
第十一條 (町)第十一條……一一九
第十二條 (町)第十二條……一二四
第十三條 (町)第十三條、第十四條……一三二
第十四條 (町)第二十五條第一項……一四四
第十五條 (町)第十五條……一四六
第十六條 (町)第十六條……一五七
第十七條 (町)第十七條……一六〇
第十八條 (町)第十八條、第三十七條……一六四
第十九條 (町)第十九條、第二十五條第四項……一七八
第二十條 (町)第二十條、第二十五條第二項……一九〇
第二十一條 (町)第二十一條……一九三
第二十二條 (町)第二十二條、第二十四條第一項、第二十五條第三項……一九七
第二十三條 ○……二〇二
第二十四條 (町)第二十四條第二項……二〇四
第二十五條 (町)第二十三條第一項第二項……二〇七
第二十六條 (町)第二十三條第三項……二一二
第二十七條 (町)第二十六條……二一三
第二十八條 (町)第二十七條……二一五
第二十九條 (町)第十五條第三項、第二十八條……二二一
第三十條 ○……二二八
第三十一條 (町)第二十九條第二項……二三〇
第三十二條 (町)第二十九條第三項……二三三
第三十三條 (町)第二十九條第一項第二項、第三十七條……二三八
第三十四條 ○……二四四
第三十五條 (町)第九條第四項、第三十條、第三十七條……二四七
第三十六條 ○……二五三
第三十七條 明治二十三年法律第三十九號……二五四
第三十八條 (町)第三十一條、第五十一條……二五八
第三十九條 (町)第三十二條……二六〇
第四十條 (町)第三十三條……二六四
第四十一條 (町)第三十四條……二七三
第四十二條 (町)第三十五條第一項……二七四
第四十三條 (町)第三十五條第一項……二七八
第四十四條 (町)第三十六條……二八〇
第四十五條 (町)第三十九條、第四十條第二項……二八一
第四十六條 (町)第四十一條……二八一
第四十七條 (町)第四十二條……二九〇
第四十八條 (町)第四十三條……二九六
第四十九條 (町)第四十四條……三〇〇
第五十條 (町)第四十條第一項、第四十五條第一項……三〇二
第五十一條 (町)第四十六條、第五十四條第二項……三〇三
第五十二條 (町)第四十七條……三〇九
第五十三條 (町)第四十八條……三一一
第五十四條 (町)第三十八條……三一三
第五十五條 (町)第三十八條……三一四
第五十六條 (町)第四十八條……三一六
第五十七條 (町)第四十九條第二項……三一六
第五十八條 (町)第四十九條第一項……三一九
第五十九條 (町)第五十條……三二一
第六十條 (町)第五十二條……三二二
第六十一條 (町)第五十五條第一項、第五十六條第一項……三二三
第六十二條 (町)第五十四條第一項……三二五
第六十三條 (町)第五十三條第一項、第五十四條第二項、第五十六條第二項……三二五
第六十四條 (町)第五十七條、第五十九條、第六十條……三二四
第六十五條 (町)第五十三條第二項第三項……三二七
第六十六條 (町)第五十八條……三二九
第六十七條 (町)第六十一條……三三二
第六十八條 (町)第六十四條……三三九
第六十九條 (町)第六十五條……三四二
第七十條 (町)第九條第四項第五項……三四五
第七十一條 (町)第六十三條、第六十七條……三四七
第七十二條 (町)第六十八條第一項第二項第一號乃至第四號乃至第六號乃至第九號……三六〇

第七十三條 (町)第六十八條第二項第五號……三八九
第七十四條 (町)第六十八條第二項第一號……三八三
第七十五條 (町)第四十四條第二項、第百二十三條、第百二十四條……四〇五
第七十六條 ○……四一一
第七十七條 (町)第六十九條第一項第三項……四一三
第七十八條 (町)第六十九條第二項、第七十條第二項……四一五
第七十九條 (町)第七十條第一項第三項……四二〇
第八十條 (町)第七十一條……四二三
第八十一條 (町)第七十三條……四三〇
第八十二條 (町)第七十四條……四三二
第八十三條 (町)第七十三條……四三三
第八十四條 (町)第五十五條第二項、第六十六條、第六十三條……四三六
第八十五條 (町)第七十六條……四三八
第八十六條 (町)第七十七條、第七十九條……四三九
第八十七條 (町)第七十八條……四四一
第八十八條 (町)第八十條……四四二
第八十九條 (町)第八十一條……四五三
第九十條 (町)第八十三條、第八十六條……四五八
第九十一條 ○……四六〇
第九十二條 (町)第八十四條、第八十五條……四六一
第九十三條 (町)第八十九條……四六三
第九十四條 (町)第八十七條……四六六
第九十五條 ○……四六九
第九十六條 (町)第八十八條……四七二
第九十七條 (町)第九十條……四七六
第九十八條 (町)第九十二條……四八三
第九十九條 (町)第九十三條、第百三條……四八四
第百條 (町)第九十四條、第九十五條……四八六
第百一條 (町)第九十六條乃至第九十八條……四九九
第百二條 (町)第九十九條……四九三
第百三條 ○……四九七
第百四條 ○……四九七
第百五條 (町)第百一條……四九八
第百六條 ○……五〇四
第百七條 ○……五一〇
第百八條 (町)第百條第二項……五一三
第百九條 (町)第九十一條……五一四
第百十條 (町)第百四條、第百五條……五一八
第百十一條 (町)第百二條第一項第三項……五二四
第百十二條 (町)第百六條……五三一
第百十三條 (町)第百七條第一項、第百八條……五四〇
第百十四條 ○……五四七
第百十五條 ○……五四九
第百十六條 (町)第百九條……五五一
第百十七條 (町)第百八條第一項……五五三
第百十八條 ○……五五四
第百十九條 (町)第百十條第一項第二項……五五五
第百二十條 ○……五六八
第百二十一條 (町)第百十一條……五六一
第百二十二條 (町)第百十二條、第百十三條……五六三
第百二十三條 (町)第百七條第二項……五六八
第百二十四條 (町)第百十五條……五七〇
第百二十五條 (町)第百十四條……五七八
第百二十六條 ○……五八一
第百二十七條 ○……五八五
第百二十八條 ○……五八六
第百二十九條 (町)第百十六條……五八八
第百三十條 ○……五九三
第百三十一條 ○……五九七
第百三十二條 (町)第百十七條……六〇〇
第百三十三條 (町)第百十八條……六〇三
第百三十四條 ○……六〇五
第百三十五條 ○……六〇八
第百三十六條 ○……六一一
第百三十七條 (町)第百十九條第一項……六一五
第百三十八條 (町)第百二十條第一項……六一六
第百三十九條 (町)第百二十條第四項……六一九
第百四十條 (町)第百二十條第二項第三項第五項……六二〇
第百四十一條 (町)第百二十一條……六二五
第百四十二條 (町)第百二十四條……六二九
第百四十三條 (町)第百二十二條……六三〇
第百四十四條 (町)第六十一條第二項……六三五
第百四十五條 (町)第百二十五條……六三八
第百四十六條 (町)第百二十六條……六四〇
第百四十七條 (町)第百二十七條……六四三
第百四十八條 ○……六四七
第百四十九條 (町)第百十九條第二項……六四八
第百五十條 (町)第百二十八條……六五〇
第百五十一條 (町)第百十條第三項、第百二十九條……六五五
第百五十二條 ○……六五七
第百五十三條 ○……六五七
第百五十四條 (町)第百三十五條……六六〇
第百五十五條 (町)第百三十六條……六六〇
第百五十六條 (町)第百三十九條……六六一
第百五十七條 (町)第百三十二條……六六三
第百五十八條 (町)第百三十七條……六六四
第百五十九條 ○……六六五
第百六十條 ○……六六九
第百六十一條 (町)第百三十九條……六七〇

備考

○ハ 新設法條

(市)ハ 市制

(町)ハ 町村制

(勅)ハ 明治三十一年勅令第二百十號

各法條ノ下ニ數字ヲ表示セルハ本書註釋ノ頁數ナリ

附錄ノ二

附屬法規

●市制及町村制施行期日ノ件（明治四十四年九月二十一日勅令第二百三十八號）

市制及町村制ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市制町村制ノ施行ニ關スル件（明治四十四年九月二十一日勅令第二百四十三號）

第一條 市制町村制施行前舊市制町村制ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ市制町村制ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第二條 町村ノ境界ニ關スル爭論ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間内ニ府縣參事會ノ裁定ヲ請フコトヲ得

郡參事會ノ裁決ニ不服アルカ爲府縣參事會ニ爲レタル訴願ハ之ヲ其ノ裁定ヲ請ヒタルモノト看做ス

第三條 町村名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルカ爲受ケタル町村公民權停止及町村費增課ノ處分ニ關スル訴願ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

市町村ノ境界ニ關スル爭論ニ付府縣參事會ノ爲シタル裁決ハ之ヲ裁定ト看做ス

第四條 市町村營造物ニ關スル從前ノ市町村規則中市町村條例ヲ以テ規定スヘキ事項ニ關スル規定ハ市町村條例ト同一ノ效力ヲ有ス

第十條　市制施行ノ際現ニ市ノ名譽參事會員タル者ハ其ノ任期ノ殘存スル間市ノ名譽參事會員タル者ノ任期ノ殘存スル間ハ名譽參事會員タル者ノ任期ノ殘存スル間ハ名譽參事會員タル者ノ任期ノ殘存スル間ハ

市制町村制施行前前三項ノ給與ニ關シ爲シタル處分ニ對スル異議ノ申立期間ハ市制町村制施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十四條　從前ノ使用料、手數料及特別稅ニ關シ從前市町村條例ニ依ラサルモノハ之ヲ市町村條例ニ依リ爲シタル處分ニ對スル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

使用料、手數料及特別稅ニ關シ從前市町村條例ニ規定シタル科料ハ之ヲ過料ト看做ス但シ市制町村制施行前科料ノ處分ヲ受ケタル者ノ出訴ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第十五條　市制町村制施行前市町村稅ノ賦課又ハ市町村ノ營造物、市町村有財産若ハ其ノ所得ヲ使用スル權利ニ關シ市參事會又ハ町村長ニ申立テタル訴願ハ之ヲ市長又ハ町村長ニ爲シタル異議ノ申立ト看做シ其ノ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル期願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ事件ニ關スル訴願ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做シ其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

市制町村制施行前市町村ノ營造物、市町村有財産又ハ其ノ所得ヲ使用スル權利ニ付爲シタル處分ニ對スル異議ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ之ヲ申立ツヘシ

第十六條　手數料ノ徵收及市町村稅ノ滯納處分ニ關スル訴願ニシテ郡長又ハ府縣知事ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ內務大臣ノ受理シタル訴願ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

市制町村制施行前ノ手數料ノ徵收ニ付テハ從前ノ規定ニ係ル訴願期間內ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ郡長ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其ノ府縣知事ニ於テ爲シタル裁決ハ府縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ト看做ス

市制町村制施行前ノ市町村稅ノ滯納處分又ハ町村稅ノ滯納處分ニ關スル郡長ノ裁決ニ不服アル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十七條　市町村ノ一部ニ屬スル財産又ハ營造物ニ關シ區總會ヲ設クルカ爲市町村條例ノ設定ニ付府縣參事會又ハ郡參事會ヨリ內務大臣ニ提出シタル申請ハ之ヲ府縣知事又ハ郡長ノ申請ト看做ス

第十八條　町村組合ヲ解カムトスルノ申請ニシテ郡長ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣知事ニ於テ受理シタルモノト看做ス

第十九條　舊市制第百十六號第一項ノ府縣參事會ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依リ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

舊町村制第百二十條第一項ノ郡參事會ノ處分又ハ裁決ニ對スル訴願ニシテ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノハ府縣知事ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ府縣參事會ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項郡參事會ノ處分又ハ裁決ハ郡長ニ於テ爲シタル處分ト看做シ之ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

舊市制第百十六條第一項又ハ舊町村制第百二十條第一項ノ郡長又ハ府縣知事ノ處分又ハ裁決ニ不服アルカ爲提起スル訴願ノ期間ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

舊市制第百十六條第五項又ハ舊町村制第百二十條第五項ノ執行ノ停止ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第二十條　舊町村制第百二十二條ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分ニ對スル訴願ニシテ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノハ府縣知事ニ於テ受理シタルモノト看做シ府縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ハ之ヲ府縣知事ノ裁決ト看做ス

前項郡長ノ處分ニ不服アル者ノ提起スル訴願ノ期間ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第二十一條　市町村會ノ議決ニ付許可ヲ要スル事件中府縣參事會又ハ郡參事會ニ申請シタルモノニシテ府縣知事又ハ郡長ノ職權ト爲リタルモノハ之ヲ府縣知事又ハ郡長ニ申請シタルモノト看做ス

第二十二條　市制町村制施行前ニ爲シタル市町村吏員ノ解職ニ付テハ總テ從前ノ規定ニ依ル

第二十三條　第三條第七條第四項第十二條第一項第十三條第二項第十五條第一項若ハ第二項又ハ第十六條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ府縣參事會ニ提起シタル訴願ハ之ヲ市制又ハ町村制ニ依リタルモノト看做ス

第二十四條　市制町村制施行前ノ處分決定裁決ニ對スル行政訴訟ノ提起期間ハ從前ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市制第六條ノ市ノ指定ニ關スル件（明治四十四年九月二十一日勅令第二百三十九號）

市制第六條ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

東京市
京都市
大阪市

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市制第六條ノ市ノ區ニ關スル件（明治四十四年九月二十三日勅令第二百四十四號）

第一條　市制第六條ノ市ノ區ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ新ニ區會ヲ設クルコトヲ得

第三條　區内ニ住所ヲ有スル市公民ニシテ其ノ區ニ於テ直接市稅ヲ納ムル者ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ市制第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ區ニ於テ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ其ノ區ニ於テ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ前項ノ規定ニ拘ラス選舉權ヲ有ス但シ六年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及市制第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

前二項ノ直接市稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第四條　選舉人ハ分チテ三級トス

選舉人中區ニ於テ納ムル直接市稅額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ其ノ區ニ於テ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級選舉人ヲ除クノ外其ノ區ニ於テ納ムル直接市稅額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ其ノ區ニ於テ納ムル直接市稅ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス但シ二級選舉人ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ區内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニ依リ難キトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選舉ス

被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得

第二項乃至第四項ノ直接市稅ノ納額ニ關シテハ前條第四項ノ規定ヲ適用ス

第五條　第三條第一項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ揭クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ提メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一　所屬府縣ノ官吏及有給吏員
二　其ノ市ノ有給吏員但シ他ノ區所屬ノ市有給吏員ハ此ノ限ニ在ラス
三　檢事警察官吏及收稅官吏
四　神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五　小學校敎員

市又ハ區ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人ハ其ノ區ニ於テ被選擧權ヲ有セス

父子兄弟タル關係アル者ハ同時ニ區會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選擧セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級ヲ異ニシテ選擧セラレタルトキハ後ニ選擧セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ關係故アルモノハ區會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

區長ト父子兄弟タル關係故アル者其ノ職ヲ失フ

第六條　區會議員ハ市ノ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲補缺ニ選擧セラレタル議員ノ任期ハ總選擧ニ依リ選擧セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

第七條　第三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選擧權ヲ有スル者ノ代人ヲ出シテ選擧ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル

市制第九條第一項但書ニ當ル者、同第十條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選擧長又ハ分會長ニ示スヘシ

第八條　選擧ヲ終リタルトキハ區長ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ市長ヲ經テ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

市制第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ區長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併テ市長ヲ經テ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第九條　區會ノ組織及區會議員ノ選擧ニ關シテハ前數條ニ定ムルモノノ外市制第十三條第十七條第二十條乃至第二十六條第二十八條乃至第三十三條第三十五條乃至第三十九ノ規定ヲ準用ス但シ區會議員ノ定數ニ付テハ市ハ區會ノ意見ヲ徵シ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

第十條　區會ノ職務權限ニ關シテハ市會ノ職務權限ニ關スル規定及市制第九十二條ノ規定ヲ準用ス

區長ト區會トノ關係ニ付テハ市長ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條　區會ヲ設ケサル區ニ於テハ區會ノ職務ハ市會之ヲ行フ

第十二條　市ハ區會ノ意見ヲ徵シ區ノ營造物ニ關シ市條例又ハ市規則ヲ設クルコトヲ得

市制第百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

區ハ前二項ノ市條例ノ定ムル所ニ依リ區ノ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ過料ヲ科スルコトヲ得

第十三條　區ハ其ノ財產及營造物ニ關シ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

前項ノ支出ハ區ノ財產ヨリ生スル收入、使用料其他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキハ市ハ其區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項ノ市稅ニ付市會ノ議決スヘキ事項ハ區會之ヲ議決ス但シ市ノ定メタル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

市制第九十八條第四項ノ規定ニ依リ市ノ負擔スル費用ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第十四條　前數條ニ定ムルモノノ外區ニ關シテハ市制第百十四條第百十五條第百三十條第二項乃至第六項第百三十一條及第百三十三條乃至第百四十三條ノ規定ヲ準用ス但シ第百三十條第三項ノ市參事會ハ區會、第百四十一條第二項ノ名譽職參事會員ハ區會議員

トス

前項ノ規定ニ依リ市制第百三十一條第一項ヲ準用スル場合ニ於テハ市ハ區會ノ意見ヲ徴シ市條例ヲ定メ區ヲシテ手數料ヲ徴收セシムルコトヲ得

第十五條　區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市制第六條ノ市ノ助役ノ定數ニ關スル件（明治四十四年九月二十二日内務省令第十三號）

市制第六條ノ市ノ助役ノ定數左ノ通之ヲ定ム

東京市　三人　京都市　二人　大阪市　二人

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村會議員選擧人名簿及選擧錄ノ書式（明治四十四年九月三十日内務省訓令第十號）

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

市町村會議員選擧人名簿及選擧錄ハ左ノ書式ニ依リ調製セシムヘシ

選擧人名簿書式

明治 直接 市（町村） 年度 稅納額 萬	千	百	十	円	十	錢	厘	公民 市（町村）	住所	番地	出生年月日 年	月	日	氏名

明治 直接 市（町村） 年度 稅納額 萬	千	百	十	円	十	錢	厘	公民 市（町村）	住所	番地	出生年月日 年	月	日	氏名

備考

一　第一欄

イ　選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ直接市町村稅賦課額ヲ記載ス

ロ　市制第十四條第一項乃至第三項町村制第十二條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニシテ直接市町村稅納額ノ多キ者ヨリ順次ニ列記シ納額同シキモノハ其ノ市町村內ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヨリ順次ニ列記シ住所ヲ有スル年數同シキモノハ年齡ニ依リ年齡ニモ依リ難キモノハ市町村長抽籤ヲ以テ定ムル所ニ依リ記載ス

ハ　單ニ市制第七十六條第七十九條第二項町村制第六十三條第四項第六十七條第五項ノ規定ニ依リ公民タル者ニ付テハ記載ヲ省キ末尾ニ其ノ氏名ヲ記載ス

二　第二欄

イ　市制第十四條第二項第三項町村制第二項第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ付テハ「無」ト記載ス

ロ　市制第九條第二項町村制第七條第二項ノ規定ニ依ル者ニ付テハ「特免」ト記載ス

ハ　市制第七十六條第七十九條第二項町村制第六十三條第四項第六十七條第五項ノ規定ニ依リ公民タル者ニ付テハ其ノ職名(市長、有給市參與、市ノ助役、收入役、有給町村長、町村ノ有給助役、收入役)ヲ記載ス

三　第三欄

イ　住所ノ大字名(又ハ市內ノ町名)番地ヲ記載ス但シ公法人ニ付テハ之ヲ圖キ私法人ニ付テハ民法ニ依ルモノハ主タル事務所ノ所在地、商法ニ依ルモノハ本店ノ所在地ニ依ル

ロ　市制第十四條第二項第三項町村制第十二條第二項第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニシテ他市町村ニ住所ヲ有スルモノハ其ノ府縣郡市町村及大字名(又ハ市內ノ町名)番地ヲ記載ス

四　選舉人ノ納ムル直接市町村稅ヲ總計シ納額最多キ者ヨリ其ノ總額ヲ等級ノ數ニ分チタル額ニ當ル迄ノ者、若其ノ人員議員定數ヲ等級ノ數ト同數ニ至ル迄ノ者ヲ一級選舉人トシ仍市ニ於テハ一級選舉人ヲ除クノ外直接市稅納額最多キ者ヨリ直接市稅ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ル迄ノ者、若其ノ人員議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者ヨリ其ノ數ト同數ニ至ル迄ノ者ヲ以テ一級選舉人トス町村ニ於テハ一級選舉人ヲ除キ爾餘ノ選舉人ヲ二級選舉人トス

五　直接市町村稅ヲ賦課セサル市町村ニ於テハ其ノ市町村內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ之ヲ調製シタリ

六　選舉人名簿ヲ調製シタルトキハ其ノ末尾ニ左ノ如ク記載ス

本名簿ハ明治　年　月　日ノ現在ニ依リ之ヲ調製シタリ

某市(町村)長　氏　名印

七　選舉人名簿ヲ縱覽ニ供シタルトキハ其ノ末尾ニ左ノ如ク記載ス

本名簿ハ明治　年　月　日ヨリ七日間市役所(町村役場又ハ何ノ場所)ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供シタリ

某市(町村)長　氏　名印

八　選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日及事由ヲ欄外ニ記載シ市町村長檢印ス

九　選舉人名簿ノ確定シタルトキハ其ノ末尾ニ左ノ如ク記載ス

本名簿ハ明治　年　月　日ヲ以テ確定シタリ

某市(町村)長　氏　名印

十　選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉ノ爲確定名簿ヲ修正シタルトキハ「八」ノ取扱ヲ爲スノ外名簿ノ末尾ニ左ノ如ク記載ス

本名簿ハ明治　年　月　日迄ニ修正シタリ

某市(町村)長　氏　名印

十一　市ニ於テ選舉區アルトキハ前各項ニ準シ各選舉區毎ニ名簿ヲ調製シ市町村ニ於テ選舉分會ヲ設ケタルトキハ別ニ分會ノ區劃竝ニ名簿ノ抄本ヲ調製ス

選舉錄書式

某市(町村)會議員何級總選舉(補闕又ハ增員選舉)會選舉錄

一　某市(町村)會議員何級總選舉(補闕又ハ增員選舉)ニ付議員若干人選舉ノ爲本市役所(町村役場又ハ何ノ場所)ニ選舉會場ヲ設ケタリ

二　左ノ選舉立會人ハ執レモ投票時刻迄ニ選舉會場ニ參會シタリ

氏　名
氏　名
氏　名
氏　名
氏　名

投票時刻ニ至リ選舉立會人中何人參會セサルニ依リ市長(町村長)ハ臨時ニ選舉人中ヨリ左ノ者ヲ選舉立會人ニ選任シタリ

氏　名

三　選舉會ハ明治何年何月何日午前(午後)何時ニ之ヲ開キタリ

四　選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ニ先チ選舉會場ニ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後蓋ヲ鎖シ選舉長及選舉立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

五　確定名簿ニ登錄セラレタル何級選舉人ノ數ハ其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キヲ以テ連名投票ノ法ヲ用キタリ

六　選舉長及選舉立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ逐次其ノ氏名ヲ自唱セシメ選舉人名簿ニ對照シタル後投票用紙ヲ交付シタリ

七　選舉立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其職ヲ辭シタルモ何選舉立會人ハ二人(又ハ三人)在リ而モ市長(町村長)ニ於テ其ノ闕員ヲ補フノ必要ナキニ至レルヲ認メ特ニ其ノ補闕ヲ爲ササル旨ヲ宣言シタリ

長)ハ臨時ニ選舉人中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ選舉立會人ニ選任シタリ

氏　名
氏　名
氏　名
氏　名
氏　名

八　左ノ選舉人ハ何々ノ事由ニ依リ(例ヘハ代人ヲ出シテ投票セントスルモ其ノ代人ニ於テ委任狀又ハ代理ヲ證スル書面ヲ選舉長ニ示ササルニ依リノ如シ)選舉立會人(又ハ可否同數ナルカ爲選舉長)ノ決定ニ基キ其投票ヲ拒否シタリ

氏　名
氏　名

九　左ノ選舉人ハ誤テ投票用紙ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙ヲ交付シタリ

氏　名

十　左ノ選舉人ハ選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ(喧擾ニ渉リ)(投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ)(何々ニ因リ)選舉會場ノ秩序ヲ紊シタルニ依リ選舉長ニ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙ヲ取上ケ之ヲ選舉會場外ニ退出セシメタリ

氏　名

十一　選舉長ハ午前(午後)何時選舉會場ノ秩序ヲ紊スノ虞アリト認メ(又ハ選舉會場ノ入口ヲ閉鎖スルニ先チ)選舉會場外ニ退出ヲ命シタル選舉人ニ對シ入場ヲ許シタルニ左ノ選舉人入場シタルヲ以テ投票セシメタリ

氏　名

十二　午前(午後)何時ニ至リ選舉長ハ投票時間ヲ終リタル由ヲ告ケ選舉會場ノ入口ヲ閉鎖シタリ

十四　午前(午後)何時選舉會場ニ在ル選舉人ノ投票終了シタルヲ以テ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票函ノ投票口ヲ鎖シタリ

十五　各選舉分會ヨリ投票函等左ノ如ク到著セリ

第一(又ハ何)選舉分會ノ投票函ハ分會長職氏名及選舉立會人氏名携帶シ午前(午後)何時著之ヲ檢スルニ異狀ナシ

第二(又ハ何)選舉分會ノ投票函ハ何々

十六　選舉長ハ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ(本會及各選舉分會ノ投票函ヲ開キ投票ヲ混同シ)其ノ投票ヲ點檢スルニ左ノ如シ

投票總數　何　票

有效投票　何　票

無效投票　何　票

內

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ　何　票

二　氏名

三　氏名

四　氏名

五　氏名

六　氏名

連名投票ニ付テハ市制第二十八條第二項町村制第二十五條第二項ノ規定ニ依リ其ノ無效又ハ投票中無效ト爲シタル部分ノ事由及其ノ數ヲ區分シ記載スヘシ

十七　有效投票ノ內得票者ノ氏名及其ノ得票數左ノ如シ

何　票

何　票

十八　何級ニ於テ選舉スヘキ議員數何人ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル何級ノ人員數何人ヲ除シテ得タル數ハ何人ニシテ此ノ七分ノ一ノ數ハ何票ナリ得票者中此ノ數ニ達スルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

何　票　氏　名

何　票　氏　名

右ノ內有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何人ヲ以テ當選者トス　氏　名

氏　名

但シ氏名及氏名ハ得票ノ數同シキニ依リ其ノ出生年月日ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ則チ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ(同年月日ナルヲ以テ選舉長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當籤セリ依テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ)

十九　選舉長ハ投票ノ有效無效ヲ區別シ各別ニ之ヲ括束シ更ニ之ヲ封筒ニ入レ選舉立會人ト共ニ之ヲ封印シタリ

二十　左ノ者ハ選舉會場ノ事務ニ從事シタリ

職　氏　名

職　氏　名

官職氏名

二十一　選舉會場ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

二十二　午前(午後)何時選舉事務ヲ了シ選舉會ヲ閉チタリ

選舉長ハ此ノ選舉錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選舉立會人ト共ニ署名ス

附錄ノ二　附屬法規

明治何年何月何日

選擧長

某市(町村)長　氏　名

選擧立會人

氏　名

氏　名

備考

一　選擧錄ハ各級毎ニ之ヲ調製スヘシ

二　選擧區アルトキ又ハ選擧分會ヲ設クルトキハ此ノ書式ニ準スヘシ但シ分會ノ選擧ニ在リテハ投票函ノ儘本會ニ送致スヘキヲ以テ開票ニ關スル事項ハ固ヨリ之ヲ記載スヘキニ非ス

三　書式ニ掲クル事項ノ外選擧長ニ於テ選擧ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

●明治四十年內務省令第二十六號準用ノ件(明治四十四年十月三十日內務省令第十九號)

明治四十年內務省令第二十六號ノ規定ハ郡會、市會又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會ニ之ヲ準用ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照條文)　改選後ノ府縣會ニ於テ始メテ議長ヲ選擧スル場合ニハ會議ノ決議ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市制第八十二條第三項ノ市ノ區ニ關スル件(明明四十四年九月二十一日勅令第二百四十號)

第一條　市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定シタル市ノ區ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　新ニ區ヲ劃シ又ハ其ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ市ハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　區ヲ以テ選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ市制第二十一條第二項第三項第七項第十項第十一項第二十三條第二項第四項第三十一條第二項及第三十二條第一項中市制第六條ノ市ノ區長及區役所ニ關スル規定ハ區長及區役所ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市制第八十二條第三項ニ依ル市ノ指定(明治四十四年九月二十二日內務省令第十四號)

市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

名古屋市

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市稅及町村稅ノ賦課ニ關スル件(明治四十四年九月二十一日勅令第二百四十一號)

第一條　市町村ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ市町村長ハ關係市長(北海道沖繩縣ノ區長ヲ含ム)又ハ町村長(戶長又ハ之ニ準スヘキモノヲ含ム)ト協議ノ上

附錄ノ二　附屬法規

其ノ本稅額ノ歩合ヲ定ムヘシ

前項ノ協議調ハサルトキハ其ノ郡内ニ止マルモノハ郡長之ヲ定メ其ノ郡（島ヲ含ム以下之ニ倣フ）市又ハ數郡若ハ數市ニ渉ルモノハ府縣知事之ヲ定メ其ノ數府縣（北海道ヲ含ム以下之ニ倣フ）ニ渉ルモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生スルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ歩合ノ定ムヘシ

府縣ニ於テ數府縣ニ渉ル營業ニ對シ營業稅附加稅賦課ノ歩合ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ歩合ニ依ル本稅額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本稅額ト看做ス

第二條　鑛區（砂鑛區域ヲ含ム以下之ニ倣フ）カ市町村ノ内外ニ渉ル場合ニ於テ鑛區稅（砂鑛區稅ヲ含ム）ノ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

市町村ノ内外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所ヲ設ケタル場合ニ於テ鑛産稅ノ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ前條ノ例ニ依ル鑛區カ營業所在ノ市町村ノ内外ニ渉ル場合亦同シ

第三條　住所滯在市町村ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市町村稅ヲ賦課セムトスルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ

前項ノ住所又ハ滯在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル市町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十四年度ノ課稅ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

●市稅及町村稅ノ徵收ニ關スル件（明治四十四年九月二十一日勅令第二百四十二號）

市稅及町村稅徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一及第四條ノ三乃至第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村財務規程（明治四十四年九月二十二日内務省令第十五號）

第一條　市町村稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條　各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得ス

第三條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　市町村經例又ハ豫メ市町村會ノ議決ヲ以テ納期ヲ定メタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　定期ニ賦課スルコトヲ得サルカ爲特ニ納期ヲ定メタル收入又ハ隨時ノ收入ニシテ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發スルモノハ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ納額告知書等ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第四條　歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料、其ノ他ノ給與、傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度但シ別ニ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　缺損補塡ハ其ノ補塡ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

四　前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第五條　各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スヘシ但シ市町村條例ノ規定又ハ市町村會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第六條　市町村稅ハ徵稅令書ニ依リ使用料、手數料及物件ノ賃貸料ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收ス

前項以外ノ收入ハ納付書ニ依リ收入ス

第七條　支出ハ債主ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　左ノ經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

一　市町村債ノ元利支拂

二　外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲必要ナル經費

三　市町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費

前項ノ現金前渡ハ市町村吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第九條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費

二　訴訟費用

第十條　官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十一條　前三條ニ揭クルモノノ外必要アルトキハ市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ現金前渡、概算拂又ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十二條　歲入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歲入ヨリ支拂フヘシ

歲出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘレ

第十三條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歲入歲出ト爲スヘシ前條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第十四條　繼續費ハ每年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ歲入ニ繰越スヘシ

第十五條　歲入歲出豫算ハ必要アルトキハ經常臨時ノ二部ニ別ツヘシ

歲入歲出豫算ハ之ヲ款項ニ區分スヘシ

第十六條　歲入歲出豫算ニハ豫算說明ヲ付スヘシ

第十七條　特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十八條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第二十條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十一條　會計年度經過後ニ至リ歲入ヲ以テ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第二十二條　市ハ其ノ歲入歲出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替預金ノ法ニ依ルコトヲ得

第二十三條　市町村ハ現金ノ出納及保管ノ爲市町村金庫ヲ置クコトヲ得

第二十四條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ市町村會之ヲ定ム

第二十五條　金庫ハ收入役ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付市町村ニ對シテ責任ヲ有ス

第二十七條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ノ保管スル現金ハ市町村ノ歲入歲出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ市町村ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市町村ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ市町村ニ納付スヘシ

第二十八條　市町村ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ヨリ擔保ヲ徵スヘシ其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ第一次監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十九條　收入役ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金帳簿ヲ檢查スヘシ

第三十條　本令ニ規定スルモノノ外市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十四年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

●市制町村制ニ依ル懲戒審査會及鑑定人ノ費用負擔ニ關スル件（明治四十四年十二月二十七日勅令第二百九十三號）

第一條　市制第百七十條町村制第百五十條ノ懲戒審査會會員中府縣名譽職參事會員ヨリ互選シタル者ニハ旅費ヲ支拾ス其ノ額及支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

前項ノ旅費及懲戒審査會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第二條　市制第百二十六條町村制第百六條ノ鑑定人ニハ旅費及手當ヲ支給ス其ノ額及支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

前項ノ旅費手當ハ府縣ノ負擔トス

第三條　前條ノ規定ハ水利組合法第五十條ノ鑑定人ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村吏員服務紀律（明治四十四年九月二十二日內務省令第十六號）

第一條　市町村吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條　市町村吏員ハ職務ノ內外ヲ問ハス廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

第三條　市町村吏員ハ職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

市町村吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ

第四條　市町村吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人トシテ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ指揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ市町村吏員ノ掌ル國府縣其ノ他公共團體ノ事務ニ付テハ國府縣其ノ他公共團體ノ代表者ノ許可又ハ承認ヲ得ルコト

第五條　市町村吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

左ニ揭クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル市町村吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ製燕ヲ受クルコトヲ得ス

一　市町村ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者

二　市町村ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三　市町村ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四　市町村ト土地物件ノ賣買贈與貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　其ノ他市町村ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

附　則

附錄ノ二　附屬法規

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件（明治四十四年九月二十三日勅令第二百四十五號）

第一條　市町村吏員其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財産ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラサリシトキハ市町村ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘシ

第二條　收入役、副收入役若ハ收入役代理者又ハ收入役ノ事務ヲ掌管スル町村長若ハ助役ハ市制第百三十九條第二項町村制第百十九條第二項ノ規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムヘシ區收入役、區副收入役又ハ區收入役代理者ニ付亦同シ

第三條　市町村吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第四條　前三條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市町村ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ訴願及訴訟ノ提起期間ハ市制第百六十條町村制第百十一條ノ例ニ依ル

第五條　賠償金ノ徵收ニ關シテハ市制第百三十一條町村制第百十一條ノ例ニ依ル

第六條　市町村吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認メタルトキハ市町村ハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第七條　本令中市町村ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市ノ區竝市制第百四十四條ノ市ノ一部及町村制第百二十四條ノ町村ノ一部ニ之ヲ準用ス

●市町村吏員事務引繼ニ關スル件（明治四十四年九月二十三日内務省令第十七號）

第一條　市町村長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ助役ニ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テハ助役ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ書類帳簿及財產ノ目錄ヲ調製シ處分未濟若ハ未着手又ハ將來企畫スヘキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序方法及意見ヲ記載スルコトヲ要ス

第一項ノ期間内ニ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シ第一次監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　助役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三條　收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ副收入役又ハ收入代理者ニ引繼クヘシ此場合ニ於テハ副收入役又ハ收入役代理者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ各目錄ヲ調製シ仍現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添付シ帳簿ニ付テハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第四條　副收入役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ收入役ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

市制町村制施行前市町村吏員ノ賠償責任ニ付府縣參事會又ハ郡參事會ノ爲シタル裁決ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第五條　第一條、第三條又ハ前條ノ規定ハ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長若ハ區收入役ノ更迭又ハ分掌事務アル區副收入役ノ退職ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　市町村ノ廢置分合ニ依リ新ニ市町村ヲ置キタル場合ニ於テハ前市町村ノ吏員ノ擔任スル事務ハ之ヲ市町村長、收入役又ハ市町村長ノ臨時代理者若ハ職務管掌ノ官吏ニ引繼クヘシ第一條乃至第四條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス市町村ノ境界變更アリタルトキ亦同シ

第七條　前六條ノ場合ニ於テ引繼ヲ拒ミタル者ニ對シテハ市ニ在リテハ府縣知事町村ニ在リテハ郡長ハ二十五圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得其ノ故ナク引繼ヲ遷延シタルカ爲市町村長ニ於テ期日ヲ指定シテ催告ヲ爲シ仍之ニ應セサル者ニ付亦同シ

第八條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村、市町村組合及町村組合ノ廢置分合等ノ場合ニ於ケル事務ニ關スル件（明治四十四年九月二十九日勅令第二百四十八號）

第一條　新ニ市町村ヲ置キタル場合ニ於テハ市町村長ノ臨時代理者又ハ職務管掌ノ官吏ハ歲入出豫算カ市町村會ノ議決ヲ經テ成立スルニ至ル迄ノ間必要ナル收支ニ付豫算ヲ設ケ第一次監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村其ノ事務ヲ承繼ス其ノ地域ニ依リ難キトキハ府縣知事ハ事務ノ分界ヲ定メ又ハ承繼スヘキ市町村ヲ指定ス

前項ノ場合ニ於テ消滅シタル市町村ノ收支ハ消滅ノ日ヲ以テ打切リ其ノ市町村長タリシ者又ハ其ノ職務ヲ行ヒタリシ者之ヲ決算ス」

前項ノ決算ハ事務ヲ承繼シタル各市町村ノ市町村長之ヲ市町村會ノ認定ニ付スヘシ

第三條　市町村ノ境界變更アリタル爲事務ノ分割ヲ要スルトキハ其ノ事務ノ承繼ニ付テハ府縣知事之ヲ定ム

第四條　市町村組合、町村組合又ハ市制第六條ノ市ノ區ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス但シ市町村組合又ハ町村組合ニ付組合規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件（明治二十二年一月十七日勅令第一號）

町村制第百三十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

東京府管下
- 小笠原島　伊豆七島

長崎縣管下
- 對島國

島根縣管下
- 隱岐國

鹿兒島縣管下
- 大隅國大島郡
  - 大島　德之島　喜界島　沖永良部島　與論島
- 薩摩國川邊郡

附錄ノ二　附屬法規

硫黄島　黒島　竹島　口之島　臥蛇島　平島　中之島　悪石島　諏訪ノ瀬島　寶島

●島根縣隱岐國ニ於ケル町村ノ制度ニ關スル件（明治三十七年三月十二日勅令第六十三號）

第一條　島根縣管下隱岐國ノ町村ニ町村制其ノ他町村ノ制度ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス但シ町村制其ノ他町村ノ制度ニ關スル法令ノ規定中郡長及郡參事會ノ職權ニ屬スル事項ハ島司、縣參事會ノ職權ニ屬スル事項ハ縣知事之ヲ行フ此ノ場合ニ於ケル島司及縣事ノ處分若ハ決定又ハ裁決ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二條　町村制ニ規定スルモノノ外命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ハ町村行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

第三條　本令施行ノ期日ハ縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第四條　本令ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

●明治三十七年勅令第六十三號施行ノ件（明治三十七年四月十三日內務省令第六號）

明治三十七年勅令第六十三號ハ明治三十七年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣郡市町村ノ人口及議員配當ノ件（明治四十年八月三十一日內務省令第二十二號四十四年二月省令第三十二號改正）

府縣郡市町村ノ人口及府縣制第五條第四項議員配當ノ件左ノ通定ム

第一條　府縣制市制町村制ニ規定スル府縣市町村ノ人口ハ內閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告スル最近ノ人口ニ依ル

前項人口調査ノ期日後市（府縣制第四條第二項但書ノ區トモ以下同シ）町村ヲ廢置分合シ又ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ關係市町村ノ人口ハ府縣知事ニ於テ之ヲ調査シ管內ニ告示スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ處分市町村全部ノ區域ニ係ルモノノ人口ハ內閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタル舊町村ノ人口ヲ以テ市町村ノ人口ヲ算出シタルモノトキハ前項ノ例ニ依ラス

第二條　前條第二項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ府縣郡ノ境界ニ渉ルトキハ其ノ府縣郡ノ人口モ之ヲ告示スヘシ其ノ人口ハ前條第二項當ノ市町村人口ト內閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタル郡市町村ノ人口トヲ集計シタルモノニ依ル

第三條　町村ヲ變シテ市ト爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ市及郡ノ人口ヲ告示スヘシ其ノ人口ハ內閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタル舊町村ノ人口ヲ以テ市ノ人口トシ其ノ他ノ町村人口ヲ集計シタルモノヲ以テ郡ノ人口トス

第四條　府縣郡ヲ廢置分合シ若ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第五條　府縣制第五條郡制第五條ニ依リ各選擧區ニ於テ選擧スヘキ府縣會議員郡會議員ノ數ハ人口ニ比例シテ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ府縣ニ付テハ內務大臣郡ニ付テハ府縣知事ハ別ニ配當標準ノ定ムルコトヲ得

前項ノ人口ハ第一條乃至第四條ノ例ニ依ル

第六條　府縣會議員郡會議員ノ配當更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ議員ノ定數ニ異動ヲ生シ若ハ選擧區ノ增減アルタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　明治三十二年內務省令第十七號同第十八號及同第五十八號ハ之ヲ廢止ス

●主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件（明治三十三年三月三十一日勅令第百二十三號三十九年七月勅令第百九十號四十年十月同第三百二十一號改正）

市制第百二十一條第百二十二條町村制第百二十五條第百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭クルモノハ府縣知事ニ於テ之ヲ許可スヘシ

一　市長代理順序　町村助役定員增加、町村長町村助役有給、公告式、學務委員、基本財産、積立金、造林、傳染病豫防救治ニ關スル一時給與金、有給吏員ノ年功加俸退職一時給與金死亡給與金弔祭料療治料遺族一時扶助料及督促手數料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事

二　地租二分ノ一以下ノ追加稅ヲ賦課スル事

三　市制第八十九條町村制第八十九條ニ依ル手數料ノ新設、增額又ハ變更及之ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事

四　墓地及火葬場使用料竝屠場使用料ノ新設、增額又ハ變更及之ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事

五　條例廢止ニ關スル條例ヲ設クル事

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●前同件（明治三十九年九月二日勅令第九十八號）

町村制第百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中明治三十九年度文部省所管經費町村教育費貸付金ヨリ町村ニ於テ借入ルル負擔ニ關スル件ハ縣知事ニ於テ之ヲ許可スヘシ

●市制町村制中直接稅間接稅類別ノ件（明治二十一年七月十三日大藏省告示第九十五號、二十五年第三十九號、二十九年第五十四號、三十年第十一號、三十二年第四十七號、三十九年第七百九十七號）

本年法律第一號市制第百三十一條町村制第百三十六條直接稅間接稅ノ類別ハ左ノ諸稅ヲ以テ直接稅トシ其他ハ間接稅トス但府縣區町村ニ於テ特ニ徵收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ナシテ管內ニ告示セシム

國稅

地租　所得稅（所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）

營業稅　鑛業稅

府縣稅

地租割　戶數割　家屋稅　營業稅　雜種稅　營業稅附加稅

市町村稅

直接國府縣稅附加稅　段別割

增補

市制第二條　町村制第二條

一、市町村カ其ノ所有ニ係ル土地ニ植林ヲ爲スカ如キハ必スシモ住民ニ模範ヲ示スノ公共事業タルヲ要セス。蓋財產管理ノ方法ニ過キサレハナリ。

二、市町村カ株式ノ引受ヲ爲スカ如キモ亦、財產造成又ハ管理ノ方法ニ過キサルカ故ニ可能ナリ。

市制第九條　町村制第七條

一、一年地租ヲ納メ一年直接國稅二圓以上ヲ納メ兩者間斷ナク二年ニ及フ者ハ又市町村公民タリ。

二、租稅ノ一部ヲ納メ他ノ一部ハ之ヲ納メサルコトアルモ仍分任タルニ於テ妨ケナシトスル者アレトモ、此ノ如キハ市町村ニ對スル義務違反ノ者ニ權利ヲ付與スルノ結果ヲ生シ穩當ナル說ト云フヲ得ス。

市制第十條　町村制第八條

一、公民ハ選擧セラレタルニ依リ當然名譽職ニ就クトナス者アレトモ、若シ然リトスレハ法文ニ「當選ヲ辭シ」ト規定シ同時ニ「職ヲ辭シ」トヲ生スヘキモノナルコト疑ナシ。

二、第二項增課ノ制裁ハ單ニ市町村稅ノ一部ニ付テノミ爲ス可ラス。若シ然ルトキハ市町村稅ノ全額ヨリ見ルトキハ十分ノ一以下ニ下ルコトアリ得ヘケレハナリ。

市制第十四條　町村制第十二條

一、第二項ハ「直接市町村稅ヲ納ムル者」ト規定シ、市町村公民以外ノ者タルト公民トヲ問ハサルカ如ク但書ニ於テ市制第十條町村制第八條各第二項ノ公民權停止ノ條件ニ當ルモノヲ除外セサルカ故ニ、公民ニシテ多額納稅者タルトキト雖選擧權アリト爲スハ僻論ナリ。多額納稅者ハ公民ニ非サル者ニ限ルヘク、從ツテ公民ハ選擧權ヲ有セストスルヲ正論トス。

二、多額納稅者ノ納稅額ニ付テモ市制第九條町村制第七條各第三項ノ適用アリトスル說アリ。立法論トシテハ適當ノ見解ナルヘシ。然レトモ成文ノ解釋トシテ何等根據ナキ說トシテ排セサルヲ得ス。

市制第十七條　町村制第十四條

一、市ノ選擧區ニ於テ選擧分會ヲ設クルコトハ元ヨリ妨ケナシ。

市制第十八條　町村制第十五條

一、市町村ニ對スル請負中ニハ市制第六條ノ市ノ區ニ對スル請負ヲ含マストスルヲ正論トス。法律論トシテハ別箇ノ人格ナルニ依リ、事實論トシテハ弊害ヲ生スル虞少ナケレハナリ。

二、二級ト一級ト日ヲ異ニシテ選擧ヲ行フモ同時ノ選擧ナリ。何トナレハ各級ヲ通シテ之ヲ一ノ選擧ト見ルヘキモノナレハナリ。

町村制第十六條

一、町村ニ於テ選擧等級ヲ設ケサル場合ニハ減員又ハ增員ハ二又ハ二ノ倍數トスルノ要ナキコト勿論ナリ。

市制第二十二條　町村制第十九條

一、告示ハ選擧期日ニ近キ時期ニ於テ繼續シテ爲スヲ要シ、市町村公報ノ月刊又ハ週刊アル場合ニハ、臨時少クトモ七日間繼續刊行セシムルカ、其ノ他七日間繼續シテ告示セシムル方法ニ依ラシメ、公告式タル新聞紙ニシテ休刊日アルトキハ、前後通シテ七日間告示スル等告示ノ間斷ナキ方法ヲ採ルヲ要ス。

町村制第二十條

一、町村長病氣且助役缺員ノ場合ニハ、町村制第七十八條ニ依リ町村吏員ヲシテ臨時代理セシメ得ルモノトス。

市制第二十五條　町村制第二十二條

一、第五項但書「每級選擧人」トアルハ名簿ニ登錄セラレ、選擧ノ當時現ニ有權者タル者ヲ指ストスル者アリ。若シ然リトスレハ選擧人ハ死亡其他ノ事故ニ依リ選擧開始ノ眞際ニ於テ選擧長等ノ知ラサ

ル間ニ減少スルコトアリ得ルヲ以テ、單記ニ依リ行ハレタル選擧カ實ハ連記ニ依ルヘキモノトシテ無效ニ歸スル等ノ結果ヲ見ルヘシ、之レ豈ニ法ノ精神ナラムヤ。畢竟膠柱ノ論タルヲ免カレサルモノナルヘシ。

市制第二十八條　町村制第二十五條

一、連名投票ノ場合ニ於テ記載ノ人員カ選擧スヘキ議員定數ニ不足セルトキハ、其ノ投票全部ノ有效ナルコト勿論ナリ。

市制第三十條　町村制第二十七條

一、「選擧スヘキ議員數」トハ各級ノ議員定數ノ謂ニ非ス、選擧スヘキ實數ナリ。故ニ總選擧ノ場合ニ於テハ定數ト一致スルトモ、增員選擧補缺選擧等ニ於テハ之ト異ナル。

市制第三十二條　町村制第二十九條

一、市制第十八條町村制第十五條各第四項及第六項ニ依リ議員タリ得サル者モ亦當選ヲ妨ケス。從ツテ當選ト同時ニ緣故アル吏員カ退職シ又ハ緣故カ已ミタルトキハ、當選ヲ承諾スルヲ得ルモノトス。

市制第三十七條　町村制第三十四條

一、新法施行前ニ行ヒタル選擧カ新法施行後無效ト判決シタルトキハ、本條ニ依リ選擧ヲ行フヘク、其ノ當選議員ノ任期ハ明治四十四年勅令第二百四十三號第六條ニ依ル。

市制第三十八條　町村制第三十五條

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ執行猶豫中ノ者當選シ、其ノ當時資格ヲ缺クコトヲ知リ得サリシモ、後ニ至リ其ノ缺格明白ト爲リタルトキハ、失職ハ襲職ノ始メニ溯リテ當然無效ナリ。從ツテ其ノ者ノ加ハリタル議決ハ無效ナリ。

市制第四十五條　町村制第四十二條

一、議員カ議案調査ノ爲實地ニ出張スルハ本條ノ檢査ニ包含セス、從テ之カ爲ニ出張スルヲ得サルモノトス。

市制第四十七條　町村制第四十四條

一、諮問ニ對スル答申ノ發案權ハ直接市町村會ニ諮問セルモノト、市町村長ニ諮問セルモノトニ區別スヘク、前者ニ付テハ市町村會自ラ發案スヘク、後者ニ付テハ市町村長發案シ、市ニ在リテハ市參事會ノ審査ヲ經ヘキモノトス。

市制第五十一條　町村制第四十七條

一、市町村會ニ於テ發案權ナキ事件ニ付テハ、市町村長ニ其ノ發案ヲ求ムルノ意見ヲ提出スルコトカ市町村ノ公益ニ關係スルコト多カルヘク、其ノ意見書提出ノ爲ニ市町村會ノ召集ヲ請求スルコトハ元ヨリ可能ナリ。

二、市會カ推薦命令ヲ受ケタルトキハ、市長候補者ノ選擧ハ市會ノ發案權ニ屬ス。此ノ場合ニ於テハ告知ヲ爲サスシテ市會ノ議決ニ依リ直ニ選擧ヲ行フモ違法ニ非ス。

三、會期ヲ定メスシテ市町村會ヲ召集シ、後ニ會期ヲ定ムルコトヲ得ス。

四、會期ヲ定メサル場合ニ於テハ議事未タ終ラサルニ閉會ヲ爲スモ妨ケストスル者アレトモ、會期ヲ定メサルハ其ノ主旨ニ於テ當該事項ヲ議了スルニ必要ナル時間ヲ會期ト爲シタルモノト解スルコト妥當ナルヲ以テ、未タ議事ヲ了ラサルニ閉會ヲ爲スハ不法ナリト云ハサルヘカラス。

市制第五十七條　町村制第五十三條

一、改選後ノ市會又ハ市制第六條ノ市ノ區會ニ於テ始メテ議長ヲ選擧スル場合其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルハ會議ノ決議ニ依ル。（附錄明治四十四年内務省令第十九號參照）之レ議長ノ專橫ヲ制止スルノ目的ニ出ツ。

市制第六十五條

一、名譽職市參事會員ノ定數ハ六人ニシテ、市會議員定數ノ最少限ハ三十人ナリ。故ニ名譽職參事會員ノ三倍カ之ヲ選擧スヘキ議員數ヨリ少キコトハ事實ニ於テ有リ得ヘカラス。從ツテ第二十五條ヲ準用スルニ當リ、其ノ第五項但書ハ適用ナシ。然レトモ第三十條第一項但書ニ相當スル場合ハ存シ得ルヲ以テ適用アルモノトス。

二、投票カ一二ノ人ニ集中シタル爲定數ニ足ル當選ヲ得サル場合ニハ、別ニ規定ナキモ其ノ會議ニ於テ不足ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行フヘキモノトス。

市制第七十三條

一、市長候補者ニ當選シタル者裁可アルモ就職セサル意思表示ヲ爲シタルトキハ、其ノ補充選擧ヲ行フヲ得ヘシトスル者アレトモ、市會ハ內務大臣ノ命令ニ基カスシテ候補者ヲ選擧スルヲ得サルカ故ニ、就職ノ意思ナキトキハ其ノ旨ヲ副申スルヲ得ルニ止マリ、補充選擧ヲ爲スヲ得サルモノトス。

市制第七十八條　町村制第六十六條

一、業務ニ官公職ヲ含マス三等郵便局長ノ如キハ手當ヲ受クルモ差支ナシトスル者アレトモ、本法ハ營業ト規定セス廣ク業務ト規定スルヲ以テ此等ヲモ包含セシメタリト解スヘシ。

市制第八十二條　町村制第六十八條

一、區長代理者ハ町村制第十五條第二項ノ職ヲ兼ヌルヲ妨ケス。

市制第八十三條　町村制第六十九條

一、市町村公民中選擧權ヲ有スル者ト市町村會議員トヲ以テ組織スル委員ニシテ、前者ニ依リテ當選シタル者後ニ議員ト爲リタルトキハ失職スヘキモノトス。

市制第九十四條　町村制第七十八條

一、國稅ノ徵收ハ市町村團體ニ委任セル事務ナルカ故ニ、之カ分掌ハ市町村會ノ同意ヲ必要トス。

市制第百六條　町村制第八十八條

一、明治三十三年法律第三十號第七條ニ基キ地方長官ノ指示アリタルトキ、傳染病豫防救治ニ從事スル者ニ給スル療治料救助料弔祭料遺族扶助料ハ、名譽職吏員ニモ給スルモノニシテ、此ノ場合ニ於テハ本條ノ適用ナシ。從ヲ條例ニテ規定スルモ本條ニ依ル條例ニ非ス。

二、退隱料ヲ受クル者、官職又ハ公共團體ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ、退隱料ノ支給ヲ停止スル旨條例ニ規定スルハ妨ケナキナリ。

市制第百九條　町村制第八十九條

一、模範殖林ノ如キ本來ノ目的カ他ニ存スル財産ハ、收益財産ニ非ス從テ基本財産ニ編入スヘキモノニ非ストスル者アリ。單ニ收益ノ爲メノミニスル財産ニ非サルコト勿論ナレトモ、收益ノ實例ヲ示ス財産ナルヲ以テ之ヲ行政財産ニ比シ甚シク倫ヲ失シ、實際ノ事實ヲ全然度外視スルノ憾ナクンハアラス。故ニ寧ロ之レヨリ利益ヲ生スル關係上收益財産ナリトスルヲ穩當トスヘシ。

市制第百十四條　町村制第九十四條

一、公債證書等ノ購入ハ競爭入札ニ付スヘシトスル者アレトモ、債權證書ノ購入ハ權利ノ取得ニシテ本條ニ所謂物件ノ購入ニ非ストスルヲ理論上正當トスヘシ。實例トシテハ無記名債權ニ付テハ民法第八十六條カ之ヲ動產ト看做セルカ故ニ、其ノ權利取得ハ物件ノ購入ニシテ記名債權ノ購入ハ權利取得ナリト爲スモノノ如シ。然レトモ彼此區別ヲ設クルコトハ本條ノ適用上ニハ根據ナカルヘシ。

市制第百二十條　町村制第百條

一、市町村ノ內外ニ涉ル鑛區及鑛業ノ取得ニ對スル所得稅附加稅及筏網本材川下ノ如キ行爲カ、二市町村以上ニ涉ル場合府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スルニ付本稅ヲ分別スヘキ方法ハ、勅令ニモ規定ナキヲ以テ便宜ノ方法ニ依ルノ外ナシ。

二、勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ノ費用ニ充ツル爲特ニ其ノ區ヨリ徵收スル市稅ハ、區外ノ營業又ハ收入ニ對シ課稅スルヲ得ストノ規定ナキモ、法理上課稅ス可ラサルヤ勿論ナリ。

三、明治四十四年勅令第二百四十一號ノ規定ニヨレハ、市町村ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ、其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルトキハ、其ノ者ニ對シ附加稅ヲ課スルニハ、其本稅額ノ歩合ハ關係市町村長ノ協定ニ依リ、協議整ハサルトキハ、數町村ニ涉ルモノハ郡長、數郡ニ涉ルモノハ府縣知事、數府縣ニ涉ルモノハ內藏兩大臣之ヲ定ム。前條ニ說明セルカ如ク、甲地ニテハ製造ノミヲ爲シ、乙地ニ於テ之ヲ販賣スルカ如キ一方ノ營業所ニテハ直接ニ收入ヲ生スルコトナキモノハ、他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メサルヘカラス。此ノ場合ニハ前段同樣ノ方法ニ

依リテ本稅ヲ分別スヘキモノトス。府縣ニ於テ府縣稅ノ賦課ニ付キ數府縣ニ涉ル營業ニ對シ、營業稅附加稅ノ賦課歩合ヲ定メタルモノアルトキハ、之ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本稅額ト看做スモノトス。

四、市町村ノ內外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其他ノ營業所ヲ設ケタル場合、又ハ鑛區カ營業所所在ノ市町村ノ內外ニ涉ル場合ニ於ケル鑛產稅ノ附加稅ヲ賦課スルニ付キ本稅ノ分別ヲ爲スノ方法ハ前項ニ同シ。鑛區（砂鑛區域ヲ含ム以下同シ）カ二市町村以上ニ跨ルトキハ、鑛區稅（砂鑛區稅ヲ含ム以下同シ）ノ附加稅ハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ、本稅額ヲ分別シテ其一部ニ賦課スヘキモノトス。鑛區ノ地表カ市町村ノ區域外ナル海面ニ屬スルトキハ、之ニ對シテハ課稅ヲ爲スヲ得ス。

五、納稅者カ同時若ハ時ヲ異ニシテ二以上ノ市町村ニ住所ヲ有シ、滯在ヲ爲シ其ノ市町村ニ於テ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業以外ノ收入ニ對シ課稅ヲ爲スニハ、住所滯在カ同時ナルト然ラサルトニ依リテ方法ヲ異ニス。

（甲）住所滯在カ同時ニ二市町村以上ニ涉ルトキ　此ノ場合ニハ收入ヲ平分シテ其ノ一部ニノミ課稅スヘキモノナリ。例ヘハ甲市ニ住所ヲ有シ、乙市ト丙町トニ交互滯在シ、住所滯在カ同時ニ二市一町ニ涉リ其ノ收入カ九千圓ナリシトキハ、之ヲ三分シ卽チ收入金三千圓ニ對シ各市町ニ於テ賦課スヘキモノナリ。

（乙）住所又ハ滯在時ヲ異ニスルトキ　例ヘハ甲町ニ住所ヲ有スルモノ乙村ニ住所ヲ轉シタルトキ、又ハ甲町ノ住所ヲ去リタルトキニ於テハ、住所滯在ノ市町村ニ於テ納稅義務發生シタル翌月初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終リマテ月割賦課スルモノトス。然トモ常ニ月割徵收ヲ爲スハ追徵送付ノ煩アルヲ以テ、勅令ハ前ノ住所地又ハ滯在地ニ於テ賦課ヲ爲シタル賦課額ハ之ヲ變更セス、後ノ住所地又ハ滯在地ニ於テ賦課ナカリシ部分ニ付テノミ賦課スルコトト爲セリ。

市制第百二十九條　町村制第百九條

一、市町村稅ノ納稅者ハ租稅ノ賦課ニ依リテ現實ニ納付ノ義務ヲ生スト雖、法規ノ規定スル一定條件ニ該當スル者ハ、賦課以前ニ於テモ常ニ市町村稅負擔ノ義務者ナリ。從テ市町村稅ノ減免ハ此ノ負擔義務ノ滅免トシテ賦課以前ニ於テモ亦之ヲ爲スヲ得ルモノトス。

市制第百三十九條　町村制第百十九條

一、市町村長ニシテ收入役ノ事務ヲ兼掌スル場合ニ於テハ、豫算ノ謄本ヲ交付スル必要ナク、又支拂命令ヲモ交付スヘキニ非ストスル者アレトモ、此ノ場合ニ於テハ同一人ニシテ異リタル二資格ヲ有スルモノナルカ故ニ、又交付スルヲ必要トスト說クヲ正當トス、其ノ必要ナシトスルハ便宜ノ問題ニシテ弊害ヲ生スルノ虞アルヘシ、採用スルヲ得ス。

市制第百四十九條　町村制第百二十九條

一、任意組合ト云ヒ強制組合ト云フモ、設立カ任意ナルト強制ナルトノミヲ意味スルモノニシテ、性質上差異アルニ非サルナリ。

二、一部事務ノ町村組合カ町村事務ノ執行即チ役場事務ヲ共同處理スルトキハ、共同處理セサル町村事務アリト雖町村吏員ハ消滅ス。

市制第四十九條　町村制第百二十九條

一、小學校令第四條ハ町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視スト規定ス。故ニ全部事務ノ町村組合ト他ノ町村ト小學校設置ノ爲學校組合ヲ設置スルヲ得ヘシ。此ノ點ヨリ見レハ全部事務ノ町村組合ハ小學校設置ノ事務ヲ除キタルモノヲ指スト云フヘキカ如シ。

市制第百五十二條　町村制第百三十二條

一、全部組合ハ本條ニ揭クル四事項及町村ニ關スル規定ニ反セサル範圍ニ於テ他ノ事項ヲ規約ニテ定ムルハ差支ナシ。

二、全部組合ノ議員定數ハ町村制第十一條ニ依ルヘク、之カ配當ヲ規約ニテ定ムルヲ得ス。

明治四十四年八月廿五日　初版印刷
明治四十四年九月一日　初版發行
明治四十四年九月三日　再版印刷
明治四十四年九月五日　再版發行
明治四十五年二月廿九日　三版印刷
明治四十五年三月九日　三版發行

市制町村制釋義奥付

定價金貳圓

編輯兼發行者　帝國地方行政學會
右代表者　井田耕治
東京市京橋區南鍋町一丁目十番地

印刷者　福山福太郎
東京市牛込區水道町二十五番地

發行所　帝國地方行政學會
發賣所　有斐閣
東京市神田區一ツ橋通七番地（電話本局三二三）

不許複製

8G-71

[redacted]